辞任の真相!! 榊原DSE代表独占インタビュー

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

enterbrain MOOK

ホデマカセ〜!!

2007
109
880yen

4.8 PRIDE.34で
DSE体制にピリオド——!!

PRIDE

終幕
そして開幕

♪ダン! ダン!! ダダン!!!

kamipro 109 MMAワールドワイド!!

印刷・製本／図書印刷株式会社 ☎0570-060-555（代表）

enterbrain

DSE体制にピリオド!!　新組織発足へ!

PRIDE終幕 そして新たなる開幕

ヒョードルもビックリ！
“真の世界最強”が専門誌初登場!!

2007 No.109 CONTENTS

kamipro

天変地異、ボッ発!!

が統一オーナーに!
各闘
ーボウル
現!!

『PRIDE』10年目の歴史的決ダン! ダン!! ダダン!!! 4・8『PRIDE・34』でDSE体制にピリオド!『PRIDE』運営新組織『PRIDE FC WORLDWIDE』発足へ――!! 電撃的、衝撃的な終幕、そして開幕!

とんでもない事態がマット界を襲う! 本誌が店頭に並ぶ二日前の3月27日――都内にて開催される記者会見で、榊原信行DSE代表が4・8『PRIDE・34』を最後に代表職の辞任を発表。併わせて、UFCオーナーのロレンゾ&フランクのフェティータ兄弟が『PRIDE』の新オーナーに就任することが報告されているはずだ。でしょ?

会見前の断片的な情報を拾い上げると、提携、売却、吸収、合併……さまざまな解釈が成り立つが、電撃的なオーナーチェンジの経緯、気になる新組織の詳しい構造等は携帯サイト『kamipro Hand』でアップされる予定の記者会見レポート、または会見に先駆けて独占収録に成功した本誌4ページからの榊原代表インタビューを参照していただきたい。

とにかく、『PRIDE』は新しく生まれ変わる。

注目すべきポイントは数多くあるが、その中でも見逃せないの

©Josh Hedges / UFC

ついに格闘天変地

PRIDE×UFCが統

格闘スーパー実現

は、新オーナーのフェティータ兄弟は、ダナ・ホワイト代表率いるUFCのオーナーであるということだ。つまり、『PRIDE』とUFCは統一オーナーのもとで運営されることになる。フェティータ兄弟の資本が投入されることによって、〝フジテレビ・ショック〟やMMAバブルの余波によるファイトマネー高騰によって運営面に大きな不安を抱えていた『PRIDE』自体の今後に見通しがついた。

また、同プロモーション間ではギャラの高騰を招く引き抜き戦争は阻止されるが、リング内の最強バトルは激化しやすくなった。つまり、『PRIDE』vsUFCのMMAスーパーボウルがついに現実のものとなるのだ！

格闘天変地異後の格闘新世界はバラ色か――!? いや、この〝同盟〟に対抗すべく、ボードック、エリートXC、FEGらが〝連合〟結成!! という、んあ～な情報もある。同盟か、連合か――？

刻一刻と戦況が変化していくMMAバブル戦争、そして『PRIDE』vsUFCの最強決定バトル――リング内外の開戦の号砲が、♪ダン！ ダン!! ダダン!!! と鳴り響く!!

代表辞任、嫁ぎ先、新組織……
すべてを語る!!

PRIDE
決断の真相

榊原信行
DSE代表
独占ロングインタビュー

聞き手／ジャン斉藤

3月29日の本誌発売時にはすでにマット界を大震撼させているであろう……3・27『PRIDE』ビッグ・サプライズ記者会見。この衝撃的な発表に先駆けて、本誌が榊原信行DSE代表のインタビュー収録に成功した経緯を報告させていただきたい。じつは、この件とはほぼ無縁のジョシュ・バーネットがきっかけだった。

ジョシュは当初、きたる4・8『PRIDE・34』出場。"赤い死神"セルゲイ・ハリトーノフとの対戦が計画されており、この一戦をクリアすれば、6月に開催予定の『PRIDE』ロサンゼルス大会で、エメリヤーエンコ・ヒョードルのヘビー級王座に挑戦!!……という"無想転生"なプランを聞きつけた本誌は、国際電話でのジョシュインタビューをDSEにオファー。表紙候補の一つとして取材の準備を進めていた。

――そして、取材申請1週間後の3月13日、『HERO'S』名古屋大会現地取材終了後の夜。DSE広報の笹原圭一局長（『ハッスル』元GM）にジョシュ取材の日時を確認すべく連絡……というよりも、本音を明かせば、"ジョシュ取材を断られるため"の連絡だった。なぜなら取材申請直後、ジョシュの出場自体が消滅したという情報を聞きつけていた。いつまたひっくり返るかわからないので取材申請自体の取り消しには動かなかったが、その合い間に――『PRIDE・34』において誰もがビビってたじろぐ驚天動地のスーパーワンマッチが実現!?という超未確認情報をキャッチ。

要するに、ジョシュの件であえて連絡したのは、その探りを入れる"とっかかり"でもあった。ところが、話はあらぬ方向に転がっていく。

「え？ ジョシュは出ないんですか。そうですか……でも、何か大きなカードを計画中って耳にしたんですけど」

「大きなカードというかなんというか……う〜〜ん。ところで、『kamipro』の締め切りはいつなんですか？」

「19日早朝ですね。発売は24日です……何かあるんですか？」

「……う〜〜ん。じゃあ、4月発売号でよろしくお願いします」

「ちょ、ちょっと待ってください（笑）。……『PRIDE・34』以外で何か動きがあるってことですか？」

「……う〜〜ん。まあ、『kamipro』さんの締め切り的にはちょっと今回は……」

名古屋レインボーホール近くの笠寺駅改札口前から、東京の笹原氏と電話でのやりとりは続く。試合カードのスケールではない"何か"が、『PRIDE』で動こうとしている雰囲気が受話器越しからひしひしと伝わってくる。しかし、何が起こるのかは無論のこと、いつぐらいに起きるのか？ というボンヤリとしたヒントすら笹原氏は与えてくれない。しまいには一方的に電話を切られた！ 名古屋駅前のホテルから、明け方近くまで執拗に何度もコールするもまったく応答はなかった……。

こうしてなんとも言いようのない胸騒ぎを覚えつつ、翌日の『HERO'S』一夜明け会見取材を終え、谷川FEG代表の「ああ、斉藤くぅ〜ん！ 次号の表紙は柴田（勝頼）しかないよ〜ぉ!!」というラブコールを適当に受け流して、駆け足で帰京。北青山に直行して、DSE事務所付近で笹原氏を待ち伏せ。そして「誰にも絶対に言いませんから！」というウソをついて"何か"に迫るが、笹原氏は口を閉ざしたまま（あたりまえ！）。その後も執拗に接触を続けたが、なんの進展もなかった。

振り返ってみれば、シークレットにするのは当然だが、いまの『PRIDE』を取り巻くMMAバブルを考慮すれば、小学生でもその"何か"はある程度の察しがつく。だから憶測でその"何か"を匂わせてもよかったが、今号ばかりは"完成品"を提供しないとマヌケな目に遭う予感がした。本誌はバクチに出た。

もし24日の発売日を遅らせれば、"何か"の掲載は可能なのか――？ 本誌の提案に熟考した末、日付によっては、と笹原氏は言う。

そして手探りのまま交渉は続き、発売日は29日、早売り27日の線であるならば、さらに突っ込んだミーティングのテーブルについてもいい、ということでとりあえず話はまとまった。

……まあ、その時点で印刷会社とか取次にはなんの相談もしておらず、発行元のエンターブレインはその対応に追われてとんでもない目に遭うわけだが。

27日の早売りで問題ない。ということは、その前日、もしくは当日に"何か"が起きることは明白だ。やっとの思いでたどり着いた話し合いの席でも、笹原氏は"何か"を明かしてくれず、お互いに遠回しな言葉使いで交渉は続けられていく。髙田総統だったら、しびれを切らして「こんのやろ〜ぉ!!」と罵声を浴びせているに違いないほどだが、27日に"何か"が発表されることだけはようやく告げられた。

そして、その"何か"を本誌は榊原代表の口からインタビュー形式で明かしてもらえることになった。情報を漏えいさせないため、編集補助者やカメラマンは同席させない。その場には聞き手の一人だけ。という条件をDSEに提示した末の話だ。

こうして段取りはすべて整ったが、その数日後、海外メディアが『PRIDE』の未来についての怪情報を続々と報じ始めた。売却を主張する者、否定する者――。混乱は増していく。本誌にも海外メディアから「近々、大きな動きはあるのか？」という探りが入ったが、アホの子のふりをしてごまかす。読者から発売日を確認する電話もあった。「発売日ぃ？ ズバリ、こっちが知りたいくらいですよ！」と逆ギレしておく。

ついに迎えたインタビュー当日。取材前にDSE事務所で笹原氏と簡単なミーティング。この期に及んで遠回しな会話で"プロレス"は続き、社長室へ足を運んだ。

社長室には榊原代表と笹原氏、そして筆者の3人だけ。完全に外部と遮断された密室。代表はテーブルに用意された麦茶に口を一切つけぬまま、1時間近く"10年目の決断"に至った理由を語ってくれたのだった。

――今日はお忙しいところ、時間を割いていただいてありがとうございます。

榊原 いえいえ、とんでもないです。

――それで、代表。今後の『PRIDE』について、近々重大な発表がなされるというお話を聞いたんですが……。

榊原 ええ。3月27日に、大きな発表を二ついたします。まず、僕が『PRIDE』の

代表を辞任することになりました。

——……。

榊原　それと、前回の『kamipro』（『kamipro Special 2007 SPRING』）のインタビューのつながりで言えば、『PRIDE』の〝嫁ぎ先〟が決まりました（淡々と）。

——ついに決まりましたか……。

榊原　誤解しないでほしいのは……『PRIDE』はこのまま続いていきます。個人的には非常に複雑な心境ですけど、『PRIDE』の未来のために決断しました。

05年の大晦日テレビ戦争に完勝し、絶好調の『PRIDE』を襲ったフジテレビ地上波放送中止。世界最高峰の舞台の屋台骨を揺るがした。

——代表、その〝嫁ぎ先〟というのは……。

榊原　（さえぎって）その前に、なぜこういう結論に至ったのか、しっかりと説明しないとファンの方々にも納得していただけないと思うんです。

——そうですね。

榊原　27日の記者会見でも同様のことは言うつもりなんですが、ここ最近、各方面から『PRIDE』というコンテンツに対して、投資、買収などの提案をもらっていました。そういった〝求婚〟を受け入れることを検討するようになった背景には、06年の『PRIDE』に起こった大きなうねりとして、やはりフジテレビから地上波放送中止の通達を突然に、しかも一方的にされたことがあるんです。

——昨年6月の大事件。いわゆる〝フジテレビ・ショック〟ですね。

榊原　この一方的な突然の中止により、『PRIDE』はテレビ媒体を失なったという実質的なマイナスよりも、フジテレビが手のひらを返したことによる世間に対する信用の失墜があまりにも大きかったんですよ。

——フジテレビが引いたことで、一般週刊誌などで報道されていた〝反社会勢力〟との接点が事実として受け止められてしまいましたね。

榊原　フジテレビが突然に放送を中止したことで、まったくのでっち上げで捏造された記事により、私やDSEにもたらされたグレーなイメージが肯定されるかたちになってしまったのです。その影響力たるや凄まじいもので、いくつものスポンサーが即刻スポンサードの打ち切りを決定したり、これまでなんの支障もなくお付き合いをさせてもらっていた選手の宿泊用のホテルから「今後は選手の宿泊をお断りしたい」と言われたり、いくつもの取り引き業者さんたちから「今後のお付き合いは前金でなければ仕事は受けない」と言われたり、フジテレビの放送中止からくる負の連鎖には、もはや笑うしかないというか、開いた口が塞がらない状況に陥ってしまいました。

フジテレビの放送中止による世間からの信用の失墜はあまりにも大きかった

ただ、もう一度だけ声を大にして言いたいのは、現実的には今日まで何一つ、僕の身にも、DSEにも起きなかったというのが動かしがたい現実であり事実なわけです。実際、フジテレビに突然放送を打ち切られるようなやましいことや重大な事象は一切ないですから。これは何度も言ってますが、「何もないこと」を証明することがどれほど大変なのかって。ある人には「時間が薬だよ」なんて言われたりもしましたが……。でも、そうそう時が経つのを待っていられないのが現状なんです。

——UFCを象徴とするアメリカMMAバブルの大津波も迫っていましたし。

榊原　それがもう一つの大きなうねり。圧倒的な資金力を持った新興勢力の参入と、UFCの爆発的な成功。総合格闘技界の市場のパワーバランスが大きく変わった1年でした。いまやアメリカというマーケットの市場規模からすると、日本市場との差は30、40倍近くあると思うんですよ。

——もう想像もつかない数字ですが、それは確かな現実ですね。

榊原　UFCのPPV件数は100万件に届く勢いですし、日本市場の規模では到底かなわない。それに唯一、日本がアメリカを上回っていたチケット収益でさえも、もうほとんど肩を並べるぐらい売れている。そのほかにスポンサードもあるわけですけど、僕ら『PRIDE』がアメリカで獲得するスポンサーからの協賛収入ですら日本よりもはるかに高いんですよ。

——だからこそ、『PRIDE』はアメリカ進出に力を入れていたわけですね。

榊原　マーケットバリューで考えると、そのくらい日本とアメリカでは市場規模も違う。フジテレビの〝裏切り〟と、アメリカ市場の爆発。その二つのファクターによって、DSEが世界最高峰の舞台を維持するのは困難になってきた現実があったんですね。

——代表の考えの中には、舞台のレベルを落としてでも、『PRIDE』をやり続けたいという思いはなかったんですか?

榊原　かわいい娘を嫁がせる寂しさはありますけど、でも、そうなったら『PRIDE』が『PRIDE』じゃなくなっちゃいますから。『PRIDE』がスタートして今年で10年。常に〝世界最強〟という人類の永遠のテーマを追い求めて、世界中の格闘家、トップアスリートたちを招聘し、最上級の闘いを提供してきたのが『PRIDE』です。野球でいえば、『PRIDE』がまさにアメリカのメジャーリーグだったわけじゃないですか。サッカーでいえばセリエAだった。なぜそういう舞台が成立したかといえば、それはやっぱりファイトマネーがほかよりもたくさんもらえるのも一つの大きな理由としてあったと思います。

——どこの団体よりも。

榊原　そして、どこよりも露出度が高いし、どこよりも強い選手がいたことによって、選手が選手を呼び寄せるような良い流れが生まれた。間違いなく「『PRIDE』で王者になることが世界最強の証明だ！」と世界中のすべてのファイターが自分の胸を張れるだけの価値感を持ってもらえてきたからだと思うんですよ。だから、あのフジテレビの放送中止を受けて、僕の中で真っ先にやらなくちゃいけないと思ったことは、二つ。一つ

は当然、一日も早い信頼回復、イコール地上波放送の復活です。僕の中でのタイムリミットは、去年の大晦日までだったんですけど……。

――しかし、復活はなりませんでした。

榊原　残念ながら……。もう一つの課題は、新規参入しているボードッグやエリートXC、そして爆発的に収益力を伸ばしているUFCとの企業的なパワーの違いを埋める努力。

――要するに、それは世界的なマーケットの中での資金力と信用力の強化ですね。

榊原　そうなりますね。その二つをとにかくすみやかに手に入れるためには、目先の大会を成功させるという作業とは違うベクトルの中で慎重かつ大胆に進めなきゃならないトップシークレットの交渉や作業が続きました。アメリカを中心に日本国内においても、詳しくは言えませんが、ありとあらゆる可能性を求めて活動をしてきたんです。

――その一環として行なわれた二度にわたるアメリカ進出を、代表はどう総括してるんですか？

榊原　昨年10月21日の『PRIDE・32 REAL DEAL』は、アメリカでの信用力、資金力を獲得するための大きな起爆剤になったと思います。

――大会収益とは別の部分で大きな評価を上げたと？

榊原　そうですね。大会前にいろんな投資家や放送局の人たちと会いましたけど、『PRIDE』にいま一つ乗りが悪かったというか、食いつきが悪かったんです。どういうことかといえば、当然まだアメリカで大会を開いた実績がないということもさることながら、海外ですらフジテレビの放送がなくなったことに対しての不可解さがあったので。

――海外でのきっかけもフジテレビ（笑）。

榊原　それは「どうしてこんなに素晴らしいコンテンツなのにフジテレビはやらないんだ？」ってことです。きっちりとした放送中止の理由がフジテレビから説明されてなかったからなんですよ。でも、10月21日にアメリカの多くの人たちが『PRIDE』というものを実際に体験したあとに、その風向きがちょっと違う方向に振れましたね。

――日本にいると実感はないですけど、ラスベガス大会の評価は本当に高かったみたいですね。

榊原　我々としてはアメリカ市場に対してプレゼンテーションが非常にいいかたちでできて、大会翌日から具体的な投資の話とか、

もはやアメリカMMA市場の規模は、日本市場の30、40倍近くある

PRIDE 決断の真相 榊原信行

UFCの台頭はMMAバブルの象徴。圧倒的なパイ、PPV視聴環境が整備されたアメリカ市場が日本を凌駕するのは必然だったのか……。

「ぜひ『PRIDE』を買収したい」という話も受けたんです。その〝嫁ぎ先〟の候補の一つとして、WWEのビンス・マクマホンとも実際に会って直々に前向きな話もいただきました。それ以外にもNBA関係者やウォールストリートのエンターテインメント関係への投資家やハリウッドの映画関係の投資家など、いずれの人たちからも高い評価を得られ、とにかく積極的なオファーをいくつもいただきました。

――なるほど。そういったたくさんのオファーがあった中で、代表が重視されたポイントはどこになりますか？

榊原　それはこれまで日本のファンに支えられ、選手や多くの心ある関係者とともに創り続けてきた『PRIDE』を維持し、さらに発展させるために必要なあらゆる要素を兼ね備えているかどうかがポイントでした。単にお金を持っていたとしても、たとえば我々がすぐに必要となるアメリカ国内での放送環境の整備や、プロモーション環境の構築とかにまったく知識やコネクションを持ち合わせていないのでは意味はないですから。

――『PRIDE』というコンテンツをさらに輝かせてくれるか、どうか。

榊原　『PRIDE』自体はなんの問題もないんですよ。昨年大晦日の『男祭り』だって地上波で流していたら、一昨年の『男祭り』に匹敵するような数字（視聴率）を間違いなく獲得したと思いますし。

――今回の決断は、その素晴らしい大会を万人に届かせられなかった以上……ということだったんですね。

榊原　そうですね。テレビが復活できない理由は、DSEの代表として『週刊現代』に名指しをされて叩かれてしまった僕自身に向けられたグレーなイメージにあるんだな、と。それは〝時間が薬〟といっても……。それならば、僕が変わるしかない。僕は『PRIDE』を守るため、『PRIDE』を輝かせるためだったらこれまでもなんでもしてきました。それは泥水だってすするだろうし、自分の余暇や家族を犠牲にしてでも選手やファンが一体となるエキサイティングな空間が創れるならなんでもしてきました。だからとくに年明けからは地上波の復活のため、そして『PRIDE』の資金力や信用力を増すために、自分が『PRIDE』から去ることを大前提としたうえでの最善の策を探し求めてきました。とにかく「自分が変わるしかこの局面を劇的に打開する道はない！」というのが僕が出した結論だったんです。

――代表は以前から「僕が辞めて解決するならいますぐ辞める」という発言を繰り返されていましたね。

榊原　それで解決するなら、とっくに辞めてるんですよ（苦笑）。でも、僕が辞める以上は、『PRIDE』の未来が安定し、もっともっと大きくなれる環境が整えられることが大前提だし、僕が去ったあとに金銭的な負の遺産を後継者に引き継がせたくもなかった。その準備がすべて整ってからじゃなきゃその決断は下せなかった。だって自分の娘を送り出すのに、怪しい〝嫁ぎ先〟じゃ困るでしょ？（笑）。

――結婚詐欺かもしれない（笑）。

榊原　だから、本当に『PRIDE』を不滅にできる準備をしてからじゃないと、代表の座を退くことは難しかった。大晦日『男祭り』のサブタイトルを〝FUMETSU〟にしたのは、27日の記者会見の絵が自分の中にあったからなんですよ。

――そうだったんですか！　やけに意味深なサブタイトルでしたけど。

榊原　今回、本当に『PRIDE』を不滅にするために、自分が最後にしてあげられることがようやくできた。それを27日の会見で、ファン、関係者にお伝えします。自分が代表を辞めることによって『PRIDE』に向けられたグレーなイメージも払拭して、D

SEの資本にも絡まないし、役員にも絡まない。日本のテレビ局の方たち……とくにフジテレビさん。「これで『PRIDE』のどこに問題があるんですか?」と。これで『PRIDE』が放送できない理由を400字詰めの原稿用紙3枚にまとめてぜひ提出してほしいですね、本当に（笑）。

——3枚に！（笑）。

榊原 まあ、個人的な恨みや悔しさがないかと言えばウソになりますが、いま日本の地上波で流れている総合格闘技、流れてない総合格闘技、いろんなものがあるけれど、間違いなく『PRIDE』が地上波で流れていないのは、視聴者にとっても、選手にとっても、それを作ってるスタッフにとっても不幸でしかないと思うんですよ。『PRIDE』なんてテレビで流さなくていいよ！」っていう人はいないはずだと思いますし。

——本当に同感です。それで、代表。自信を持って送り出すことができる嫁ぎ先のほうなんですが……。

榊原 はい。新しい『PRIDE』のオーナーになってもらうことになったのは……ロレンゾ、フランクのフェティータ兄弟です。

——つまり、UFC!!

榊原 いやいや、そんな短絡的に考えないでください。この決断は奥が深いんです。UFCに『PRIDE』が買収されるということでは決してないんですよ。UFCはズッファ・エンターテインメントという会社がやっていて、そこの社長がダナ・ホワイト氏。そのオーナーがフェティータ兄弟の二人になるんですけど、彼らが『PRIDE』のオーナーにもなるといる座組みですね。

——要するに、『PRIDE』はUFCと並列で同じグループになると?

榊原 はい。フェティータ兄弟に資本を持ってもらうことでUFCと完全なる同一の土俵に立ち、UFCと正式にガチンコで相撲が取れることになったわけです。『PRIDE』をUFCが吸収したって何もファンにとってはエキサイティングではないでしょうし、闘う選手にとってもまったく夢のない座組みでしかない。当然今後も『PRIDE』とUFCはそれぞれの個性を持ち、激しくぶつかり合いながら各々のブランドを磨いていきますよ。

2003
運命の大晦日!!　三派分裂劇!

DSE前代表の森下氏が自殺し、存続の危機に立たされた『PRIDE』だが、ミルコの電撃移籍、ミドル級GPも大成功に終わり、REBORNに成功!!　MMAバブルの末は、大晦日は『PRIDE』、K-1、川又氏主催の『猪木祭り』と三派に分裂する事態に。このバトルが、のちのフジテレビ・ショックにつながる。

2004
PRIDE×ハッスルが驚異のコラボ!!

この年最大の目玉だったヘビー級GP。出場選手やカード発表が遅れから雲行きが案じられたが、最後の最後にあの小川直也の出場が電撃発表！　この年にスタートした『ハッスル』を世間に広めるという志を持った小川の活躍でシリーズは大成功！　ハッスルポーズは世間を巻き込むブームとなった。

2005
歴史的超死闘が続々、実現!!

REBORN以降の『PRIDE』を牽引してきたミルコが悲願であった皇帝ヒョードルに挑戦。『武士道ライト級GP』では五味隆典と川尻達也が壮絶なドツキ合い！　大晦日にはヴァンダレイがアローナにリベンジ成功、小川直也vs吉田秀彦の大河ドラマが決着！……と、ぜいたくにもほどがある1年！

2006
奇跡爆発!　無差別級GP!!

桜庭離脱、フジテレビ・ショック、忍び寄る魔の手！　リング外では大地震が続けざまに襲ったが、リング上は圧倒的なクオリティを維持……いや、維持どころか、さらなる高みに。ノゲイラvsジョシュ、ミルコvsヴァンダレイの4強が勝ち上がった9.10無差別級GPは歴史に残る名興行となった！

PRIDEを不滅にできる準備をしてからないじゃないと、辞任はできなかった

——5月のライト級GPも……。

榊原 予定どおり行ないます。で、〝嫁ぎ先〟として彼らを選んだ最大の理由は、『PRIDE』の最大のライバルであり、お互いにリスペクトし合ってきて、ともにこの総合格闘技というものを世界中に普及させてきたある意味の戦友。競争相手だけれども、自分たちが競争してきたことによってこのスポーツをボクシングだったり、サッカーだったり、フットボールだったり、いろんなものと競合させていくだけのコンテンツとして磨き上げてきたんです。ロレンゾとフランクはこのスポーツに対して本当に愛情があるし、大変な苦労もし、その苦労を通して多くのことを学んでいる。

——いくら大金持ちとはいえ、愛情がなければお嫁には出せないですよね。

榊原 だからね、ボードッグとかエリートXCとか、チャラチャラしたぼんぼんには、とてもお嫁には出せないんですよ（笑）。

——近づいてもくれるな、と（笑）。

榊原 マジメな話、いまはいろんな巨大資本がこの業界に飛び込んできてますけど、僕の中では2003年の『猪木祭り』の主催者とかぶるんですよ。

——あ〜（笑）。

榊原 本当にこの競技のことをわかっているのか?　心からこの競技を愛し、この競技の発展を考えているのか?　と。お金だけで選手の心を買って試合をさせる。それでボードッグは何を見せたいの?　エリートXCは何をやりたいの?　彼らは絶対にうわべだけの言葉しか持ち合わせてないと思いますね。MMAが流行っていて儲かりそうだから似たようなことをやりたい。そんな調子だから、きちんとしたメッセージやコンセプトがファンに伝わらないんですよ。

——でも、格闘技市場を大きくしていくうえでは、競争相手は絶対に必要だという考えはあるんですよね。

榊原 もちろんです。だけど、この業界を健全に育成していくためにプロモーター同士のあいだで一定のルールやマナーが必要だと思うんです。ロレンゾたちと幾度となく話をしてきたんですけど、お互いが私利私欲をむさぼり、低次元で争うことで市場を崩したり、せっかくこれほどみんなに愛されるスポーツに成長してこられたのに、それをプロモーターの醜いエゴのために潰してしまったら意味がない。だったら、お互いに譲り合ったり、協力し合ったり、理解し合ったり、かたちを変えたりしながら、『PRIDE』とUFCというこの二大ブランドがまず健全なかたちでお互いの個性を磨き合い、切磋琢磨しようではないか、と。そうすることで何が生まれるかといったら、世界中のファンの夢が次々と実現させられるんですよね。

——これまで団体間の障害があってなかなか実現しなかった夢が現実になる。

榊原 簡単に言うと、『PRIDE』を代表するヴァンダレイ・シウバとUFCを代表するチャック・リデルの試合が実現するんです。もし、ミルコがUFCでチャンピオンになったら、『PRIDE』に戻ってきてヒョードルと試合してもいいし。もっと言えば、総合格闘技の中のスーパーボウルみたいな大会も可能になってくる。夢としてはUFCのチャンピオンと『PRIDE』のチャンピオンが年に一度、国立競技場やドジャースタジアムで闘ってもいい。

——『PRIDE』とUFCが手を組めば、決して夢ではない話ですね。

榊原 だから、世界最強を決めるのは『P

RIDE』だ！　って自分たちだけが独りよがりに言い続けても、ミルコが抜け、ノゲイラが抜け、ヴァンダレイが抜け、五味が抜けたら……それで関東地区最強を決める場所になっても意味ないじゃん（笑）。

――ハハハハ！「4000万分の1は『PRIDE』が決める！」と。関東地区最高峰の舞台に夢やロマンは感じません（笑）。

榊原　これまでの『PRIDE』の歴史は、ファンが観たいものを常に具現化することの繰り返しの作業によって培われてきたんです。世界中にあまたといる各種の格闘技の王者の中でいったい誰が真の最強なんだ？という命題の答えを出し続けたこの10年。で、これからの10年、20年もそうあり続けるためには、いまの状況下では巨大な資本がどうしても必要なんですよ。実際、プロスポーツの世界だったら、ミルコがUFCに行くのもしょうがないと思うんですよ。私にとっても『PRIDE』のスタッフにとっても、当然ファンにとってもこんなに悲しいことはなかった。でも、「一緒に作ってきた『PRIDE』でしょ？」ってセンチなことを言ってもビジネスはビジネスですから。同じような現象が起きる前に、僕は『PRIDE』という場所を『PRIDE』の価値観や魅力を守るために……。

――『PRIDE』が消えてなくなる前に、没落していく前に、新たな道を開かなければならないという。

榊原　それに、きっとファンの目線で言ったら「社長が誰であろうと関係ない。俺たちはこれまでどおりの『PRIDE』を観たい‼」というのは、偽らざる気持ちだと思うんです。ミルコvsヒョードルのリマッチ、僕も観たいですよ。それもミルコがUFCのチャンピオンになって、それでそのチャンピオンベルトを巻いて『PRIDE』に乗り込んできて、それをヒョードルが迎え撃つ……二

PRIDE 決断の真相 榊原信行

1999
PRIDEの大爆発はここから始まった!!
『PRIDE.5』からDSE体制に移行。フジテレビのバックアップもスタートし、徐々に巨大な熱が帯び始めていた。そして11.21『PRIDE.8』有明コロシアムにおいて、桜庭がホイラーに完勝!!　溜まりに溜まっていたプロレスファンの感情が一気に噴き出し、『PRIDE』快進撃のきっかけとなるイベントに。

2000
サクが創り出した史上最高傑作!!
初開催された『PRIDE GP』はフリーウエイト。優勝はコールマンに輝いたが、主役は桜庭和志！ホイスの要求を応じて、試合形式は10分無制限ラウンド。レフェリーストップはなし。60分の死闘の末、歴史的勝利を飾った。その後、ヘンゾ、ハイアンと連破。桜庭が一番、輝いていた1年だった。

2001
"英雄"桜庭和志を襲う圧倒的現実!!
3月25日『PRIDE.13』――桜庭和志や『PRIDE』にとって、運命を大きく変えるイベントになった。この大会より4点ポジションからの頭部ヒザ攻撃が認められ、ヴァンダレイがそのルールを活かすかたちで桜庭和志を血まみれのTKO葬！　桜庭はこの日を境に"圧倒的現実"に苦しむことに……。

2002
髙田延彦、引退。PRIDE新時代前夜!
髙田延彦引退の相手は、あの田村潔司!!　Uインターの先輩、後輩、あいだには大きな溝。恩讐を乗り越えて両者はリング上で向かい合った。田村は新弟子時代を思わせる坊主姿だった。一つの時代が終わると同時に、ヒョードル、ノゲイラ、ミルコ……格闘超人五輪開幕の足音が聞こえてきた。

新オーナーはフェティータ兄弟。UFCと並列で同じグループになります

人が入場してくるだけで間違いなく鳥肌が全部立つでしょう。実際、5月20日の『PRIDE』ライト級GPには、UFCを代表するようなトップファイターがUFCの看板を背負って参戦してきて、まさにライト級世界一を決めるにふさわしいグランプリになることでしょう。

――さっそく"合体"の恩恵がもたらされるわけですね。

榊原　どんどん実現していくことになるんじゃないですか。ずっと『PRIDE』を応援してくれているファンの人たちには「待ってました！」「やった！」と喜んでもらいたいし、『PRIDE』から離れかけているファンたちにも「やっぱりおもしろそうだ！」って振り返ってもらいたい。こんな衝撃的なダイナミズムはいままでの格闘技の歴史ではなかったし、まさにファンが熱狂できるドリーム・マッチや最高の夢舞台が、僕が個人的ないくつかの思いやこだわりを捨てることで実現するんだったら、これはいい機会だと思ったんです。

――そして地上波中継の復活も充分にありえる、と。

榊原　こうすることによって一石二鳥どころか、三鳥でも四鳥でも手に入れられるし、『PRIDE』というブランドを永遠に輝かせるための最善の道が用意できる。だから彼らにオーナーになってもらうことを決意したんです。

――ところで、DSEという組織はどうなるんでしょうか？

榊原　DSEという会社はこのまま残りますけども、DSEにいままで雇用されていたスタッフは全員退職をして、僕以外は『PRIDE』を運営する新組織に移ります。これまではDSEという手漕ぎボートだったけど、今度は太平洋を一気に横断できるような空母に乗り換えるわけですよ……、僕以外（笑）。

――な、なるほど（笑）。代表は『PRIDE』の新しい船出を一人で見送る、と。

榊原　手漕ぎボートの船長は、自分で漕いで『PRIDE』から離れます。でも、最高に素敵な『PRIDE』という愛娘は空母に乗り換えて幸せになっていく……。そういう思いで僕は送り出します。あとは次の世代を担う人たちが、この10年を基礎に、さらなる飛躍の10年をもたらしてほしいな、と。

――喜びの別れ。そういう感情は代表の中にはあるんですか？

榊原　やっぱり、出会いがあるから別れもあるわけだし。そういえば、毎年末、その年をイメージする漢字を決めますよね？

――昨年はいじめによる自殺が多発したこともあって、"命"という漢字でしたね。

榊原　僕からすると、06年は"裏切り"なんだよ（笑）。

――……代表。それ、一文字じゃないんですけど。

榊原　とても一文字じゃ書けない（笑）。

――せめて"別"ですね（笑）。

榊原　でも人間って、いまの話じゃないけど、出会いと別れ。そして、信頼があれば裏切りがあるけど、いまはすべて達観してるところがありますね。僕からすれば、フジテレビには大きな裏切りをされたけど、なんとなくそれに引きずられて、『PRIDE』や私を裏切った人たちっていっぱいいた。でもそんな厳しい状況のときだからこそ、いままで以上に『PRIDE』を支えようとしてくれた人、自分を信頼してくれた人、『PRIDE』を愛してくれたファン、関係者……。この約1年の中で、自分を取り巻く人間模様でも、本当に自分にとって大切な人というのがハッキリ色分けできた年だし、最後まで声をからして応援してくれたファンがいたからこそここまでなんとかやってこられた。本当に『PRIDE』を、そして私自身を支えてくれたファンの皆さんにこの場を借り

て心からお礼が言いたいです。本当にありがとうございました。心から感謝しています。

――そのファンが一番気にすると思うのは、『PRIDE』がいままで観てきた『PRIDE』であるのかどうか？　ということだと思うんです。いくら代表が『PRIDE』はUFCの二軍になるんではないか？　という不安もあると思いますが、そのへんはどうでしょうか？

榊原　二軍には絶対になりません（キッパリ）。いまの『PRIDE』から後退する要素は何もないと思いますし、ましてや何も引くことはないです。制作から、リングアナも、それを運営する人たちも変わりません。

――『PRIDE』の世界観は絶対に崩さない！　と。

榊原　まったく崩さない。前に『kamipro』でも言ったんだけど、かたちのあるものだったり、企業として工場があったり、何か不動産があるんだったら、一番高いところに売ればいいと思うんですよ。でも、『PRIDE』は生きものですし、空間というかたちのないものを選手と関係者とファンの共同作業により創り出しているわけですよね。

――かたちのないものをお客さんたちに提供している。『PRIDE』の中で一番価値を見いだすものは、ヒョードルでもノゲイラでもなく、あの空間、あの熱ですよね。

榊原　そう。でも、それって目に見えないんですよ。色が赤くて、こういうかたちでできてます！　って提示できないわけじゃないですか。でも、あの非日常的な空間に何か心躍るものや興奮、感動を求めて観に来てくれる。かたちのないものを創り出して、それを価値に変えて売っているのが僕らのビジネスなので、単純に高いところに売ればいいというわけでもないんです。それにロレンゾやフランクが総合格闘技に入ってくるきっかけは、00年の『PRIDE・GP』をアメ

サクはPRIDEで引退するのが一番美しいと思うんですよ

1997
すべては髙田延彦の敗北から始まった!!

KRS主催の10.11『PRIDE.1』――“プロレスラー”の看板を背負った髙田延彦は、まるで死刑執行台に向かうようにヒクソンが佇むリングへ歩を進める。そして舞い降りた圧倒的現実。この髙田の敗北をもって、『PRIDE』は激しく動き出すことになる。

1998
PRIDEに桜庭和志という光が差し込んだ!!

97年のUFC-Jトーナメントで優勝した桜庭和志が『PRIDE.2』から参戦。6.24『PRIDE.3』カーロス・ニュートン戦で魅せた芸術的なムーブ、つかみどころのない個性、UWFの血を受け継ぐバックボーン……ネクストスターを予感させる胎動!!

リカで放送したPPVを観たところからですから。

――では、『PRIDE』の魅力は充分に理解していると？

榊原　はい。こんな素晴らしいものが世界にあるのか、こんな美しいスポーツがあるのかということで、彼らはUFCのオーナーになったんです。だから彼らは、何よりも『PRIDE』を愛しているし、理解しているし、「日本人が作った日本の文化としての『PRIDE』はどこも崩しちゃダメだ」と言ってるんです。『PRIDE』は『PRIDE』として、いままでのものを、いままで以上に、その世界観を鮮明に打ち出していく。どこかの二軍になるんだったら、もうなくなったほうがいいですよね。

――それこそ『PRIDE』じゃなくなりますね。

榊原　存続する意味がないし、それに『PRIDE』の新組織名は「PRIDE FC WORLDWIDE」という社名なんですよ。その言葉に託されている意味は、「『PRIDE』を世界に広げよう！　ワールドワイドにしよう!!」ということ。僕は「『PRIDEエンターテインメント』にしよう」って提案したんだけど、ロレンゾが「いや、こんなに素晴らしい『PRIDE』を世界中に広めなくてどうする」ということで彼の思いがそのまま社名として採用されました。それは「『PRIDE』を間違いなく、いままで以上に、世界一の闘いの場所としてどんどん押し進めよう」というロレンゾのメッセージが込められている。だからファンに取り違えてほしくないのは、UFCとは変わらずガチガチのライバルであって、そこは相容れないままです。だけど、本当に憎しみ合うような仲の悪さでは、選手の取り合いになったり、興行戦争まで起きてしまう。そういうことが起きないために、オーナーがコミッショナー的役割を兼ねるわけですね。

――話をまとめると、フェティータ兄弟が『PRIDE』とUFCのオーナーで、UFCはダナ・ホワイトが指揮を執る。『PRIDE FC WORLDWIDE』の指揮官は、どなたが就かれるんですか？

榊原　それは現在精査中ですが、近日中に、ロレンゾとフランクがアメリカ向けの顔を決定するんじゃないかと。日本の市場では『PRIDE』の顔である髙田さんがスポークスマンとして、そのまま引き継ぎます。

――つまり本部長の名口調の「鳥肌立った!!」は残るんですね（笑）。興行も、アメリカに完全に移行するのではなく、これまでどおり日本でもやるんですよね。

榊原　もちろんです。日本に軸足を置いた闘いの場所が『PRIDE』ですから。それで年に4～5回は当然、アメリカでやることになります。

――話は戻るんですが、代表が、最終的な決断を下したのはいつになるんでしょうか？

榊原　契約書にサインをしたのは、3月に入ってからですね。ロサンゼルスでサインをしたんですけれども、その席では僕の弁護士と向こうの弁護士が二人いて、ロレンゾとかがカンファレンス・コールで参加していて「じゃ、もうサインしよう」ってときに……すぐにサインができなかったんですよ。

――合意はしたけれど……。

榊原　機械的に無機質にそのまま流れちゃうのが凄くイヤだったというか、怖かったんだと思います。そのときちょうどお腹が減っていたので、「30分くらいお茶でも飲んでくる」ってスターバックスに行ってですね、「これが本当に『PRIDE』を幸せにしてあげられる道なんだろうか……？」って、もう一度、考えました。やっぱり、自分の中ではちっとも嬉しくないんですよ！

――まさしく娘を送り出す父親ですね。

榊原　本当に（笑）。なんか、もっと嬉しいというか、「やっと話がついて、『PRID

E』の今後の道が用意できてよかった」って思えるのかなって考えていたんだけど、心の中には寂しさのようなものが……。やっぱり自分の手から『PRIDE』が離れていくんだからね。自分の人生の中で、この10年間を振り返ったときに、やっぱり自分の人生の8〜9割は『PRIDE』のために生きてきたんです。自分の愛する『PRIDE』と別れるなんてことはこれっぽっちも想像してなかった。自分が滅びるときが『PRIDE』がなくなるときだと思っていたし、『PRIDE』がなくなるときが、自分の滅びるときだって思っていたから、自分としては凄くセンチメンタルな思いに駆られたけど、もう自分の信じた道を行くべきだって自分にも言い聞かせました。個人的には寂しいけど、ファン、選手、スタッフの目線になれば、間違いなくベストのシナリオだとわかっていた。だから、戻って契約書にサインをしました。

——代表のこの10年間で、一番印象に残っているのはどの試合でしょうか？

榊原 …………10年を総括して、自分の中で振り返るとしたら、やっぱり『PRIDE．1』の髙田vsヒクソン戦ですね。

——『PRIDE』始まりの一戦。

榊原 僕が髙田さんと出会って、ヒクソン・グレイシーと出会ってですね、この『PRIDE』というものが産声をあげた。僕が東海テレビ事業の社員だったとき、「髙田さんとヒクソンの試合を実現させたいんだ」って2枚の企画書を書いて、事業部会で提出したら全員が無反応でブ然としてましたね（笑）。

——何を言ってるんだ、と（笑）。

榊原 たかが名古屋の放送局の端っこにいる若手が、たった2枚の企画書を片手に言うことですから、誰もウンともスンとも言わない。「何？ 東京ドーム？ お前、使ったことあんの？」「行ったことすらありません！」と（笑）。

——ハハハハ！ 行ったこともない（笑）。

東海テレビ事業の社員が書いた、たった2枚の企画書からPRIDEは始まったんです

PRIDE 決断の真相 榊原信行

榊原 やっぱり、あの試合ですね。僕の中ではもう、その日のその瞬間を超えられるだけの衝撃は受けたことないですね。あの一発目の衝撃が大きすぎて、あまりにも焦燥感に駆られて、試合後の東京ドームの中で10分間くらい動けなかったです。だって4分47秒で終わっちゃたんですよ。自分が髙田さんやイベント実現のために費やしたそれまでの時間と、その4分47秒という短さ。自分は間違えたことをしちゃったんじゃないか？ っていう思いが一気に噴き出してきましたね。でも、ほかのスタッフにも言ったんですが、「髙田さんが負けたからいまがあるんじゃないか？」と。

——本部長が勝っていたら、『PRIDE』にはもう上がってなかったかもしれませんね。

榊原 でも、僕が頭に描いていたのは、髙田さんが勝って終わる絵だったんです。それで一回限りの一夜の夢で終わりたかった。ところが、あの負のエネルギーが次のものを生み出したし、いまを生み出し続けていると思うんです。だから髙田さん本人もそんな思いでやったわけじゃなくて、自分自身の葛藤の中であの試合があったと思うんだけど、やっぱり、この歴史を作る第一歩を刻む、髙田さんの大きな決断が世界の格闘技シーンを塗り替えた大きな第一歩だった。そう考えると、とても感慨深いですよね。

榊原代表にとって"最後の夜"となる4.8『PRIDE.34』——いったい、どんな"PRIDEらしさ"が浮き上がるのだろうか。

——しかし、その"一夜限り"で始めた夢が、10年近く続いているのも凄いですね。

榊原 奇跡だね！ この10年後の状況をあの時点で誰一人予想しなかったし、夢にも見なかった。負けから学ぶこと、失敗から学ぶことって本当にたくさんありました。選手たちが「負けて強くなる」って言うけれど、プロモーターたちも失敗して強くなる。だからその経験は、ボードッグやエリートXCの人たちにはないでしょう。『PRIDE』やUFCには、そういった経験が血となり肉となった歴史がある。それがあるかぎり、このスポーツをどんどん伸ばしていけると思います。

——それで4月8日の『PRIDE．34』は、代表にとって"最後の夜"になるわけですが……。

榊原 どこかで自分の中でも10年という区切りを迎える第一歩でもあるので、ノスタルジックな部分も含めて振り返るような企画を入れたいと思いますね。

——記念大会なら、ファンの記憶を氾濫させる仕掛けは必要ですね。

榊原 そういう懐かしさも含めて、それが『PRIDE』の持っている奥深さだし、それが『PRIDE』の中の味わいのはずだから。4月8日はみんなの記憶に残る大会になるように頑張ります。……それこそね、たった2枚の企画書から始まった『PRIDE』が、これだけ多くの人の心を揺さぶって、スポーツとしても、ビジネスとしても脚光を浴びてこられたことを誇りに感じているし……その中で個人的なエゴとか欲望とか、こだわりとかあるけど、そんなちっちゃなものにこだわるんじゃなくて、ここは大きな絵を描かなければならない。スタッフたちにも新しい舞台でそうしてほしいですね。

——わかりました。最後の質問ですけど、『PRIDE』の歴史とは、桜庭和志の歴史でもあったと誰もが感じてると思うんです。

榊原 うん。桜庭和志の存在なくしていまの『PRIDE』はないですから。僕の中では髙田延彦という選手に続いて、自分の中で気持ちが入る選手であることに間違いないんだよ。だから、本当に自分が代表のあいだに、『PRIDE』で引退試合をやってほしいぐらいの思いが……向こうがどう思っているかは知らないですけど（笑）。

——でも、そのくらいの思いを持っているという。

榊原 サクとはそうやって向き合ってきたし、いろんな行き違いがあったりしたけれども、サクが戻ってきて、『PRIDE』で引退をするっていうのは、美しいと思うんですよ。アイツは嫌いだとか、こんなことしたとか、そんなことはどうでもよくて。そんなの日本の中に起きている、ちっちゃなちっちゃな世界のことで、だから……。

——だから？

榊原 ボクと一緒にやめようって！（笑）。

——ダハハハハ！ ムリヤリ引退させないでください（笑）。

榊原 冗談はともかく、サクは本当に頑張っているんで、これからも陰ながら応援していきます。

——そういえば、『kamipro』も『PRIDE』が始まるからいまのかたちでスタートした経緯があるんですよね。つまり、本誌も代表の2枚の企画書がきっかけです（笑）。

榊原 ああ、そう。だったら僕と一緒にやめようか？（笑）。

——喜んで山口日昇をやめさせましょう（笑）。では、『PRIDE．34』、期待してます！

【07年3月／DSE事務所にて収録】

噂の“ジャングル大帝”ソクジュに再び試練!!
今度の相手はあのヒカルド・アローナだ!

DSE体制

“最後の夜”に奇跡を起こせ!!

4.8 PRIDE.34 KAMIKAZE

「ホジェリオはたしかに強いが、キリンよりは弱いだろう」
　記憶に残る名言を発して、2月のラスベガス大会で衝撃の『PRIDE』デビューを飾ったアフリカン人ファイター、“ジャングル大帝”ソクジュが初来日！　対戦相手は、なんとあのヒカルド・アローナ！　ムチャだよ、これ！
　前回は、ボクシング・キューバ五輪代表チームと練習を積み重ねるなど、打撃力に定評のある実力者ホジェリオを左フック一発でKOしたソクジュ。ジョシュをして「宇宙のタイミング」と言わしめた、奇跡にもほどがある勝利を収めたが、その実力はいまだ未知数。一方、安定したグラウンドスキルを持つ05年ミドル級GP準優勝者のアローナはチームメイトの敗戦を受けて、ますますガチガチの“勝ちにこだわる”スタイルで向かってくること必至。アローナの絶対有利は動かないが……ソクジュの“野生”が再び炸裂するか!?　“最後の夜”に奇跡を起こせ！　ウホッ!!

はあ～、キリンもねえ、ゾウもねえ、
それほど草も茂ってねえ！
でも、埼玉さ行くだ!!

PRIDE.34
さいたまスーパーアリーナ
4月8日（日）14:00開場／15:30開始

［決定カード ※締切3月21日現在］
ソクジュ vs ヒカルド・アローナ
青木真也 vs ブライアン・ローアンユー
瀧本誠 vs ゼルグ“弁慶”ガレシック

［出場予定選手］
マーク・ハント／ヴァンダレイ・シウバ／藤田和之
ヴォルク・アターエフ／ジェームス・トンプソン
ギルバート・アイブル／バタービーン／ミノワマン ほか

［チケット料金］
VIP席［特典＝専用入場ゲート・グッズ付］100,000円
RRS席30,000円／スタンド席17,000円／スタンドA席7,000円
※1歳以上のお子様も入場券が必要です

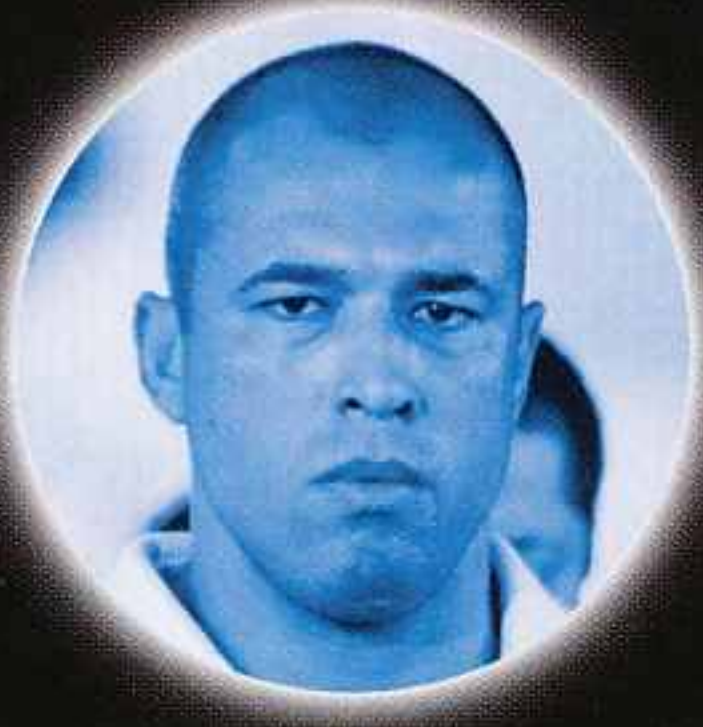
［問い合わせ］
（株）ドリームステージエンターテインメント TEL.03-5464-1531

自称・童顔23歳のソクジュさん

格闘新世界

MMA NEW WORLD

COMPLETE GUIDE

UFC、PRIDE
の"合体"で
世界格闘技の
勢力図は激変する!

俺様と『ジャングル・ファイト』の
動向も見逃すなよ!

!ザ・ワールド

『PRIDE』とUFCが同一資本となったことにより、一変した格闘世界地図。ここでは、『PRIDE』、UFC、『HERO'S』といったメジャー団体とそれらを取り巻く各団体の関係を一気に整理! なるほど! ザ・ワールドッ!!

STRIKEFORCE — 協力関係 — ELITEXC — 協力関係 — RWE

ストライク・フォース
北カリフォルニアで地盤を築き、昨年は北米観客動員記録（当時）を更新。

エリートXC
株価総額160億を誇る新興団体。今年、ボクシング業界から参入。

ランブル・オン・ザ・ロック
BJペン一家が経営するハワイの総合格闘技イベント。一時UFCと対立した。

急接近?

リトアニア BUSHIDO
東欧で勢力を拡大中の格闘技団体。リングス・リトアニア名義でも活動。

協力関係

レミーガ参戦

ZST
リングス同様、寝技での顔面パンチなしのルールを採用。所英男らを輩出。

所英男参戦

高橋義生参戦

HERO'S（FEG）
FEGが主催。国内唯一の地上波ゴールデンで放映されるMMAイベント。

パンクラス
93年に旗揚げした老舗団体。今年、ボードッグとの提携を発表。

提携

協力関係

bodogFIGHT

ボードッグ
ネットカジノの億万長者が旗揚げした新団体。ヒョードル参戦か?

ケージ・フォース（GCMコミュニケーション）
世界のネットワークを誇る、日本唯一の金網MMA団体。

提携解消

MARS
昨年突如マット界に現われ、いつの間にか鳴りをひそめたズンドコ団体。

リアル猪木軍参戦

IGF
アントニオ猪木が発進する予定の格闘技orプロレス団体。参戦選手は不明。

IFL
06年に旗揚げした、株式時価総額400億円を誇る新興格闘技イベント。

細かいことはよく知らねえんですが、各方面に出身選手が参戦している修斗は団体じゃなくて、あくまで"競技"。ただ過去に『PRIDE』側より公式に協力団体として発表された経緯もあるんで、とりあえず相関図に含むことにしたんでやんす。また『PRIDE』、UFC、『HERO'S』を中心としたため、省略した団体間の交流もあるんです。各自調査!

一目でわかる格闘世界情勢

一夜で激変!!

MMAなるほど!

格闘 MMA NEW WORLD 新世界

ケージ・レージ
イギリス最大の金網格闘技団体。4月大会にボブ・サップが出場予定。

DEEP
『PRIDE』に多くの選手を送る中堅団体。代表は鼻息の荒い佐伯氏。

WEC
06年にUFCが買収。軽量級ナンバーワンを決める舞台にリニューアル。

PRIDE
ご存知"世界最高峰のリング"。4月8日の大会を最後にオーナーが交替。

UFC
93年にスタートしたMMAの老舗にして、世界最大のイベント。

修斗
84年に創設された総合格闘技老舗中の老舗。アマチュアも充実。

『PRIDE』、UFC、『HERO'S』の"三国時代"が続いていた格闘技界だが、『PRIDE』とUFCが同一資本となったことで、パワーバランスは大きく変わりつつある。

これまで熾烈な闘いを繰り広げていた『PRIDE』とUFC。資本的に同じグループになったとはいえ、別会社であり、その競争は今後も続くことになる。ただし、選手の交流はこれまで以上に活発化が予想され、DEEPやWECなど提携団体をも巻き込み巨大な同盟を形成したとも言える。

一方『HERO'S』は6月にロサンゼルスでの興行を計画。一説では、その米国進出のパートナーとしてエリートXCと共同開催するという噂もある。潤沢な資金を誇り、ショータイムとの結びつきの強いエリートXCとの提携が本当ならば、資金・テレビ両面での大きな力となるだろう。

またヒョードルへの引き抜き工作を巡って『PRIDE』と対立するなど、膨大な資金力を背景に巨大化しつつあったボードッグだが、『PRIDE』とUFCの動きによって、孤立化の様相を呈し始めた。"闇の帝王"カルビン・エアーがどんな策を練ってくるのか注目される。そのボードッグの日本での提携先パンクラスは、『PRIDE』との交流断絶も噂されたが、結局継続されるようだ。

何が起こるか、まさしく一寸先は闇のMMAシーン。しかしながら、ここに『PRIDE』&UFC同盟と『HERO'S』&エリートXC連合という図式がぼんやりと浮かび上がってきたことも確かだ。

PRIDE
PRIDE

最大の転換期を迎えた世界最高峰のリング

設立年	1997年
テレビ放送	スカイパーフェクTV
平均観客動員数	日本　4万人 アメリカ　1万3,000人
主要選手	吉田秀彦、五味隆典、ヴァンダレイ・シウバ

髙田延彦vsヒクソン・グレイシー戦実現のために97年にスタートした『PRIDE』。98年と03年、二度の"REBORN"を経て、今年10周年イヤーを迎えたが、このたび榊原代表が退陣し、UFCと同一オーナーの下で運営されることになるという最大の変革が起こった。ただ、オーナーが変わっても5月開幕の『PRIDEライト級GP』は予定どおり開催。王者クラスのUFCファイターの参戦も予定され、まさにライト級世界最強を決める大会となりそうだ。はたしてオーナーチェンジによりで何が変わり、何が変わらないのか、今度の展開がもっとも注目されるイベントであることに変わりはない。

UFC
ULTIMATE FIGHTING CHAMPIONSHIP

巨大化の一途をたどるMMAのメジャーリーグ

設立年	1993年
テレビ放送	スパイクTV、WOWOW、日テレG+
平均観客動員数	1万5,000人
主要選手	チャック・リデル ミルコ・クロコップ

93年に"ノールール"を謳い、八角形の金網を戦場にセンセーショナルにスタートした、MMAの老舗にして、世界最大のメジャーリーグ。01年にSEGから現在のZuffa（ダナ・ホワイト社長）へ経営権が移って以降、アスレチック・コミッションやメディアとの結びつきを強め、昨年リアリティショー『TUF』のヒットにより大ブレイクをはたした。昨年末には念願のミルコ・クロコップ獲得にも成功。今年はアメリカ国内はもちろん、欧州、日本への進出も計画中と、その勢いはとどまることを知らない。今後は『PRIDE』との"格闘技版スーパーボウル"実現も期待される。

これぞ格闘MMAワールドワイド!

世界主要MMAイベントまるわかりガイド

格闘新世界 MMA NEW WORLD

アメリカでのMMAバブル、さらには世界的なMMA人気の高まりによって、
現在、世界中には数多くのMMAイベントが存在する。
「たくさんありすぎて、わけわかんねーよ」とファンが投げ出す前に、
ここでは読者にやさしい『kamipro』が、主要MMAイベントを大紹介します!

構成／編集部

ボードッグ・ファイト
bodog FIGHT

個人資産1150億円! ビリオネアの野望は何か?

設立年	2006年
テレビ放送	イオンTV オフィシャルHPでの無料配信
平均観客動員数	PPV大会 3,000人 テレビシリーズ 観衆なし
主要選手	レッドデビル所属選手、エディ・アルバレスほか

個人資産1150億円という世界的セレブ、カルビン・エアーが代表を務めるボードッグ・グループの格闘技イベント。06年7月より米格闘技イベントMFCのメインスポンサーとしてMMA界に参入し、8月に『ボードッグ・ファイト』を立ち上げた。また、12月にホジャー・グレイシーのMMA初参戦を実現、さらに今年4月にはPRIDEヘビー級王者エメリヤーエンコ・ヒョードルのボードッグ参戦も正式に発表しており、そのファイトマネーはもはや驚くべきレベルだともっぱらの噂。今後も『PRIDE』、UFC、その他あらゆるイベントからどんな選手を"大人買い"するのか、注意が必要だ。

HERO'S
HERO'S

日本が誇る地上波ソフトがついにアメリカ進出へ

設立年	2005年
テレビ放送	TBS
平均観客動員数	1万人
主要選手	所英男、秋山成勲、桜庭和志

かねてから6月にアメリカへ進出することがアナウンスされていた『HERO'S』。3月19日現在、その全容は発表されていないが、エリートXCとの共催？　海外大会はTBSではなくフジテレビで放送？　など、さまざまな噂が飛び交っている。アメリカ大会はブロック・レスナー、チェ・ホンマン、ホイス・グレイシーらが主役を務めることになりそうだが、これまで地上波ソフトとして、日本のお茶の間向けにデザインされてきた『HERO'S』がアメリカ進出でどう変わるのか？　谷川イベント・プロデューサーの言う「大笑いできるMMAイベント」とは何か？ 注目される。

ストライク・フォース
STRIKE FORCE

ベイエリアに基盤を築く ニュートラルなイベント

設立年	2006年
テレビ放送	ショータイム
平均観客動員数	1万人
主要選手	フランク・シャムロック、カン・リー

K-1 USA大会もプロモートするスコット・コーカー氏が代表を務めるイベント。もともとはキックボクシングのイベントだったが、昨年3月、カリフォルニア州でのMMA合法化により、フランク・シャムロックvsシーザー・グレイシーをメインにMMAイベントとして新装スタートした。『PRIDE』からアリスター・オーフレイムやフィル・バローニを借り入れたり、ボードッグを冠スポンサーにつけたりとニュートラルな立場にあるが、今回のUFCと『PRIDE』の接近により、このバランスがどうなるのか。ある種、MMA勢力分布図のキーを握るイベントだ。

エリートXC
ELITE XTREME COMBAT

『HERO'S』米国進出に協力? 資金豊富な新興イベント

設立年	2007年
テレビ放送	ショータイム
平均観客動員数	5,000人
主要選手	フランク・シャムロック、ヘンゾー・グレイシー

180万件という史上最大のPPV売り上げを記録した"マイク・タイソンvsレノックス・ルイス戦"を制作した、ボクシング業界の大物プロモーター、ゲリー・ショウ氏が運営する、今年2月に旗揚げしたばかりの新興団体。フランク・シャムロック出場を巡って、ストライク・フォースとトラブルになるも、その後、ショータイム(テレビ局)の仲介により関係修復。現在は協力関係にある。また、ハワイのランブル・オン・ザ・ロックとも結びつきが強い。株式公開により、莫大な資金を調達。FEGとの提携が噂されており、今後の日米MMAシーンに大きな影響を与える可能性もある。

ケージ・レージ
CAGE RAGE

ボブ・サップ電撃参戦! イギリス最大の格闘イベント

設立年	2002年
テレビ放送	スカイスポーツ
平均観客動員数	1万人
主要選手	ボブ・サップ ジェームス・トンプソン

ロンドンを中心に興行を行なう、イギリスのメジャーMMA団体。05年に『PRIDE』と業務提携を発表し、ジェームス・トンプソンらを派遣。『PRIDE』からも美濃輪育久や松井大二郎などが参戦している。「オープンガード・ルール」と呼ばれるグラウンドでの相手へのストンピングや頭部へのヒザ蹴りが可能になる独特のルールが採用されており、金網ながら、試合形式は『PRIDE』に近い。2月大会のメインイベントにあのボブ・サップが突如乱入。4月大会への出場が決定しており、これが『PRIDE』参戦につながるのかどうか注目が集まっている。

IFL
INTERNATIONAL FIGHTING LEAGUE

アントンが国際大使! チーム対抗戦MMA

設立年	2006年
テレビ放送	FOXスポーツ マイネットワーク
平均観客動員数	3,000人
主要選手	ヘンゾー・グレイシー、ジェンス・パルヴァー

不動産業や出版業を営む巨大資本が母体の新興団体。ユニークなのは、個人競技のMMAにおいて、NFLと似たようなシステムで行なわれる都市別チーム対抗戦。世界中のチームが一年間を通じて対決し、勝率を競うというもの。ただ、そのチーム対抗戦の結果に関心を持っているファンは少ない。株式公開をはたし、株式時価総額は現在400億円以上! 有名選手とコーチ契約を結んだり、アントニオ猪木を国際大使に据えたりと、ニュースには事欠かないが、それは株価対策とも考えられている。サイモン・ケリー猪木氏に"リアル猪木軍"の参戦を要請したとの情報もあり。

IGF
INOKI GENOME FEDERATION

"ゲノム"が今度こそ発進!? アントン夢の新団体

設立年	2007年
テレビ放送	なし
平均観客動員数	なし
主要選手	たぶんイズマイウ、LYOTO(本人は否定)

アントニオ猪木が満を持して発進する"予定"の格闘技組織。参戦ファイターは不明だが、でっかい夢と無駄な煽りだけはどこにも負けない!! 行くぞ、バングラデシュ遠征!! 口を開けば「みんなが出たい!と言っている」とアントン節が炸裂だ! スポンサーの株式会社ジー・コミュニケーションズは学習塾、居酒屋のフランチャイズ経営で知られる。お子さんの月謝が永久電機……もとい。アントンの夢を膨らませることになる! アントンの肖像権等は、絶賛対立中の新日本プロレスが所有しているが、ズバリ言って細かいことはどうだっていいんです。シムフフフ!!

ケージ・フォース
CAGE FORCE

世界ネットワークを誇る 日本唯一の金網MMA

設立年	2006年
テレビ放送	テレビ東京
平均観客動員数	1.500人
主要選手	門馬秀貴、アルトゥール・ウマハノフ

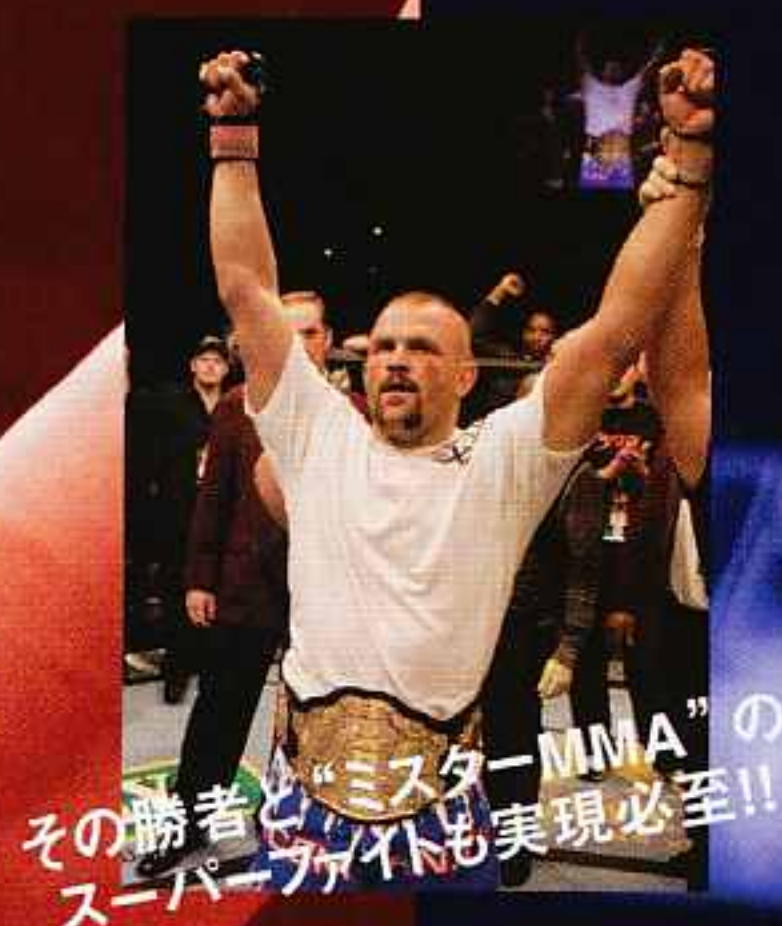
『HERO'S』やUFCで活躍する宇野薫、岡見勇信らが所属するGCMコミュニケーション主催の日本で唯一のオクタゴン使用の定期イベント。昨年9月にGCMの呼びかけにより発足した世界金網格闘技連盟「WWCN」への加盟に伴なうプロモーションの一環としてD.O.GからCAGE FORCEへ改名。現在はWWCNに加盟する6プロモーションから王者クラスが参加し、ライト&ウェルター級で王座決定トーナメントを開催中。『HERO'S』ともガッチリ提携し、UFCにも選手を派遣しているGCMだが、今回のUFCと『PRIDE』の接近を受け、今後の動向が注目される。

43歳の超人気王者誕生で、今夏ついに実現へ――

究極の英雄 vs 究極の外敵

ランディ・クートゥアー vs ミルコ・クロコップ

その勝者と"ミスターMMA"のスーパーファイトも実現必至!!

格闘 MMA NEW WORLD 新世界

空前のヘビー級大戦争で UFC帝国は完成する!

撮影／Josh Hedges（UFC）

リアリティショー『ジ・アルティメット・ファイター（TUF）』の人気をきっかけに、昨年、大ブレイクをはたしたUFC。

その勢いは、昨年12月30日、チャック・リデルvsティト・オーティズの決着戦をメインに据えた『UFC66』で、一説によれば100万件以上のPPV契約数を記録し、頂点を迎えたように見えた。

しかし、その勢いは今年に入ってからもとどまることを知らない。PRIDE無差別級GP王者ミルコ・クロコップが加わったヘビー級戦線が空前の盛り上がりを見せようとしているのだ。その第一の爆発が3・3『UFC68』で行なわれたUFCヘビー級タイトルマッチ、ティム・シルビアvsランディ・クートゥアー戦だった。

この試合は、かつてUFCのヘビー、ライトヘビーの二階級を制覇し、UFC殿堂入りをはたしたクートゥアーが1年半ぶりに現役復帰。しかも、いきなりヘビー級王座に挑戦ということで大きな話題を呼び、会場となったオハイオ州コロンバス・ネイションワイドアリーナには超満員1万9079人を動員。これは昨年3月にストライクフォースが記録した1万8265人を上回る、アメリカ国内のMMA観客動員新記録となった。

なぜ、そこまでこの一戦は話題になったのか。それはもちろん、ランディ・クートゥアーが日本では考えられないほどのバリューを持っているということが大きい。

97年にUFC初参戦以降、常にヘビー級、ライトヘビー級のトップ戦線で闘い、40歳を過ぎてもベストコンディションでオクタゴンに上がり続けたクートゥアーの鉄人ぶりは、多くのファンの尊敬を集めている。それだけではない。UFC人気爆発のきっかけとなった『TUF』のファーストシーズンにおいて、クートゥアーはチャック・リデルとともに〝鬼教官〟として登場。リアリティショーをきっかけにUFCを見始めたライトなファンにも、絶大なる知名度を誇っているのだ。

そのクートゥアーが43歳にして復活して、ヘビー級王座に挑戦ということで、新旧両方のUFCファンが飛びついたため、この一戦は大きな反響を呼んだのである。

とはいえ、対戦前の下馬評では、もちろん王者ティム・シルビア有利。なんといってもシルビア30歳に対し、クートゥアーは43歳。体格でもシルビアが身長で15センチ、体重で約20キロも上回っているのだ。UFCファンの多くはクートゥアーを応援しつつも、いきなりのヘビー級タイトル挑戦は無謀との声が大勢を占めていた。しかし

――ランディ・クートゥアーが奇跡を起こしてみせた！

43歳とはとても思えない鍛え上げられた肉体で1年半ぶりにオクタゴンに立ったクートゥアーは、1ラウンド開始早々、右ストレートをシルビアの顔面にヒットさせ、いきなりダウンを奪う。それ以降も「ヒョードルが相手でもジャブだけで充分」と吠えるシルビアのパンチを頭を振ってかいくぐり、胴タックルから何度もテイクダウン。グラウンドでシルビアの巨体をコントロールする。

3ラウンドからはさすがに疲れを見

せたが、最後まで集中力は途切れず、5ラウンドをフルに闘い抜き、判定勝ち！　しかも、1ラウンドから5ラウンドまですべてのラウンドで優勢ポイントを奪うという、文字どおりの完勝で、UFCヘビー級チャンピオンに返り咲いたのだ。

43歳にして大方の予想を覆してのヘビー級王座戴冠という〝奇跡〟に、超満員に膨れ上がった館内はスタンディング・オベーション。モハメド・アリvsジョージ・フォアマンの〝キンシャサの奇跡〟のようなことが、オクタゴンで起こってしまったのだ。

当時のフォアマンと違い、前王者シルビアの評価は決して高いとは言えなかっただけに、〝UFC版キンシャサの奇跡〟と呼ぶには大げさすぎるきらいもあるが、それに準ずるほどの偉業であることに変わりはない。このインパクトを日本のファンにもわかりやすく伝えるならば、桜庭和志が突如『PRIDE』に戻ってきて、しかも復帰第一線でいきなりPRIDEミドル級王者に輝いたぐらいの盛り上がりと言えば、少しは伝わるだろうか？

それほど〝ありえない〟ことであり、それだけに現地は爆発的な盛り上がりを見せたのである。

ここ数年、大男同士のスピード感に欠ける試合が続き、人気低迷していたUFCヘビー級戦線であるが、〝不人気王者〟シルビア政権が崩れ、〝超人気新王者〟が誕生したことで、一気に息を吹き返した。

そして、このファンの尊敬を一身に集める〝ピープルズ・チャンプ〟の前に立ちはだかる、最強の敵が、言わずと知れたミルコ・クロコップだ。

ミルコは4・21『UFC70』イギリス・マンチェスター大会において、ガブリエル・〝ナパオン〟・ゴンザガと対戦。この一戦に勝利すれば、7月にもクートゥアーの持つUFCヘビー級王座に挑戦することが、すでに内定している。

ランディ・クートゥアーvsミルコ・クロコップ。この一戦が実現すれば、まさに空前の盛り上がりとなるだろう。ただでさえ、超人気王者クートゥアーの初防衛戦ということで注目度が高いこの試合には、闘うべきテーマが満載なのである。

アメリカの英雄vsヨーロッパの英雄、UFCvsPRIDE、グラップラーvsストライカー。究極のベビーフェースvs究極の外敵という構図に、オクタゴンは、かつてないほどの盛り上がりをみせることは必至だ。

しかも、この一戦に注目するのは何もアメリカのUFCファンだけではない。〝UFC欧州進出のエース〟的存在であるミルコの挑戦ということで、ヨーロッパのファンの多くはミルコの王座奪取を後押しするだろう。そしてもちろん、日本のPRIDEファンにとっても決して見逃すことのできない大一番。クートゥアーvsミルコは、まさに世界規模の闘いとなるのである。

そしてUFCの凄いところは、これが〝頂点〟ではないということだ。この一戦の先にはさらなるビッグファイト、クートゥアーvsミルコの勝者に、UFCライトヘビー級王者チャック・リデルが挑戦するというプランが進められているのだ。

チャック・リデルは単なる一階級下の王者ではない。〝UFCの絶対王者〟として、ライトヘビー級戦線で無敵を誇るだけでなく、クートゥアー同様、『TUF』で教官役を務めたことで知名度も抜群。この男こそが、ミスターUFCであり、アメリカMMA界を象徴する存在なのである。

そのリデルとクートゥアーが闘えば、〝アイコンvsアイコン〟の頂上対決となり、相手がミルコになれば、クートゥアーvsミルコを上回る絶対王者vs究極の外敵という構図になる。いずれにしても、史上空前のビッグファイトになるのは間違いないのである。

そしてUFCは、この大一番を、世界一の大都市ニューヨーク初進出の超目玉に据えることも考えているようだ。となると、会場はこれまた世界一有名なスポーツアリーナ、マジソン・スクエア・ガーデン（MSG）が浮上してくる。UFCはすべてのお膳立てを整えたうえで、史上最高のPPV契約数を狙っているのである。UFCによる〝世界制覇〟の野望は、着々と進んでいるのだ。

しかし、その壮大なる計画の主役の一人であるミルコは、自分のクライマックスをそこには置いていない。ミルコにとって本当のクライマックスは、もちろん打倒エメリヤーエンコ・ヒョードル。

かねてからUFC王者になったうえで、PRIDE王者ヒョードルへの挑戦を宣言していたミルコだったが、UFCと『PRIDE』の〝合体〟により、それは実現不可能な夢ではなくなった。

PRIDEヘビー級王者エメリヤーエンコ・ヒョードルvsUFCヘビー級王者ミルコ・クロコップのリアル世界統一戦。真の意味でワールドワイドな究極の頂上対決は、来年にも実現する——！

3.3 UFC68 THE UPRISING
米国・オハイオ州コロンバス／ネイションワイドアリーナ

［UFCヘビー級タイトルマッチ］
○ランディ・クートゥアーvsティム・シルビア×
（5R終了 判定3-0）
※シルビアが3度目の王座防衛に失敗。クートゥアーが第12代UFCヘビー級王者に輝く。

UFC70 NATIONS COLLIDE
4.21（土）イギリス・マンチェスター M.E.N アリーナ

［決定分対戦カード］
ミルコ・クロコップ vs ガブリエル・“ナパオン”・ゴンザガ
アンドレィ・アルロフスキー vs ファブリシオ・ヴェウドゥム
LYOTO vs デビッド・ヒース
マイケル・ビスピング vs エルビス・シノシック
アスエリオ・シウバ vs チェッチ・コンゴ

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールなUSAニュースをお届け!!

USA COOL 宅急便

Vol.12

マット界にも"ライブドア"が出現!? 2月に旗揚げ戦を行なったばかりの新興格闘技団体エリートXC。同団体を運営するプロエリート社の株式時価総額が、すでに160億円を超える事態に。海の向こうのMMAバブルが日本を飲み込むのか!? 謎に包まれた同社の実態に迫る!

聞き手／デューク東郷　助手／上杉キリン

時価総額なんと116億6000万円!! フジテレビに近づく(?) エリートXCの狙いとは?

PROFILE

Scott Petersen【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』(http://www.mmaweekly.com/)を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「イメージ映像であることを明確に表示するよう厳しく指導する」。

―聞いた? ホリエモン(堀江貴文前ライブドア代表)に実刑判決が下ったよ。

スコット ……ホリエモンって誰? つづれ屋の主?

―それはマンガ『21エモン』の親父! そんなこと知ってるほうがおかしいよ。ライブドアっていう会社は知っている?

スコット ライブドア? なんか聞いたことあるな。株式市場で、いろいろと問題を起こした日本の企業だったっけ。自社株を売って、こっそり売り上げに計上したんでしょ。

―そうそう。そうやって粉飾決算を行なったり、堀江前代表のネームバリューを活かして得た割高な株式時価総額を背景にM&Aを積極展開して事業規模を拡大していった会社。企業を次々と吸収していかないと、成り立たないビジネスだったんだけど……。

スコット (さえぎって) どーでもいいけど、なんでこのページでそんな話をしているんだい? ここは俺がアメリカンMMAシーンを語るページだよ!!

―まあまあ。なぜこういう話をするかというと、エリートXCを運営するプロエリート社が旧ライブドアに似ているんじゃないかって思ったんだよ。株式時価総額だけはメチャクチャあって、格闘技団体としての実態があまりないわけでしょ。

スコット なるほど。プロエリート社の時価総額をちょっと調べてみると……(パソコンで株価サイトを検索しながら) 今日の株価は3・23ドル。発行済み株式数が4250万株だから……凄い! 1億3812万5000ドル!!

―(冷静に) よくわかんないから、日本円で言ってくれよ。

スコット (電卓を叩きながら) 161億6002万5000円!!

―そりゃあ凄いわ!! 鳥肌立った!

スコット いまのアメリカはMMAブームだから、かつてのITバブルの時期もそうだったように、「格闘技の会社です!!」って言えば、簡単に投資が集まる。たとえば、アメリカの新興格闘技団体を例に挙げれば、IFLはもっと凄いよ。時価総額は400億円以上あるんだからね。

―400億円! 鳥肌、全部立った!!

スコット 発行した当初の株価は1・5ドルだったのに、いまや10ドル以上の値段がついて、一時は17ドルにまで上がったんだ。

―株価が10倍以上になっているんだ。いくらIFLがIR(インベスターズ・リレーション=投資家に対するPR)活動に優れていると言われているとはいえ、とんでもない金額だね。

スコット ただ、株式を公開しているといっても、市場に出ている株の数はまだ少ないはず。そこで、オーナーグループら、ストックオプションで株を安く買った人間が、利益を得ようと株式を大量に売却すれば、一気に値崩れするんじゃないかな。

―そうなると、あとにはな～んにも残らなくなるわけだ。

スコット IFL自体はべつになんらかの資産を持っているわけではないからね。価値があるのかないのかわからない、選手との契約を除いては。つまり彼らのすべての活動は、その株価に支えられているんだよ。そして、その株価が高いのは『60ミニッツ』(全米で放送されているCBS局の人気報道番組)で紹介されたからということも大きいね。

―そんな番組にニュースをねじ込ませるなんて、メディアに対するPR活動も凄いんだろうね。お客さんの入りはどうなの?

スコット IFLの客入りは芳しくはないね。でもスポンサーも多いし、利益は出しているんじゃないかな。じゃないと、株価に響くだろうし。で、プロエリート社に話を戻すと、FEGと手を結ぼうとしているという噂がある。

―ああ、その動きは聞いたことがあるね。

3月末にカリフォルニア州で記者会見を開くことが発表された『HERO'S』。谷川実行委員は「ダナ(・ホワイトUFC代表)がひっくり返るような会見にしたいので楽しみにしてください」とサプライズ予告。いったい何が!? んあ～!

なんと、あのフジテレビも絡んでるという噂で。それなら『PRIDE』のほうを放送してちょ!!（髙田総統調）。

スコット　FEGはK－1や『HERO'S』を主催しているし、ビッグネームの契約を持っているから、トップファイターの参戦が少ないエリートXCにとって、貸し出してもらえることは魅力的。そしてFEGにとってもこの提携で『HERO'S』アメリカ進出の足がかりができることになる。

──お互いにメリットのある話だね。

スコット　それにプロエリート社と組むことによって、エリートXCを放映しているショータイムで『HERO'S』やK－1が放映される可能性もあるわけだし。

──苦労せずにアメリカでのテレビ放映を獲得できる、と。

スコット　いまのMMA市場は日本よりアメリカのほうが大きい。この提携はよく考えると、FEGが得る利益のほうがエリートXCよりも大きいんじゃないかな。

──逆に、エリートXCの最大のメリットは何？

スコット　なんだろうね。さしあたっては、「日本のメジャー団体と業務提携しました」というニュースで株価を上げたいんじゃん（笑）

──ますますホリエモンだよ！（笑）。

スコット　プロエリート社のゲリー・ショー代表はもともとボクシング興行のプロモーター。なんでも、180万件という史上最大のPPV売り上げを記録した"マイク・タイソンvsレノックス・ルイス戦"のチーフ・ディレクターだったらしい。

──へ～！　それは"やり手"のプロモーターだ。

スコット　ゲリーはボクシングのプロモーター時代からケーブルテレビ局ショータイムとの結びつきがあったし、ニュージャージー州のアスレチック・コミッションで働いていたこともあってコネクションも広い。

──それらの経験をフル活用しているわけだ。でもなんで格闘技界に入ってきたんだろう？

スコット　それはいまのMMAに勢いを感じたからでしょ。

──ボクシングと比べても、MMAってそんなに儲かるの？　しかもPPVもなく、ショータイムだけでの放映でそんなに儲かるとは思えないけど。

スコット　ボクシングは落ち目だから、いまのうちにMMAに参入しようという魂胆は見えるよね。PPVがないことについていえば、莫大なPPV収入を得るチャンスがない代わりに、ショータイムから確実に制作費が入るから、旗揚げしたばかりの団体にとってはケーブル局との契約は悪くない。

エリートXCの旗揚げ戦、メインイベントはフランク・シャムロックvsレンゾー・グレイシー。しかし、フランクの頭部へのヒザ蹴りによって、反則決着となった。また旗揚げ戦には暴行容疑で逮捕されたクレイジー・ホースも出場！

メディアを活用して、株価を上げるのが狙いかも

──確かにPPVは一種のギャンブルだもんね。

スコット　そう。ケーブル局との契約は団体にとってもおいしい固定収入。実際、UFCのダナ・ホワイト代表もいまのPPVに加えてケーブルテレビのHBOと契約したがっているんだ。UFCはすでに月に2回もPPVをやっている状況。これ以上PPVを増やすのは、観るほうにとってコストが高くなりすぎる。ファンが離れることを懸念しているんだろうね。

──たとえば月に3回となると、約1万5000円ぐらい。けっこうな支出だよね。

スコット　だからUFCはケーブルテレビなどのフリーテレビで広告収入を増やすなどして、PPV以外の収益に力を入れ始めようとしているんだ。実際、来月イギリスで行なわれる『UFC70』はタダだからね。

──なるほど。でもUFCがそうやってケーブルテレビ局に新たな活路を見いだすのはわかるけど、エリートXCに話を戻すと、メイン級のファイターに支払っている金額は、●●●●円とも言われているわけで、PPVなしで元が取れるとは思えないけど。

スコット　確かにショータイムの制作費だけではペイしてないかもね。だから、まずは投資として、ビッグネームを呼んで、ケーブルテレビで認知を得てから、そのあとPPVに移行する考えなのかもしれない。不完全決着だったメイン以外の試合は好評だったし、ファンはついてくると思うよ。ただ、まだ投資段階にしては、制作が豪華すぎるけどね。

──もしかして、イベントの見た目をよくすることで、高く売り抜ける気もあるんじゃないかな。

スコット　（ニヤっと笑って）その可能性も否定できないね。昨年、このスポーツは大きく成長した。だから自分の周りのWEBエンジニアでも、「MMAサイトを作って、さっさと売り払おう」って人間は多かったよ。ファンに毛が生えたようなヤツがさ。「なんなら新団体を立ち上げて、売っちまおう」なんて言う輩もいたよ（笑）。

──それがスコットじゃないことを祈るけど！（笑）。

スコット　失礼な！　俺はこれでも老舗MMAサイトの主宰者としての誇りがあるんだからね。でも、ちょっとうまくやればダナ・ホワイトがWFAを買収したときのように、価値のない団体でも買い取ってくれるかもしれない。もっともWFAのケースは、選手を『PRIDE』に取られないようにするという目的があったわけだけど。

──そんな簡単にいくかなあ？

スコット　いくかもよ。なんたって、いまアメリカではMMAはセクシーでエキサイティングなゲームだと認知されている。『kamipro』を読んでもわかるだろう。ハリソン・フォードやニコラス・ケイジも観に来ているんだから。

──セクシーでエキサイティングっていうボキャブラリーがヤバいけど（笑）。

スコット　とりあえずエリートXCというプロモーションの動きは日本にも大きな影響を与えることはわかったでしょ。

──きっかけはエリートXC！　になるかも。読者の皆さん、注目してちょ!!

【07年3月13日／ダブルクロスUSAにて収録】

MMA界のライブドア USA Cool宅急便

闇の新興勢力ボードッグが、4.14ついに計略決行か

格闘新世界
MMA NEW WORLD

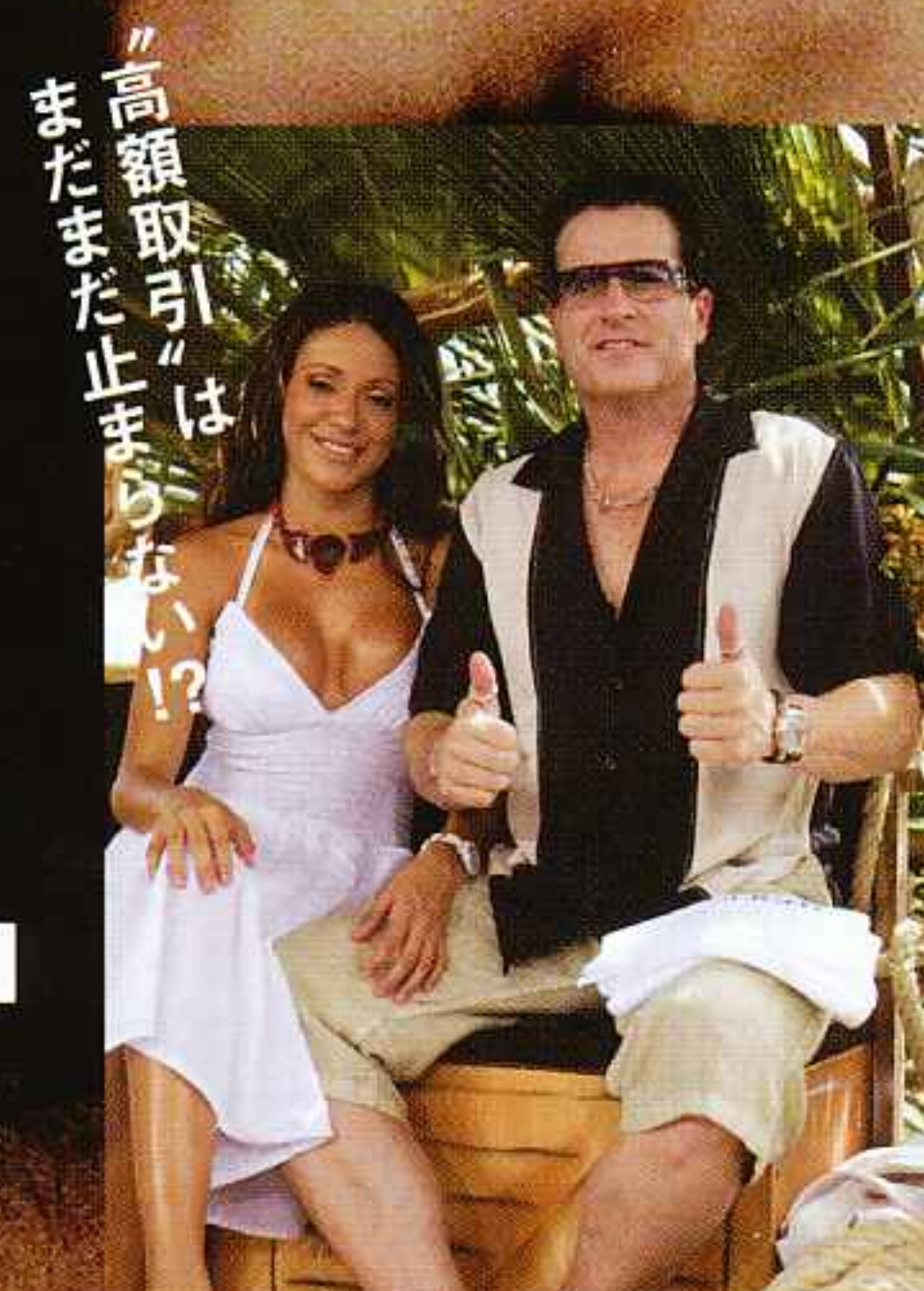
皇帝強奪

PRIDEヘビー級王者ヒョードルはどうなってしまうのか？

MMAバブルに拍車をかけまくる男

ボードッグ総帥

カルビン・エアー

聞き手／高崎計三　協力／シュウ・ヒラタ　構成／松下ミワ

〝高額取引〟はまだまだ止まらない!?

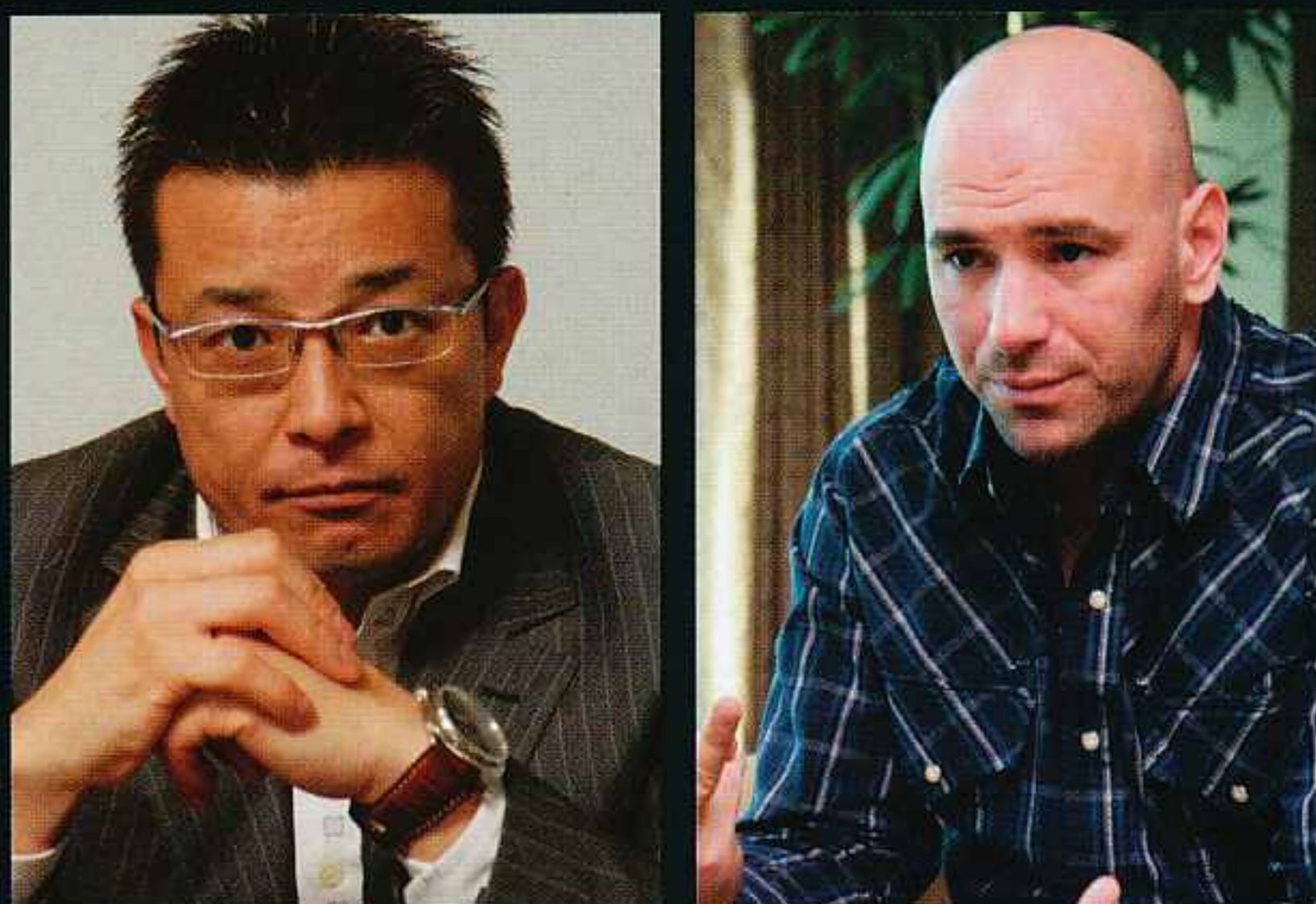
PRIDEヘビー級王者エメリヤーエンコ・ヒョードルのボードッグ登場が、いよいよ目前に迫ってきた！ ……のか？

2月14日、ボードッグ側から4・14『ボードッグ・ファイト』サンクトペテルブルグ大会へのヒョードル参戦が正式に発表されてから1ヵ月強。この情報が出た当初、『PRIDE』側は「そういった事実はない」とヒョードルのボードッグ参戦を全面否定していたが、その後、3月15日に行なわれた4・8『PRIDE・34』の対戦カード発表記者会見後で榊原DSE代表は「いま、ヒョードルの担当者がロシアに飛んで話しています。1週間ほどで結論が出るんじゃないでしょうか」とコメントし、現段階ではDSE側から整理された情報は発表されていない。

一方、ボードッグ側はというと、オフィシャルHP上ではすでにヒョードルvsマット・リンドランドの煽り映像がバンバン流されており、なぜかそこにはデニス・カーンがヒョードルの強さについてコメントしている映像まで流されている。さらに、この大会にはヒョードルの弟アレキサンダー、同じくレッドデビルのローマン・ゼンツォフ、アンドレイ・シモノフの参戦も予定されており、レッドデビルとボードッグの協力体制がもろに浮かび上がっている。

とにもかくにも、『PRIDE』の権利がDSEから離れたいま、最も気になるのはヒョードルの今後であるが……。皇帝強奪に成功した（？）ボードッグ総帥カルビン・エアーは、〝迷える皇帝〟をどうしようというのか？ いまだ得体の知れない〝黒幕〟の言葉から探るべし！

2月中旬にコスタリカにて『ボードッグ・ファイト・シーズン3』『――シーズン4』の撮影＆大会が行なわれると聞いた『kamipro』編集部は、これを機にボードッグの実態を徹底的に調査すべく、現地に特派員を派遣！その模様は『kamiproSpecial 2007 SPRING』にて全16ページにわたりお伝えしているが、ボードッグ潜入取材の一つのテーマであった「（一部で影武者説もささやかれていた）カルビン・エアーの存在を確かめる」という任務を、特派員は見事達成！ さらに最終目的であるインタビューは、滞在最終日になってようやく実現した。

格闘技にこれだけパワフルな企業が関わってる興行なんてなかったろう？

UFCや『PRIDE』に対して、「ライバルだなんて、光栄だなあ～」と若大将のようにさわやかに言って退けるカルビンさま。この眼光鋭い二人の前で余裕の高笑いとは……。億万長者の脳ミソの中は知れば知るほど不気味である。

――ミスター・カルビン！ やっと直にお会いすることができて感動しています！

カルビン コニチハ（日本語でさわやかに）。コスタリカまでよく来てくれたね。日本からわざわざ来てるんだから、心ゆくまで満喫してよ。

――はい（笑）。さて、お聞きしたいことが山ほどあるんですが、まず誰もが驚いているのは、やっぱりあなたの巨額の資産です。いったいどうしたら会社をここまでの規模に成長させられるんでしょうか？

カルビン 勤勉さと謙虚さが大切だと教えられて育ったからね。事業家としてスタートしたときから、この二つの要素を忘れなければ、わたしの野心はいつか成功というところにたどり着くと信じていたんだ。

――意外とビジネス書に載っているようなお答えですね（笑）。もっと具体的に教えてください！

カルビン それなら、わたしが初めて手がけた事業の話をしようか。まだカナダにいた頃の話だ。大学1年目の夏だったかな。中古の5トントラックを買って、地元の畑を回っていろんなフルーツを積んで、それをいろんな町に立ち寄って売りさばいた。そうやってわたしの初めての事業が確立されたというわけさ。

――聞けば聞くほど、松下幸之助あたりの成功物語のようですね（笑）。では、ボードッグという会社は、なぜここまで成功したのでしょう？

カルビン ボードッグ・エンターテインメントはデジタル・エンターテインメントの多角経営事業だからね。テレビ制作部門（ボードッグTV）があって、音楽レーベル（ボードッグ・ミュージック）、オンライン・マガジン（ボードッグ・ネイション）など同じプラットフォームで多くのブランド戦略を展開していくクロス・ブランディングがいいかたちで進んでいるんだよ。

――インターネット全盛の時代で、そうした分野での成功は理解できる気がするんですが、一見関係のないMMAを新しい事業として選んだのは？

カルビン ボードッグはデジタル・エンターテインメント会社として、スポーツ業界に非常に興味があるんだ。ボードッグというブランド名がどんどん世間に浸透していくにあたって、さまざまなマーケットにおいてブランド戦略をしていかなくてはいけないからね。

――要するに、ボードッグのプロスポーツ業界参入の第一歩がMMAだということですか？

カルビン わたしはもうずいぶん前からMMAのファンでね。そのMMAがもの凄い勢いで成長しているから、いまこそ参入するにはパーフェクトなタイミングだと思ったのさ。いまのところボードッグのクライアントからの評判はいいし、MMA業界全体のボードッグに対する評価もかなりいいからね。MMAという急成長中のプロスポーツをただ単にサポートしているだけでな

これぞ超バブリー集団の成せる業

ボードッグとんでも小ネタ集

1大会で32試合！

2月のコスタリカ・ロケでは2シーズン（16週）ぶん、32試合が3日かけて行なわれた！ 3日とはいえ、全選手を一度に集めるわけだからこれは実質1大会。アマチュアならともかくトップクラスの選手も多数出場する大会で、この試合数は異常！

アントニオ猪木vsマサ斎藤再び？ 観客は完全ゼロ！

テレビ収録の試合は、基本的に観客を入れずに行なわれる。試合を観ているのは収録スタッフ、カルビンさまとボードッグ・ガールズ、ジャッジとセコンドらのみ。日本人選手たちは口々に「アマチュアの試合みたいなモンだな」と話していた。

大会総予算なんと10億円！

1週ぶんの番組制作予算は、一説によると5000～6000万円。これが16週ぶんあるわけだから、1回のロケの総予算は約10億円にも上る！ 観客がいないということは入場料収入などはないわけで、この金額はまるまる出ていくのみ！

選手の食費は全部負担

ロケに参加する選手たちは、インタビュー収録などもあるため2週間近くロケ地に拘束される。そのあいだ、宿泊費はもちろん、すべての食事とバーでのアルコールを含む飲みもの、全部の面倒をボードッグが見てくれる。特注のものを望まない限り、まるっきりお世話になってしまえるのだ！

打ち上げパーティはもはやどんちゃん騒ぎ！

長期間にわたる収録と試合を終えると、最終日には盛大な打ち上げパーティが待っている。もちろん、費用はボードッグ持ち！ 料理や飲みものが豪華なだけでなく、ムフフな演出も多数用意されているらしい。選手もスタッフも飲めや歌えのどんちゃん騒ぎで、会場は収拾つかない場合も。

ファン投票1位に賞金600万円

ネットでのファン投票で、各シーズンのMVPを決める「ボードッグ・ファイト・チャンプ」。これで1位を獲るとなんと賞金5万ドル（約600万円）！ 『シーズン1』ではチェール・シェノンが獲得した

くて、ボードッグ・エンターテイメントだからこそ、このスポーツを次のもっと高いレベルまで引き上げることができると思うんだ。

――それでは一人のMMAファンとして、いまのMMA業界をどのように思いますか？

カルビン　格闘技として、このMMAというユニークなスポーツが世間一般に認知されてきた素晴らしい時代だと思うよ。MMAが「不法な血闘」のように扱われていた頃から、色あざやかなプロモーションに押されてメインストリームのテレビに登場するプロスポーツという地位に駆け登るまで、ファンは見てきたわけだからね。

――では、ボードッグの経営者としてはいかがでしょう？

カルビン　いままでのMMAプロモーションは孤立無援に近い状態で運営してきたケースが多いと思うんだ。しかし、『ボードッグ・ファイト』はこのMMAというプロスポーツを次のレベルに引き上げることを目標の一つとしている。これだけパワフルな関連企業が携わっているプロモーションなんてこれまでなかっただろう？　MMAという地図の上に『ボードッグ・ファイト』という新しいテリトリーを確立する。それがファンや選手にとって最高の舞台になるんだよ。

――うーん、なかなか抽象的なお答えですね（笑）。では、この競争の激しいMMAの世界で生き残るには、何が必要だと思いますか？

カルビン　我々はMMAの世界では新しい団体だけど、『ボードッグ・ファイト』はプロデューサー、マッチメイカーからプレス担当まで最高のチームを揃えているからね。さらには『ボードッグ・ファイト』の大きな財産の一つは、ファンたちの声に敏速に反応できることなんだ。インターネットというツールがそれを可能にしているんだ。良いこと、悪いこと、醜いこと、ファンの声を把握してすぐに対応できる、これは大きなプラスだよ。

――それはファンの声がしっかりと反映される団体という意味ですか？

カルビン　試合がよかったとか、プロダクションが超A級だと言われるのはとても嬉しいさ。でもね、一番大切なのはファンの批判をしっかりとハートで受け止めて、それをちゃんと解読し、いい方向に常に改善、向上を繰り返していくことなんだ。

――ところで、ボードッグはすでに次のPPV大会でのエメリヤーエンコ・ヒョードル参戦を発表しています。もうMMA業界では、それこそ世界最大のニュースだと思うんですが。

カルビン　（満足顔で）サンキュー。今度のPPVは、最高のスタッフたちがこれまで頑張ってきたすべての集大成のようなものになるよ。『ボードッグ・ファイト』はMFC、M―1、そしてレッドデビルと確固たる関係を持っているからね。そういった組織と仕事ができる素晴らしい機会でもあるし、サンクトペテルブルグからの全北米へのPPV大会なんてなかなかやれることではないからね。そしてエメリヤーエンコ・ヒョードルといえば間違いなく世界で一番だ。だからヒョードルvsマット・リンドランドという試合が組めたことには満足しているんだ。

――でも、そのマッチメイクについて疑問の声が上がっていることも確かです。ヒョードルとリンドランドでは、そもそも階級が違いますよね。リンドランドは、UFCではミドル級で闘っていた選手ですから。

カルビン　そういう意見が出ていることは知っている。ヒョードルというお客さまを我々がお迎えするにあたって、楽に勝ってもらうために体重の軽い相手を当ててるんだろう、と。でもそれは間違いだ。現に、リンドランドはこう言っているよ。「すべての試合は60パーセントがメンタルで、技術や体力は40パーセント」。リンドランドはメンタル面ではすでに準備万端らしい。

――ではこの対戦を組んだあなたのほうでも内容には自信がある、と。そのロシア大会のあとは、『ボードッグ・ファイト』はどのようなスケジュールになっているんでしょうか？

カルビン　まぁ、今回のコスタリカでは、全米ネットのアイオン・ネットワークで毎週オンエアされているテレビ番組『ボードッグ・ファイト・シーズン3』と『――シーズン4』の試合の収録をしたんだけど、これは4月と6月から、それぞれ放送が始まる予定だ。すでに今年はシーズン5～10まで決定しているから、このままボードッグスタイルで突き進んでいくよ（笑）。もちろんこのすべてのシーズンは世界のどこかのエキゾチックなロケーションで行なわれるんだ。このテレビ番組『ボードッグ・ファイト』と並行して、PPV大会も継続していく。4月14日はヒョードル対リンドランド。そしてその次の18ヵ月のあいだにPPV大

ほしい選手？　まあ、いますぐ思い浮かぶのはデニス・カーンだな

"大奥"のように、次々と"姫君"を招集するボードッグ。ヒョードルを強奪したボードッグが次に狙うのはデニス・カーンか？　それともジョシュ・バーネットか？

が、大組織票の成果というウワサあり!?

勝敗言ったら罰金600万円！
PPV以外の試合はテレビ収録のため、関係者はもちろん選手本人も、オンエアまでは試合結果を口外してはならない。全員が守秘義務契約書にサインさせられ、これを破ったらなんと罰金5万ドル（約600万円）！　罰金のぶんを、投票1位の賞金で埋め合わせる選手が出てきたりして。

シーズン勝者はもれなくPPV大会出場！　だが……
各シーズンの試合の勝者は、そのシーズン後に開催されるPPV大会に出場できる仕組みになっている。だが、試合によってはオンエアされるのが実際の試合の半年後になる可能性もあるため、本人も忘れた頃にPPV出場のオファーが来る可能性も。

カルビン・エアーさまの総資産価値1150億円！
オンライン・カジノを本業に、各方面に事業を拡大しているボードッグ・グループの総帥・カルビン・エアーさまは「ビリオネア」、つまり10億ドル以上の個人資産を持っていると言われる。日本円にすると1150億円以上！

選手にはグッズ全部支給！
ボードッグの大会に出場が決まった選手には、ボードッグ・グッズが詰まった段ボール箱が送られてくる。中身はバッグ、Tシャツ、スパッツ、タオル、スクイーズボトルなどなど。選手たちの多くがロゴ入りグッズを身に着けているのは、無料で支給されるからなのだ。

選手の家族までVIP優遇！
コスタリカでの収録では、一人1泊○万円のリゾートホテルに家族を連れてきていた選手も何人か。家族については、ボードッグが半額出してくれるのだ。そりゃあ、ヨメさんや子どもも連れてくるわな。

放送翌日には全世界無料配信！
テレビシリーズ『ボードッグ・ファイト』はケーブルテレビでオンエアされると、翌日には彼らのオフィシャルサイト（bodogfight.com）でダウンロードできるようになる。もちろん世界中からアクセス可能で、しかも無料！

PPV大会も太っ腹の無料放送！
12月にカナダ・バンクーバーで収録された第1回PPV大会。ネットでもクレジッ

皇帝

会はもちろん、全米生中継の大会も予定しているよ。ボードッグは停滞することはないんだ。

――18ヵ月とは、考えるスケールもデカイ（笑）。とにかく突き進むということですね。それでは、その過程の中で、当然ほしい選手というのがいると思うんですが、具体的に選手の名前を挙げていただけますか?

カルビン う〜ん。それに答えるのは難しいんだよ（笑）。だって世界中には才能もあり、そしてエンターテイナーというレベルに達している選手がたくさんいるからね。でも誰か具体的に名前を出してほしいんだろ（笑）。

――お願いします!

カルビン まぁ、いますぐに思い浮かぶ選手といえば、デニス・カーンだな。デニスは最近ヨコハマ（06・11・5『武士道・其の十三』横浜アリーナ）でタフな試合をしてきたからね。まず準決勝でアキヒロ・ゴーノ（郷野聡寛）とフルに15分闘い、二頭筋を負傷したにも関わらず、決勝でカズオ・ミサキ（三崎和雄）と15分闘ったんだからね。結果としては判定で負けたかもしれないけど、多くのファンのハートをつかんだと思うよ。

――デニス・カーンは、今回の収録でもスペシャルゲストとして来場していますね。

カルビン だからって、ホイス・グレイシーとかジョシュ・バーネットとか、今回のゲストがすぐ『ボードッグ・ファイト』に上がるというわけではないよ（笑）。でもね、『ボードッグ・ファイト』の使命の一つは新しい才能を発掘することなんだ。今日の新人選手がもしかしたら明日のスーパースターになるかもしれないからね。これからMMAがメジャースポーツになればなるほど、新しい才能にスポットライトが当たる機会が増えるということだよ。だから発展途上の選手たちにとって、本当にいい時代だと思うんだ。

――さて現在、世界のMMAシーンはハッキリ言って戦争状態ですよね。その中でボードッグは、多くのファンからは既存のUFCと『PRIDE』の〝敵〟と見ています。必ずしも好意的ではないと思うんですが、それに関してはどうお考えですか?

カルビン その二つの組織がこのMMAという世界に大きく貢献したことは間違いないよ。わたしもUFCや『PRIDE』のPPVを楽しんで観ているからよくわかる。

――あ、やっぱり観てるんですね。

カルビン ただ楽しんでるわけじゃないし、イヤがらせの策を考えるためでもないよ（笑）。いま我々は、『ボードッグ・ファイト』をもっと展開していくために必要だと思える要素はどんどん取り入れていかなくてはいけないからね。彼らからは多くのものを学ばせてもらっている。〝敵〟と思われることは光栄ではあるけど、彼らのことは業界をここまでに押し上げた立役者として、充分リスペクトしているよ。

――とくに、ケンカを売りたいわけじゃない、と。

ボードッグがUFCやPRIDEの敵だって？ それは光栄だねえ

カルビン それにライバル団体と戦争みたいなことをするのは、わたしの考えではエネルギーと時間の無駄としか思えないんだ。でも健全な競争はいつでも大歓迎だよ。そういった状況は最終的には業界全体に、そしてファンや選手たちのためにもポジティブな環境を作り出すと信じているからね。

――日本市場も重視されているようですが、その中で先日パンクラスとの提携が発表されました。これにより、これからどんな動きが見られるのでしょうか?

カルビン 日本という市場は、消費者のMMAに関する知識レベルが非常に高いということは認識している。それに北米と日本といえば世界二大MMA市場だからね。ボードッグとパンクラスとお互いのブランド名を有効に使い、日本という市場での認知度を高めていきたいね。

――『ボードッグ・ファイト』の最終目標というのはなんですか?

カルビン 『ボードッグ・ファイト』というのは、進化し続けるプロジェクトなんだよ。MMA業界に参入し、認知度をもっと高めたらテレビシリーズ『ボードッグ・ファイト』をもっと拡大するつもりだし、ほかにも大規模のPPV大会、全米生中継の特別大会などいろんなプランがあるんだ。そんな『ボードッグ・ファイト』の一挙手一投足がチェックできるためにbodogFIGHT.comがあるんだよ（笑）。

――人生のモットーみたいなものがあったら教えていただけませんか?

カルビン 「ハードに仕事をする、でも遊びはもっとハードに」という哲学のもとでこれまでわたしは生きてきたんだ。この哲学が、事業家として、そしてアドレナリン・ジャンキーのわたしを支えてきたエネルギーの源だよ（笑）。でもビジネスを成功させるためには、計算されたリスク、それをしっかりと認識することだよね。それから世界各国を回り、いろんな才能を持った人たちと会うこと。これがけっこう大切なことなんだよ。……おっと、時間が来てしまったようだね。

――むむっ。それは残念!

カルビン 今度はもっとゆっくりと話そう! それでは!（と、さっそうと立ち去る）。

――いえいえ。貴重な時間を割いていただき、ありがとうございました。

【07年2月某日/コスタリカ・タンボールにて収録】

Calvin Ayre■1961年5月25日、カナダ出身。オンライン・カジノの運営で知られるボードッグ・エンターテインメント・グループの創立者。06年にはアメリカの雑誌『フォーブス』が発表する世界の個人資産番付に堂々登場するスーパーセレブ! 写真写りが素晴らしい、超グッドルッキンなおじさまだが、その裏に隠された素顔とは……!?

ト購入で観ることができたが、今年2月中旬、テレビシリーズがアイオン・ネットワークで放送開始された記念として、開始日の前日にこの大会が無料放送された。彼らのプロモーションは止まらない!

衝撃!! カルビン・エアーさまが戦車に乗ってやってくる!

『ボードッグ・ファイト・シーズン2』はロシア・サンクトペテルブルグで収録。その冒頭では、選手たちの前に突如戦車が登場、ハッチを開けて出てきたのはカルビンさま! 戦車の上から「ロシアへようこそ!」とさわやかな笑顔を見せつけるという衝撃の演出が待っていた! 大神源太もビックリ!?

通行人もビックリ!! 路上でいきなり試合開始!?

番組の宣伝のために行なわれるのが「レッドライト・ファイト」。これはリングを乗せたトレーラーがいきなり街頭に現われ、ファイター二人がその場で試合を始めてしまうもの。デモンストレーションではあるが、こんなバカなアイデアも本当に実現させてしまうところがボードッグ!

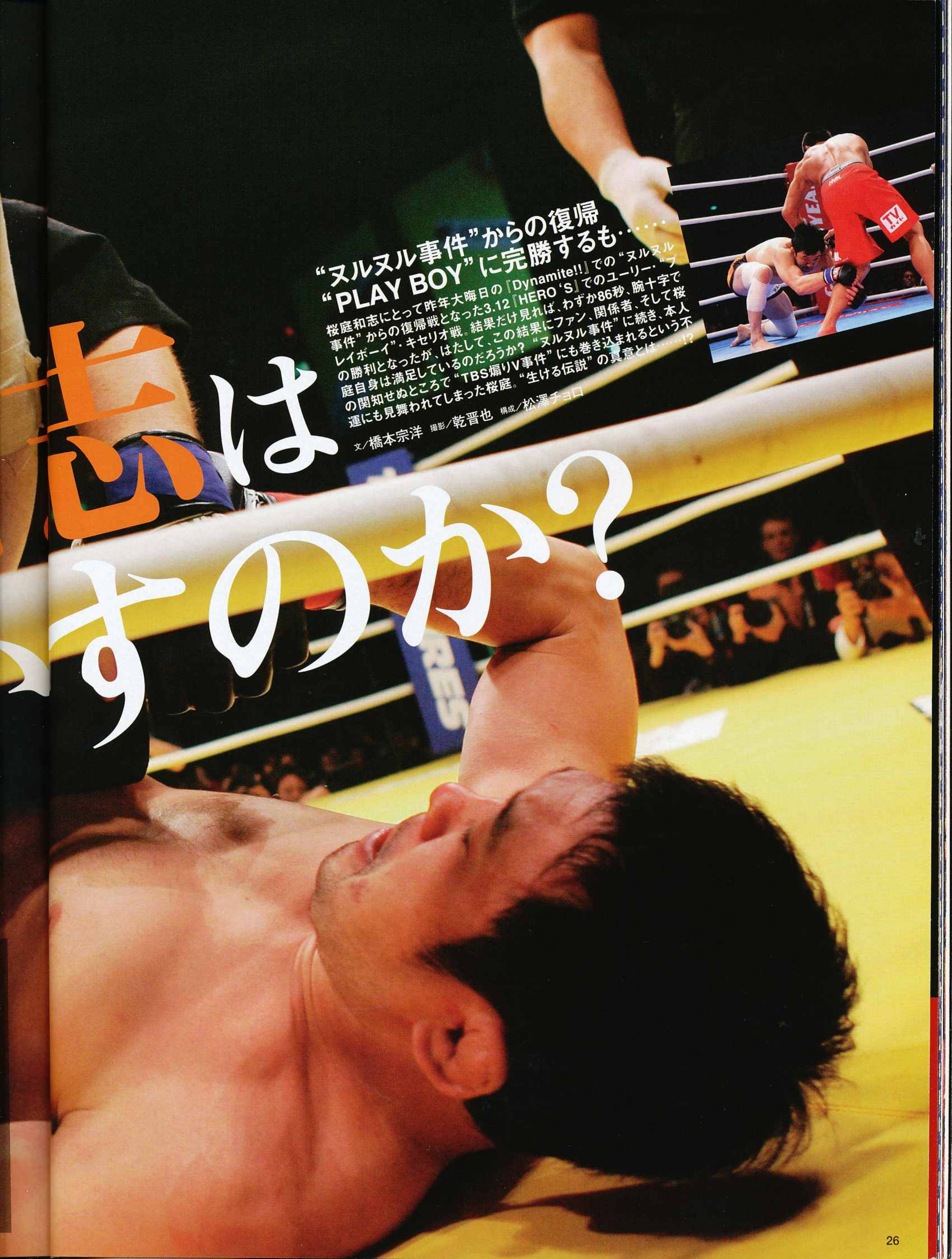
解説陣も世界クラスが勢揃い!

テレビシリーズ、PPVとも、リングサイドでの解説陣、スペシャルゲストも世界トップクラスのファイターが揃っている。ジョシュ・バーネット、ホイス・グレイシー、フィル・バローニ、デニス・カーンらが一堂に会した様は壮観!

オー・マイ・ゴット! 小芝居はもうヤメ!?

『シーズン1』であまりにも評判が悪かったのが、傘下の音楽レーベル所属のパンク歌手ビフ・ネイキッドとカルビンさまのやり取りのシーン。「カルビン、こんなファイターを見つけたわよ」「おおっ、どんな選手だい?」といったスキットは、その後はカット。これがファンの声を取り入れた成果!?

ボードッグ・ガールズと選手が綱引き合戦!?

番組内でインサートされるミニコーナー「ノウ・ユア・ムーブス」。これは選手がボードッグ・ガールズに総合の技を教えてあげるというものなのだが、これがまた激ユル! 仕上げは選手とガールズによる綱引き合戦……って、いいのかこれで!?

志は

すのか？

“ヌルヌル事件”からの復帰“PLAY BOY”に完勝するも……

桜庭和志にとって昨年大晦日の『Dynamite!!』での“ヌルヌル事件”からの復帰戦となった3.12『HERO'S』でのユーリー・“プレイボーイ”・キセリオ戦。結果だけ見れば、わずか86秒、腕十字での勝利となったが、はたして、この結果にファン、関係者、そして桜庭自身は満足しているのだろうか？ “ヌルヌル事件”に続き、本人の関知せぬところで“TBS煽りV事件”にも巻き込まれるという不運にも見舞われてしまった桜庭。“生ける伝説”の真意とは……!?

文／橋本宗洋　撮影／乾晋也　構成／松澤チョロ

HERO'S 2007開幕戦
～名古屋初上陸～
3.12 名古屋市総合体育館レインボーホール

"生ける伝説"

桜庭和志

何を咲か

3月12日の『HERO'S』で桜庭和志はユーリー・"プレイボーイ"・キセリオと闘い、1ラウンド1分26秒、腕ひしぎ十字固めで一本勝ちを収めた。ゴング直後にタックルでテイクダウンし、パスガードして十字→三角→十字というコンビネーションは鮮やかなもので、完勝といっていい試合である。グラウンドでパンチを食らう場面もあったのだが、そこでムキになることなく落ち着いてフィニッシュにもっていけたのは、親友でありセコンドにもついた下柳剛（阪神タイガース）の「俺たちは落ち着いていかなきゃダメだよな」という助言があったからだという。そういう面では変化、成長がうかがえる試合だったと言っていいのかもしれない。

だが、正直に言えば試合を見終わって筆者が最も感じたのは"カタルシスのなさ"だった。桜庭にとって、今回は約7カ月ぶりの勝利である。『HERO'S』登場以来、ケスタティス・スミルノヴァス戦ではパウンドでKO寸前になり、練習中に病院に運ばれ、ライトヘビー級トーナメントは途中欠場。大晦日の秋山成勲戦では"オイルショック事件"の"被害者"となり、正式裁定こそ無効試合になったもののボコボコにされる姿をさらしてしまった。かなり長いあいだ、我々は桜庭の桜庭らしい試合を観ることができていなかったのだ。そう考えたら、今回のキセリオ戦は重要な"復帰戦"であり、その勝利に溜飲を下げてもよかったはずだ。なのに、そうはならなかった。

〝生ける伝説〟

桜庭和志は何を咲かすのか?

そう思ったのは筆者だけではないようだ。『kamiproHand』でのアンケート（30ページ参照）において、桜庭vsキセリオ戦の感想で最も票が集まったのは〝もの足りない〟という項目だった。〝かなり満足〟と答えたユーザーは、全体の2割に満たない。会場では試合後の桜庭に温かい拍手が送られてはいたのだが、それもカタルシスを感じさせてくれるほどのものではなかった。

いったいなぜ、そうなってしまったのだろう。舞台設定が悪かったわけでは決してないと思う。桜庭のコアなファンが集まるには首都圏の興行じゃなければいけないとか、メインイベントじゃなかったからとか、そんなことは重要な要素ではないはずだ。対戦相手が無名だからというのも、何か違うような気がする。そもそも復帰戦というのはそういうものであって、相手に名前があるかどうか、強いか弱いか以上に〝桜庭自身がどうだったか〟が問われる試合のはずなのだ。だから主催者側に問題があるとか、マッチメイクが失敗したということではない。

むしろ〝桜庭自身がどうだったか〟に注目すればするほど、この試合に満足できなくなるのである。レフェリーストップでもおかしくないような状況まで追い込まれたスミルノヴァス戦は、苦戦だったからこそ〝勝った〟という事実がハッピーエンド感を生み出した。『HERO'S』第一戦という〝テーマ〟が〝内容〟を覆い隠してしまった部分も否定できない。大晦日の秋山戦は、とにかく〝秋山が悪い！〟という大バッシングで埋め尽くされ、桜庭の評価に関しては棚上げのような状態になっていた。

だが、誰もが心のどこかで〝大丈夫なのか、桜庭!?〟と思っていたのではないか。そしてそういう思いが、桜庭の試合内容だけに注目が集まったキセリオ戦で浮き彫りになってしまったということだろう。試合中、テイクダウンに成功した桜庭がキセリオの下からのパンチをまともに食らう場面があった。その瞬間、背筋に冷たいものが走ったのは筆者だけではないはずだ。大晦日の秋山戦を伝える『kamipro Special』の原稿で、筆者は〝桜庭和志が桜庭和志でないことのせつなさ〟を書いた。〝オイルショック事件〟よりも、そのことのほうが我々にとっては重大なのだ、と。その気持ちはいまも変わらない。それどころか〝事件〟ではなかったキセリオ戦で、それが余計に浮かび上がったのだと思う。

もちろん、それは〝もう桜庭は限界だから引退すべきだ〟などということではない。肉体的に試合が可能な状態であるならば（そこは厳重な上にも厳重に問われなければならないが）、「試合をしたい」という桜庭を止める権利は誰にもないのだ。ただ、だからといって〝桜庭がリングに上がり続けてさえくれればそれでいい〟というわけにもいかない。それで片づけるには、桜庭和志という存在は大きすぎるし、重すぎる。

桜庭和志の〝いま〟をどう見ればいいのか、どう捉えればいいのか。考えなければいけないのはそこだ。おそらく、ファンも関係者もマスコミも、誰もがいまの桜庭を捉えきれていないのである。桜庭vsキセリオ戦の〝煽りV〟がとてつもなく薄っぺらなものに見えてしまったのは、きっとそのためだ。

秋山戦でファンからの評価を失墜させてしまった桜庭が、もう一度ファンを喜

【煽りV事件とは？】12日にTBS系で放送された『HERO'S』の桜庭の煽り映像で「2ちゃんねる」激似の掲示板の映像が映し出され、秋山戦後、桜庭へ対する失望と批判の書き込みがあったと紹介。放送後、この映像はねつ造ではないかというツッコミが入ると、TBS側は「（ねつ造ではなく）イメージ映像として作製したが、その表記が抜けていた」と主張。

○桜庭和志vsユーリー・“プレイボーイ”・キセリオ×
（1R 1分26秒 腕ひしぎ十字固め）

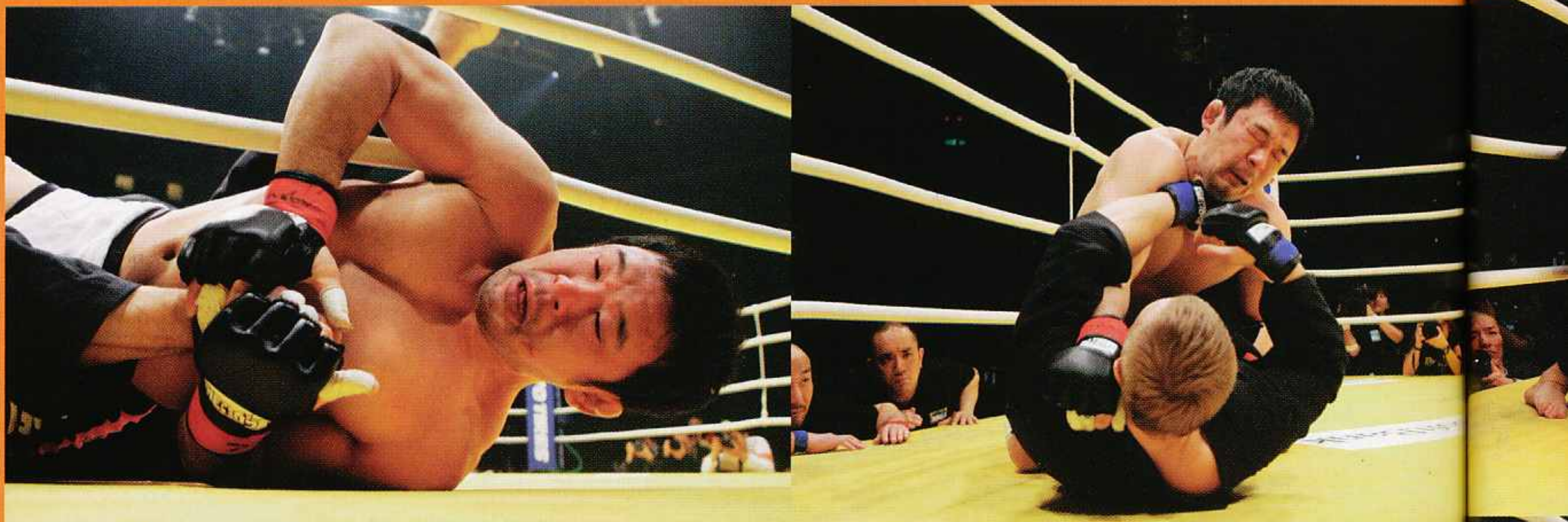
“ヌルヌル事件”からの復帰戦なる今回のキセリオ戦、桜庭はキャリアの長いプロレスファンでなければわからないマスクド・スーパースターふうマスクで入場。体重オーバーで減点1を食らい、背中に“PLAYBOY”のロゴ入り空手衣で試合に臨んだキセリオに対し、桜庭は得意のタックルであっさりとテイクダウンに成功。その後、キセリオの下からのパンチの連打でヒヤリとさせるシーンもあったが、最後は三角絞めから腕十字のコンビネーションで見事一本勝ち！

ばせるためにリングに上がる。そんな〝煽りV〟の切り口は、とてもじゃないが納得できるものではなかった。確かにそういう面もないわけではないだろうが、芯を突いているとは思えない。もっと極端に言えば〝桜庭のこと、真剣に考えてるのか？〟である。実際、真剣には考えていなかったんだろう。でなければ掲示板の偽造（再現？）などということをできるわけがない。

〝煽りV〟事件は、単にスタッフのミスとかダメさ加減とか、そういう問題だけではないんじゃないかと筆者は思う。誰もが桜庭のいまを捉えきれてないこと、桜庭をどう見ればいいのかに答えが出ていないという状況の象徴が〝煽りV〟事件なのだ。

「ファンを喜ばせる、おもしろい試合がしたい」

桜庭はそう言う。だが、繰り返すがそれだけでは済まされないのだ。もちろん桜庭の試合はファンを喜ばせるためのものであり、おもしろいものでなければならない。だがそれは必要条件であって充分条件ではないのだ。桜庭の笑顔やマスクを被っての入場が輝いていたのは、敵がグレイシー一族をはじめとする強豪だったからである。いや、敵が強い弱いというより、試合の〝意味づけ〟の問題だ。試合が重い意味をもっていればいるほど、ファンはそれを吹き飛ばすような桜庭の〝ニコニコ〟を楽しむこともできる。でも、我々はいまの桜庭の〝（ニコニコ）〟にどんな意味を見出せばいいんだろう。

本来、キセリオ戦には〝桜庭復活〟という大きな意味があったはず。だがそれは（〝煽りV〟事件が象徴するように）重要なものとして共有されることはなかった。誰もが桜庭和志の〝いま〟を見失なっていたことに、キセリオ戦が終わってから気づいた。いまの桜庭が抱える〝あやうさ〟ですら、この試合までは見落とされがちだったのだ。

桜庭は何を目指すのか。いま、我々が一番知りたいのはそこだ

勝利を奪った桜庭は「オブリガード！（ポルトガル語で〝ありがとう〟）本日は集まっていただきまして本当にありがとうございます。『HERO'S』はこのあとも3試合ありますんで楽しんでください」とマスクド・スーパースターばりに脇役に徹するマイクアピール。サクの次戦は、いつ、どこで、誰と？

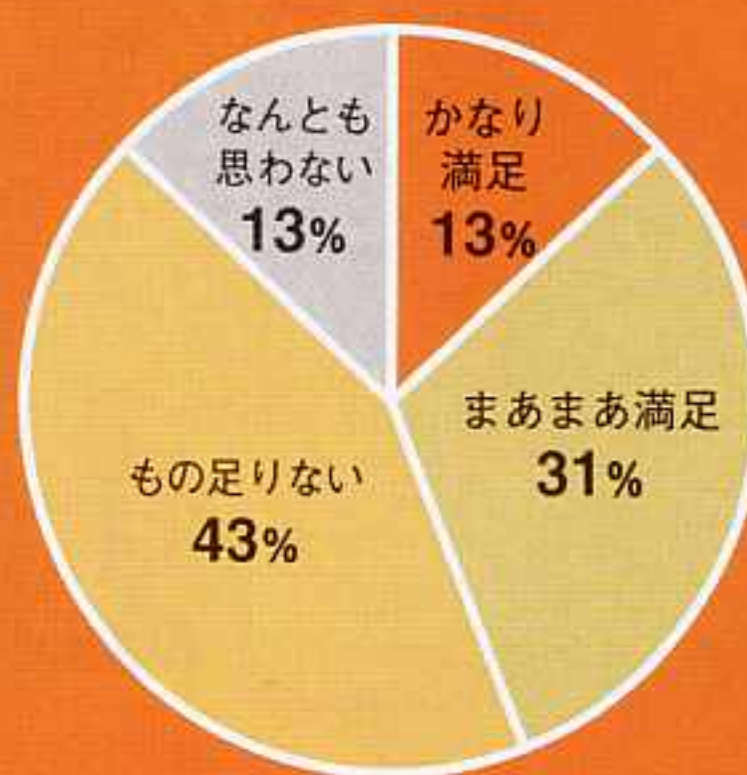
桜庭和志には、いまどんな風景が見えているのだろうか。どこを向き、何を目指して闘おうとしているのだろうか。一番知りたいのはそこだ。いや、知ろうとするだけでなく、我々もそれを考えていくべきだろう。〝秋山と再戦してボコボコにしてほしい！〟でもいいし〝トーナメントで優勝してライトヘビー級のトップに立ってほしい〟でも〝いまこそ田村潔司戦を〟でも、〝やっぱりヒクソン戦が観たい〟、〝『PRIDE』に戻ってきてほしい〟でもかまわないとさえ思う。どんな桜庭が見たいのか、桜庭に何をしてほしいのか。いまこそ、我々はそれをしっかりと考えなければならない。

“オイルショック”以来のリング登場で勝利!
kamipro Handユーザーはどう見たのか?

桜庭和志を Do Judge!!

昨年末、大論争を巻き起こした『Dynamite!!』秋山成勲戦以来の試合となった桜庭和志。いったいファンは今回の桜庭の試合をどんな目で見ていたのか。そして、ファンの望む桜庭和志の今後とは?

HERO'S2007開幕戦で勝利した桜庭和志をあなたはどう思いましたか?

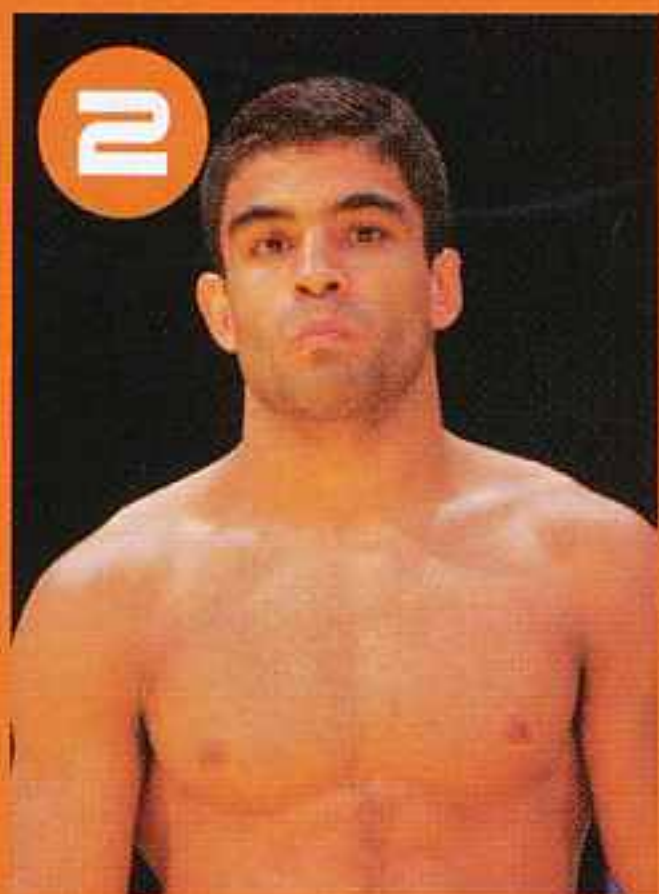
回答	割合
かなり満足	13%
まあまあ満足	31%
もの足りない	43%
なんとも思わない	13%

昨年のケスタティス・スミルノヴァス戦、秋山成勲戦と、何かと論争を巻き起こしてきた桜庭和志。今回の『HERO'S』ユーリー・“プレイボーイ”・キセリオ戦はひさびさの快勝となり、『kamipro Hand』アンケートでは「かなり満足」「まあまあ満足」の数字から、半数が満足だったという結果に。しかし、裏を返せば「もの足りない」いう意見も半数。ファンが桜庭に求めるものは、まだまだレベルが高いということなのだろうが、マッチメイク、体調も含め難しい局面も……。

今後、桜庭和志と闘ってほしいと思う選手は? ※フリー回答

1. 田村潔司 154票
2. 秋山成勲 126票
3. 柴田勝頼 98票
4. メルヴィン・マヌーフ 42票

※そのほか、ヒクソン・グレイシー、ヴァンダレイ・シウバ、山本宜久、ダン・ヘンダーソン、船木誠勝、チャック・リデル、カーロス・ニュートン、吉田秀彦、メカマミーなど

やはりこの設問になると、出てくるのは当然“赤いパンツの頑固者”田村潔司である。『HERO'S 2007 開幕戦』では上山龍紀のセコンドで会場に姿を見せていたこともあり、何かを予感させるフシもあったが……。2位はオイルなしでの決着を望むファンの声が多数。3位は総合デビュー戦で強烈なインパクトを残した柴田となっているが、じつは、柴田の得票以上に桜庭の休養を望む声が……。非常に複雑な意見である。

HERO'S 2007開幕戦のMVPは?

1. 柴田勝頼 343票
2. ビトー・“シャオリン”・ヒベイロ 140票
3. 山本宜久 56票
4. マイティ・モー 42票
5. メルヴィン・マヌーフ
6. 桜庭和志
7. 宮田和幸
8. ベルナール・アッカ
9. アンドレ・ジダ
10. 所英男

MVPは、2位に2倍の差をつけてトップに輝いた柴田勝頼。谷川さんも「個人的によかったのはダントツ柴田くんですよお」という惚れ込みよう。船木&柴田コンビ「ARMS」の今後に期待ダーッ!2位は上山相手に圧倒的な強さを見せつけたシャオリン。今年の『HERO'S』中量級戦線はシャオリン、ジダが飛び出てくるのか!? また、セコンドに成瀬、TKを据え、柴田と対戦したヤマヨシが3位という結果も非常に感慨深い。

“通販さん@賛成です”もビックリの
オール1ラウンド一本 or KO決着!

HERO'S 2007開幕戦～名古屋初上陸～ REVIEW

驚くことに、全試合1ラウンド一本 or KO決着となった『HERO'S 2007 開幕戦～名古屋初上陸～』。注目の柴田の総合デビューに、マヌーフの“松ヤニ事件”など、今回の『HERO'S』も、盛りだくさんダー!!

柴田、総合デビューで秒殺！ 船木と「ここから出発します」!!

○柴田勝頼 vs 山本宜久×
（1R 9秒 TKO）

船木誠勝の厳しい指導を受け、初の総合を闘う柴田。TKそして成瀬をセコンドに擁したヤマヨシとの対戦だったが、なんと！ 開始9秒右フックで劇的KO!! ベテランのヤマヨシはまさかの秒殺負けとなったが、『HERO'S』オフィシャルサイトのMVP投票では、なぜか柴田を抜いてダントツ1位!!

○アンドレ・ジダ vs 高谷裕之×
（1R 3分29秒 ドクターストップ）

シュートボクセの暴れん坊・ジダが“HERO'Sの喧嘩番長”に血の洗礼！ 開始ゴング後から壮絶な打ち合いの展開となったこの試合。ジダが繰り出した強烈な右が高谷の鼻に直撃！ 高谷も持ち前の打撃で反撃するが、無念にも2度目のドクターチェックでストップに。

○宮田和幸 vs ブラックマンバ×
（1R 3分38秒 変型チョークスリーパー）

昨年、KIDに衝撃の4秒KOを喫した宮田が、ブラックマンバ相手に完勝！ 序盤、アームバーを試みた宮田。ブラックマンバはこれをなんとか凌いだが、宮田の、ガブッた状態からの変型チョークからは逃れられず。宮田はこれで中量級戦線に返り咲きか!?

○ビトー・“シャオリン”・ヒベイロ vs 上山龍紀×
（1R 1分48秒 腕ひしぎ十字固め）

過去にヨアキム・ハンセンや川尻達也らをも下している元修斗世界ウェルター級王者のシャオリンが本領発揮！ 片足タックルで上山をなんなくテイクダウンすると、あっという間に腕を取り、一本!! 圧倒的な強さを見せつけた。ちなみに、この日、上山のセコンドには田村潔司が！

○所英男 vs 安廣一哉×
（1R 3分00秒 腕ひしぎ十字固め）

所が地元に近い名古屋で堂々メインに。安廣の打撃を警戒しながら間合いをとる所。その後、テイクダウンを奪うと、水を得た魚のように圧倒的なグラウンドテクニックで一本！ 試合後は、リング上で「前田さん、結婚おめでとうございます！」と祝福のマイクを取ったが、なぜかテレビでは放送されず……。

○宇野薫 vs アリ・イブラヒム×
（1R 1分59秒 腕ひしぎ十字固め）

昨年のミドル級トーナメント準優勝の宇野が、17歳でエジプトの柔道五輪代表に選ばれたことのあるエリート選手アリ・イブラヒム相手に鮮やかに一本勝利。腕をつかまれたアリは宇野にバスターをお見舞いしたが、それでも腕を離さない宇野が執念で勝利をものにした。

○ベルナール・アッカ vs シン・ヒョンピョ×
（1R 1分11秒 TKO）

FEG興行に新たな芸能人ファイター誕生！ お笑いコンビ『塩コショー』のアッカが右アッパーでTKO勝利という鮮烈の総合デビューをはたした。試合後、アッカは相方のレックス・ジョーンズと漫談を行なったのだが、残念ながらその様子は放送されなかった。

○メルヴィン・マヌーフ vs 高橋義生×
（1R 2分36秒 TKO）

“オイルショック”後、チェック体制がより厳重になったにも関わらず、なんとマヌーフはそれをかいくぐり、足の裏に塗布物を塗ったまま、まさかのリングイン。もちろん、リング上で無事拭き取られ、減点1が宣せられたのだが……。さらなるチェック強化が望まれる!!

“松ヤニ”で減点1を食らうも、マヌーフ、大暴れでTKO勝利！

○ゲーリー・グッドリッジ vs ヤン・“ザ・ジャイアント”・ノルキヤ×
（1R 3分00秒 TKO）

序盤、絶好調だったノルキア。ゲーリーをコーナーに追いつめると手を休めずパンチを繰り出すが、途中で力を使い果たしてしまったのか、ゲーリーに反撃をくらい、まさかのTKO負けに。対するゲーリーは41歳で、輝かしい勝利をあげた。

○マイティ・モー vs キム・ミンス×
（1R 2分37秒 TKO）

1週間前にチェ・ホンマンから初のKOを奪ったばかりのマイティ・モーが、得意のサモアンフックをブンブン振り回し、キム・ミンスを圧倒！ ちなみに谷川さんは試合後「彼は総合の選手だったみたいですねえ～」とのんきなコメントを残している。

バカサバイバーの
血に迫る親子対談!!

息子を泣かせて、
そして黙らせる
マシンガントーク炸裂ッ!!

青木真也パパ 正さん(材木業)

絶句気味の合いの手 青木真也さん(格闘業)

5月にグランプリ開幕戦を控える『PRIDE』ライト級戦線! いま一番ホットな戦場で最も期待されている男、青木真也の実家に潜入するためはるばる静岡へ!!「気が違えていらっしゃる」(by青木真也)というバカサバイバーの血にググイと迫ってみました!

聞き手／ジャン斉藤　試合写真／菊池茂夫

この親にして、この子あり!!……なのか？ 2月1日、2・17修斗パシフィコ横浜大会で修斗世界ミドル級王座の防衛戦を控えた青木真也が煽りVの撮影のため、実家の静岡に帰郷することを聞きつけた本誌は、図々しくもご一緒させていただくことに。

撮影の合い間のこぼれ話でも適当にまとめればいいや！　と気楽な旅のつもりでいたのだが、実家に到着早々、青木のお父さんはしゃべる気満々、吉田照美もビックリのやる気満々！　予定にはなかった本誌の親子対談がいきなり幕を開けた!!

息子のことは2ちゃんねるとかネットで情報収集しましてね

——じつはですね、『ｋａｍｉｐｒｏ』１０７号にお父さんのことを載せているんですよ。昨年の『ＰＲＩＤＥ男祭り』であのヨアキム・ハンセンに圧勝した青木さんが、退場ゲートで泣きながらお父さんと握手している写真なんですけどね。

パパ　はいはい。知ってますよぉ。

——ご覧になった感想はどうでしょう？　息子さんの活躍を含めてですけど。

パパ　とにかく驚いたねえ。わたし、ウチの兄貴と横顔がそっくりでな！

——あのですね、ボクが聞きたいのは、お父さんのお兄さんじゃなくて、息子さんのことなんです（笑）。

パパ　ああ、そう。……う～ん。どういうふうにして答えたらいいのかなあ、それは。

青木　普通にほめてよ（笑）。

パパ　う～ん……。

——そんなに難しい質問でもないでしょう（笑）。お父さんは、格闘技にかなり詳しいって聞いてますけど。

パパ　まあね！（キッパリ）。

青木　そ、即答かよ（苦笑）。

パパ　（無視して）この子が柔道をやってたときも、基本的に柔道シロウトだったんですよ。でも、たくさん勉強して、市内の柔道家くらいの知識を持ったんですけどね。いまは総合格闘技、勉強中です！

——それはじつに頼もしい（笑）。

パパ　総合格闘技もけっこうなレベルになってると思うんですけどね～。でも、ちょっとね、まだわからない部分がたくさんあるもんですから。

青木　あったりまえだって！

パパ　（無視して）だから、インターネットでも情報収集しましてね。

——ほう（笑）。じゃあ、「青木真也」で検索したりとか？

パパ　してますよ、やっぱりね！

——ああ、やっぱりしますよね、そりゃあ。どんどんやりましょう（笑）。

パパ　うん。2ちゃんねるとか、いろいろね！

——あ、そんなところまで（笑）。どうですか、2ちゃんでの息子さんの評判は？

パパ　けっこうスゲェこと、書いてありますもんね。おもしれえこと書いてやがんな！って。

——でも、ああいうところって基本的に悪口が主体じゃないですか。息子さんが悪く書かれてることは気になりませんか？

青木　そうそう。自分で見てもガックリくるよ～。

パパ　あ、そう？　俺は笑っちゃうよね、ホントさあ!!

青木　……マジかよ！（絶句気味に）。

——息子さんことなのに（笑）。どうせだったら、息子さんを応援する書き込みでもしましょうよ。

パパ　それがねえ、（書き込むのが）遅いんですよ。それに、そういうことはしないほうがいいかもしんないね。

青木　まあ、あれは見るもんですからね。

パパ　だけど不思議なもんで、悪口も書かれねえとなんだか寂しいよね？

青木　ぜっんぜん!!

パパ　俺は寂しいなあ。「おうおう、書かれてる、書かれてる！　こりゃあおもしれえ」なんつってさ。

——まあ、悪口が人気と比例するところもありますもんね。

パパ　うん。それに俺は人の悪口が大好きだからね!!

青木　大声で言うことじゃないよ！

パパ　（無視して）だから書き込みしてる連中の気持ちはよ～くわかるんですよね。よくわかる!!　でも、僕の場合は、面と向かって言っちゃうからなあ。そこらへんがマズイなか？

青木　まあ、気を違えてらっしゃるなとは思うよ（笑）。

——それでいいかげん、最初の質問に戻りたいんですけど。

パパ　なんだっけ？

——『男祭り』の話題です。まだ、お父さんがお兄さんに似ている話しか聞けてないという（笑）。

パパ　あの～、大晦日（『ＰＲＩＤＥ男祭り』）はチケットをいただいたんですよ。いつもはチケットも買って観に行くんですけ

息子を黙らせるバカサバイバー・トークを披露する青木パパ!!　静岡出身なのに江戸っ子な性格が非常に魅力的です。

どね。ウチの子が『PRIDE』にお世話になってる以上は、たとえ7000円といえどもね、やっぱ売り上げに貢献しなきゃいけないじゃん。だからもう、『kamipro』だって何冊買ったことか！

――それはありがとうございます！

パパ　フフフ！　だからそれこそ試合をどこでやるっていっても、車で走って観に行くねえ！

――やっぱり試合前は心配されます？

パパ　というか、じつは大晦日も観てない！

――は？　お父さん、会場にいらしたじゃないですか。

パパ　観てないっていうよりね、わたし、血圧が高いから心臓がバクバクしちゃったもんで。それで朝晩、血圧の薬を飲んでるんです。でも、大晦日のときに飲むのを忘れてましてね。それで試合でコイツが寝ちゃった（寝技になった）時点でね、心臓がバクバクしまして、「これはヤバいな！　アイツはやられちゃうかもしんない。俺も一緒にここで倒れたらマンガになっちゃうよな」ってな！

――危ないですね、それは。

パパ　それでね、持ってた薬を飲んだんですよ。そしたら「カンカンカン！」なんてゴングが鳴っちゃったもんで。

――薬を飲んでるうちに終わってしまった（笑）。じゃあ、家に帰って映像で見直したんですか？

パパ　そぉーりゃもう、何十回と！

――観ますよね、何十回と。どんどん観ましょう（笑）。

パパ　柔道のときからコイツが勝った試合はビデオテープが擦り切れるくらい観てますから。な！

青木　……負けた試合も観なよ。

パパ　負けた試合は観ない！

青木　どーして!?

パパ　イメージが悪い!!（キッパリ）。

さすが柔道強化選手だけあって、実家には柔道関連グッズ、表彰状、メダルがわんさか！　そのうえ青木の部屋には、田村亮子（現・谷亮子）のポスターがデカデカと貼ってあるからたまらない。どうやら青木のストライクゾーンはかなり広めのようだ。

親バカサバイバー

柔道の連中が息子の跳び関節を「インチキ技」と批判してね

――ハハハハ！　もうお父さんが100パーセント正しい（笑）。

パパ　基本的には負けた試合は観ないね。イメージが悪くなるだけだから。

――じゃあ、青木さんがあざやかに一本を決めるシーンだけを延々と観ると？

パパ　そうそう！

青木　どんだけ親バカなんだよ（笑）。

パパ　でもね、柔道の連中は、コイツの技を批判したですよ。「跳び関節はインチキ技だ!!」って。研究した末の技を〝インチキ技〟って言われたら、やっぱ困るじゃないですか。

――困りますよねえ。腹立ちますよね。

パパ　ねえ！

青木　でも、ウチの業界ではラバーガードは〝インチキ技〟って言われないから。へへッ！

パパ　ああ、あのヘンテコな技ね。

青木　ヘンテコな技！　インチキ技よりふざけた言い方するね（笑）。

パパ　あんなの知らねえもんねえ！

――ハハハハ！　ところで、実際の親子仲はどうなんでしょう？

青木　悪くないですよ。俺が警察を辞めるときは怒り狂ってましたけどね。

――そりゃあ反対しますよ。就職したばかりなのに辞めるんだから。

パパ　そりゃあねえ……。柔道も途中でやめたようなもんで、俺からすれば「忘れものがあんじゃねえの？」っていう。警察（の柔道大会）で全国3位に入れば、そうすると講道館杯に出れるから。講道館杯で結果を出せば、強化選手に逆戻りできんじゃないか、と。

――だからオリンピックの夢のために警察に就職されたんですね。

パパ　そうそう。オリンピックが狙える位置まではいける、と。オリンピックは運だから無理かもしれないけど、そこを狙える位置までね。じゃあ警察官になってもう一回勝負をかけたらどうなんだ、と。だから〝警察官〟というのよりボクはそっちの意識のほうが強かったね。それで3年経ったら自分の好きな道に行ってもいいかなあってね。まあ、ボクは3年経ちゃあ警察の中でどっぷり浸かっちゃうと思ったから、大丈夫だろうと思ってさ。ハハハハ！

――でも、3年どころか3ヵ月で退職されて。要は修斗での実績がアマチュアの規定

2.17修斗横浜パシフィコ大会で〝難敵〟菊池昭を判定で返り討ち！　修斗世界ミドル級のタイトルの初防衛に成功した青木。一本こそは決められなかったが、その変幻自在の関節技は〝銭が取れる芸術品〟だった。

に引っかかったわけですよね。

パパ　うん。彼から「柔道の試合に出れないんだから、警察を辞める」って言われたときに、そこまでして「警官をやってろよ！」って言えなくなっちゃったよね。

青木　ま、親父からすれば、柔道をやってほしかっただろうし。大学でも柔道をやめちゃったしね、俺。

パパ　そうだねえ。そこらへんのこともあったもんだから……そういえば、お前、小学校6年のときのあれか！

青木　な、何？　いきなり。

パパ　コイツの部屋を整理してたら、作文みたいのが出てきたんですよ。それに書いてあることが凄かった。題名は「勝負について」!!

――「勝負について」！　小学生らしからぬ作文だ（笑）。

パパ　うんうん。小学校6年とは思えないほど、ビックリするようないいことを書いてあった。いわゆる勝負論ってやつをね。だけどさ～、その隣にさ～、大人になったときの目標が書いてあったんだよ。

――将来は柔道家とか？

青木・パパ　（二人声を合わせて）プロレスラーになる!!

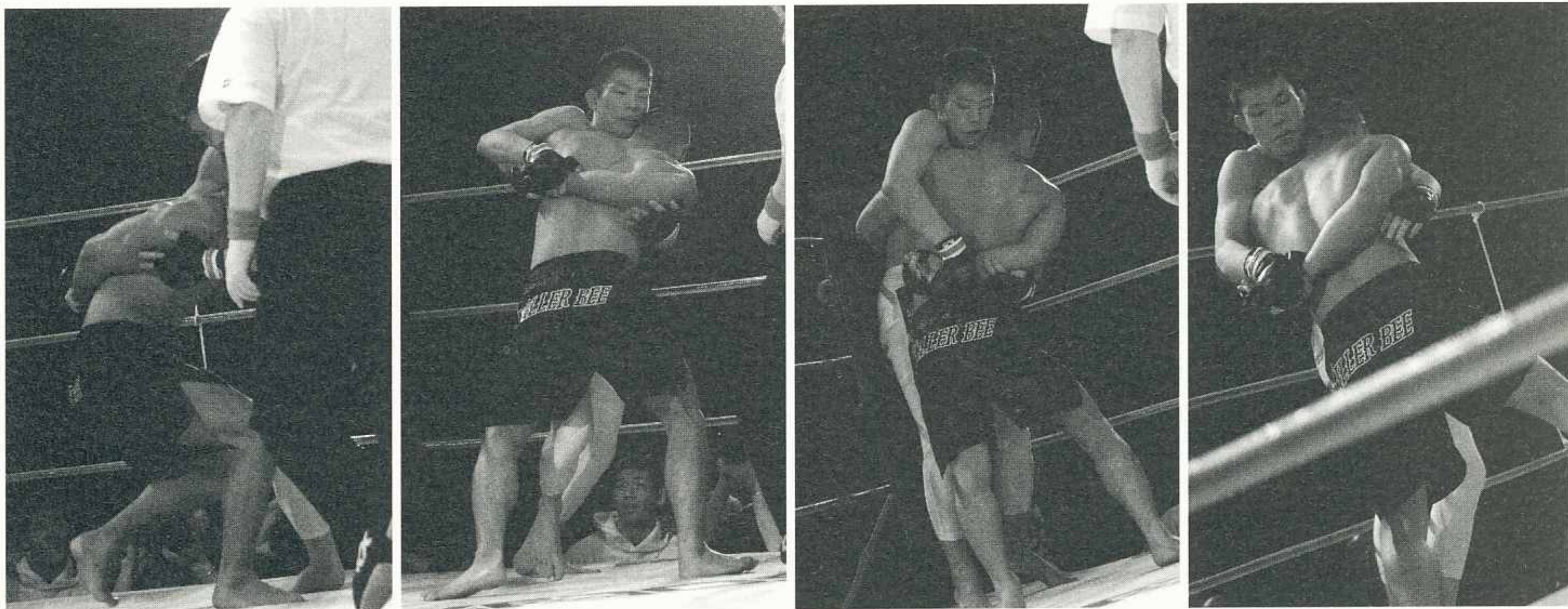
――ほほう（笑）。

パパ　（こんなにおもしろいことはないというような態度で）コイツさ、「プロレスラーになりたい」って書いてあんですよ!!　ウハハハハハハハハハッ!!

――お父さん、ちょっと笑いすぎです（笑）。

パパ　プゥロレスラーになりたい!!　うわ！　こいつ小学校6年のときにこんなこと書いてあるよ！　アハハハハハハハハハッ!!

青木　だから、笑いすぎだよっ!!

パパ　（無視して）そんな小さいときからそんなことを思ってたんですよ。じゃあ、やれるならばとことんやりなさいよ、と。

青木　でも、まだプロレスラーになれてないけどね。『ハッスル』のデビューはまだですから（笑）。今年はプロレスラーになりますよ！

パパ　いいねえ、それ！　あれでしょ、インリン様が出ちゃうやつだ。

――詳しいですね、お父さん（笑）。

パパ　まあ、コイツ、ちょっと変わってるから、なんでも好きにすれば。

青木　まあ、マトモじゃないことは確かですね。ビビリだし（笑）。

パパ　まあビビリはね、私に似たんですけどね。親って、自分のイヤなところを子に継がしたくないじゃないですか。だから自分のイヤなところみたいなのが出たときには、そういうふうにならないように仕向けたんですよ。

青木　オヤジもね、小学校の頃はよく一緒に学校へ通ったしね。クククク！

――いったい何があったんですか？

パパ　それはね、教育論というか、なんというか……。

青木　まあ、俺がワガママで適当なことばっかしてるから、一緒に小学校に通ってたんですよ（笑）。

――ハハハハ！　いったいどういうことですか、それ。

パパ　あの～、小学校の先生なんてのは、ホントいいかげんなんですよ。クラスのなかに一人違ったヤツがいるとやりにくい、と。「右を向きなさい」って言ったら、みんなが右を向いてくれないと先生は困っちゃうんですけど、ウチではそういう教育をしてないんですよ。"みんなと一緒をやるとヘタ打つぞ"と。

――はあ（笑）。

パパ　変わったところを見せて、みんなが右に行くっつったら、おまえは左へ行け！　と。それが青木家の血でもあんだけどね!!（やや興奮気味に）

――どんな血ですか、いったい（笑）。

パパ　いやいや、ウチの兄貴なんかも、みんなが右に行くなら絶対に左に行くんですよ。簡単に言うと、あまのじゃくな部分があるんですけど、すべての面で変わってんですよね。だから、他人の言うことよりも、自分がどう思ったかがそのときそのときの勝負だから。そうすると、先生は徹底的に嫌うんですよね。「この子は不良になる」とか「ヤクザになる」とかっていうことを先生に言われたよね。「そういうことを言うこと自体、アンタ、教育者としておかしいじゃないか」って、このオヤジが出てっちゃったもんで、余計な揉めごとになっただけの話でね～（笑）。

――お父さん、けっこう攻めるタイプなんですね。

パパ　そう。けっこう守りのように見えて攻めてますからね。アグレッシブに！

――それは充分わかりますね。今日が初対面ですけど（笑）。

パパ　だけど、わたしはコイツを100パーセント信用してねえですから。とくにね、女の子の揉めごとは、めんどくせえからやめてくれ！　と。

みんなが右へ行くんなら、左に行くのが青木家の血なんです！

息子とは女性の価値観が違う 僕はYOUとかが好きなんです

――青木さんも年頃なんで、そろそろお嫁さんをもらう予定はないんですか？

青木　いや～、まだないでしょ。ファイター やっているうちは。

パパ　う～～ん。こないだ女房と話をしたんだけどね、その～、できちゃった婚というやつ？　そんな計画性のねえのはやめてくれ！　と。困るよ、そりゃ!!

青木　クックックッ！　できちゃった婚はダメ？

パパ　うん。ありゃダメだ！

青木　コンドームを着けろ！　と？

パパ　うん！　着けろ!!

青木　「うん」じゃないよ!!（笑）。

パパ　まあ、彼と僕とは女性の価値観が違うから。僕はね、宮沢りえとね、神田うのとね、ＹＯＵが好きなんですよ。

――はあ。

パパ　でも、ＹＯＵは最近ケバいもんで、ちょっとアレなんですけど。

――はあ（笑）。

パパ　この人はね、全然違う。もっとオバサンくさいのが好きなんですよ。

――はあ（笑）。

青木　何言ってるんだよ！（笑）。

パパ　お前はもうちょっとおとなしいのが好きだよな。まあ、この人の優しさというのはね、いまの女の子好みの優しさじゃないから。ダメなんですよ、こういうヤツは。ハッキリ言って、女性にはモテねえでしょうね。

――お父さんはモテたんですか？

パパ　そ～りゃあね！　この人よりはねえ。

青木　フザケンナ!!（怒）。

パパ　だってさあ、コイツ、「女に金を使うのイヤだ」っつっちゃうだもん。ダメ、ダメ！

青木　だったら自分に投資したいですね。

パパ　それじゃダ～メですよ、それは。ちゃんといろいろ買ってやんなきゃあ。だけどね、金使って逃げられちゃったらしょうもねえしな。フハハハ！

青木　どっちもどっちだね。

パパ　まあ、最終的に頼りになるのは自分しかいねえっていうのは、そういうことはわかってるから。ちょっとまだいまの段階では難しいんじゃないですか、結婚というのは。女性問題は大変ですよね。こいつにはまだ無理でしょ。まだ中学生の恋愛レベルですもんね、こいつの考え方っていうのはね。

青木　え、何？　それは気持ちよければいいって？

パパ　うん。そんなもんでしょ。深く考えちゃいねえですから。それにね、この子は自分の考えっつうのはね、コロコロコロ変わってくと思うんですよ。まだしっかりしたものができている状態じゃないから、これから価値観がいろいろ変わってくると思うんですよ。

――青木さんはまだ若いですし。

パパ　いろいろやる中で自分をどうもっていくかっていう方向づけが、格闘技をやってるうちにできればラッキーじゃないかな。そのあいだに、自分が社会に対してどういうふうに力を発揮できるのかっていうのが少しでもわかれば。で、そういう方向に進めれば、それが一番ラッキーじゃないですか。

青木　まあ、俺も地道にコツコツ闘っていくよ。

パパ　俺もアンタに退職金くらいの金は残してやるからな。

青木　いらないよ、べつに（笑）。

パパ　フッハハハハ！　ほかになんかねえですか？

青木　なにが？

パパ　話さなきゃなんねえこと。

青木　まだしゃべる気かよ。話しすぎだよ、ちょっと（笑）。

――いやあ、今日は大変ご機嫌みたいですね、お父さん。

パパ　でも、飲んでねえですよ、俺！

――ええ。おもいきり知ってます（笑）。

【07年2月1日／静岡県・青木真也の実家にて収録】

どーですか!?　ヴォルク・ハンばりの立ち関節技で菊池を翻弄した青木!!　本誌は“やる側”への配慮は皆無のスタンスだから、読者の皆さんはただ驚くか、どういう技なのか勝手に調査してください!!

親バカサバイバー

あおき・しんや■1983年5月9日。静岡県出身。日本最強のグラップラー。昨年4月、一度は警察に就職するが、カムバックサーモン。入場テーマはウルフルズの『バカサバイバー』。180cm、72.8kg。
あおき・ただし■1955年、静岡県出身。日本最強の材木業（？）。息子である真也の試合には必ず駆けつける親バカサバイバー。

亀田親子の次はこのファミリーに注目!!

カート・アングルもあんぐり!?

札幌の金メダル一家 山本兄弟がプロレス&格闘技界に殴り込み宣言!!

山本パパ

山本康稀「ボクはレスリングだったら山本KIDにも勝てます!」

山本〝KID〟優樹「ボ、ボクも勝ちます!」

カート・アングルもビックリの金メダル兄弟がマット界に殴り込み! 2.17 NEO川崎大会で〝レスリング界の亀田兄弟〟と一部で話題の山本4兄弟の四男、優樹君が衝撃のプロレスデビュー。レスリング&柔道&相撲で通算約150個以上のメダルを獲得している、この4兄弟。そのうち金メダルは50個以上というから、ただごとではない。亀田ファミリーも真っ青の山本ファミリーのパパ&長男・康稀&四男・優樹を直撃!

聞き手&撮影/松澤チョロ

——今日は、これまで金メダルを50個以上獲得している山本4兄弟の長男の康稀君、四男の優樹君、そしてお父さんの敏之さんという〝金メダル一家〟山本ファミリーに集まっていただきました!

山本敏之（以下・パパ） よろしくお願いします!

——今回、女子プロレス団体のNEOが、新日本両国大会と同日にビッグマッチを開催して、新日本に初参戦した金メダリストのカート・アングルに対抗して、金メダリストの参戦を呼びかけていたところ、名乗りを挙げたのが山本ファミリーってことでいいんですよね?

パパ そうですね（笑）。

——金メダリスト募集を見て、応募したのはお父さんでいいんですか?

パパ そうです。もともとボクはプロレスとか格闘技が大好きなんですけど、子どもたちにレスリングをやらせたのもプロレスラーにするためなんですよ（笑）。

——そうなんですか（笑）。

パパ で、雑誌を見てたら、なんでもいいから金メダルを持った選手を募集してるって書いてて、これはおもしろそうだなって。ちょうど、同じ日に両国で新日がありますよね?

——ネタ的には金メダリストのカート・アングルが出るってことで、それに対抗しての募集だったみたいで。

パパ だったら、ウチの息子も金メダルは持ってるんで、ぶつけてみようかなって思ったんですよ（笑）。

——オリンピックの金メダルっていう指定はなかったですからね（笑）。

パパ そうです。それだったら、ウチはたくさんあるからいいかなって（笑）。ただ、北海道なんで遠いかなっていうのは思ったんですけど。

——確かに近くはないですよね（笑）。女子プロの団体っていうことはとくに意識はしなかったんですか?

パパ ボクは女子とかインディーに限らずプロレスは全部好きで、暇があればずっと観てますから（笑）。

——じゃあ、問題はないですね（笑）。

パパ それでですね、ウチの息子が練習してるレスリングの道場が新日本の平澤（光秀）選手のお父さんのところなんですけど、入ったときに「なぜレスリングをやらせるんですか?」って聞かれて「プロレスラーにするためです!」って答えたら「エッ!?」って言われたんですよ。

——驚かれちゃいましたか?

パパ 「ダメですか?」って聞いたら「ダメってことはないですけど」って言われて始めたんですけど、それから7年経って、まさかウチの子どもがホントにプロレスラーになるとは思わなかったって冗談で話をしてたんですよ（笑）。

——女子プロ団体とはいえ、明日、四男の優樹君はプロレスデビューするわけですからね。リングネームは山本〝KID〟優樹ってことですけど（笑）、優樹君は緊張してますか?

優樹 ううん、全然。

——頼もしいですね（笑）。

パパ 今日は予算の関係もあって（笑）、次男の晋也と三男の泰丈は来てないんですけど、兄弟の中では晋也が一番、プロレス好きなんですよ。だから、今回来れなくてガックリしてましたね。

——長男の康稀君は、レスリングを始めたのは、やっぱりお父さんに強引に勧められたからなんですか?

パパ 騙してやらせましたね（笑）。

——やっぱり（笑）。プロフィールを見るとレスリング以外にも柔道や柔術とかもやってるみたいですけど、最初はレスリングになるわけですか?

パパ そうです。当時は、まだ平澤道場はできてなくて市の体育館でやってたんですよ。そこは週1回だったので、それじゃ練習は足りないなと思って柔道もやらせたんですよ。

——立派なプロレスラーにするには週1回のレスリングの練習だけじゃ足りないと?

パパ そうですね。それで柔道を始めるんですけど、そしたら柔道の知り合いの先生から「相撲もやらないか?」って言われて、相撲の練習はしてなかったんですけど、試合に出したら勝っちゃったんですよね。

——へぇ〜、それは凄いですね。

パパ 柔術もちょっとやらせてたんですけど、僕的に柔道のほうが強いんじゃないかと思って、いまはやってないですね。

——お父さん的には、いまだにプロレスが最強っていう想いがあったりするんですか?

パパ そうですね。でも、プロレス最強説っていう意味では、総合もプロレスも経験してる選手って、中邑真輔選手とか永田裕志選手とかたくさんいますけど、みんなやられてるじゃないですか?

——残念ながらやられてますね。

パパ だけど、コイツらはやられない選手にしようと思ってますから。

プロレスラーにさせるために騙してレスリングをやらせました（パパ）

――プロレスも格闘技も両立できる選手に育てたいと?

パパ　基本はプロレスなんですけど、まあ4人もいるんで、どこに行っても通用するようにプランは練ってあるんですよ。バカみたいな話なんですけど（笑）。

――確かに、かなり親バカな感じはしますね（笑）。

パパ　完璧に親バカですね（笑）。

――お父さんは何か格闘技はやられてたんですか?

パパ　僕はやってないです。

――あ、やってないんですか（笑）。

パパ　ずっと好きなだけで（笑）。だから、この子たちを習わすようになってから初めて知ったんですよ。プロレスラーにするためには何がいいかなって、電話帳で調べたりして。

――そこから始めたんですか?（笑）。

パパ　そうなんです（笑）。プロレスラーになるんだったらレスリングがいいかなって思って調べてたら「レスリング協会」っていうのがあったんで問い合わせたら、「ちびっこレスリングやってますよ」って言うんで、子どもたちに「ちっちゃいプロレスがあるから行こうよ」って嘘を言って連れて行ったんです（笑）。

――アハハハハ!

パパ　それでレスリングをやってみたら凄く楽しかったみたいで、最初はプロレスラーになるための基礎になるかと思ってやらせてたんですけど、やらせてみたら、その競技にずっぽりとはまってしまって。

――格闘技で有名なファミリーって、亀田ファミリーを筆頭にお父さんが独自の特訓をさせているところが多いですけど……。

パパ　（さえぎって）ウチもやらせてますね。まあ、僕の場合は独自っていうか基本がわからないので、レスリングは平澤先生の指導を見てて、タックルの入り方とか教えてもらったのを、たとえば柔道が6時から練習があるとしたら、だいたい1時間ぐらい前に行って、反復練習をとにかくやらせるんですよ。

――基本が一番大事ってことですね。プロレスラーにするために食生活とかも、考えたりしてるんですか?

パパ　そうですね。ウチの子どもたちは凄い食いますよ!

――無理矢理食べさせたりもしてるわけですか?

パパ　食わせてます（笑）。

優樹　一日4食とか食べてる。

――エッ、小学2年生で一日4食?

優樹　うん。

パパ　平澤先生って、そんなに大きくないんですよ。でも、光秀君は187センチとかあるんで、平澤先生に「どうやったら大きくなるんですか?」って聞いたら「食わせればいいです」って言われて。それから、とにかく食わせるようにしてますね。単純なほうなんで（笑）。

――ほかには何かこだわってるところはあるんですか?

パパ　ウチはジュースは飲ませないです。牛乳とお茶と水だけで。それを続けると、やっぱりケガをしないんですよね。ほかの子って腕を折ったり、靭帯切ったりとかケガが多いんですけど、ウチの子どもはケガしたことないんで。

――そうなんですか。お父さんが隣にいると話しづらいのかもしれないですけど、康稀君は将来何になりたいですか?

康稀　僕はまずオリンピックで優勝してから、医者になりたいです。

――オリンピック優勝はわかりますけど、そのあとは医者になりたい?

康稀　はい。『ブラックジャック』を見て医者になりたいなって思って。

――『ブラックジャック』の影響ですか。でも、お父さんの夢としてはプロレスラーか格闘家なんですよね?

パパ　そうなんですけどね（笑）。でも、勉強もそれなりにしてますんで。なりたいって言っても努力しないとなれるもんじゃないですからね。

――プロレスラーになるのも大変だとは思いますけど、医者も簡単にはなれないですからね（笑）。

パパ　でも、たぶんウチの子どもた

見てみぃ、これが山本兄弟だ!!

山本康稀　やまもと・こうき■中学1年生。全国少年少女レスリング大会2連覇をはじめレスリング、柔道、相撲などで多数優勝。レスリング7年、柔道6年、相撲3年、柔術1年。得意技は垂直落下式背負い投げ、アンクルホールド、タックル、三角絞めなどなど。166cm、80kg。

山本晋也　やまもと・しんや■小学6年生。全国少年少女レスリング大会3連覇。北日本少年少女レスリング大会優勝4回。その他、柔道、相撲でも優勝多数。得意技は大外刈り、払い腰、首投げ、スパインバスター。尊敬するレスラーは新日本の平澤光秀。168cm、84kg。

山本泰丈　やまもと・やすひろ■小学4年生。全国少年少女レスリング大会4連覇。北日本少年レスリング大会優勝5回。平成18年度JOCジュニアオリンピックカップ相撲大会北海道ブロック優勝をはじめ優勝多数。得意技は首投げ、払い腰、大外刈り。152cm、74kg。

山本優樹　やまもと・ゆうき■小学2年生。第1、2回全国選抜チャレンジカップ優勝。今年2月17日のNEO川崎大会でプロレスデビュー。レスリング、柔道、相撲のほか、現在はボクシングも特訓中という日本最年少の総合格闘家でもある。得意技はジャーマン。126cm、30kg。

衝撃の山本"KID"優樹デビュー戦ハイライト! 2.18 NEO川崎市体育館

NEOのひさびさのビッグマッチ2.18川崎大会の第4試合で行なわれた甲田社長と、さくらえみの結婚が賭けられた7vs7イリミネーション・ロイヤルランブルに登場した山本"KID"優樹。長男の康稀と一緒にアングルのテーマ曲で入場!

康稀とともに首からたくさんの金メダルをぶら下げ自信満々な表情でリングに上がった優樹。対戦相手を得意のタックルで次々となぎ倒した優樹は趙雲子龍にアングルばりのアンクルロックを極め勝利をゲット!

デビュー戦であっさり勝利を手にした優樹は2倍以上の体重差も気にせず宮崎有妃に果敢にタックルを仕掛けていったのだったが……数分後、優樹は同世代のアイスリボンのりほと一緒にダブルで恥ずかし固めを食らってしまい脱落!

試合は"元引きこもり"真琴がタニーマウスをリング下に突き落とし、嬉しい初勝利をあげ、さくらの結婚をアシスト。優樹も笑顔で祝福していたのだったが、結局はさくらの「プロレスと結婚します」とのアピールでご破算に……。

ちは気持ち的には光秀君と組みたいんですよ。でも、新弟子からいったら無理でしょ?

──は!? それはどういう意味ですか?

パパ たとえば、大学を卒業してから新日に入団したって、年齢差もキャリアも違うし、なかなかタッグとかも組めないと思うんですよ。

──まあ、そうですよね。長男の康稀君でも10歳以上年齢差がありますからね。

パパ それだったら、オリンピックで金メダルとか獲って、スポット参戦できるようになれば、対戦もできるかもしれないし、観てても楽しくていいかなって(笑)。

──かなり夢見がちな気もしますが(笑)、お父さんの希望としては平澤選手がいる新日本プロレスに上がってもらいたいと?

パパ まあ、そうですね。

優樹 大日本じゃなくて?

パパ 大日本もおもしろいけどね(笑)。

──優樹君は、まだ小学2年生ですけど、将来は何になりたいですか?

優樹 う~んと、野球選手。

──野球選手(笑)。お父さん、二人ともプロレスラー志望じゃないですよ?

パパ おかしいなぁ。野球はやってないんですけどね(笑)。

──やってないのに(笑)。好きな野球選手は誰かいますか?

優樹 うんとね、松井(秀喜)と新庄(剛志)。

──お~、メジャー志向ですね。松井や新庄みたいな野球選手になりたいんだ?

優樹 うん。

──お父さん、大丈夫ですか?(笑)。

パパ まだ2年生ですからね。こっから洗脳していきますから(笑)。

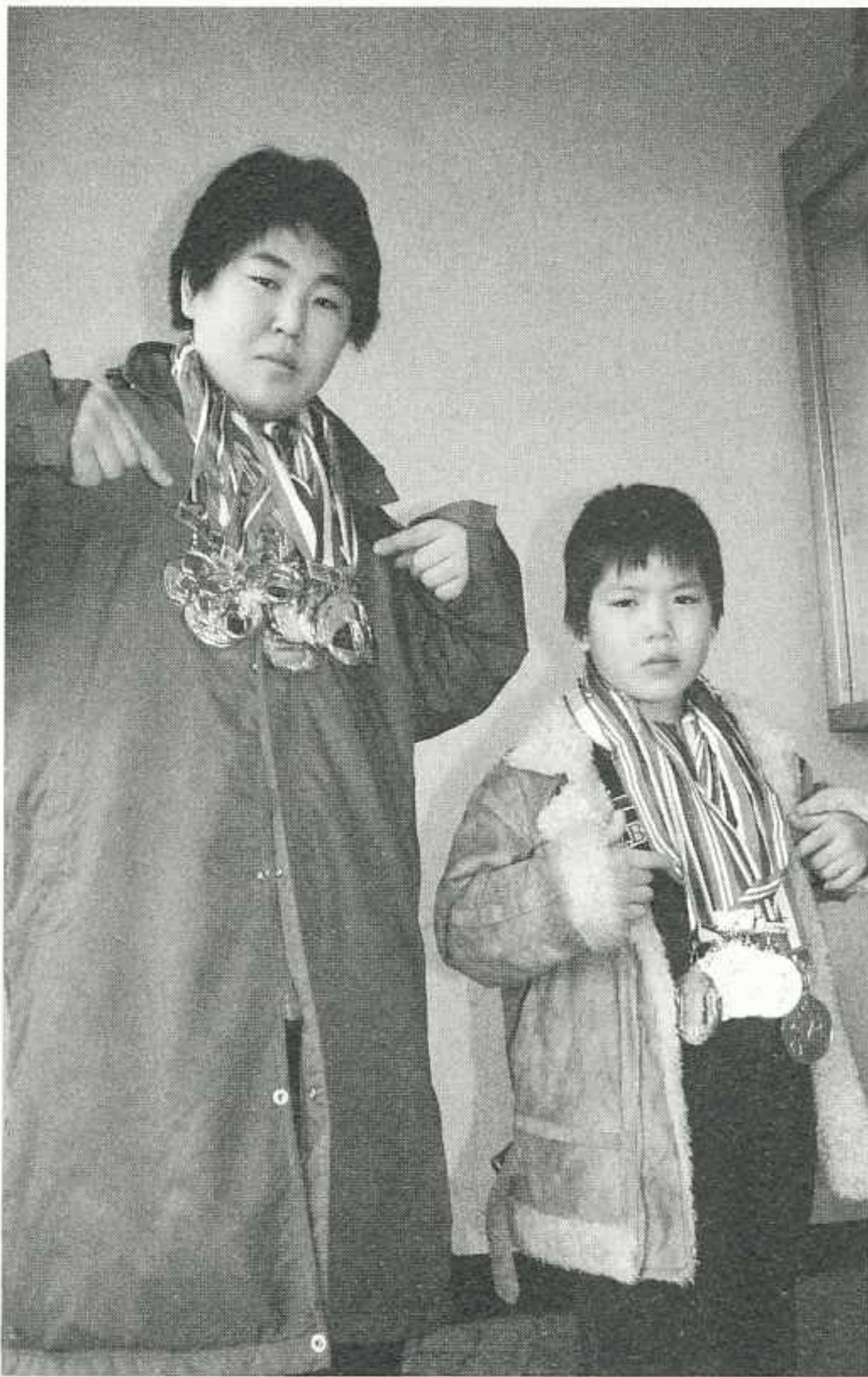
カート・アングルに負けないように頑張る!(優樹)

将来はオリンピックで優勝してから、医者になりたいです!(康稀)

──プロ野球選手になりたいという優樹君に質問ですけど、好きなプロレスラーは誰ですか?

優樹 中西学。

──どんなところが好きですか?

優樹 うんとね、中西はね、ヘラクレスカッターが好き。あとはマナバウアー。

──かなり詳しいですね(笑)。好きな団体も新日本?

優樹 う~~ん、大日本も好き。

──やっぱり大日本(笑)。デスマッチとかやってみたい?

優樹 やってみたい!

──やりたいんだ(笑)。デスマッチは怖くないの?

優樹 全然痛くなさそう。

──痛くなさそう(笑)。康稀君はデスマッチはどうですか?

康稀 観るぶんにはおもしろいけど、僕はあまり……(苦笑)。

優樹 僕はデスマッチが好き!

──康稀君は好きな団体はどこですか?

康稀 新日本です。

──好きな選手は?

康稀 平澤光秀選手。

優樹 あ~、僕も言おうとしてたのに~!

──ちょっと遅かったですね(笑)。優樹君は総合格闘技で好きな選手はいますか?

優樹 吉田沙保里?

──残念! 吉田選手はレスリングの選手ですね。

優樹 じゃあね……金村キンタロー。

──まあ、金村さんは〝なんでもあり〟な選手なんでオッケーです(笑)。

優樹 血が出るところが好き。

──ホントにデスマッチ好きですね(笑)。康稀君は総合では誰が好きですか?

康稀 ジョシュ・バーネットが好きです。

──総合格闘技の試合に出ても勝つ自信はありますか?

康稀 あります!

──頼もしいですね。たとえば、同じ名字の山本KID選手と闘って勝つ自信はあります?

康稀 うん、ある。体重が違うけど、レスリングだったら絶対に勝てる!(キッパリ)。

──ぜ、絶対に勝てますか!? じゃあ、総合ルールで闘ったら?

康稀 総合だったら、負けることもあるかもしれない。

──「負けることもあるかも」って、これまた凄い自信ですねぇ。なんか聞くところによると、すでにプロレスの練習もしてるみたいですけど、具体的にはどんな練習を?

パパ 普通に家でジャーマンかけたりとかしてますよ。

──家でジャーマン!? それはプロレスごっこではないんですかね?

パパ プロレスごっこよりレベルは高いですね(笑)。張り手とかチョップの打ち合いも本格的にやってますし。

──自宅で張り手やチョップ合戦もやるんですか?

パパ やってますね。よくお風呂とかでチョップ合戦とかしますね(優樹君に軽くチョップ)。

優樹 そうじゃなくて、こうだよ(お父さんにいい音のするチョップ!)。

パパ 角度とか音とかも研究してますからね(笑)。

──まあプロレス的には角度や音も重要ですからね(笑)。でも、いまの子どもってプロレスと総合の違いとか理解して観てるんですかね?

パパ ウチの子は理解してますね。

──へぇ~。でも、お父さん的には、やっぱり総合もプロレスも両立できるような選手にしたいわけですよね?

パパ そうですね。メインはプロレスで、総合に出てもメチャクチャ強いのが理想ですね。難しいとは思うんですけど、絶対に両立させますよ!

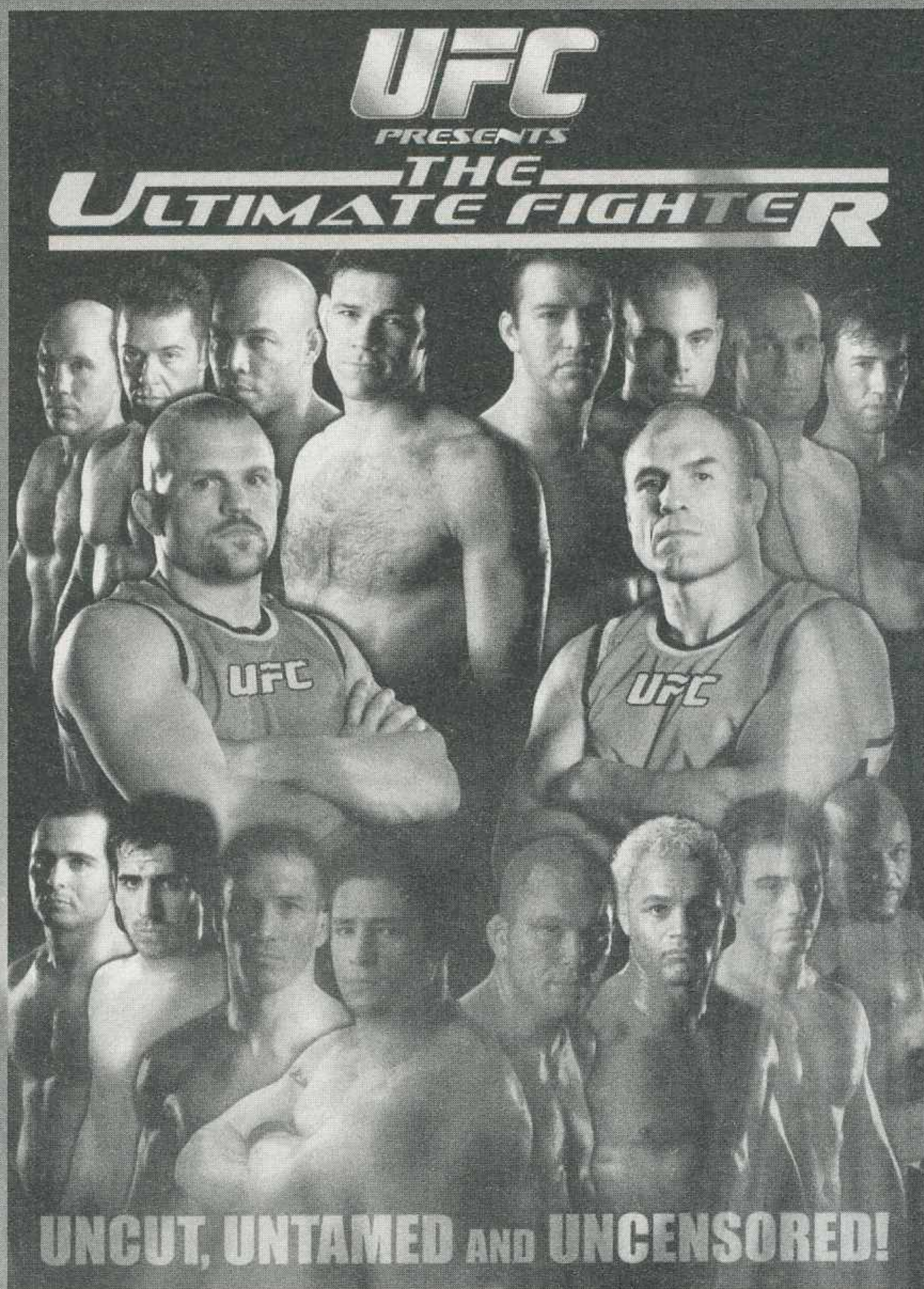
──わかりました。じゃあ、優樹君、最後に明日の試合の意気込みを聞かせてください!

優樹 カート・アングルに負けないように頑張る!

──よっ、さすが金メダリスト! 優樹君をはじめ山本4兄弟のこれからの活躍に期待してます! お父さんも頑張ってください!

パパ 何年後かに、また『kamipro』さんに取材してもらえるように僕も頑張ります!

【07年2月17日/川崎駅近郊にて収録】

UFC PRESENTS THE ULTIMATE FIGHTER
UNCUT, UNTAMED AND UNCENSORED!

UFC人気爆発の原点『TUF』に続き PRIDE、K-1もついに着手!!

格闘技界の未来はリアリティショーが握っている!!

信じられないスピードで巨大化したUFC、その原動力となったのがリアリティショー『ジ・アルティメット・ファイター（TUF）』だ。米国の人気テレビ番組『サバイバー』の総合格闘技版として登場したこの番組は、大人気を博し、それに伴いUFC自体の人気も爆発！ いまや世界最大の格闘帝国を築くまでになった。そんなUFCに追いつけ追いこせ、とばかりに、ついに『PRIDE』、K-1もこのジャンルへの進出を決意！ 格闘技界の未来はリアリティショーが握っているのである。

さらなるアメリカ侵略へ PRIDEがリアリティショーに進出!?

“60億分の1の煽りVアーティスト”

佐藤大輔が

2.24 PRIDEラスベガス大会の舞台裏、米リアリティショー事情を語った!

「〝バラエティ先進国〟ニッポンが『TUF』以上のものを作ります!」

PRIDEラスベガス大会も第2回を迎え、
“名物”選手紹介VTRを作る
佐藤大輔ディレクターもついに米国本格進出!
初となる“アメリカ人向け”煽りV制作秘話を
ラスベガス大会の裏話と合わせてたっぷり語ってもらった。
さらに、UFC躍進のきっかけとなった
リアリティショー『TUF』を日本のテレビマンとして大分析!

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／乾晋也

――今日は2・24『PRIDE・33』の裏話をいろいろうかがっていこうと思います！　今回は初めて本格的にアメリカ向け映像を作った第1弾ということだったわけですけど、やはり気合いの入り方も違ったんじゃないですか？

佐藤　そうですね。今回の僕の仕事は、映像に関しては番組の構成、VTR、カメラ、音声、実況、解説、中継全体のプロデュースにまでおよんでいたんですけど、一番の課題はとにかくコストを抑えることだったんです。アメリカって、中継の予算から何からなんでも高いんですよ。なので、それを探りながらやっていく感じでしたね。

――何よりもまずはコストの壁がありましたか。

佐藤　それから制作面では、現地のスタッフと相談しながらやりましたね。VTRに関しては完全に半々で、日本で作ったり、アメリカで作ったりして。ナレーションはほとんどすべて向こうで収録しましたけど。

――日本で作られたのはどの試合ですか？

佐藤　僕らがやったのは、オープニングとメインイベント（ダン・ヘンダーソンvsヴァンダレイ・シウバ）、それから五味（隆典）選手と（マウリシオ・）ショーグン、あとホジェリオ（・ノゲイラ）や（セルゲイ・）ハリトーノフの試合かな。

――つまり、〝ひねり〟が利いてないのは向こうだったと（笑）。

佐藤　いやいや（笑）。今回はひねりようがない、というかひねる必要がないでしょう。そもそもアメリカではVTRで試合映像以外のいろんな画を使いながら、選手の人となりを紹介していくということ自体がイレギュラーなことなんです。UFCも4～5年くらい前は『PRIDE』の紹介映像をまねたVTRを作っていたけど、うまくできなくてやめたらしいし。

――UFCだと「相手をKOしてやる」みたいな両選手のインタビューがちょっと流れるだけですもんね。

佐藤　だから今回はまず、選手の特徴をどう紹介していくかということだけに腐心しましたね。五味選手なんか〝ニュー・エイジ・サムライ〟って、あえてステレオタイプに押し込めたところがありますし。1発目はそうやっておいて、アメリカ人の観客が感情移入できるぐらいキャラが浸透してきたら、ネタ性のある映像表現をやっていこうと思ってるんです。とにかく長い勝負になると思うんで。

――回数を重ねて、アメリカのファンに刷り込んでいこう、と。

佐藤　だから今回はとにかくタイプ・オブ・ファイター紹介のみをしました。その上で、なるべくカッコよくね。

――大会を通じての全体的なテーマはなんだったんですか？

佐藤　大会タイトルが『THE SECOND COMING』で、日本のファンには意味合い的にピンと来てなかったかもしれませんけど、じつはキリスト教圏の人にとっては凄く意味のある言葉なんですよ。

――単に「2回目」というわけじゃないんですか（笑）。

佐藤　〝第2回〟だけでなく、〝キリストの再臨〟にも使われる言葉で、そのダブルミーニングになっていることまでは日本のファンでも知ってる人は多いと思うんですけど、それはすなわち〝アルマゲドン〟。つまり〝世界が終わる日〟という意味もあるんですよ。キリストがやってきて、恐怖の大魔王がやってきて、世界がおしまいっていう不吉なイメージなんですね。

――なんだか非常にヤバい暗示ですね（笑）。

佐藤　だから、この言葉には不吉なワクワク・ドキドキ感があって、それをどう出すか、というところだったんですよね。で、アメリカではMMAイコールUFCそのものだから、「〝恐怖の大王〟ヴァンダレイ・シウバを象徴とする『PRIDE』が本気でやってきたぞ」というニュアンスで広げていったんですよ。だからオープニングで使った〝The cage is your world. This Ring is Universe〟というキャッチフレーズは、アメリカ人のファンにはかなりウケましたね。「うまいこと言うじゃん」って。逆にあのフレーズは日本のファンにはよくわからないと思うんですよね。

――ハッキリ言って、「なんのこっちゃ？」でした（笑）。「やれんのか？」のほうが日本人には伝わりますよね。

佐藤　だからある意味、アメリカ人に媚びたといえば媚びたわけですけどね。オープニングもアメリカふうに直球勝負でしたしね。そして、五味選手やヴァンダレイの映像では、（チャック・）リデルや（ジョルジュ・）サンピエールに対するコメントを使ったんですけど、それに関しては、結果的に大すべりしましたね（笑）。

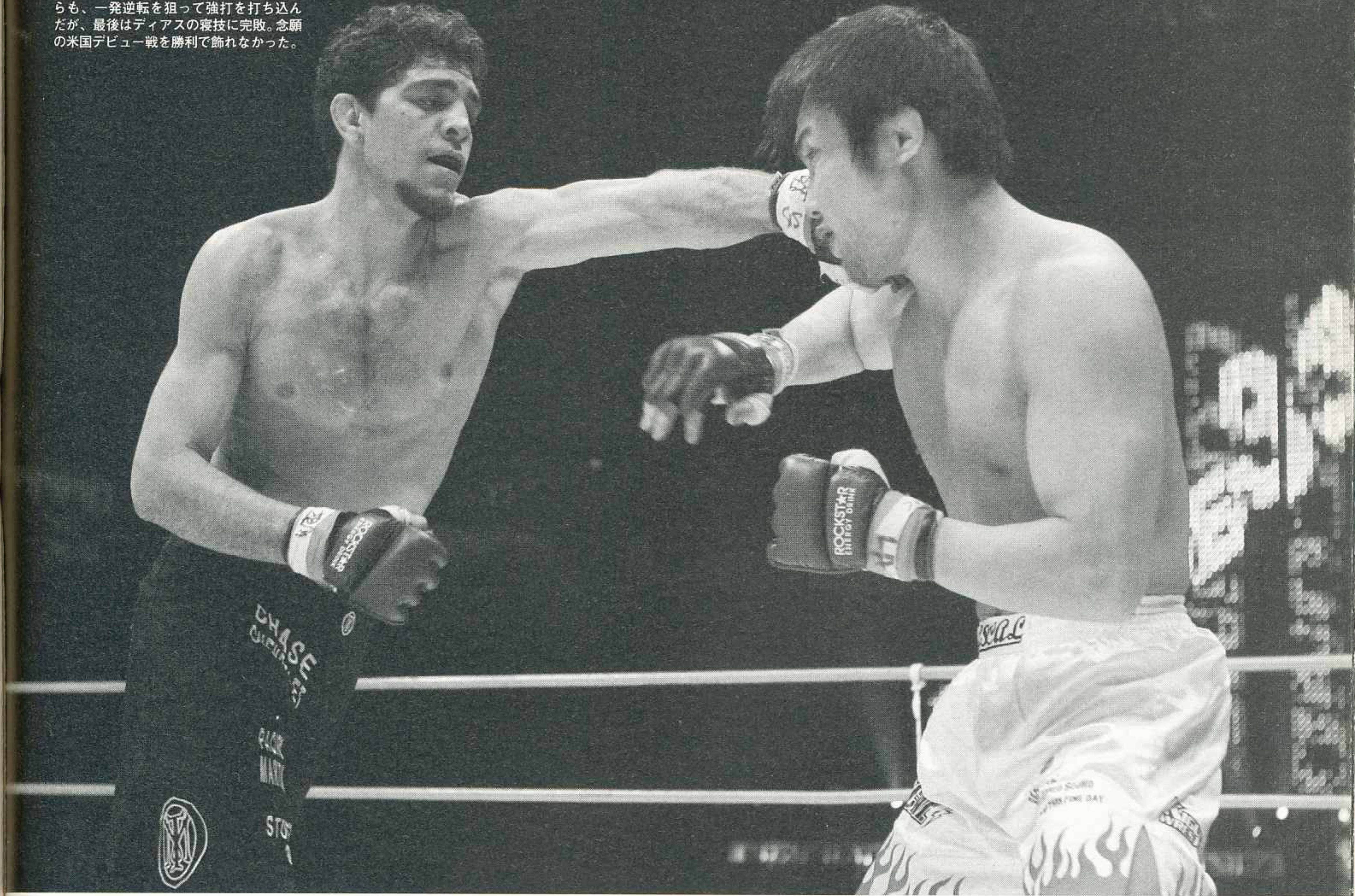
――見事に墓穴を掘ったという感じでしたね（笑）。

佐藤　すべった、すべった！　もうアルマゲドン、惨敗スタート（笑）。ただUFCの連中も当然、観に来てるんです。さっき言ったダブルミーニングをかけていって、「お前らは、かごの中の鳥だぞ」「お前らが世界のスタンダードだと思ってるけど、リングはもっと開けているぞ。宇宙につながっているぞ」と。そういう発信の仕方をしたんですね。というか格闘技に限らず、全アメリカ人に対してこう言いたいわ（笑）。

――まぁ、これでヴァンダレイと五味が圧勝してたら、そのメッセージ

UFCをカゴの中の鳥だと挑発したのに結果的には大すべりしましたね(笑)

「金網はあなたの世界。リングは宇宙」。オープニングではUFCを意識した強烈なメッセージが観客に放たれた。

長いリーチを持つディアスに苦しんだ五味。スタミナ切れでフラフラになりながらも、一発逆転を狙って強打を打ち込んだが、最後はディアスの寝技に完敗。念願の米国デビュー戦を勝利で飾れなかった。

五味選手にはラスベガスでやること自体が大事で結果は二の次みたいな空気がありましたね

もストレートに伝わったんでしょうけど、結果は真逆になっちゃいましたけどね（笑）。

佐藤　この結果を断末魔ととらえるか、産みの苦しみととらえるか、そこがおもしろいんじゃないですか。でも、あんなにコアで熱いお客さんの盛り上がりは、僕自身ひさしぶりに感じたし、それは明らかに日本の会場以上だった。そしてコンセプトも試合もウケたわけだから、お楽しみはこれからでしょう。それにしても、五味選手にしても、三崎（和雄）選手にしてもラスベガスの空気に飲み込まれている感じはしましたね。やっぱり『PRIDE』のリングであっても、海外はアウェーなんですよね。そう考えると、いままでいかにブラジルやアメリカの選手らが日本でやってきたことが大変だったかという話ですよ。

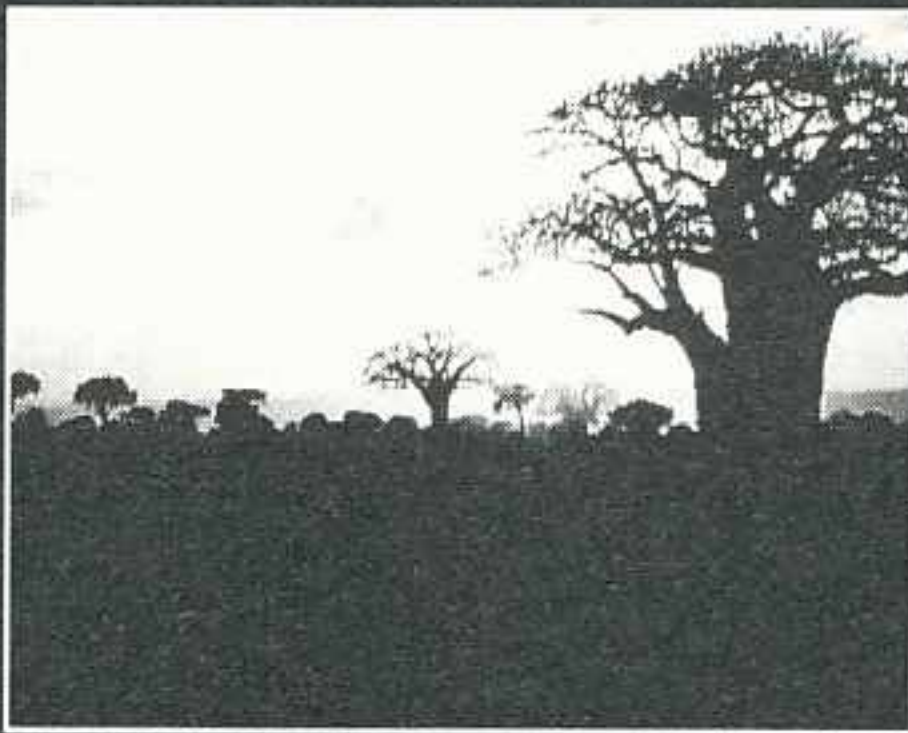
――ホント、そうですね。

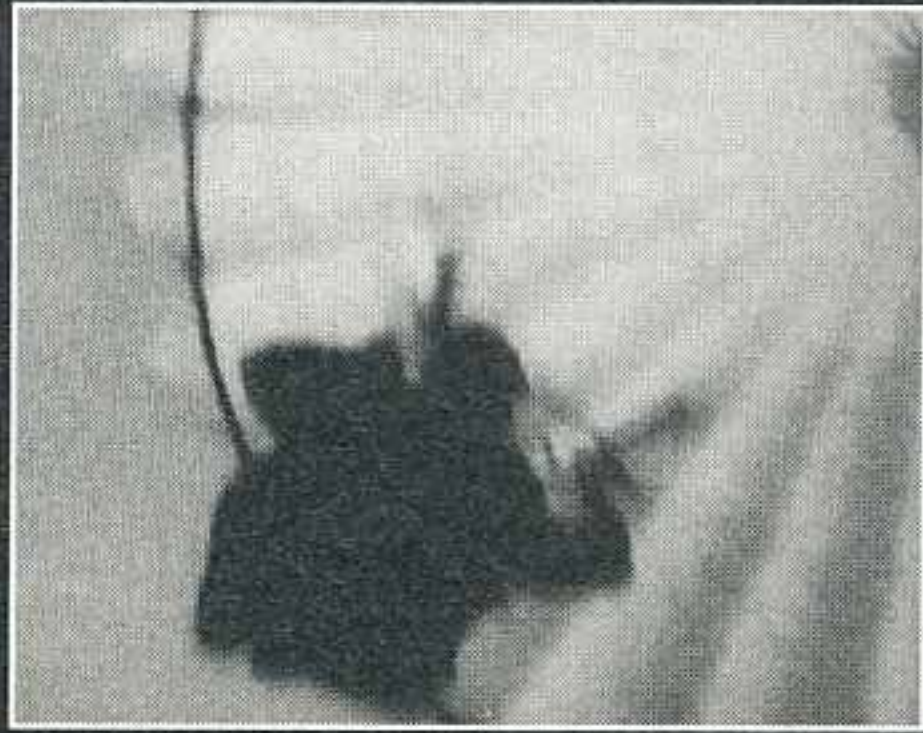
佐藤　それと五味選手に関しては、何かラスベガスでやること自体にプライオリティがあって、結果は二の次みたいな空気があったような気がしますね。あと、五味選手自身、コンディションがよくないっていうのを自覚しているような気がしました。自覚していたからこそ、会場に入ると、普段はしないアップを妙に入念にやってましたし。試合でも早々に決めにいったでしょ？　いつもの五味選手なら、ああいうことはしないような気がする。詰め将棋みたいに追い詰めて、相手の出す手をなくして、あるポイントでたたみかけて勝つじゃないですか。桜井"マッハ"（速人）戦にしても、川尻（達也）戦にして

これが日本が誇る佐藤大輔の煽りV

オープニング

「世の中にはあなたの想像を超えるものがある」という、UFCと比較させ暗に揶揄するようなメッセージのあとに、『PRIDE』のこれまでの衝撃映像がスクリーンに。UFCに移籍したミルコやクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンがKOされるシーンが流された。イメージ戦争、熾烈！

アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ vs ソクジュ

アフリカのサバンナを彷彿させる景色が映し出されたあと、いったいどこで撮影したのか、野生の生活を送る（？）子どもが画面に。また本誌インタビューでは、柔道の練習のため渡米したと語っていたソクジュが、『PRIDE』のチャンピオンになるためにアメリカに来た」と語っていたのにビックリ。

セルゲイ・ハリトーノフ vs マイク・ルソー

アメリカのかつての"仮想敵国"旧・ソ連のシンボル、赤旗がなびいたあと、パラシュートの映像が映し出され、"死神落下傘"ハリトーノフが不気味に出現。火を飛び越えたり、ナイフを持ってスパーリングを重ねるロシア軍の特訓風景に、ハリトーノフの練習風景が重ねられ、いやがおうにも幻想が高まる。

格闘技の成長を信じて地道にやってきたダナにはホントに敬意を表しますよ

もそうだし。でも今回は、いきなりタックルいって、そのまま全力でパウンドですよ（笑）。

――そして、スタミナ切れを起こしちゃいましたよね。

佐藤　そうなんですよ。でも勝ったニック・ディアスもいいキャラですよね。

――あのひねくれた感じは大輔さん好みですよね（笑）。

佐藤　大好物です（笑）。だから、次にニック・ディアスの映像を作るのが楽しみですよ。

――では今回、ラスベガス大会の映像プロデュースをしてみて、課題みたいなものは見えましたか？

佐藤　一番の課題はやっぱり、さっき言ったコストの面ですね。あとは言葉の問題。でも、こっちにも英語が堪能なスタッフはいるわけで。じつは今回、「SECOND COMING」の意味を教えてくれたのは、リングアナウンサーのレニー・ハートさんなんですよ。レニーさんは「ゴミは〝ラスカル〟って言葉のイメージがピッタリ合う」とか、いろんな提案をしてくれたんです。だから今後はレニーさんみたいな、僕らの気持ちと『PRIDE』をよくわかっているネイティブのスタッフをもう少し固めようかなと考えているんです。

――そのほうが『PRIDE』の世界観は伝わるでしょうね。

佐藤　だから、今回はアメリカのスタッフに半分くらい映像を任せたんですけど、全部日本でやったほうがいいっスね！　幸いアメリカのテレビスタッフたちも凄くリスペクトしてくれて「お前が全部作ったほうがいい」って言ってくれてますし。アメリカで開催するといっても日本発のイベントなんで日本の色を出していきます！　ただ、映像はともかく、音楽が難しいんですよ。

――向こうでは著作権の問題で使えない曲とかも多いんですよね？

佐藤　外国の曲は怖くて使えないですね。アメリカの場合は厳しいみたいで……。

――ヴァンダレイの入場テーマ曲も変わっていましたね。

佐藤　あれも外国に原盤権がある曲だったんですよ。K－1さんはラスベガス大会でそんなのおかまいなしに、じゃんじゃかプリンスとかクイーンとか使ってますけど（笑）。

――アメリカはそのへんが難しいですよね。だからWWEなんかすべて自前の曲ですもんね。

佐藤　『PRIDE』も最終的にはそうしていかないといけないと思うんですけどね。でも、当面は日本の曲だけでも充分いけますよ。いい曲が多いですしね。海外に日本の音楽ごと乗り込むっていうのも気持ちがいいですし。

――まぁ、今回に関してもヴァンダレイのテーマ曲以外は違和感を感じませんでしたからね。

佐藤　とにかく、アメリカはPPVありきなんで、いろいろ難しいこともありますよ。裏話をすると、今回も全9試合をPPV枠の4時間に収めなきゃいけないっていうんで、もし前半戦が全部判定になったら、後半戦の煽りVTRをカットするとか、両者同時入場とかを考えていたくらいですからね。結果的にいろんな〝神風〟が吹いて、大丈夫だったんですけど。

――そういう意味でも、大会は大成功だったわけですが、評判もいいですよね？

佐藤　テレビ的な反響も凄くいいですよ。番組全般の評判は向こうでもの凄く高いんです。

――まぁ、PPVに関してはUFCが爆発したのだって、ここ1～2年の話ですからね。それまでは、何年もアメリカでやっていながら、いまの『PRIDE』と変わらない数字だったわけですから。

佐藤　いや～、それを考えると、膨大な時間とお金をかけて、ついにブレイクさせたUFCはホントに敬意を表しますよ。格闘技だけを愛して、何千万円もするビルボードをいろんなところに立てて、コツコツとやってきたダナ・ホワイトって凄いですよね。オンライン・カジノで儲けた金の力でコスタリカに選手を集めて闘わせるヤツらとは全然違いますよ！　まぁ、UFCそのものも正直言ってあんましおもしろくないけど！

©Joshu Hedges/UFC

最新作シーズン4でコーチを務めたクートゥアーとサンピエール。

TUFとUFC

05年1月にスタートした『TUF』は1.6パーセントという、ケーブルテレビとしては視聴率を獲るオバケ番組に。その成功を受けて、スパイクTVは『UFC UNLEASHED』など週に6本のUFC関連番組を流し急成長。"UFCテレビ"とまで呼ばれるようになった。

一方、『TUF』人気により、シーズン3のコーチを務めたティト・オーティズとケン・シャムロックがシーズン終了後にUFC本戦で対決すると、UFCは過去最高のPPV件数を記録。また、"新人発掘"から"ベテランの再起"へと趣向を変えて行なわれた、前回のシーズン4では、優勝者がUFC王座に挑戦するというUFC本体との連動企画で、相乗効果が生まれている（実際にはケガと減量失敗により優勝者のタイトル挑戦はなくなるというオチがついたが……）。また、同シーズンでコーチを務めたランディ・クートゥアーとジョルジュ・サンピエールも王座挑戦権を与えられ、タイトルを獲得。番組出場選手としてだけではなく、コーチとしても『TUF』に出ることは人気拡大につながるため意義は大きい。

スパイクTVはUFCと『TUF』の契約をすでに08年まで締結。現在はシーズン5の収録が行なわれており、コーチにはジェンス・パルヴァーとBJペンが就任。この二人はシーズン終了後にライト級王座を懸けて激突することが有力視されている。切っても切れないUFCとリアリティショーの関係。『TUF』ブームは、いつまで続くのか。

マウリシオ・ショーグン vs アリスター・オーフレイム

カーニバルやビーチの美女たちと、ブラジリアンな景色の中にシュートボクセ・アカデミーが。試合映像に切り替わると、ショーグンがストンピングを連発！　一方、〝オランダ名物〟風車の回転に合わせて、セコンドに担がれた〝破壊屋〟アリスターが回転。リベンジマッチのムードを高める。いざ勝負へ！

五味隆典 vs ニック・ディアス

〝ニュー・エイジ・サムライ〟と紹介された五味。〝火の玉の拳〟で相手をKOするシーンのあいだに、街中や会場でファンに歓迎される、東京での五味の姿がカットイン。ジャパニーズ・スターのラスベガス降臨を印象づける。五味の口からはジョルジュ・サンピエールやBJペンとUFCトップ選手の名前が！　しかし試合結果は……。

St. Pierre, Matt Hughes, B.J. Penn

ヴァンダレイ・シウバ vs ダン・ヘンダーソン

厳かな音楽とともに〝恐怖の大王〟のイメージをまとったシウバが。ジャクソン、桜庭らへの連続KOシーンから、画面は、のんきに笑うチャック・リデルに。そこへ「『PRIDE』がUFCを制圧する」というシウバのインタビューがかぶせられ、さらに「チャック、逃げるんじゃねえ！」というシウバのマイクに続けられた。

『TUF』なんて、いま頃『ガチンコ・ファイトクラブ』かよ!?

—ダハハハハ！ そのUFCがブレイクするきっかけになったのは、『ジ・アルティメット・ファイター（TUF）』というリアリティショーですけど、あの番組って大輔さんは、ご覧になったことあります？

佐藤 ええ。アメリカ版のDVDを観ました。

—どう思いました？

佐藤 ボクらが見ておもしろい、おもしろくないはともかく、あれがヒットする理由はわかります。まず〝画〟が強いですよね。若い男たちが一つの家に住む。つまりかごの中に閉じ込めて、そこの化学反応を見るというものでしょ。常に半裸のマッチョな男が二人以上画面の中でうろうろしてるわけで、これは〝画〟のインパクトがありますよ。

—ま、異常ですよね（笑）。

佐藤 あとは、いまアメリカでテレビを観ていると、ヒットしている番組はほとんどリアリティショーみたいなもんなんですよ。だって一番当たっているのは、『アメリカン・アイドル』(注1)っていうオーディション番組ですからね。

—日本でいえば、懐かしの『スター誕生！』(注2)みたいなもんですか？

佐藤 そうそう。いまごろ『スタ誕』かよ！って（笑）。

—ダハハハハ！ 30年遅いだろって（笑）。

佐藤 だから日本の感覚からすると、『TUF』なんて、「いまごろ『ガチンコ・ファイトクラブ』(注3)かよ!?」って話ですよ。やっぱり手法としては、日本のテレビ番組のほうが、リアリティショーとしても、バラエティとしても、全然進んでると思いますね。だって、『TUF』って誰が観ても楽しめるもんじゃないでしょ？

—そうですね。日本だったらせいぜい深夜番組ですよね。

佐藤 そう。日本のエンターテインメントの王様は戦後一貫してテレビですよね。その中でもゴールデンって視聴率勝負だから、とにかく多くの人たちに観てもらうノウハウって凄い。だから『TUF』に関しては、ちょっと番組としては企画性に乏しい

©Dave Contreras

無名のローカルスターから、一躍TUFの人気者となった〝初代TUF優勝者〟フォレスト・グリフィン。しかし、じつは「TUF」出演前からUFC本戦へのオファーがあったほどの実力者。UFCヘビー級王座に挑戦経験のあるジェフ・モンソンに勝ったことすらあったのだ。そりゃ優勝するって！

©April Pishna

(注1) **『アメリカン・アイドル』**
02年からアメリカFOXテレビで放送、驚異的な視聴率を誇る全米規模のアイドルオーディション番組。芸能界デビューを希望する、一般公募された若者が〝のど自慢〟で勝ち抜いていくもの。予備選考で5万人以上の中から24人を選定。優勝者まで、毎週視聴者投票により、参加者を絞る。

(注2) **『スター誕生！』**
71年から約12年間にもわたって、日本テレビで放送された歌合戦形式の正統派のオーディション番組。初代司会者は萩本欽一。その後、タモリや坂本九らに受け継がれた。審査は総じて厳しく、初期は森昌子、桜田淳子、山口百恵ら、のちに中森明菜らを輩出した。

(注3) **『ガチンコ・ファイトクラブ』**
99年から03年までTBSで放送されたバラエティ番組『ガチンコ！』の目玉企画。クラブ生が竹原慎二コーチの指導を仰ぎ、ボクシングのプロテストを受けるというもの。脈絡もないところからつかみ合いが始まり、TOKIOのメンバーが止めに入るというお決まりの乱闘シーンなどで視聴者から支持を得ていた。CM前に使われた「このあと、信じられない展開に!!」のフレーズは日本テレビ界の名言。

(注4) **『あいのり』**
99年からフジテレビで放送されている恋愛観察バラエティ番組。ラブワゴンと呼ばれる車に乗って、世界各地を旅する中で、意中の異性に日本行きのチケットを渡すことで告白。カップルが成立すれば二人で帰国、失敗した場合は1人で日本へ帰国するというもの。

(注5) **『進め！電波少年』**
92年から03年まで日本テレビで放送されたバラエティー番組。司会の松村邦洋と松本明子らがアポイントを取らず、さまざまな著名人に無理をお願いする企画で人気を博した。また96年、猿岩石を香港に連れていき、いきなりユーラシア大陸をヒッチハイクで横断させる企画が大ヒットした。

(注6) **『ボクシング予備校』**
日本テレビ系列で85年から96年まで放送されたバラエティ番組『天才・たけしの元気が出るテレビ!!』の番組企画。ボクシング好きの若者たちに、元世界チャンピオンたちが指導し、プロへの道を開くという企画もの。甘いマスクで人気の高かったボクサー・飯田覚士が世界王者に輝いた。

ですよね。日本の『PRIDE』がやるんだったら、それこそロードムービーで全米各州を回って、各地のジムや格闘技の達人を訪ねる。で、それぞれの場所で試練があって、最後にラスベガスにたどり着けるのはたった一人の選手だけとか。そういうのだったら、海外武者修行的なロマンがあるし、『PRIDE』っぽいじゃないですか。

――テレビ的にいうと、『あいのり』（注4）であり猿岩石にも通じるというか（笑）。

佐藤　あれ!? それだとパクリか。ファイター全員をバスに押し込めて、定点カメラで撮ったり（笑）。そして演出は『進め！電波少年』（注5）を手がけた香川春太郎さんにお願いするのもいいですよ。あの方はPRIDEファンなんですよ。でも、そう考えると、日本のテレビはもうすでに全部やってるんですね。だから、この際パクリ直しますかね！

――パクりましょう！（笑）。まぁ、日本では20年も前に『天才・たけしの元気が出るテレビ!!』の『ボクシング予備校』（注6）で、実際に世界チャンピオンまで出してますからね。

佐藤　だから、素人モノはある程度視聴率を獲ることはわかっているんです。でも日本だとそのブームは6、7年前に終わっているんですよね。日本では出尽くしたんですよ。で、いまは芸人さんサイドにシフトしているというか。

――なるほど。

佐藤　だから『TUF』ってモーニング娘。の男版みたいなもんなんです。そう考えるとダナ・ホワイトはつんくですよね（笑）。アメリカの番組ってじつは日本のパクリがけっこうありますから。で、そうやって生まれた『TUF』をさらにいち早くパクろうとしてるのが、いまのK―1なんですけど（笑）。

――ダハハハ！『K―1ジャパントライアウト』ですね。逆輸入しちゃって（笑）。

佐藤　でも、『K―1ジャパントライアウト』と『TUF』の最大の違いというか、『TUF』がプロモーションとして優秀なのは、フォレスト・グリフィンとか、ディエゴ・サンチェズみたいな、間違いなく強い有望選手をメンバーの中にあらかじめ入れているところですよ。

PRIDE版『あいのり』が できればおもしろい。 パクリでいいんです（笑）

――ある種、出来レースというか。何が起こるかわかんないようでいて、じつはゴールが決まっているということですね。

佐藤　そう。でもそれは戦略的に正しいですよ。というより、リアリティショーの本質はイベント自体の告知番組なんだからそうやらないとダメでしょう。実際、勝たせようと思って選ばれた選手はホントに強いんだから、勝ち残るに決まっているわけで。そしてリアリティショーの良さというのは、無名の選手がスターになるまでの道のりが観られることですよね。成長過程を追っていくと、その選手に対して思い入れが出てくるじゃないですか。

――そうですよね。たとえば、ボクらが桜庭選手に思い入れがあるのも、UWFインター時代から、『PRIDE』でグレイシー・ハンターになるまでの道のりを共有してるからっていう部分は凄くありますからね。

佐藤　『TUF』はそういった選手の成長過程を半年間で見せてしまうんですよ。そのお手軽さがアメリカのファンや視聴者に合ってるんでしょうね。

――そう考えると、『TUF』って総合格闘技をブレイクさせるための、コロンブスの卵ですよね。その手があったか、というか。

佐藤　日本で『TUF』のような番組ができなかったというのは、そういうビジョンがテレビ局側になかったこともそうなんですけど、『SRS』のような週一回の30分番組だと、その週にやるイベントのカードを告知して、その見どころとキャラクターを紹介するだけで手一杯なんですよ。

さとう・だいすけ■1974年、東京都出身。慶應大学卒業後、97年にフジテレビ入社。スポーツ局でPRIDEシリーズ、『SRS』、『ジャンクスポーツ』、F1GPなどの番組を手がける。昨年、フジテレビが『PRIDE』放映を打ち切ったのをきっかけに、10月30日付けでフジテレビを退社し、独立。現在はフリーとして、『PRIDE』の煽り映像を担当。

――とくにK―1、『PRIDE』、極真の3つをやってたときは、時間をかけてリアリティショーをやる枠はないですよね。

佐藤　その代わり、じつは中京地区では、こういう選手育成番組をやっていたんですけど。

――『PRIDE王』ですね（笑）。

佐藤　ただ問題は、そこにフォレスト・グリフィンはいなかったと（笑）。

――ちっともスターが生まれませんでしたよね（笑）。

佐藤　だから『PRIDE』が今度、リアリティショーをやるなら、ソクジュみたいな選手をあらかじめ入れておくべきですよね。それか、そこまで無名じゃなくても、『PRIDE』に上がる前のギルバート・メレンデスみたいな選手でもいいと思うんですよ。コアなファンには知られてても、テレビを観る一般視聴者に知られてなければいいわけですから。

――そうなんですよね。須藤元気とか山本KID徳郁とか、テレビ的にはK―1 MAXで彗星のように現われたことになってますけど、格闘技ファンのあいだでは、その前から有名な選手だったわけですからね。

佐藤　そうです、そうです。だから、リアリティショーをやるにあたって、目利きが重要になってくるんですよね。メジャーな舞台に出たことがないというだけで、実力とスター性がある、「コイツはくるな」という選手をリアリティショーに押し込むというね。そう考えると『PRIDE』がケージ・レイジ、キング・オブ・ザ・ケージ、DEEPや修斗と友好関係にあるということは凄く有利だと思いますよ。

――要は青木真也とか、石田光洋とか、帯谷信弘みたいな、強いに決まってる選手をリアリティショーで名前を売らせてから、『PRIDE』でデビューさせるってことですよね？

佐藤　そうです。そうやって仕込むことはできますよね。アイデアはいろいろありますよ。

――もう、『PRIDE』のリアリティショーは大輔さんがやったほうがいいんじゃないですか？（笑）。

佐藤　やらせてもらえるかなぁ（笑）。できたらおもしろいでしょうね。PRIDE版『あいのり』みたいな感じで、選手がパステルカラーのバスでブラジルのシュートボクセに行って、道場でボコボコにされて、夜中に母ちゃんに電話するとか。そして、それをフジマール会長が慰めるとか。なんだかロマンがありますよね～。あれ!? これも全部パクリじゃないか（笑）。

――パクリですね。明らかに（笑）。

佐藤　ま、パクりでもいいですよ。そうやってロシアでロケしてもいいし、オランダに行ってもいいし。そう考えると、やっぱりワールドワイドな『PRIDE』を題材にしたほうが、リアリティショーだって絶対におもしろいものができますよ！　まぁ、口で言うのは簡単なんですけど（笑）、アメリカ大会ともども、これからおもしろいことができたらいいですね。

【07年3月5日／佐藤大輔氏事務所にて収録】

<RADICAL特選劇場>
越中ブームの原点はここにあるって!

●誰もが認める、元祖・越中ライターせき詩郎。『紙のプロレスRADICAL』時代の『ザ・検証』では、越中ネタが満載だって!
●今号の再録以外でもNo.29で「越中フィギュアはいくつ買えばいいか?」を検証。No.31では、「自主的に越中の誕生日パーティ」を開催! No.34では当時、越中のモノマネをしていた"早すぎた越中詩郎芸人"原口あきまさを取り上げた。
●No.49では負傷中の越中のために「千羽鶴を作ろう」と提案!(左上)。No.53では「越中のG1日記」をしたため(左下)、No.57では今回、再録したハチマキの続編『江戸幕府編』(ハチマキに「家康」「家光」などの名前が列挙!)など、その原稿は膨大な数になる。
いまこそ本隊ぶっ潰す勢いで、読みまくれって!

No.49『越中回復祈願! みんなで千羽鶴を作ろう!』
No.53『せき詩郎の越中G1日記』

越中ブームの"震源地"!
せき詩郎の越中コラムは"RADICAL"で読める!

まだまだ物足りないって!

注 NO.92以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797
販売元 (株)ダブルクロス 平日 13:00~19:00

元祖! 紙のプロレス BACK NUMBERは すべて50%OFF

特集 神秘とは何か?
no.14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・ブロボディガード 清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!/遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no.15 780yen⇒390yen
あんた誰? 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負!/K−1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&永島勝司・村松維視・破壊王・フル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL no.16~87

格闘ノストラダムス!
no.16 780yen '99.03
[表紙:エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!/引退後初! 前田日明インタビュー/石川孝司

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
no.34 840yen '01.01
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ボブ&オバチャンチン

純プロレスを徹底検証!
no.35 840yen '01.02
[表紙:サクマシン(イラスト)] ZERO-ONE本格始動 橋本真也/プロレススーパースター列伝 ジョー樋口/杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36 840yen '01.02
[表紙:橋本真也(イラスト)] ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!/ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言

純プロレス戦国絵巻!
no.37 840yen '01.04
[表紙:小川直也(イラスト)] 安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る!/アブダビコンバット01一大探検記!

小川直也は是か非か?
no.38 840yen '01.05
[表紙:髙田延彦(イラスト)] 忘れ物の正体は。髙田延彦/ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か?
no.39 840yen '01.06
[表紙:前田日明] 前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは?
no.40 880yen '01.07
[表紙:アントニオ猪木] 蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光/熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

"最後の黒船"WWF来襲!!
no.41 880yen '01.08
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る/真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!!
no.42 880yen '01.09
[表紙:アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談/"ヒャッホーの真実"辻よしなり/高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43 880yen '01.10
[表紙:桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー/金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no.44 880yen '01.11
[表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々! シーザー武志/怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴

一寸先はハプニング!!
no.45 880yen '01.12
[表紙:アントニオ猪木(ホームレス姿)] 悪魔の書、現る! ミスター高橋/ジェラルド・ゴルドー人生相談

田村潔司、『PRIDE』討ち入り!
no.46 880yen '02.01
[表紙:田村潔司] さらばリングス! 金原×和田、浅草キッド/ならず者DEEPで勝利!エル・カネック/キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47 880yen '02.02
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] "天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!/噂の馳浩がミスター高橋本を語る!

桜庭、満開の日は近い!
no.48 880yen '02.03
[表紙:桜庭和志] 奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー/和田最強伝説が遂に現実に! 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49 880yen '02.04
[表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田/菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 880yen '02.05
[表紙:桜庭和志] 「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁!

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 880yen '02.06
[表紙:橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也/『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子/武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 880yen '02.07
[表紙:橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣/USAの渡世人ドン・フライ/ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号!
no.53 880yen '02.08
[表紙:桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久/独占肉弾スクープ! マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括!
no.54 880yen '02.08
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] "首の皮一枚" ホイス&エリオグレイシー/ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
no.55 880yen '02.10
[表紙:髙田延彦] 「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!/金原が『PRIDE』参戦!/メガトン級の男、ボブ・サップ!

驚ガクの6周年記念号
no.57 840yen '02.11
[表紙:高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣/新たなる"U"が始動!! 田村/ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号!
no.58 880yen '03.01
[表紙:武藤敬司&船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×高阪/宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no.59 880yen '03.02
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌&再生する!
no.60 880yen '03.03
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 880yen '03.04
[表紙:橋本真也&小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也/1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ!
no.62 880yen '03.05
[表紙:ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場! 佐々木健介/現役復帰? 船木誠勝/ヒョードルが藤田を一刀両断!

マット界、超絶リボーン!!
no.63 880yen '03.06
[表紙:橋本真也&小川直也(イラスト)] 「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦/『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 900yen '03.07
[表紙:桜庭和志] "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
no.65 880yen '03.08
[表紙:ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上! ヒョードル/ミルコついに皇帝戦へ/闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣!
no.66 880yen '03.09
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー/マッハを破った男、長南亮登場!/『東スポとは何か?』

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 880yen '03.10
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー! ミルコ/『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 880yen '03.11
[表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦/曙とは何者か!?/桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前!
no.69 900yen '03.12
[表紙:橋本&小川] 出てこい! 泣き虫! 橋本&小川/『泣き虫』著者、金子達仁登場!/田村潔司/美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括!
no.70 880yen '04.01
[表紙:ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告!/健介&北斗WJの真実を語る!/紙プロ大賞&語録発表

『ハッスル2』で大フィーバー!
no.71 880yen '04.02
[表紙:ハッスルイラスト] 『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/川田利明初登場!/猪木vsアミン戦の真実

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
no.72 840yen '04.03
[表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル/山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!!
no.73 880yen '04.04
[表紙:小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也/PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 880yen '04.05
[表紙:小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 880yen '04.06
[表紙:小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也/奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 880yen '04.07
[表紙:桜庭和志] 小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no.77 880yen '04.08
[表紙:小川直也] 「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也/狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

PRIDE GP徹底総括号
no.78 840yen '04.09
[表紙:小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦/谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨
no.79 840yen '04.09
[表紙:髙田総統] キャプテンに休息無し! 小川直也/特別付録・髙田総統ポスター/谷川さんも推薦『曙は是か否か?』

守護神ミルコが外敵狩り!
no.80 880yen '04.10
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー/ハッスルお家騒動、小川直也/「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81 880yen '04.10
[表紙:桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/草野仁

男たちの祭りは激化する!!
no.82 890yen '04.12
[表紙:桜庭和志] "道場破り"の全てを激白! 安生洋二/WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪

ミルコ激白! 打倒皇帝!
no.83 880yen '05.01
[表紙:ミルコ・クロコップ] 04年『PRIDE男祭り』を大総括/05年ハッスル大進撃発表! 小川直也/橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 880yen '05.02
[表紙:セルゲイ・ハリトーノフ] "殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ/田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
no.85 860yen '05.04
[表紙:前田日明&髙田総統] PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、高田/パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

PRIDE GP直前大解剖号
no.86 860yen '05.04
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散を語る!!

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87 860yen '05.05
[表紙:吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦/船木誠勝×宇野薫/金原弘光×池田大輔

通販方法 ▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『kamiproHand』で注文 ②電話注文 03-5368-1797 ③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。 ※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。 ※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

欽ちゃん球団、元プロ野球、お笑い芸人、プロレスラー、弁護士から、中学生まで、谷川さん好み(?)のメンバーが大集結!

これはK−1版リアリティショーなのか……!?

K−1がトライアウトはじめました。

自称"インディー界のカリスマ"もなぜか登場!

2月25日、K-1が『K-1 JAPAN TRYOUT 〜日本人戦士育成プロジェクト〜』と銘打った公開トライアウトをフジテレビにてスタートさせた。ゆくゆくはUFCで人気の選手育成リアリティショー『TUF』のK-1版を考えているようで、すでにコーチ役としてアーネスト・ホーストとマイク・ベルナルドの名前が挙がっている。トライアウト参加者も元プロ野球選手、お笑い芸人、プロレスラーに弁護士、中学生など、まさにK-1ともいえるバラエティに富んだメンバーが集結! ハプニング続出のK-1初のトライアウトの模様をお届け!

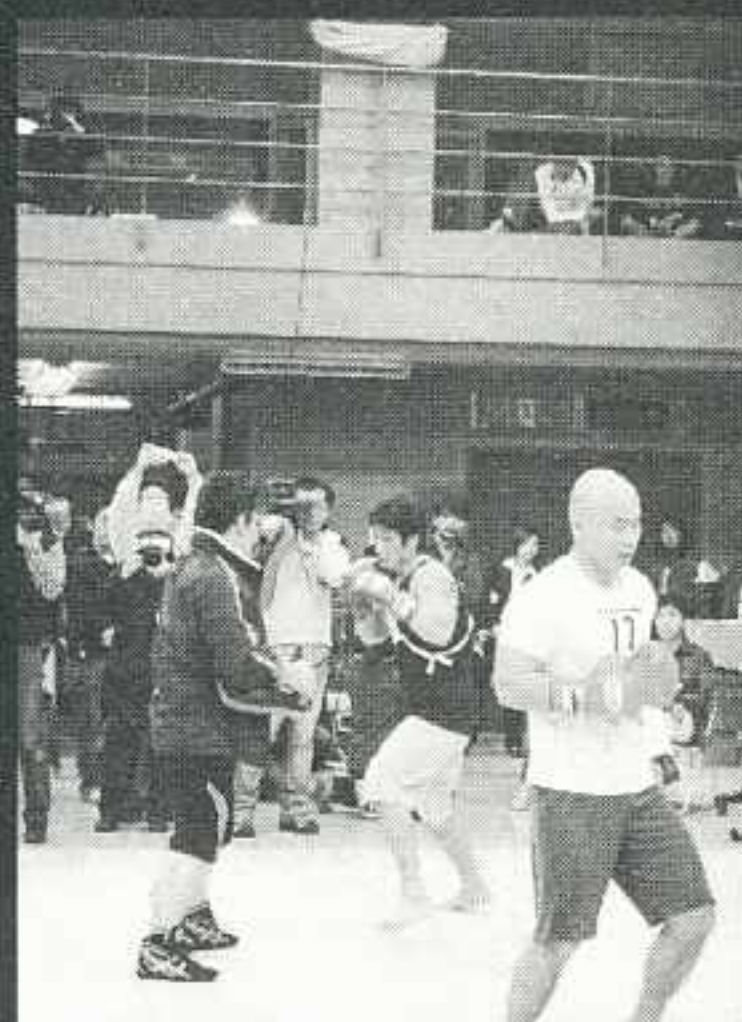
文／小松伸太郎(THE PEHLWANS) 構成／松澤チョロ

13歳の中学生から『Dynamite!!』出場経験者までずらりと揃った58名の参加者たち。ほとんどの参加者たちが真面目に参加する中、取材をしていた女性カメラマンに「あのタレント（『SRS』の取材で来ていた西山茉希）よりもお姉さんのほうがいいよ（ニヤニヤ）」と話しかける不届き者の姿も……。たわけがッ！

審査員を務めたのは、谷川貞治K-1EP、ルールディレクターの大成敦氏、フジテレビスポーツ局の鈴木專哉氏、マスコミ代表のザンス山田氏、そして合格者たちの監督となるアーネスト・ホーストだ。もう一人の監督予定者のマイク・ベルナルドは所用のため欠席。

ー、プロレスラー……

これがK—1のトライアウトだ!!（ケロちゃん調）

準合格となった元全日本プロレスの河野真幸は「今日計ったら、また身長が伸びていたんですが、まだ伸びると思うので頑張ります」と意味不明の自己アピール。ところで、「元プロレスラーの」と名乗っていたが、プロレスラーは辞めたことになっていたのか？

欽ちゃん球団出身の富永は、この日が初めてとは思えない打撃を存分に披露。身体能力の高さもさることながら、ホースト相手のミット打ちや急遽行なったスパーリングでも鼻血を出しながら前へ前へと出ていくキック経験者の父親譲りの闘争本能を見せ、K-1関係者を驚かせた。

MAXでデビューしたHIROYAに続けとばかりに、中学生4人組がトライアウトに参加。写真は白袴が秋本皓貴君でキックパンツが野杁正明君。二人とも空手で輝かしい実績を残しており、大人顔負けのスパーリングを披露。中学生大好きの谷川EPとホーストも、このちびっ子たちに熱視線！

注目されていた元ロッテ＆阪神の立川は、K-1サイドの期待も大きく特別リクエストを受けて大成氏とのスパーリングに挑戦。しかし、この日が初めてグローブを着けたとかで、谷川EPの「倒しちゃえ！」という激もむなしく、実力を発揮できなかった。

去る2月25日にK—1が、『K—1 JAPAN TRYOUT～日本人戦士育成プロジェクト～』と銘打った公開トライアウトを行なった。このトライアウトは、世界で闘える日本人選手育成をテーマにしたプロジェクトで、人材が枯渇気味な『WORLD GP』戦線における日本人ヘビー級選手の発掘に焦点を当てたもの。いずれ、このトライアウトの合格者たちの奮闘する様子を、UFCの『TUF』のようなリアリティショーとして、テレビ放送していくのがK—1の目論見のようだ。

このトライアウトには書類選考を通過した79名のうち58名が参加（※21名が所用で欠席）。その内訳は、キックや空手など、現役のプロを含む打撃系格闘技の経験者たちはもちろん、あわよくば『HERO'S』への出場を狙う総合格闘技経験者（寝技自慢の弁護士も参加！）、元プロレスラー、さらには元プロ野球選手や、格闘技以外のスポーツ経験者、お笑い芸人、そして谷川貞治K—1イベントプロデューサー（以下・谷川EP）も大好きな中学生と、K—1らしくとってもバラエティに富んだ人材ばかりとなった。

そればかりか、応募した覚えもないという自称〝インディーのカリスマ格闘家〟入江秀忠や、元サッカー選手でJリーグの横浜Fマリノスに入団するはずだったが、契約のゴタゴタで入団していないという謎の黒人男性（当日、飛び入り参加！）、そして、昨年末の『Dynamite!!』でデビューした韓国の元砲丸投げ選手のランディ・キム（コミュニケーション不足のため本人もなぜ参加していたのか理解しておらず、一次審査終了時点で帰宅）なんて人たちまで名を連ねていたのだから、もう言うことなしだろう。

まず、一次審査は体力テストで、腕立て伏せ100回、腹筋100回、スクワット100回、そして反復横飛びというメニュー。しかし、腕立て伏せ、腹筋、スクワットは審査員のアーネスト・ホーストの「習慣的にやればできるようになるのだから見なくてもいい」との意向によ

審査員となったホーストは、「このトライアウトはK-1にとってもプラスになる。自分もK-1戦士の育成に力添えをしていきたい」と総括。また、谷川EPは「いいメンバーが揃いました。合格者だけの試合を後楽園ホールとかでやりたいですね」と今後の展望を語った。

「これが私の正装です」とまわし姿でトライアウトを受けたIRO関こと色増幸作。ゼッケンが29番だったことで「29（ニク＝肉）の日ということで、ご縁があるんじゃないかと。どうぞ、よろしく〜」とうやうやしく審査員に挨拶をしていたのだが、まったく相手にされることはなかった……。でも、この日一番目立ってたぞ！

プロ野球、お笑い芸人、サッカー、

いいか、よく見ろ！

K-1 JAPAN TRYOUT ～日本人選手育成プロジェクト～

【合格者＝9名】
富永健義（25）177cm、84kg　欽ちゃん球団
杉本幸績（24）190cm、83kg　経験者（キック）
三沢晃治（22）184cm、90kg　経験者（キック）
洪太星（26）185cm、90kg　極真空手（世界大会出場）
高荻ツトム（24）181cm、97kg　2004年 新空手優勝
濱田敦史（26）182cm、95kg　J-NETWORK 3戦3勝
藤本京太郎（20）182cm　J-NETWORKヘビー級4位
百瀬竜徳（27）187cm、93kg　RISE11戦6勝
山宮恵一郎（34）178cm、90kg　経験者（パンクラス・キック）

【特別合格者＝4名】
日下部竜也（14）157cm、53kg　全日本Jr.空手優勝
小川翔（13）166cm、55kg　タイ遠征経験（1RKO勝ち）
秋元皓貴（14）165cm、52kg　全日本Jr.空手準優勝
野杁正明（13）161cm、53kg　Jr.空手道優勝

【準合格者＝10名】
春日俊彰（27）178cm、95kg　アメフト／お笑いコンビ「オードリー」（R-1一回戦敗退）
立川隆史（31）183cm、93kg　プロ野球元ロッテ
山本哲也（19）177cm、80kg　腕相撲チャンピオン
石倉建（33）183cm、110kg　経験者（キック）
小泉竜（16）186cm、72kg　経験者（極真空手）
藤井将貴（16）181cm、90kg　空手関東大会優勝
伊藤純（28）184cm、80kg　ボクシング12戦8勝6KO
河野真幸（26）192cm、110kg　経験者（MMA・プロレス）
西脇恵一（28）184cm、98kg　K-1 1戦1敗
ジャクソン・リアブラ（27）183cm、85kg　山木ジム／サッカー

総合格闘家でありながら、全日本キックでも活躍するGRABAKAの山宮恵一郎が合格者の一人に名を連ねた。「総合は一度タイトルを獲ったので、次はこっちでタイトルを獲ります！」と自信満々にアピール！

り、こちらの結果はまったく無視！「K－1ファイターに重要なのは俊敏性だ」ということで、反復横飛びの結果のみが重視されることになった。それでも、一次審査は全員通過だって！

続いての二次審査はミット打ちとスパーリング。こちらは、ホーストが「重さを確かめたい」とのことで、自らミットを持ってピックアップされた参加者の打撃を受けるほどの熱の入れよう。また、参加者同士のスパーリングでは、谷川EPが「軽くね、軽く」と注意するほど、ケンカ腰のスパーリングが展開された。

最後は自己アピールを30秒間行なって、全審査が終了。約7時間におよぶトライアウトの結果、合格したのは9名で、中でも注目を浴びたのは欽ちゃん球団に在籍していた富永健義だ。合格者の中では唯一格闘技経験がないもののむやみに太い腕が目を引き、谷川EPも「スター性もあるし、お父さんがキックボクサーという血筋なのか、ミット打ちでホーストさんに前に出てこられても下がらない。これは素人にはできないことです。今日のMVPです」と絶賛していた。

また、谷川EP曰く「正式には不合格」ながらも10名が準合格。彼らは今後行なわれる合宿などに参加し、再チャレンジすることになった。その中には一部新聞紙上で報道されていた元プロ野球選手の立川隆史も含まれている。そして、4名の中学生たちも特別合格となった。

この合格者プラス準合格者の19名がホーストとマイク・ベルナルドのもとでトレーニングに励み、夏頃（！）のデビューを目指す。また、すでに経験のある者たちは、順次他団体に送り込まれて、試合をこなしていくとのことだ。

と、このような感じで行なわれたK－1のトライアウトだが、今後、リアリティショーとしてどのように展開されていくのか詳細はいまのところ未定。デビューまでの期間もやたらと短く、見切り発車的な感じもするが、彼らの奮闘の模様はフジテレビの『SRS』で随時放送されていくらしいので注目してみよう。

K—1トライアウトになぜか登場"インディー界の問題児"の真意とは!?

「オイ、谷川〜ッ! 俺をリングに上げろ〜ッ!!」

37歳チョイ不良ファイター 入江秀忠

今回のK—1初のトライアウトで、ある意味、一番目立っていたのが自称"インディー界のカリスマ"入江秀忠だ。グラップラーのイメージの強い入江が、なぜか首にコルセットを巻いたままK—1トライアウトに登場。基礎体力テストでは抜群の成績を残し、自己アピールでは谷川プロデューサーに「K—1に俺を出せ!」と猛アピールしたものの、あえなく落選。ひさびさに表舞台に登場した、この問題児の真意を直撃!!

聞き手&撮影/松澤チョロ

——しばらく表舞台で見かけなかったんですが、いきなりK—1トライアウトに出場してて驚かされましたよ!

入江 去年、肺炎になって死にそうになりながらDEEPで試合して(06年4月11日 ゲガール・ムサシに2ラウンドTKO負け)、そのあと、しばらく落ち込んでたっていうのもあるし、なんていうか……燃え尽きてた。

——燃え尽きてた?

入江 そう。なぜかって言ったらね、俺はメジャーを目指してやってきて、実際、俺の悪友でもある佐伯に「『PRIDE』に俺を上げろ」って口が酸っぱくなるほど言ってたんだよね。

——よく言ってましたよね。佐伯さんはDEEPの代表ですし、方向性的には『PRIDE』に上がれる可能性もなくはないですよね。

入江 でもね、佐伯から「お前のメジャーデビューは1000パーセントない」って言われて、ガクッときたんだよね。

——そこで『PRIDE』は無理だと判断して、方向転換して今回K—1トライアウトに挑戦したわけですか?

入江 いや、違うんだよ。ここ最近、俺はビジネスのほうでちょっと頑張ってたからね。もちろん道場経営とかいろんなイベントとかもやってたんだけど、最近は投資とか、福祉施設の副施設長をやってたりで忙しかったの。

——投資と福祉施設の副施設長!なんか早口言葉みたいですけど(笑)。

入江 そういうのをやってたりで忙しくて。それに、そっちのほうが儲かるんだよ、格闘家をやってるより。まあ、俺の場合はたまたまそういうビジネスの才能がちょっとあっただけなんだけどね(得意気に)。

——それは知りませんでした。入江さんって、いまおいくつでしたっけ?

入江 44年生まれの37歳。

——同い年の格闘家というと?

入江 田村(潔司)さん、桜庭(和志)さん、吉田(秀彦)さん。あと、ちょっと前に辞めちゃった高阪(剛)さん。

——錚々たるメンバーですね。

入江 だからね、俺以外は当たり年って感じかな(笑)。

——また自虐的な(笑)。

入江 それで、俺ね、今年の2月1日に交通事故に遭ったの。

——トライアウトのときも首にコルセットを巻いて来てましたからね。

入江 そうそう。去年の10月の初めにも交通事故に遭ってるしね(笑)。

——違う意味で当たり年ですね(笑)。

入江 そういうのもあって練習休んでたんだけど、たまたま事務所でプレステやってたら、郵便受けからウチのRYOTAが持ってきた書類の中に「FEG」って書いてあるのがあって。

——FEGといえば、K—1ですよ!

入江 「俺、FEGと付き合いないのになんだろう?」って思って。それで開けたらK—1トライアウトの合格通知とか書いてあって。「あなたは第一次選考通りました。25日にフジテレビに来てください」って。俺、送ってねえのにビックリしちゃって(笑)。

——不思議な話ですよね。

入江 最初は佐伯の陰謀かなと思って。絶対"どっきり"だと思ったの。フジテレビの前に行ったらサムライTVあたりがいるかなって思って(笑)。

——「K—1トライアウトに落ちた男を直撃!」とか佐伯さんなら喜んでやりそうですもんね(笑)。

入江 でもいろいろ考えて、ここまで手の込んだことするかな、と。これはちょっと行ってみる価値があるんじゃないかなと思ったわけ。行くだけ行ってダメならダメでいいし。

——トライアウトの何日か前に、元プロ野球選手の立川(隆史)さんとか、グラバカの山宮(恵一郎)選手の名前は発表されてましたけど、その中に入江さんの名前はなかったですからね。

入江 応募もしてないんだから、なくてあたりまえでしょ。

——思い当たる節はないんですか?

入江 K—1だけじゃなく、勝手にメジャーと言われてる代表者宛てに俺の資料を送りつけたことはあったんだよ。去年の暮れか1月の頭ぐらいに。

——それを見て、「こいつも受けさせよう」ってことなんじゃないですか。

入江 確かに谷川貞治宛てにも送ってたからね。谷川さんの目には止まったっていうことだよね。

——捨てられてはいなかったと(笑)。

入江 間違いなく捨てられると思ったけどね、俺は(笑)。

——ボクは事前に聞いてましたけど、実際、トライアウト当日にコルセット巻いた入江さんの姿を見たときはホント驚きましたよ。

入江 半分はウケ狙いもあったんだけど(笑)。でもね、コルセットを巻いてK—1のテーマが流れる中、スタジオに入っていったらテレビ関係者の視線が冷たいんだよね。

——まあ、そうでしょうね(笑)。で、トライアウトは首のケガもあってスパーリングはドクターストップがかかったのもあってか不合格という結果でしたけど、基礎体力審査ではぶっちぎりのトップでしたよね。

入江K—1トライアウト劇場

大相撲時代からの古傷の首を交通事故で悪化させ、トライアウト当日はコルセットを巻いて会場入りした入江。ドクターストップがかかりスパーリングはさせてもらえなかったが、腕立て、腹筋、スクワットといった基礎体力テストは抜群の成績を残し、周囲の視線を釘づけに!

スパーリングはドクターストップにより披露できなかった入江だが、ミット打ちではカカト落としなど派手な技を得意げに披露。最後に行なわれた自己アピールタイムではサングラスをかけると「谷川〜、俺をK-1のリングに上げろ〜ッ!」と絶叫。これにはさすがの谷川さんも苦笑い。

入江 腕立て、腹筋、スクワット、すべて1位だよね。腕立てしてるときに谷川さんの熱い視線も感じたんだけど。

——みんな脱落していく中、一人で続けてましたからね。

入江 まあ、結果的には合格じゃなかったけど、フジテレビのスタジオで、そして谷川貞治の前で、ついに念願の「谷川、俺を出せ〜ッ！」っていうマイクアピールができたのはバッグンだった。人生の中で最高にモチベーションが上がった瞬間だったね！

——本人的には大満足だったと？

入江 あれをやろうというのが夢だったわけだから。夢というのはなんのきっかけでかなうかわかんないね。でもさ、ドクターに首のケガのことを言わないでスパーリングしてれば、たぶん相手をブッ倒してただろうし、基礎体力も俺は全部トップだったし、マイクもよかったということで、落ちる要素はまったくなかったと思うんだけどね。

——合格者発表のときはドキドキしたんじゃないですか？

入江 ドキドキしてた（笑）。でも俺を落として正解じゃないの？

——と言いますと？

入江 たとえメジャー団体のK—1でも、トライアウトで一から真面目にいい子ぶって、のし上がるっていうのは俺に向いてないから。逆に、俺はK—1の枠にはまらなかった人間だよね。取り込まれなかったっていうか。

——……。結果論ですけど、万が一トライアウトに合格してたら、合宿とかに参加してK—1デビューをマジメに目指してたんですか？

入江 それはわかんないけど、俺にはどうしてもメジャーの舞台に上がらなきゃいけない理由があるんで、なんかしらの行動はしてたと思うよ……っていうか、これからするし。

——まだ終わってないわけですね（笑）。

入江 これからだよ。なんかね、交通事故もそうだし、今回のトライアウトの書類の件にしたって、めぐり合わせのような気がするんだよ。もしかしてメジャーに上がるときってこういうときじゃないかなって。

——ポジティブシンキングですね（笑）。先ほど言ってた〝どうしてもメジャーに上がらなきゃいけない理由〟っていうのを、教えてもらえませんか？

入江 俺はね、自分のためというより、後進のためとかを考えて新しいプロジェクトを立ち上げようとしてるの。そのプロジェクトで選手育成や発掘をしてメジャーを目指させようって計画があるんだけど、俺自身がメジャーに上がってないと説得力がないんだよ。

——まあそうでしょうね。もう少し具体的にお願いできますか？

入江 具体的に言うと、いまの総合の選手が安心して働けるところや、引退したあとも安心して生活できるようなシステムの構築っていうのが、いまの俺に課せられた使命だと思ってる。

——そ、それは凄い使命ですよ！

入江 総合で俺の同期ぐらいのヤツはほとんどやめて、そのあとの人生がどうなったかっていうのはある程度知ってるけど、これだけ夢を賭けて死ぬ気で闘ってきても、そのあとの人生が有意義なものになってない人が多いんだよ。そうじゃなくて、俺は頑張ってきた人間に対して、それだけの見返りとか、残りの人生を有意義にすごせるように、要は総合格闘技の実業団化だよね。それが俺の目標！

——総合格闘技の実業団化！

入江 そう。バレーボールもあるし、サッカーもあるでしょ。それと同じように会社名を背負って試合に出る。昼間仕事して夜は練習するようなシステム。いまの総合の世界ってバイトしながらやってる人がほとんどでしょ。

——格闘技だけで食べてる人はほんの一部ですからね。

入江 そういうシステムが確立できたら、たとえば総合をやめて引退したあとにビジネスで才覚を現わすヤツもいるだろうし、総合やめて音楽やったっていい。総合やってるヤツの中にも、いろんな才能持ってる人間がいると思うし、可能性っていうのは無限大だしね。とくに若いヤツは。だから若いヤツが安心して夢を見られるようなシステムを構築したいんだよ。

——そのためには、もっともっと知名度を上げなきゃいけないと？

入江 そう。スポンサーとかの話も含めて、いろいろ動いてるんだけど、やっぱりメジャーのリングに上がってなきゃダメなんだよ。

——具体的に闘いたい相手とかは？

入江 相手は誰でもいい。どんなデカいヤツでもどんな強いヤツでもやるし。今回が最後のチャンスだと思って上がるためにはなんでもする。とりあえず、今度また署名運動するから。

——署名運動！ 確か、ヒクソン戦をブチ上げたときもやりましたよね？

入江 ヒクソン戦のときはガチンコで3000票以上集めたからね。

——でも、残念ながらヒクソン戦は実現してないですよね。

入江 30万ぐらい集めなきゃダメかな？

——そういう問題でもないような気がしますけど（笑）。

入江 まあでも、人ってめぐり合わせってあるし、今年はK—1、『HERO'S』、そして谷川貞治っていうのをとことん追いかけようかなって。

——（小声で）かわいそうな谷川さん。

入江 もう1回絡んじゃったからね（笑）。向こうは軽い気持ちで呼んだんだろうけど、俺はそういう人間じゃないし。必ず俺はメジャーに上がる。いろんなところでドンドン署名を集めて、谷川貞治に直談判しに行くから。

——ズバリ、目標はどれぐらい？

入江 1万票は集めたいね。でも、ヒクソンのときと違って、今回は相手とかっていうよりメジャーシーンに上がるっていうのが一番の目的だから。俺も首のケガって相撲時代からの古傷でもあるんで、もう完治することはないし、ホントに時間はないんだよ。そういう焦りもあるし、今年中になんとしてでもメジャーのリングに上がれるよう行動に移していくから。

——わかりました。遠くから見守っていきます！（笑）。

入江 ホント、リングに立つだけでいい。勝っても負けてもかまわない。立ったら俺の勝ちだ！ この闘いは。

——リングに立つだけでいいんだ（笑）。

入江 （無視して）オイ、谷川〜ッ！ 俺をリングに上げろ〜〜ッ!!

【3月7日／新宿『PINK BIG PIG』にて収録】

俺にはどうしてもメジャーの舞台に上がらなきゃいけない理由があるんだ……

本文中にあるようにスイッチが入った入江は誰にも止められない。マスコミに“1万人署名メジャーへの道〜清き1票〜”なるリリースを流すと日本全国署名運動の旅に出た入江。3月12日にはDEEP事務所で佐伯繁氏に強引に署名させると、その足で『HERO'S』が開催される名古屋レインボーホールで署名活動。この署名活動は入江がメジャー団体に出場するまで続けられるという。トホホホ……。

いりえ・ひでただ■1969年6月17日、長崎県出身。大相撲界を経て総合格闘技界へ。95年アマ修斗ヘビー級優勝、97年コンバットレスリング優勝。プロ修斗デビューを蹴りキングダムに入門するも1カ月で崩壊。その後、キングダム・エルガイツを立ち上げヒクソン戦をブチ上げたり、DEEPで佐伯代表と抗争を繰り広げたり、男女関係のもつれから逮捕騒動に巻き込まれたりと、インディー格闘技界のお騒がせ男の異名を持つ。182cm、97kg。

インサイドコリア

인사이드 코리아

韓龍格闘技ノンフィクション劇場

第13回

その全貌に独占肉薄!!

ついにパンクラス・コリア旗揚げ!

文／大川“隊長”義之
写真／武zine

2007年3月10日、韓国・釜山でついにパンクラス・コリアが発足し、初のアマチュア大会が行なわれた。今回は第1回パンクラス・コリア大会の潜入レポートと、試合後の主催者インタビューをお届けする。

★

初のパンクラスのアマチュア大会は、釜山のスパルタン・ジムで行なわれた。このスパルタン・ジムは、レスリングの元韓国代表ホ・ソンジュン館長の運営するジムで、総合格闘技の技術を教えている。

釜山市内にあるジムで地下に位置しながらも、広いスペースと施設を誇る。すでにパンクラスのオフィシャルジム的な役割をはたしており、今後もパンクラスのアマ大会の常設会場はここになるという。

試合への出場は、プロ経験のないことを条件に格闘技歴のある選手が書類選考され、4階級全12試合が行なわれた。大会は、日本のパンクラス・ゲートと同様のルールで行なわれ、数十名の関係者とファンが熱く試合を見守る中、午前11時にスタートした。アマチュアスポーツというよりは、まるで生死を懸けた鬼気迫るファイト内容になるあたりが韓国らしい。判定決着はほとんどなく、多くの試合がサブミッションで決着がついた。一本を常に狙う姿勢は、図らずもパンクラスらしい試合内容となり、会場はミニライブのように大興奮でファンは歓声を送り続けた。

韓国ではソウルでしか格闘技大会が開催されず、地方の人間は長く格闘技に飢えた状態にある。今回出場した選手が異様にアグレッシブだったのも、焦らされた地方の鬱憤が噴き出したのかもしれない。格闘技が異常な視聴率を獲得する韓国にもかかわらず、大会開催が少なく、しかも開催はソウル首都圏に偏っていることを考えれば、釜山に基盤を置くパンクラス・コリアにかかる期待と役割は、決して小さくないと言えるだろう。

無事、第1回大会を終えたあと、パンクラス・コリアの代表イ・ドンギ氏（注1）と、広報室長のキム・ギテ氏（注2）に話を聞いた。

★

――まずパンクラス・コリアを立ち上げることになった経緯を教えてください。韓国の報道では、3年前から準備してきたとのことですが。

イ・ドンギ（以下、李） 準備は水面下でやってました。もともと個人的には『PRIDE』よりもパンクラスや修斗が好きだったんです。そのときは自分もトレーニングを続けながら、漠然と「自分もあんな舞台に立ってみたい」と思うだけでしたが、まるっきり遠い国の話でした。その後03年に初めての総合格闘技の大会『SPIRIT MC』が開催されたとき、尾崎社長やスタッフの方が韓国にいらっしゃったんです。そのとき、自分が運営していたウェブサイト『FSN』にパンクラスのコーナーがあったのを見て、連絡くださったのが縁の始まりですね。

それから連絡を取りながらいろいろな話を続けていたんですが、正直自分たちが韓国でパンクラスをやるなんて思っていなかったんです。ただ、自分もその後ずっと『SPIRIT MC』や『KPW』のレフェリーや大会運営を続けてきたので、そういう姿を見て尾崎社長も我々を信じてくださったんでしょうね。

それで最初にお会いしてから3年ぐらい経ったとき……去年の初めですが、尾崎社長のほうからなんと「韓国でパンクラス・コリアを始めないか?」というお話をいただきました。

キム・ギテ（以下、金） パンクラスは、古くから韓国人選手をよく出場させてましたし、04年に一度韓国大会をやろうとしたこともありましたから（注3）、ずっと韓国に進出したいという意欲はあったんでしょうね。ただ、尾崎社長が探していたのは、事業を拡大していく経営パートナーではなくて、「信じて一緒にやれる人」でした。僕らもパンクラスのことはずっと好きでしたから、尾崎社長とやり取りしているあいだに、結局自分たちがやることになったんです。

――今後の具体的な方向性や計画を教えてください。

李 できればパンクラス・ゲートの大会を1ヵ月に1回は開催しようと思ってます。まあ、2ヵ月に1回になるかもしれませんが、最低でもソウルと釜山で1回ずつやって、秋頃に選手を選抜して「韓国ネオブラッド・トーナメント」を開催したいですね。そして日韓のネオブラッド優勝者同士の対抗戦を実現させたいと思っています。

――それはおもしろそうですね！　今回の

パンクラス・コリアの首脳部。向かって左から代表のイ・ドンギ、ホ・スンジュン、キム・ギテ。ビジネスからかけ離れた彼らの情熱が、パンクラス・コリアを生むことになった。

アマ大会に応募した選手はどれぐらいいるんですか？

李　オープンな応募で、30人以上応募がありました。最終的には、経歴や指導者の推薦などを見て、12試合になりましたが、今日様子を観に来られたジムも多かったので、参加者はドンドン増えていくでしょう。

――今回の選手レベルと試合内容についてどう感じましたか？

李　選手のレベルは非常によかったですね。テクニックで勝とうとする選手もいましたが、今日出場した選手は、みんな基礎体力がしっかりしていました。ルールのせいかもしれませんが、みんな非常にアグレッシブで、常にフィニッシュを狙う姿勢がよかったです。アマとしてはかなりよいほうだったのでは、と思っています。

金　ただ今回出場した選手はアグレッシブでしたが、柔術系のジムの選手が多かったためか、「とりあえずポジションをキープして」っていう選手も見られました。そういう選手には、今後このルールに合わせた闘い方を学んでいってくれればと思います。

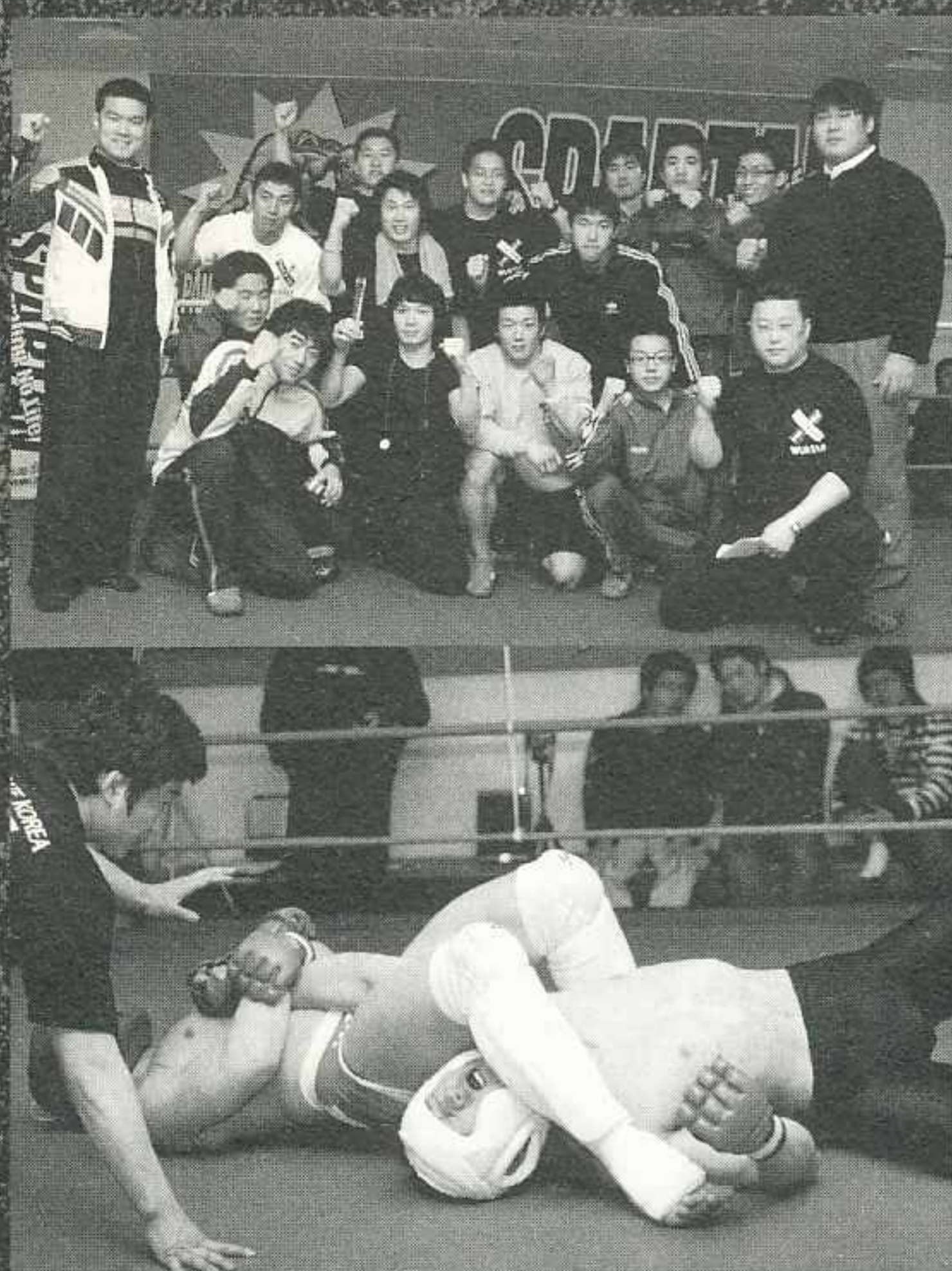
――一試合、レフェリングで問題があったような気がしますが（笑）。

李　すみませんでした！　あれは……ゴングを鳴らすタイミングを間違えてしまって。機械の扱い方の問題でした。選手には申し訳なかったんですが、運営陣もこういうアマチュア大会を通して経験を積んでいければと思っています。

――では、いまの時点でのパンクラス・コリアとしての最終目標は？

李　それは、韓国で育った選手がパンクラスのベルトを全部獲ること！

――日本のように、内弟子を取って選手を育てるということは考えていますか？

金　将来的には、そういうことも考えています。ソウルと釜山にジムを作って、『P'sLAB・ソウル』と名付けるとか。団体が大きくなって芯が揺らがなくなったら、掌底&エスケープありのパンクラス・クラシックルールもやってみたいですね（笑）。

韓国のネオブラッド・トーナメントを開催したい

アマチュア大会が開催された会場のスパルタン・ジム。看板には「パンクラス・ゲート・コリア公式会場」と書かれてある。この舞台からデビューしたファイターが日本のパンクラスのリングで闘う日は来るか？

今回のパンクラス・コリアの旗揚げは、韓国総合格闘技界が発生したときからその中心で審判や団体運営、雑誌の編集者、テレビの解説といった活動をずっと続けてきた者の手によるもので、韓国によくある金儲けを目指す山師的な興行師によるものとはまったく違っている。団体を長く存続させるうえで、格闘技に愛情を持ち、この業界を知り尽くしている者たちが運営を担当するというのは、心強いことではないだろうか。パンクラス・コリアは静かだが、確かな第一歩がいま踏み出された。今後の活動が非常に楽しみだ。

（注1）イ・ドンギ
かつては格闘技専門のウェブサイト『FSN』を運営し、これまでに『SPIRIT MC』や『KPW』では審判部長を務めた経験を持つ。テレビでは長年MBCESPNEでK−1コメンテーターを務めることで有名な人物。根っからのU系ファンで、山崎一夫とヴォルク・ハンをこよなく愛し、今回『kamipro』に自分が出ることをもっとも喜ぶ男。

（注2）キム・ギテ
同じく多くの団体で審判を勤め、『武zine』、『マーシャルアーツ・タイムス』誌の編集長を歴任する。テレビではパンクラス中継の解説者をはじめ、多くの格闘技大会の解説としても活動している。総合格闘技のみならず、古武術などにも造詣が深い。

（注3）パンクラス韓国大会ドタキャン事件
04年7月17日に第1回のパンクラス韓国大会が予定されていた。会場はソウル・オリンピック体操競技場（約2万人収容可能）で大々的に行なわれる予定であり、メインイベントにはパンクラス無差別級王者だったジョシュ・バーネットとランキング2位のロン・ウォーターマンのタイトルマッチが決まっていた。
しかし、韓国でのパンクラスの知名度不足や、宣伝不足などの問題があり、大会直前になっても恐ろしいほどにチケットが売れていなかったという。焦った韓国の主催者は、数百万円を投入してヴァンダレイ・シウバと韓国の芸能人のエキシビションマッチを行なうことを発表し、迷走が始まる。結局、すぐに大方の予想通り大会は中止されることとなった。
ネットからの情報で中止を知った尾崎社長は、すぐにファンに向けて謝罪文をリリースし、この大会に出場予定だった選手に対して契約不履行をせず、日本のパンクラス大会に招聘しながら、誠実に開催中止の事後処理を済ませた。一時、韓国側の主催者は「パンクラス側が不当に選手のギャラを釣り上げた」ことなどを中止の理由に挙げていたが、この韓国大会がパンクラス側の売り興行であったことを考えると、パンクラス側に非はなかったと見られる。
この韓国大会中止後もパンクラスは、韓国の有望選手を来日させながら韓国との関係を維持し、ついに今年になって念願のパンクラス・コリア設立を実現させた。

携帯サイト『kamipro Hand』を宣伝したいダブルクロス電気　部のページ

エレクトリック Hand Power

宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！　一度加入したら絶対やめられなくなる、過剰な更新頻度とおもしろさの『kamipro Hand』をこのページではちょっとだけ紹介させていただきます！

"時代を動かす100人の一人（※『日経エンタテインメント』より）" マッスル坂井の連載コラムが読めるのは『kamipro Hand』だけ!!

『SPA!』の『エッジな人々』インタビューに続いて『クィックジャパン』で特集が組まれたり、『日経エンタテインメント』誌では突然「時代を動かす100人の一人」として登場したりと、着実に注目度を上げている『マッスル』主宰&DDTテック代表・マッスル坂井。5月の後楽園大会もチケット完売直前、マッスル坂井の連載コラムが読めるのは携帯サイト『kamipro Hand』だけ！毎週木曜、絶賛連載中です！

写真は5.4『マッスル・ハウス』に向けて行われた記者会見のもの。写真左端のツノが生えた人物がマッスル坂井さんです。

第29回 「時代を動かす100人の一人」の巻

（3月8日更新分より抜粋）

こんにちは、時代を動かす100人の一人、マッスル坂井です。こないだの4日に宇都宮でDDTの試合があったんですけど、朝早くの集合だったんで、漫画喫茶（渋谷の）で寝ないでダラダラ漫画を読んでたんです。その漫画喫茶に『日経エンタテインメント』が置いてあって、そういえばこないだ事務所に自分の写真を送ってくれってココの編集部から連絡あったなあ、5月の『マッスル』の告知をしてくれてるのかなあと思ってパラパラめくってたらなんと!!「ヒットメーカー列伝〜時代を動かす100人〜」という物騒な特集の、その100人にこのマッスル坂井が入っているではないですか!!

もともと『日経エンタ』はスポーツのカテゴリーがなかったりして、レスラーが露出することはほとんどない雑誌のはずなんですが、どういうわけか僕は【演劇】という枠の10人にちゃっかり潜り込んでいました。

ちなみにこの特集では、ＴＶの有名なプロデューサーや脚本家や映画監督ばっかり載ってて、あげくの果てにはアップルコンピューターCEOのスティーブ・ジョヴスまでいらっしゃいました。【演劇】枠では「阿佐ヶ谷スパイダース」の長塚圭史さんをはじめ、蜷川幸雄さんや三谷幸喜さんが載ってて、そこに普通に自分も入ってるのがどう考えても意味不明でした。というか深夜の漫画喫茶内で軽くパニクって食べてたチャーハンを雑誌にこぼしまくりました。

そんな時代を動かすヒットメーカーの僕なんですが、只今3月8日の午前3時ジャストです。0時の段階で担当のチョロさんには「3時までには必ず!!」と念を押されていたにも関わらず、こんな時間になってしまい本当にすんません。さすがにこの時間になってチョロさんから催促の電話もメールも来ないってことはきっともう静かにお休みになられてるんでしょう。

※この続きはHandでチェック!!

名古屋追加公演も決定!! 『マッスル・ハウス4』

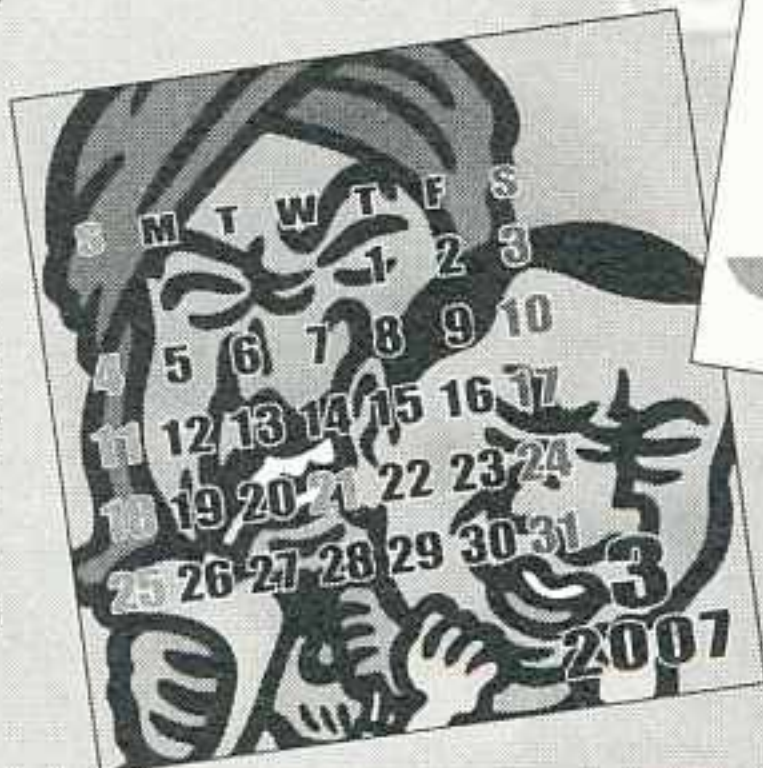
☆5月4日（金・祝）試合開始 19:00
東京・後楽園ホール
Sportiva presents
『マッスル・ハウス4
追加公演　in Zepp Nagoya』
☆5月5日（土・祝）試合開始 13:30
愛知・Zepp Nagoya

【出場予定選手】
マッスル坂井、
アントーニオ本多、
ペドロ高石、趙雲子龍、
鶴見亜門ほか

■後楽園大会
問／マッスル実行委員会
TEL.03-5360-6653

■名古屋大会
問／Sportiva
TEL.052-238-7787

中川雅博画伯の イラストカレンダー&ギャラリー 大好評配信中!!

毎月1日更新の、中川画伯イラストカレンダー&ギャラリー。写真はタイガー・ジェットシン&RG3月カレンダーと、サムライ・越中詩郎!!　イラストの他にも本誌使用写真など『kamiproギャラリー』毎月更新中です!!

「起きろ！いや、むしろ死ね！」

掟ポルシェの絶叫ボイスでさわやかに目覚めろ!!

本誌コラム『萌え萌え女々苑』でおなじみの掟ポルシェが『kamiボイス』に登場！　電話、メール着信、そして目覚ましボイスをHandユーザーのためにシャウトしてくれたぞ！　いますぐ、レッツ・ダウンロード!!

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

「kamipro」で一発検索!!

キャリア				
DoCoMo	iMenu	メニュー/検索	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
Soft bank	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技
WILLCOM	趣味&スポーツ	スポーツ	総合	
WILLCOM	エンターティメント	TV・メディア・本	本	

kamipro Hand

［QRコード］

某携帯サイトからいただきました！　みのもけんじ先生のマッスル坂井イラストを『kamipro Hand』でなぜかプレゼント!!

第2代UFCライト級王者
ショーン・シャーク

第8、11代UFCヘビー級王者
ティム・シルビア

初代UFCライト級王者
ジェンス・パルヴァー

第3、5代UFCウェルター級王者
マット・ヒューズ

初代UFCウェルター(旧ライト)級王者
パット・ミレティッチ

初代UFCミドル級王者
デイヴ・メネー

第4代UFCミドル級王者
リッチ・フランクリン

7人のUFC王者を生んだ男

現役UFCファイター25人を抱える
ミレティッチ軍団マネージャー

モンテ・コックスが語るアメリカMMA界の変遷

いま隆盛を極めるUFCにおいて、もっとも勢いのあるチームといえば、ティム・シルビア、マット・ヒューズらチャンピオンクラスを多数擁するミレティッチ軍団。そして、そんな彼らを束ね、総勢50人のファイターを抱える敏腕マネージャーがこのモンテ・コックスだ。アメリカMMA創成期より興行も手がけ、かつてはリングスUSA大会もプロモートした彼に、アメリカMMA業界の変遷をたっぷりと語ってもらった!

聞き手/堀江ガンツ　通訳/稲垣收　撮影/乾晋也

エレクトリック Hand Power

宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！　一度加入したら絶対やめられなくなる過剰な更新頻度とおもしろさの『kamipro

——今日は、マネージャーとしてティム・シルビアやリッチ・フランクリン、マット・ヒューズら多くのトップファイターを抱え、長いあいだ、MMAビジネスに関っているモンテ・コックスさんに、いろいろとお話をうかがいたいと思います！

コックス　OK。なんでも聞いてくれよ。

——まずこのビジネスに携わるきっかけをうかがいたいのですが？

コックス　いまとなっては信じられないかもしれないけど、じつは私もアスリートだったんだ（笑）。

——確かにいまの大きなお腹からは想像できませんね（笑）。

コックス　そうだろ（笑）。でも昔は優秀なアスリートで、父親がプロボクサーだったからボクシングもやっていたし、高校から始めたバスケットボールのおかげで奨学金をもらって大学にも進学したからね。

——じゃあ、ホントにちゃんとしたアスリートだったんですね。

コックス　それで大学のチームに入ったんだけど、残念ながら、少し身長が足りなかったから（レギュラーの）メンバーに入れなかったんだ（笑）。

——奨学金をもらっておきながら（笑）。でもモンテさんもかなり大きいんですけどね。

コックス　この国は大きい人間が多いんだよ。だから、私はもう一度ボクシングをやることにしたんだ。2年間、アマチュアで28試合こなしたよ。戦績は24勝4敗24KOさ。

——ということは、勝ち試合は、すべてKOですか！

コックス　そうだよ、昔は凄いボクサーだったんだから（笑）。いまとは違って、185ポンドの身体でライトヘビー級で闘っていたんだ。それに加えて私はボクシングのかたわら、ちゃんと勉強もして、大学ではジャーナリズムを専攻していた。だから大学卒業後はインディアナポリスで新聞記者をして、そのあとさらにアイオワに移って、スポーツエディターになったんだ。15年間、オリンピックやスーパーボウルなどあらゆるスポーツを取材していたよ。

——へぇ、もともとはスポーツジャーナリストだったんですか。では、どうしてMMAマネージャーに転職したんですか？

コックス　まぁ、せかさずに話を聞いてくれよ（笑）。アイオワで編集者をしていた当時、そのエリアではボクシングの興行はあまりなかったんだ。そこで、ボクシングに詳しい私が選手を誘致して大会を開催することになった。まず、それが私が興行と関わるようになったきっかけだね。

——メディアがイベントを開くようになるのは日本でもありますね。ボクシングのイベントはどれぐらいの期間やってたんですか？

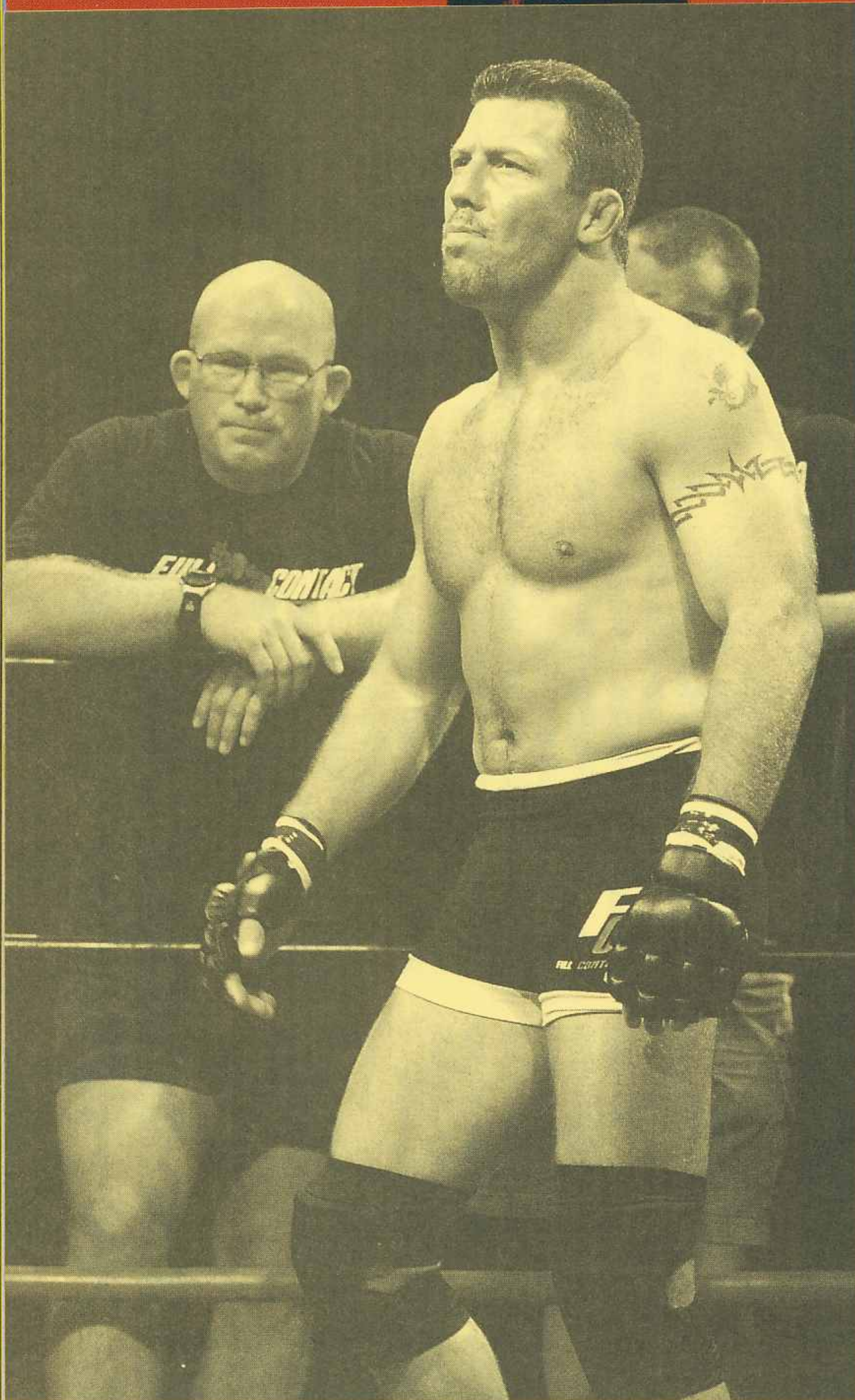
コックス　結局、スポーツエディターのかたわら、2年間ぐらいボクシングのイベントやっていた。そして1995年にパット・ミレティッチというローカルの選手が、アルティメット・ファイティング（当時、MMAはそう呼ばれていた）という新しいスポーツをやると聞いたのさ。

——いまやシルビアやヒューズらのコーチをしている、ミレティッチ・マーシャルアーツの総帥パット・ミレティッチですね。

コックス　そう。でも当時の私は、アルティメットなんて体重の階級もなければ、時間制限もない、ヒドいスポーツという印象しか持ってなかったんだ。だから、アルティメットについて記事を書くことになったんだけど、おそらくネガティブな記事を書くことになるだろうと思っていたんだ。

当時、ジャーナリストだった私に ミレティッチがMMAは野蛮なケンカではなく、スポーツだと示してくれたんだ

——「スポーツとは呼べない、野蛮なケンカ」みたいなことを書くつもりだった、と（笑）。

コックス　そう（笑）。で、いざ記事を書く段階になったとき、ちょうどパットから電話がかかってきて、「このスポーツがどういうものか見せたいから取材に来てくれ」って言われたんだ。それで実際に観に行って、私は驚いたよ。彼はアルティメットが野蛮なものではなく、ちゃんとしたスポーツだということを示してくれたんだ。ボクシングとレスリングと柔術を足した競技だということをね。私はレスリングのファンだったし、ボクシングもやっていた。だから、すぐにアルティメットのファンになったよ。

——ボクシングやレスリングに詳しかった

からこそ、MMAのおもしろさもすぐに理解できたわけですね。

コックス　ボクシングとレスリングを一緒にするなんて、私にとっては驚きだったし、素晴らしいと思ったなぁ。その頃、パットは身体が小さいこともあって、まだUFCには出られなかったんだけど、シカゴで行なわれた『バトル・オブ・ザ・マーシャルアーツ』という観客数3000人ぐらいの小さなイベントに出場することになって、私も一緒に観にいったんだよ。そのトーナメントで彼は3試合を勝ち抜いて優勝したのさ。そりゃ嬉しかったね。

――それが初めて実際に観たMMAイベントですか？

コックス　そうだね。じつにエキサイティングなイベントだと感じたね。で、そこで優勝したパットから「自分たちで大会を開催しないか」と誘われたというか、提案されたんだ。当時、私はボクシングのプロモートはやっていたけど、MMAについての知識はなかった。ちょっとどうなるか不安だったけど、パットをアドバイザーにして翌年やることにしたのさ。

――ついにMMAのイベントをご自分で開催した、と。

コックス　初めて開いた大会は『クラブ・シティ・アルティメット』という名前でアイオワ州のデバンポートの近くの町で開催したんだけど、実際にやってみたら、8000人のお客さんが集まったんだ。

――8000人ですか。それは凄いですねぇ！

コックス　手探りの中でイベントを開催したんだけど、確か当時のアメリカでのMMA動員記録で2位だったと思うよ（笑）。

――メインイベントはやっぱりミレティッチの試合だったんですか？

コックス　そう。でも、相手がなかなか決まらなくて大変だった。シカゴのトーナメントで優勝したこともあって、パットの名前はあっという間に知れ渡ってしまって、誰もパットとは試合をしたがらなかったんだ。だから試合前に、くじで対戦カードを決めたんだよ。

――くじですか（笑）。

コックス　そんなMMAの大会、いまならありえないだろう。でも、当時はトーナメントの組み合わせを前日に決めるなんてことが、けっこうあったんだよ。ところが今度は、そうやって決めたパットの対戦相手がオープニング・セレモニーのあいだに裏口から逃げてしまったんだ（笑）。

――ダハハハ！　敵前逃亡（笑）。

コックス　結局、残った選手の中の一人にギャランティを多く払って、パットの試合を成立させたけどね。とにかく最初は選手を集めるのに苦労したよ。私はボクシングのプロモーターだったから、ボクサーは集められたけど、MMAの選手はよく知らなかったしね。

――それでも、辛抱強くイベントを続けられたわけですか？

コックス　そうだね。そのあともコンスタントに大会を開いて、1年後くらいには編集者を辞めてフルタイムでプロモーターとして働くようになった。なぜなら、キミたちも実感しているだろうけど、残念ながらジャーナリストは儲からない仕事だからね（笑）。

――まったく、そのとおりです（笑）。

コックス　私自身、ジャーナリストは大好きな仕事だったから、あまりお金が儲からなくても続けていたんだけど、MMAのプロモーターというもっとおもしろくて、そして儲かる可能性もある仕事に出会えたので踏ん切りをつけたんだ。そして、フルタイムで働くようになってからは、地元アイオワ州だけじゃなくて、アメリカ中西部全域でイベントをやるようになったんだ。

――一気にエリアを拡大されたんですね。

コックス　そう。それができたのは、私がボクシング時代から各州のアスレチック・コミッションの人間を知っていたからなんだけどね。

――なるほど。ボクシング人脈が活かされたわけですね。

コックス　ただ、もちろんボクシング業界にとっては"商売敵"になるわけだから、反発はあったよ。それに当時

初代UFCウェルター（旧ライト）級王者であり、コーチとしても多くのトップファイターを育てた名伯楽であるパット・ミレティッチ。彼とモンテの二人三脚で"ミレチッテッチ軍団"は発展していったのだ。

のMMAはイメージが悪かったからね。でも、なんとかいろいろと交渉して各地を回って、イベントを開催できるようになったんだ。

——では、モンテさんはもともとはマネージャーというより、オーガナイザー（イベンター）だったわけですね。なぜ、選手のマネージメントもするようになったんですか？

コックス　それは、いろいろとイベントをやっていくあいだに、いい選手がいると、あちこちから「マネージメントをやってやる」という人間が現われてきたんだ。

——ははぁ、想像はつきますね。

コックス　それで、彼ら〝自称マネージャー〟に選手を任せたところ、ブラジルなんかに連れていって、いきなり強い相手と闘わせて、選手が半殺しになったりすることが起こったんだ。まったくヒドい経験だったよ。だから選手を守るために自分自身でマネージメントを始めたわけさ。

——なるほど、そういうことでしたか。最初に、マネージメントを始めた選手というのは、ミレティッチ・マーシャルアーツの選手たちですか？

コックス　そうだね。パットやジェレミー・ホーン、それから、ほかにも多くの知られていない選手がいたよ。

——モンテさんは多くの優秀な選手を抱えてるわけですが、何か独特のマネージメント方法というのはあったんでしょうか？

コックス　私のマネージャーとしてのやり方というのはシンプルで、選手の実力に見合った適正な相手を探すことだね。

——つまり、順序立ててじっくり育てるということですね。

コックス　地道にね（笑）。最初は簡単じゃなかったよ。でもパットがUFCのチャンピオンになったことで、多くのファイターが私にマネージメントを頼むようになったんだ。パットのマネージャーなら安心できるってね。

——名選手の陰に名マネージャーあり、と。

コックス　それから、もちろんチャンピオンのパットを抱えていることで、選手のリクルートも簡単になった。やはり信用ができたからね。いつも大会に出かけては、優秀な選手に声をかけて、その結果、マット・ヒューズやジャーマイン・アンドレ、デイヴ・メネー、ジェンス・パルヴァーたちがチームに加わったよ。そして、そのメネーやパルヴァーがUFC王者になったことで、

ショーン・シャークやリッチ・フランクリンをスカウトしたとき、彼らは試合経験すらなかった

さらに私は新しい選手をリクルートしやすくなったんだ。そのときに獲得したのがシルビアやリッチ・フランクリン、ショーン・シャークといった、チャンピオンたちだね。そうやって、これまで7人のUFCチャンピオンを生んできたんだ。

——こうやって聞くと、錚々たるメンバーですね。

コックス　そうだろ？　それに彼らは私が一から育てたファイターなんだ。マネージメントでよくあるケースというか、儲けるための手っ取り早い方法として、トップファイターを引き抜くということがあるけど、私はダイヤの原石を選ぶようにして選手を育てるのが好きなんだ。たとえば、マット（・ヒューズ）のマネージメントを手がけるようになったのは、彼がまだ2試合しかしてないときで、ジェンス（・パルヴァー）は4試合目だった。ショーン・シャークやリッチ・フランクリンに関しては、当時はまだ試合経験すらなかったんだから。

——へぇ～！　文字どおりゼロから選手を育て上げたわけですね。

コックス　そう。たとえばランディ・クートゥアーをマネージメントするのは簡単さ。彼はもうすでに大スターでトップファイターだからね。でも私にとっては選手を育てるほうが楽しいんだ。実際に選手を鍛えるのはチームのトレーナーなんだけど、いつ、どこで、誰と闘うか。試合を決めるのは、すべてマネージャーである私だからね。

——マッチメイクは選手を育てるうえで、大

3.3『UFC68』では、ティム・シルビア、マット・ヒューズ、リッチ・フランクリンというモンテがマネージメントする3人のトップファイターが出場。いまや彼らはUFCになくてはならない存在となっている。

私は選手と一度も契約を交わしたことがない シェイクハンドの信頼関係だけで充分なんだ

事な仕事ですよね。

コックス　だから……昨日の結果（2・24『PRIDE・33』で、トラビス・ビュー、マック・ダンジグ、マイク・ルソーが敗北）は私の責任だ（苦笑）。

——そういうことになりますか（笑）。

コックス　もう一つ、私のマネージメントでユニークな点を挙げると、私は50人のファイターのブッキングをしているんだけど、彼らとはべつに契約を結んでいるわけじゃないんだ。

——え!?　そうなんですか？

コックス　たいていのマネージャーは、選手とのあいだにマネージメント委託の契約書を持っているだろう。でも私は一度も正式な契約というものを交わしたことがないんだ。私にとっては、握手をして、友情を確認できれば、それだけで充分。彼らはどこに行くのも自由だし、私も止めることはしないよ。でも、これまで8年間、私のもとを去ったファイターは一人もいないんだ。

——へぇー！　もの凄い信頼関係ですね。

コックス　そうなんだ。私にマネージメントしてほしくない選手をマネージメントしたいとは思わないからね。信頼関係が必要なのさ。

——契約社会で生きているアメリカ人でありながら、義理人情の世界というか、少し日本的ですよね。いまのように日本の団体とビジネスするようになったのはどういう経緯なのですか？

コックス　それは、先ほど話したように、私のところに多くの素晴らしい選手が集まってくるようになったので、今度は彼らが闘う場所をもっと探す必要ができてきたんだ。そして、その一つが日本のリングスだったわけさ。そこで、いま私たちの日本側代理人でもあるミス・モトコ（内田統子女史）とコネクションができて、私はボビー・ホフマンやジェレミー・ホーン、パット・ミレティッチ、マット・ヒューズらを派遣したんだ。それが私の最初のジャパニーズ・コネクションさ。その後、リングスが活動を停止したあとも、彼女とのパートナーシップは続いて、いまも『PRIDE』やZSTなどに選手を送っているわけだ。

——リングスはもともとプロレス団体がルーツで、ルールもMMAとは違うルールを採用していましたけど、どうしてリングスに選手を送ろうと思ったんですか？

コックス　確かに当時、リングスはアメリカの格闘技関係者の中ではあまり評判が良くなかったし、私自身、「なぜ、プロレス団体に協力するんだ!?」なんて言われたさ。でも、私が選手を送り始めたのは『キング・オブ・キングス（KOK）』というトーナメントだった。この大会を開くにあたってリングスは、全試合完全リアルファイトを約束してくれた。だから、私も協力することにしたんだ。

——そういった話し合いがあったんですね。

コックス　そして実際、『キング・オブ・キングス』は間違いなくリアルファイトだったよ。しかも、そのときのメンバーはアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラをはじめ、レナート・ババル、ヘンゾ・グレイシーらがいたし、昨日、PRIDE2冠王になったダン・ヘンダーソンもいた。グラウンド・パウンドが禁止されたMMAとは少し違うルールだったけど、サブミッションを中心にした素晴らしい大会だと感心したよ。

——いま考えると、まさに世界最高峰のトーナメントですよね。

コックス　その大会後、ミスター・マエダ（前田日明）と会談を持って、彼は私にリングスUSAのプロモートを任せてくれた。そして、アメリカで4回ぐらい大会を開催したのかな。実際、大会はうまくいっていたんだけど、リングス・ジャパン本体がファイナンス面で問題を抱えて、こっちの活動も終わってしまったんだけどね。

——WOWOWの放映が打ち切りになって、活動休止になってしまったんですよね。

コックス　ただ、選手も闘う場所が必要だから、リングス活動休止後もモトコとは連絡を取っていたし、イベントがあれば紹介してもらうようになったんだ。それで『PRIDE』やパンクラス、ZSTに選手を送ることができたんだ。

——なるほど。

コックス　ただトップファイターはすでにUFCと契約をしていたから、これまでチームのメインファイターを日本に送ることは難しかった。今年からはもっと『PRIDE』にもトップファイターを送りたいと考えているけどね。

——一方、アメリカではここ数年で、急激なビジネスシーンの変化があったと思いますが、それをどう見ていますか？

コックス　どうもこうも、おかげさまで私もリッチになったよ（笑）。まだ正式な契約を結んでないけど、8万スクエアフィート（2エーカー）の土地と家を買うんだ。そこは敷地内に川が流れていて、小さい山もある。たしか、ここシーザースパレスと同じぐらいの面積なんだけど。

——シーザースパレスと同じくらい！　超豪邸ですね!!

コックス　みんなからは〝ファイター御殿〟と呼ばれているよ（笑）。もし、あのまま新聞記者をやっていたら、この家は手に入らなかっただろうね。

——我々も雑誌なんか作ってる場合じゃないですね……（笑）。

コックス　ジャーナリストは楽しいけど、お金は儲からないからね。それに、私は自分の上司のためだけじゃなくて、いろんな団体や選手と働くのが好きだし、この仕事は自分に向いていると思う。実際、このビジネスで敵を作るのは簡単だけど、私にはあまりそういう人はいない。常に正直だし、ちゃんと人と向き合っているからね。

——それが成功の秘訣だ、と。でも、こうして急激にビジネスが大きくなって、困難になったことなどはないですか？

コックス　困難はないけど、とにかく忙しくて手が回らないから、1年前から人を雇うようになった。これまでエクストリーム・チャレンジなど350の大会をやってきたけど、ホテルとの取引や、選手との契約、それに交通の手配などを全部自分でやっていた

リングス後期はモンテがマネージメントする選手が多数出場。田村潔司vsパット・ミレティッチ（上）や、ランディ・クートゥアーvsジェレミー・ホーン（下）などの好勝負が生まれた。

携帯サイト『kamipro Hand』を宣伝したいダブルクロス電気部のページ

エレクトリック

宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！　一度加入したら絶対やめられなくなる

2000年にはモンテ・コックスのプロモートで、リングスUSA大会をハワイほかで開催。大会は好評で、もし、リングス・ジャパンが続いていたら、『PRIDE』より先にアメリカにリングスが根づいていたかもしれないのだ。

リングスは完全リアルファイトを約束してくれた　だから私はリングスUSA大会も全面協力してたんだ

んだ。あと、試合のタイムキーパーもね（笑）。

——多すぎです！　そんなことまで一人でやってましたか（笑）。

コックス　でも、ここまでビジネスが大きくなると、もう無理だね。いまはもう一人のマネージャーに25人の選手の面倒を見てもらっているよ。だから、仕事がハードになったかどうかはわからないけど、仕事が増えたことで、どの選手とより時間をすごすかとか、どの大会に顔を出すかとか、プライオリティを作る必要ができてきた。

——ところで、まだ、大会を開催されたりしているんですか？

コックス　やってるよ。年間に40大会ぐらいね。

——40大会！　DEEPの佐伯さんよりも全然多いですね（笑）。

コックス　私が手がけているイベントで一番大きいのは、エクストリーム・チャレンジという大会で、全米で開催している。ほかにもXFOをシカゴで、それからカレッジ・ファイトをイリノイ州で、ICEをシンシナティでやっているんだ。

——それらはすべて金網の大会ですか？

コックス　そうだね。エクストリーム・チャレンジは去年7000人集めたときもある、私の手がけているもっとも大きなショーだ。普段は多くても5000人ぐらいの規模かな。それからXFOやカレッジ・ファイトが1500人ぐらい。ICEは1000人ぐらいの大会だね。

——ランクごとにいくつものブランドをお持ちなんですね。

コックス　そう。そして、そういった大会で新人を発掘するんだ。エクストリーム・チャレンジではロジャー・フエルタと見つけたし、ICEで見つけたいい選手をXFOに呼んで、さ

7人のUFC王者を生んだ男
モンテコックス

らにエクストリーム・チャレンジにステップアップさせて、その中からUFCに上がっていくわけさ。スペンサー・フィッシャーもXFOで見つけたしね。

——なるほど。2軍、3軍といった感じで、ピラミッドができているわけですね。

コックス　それから、それ以外にもウィークリー・ファイトといって、300人ぐらいの観客の前で毎週やっている大会があるんだ。週に2回で年に100大会ぐらいね。

——年間100大会！　それはさすがに多すぎじゃないですか!?

コックス　でも、これは選手を育成するアマチュアの大会のようなものだから、私の大会数にはカウントしてないけどね。私も毎回顔を出すわけじゃないしね。そこではパットら私がマネージメントするファイターが運営しているジムの選手が闘っているんだ。ショーというよりは、むしろトレーニングだね。いまは毎週2回やっているんだけど、今年からは週に4回ほどやる予定だから、これだけで年間200大会くらいになってしまうよ（笑）。

——それだけ底辺がしっかりしていたら、いい選手も現われますよね。

コックス　そうだね。こうして地道に選手を育てていることが7人のUFC王者を生んだことにつながっているんだ。こうやって早いうちから選手を育成することの何がいいかというと、その選手に応じた対戦相手を見つけて、段階的に育成できるということなんだ。まだ経験のないうちに強い選手と闘わせると、ツブされてしまうこともある。でも、経験をちゃんと積ませてからUFCなど大きなイベントに出ることで、対応する力をつけていくことができるんだ。

ファイターのおかげで私もリッチになった 50歳でビジネスを引退し、家族との時間をすごしたい

——なるほど。やっぱり練習と試合とでは違うでしょうし、自信をつけさせるためにも、いいことなんでしょうね。

コックス　UFCにも出ているトラビス・ビューやジョー・ダークソンは50試合を経験しているベテラン・ファイターだし、ジェレミー・ホーンは100試合以上も経験があるからね。ここで、まず"歴戦の猛者"になって、それから大きな大会に出ていくんだ。

——それは強いわけですね。ところで、いま新興団体が増えていますが。モンテさんから見て、『PRIDE』、UFC以外で魅力的なイベントというとどこですか？

コックス　個人的にはWECは好きだよ。UFCに買収されたけど、ファイトのレベル自体はUFCよりほんの少し低いぐらいだからね。ストライクフォースも素晴らしい。オーガナイザーのスコット・コーカーは友人だしね。

——さすがに顔が広いですね。

コックス　前回、ロビー・ローラーとフランク・トリッグが闘ったアイコン・スポーツもいいイベントだね。『キング・オブ・ザ・ケージ』にはマック・ダンジクが出ている。

——けっこうありますね。しかしこうやってイベントが増えると、ますます忙しくなりますよね。

コックス　そう。それにUFCもイベントの数が増えていて、より多くの選手が必要になっている。だから、いまやアメリカ中のどの大会に行っても私のファイターが出ているよ（笑）。いまUFCと契約している私のファイターは25人もいるんだ。それに加えて、『PRIDE』でも9人のファイターが契約しているからね。

——世界の二大メジャー団体だけで、34人もの選手が契約しているんですね。

コックス　昔は、UFCが30人で『PRIDE』はジェンス・パルヴァー一人だったけど、少しずつ増えて、近づいてきたよ。

——そういったメジャー団体に加えて、エリートXCやボードッグという巨大資本をバックにつけた団体が新たに参入してきましたが、彼らについてはどう見ていますか？

コックス　私はポジティブにとらえているよ。ファイターにとってもマネージャーにとっても、働く場が増えるのはいいことだからね。唯一心配しているのは、彼らの資金が尽きて、選手がペイしてもらえなくなることかな（笑）。

——彼らに限ってそれはないでしょう（笑）。

コックス　というのは冗談として、ルールや大会運営について安全面での心配はあるよ。ただ、私はまだその団体に選手を送り出していないけど、見る限りでは、大丈夫かなと思っているけどね。

——では最後の質問ですが、ここまでマネージャーと成功してきたモンテさんのこれからの目標はなんですか？

コックス　とくに、これといって変わったことをするつもりはないよ。私はすでに（選手育成のための）いいシステムを作ったし、私は自分のファイターが成長するのを見ているのが楽しいんだ。だからいまは、ブロック・ラーソンやロジャー・フエルタ、スペンサー・フィッシャーといった新しいUFCファイターグループの成長を見届けるのが最後の仕事かな。

——最後の仕事？

コックス　そう。私はかつては55歳でリタイアしようと思っていたんだけど、いまはちょっと早めて50歳でリタイアしようと考えているんだ。つまり、それはあと4年ということだね。

——あと4年ですか。せっかく業界が成長してきたのに、もったいないですね。

コックス　そうかもね。でも、私はこれまで本当に忙しくて家族や妻と一緒の時間をすごせなかったんだ。でも、こうやって私が長年頑張ってきたことと、このスポーツがブレイクしたおかげで、どうやら予定より早くリタイアすることができそうだよ。私にはキッズも3人いるし、今度はファイターじゃなくて、彼らの成長を見ていきたいんだ（笑）。

【07年2月25日／米国ネバダ州ラスベガス、シーザースパレスにて収録】

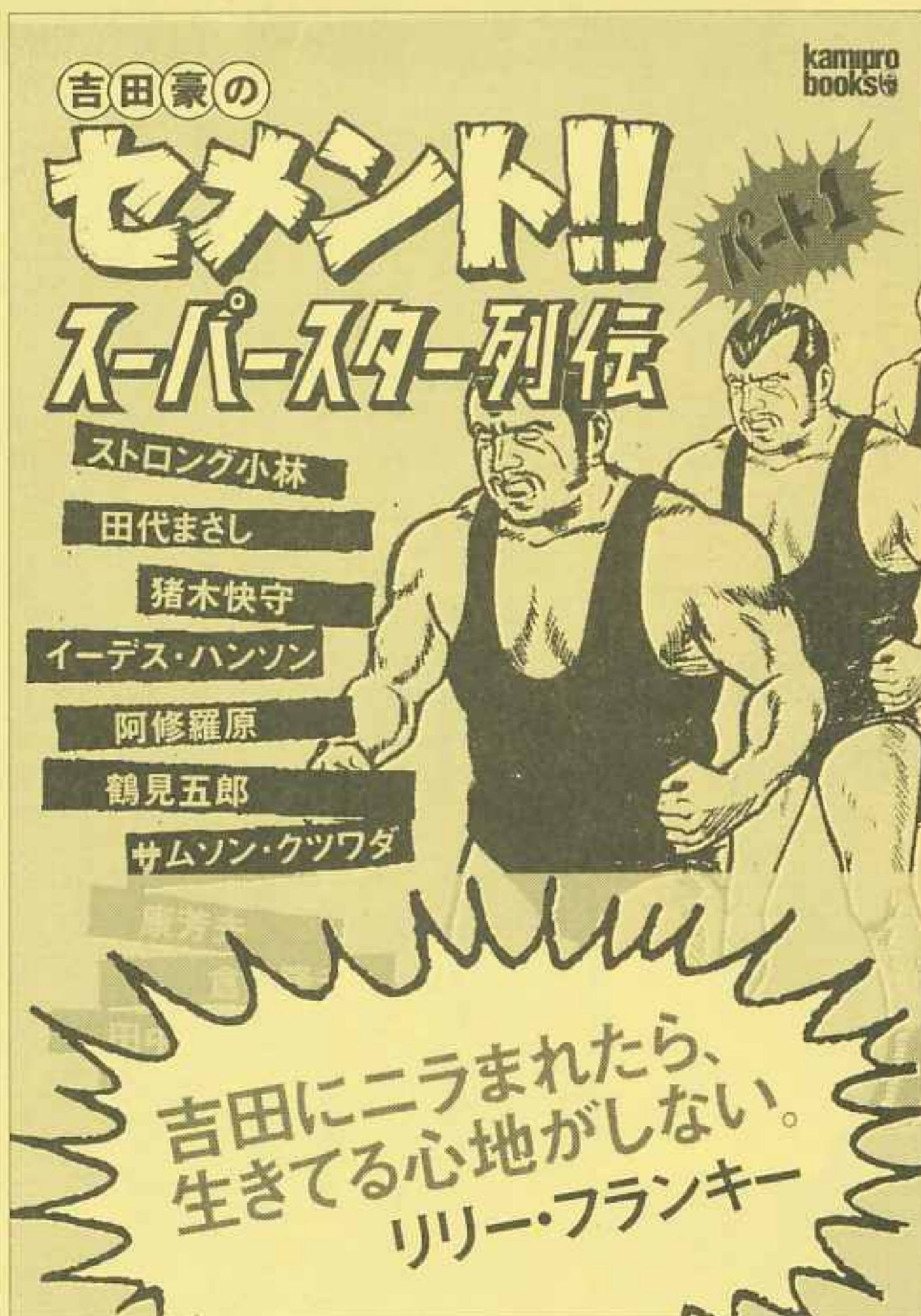
これがモンテ・コックス流 選手育成ピラミッドだ!

UFC
エクストリーム・チャレンジ
XFO
カレッジ・ファイト
ICE
ウィークリー・ファイト

メジャースポーツばりのピラミッド構造をMMAにおいても作り上げているところが、モンテの凄いところ。こうして選手層が熱くなり、そこから名選手が生まれるのだ。

携帯サイト『kamipro Hand』を宣伝したいダブルクロス電気　部のページ

エレクトリック

宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！　一度加入したら絶対やめられなくなる

kamipro books

驚ガク！ 衝ゲキ!!
kamipro booksシリーズ！
死闘インタビューの
歴史的目撃者になれ!!

吉田豪の
セメント!!
スーパースター列伝
パート1
ストロング小林
田代まさし
猪木快守
イーデス・ハンソン
阿修羅原
鶴見五郎
サムソン・クツワダ
吉田にニラまれたら、
生きてる心地がしない。
リリー・フランキー

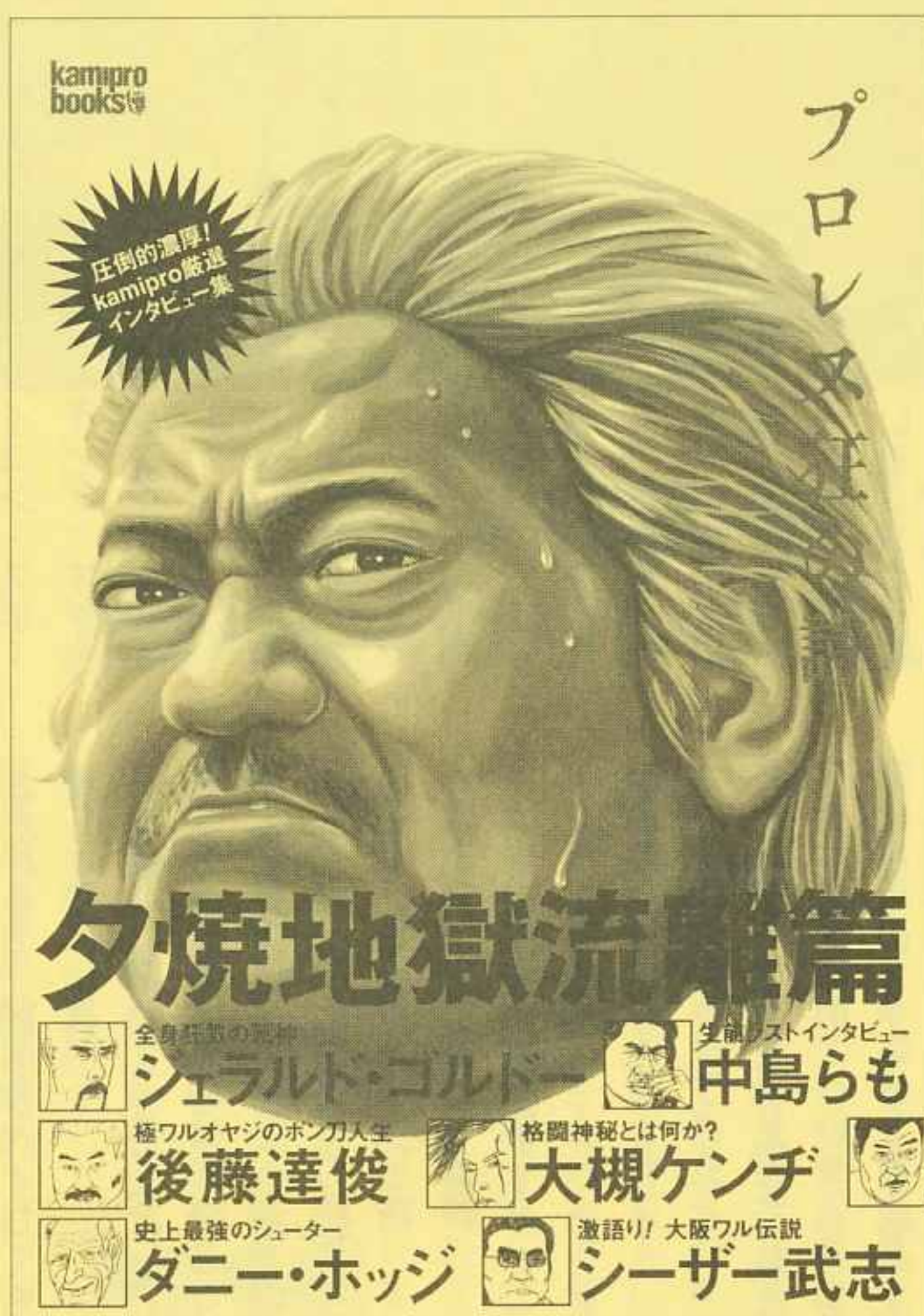
吉田豪セメントインタビュー11連発!!
プロレスインタビュー本の最濃傑作！

★ストロング小林　★田代まさし　★猪木快守
★イーデス・ハンソン　★阿修羅原　★鶴見五郎
★サムソン・クツワダ　★康芳夫　★倉持隆夫
★田中健一　★小川宏

プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー——数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは"下調べの鬼"が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ！

全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判　344ページ　定価＝1,890円（本体1,800＋税）

---

kamipro books
圧倒的濃厚！ kamipro厳選インタビュー集
プロレス狂
夕焼地獄流離篇
シュラルド・ゴルドー
中島らも
極ワルオヤジのホンガ人生
後藤達俊
格闘神秘とは何か？
大槻ケンヂ
史上最強のシューター
ダニー・ホッジ
激語り！ 大阪ワル伝説
シーザー武志

夕焼けがよく似合う人生ガチンコ勝負!!
プロレス狂がシビれる凄玉たちの
壮絶インタビュー集！

★ジュラルド・ゴルドー　★後藤達俊　★小畑千代
★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎　★中島らも
★大槻ケンヂ　★シーザー武志　★ダニー・ホッジ
★高山善廣×金原弘光　★真樹日佐夫×三池崇史

プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる——!!
プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、プロレス＆格闘技専門誌『kamipro』誌上にて掲載されてきた、100本以上にも及ぶ濃厚1万字突破インタビュー。その中から特別厳選収録！　圧倒的な現実をタフに生き抜き、憧憬の的となる圧倒的な幻想をまとった凄玉たちの金言の数々をとことん読み込め！

全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判　304ページ　定価＝1,890円（本体1,800＋税）

enterbrain 株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/

“殺し”の格闘大国

いま甦(よみがえ)る ロシア幻想

**ロシアン・トップチームの逆襲!
第三勢力SKアブソリュート・ロシアの
刺客が日本マット界を狙う!!**

ヴォルク・ハンの愛弟子、ヴォルク・アターエフが4.8『PRIDE.34』で再登場! またケージ・フォースライト級トーナメントにはSKアブソリュート・ロシアの強豪が参戦! 現代の科学的なトレーニング方法のみでは解説することのできない、ロシア軍や国技・サンボで磨かれた彼らの技術は、まさに“殺し”そのもの。日本に標的を絞る彼らの強さに迫る!

ロシアの狼が幻想を現実に変える!!

あのヴォルク・ハンの愛弟子が、ついにPRIDE再出陣!!

格闘大国ロシア。世界的なMMAバブルの中、この国の格闘技界にもビッグマネーが流入し、ファイターを取り巻く環境は変化している。だが、そんな流れの中で、これまでどおり、独自の格闘文化を忠実に守ってきた男たちもいる。4.8『PRIDE.34』に参戦するヴォルク・アターエフを擁するロシアン・トップチームだ。彼らの強さの秘密を探る。

文／橋本宗洋　構成／上杉キリン

世界的なMMAブーム到来！

UFCの急激な巨大化や『ボードッグ』、エリートXCといった巨大資本をバックにした新興イベントの誕生と、最近の総合格闘技界を見ていると、これまでにはない勢いで市場は成長を続けている。

業界の〝物価上昇〟は、ファイターの生活も変えた。贅沢な暮らしをしてるとか、そういうことだけじゃない。設備の整った広いジム。レスリング、柔術、ムエタイ、ボクシングなど専門分野の（しかも一流の）コーチ。ファイトマネーが上がり、収入が増えれば、それだけ強くなることに投資できるのである。

そうやって業界が大きくなり、選手のレベルが上がれば我々もおもしろい試合が観られるわけで、ファンにとっても、この世界的な〝MMAバブル〟は長期的に見れば歓迎すべきことと言えるかもしれない。しかし、あまりにも莫大な金銭が前面に出すぎることに、寂しい思いをしているファンも中にはいることだろう。

そういった思いを持つ人間にとって、ロシアン・トップチームというのは本当に魅力的だ。彼らの強さと魅力は、業界の好景気や、そこからスタートした〝世界MMAウォーズ〟からまったく切り離されたところにある。

ロシアン・トップチームの前身は、いわずと知れたリングス・ロシアである。前田日明が旗揚げした団体リングスに参戦したリングス・ロシアの個性豊かな選手たちは、オランダ、日本勢と並びリングスの中心軸となってきた。だが、前田が引退し、UWF系プロレスの延長線上にあったリングスルールからバーリ・トゥード志向を取り入れたKOKルール（オープンフィンガーグ

VOLK ATAEV

ヴォルク・アターエフ

ロープ着用。ただし顔面パウンドはなし）で試合が行なわれるようになると、ロシアン・ファイターたちの勢いは一時的に衰えてしまう。

バーリ・トゥードの基本は柔術のポジショニング。だがロシア勢が武器としていたのは、サンボ式の関節技である。バーリ・トゥード発祥の地ブラジルやUFCがあったアメリカの選手に比べ、ルールへの対応に時間がかかるのは当然のことだった。ロシア勢にしてみれば「バーリ・トゥードってなんだ？」という状態だったのである。

リングスが開催したKOKトーナメント、その第1回大会で日本初登場を果たし準優勝、第2回大会で優勝を飾ったのは、のちにPRIDEヘビー級王者となるアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラだった。ロシア勢にとっても、ノゲイラは天敵ともいうべき存在。第1回トーナメントではアンドレイ・コピィロフとコーチキン・ユーリーが、第2回ではラバザノフ・アフメッドとヴォルク・ハンがノゲイラの軍門に下った。

ただし、ロシア勢の〝対ノゲイラ〟〝対バーリ・トゥード〟の闘いがそこで終わったわけではなかった。リングス・ロシアのエースだったハンは、KOKトーナメント参戦にあたりルールや戦術を徹底的に研究。新たなルール、そしてブラジル人という新たな敵に勝つためのチームを結成した。それが『ヴォルク・ハン格闘術』である。

サンボやコマンド・サンボに加え、レスリング、ムエタイも徹底的に練習。あらゆる技術を総動員しなければ勝てないバーリ・トゥード、KOKのスペシャリストを作り上げるための場が『ヴォルク・ハン格闘術』だったのである。また、当時のロシアにはソ連崩壊によって国の資金援助を受

けられなくなった、若く有望な格闘家が新たなチャンスをうかがっていた。ハンは彼らにも門戸を開き、バーリ・トゥードというプロ格闘技の世界的潮流におけるロシアの未来を託す。

そこで育ったのが、リングスでヘビー級、無差別級の2冠を獲得したエメリヤーエンコ・ヒョードルだった。リングスが活動を休止すると、リングス・ロシアはロシアン・トップチームと名を変え、『PRIDE』に参戦。そしてヒョードルはロシア勢の悲願だった打倒ノゲイラをはたすことになる。

PRIDEヘビー級タイトル獲得後、ヒョードルはロシアン・トップチームを離脱。レッドデビル入りする。レッドデビルのオーナーはロシアの新興リッチ層であるワジム・フィンケルシュタイン氏。レッドデビルは現在『ボードッグ』と提携し、ヒョードルも『ボードッグ』のロシア大会に出場しようとしている。ロシアン・トップチーム育ちのヒョードルだが、いまはMMAバブル、資金力がものをいう世界の真っ只中に身を置いているというわけだ。

だが、〝ヴォルク・ハン格闘術〟で育った強豪はヒョードルだけではない。その代表格が〝死神落下傘〟セルゲイ・ハリトーノフである。昨年は『無差別級GP』出場査定試合でアリスター・オーフレイムに惨敗、復帰戦でもエメリヤーエンコ・アレキサンダーにKO負けを喫したハリトーノフだが、2月の『PRIDE・33』ラスベガス大会ではマイク・ルソーを相手に一本勝ちを収め、復活の狼煙を上げた。まだまだ本調子とは言いがたいが、昨年の絶不調を脱したことは確かだ。本誌はラスベガスでの大会後、ハリトーノフにインタビュー。今年にかける意気込みを聞いた。

「今年は誰が相手でもどんどん試合をしていきたいね。ケガもよくなったことだし。じつは去年、アリスターとの試合で肩を負傷して、それが治りきらないままアレキサンダーとの試合に出てしまったんだよ。いまから思えば判断ミスだったな。なにしろ医者には『1年間は試合をしちゃいけない』と言われてたんだから。でも、私はどうしてもリングに上がり、闘いたかった。だが、その結果アレキサンダー戦で肩をさらに傷めることになってしまった。手術をしなくて済んだのは幸いだったが、去年は本当につらい1年だったね。だが、つらい日々はもう終わりだ。ファンには、かつてのようなセルゲイ・ハリトーノフの姿をお見せすることを約束するよ。

いまだったら、ヒョードルと闘うことになっても大丈夫だ。ミルコ？ ああ、彼はUF

03年3月、初代ヘビー級王者ノゲイラを下して、『PRIDE』の頂点に立ったヒョードルと、それを祝福するRTT勢（写真上）。しかし同年末、ヒョードルはレッドデビルに移籍することに。

ミルコがUFCに行ったのはよかったんじゃないか。そこには俺がいないからな（ハリトーノフ）

かつてヴォルク・ハンが道場を開いていた地、トゥーラで練習を重ねるRTTの選手たち。この中から、またPRIDEに上がる選手も出てくるだろう。

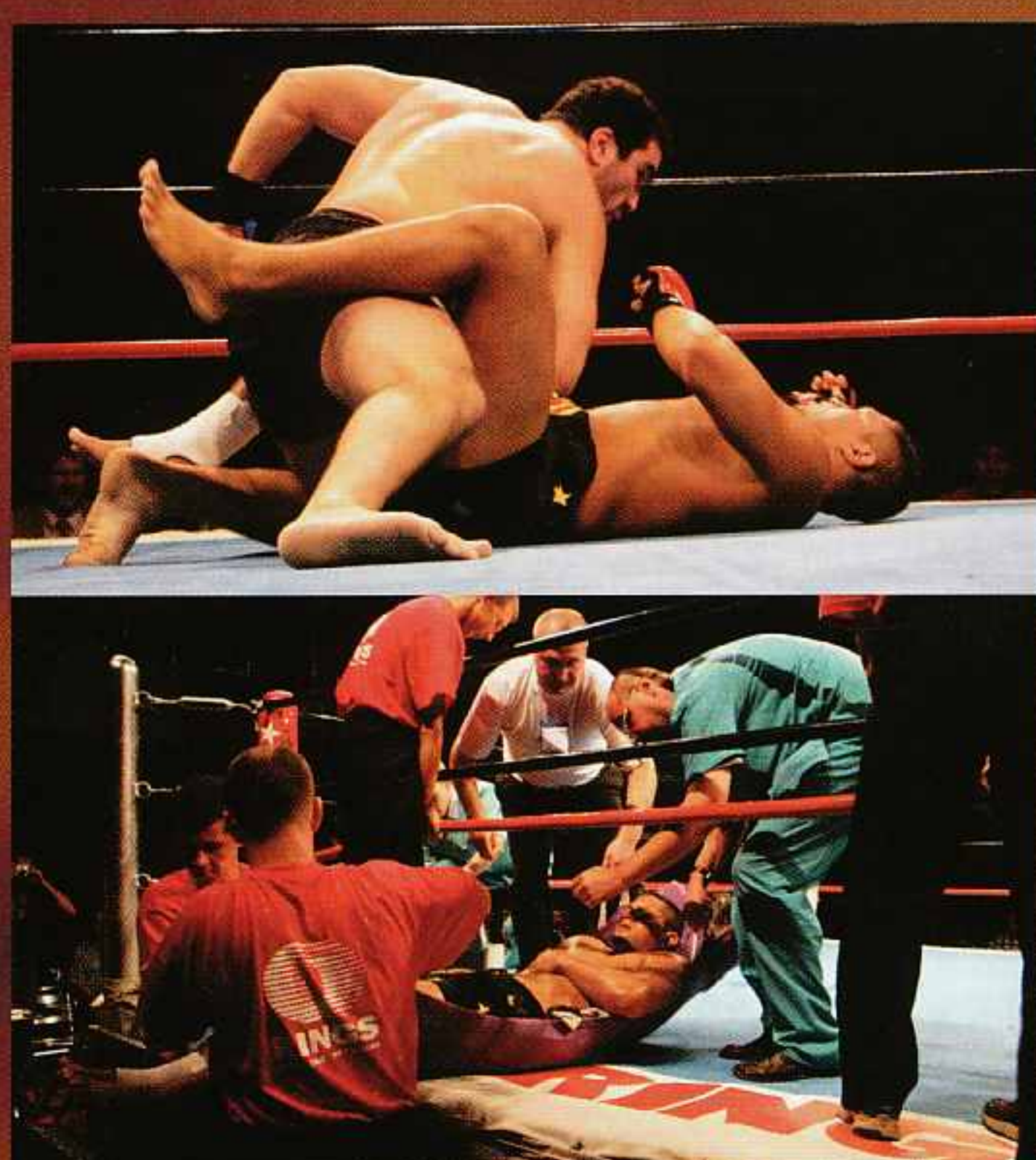
Cに行ったんだろう。それは正しいという か。彼にとってはいい選択だったんじゃないかな。なにしろUFCにはセルゲイ・ハリトーノフがいないんだから（笑）」

ハリトーノフは4月8日の『PRIDE.34』さいたまスーパーアリーナ大会への連続参戦が予定されていたが、ケガのため、欠場することに。しかし代わりに、ロシアン・トップチームからヴォルク・アターエフの出場が決定した。アターエフは『ヴォルク・ハン格闘術』でのハリトーノフの先輩格。ハリトーノフは「彼が『PRIDE』に出場したら、トップグループに入るのは間違いない」と言う。

アターエフは1979年12月3日生まれ、ダゲスタン出身。12歳でロシアの全寮制格闘技学校『ラ・シュビ』に入学し、中国武術・散打を中心にさまざまな格闘技を学んだ。アターエフが次代のロシア勢を担う逸材として期待されながら、『PRIDE』のリングにこれまで一度しか出場していないのは、2008年の北京オリンピックで公開競技になる散打に専念していたからでもあるらしい。そんなアターエフが『PRIDE』出場を決めたことは、2007年にロシアン・トップチームが大攻勢をかけるという決意の表われでもあるはずだ。

アターエフは、ヴォルク・ハンが最も期待をかけた弟子でもあるという。ハンがKOKトーナメントでノゲイラに敗れたときのことだ。打ち上げパーティの会場で、ハンはこう書いたメッセージをノゲイラに送っている。

〈私の魂を受け継いだ弟子たちが、近い将来君を困らせるだろうから、そのときはよろしく頼む〉

この〝ハンの魂を受け継いだ弟子〟とは、のちにノゲイラに勝利するヒョードルのことだと思われてきた。だがじつは、ハンが想定していたのはアターエフだったらしいのだ。ヴォルク（狼）というリングネームを受け継いでいるのがその何よりの証拠。つまりアターエフの能力は、師匠であるハンから見てヒョードル以上……。

05年8月、リングス・エカテリンブルグ旗揚げ戦に出場したアターエフはパウンド一発で相手を失神KO。相手はタンカで運ばれるハメに。さすが、ハンから"ヴォルク（狼）"の名前を引き継いだ男。『PRIDE.34』で、その破壊力を見せつけられるか。

本気で打撃を出したら、大変なことになってしまう。いつも力をセーブしているんだ（アターエフ）

もちろん、アターエフはまだ『PRIDE』で結果を残してはいない。ハリトーノフも、昨年の評価急落を挽回しきってはいない状況だ。だが、それでも彼らには期待してみたくなる。それだけの強固な幻想が、ロシアン・トップチームにはあるのだ。以下に挙げる彼らの言葉を聞いて、幻想を抱かない人間などいないだろう。

「私が試合で相手を殺しそうだって？　いや、人を殺すなんてしたくないな、せめてリング上でだけは」（ハリトーノフ）

「本気で打撃を出したら大変なことになってしまうので、スパーリングではいつも力をセーブしてるんだ」（アターエフ）

「関節技は相手の骨を粉々に砕くつもりで仕掛けろ」（ハン）

「アターエフの試合結果はKOするか、相手にひどいケガを負わせるかだけだ」（チーム関係者）

そして、これらの言葉が単なる〝カマシ〟ではないことを我々は知っている。もちろん試合に勝ち負けはつきもの。彼らにしても勝つこともあれば負けることもある。ただ、彼らがいざ全力を出したときの迫力、試合の凄惨さは他の〝アスリート〟とまったく違う類のものなのだ。

ハリトーノフがセーム・シュルトをマウントパンチで血の海に沈めた場面を忘れろといっても無理な話。アターエフの場合はさらに凄い。キックのヨーロッパ王者との試合では脚をへし折り、リトアニアの空手家と闘えばバックスピンキックでアゴを砕き、全治6カ月の重症を負わせた。アターエフにKOされたロシア人ムエタイ王者は頭蓋骨を骨折、開頭手術という事態にまでなったという。パウンド一発で相手を失神に追い込んだこともある。

もの凄く簡単に、そして物騒な表現をすれば、やはり彼らは〝いつかリング上で人を殺してしまうんじゃないか〟という危険な幻想を抱かせるのだ。それは〝テイクダウン能力に優れている〟とか〝多彩なコンビネーション〟といったありがちな評価とはまったく違う次元のもの。ハリトーノフやアターエフの強さは〈ファイトマネーが上がる→練習環境に投資→より強くなれる〉といった常識的パターンからは気持ちいいくらい逸脱しているのだ。ハリトーノフにいたっては練習の一環として真冬の時期、氷の張った湖に飛び込んだりしているのである。

つまりこういうことだ。『kamipro』が支持したいのは〝資金力〟よりも〝幻想〟であり、〝アスリートとしての能力〟よりも〝人間としての危険度〟である。MMAバブルが膨らめば膨らむほど、その逆方向にいるロシアン・トップチームの戦士たちは存在価値を高めるはずだ。

やや動きが鈍かったものの、『PRIDE.33』ラスベガス大会で、現役警察官との米ロ対決を制して、ひさしぶりとなる勝利を手にしたハリトーノフ。"殺し"が見たい！

幻想をかき立ててやまない新たなる北の勢力

本当に恐ろしい第三のロシアに迫る

SKアブソリュート・ロシア、そして“ロシア軍特殊部隊スペツナズ”出身ウマハノフ・アルトゥールとは何者か？

格闘技界におけるロシアといえば、前ページでお伝えしたロシアン・トップチームやレッドデビルを思い浮かべるかもしれないが、それだけじゃない!!　“もう一つのロシア”SKアブソリュート・ロシア所属のウマハノフ・アルトゥールを知れば、ロシアの本当の恐ろしさが、じわじわと身に染みてくるに違いないのだ！

文／高崎計三　写真協力／パンクラス　構成／松下ミワ

いま〝ロシアらしさ〟の塊のような選手が日本マット界を席巻しようとしているのを知ってるか？　その選手とは**ウマハノフ・アルトゥール**。旧ソ連・ダゲスタン共和国出身で、ＳＫアブソリュート・ロシアに所属する28歳。公式に発表されたプロフィールではコマンドサンボ、柔道、ボクシングを経験（実際に聞いたところでは、13歳の頃に始めた散打、キックが最初。軍隊入隊後にコマンドサンボを始めたらしい）。ロシア国内では２００２年以降、キックボクシング、コマンドサンボ、パンクラチオンの大会で**数々の優勝歴**を持っているという。

ちょっと待て、「ＳＫアブソリュート・ロシア」ってなんだ⁉　まずそこに引っかかったアナタは鋭い。ＳＫとはもともと、ロシアの国技であるサンボをバックボーンに持つ日本人格闘家のチームで、それのロシア支部ということは……たとえて言えば「シュートボクセ・ジャパン・ブラジル支部」みたいなニュアンス⁉　まあそこを追求し出すとキリがないのでやめとくが、ＳＫ総帥の松本天心氏によれば「ロシア国内には、**もの凄く強い**けど外国での試合をする**ルートを持たない選手**がたくさんいる。そんな選手たちを発掘して日本やそのほかの国での試合の機会を与えるための組織」ということになる。

で、その来日第１号がこのウマハノフというわけだ。ウマハノフの売りは、前述の格闘技歴だけではない。なんと言っても、**「ロシア軍特殊部隊スペツナズに所属していた」**という経歴だろう。

スペツナズとは旧ソ連時代に編成された部隊で、現在に至るまで**数々の戦争、紛争の現場で活躍**してきた**スペシャリスト集団**だ。ご存知のとおりコマンドサンボは軍隊戦闘術として発達してきた格闘技だが、ウマハノフの技術は筋金入り！　ということになる。

無傷でリングを降りたことはない

そんな幻想が高まった中での国内第１戦は、昨年９月、Ｄ．Ｏ．Ｇの飯田崇人戦だった。試合開始からいきなりパンチからバチーン！　と音がするローで攻め込み、飯田の蹴り足を取るとパワーボム気味に叩きつける！　マウントからパウンドを落とし、たまらず飯田が背を向けてもバックからパンチを連発。これがまた凄い音！　飯田はこのラウンドを凌ぐも手ひどいダメージを受け、インターバル時にドクターストップが下ってＴＫＯ負け。ウマハノフは**衝撃度バツグンの日本デビュー**を飾った。

この試合でのウマハノフの凄さは、これで終わったわけではなかった。この試合で**眼窩底骨折の重傷**を負った飯田はその後、**何度も手術を受けなければならない事態**となり、いまだ**リング復帰をはたせていない**。飯田のブログによれば自らの**腰骨を摘出して眼底に移植する手術**（５時間にもおよんだとのこと）を受けたほどで、最近でも検査通院を余儀なくされているという。この〝たたり〟のような後遺症

ロシアから新たなる恐怖到来！

Oumakhanov Artur■1979年2月27日、ダゲスタン共和国出身。ロシア軍特殊部隊スペツナズ出身という恐るべき経歴の持ち主で、日本デビューは06年9月のD.O.G.飯田崇戦。今後が最も恐ろしいファイターの一人である。170cm、70kg。

だけでも、ウマハノフの恐ろしさがわかるというものだ
パンクラス初登場となった国内2戦目、12月の宮崎裕治戦も凄かった。バックにつくや、サクラバ・アームロックに取ろうとする宮崎をかまいもせずにジャーマン！　この一発だけで、ベテランの宮崎は**起き上がれず……**。わずか63秒殺のTKO勝ちを収めた。ちなみに宮崎はこの後、2月の大阪大会を最後に**引退**。ウマハノフが宮崎の選手生命を縮めたことは間違いない。

筆者はこの第2戦のあとにウマハノフにインタビューしたことがあるが、**元軍人らしく寡黙**で、とくにスペツナズのことなどに関しては**機密事項**もあってなかなかしゃべってくれない。ただ、総合に関するモチベーションはかなり高いようで、母国でもインターネットで日本の選手の試合を観たりして（You Tube?）研究しているらしい。

今後、闘いたいのは**五味隆典**と**山本KID徳郁**とか。どっちも観たい！　日本での2戦ではこれだけ衝撃的な勝ち方をしたにも関わらず、「どちらも早く終わってしまって何も見せられなかった」と淡々と語るところがまた不気味！　どれだけの強さを隠し持ってんだ！

去る2月末には、このウマハノフに**「あれは幻想。オレが現実を見せる」**と挑んだ伊藤崇文をも圧倒。この日は現地マネージャーの不手際によりなんと**当日来日**、会場入りしたのは夜7時頃で、来日後に1キロ以上の減量を強いられる事態となったが、リング上ではそんなことをまったく思わせない闘いぶりを見せた。やはりドスン、ドスンとえげつない音のパンチ

ウマハノフと闘う選手は、一度として

を食らい続けた伊藤も試合後に引退の可能性を示唆するなど、ウマハノフと闘う選手は全員、**ただではすまない事態**となっているのである。まるで、ロシアから来た〝平成の死神博士〟だ！

本誌発売時にはケージフォース・ライト級トーナメント初戦を終えているウマハノフ。「とにかくたくさん試合をさせてくれ」といつも訴えてくるという彼は、このトーナメント中にも貪欲にほかの大会に出てくることだろう。さらに、3・18パンクラス後楽園大会では「日本vs元・スペツナズ3対3」も開催……と予告されていたが、こちらは諸事情により選手の来日が不可能に。「スペツナズ」という恐怖に日本の〝危険物探知機〟が反応してしまったのか⁉　何はともあれ、「スペツナズ」をキーワードに、ロシアの新たなる勢力であるSKアブソリュート・ロシアもさらに力をつけてきそうだ。第2、第3のウマハノフ級が現われるようだと、これは**怖い！**

2.28 パンクラス・後楽園ホール大会で伊藤崇文と対戦したウマハノフ。写真のようにノーガードでジリジリと攻めよる姿はまさに恐怖！　さらに組みついたら最後、強烈な拳が前から後ろから叩き込まれ、伊藤は判定まで粘ったものの、試合後は顔がボコボコに。

4.8『PRIDE.34』で日本デビュー決定!!

"ジャングル大帝" ソクジュ来日記念

キリンは本当に強いのか!?

そして、闘いとは何か?

混沌とするMMAシーンに"真の世界最強"が襲いかかる!!

ンだ!!

撮影／乾晋也　構成／松下ミワ

本誌独占!!
ソクジュ来日記念
「キリン最強説」
に迫る!

キリンの基本情報

学名	Giraffa camelopardalis
分類	偶蹄目キリン科
種類	アミメキリン、マサイキリンほか 6～12亜種
体長	3.8～4.7メートル
体重	550～1900キロ
寿命	約20年
妊娠期間	約15ヵ月
天敵	ライオン、ヒョウ、ハイエナほか

生息分布図

サハラ砂漠

野生のキリンはアフリカ中部以南のサバンナや疎林に生息する。つまり、図の★部分がソクジュの出身国カメルーンであるから、彼が本誌108号で「オレはキリンと闘ってきた」と話した内容は、現時点では信憑性は高いのか？

首 長くて強い!

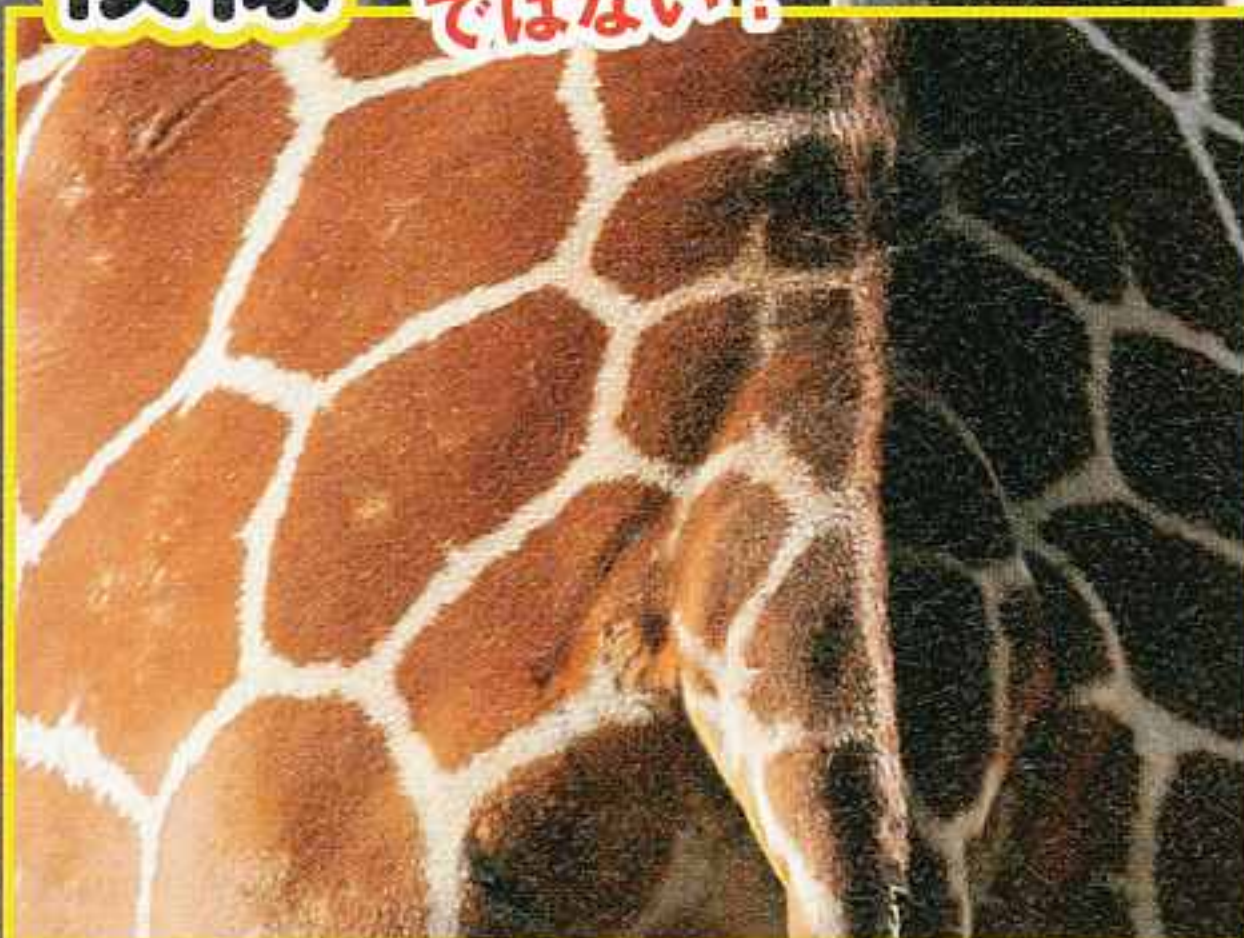
キリンの首が長い理由としては「ラマルク説」と「ダーウィン説」の二説が有力であるといわれている。前者は「キリンは高い木の葉を食べようとして、首が長くなった」という適者生存説であり、後者は「高い木の葉まで食べられる首の長いキリンが代々生き残った」という自然淘汰説である。しかし、この命題に関しては決定的な結論はまだ出ていない。ちなみに、この長い首で軽く攻撃されただけで、人間は数メートル吹っ飛ぶという。

性格 じつはサムライ魂を秘めていた

非常に穏やかでゆったりしており、基本的に争いを好まない温和な動物である。しかし、ライオンなどから命を狙われやすい草食動物であるがゆえに警戒心だけはハンパなく強い。夜、熟睡する時間が5～10分程度しかないという特性も､油断を嫌う性格からである。また､ケガや病気をしていても相手に決して弱みを見せない“サムライ”的な一面も。しかし、動物園のキリンに関しては、これが仇となり、治療が遅れて命を落とすこともあるという。

爪 生まれ持った最高の凶器

キリンの足のひづめは二つに割れており、速く走るのに優れているといわれている。また、敵に襲われたときには強力な武器になるため、ただの爪といって侮ることはできない。さすがキリン！ ちなみに、このように二つに割れたひずめは偶蹄目（ぐうていもく）といわれており、キリンのほかにラクダやカモシカ、イノシシなどがいる。

模様 ただのオシャレさんではない!

通常、日本の動物園にいるキリンはアミメキリンと呼ばれる種類がほとんどで、黄褐色の地に茶色のまだら模様が印象的である。一方､マサイキリンと呼ばれるものは､模様が不安定でわりかしギザギザしている。いずれにしてもキリンの模様に関しては、サバンナ地域で敵から見つけられないようにするための迷彩効果があるという説もあり、一見、優雅におしゃれをしているかのように見えるが、侮るなかれ！ キリンはちゃんと戦闘服をまとっているのである（※写真はアミメキリン）。

快挙！ マット界が危ういいまだからこそ『kamipro』がやるしかない!!

これがキリ

角 じつは頭骨

オス、メスともに頭に3〜5本の角がある。基本的には頭の上に2本、目のあいだに1本あり、種類や個体によってはうしろに何本かの角がある場合がある。これは変形した頭骨の外側を皮膚が覆っているという構造で、このような構造の角を英語でオッシコーンという。一見、何かと間違いそうな呼び名である。

キリン飼育担当者が驚愕発言!

キリンは肉も食べる!!

多摩動物公園・清水さん

「本来、アフリカにいるキリンなんかだと、アカシアの葉などを好んで食べると言いますが、キリンってけっこういろいろ食べますよ。植物関係であれば、果実も食べますし、多摩動物公園のキリンにはビタミン、ミネラルなどの栄養補給のためにペレットという濃厚飼料を与えることもあります。肉は食べないのか？ そんなことはないですね。妊娠をして出産をしたあとに後産がありますけど、それはだいたい食べます。それから30年くらい前の話ですけど、ウチの動物園でハトを食べるキリンがいたんですね。一番の理由としては、キリンはわりと高タンパクのものを好むんですけど、当時の栄養事情ではタンパク質が足りなかったんじゃないかと言われてます。だから、ハトをむしゃむしゃ食べてたと。えっ!? 人間ですか!? いや〜、それは限りなくゼロに近いと思います。正直申しまして、……考えづらいですね。」

※多摩動物公園・清水さんのインタビューは「kamipro Hand」にて絶賛掲載中！

「ホジェリオは確かに強いが、キリンよりは弱い！」——。

突如、出現した『PRIDE』初のアフリカ出身ファイター・ソクジュが、本誌108号で発したこの一言に、マット界（の一部）は脳天を打ち砕かれた！

このソクジュという男、現在はチーム・クエストで『PRIDE』2階級制覇を成し遂げたダン・ヘンダーソンらとともにハードなトレーニングを積んでいるが、かつてはジャングルで、なんと！ライオンやキリンと闘っていたという驚異的な経歴の持ち主なのである。また、柔道では17歳でカメルーン五輪代表候補として名を連ね、日本柔道界が誇るあの篠原信一にも勝利したことがあるという（本人談）。

その恐るべき身体能力を持って望んだ2・24『PRIDE・33』ラスベガス大会では、『PRIDE』戦績9戦8勝の実力者アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ相手に、とんでもない秒殺KO劇を展開！ この大番狂わせに観客席はもはや驚愕の嵐となったのだが、当の本人は「ホジェリオに負けたらキリンに申し訳ねえじゃねえかよ」と、あくまで基準はキリンなのである！

それならば、もう徹底的にキリンについて調べるしかない!! ということで本誌ではマット界専門誌史上初、全16ページに渡って怒濤の動物特集を敢行〜ッ。「キリンは本当に強いのか!?」という命題に始まる野生動物の秘めたるパワー、さらには「動物、そして人間はなぜ闘うのか？」という壮大なテーマまで、専門誌ではありえないくらい徹底的に動物を追求。キリンを通して見る〝真の闘いとは何か？〟——。ページをめくればその答えが見えてくるはず!!（って、そんなことでホントに見えるのかよっ！）。

元祖

アフリカン・アサシン(?)がソクジュの台頭に ペイッ!!

アダモちゃ〜ん♪こと

トラとキス!! ワニとプロレス!!

生か死か? ガチンコ猛獣対決をくぐりぬけてきた芸能界の“動物王者”!

島崎俊郎

「ソクジュなんてペィッ!!」日本を代表する“アフリカン・アサシン”ことアダモちゃんが『kamipro』登場! このアダモちゃんを演じる島崎俊郎さんは、バラエティ番組で猛獣との激闘をくり広げた、お笑い界の“動物ファイター”。数々の修羅場をくぐり抜けてきた島崎さんに聞く、本当の動物の強さとは?

聞き手/橋本宗洋　構成/真下義之
撮影/乾晋也

キリンは本当に強いのか

「アダモステ〜……ペィッ!!」。あの『PRIDE』のライオンキング・ソクジュもビビってたじろぐ？　和製〝ジャングルの王者〟といえば、30代以上の読者には懐かしいアダモちゃ〜ん！　だろう。『オレたちひょうきん族』（フジテレビ系）で一世風靡した人気キャラを演じたのが、タレントの島崎俊郎さんだ。

この島崎さん、かつて『天才・たけしの元気が出るテレビ!!』（日本テレビ系）にてトラとキスしたり、ワニとプロレスしたり、十二支の動物を舐めたりなど、あまりにも危険すぎる動物との絡みでブレイクした、お笑い界の〝動物王者〟でもある。そこで今回は幾多の名勝負を通して、猛獣の恐さ、凄さ、強さを振り返ってもらう直撃インタビューがここに実現した。ペィッ！

——アダモちゃ〜ん！　……じゃなかった島崎さん。今日は日本でもっとも〝動物〟との対戦経験が豊富な島崎さんにお話をおうかがいしようとやってきました！

島崎　ペ〜ィ？　それはいいんだけど、この本は格闘技雑誌なんだよね？

——ええ。じつは先日の『PRIDE・33』でアフリカ出身のソクジュという選手が衝撃的なデビューをはたしたんですが、この選手が「俺はライオンやキリンと闘って強くなった」と言ってるんですよ。

島崎　へぇ〜。そんな選手がいるの？

——ええ。そこでワニ、トラなどの猛獣と闘い、かつアフリカ原住民キャラのアダモちゃんも演じられている島崎さんに、動物の凄さ、怖さに関してインタビューしたいと思いまして。

島崎　ま、アダモちゃんは動物と闘ってないけど（笑）。島崎俊郎としては、動物との対決はかなりやりましたからねぇ。

——その危険度は大変なものですよね？

島崎　そりゃそうですよ。動物には〝お約束〟は絶対、通用しないんだから。全部ガチですからね！　ガチ！

——動物に台本を読んでもらうわけもいかないですし（笑）。

島崎　何をやってくるのか、まったく未知数ですから。その緊張感っていったらタダゴトじゃないですよ。だって屈強な人間さえ、小さい狼と闘ったら負けるでしょう。

——人間は狼には勝てない、ですか。

島崎　動物にとって負けることはイコール〝死〟なわけだから。弱肉強食ってよく言いますけど、掛け値なしで命懸けでしょ。

——ソクジュ選手も「動物が相手だと、負けたら食われちまう」と言ってますし。

島崎　俺も番組内とはいえ、「もしかしたら、食われるかもしれない」って恐怖がつきまとってましたから。

「十二支を舐める」という珍企画では、ネズミの尻尾やサルの尻をていた島崎さん。だがサルのウィルスの恐怖を描いた映画『アウト・ブレイク』を観て、自分の行動に真っ青になったとのこと。

——島崎さんが『元気が出るテレビ』で最初に闘った動物って……。

島崎　最初はワニだったかなぁ。〝ワニとプロレス〟（笑）。

——ハハハ！　どうでしたかワニは？

島崎　そりゃあ怖いですよ！　一応、ジャイアント馬場さんみたいな被りものを着て、噛まれても大丈夫なように手と足だけがでっかいカバーになってるんですけど。

——「噛むのは手足の先だけで」なんて打ち合わせできないですもんね。

島崎　最終的にはフォールしましたけど。でっかい板の上まで、そのワニをおびき寄せておいて、スタッフ3、4人と一緒に裏返して、その瞬間にワン、ツー、スリーとやって勝ったんだけど（笑）。……ただ、もし身体を噛まれてたら、スタッフもどうすることもできなかったから。

——番組側から安全面の配慮は？

島崎　ほとんどなかったですね。飼育係みたいな人はいるから、「こういうことは危ない」みたいな話はしますけど。ある意味、自分の身は自分で守るしかない。

——ワニの場合に、「これはやっちゃいけない」という注意点は？

島崎　要するに……「そんなに近づくな！」ということですよ（笑）。でも馬場さんになって、十六文キックをしましたよ。そしたらワニもガーン！　と反応しますし、シッポのスピードなんてメチャクチャ速かったですからね。

——それから記憶に残っているのが〝トラとキス〟なんですけど。

島崎　〝トラとキス〟は俺が大〜きな口紅を持って、トラの檻の中に入っていくんです。そのトラはスタッフが5、6人のスタッフでロープを持って引っぱってるんですけど……これはホント〜に危険でした！　しかも僕が檻の中にパッと入った瞬間、じっとしてたトラがガーッ！　と向かってきて、ロープで支えてたスタッフが、引っぱられちゃったんです。すぐに倒されて、身体の上にはトラですよ！

——トラにマウントポジション（笑）。

島崎　なんで助かったかというと、その大きい口紅があったから。それで防御したのとトラはネコ科だから、その口紅にじゃれちゃって。トラの顔に口紅をつけなきゃいけなかったから、都合はよかったんですけどね（笑）。

——ホントに危機一髪ですねぇ。

“動物王者”島崎俊郎、激闘の歴史

『天才・たけしの元気が出るテレビ!!』（日本テレビ系）より

- 1988年7月31日放送『島崎・ワニと格闘』
- 1988年10月23日放送『島崎・トラと恐怖のキス』
- 1988年10月30日放送『島崎・アシカと熱烈キス』
- 1988年11月20日放送『アシカ君の恋人が見たい』
- 1988年11月27日放送『アシカの花嫁姿』
- 1989年5月21日放送『土佐闘犬とキス』
- 1989年8月13日放送『象洗い大作戦』
- 1992年11月22日放送『島崎vsライオン』
- 1993年9月5日放送『動物の王者はおれだ（vs闘牛）』
- 1993年10月17日放送『トラの結婚式の仲人になる』

『天才・たけしの元気が出るテレビ!!』＝85年4月〜96年10月まで日本テレビ系で放送されたドキュメントバラエティ番組。企画をロケで行ない、そのVTRをスタジオで鑑賞する形式で、バラエティ番組の基礎を築いた。島崎さんは、スカイダイビングやバンジージャンプといった体当たりのロケを中心に活躍。とくにワニやライオンらの猛獣との絡みはシリーズ化される人気コーナーとなった。

キリンは本当に強いのか

ぺ〜ィ？　と同じ野生の血が響き合うのか？　『PRIDE.33』ラスベガス大会の速報号、『kamipro special 2007 SPRING』にて勢いで勝手に作ったまま、行き場を失なってしまった幻のソクジュ表紙を手にして、威嚇するアダモちゃん。

島崎　で、トラのスキを見て、電話ボックスみたいな簡易の避難所に飛び込んだんです。そしたら、そこにトラが「ガーン！」「ガーン！」と体当たりしてくる。生きた心地がしないですよ！

――しかも、口紅がついたところで、次はトラのキスを受けに行くんですね。

島崎　ええ。でも元気一杯のトラにキスなんて不可能じゃないですか？　ただトラも動物だから、必ず眠たくなる時間がある。トラがウトウトしたときを狙って「いまだ！」とカメラさんを従えて行くんです。

――キスは土佐犬ともやってましたが。

島崎　あれも怖かったなぁ。土佐犬の横綱と絡んだんですけど「土佐犬は、絶対に人間は噛まないようにしつけてます」と闘犬師の人に言われたから、安心してたんです。ただ僕は犬の着ぐるみを着てたんですね。で、闘犬のリングに入って絡もうとしたら、急に乗っかってきて……噛むんですよ！

――やっぱり噛まれましたか（笑）。

島崎「話が違うじゃないか！」って。原因は着ぐるみが発砲スチロール独特の匂いで、それが犬の好奇心を刺激しちゃったみたいで。土佐犬のほうも〝あま噛み〟なんですけど。でも、痛いんですよ！

――土佐犬の横綱ですからね（笑）。

島崎　終わったら、全身に青あざができてましたから。テレビ的には噛んでるように見えたから、よかったかもしれないけど。そういうのは、たくさんありますから（うんざりした表情で）。〝ライオンの尻尾で習字〟とか。

――どれも凄まじい企画ばかりですねぇ。

島崎　よくいうんだけど、プライベートで上野動物園に子どもと一緒に行ったりすると、もう見る動物、見る動物、全部仕事で絡んでるんですね（笑）。

――それは落ち着かないでしょうね。

〝アダモちゃん〟とは何か？

アダモちゃんは『オレたちひょうきん族』で生まれたんですけど、もともとあんなキャラじゃなく、どんどん変化していまのアダモちゃんスタイルになったんです。

誕生のきっかけは『ひょうきん族』の楽屋。（ビート）たけしさんが「お前って、ポリネシアン・ダンサーみたいな顔してるな」って言われて、みんながウケたのがきっかけです。それを聞いた番組ディレクターの三宅（恵介）さんに「ホントにやってみる？」って言われて、テレビに登場するんです。最初は勢いだけだったけど、2週目からは「言葉をしゃべらせよう」となった。でもそこで「どんな言葉をしゃべらせようか」と困りはてて、追い詰められたんです。で、収録のときになぜか勢いで「ハ〜ッテマカセ〜」とか「アダモステ〜、ペイッ〜」なんて言葉が出てきた。芸人って追い詰められるとその人の潜在意識が出てくるんですね。

当時はあまりにも忙しかったから、ウケてるかどうかなんてわからなかったけど、数年経って評判を聞くと、相当にウケてたみたいだし、いまも「アダモちゃん」って声をかけられると嬉しいですよ。

ちなみに「ペィッ！」は酒を飲んだときのオヤジのログセなんです。オヤジは左官屋の棟梁なんですが、晩酌のときに職人のグチを言うんです。「あの野郎は壁の塗り方が……ペッ！」とか。これをウチで毎晩聞かされてたんですが、それが追い込まれたときに「ペィッ！」として出た。オヤジは「ペッ！」なんだけど（笑）。

やっぱり、潜在意識から出てくるものっておもしろい。そういう意味じゃあアダモちゃんも自然というか、野生に近いかもしれないですね。（談）

ぺ〜ィ！　じつはアダモちゃんはプロレスのリングにも登場していた!?　2003年7月6日のZERO-ONE両国大会において、アダモちゃん的なキャラで売り出していたレスラー、キング・アダモのセコンドとして登場！　「アダモちゃ〜ん」「ハ〜イ！」という両者のやりとりで盛り上げた。

俺から言わせれば、ムツゴロウさんは動物の“野生”の部分を舐めすぎなんですよ!!

島崎　絡まなかったのは、シロクマとかゴリラくらい。じつはゴリラも1回、格闘シリーズで企画があったんですけど。飼育係が「ゴリラはホントに危険だからやめてくれ」って反対にあったみたいでね。

―“間違い”が起こる危険度が高いんでしょうね。当時の番組スタッフは構成作家・テリー伊藤さんの絶頂期でしたけど、企画の悪ノリの度合いが凄いですね。

島崎　いまならとてもできないでしょうね。じつは“トラとキス”のときなんて、現場ではかなり揉めたんですよ。トラをロープで押さえるなんて、あまりに不安だったから、「死んだらどうするんだ?」と抗議してね。でも現場には若いディレクターしかいなくて。「なんとかやってください」の一点張り。……ま、芸人なんて、テレビ会社の下の制作会社から請け負う最後の雇用人ですから。結局、やるのはしょうがない。でもそのしょうがなさや、無理感が危険を呼ぶことがあるです。

―へんな気負いが出ちゃうんですか?

島崎　それもあるし、「やりたくねぇな」と注意力散漫になったりする。だから現場では、自分の目で徹底的にチェックするんです。どういった仕組みなのか？　何人スタッフがいるのか？　すべての要素が自分の命に関わってきますし、動物と絡む際は、危険の察知にホントに敏感になりますね。

―一流の格闘家も試合前にリングのコンディションをチェックしますからね。

島崎　でも、芸人ってたとえ怖くても舞台に上がったり、カメラが回ってしまえばできちゃうんです。「カメラなしでやれ」って言われたら絶対にできないけど（笑）

―そこはプロ意識のなせる業なんでしょう。そんな島崎さんに聞きたいのは……ソクジュはホントにライオンやキリンと闘えると思いますか？

島崎　いやぁ、ライオンでもトラでも1対1で道具も持たないで、闘うなんてありえないでしょう！　それでも闘うって言うんなら、ちゃんとV（VTR）を残しとけっての！（笑）。

―ソクジュも証拠を残しておけ、と。ちなみに島崎さんはキリンと絡んだことはありますか？

島崎　キリンはなかったかなぁ。でも、あんなに身体が大きいんだから、キリンだって危ないですよ。サファリパークなんかで近寄ればわかるけど、顔だけで車の窓いっぱいですから！　ライオンよりは闘いやすいかもしれないけど……草食獣だって怖いですしね。

―あ、草食獣も怖いですか。

しまざき・としろう■1955年3月18日、京都出身。79年、川上泰生、小林すすむとお笑いトリオ“ヒップアップ”を結成。80年『笑ってる場合ですよ！』（フジテレビ系）にレギュラー出演。そのあと『オレたちひょうきん族』にて、アダモちゃんでブレイク。『天才・たけしの元気が出るテレビ!!』では、バンジージャンプや、動物との対決シリーズなど危険なリアクション芸で人気者になる。現在はレポーターなどマルチに活躍。

島崎　俺が象の調教師として、「芸をする象に芸を教える」という企画もやったんです。最後に象が調教師の太ももを口で挟んで移動させるオチなんですけど……それだけで足の骨が砕けるかと思いましたもん。

―挟んでるだけでも、そんなパワーが。

島崎　凄い恐怖心が湧き上がってきましたから。動物と絡むのは一瞬でも気が抜けないですよ。……だから、そういう意味で動物の大御所といったら、ムツゴロウさんですけど、俺から言わせれば、ムツゴロウさんは動物をちょっと舐めすぎなんですよ！

―動物を舐めすぎ！

島崎　テレビでライオンとかとじゃれ合ってるシーンなんか観たけど、あの光景が信じられなかった！　動物を愛する気持ちはわかるけど、“野生”の部分を舐めすぎだと思いますよ。だから、2、3回動物に襲われそうになったときもあるじゃないですか？

―アナコンダに首を締められたり。

島崎　「動物のことをすべて知ってる」ような顔をしてるけど……ムツゴロウさんは、たまに襲われそうになっても、周りがグワーッと止めるから助かってるだけで、「止められなかったら、アンタ死んでるよ！」と。

―ファミリー路線のムツゴロウさんの動物番組もハラハラしどおしなんですね。

島崎　犬とか猫みたいな、ペット的な動物に愛情が伝わるのはわかるし、それを動物も受けとめるのかもしれない。でも野生は野生ですから。初めて出会った猛獣に「よぉ～し、よし、よし」なんて、ちょっと無防備すぎますよ。

―実際に絡んだ人の言葉は重いですね。

島崎　俺なんか絡みのたびに、もの凄く緊張してましたから。結果的には、人に笑ってもらうためにやるんですけど、その過程では、絶対に気は抜けないですよ。

―笑わせなきゃいけないのと、身の危険を守る境界線の見極めは難しそうですね。

島崎　でも、さすがに死んだら芸にならないですから（笑）。だから、俺なんかそういう動物の絡みのロケなんかを経て、「ここから落ちると骨は折れるだろう。だけど命は助かるな」とか、土壇場で瞬時に危険度の判断ができるようになりましたよね。

―野生に対する免疫力ですかね。

島崎　それは絶対にあるでしょう。よく「肉を切らせて、骨を断つ」というけど、人間ってホントに命が危険な状態に陥ったとき、生き延びるための計算ができるんですよ。あんなことばっかりしてたら、危機察知能力は発達しますよねぇ。

―人間も野生の部分に触れると、野生的な防衛本能が磨かれる、と。とても芸人さんの言葉とは思えないですけど（笑）。

島崎　番組が終わったときは、さびしいのと同時に本当にホッとしましたから（笑）。

―ハハハ！　いつの日かまた動物と絡む島崎さんにも期待してます！

【07年3月12日／ケイダッシュ・ステージ稽古場にて収録】

結論! 猛獣と闘った人間は、危険察知能力が発達する！

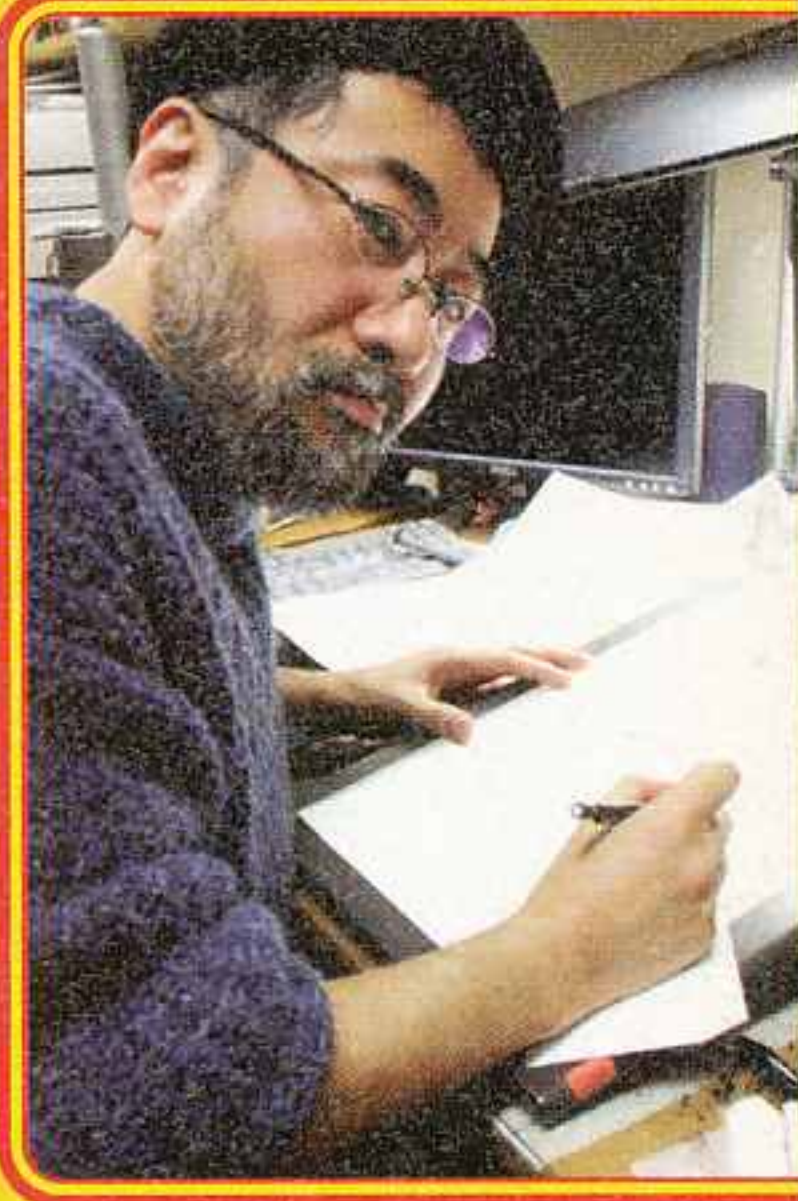
バーーン

キリンは本当に強いのか

いままでのマンガと違って人間は動物に勝てません!!

地上最強を決める"動物総合格闘"マンガ作者が吃哮!

『真・異種格闘大戦』相原コージ

聞き手／真下義之、上杉キリン

〝野生の闘い〟のことなら、この人に聞け！総合格闘技の世界観をベースにした動物総合格闘技マンガ『真・異種格闘大戦』を双葉社Webマガジンで好評連載中の相原コージ。従来の動物マンガの枠を破壊する先鋭的なスタイルで、鍛えられた闘犬から野生の動物まで描ききる鬼才は、マンガのために柔術教室に通うほどの格闘技マニアであり、かつ動物の生態について現場取材を繰り返してきた、まさに動物格闘界（?）のご意見番。今回『kamipro Special 2006 SPRING』以来、ほぼ一年ぶりに本誌に登場！本当に強い動物とは？そしてその強さの秘訣とは何か？さらに現代の人間が持つ動物観まで深く切り込む！

――大変です！相原さん！『PRIDE』に凄い選手が現われたんですよ‼

相原　ええ、ソクジュのことでしょ。ズールみたいにイロモノ扱いされて終わりになるんじゃないかって心配していたんですけど（笑）、彼はよかったですよ～。勝ち方も瞬発力があるというか、反応のよさとか、野生動物の本能で勝ったような感じで。

――そうなんですよ。そこで〝野生動物の闘い〟を描かれている相原さんにお話をうかがおう、と。ちなみにムツゴロウ（畑正憲）さんにもオファーを出したんですけど、個展でお忙しいということで断られましてね。

相原　あ～、ムツゴロウさんはいいですね。あとC・W・ニコルさんとか。

――自然保護活動で知られるニコルさん。

相原　ボクは昔、『かってにシロクマ』（双葉社）を描いてた頃、ニコルさんに推薦の言葉をもらおうとしたんですけど断られました。「動物の生態が間違ってる！」ってことで（笑）。

――ニコルさんは一応、『かってにシロクマ』をご覧になられたわけですね。

相原　本を送ったと思うんですけど、「まったく間違ってる」ということで（笑）。だいたい図鑑的な知識で描いていたので、ニコルさん的にはちょっと……（笑）。

――なるほど（笑）。現在、描かれている『真・異種格闘大戦』では、動物園とかに取材に行かれるんですか？

相原　行きます。でも、ライオンとかダラーッとしてるだけなんで、飼育員から話を聞いたほうがいいですね。ゾウが鼻だけの力で200キロぐらいのものを放り投げたりとか、そういうエピソードをいろいろ教えてくれますし。

――ゾウの鼻はそんな力があるんですか！

相原　ゾウは強いですよ。牙も凄くて、10トンぐらいのものは持ち上げるし、スピードも意外と速い。遅そうに見えますけど、時速40キロぐらいで走れるんですよ。

――ゾウが時速40キロ！

相原　カール・ルイスで36・5キロですから、ゾウはもっと速いわけです。それに長距離を走りますからスタミナもあるはずですし。

――ほお、動けるスーパーヘビー級ですね。

相原　そう。弱点が見つからないんですよ。スピード、スタミナ、攻撃力、防御力、賢さの点でバランスよくいい。それに〝踏みつけ〟という技もありますしね。

――ゾウの踏みつけは最強ですよね（笑）。

相原　体重が武器になるっていうことも、ゾウはたぶん知ってるんですよ。取材に行った動物園で、くだものが中に入っているデカい氷の塊を与えると、潰してくだものを取ったりしますから。それに昔、ゾウの踏みつけは死刑の方法としても使われてたんですよ。罪人を固定して、ゾウに踏み潰させると。

――イヤですね、その死に方は（笑）。『真・

異種格闘大戦」の中で印象に残った技だと、ワニが噛んでスピンするっていうエピソードがありましたね。

相原　「ツイスト」、別名「デスロール」ってやつですね。ワニは噛む力は凄いんですけど、食いちぎる力はないんです。だからボクらがソーセージの端を噛んで引きちぎるように、回転して、動物の身体をひねり切ってしまうんです。

――それも食らいたくない技ですね～。

相原　ワニは相当に完成度の高い動物なんです。歯はロケットペンシルのように、折れたらすぐスペアが出てくるし、海を泳いで何千キロも離れた島に行ったりできるし。1年間、何も食べなくても生きていけるとも言われていて、さすが恐竜時代から何億年も生きてるだけありますね。

――相原さんも〝完全生物〟だと描かれていましたよね。

相原　その言葉は映画の『エイリアン』から取っているんですけどね（笑）。ただワニは口を開ける力がイマイチなんですよ。だからバックを取って口をグルグルと巻いてしまうと、おとなしくなっちゃうわけで。

――意外な弱点がある、と。それから土佐犬も取材に行かれたということですけど。

相原　土佐犬って、資料が全然ないんですよね。本とかネットで探しても見つからなくて。やっぱり公にしづらいものだと思うんですよ、とくにいまの風潮では。

――それこそ動物愛護とかの流れに反しますからね。実際に闘犬の本場、高知まで行かれたんですか？

相原　いや、闘犬をやっている方には新宿で会ったんです。

――あ、そんな身近にいましたか（笑）。

相原　じつは関東でも意外に盛んなんです。東京は完全に禁止されちゃってるんで、茨城に常設会場があって。

野生動物の闘いは非常に合理的で総合格闘技に近い

――へえ～。茨城に常設会場が存在するんですか。

相原　ホントに〝好き者〟のための場所っていう感じで……金儲けとかじゃないんですよね。闘犬好きの人たちが集まって、闘わせてるというか。で、賞金とか賭けもなくて、勝った人にみんなでお金を出し合って、商品を与えるっていう感じですね。

――その会場には行かれたんですか？

相原　それが開催時期と合わなかったんで、実際には観てないんですよ。ビデオは観ましたけど。でも闘犬はどう考えても強いですよ。デカいし、筋肉のつき方がライオンみたいなんですよ。

――じゃあ、やっぱりトレーニングをしてるんですかね。

相原　トレーニングマシンもありました。下がベルトコンベヤーになっている檻があって、犬はずっと走らなきゃいけないんですよ。『巨人の星』のオズマみたいに（笑）。

――それは鍛えられますね。

相原　それに強くなるためにどんどん種を交配させてきてるんでね。それで彼らは八角形のオクタゴンで闘ってるんですね。30分1本勝負で過酷ですよ。

――オクタゴンはUFCよりも土佐犬のほうが早いと（笑）。しかし30分って長いですよね。

相原　イヌはスタミナありますから。でも、やっぱりビデオを観た限りでは、凄い消耗するので、ガンガンやり合えるのは10分ぐらいでしたね。あとはハァハァ言いながら押さえつけえてるだけとか。

――人間みたいに膠着するわけですね（笑）。

相原　そう（笑）。そして野性動物の本当の闘いっていうのを見てると、やっぱり総合格闘技に近いなと思うんですよ。むしろ総合っていうのが、ホントの野生の闘いに近いんだなって感じで。組んで、倒して、バックを取る。ちゃんと重力を利用して、地面に押さえつけて相手を動けなくしているんです。あと闘犬でも脚の腱とか急所を狙いますしね。

――ちゃんと急所を狙っていくんですか。

相原　飼い主が狙わせるようにしているですね。火鉢で痛いところをガンガン叩いて、覚えさせておいて、それを相手にやるんですよ。

――はあ（笑）。ちょっと凄いですねえ。

相原　でも厳密に言うと、同種同士の闘いと狩りというのは違うんですよね。同種同士の闘いは、どっちが優位な雄かっていうのが決まればいいんで、服従の姿勢を示せば、殺しはしないですね。メスを巡るオスライオンの闘いでも、雌に近く寄ったほうが勝ちで、闘いという感じではなくて（笑）。

――一方、狩りとなると……。

相原　狩りは完全に殺すためですからね。その場合は、いかに自分がリスクを負わずに、最小限のエネルギーで相手を殺すかということに一番重点を置いているんですよ。野生の闘いなんだけど、非常に合理的というか。ライオンもトラも、飛びかかれば相手に届くっていうギリギリの距離まで近づいて、そこからダッシュして、背中とかケツとかに噛みついて倒す。で、首か口を狙うんです。それは窒息させるためで、絶命させるには一番早いということをわかっているんです。

――いかにシンプルに最短距離で仕留めるか、と。逆にマンガの中では柔術を使うゴリラも出てきますけど、実際に空手の黒帯を持ったチンパンジーがいるって話もありましたね。

相原　あれはCSのアニマルプラネットで観たんですけど。ホントにいるんです。冗談で帯を与えてる可能性もありますけど（笑）。でも実際に映像を観ると、見事なバックキックをするんですよね。

――チンパンジーのフィジカル面はいかがですか？

相原　サル関係は強いですよ。牙も凄いし、素早いし。オランウータンがアナコンダに巻きつかれたりすることもあるらしいんですけど、逆にヘビの頭に噛みついて殺しちゃったりとか、手でワニの口を持って引き裂いたりとかするらしいんですよ。

――へ～。サルは強いんですね。ちなみにサルに近いヒトであるソクジュはライオンやキリンと闘ったということですけど。

相原　絶対に不可能でしょうね（キッパリ）。まずライオンに勝つことはあり得ないですよ。強力な銃を持ったハンターでさえ、一人ではけっこう厳しいと思いますから。急所に当て損ねたらやられちゃいますからね。そうなったら、打撃なんてなんの意味もないですし。ボクが寝技をやってるから言うんじゃないですけど、まだ絞めるほうがちょっと可能性がありますよね。

――動物にはチョークが有効!!……かもしれない（笑）。

相原　バックを取れるかっていう問題がありますけどね（笑）。ただ、もともとレスリングは暴れる家畜を組み伏せるために発達した技術という説もあるんですよね。

――え？　本当ですか？

相原　そういう説もあるということですけど、可能性はあると思いますよ。ただ、人間は弱いと思いますね。

――マンガのトーナメントでも最初に負けちゃいましたよね。

相原　いままでのマンガだと人間の強さを出すために、どんどん動物を犠牲にしてましたけど、ボクから言わせれば、動物をナメるなと（笑）。人間は絶対に弱いと思いますね。まあ、人間も武器を持ったら全然違いますけど、武器なしだと、身体を防禦する毛もないし、爪も牙も武器になるようなたいしたもんじゃないし。

――素手では敵わないですよね。

相原　人間はホントに最後の一手っていうのがないですもんね。これがあるからなんとか脱出できるっていうのが。サルにも勝てるかどうかっていうぐらいで。犬にも……ある種の犬には勝てるかもしれないですけど。

――ウチの元編集長（山口日昇）は〝犬殺し〟の異名を持っていて、犬を壁に投げつけて殺したそうですけど。

相原　それは凄いなあ……（絶句）。でも、土佐犬には勝てませんよ。

――そうでしょうね（笑）。人間vs動物といえば、相原さんは「地上最強への道――大山カラテもし戦わば」（ちくま文庫）を読まれてますよね。

相原　あれはおもしろいですよ。大山（倍達）さんはホントに〝最強〟を考えてたんだなっていうのがわかる。

――動物との闘いまで視野に入ってるのが凄いですよね。

相原　もし相手がゴリラやライオンだったら、キンタマ握り潰せばなんとかなるんじゃないかっていう……絶対なんとかならないと思うんですけど、一応考えてるっていうのが凄いですよね。大山さんは動物園のトラを檻の前でじっと見て、どうやったら勝てるんだっていうのを一日中考えてたらしいですから。

――ヒョードルとかは絶対にそんなこと考えてなさそうですもんね（笑）。

相原　「ゾウが一番強い。でもゾウを倒すアリがいるんだったらアリが最強なんじゃないか」とかって（笑）。

――それでアリクイが最強っていう話もありましたからね（笑）。

相原　でもアリクイも強いですよ。ヒョウなんかに襲われると、アリクイは長い尻尾で立ち上がるんですよ。で、ラリアットするんですよ。

――ヒョウにラリアット！（笑）。

相原　襲いかかってきたヒョウにラリアットして、首に爪を突き立てて、殺しちゃうこともあるんで。アリクイは強いですよ。

――へ～、ヒョウに勝っちゃうんですか。マンガでもクズリっていう小さいけど意外に強いキャラクターがいますよね。

相原　クズリは命知らずなんですね。アフリカにもラーテルというクズリと似た性質の、命知らずで怯むことを知らない動物がいて、ライオンもなかなか手を出さない。逆にライオンから獲物を奪うこともある。それはラーテルが必死で抵抗して、命が尽きるまで闘い続けるんで、ライオンも「こんなキ●●イとは関わり合いたくない」と思うんでしょう。

――やっぱり動物の世界でもキ●●イは怖いというか（笑）。

相原　そうですね、それは、ある意味、野

動物の世界でもキ●●イは避けられるから、天敵がいない（笑）

異種格闘大戦 地上最強の生物決定トーナメント
1回戦完全レビュー

©相原コージ／双葉社

第1試合　●カバ vs ヒト×［噛み殺し］

全世界の格闘技現役王者を集めて行なわれた『THE最強』を制し、人類最強の称号を得た強矢鋼がヒト代表としてトーナメントに参戦、第1試合に登場。序盤から打撃の嵐を浴びせるが、カバは涼しい顔で受け流す。糞を撒き散らされ、視界を奪われた鋼はあっさりと噛み殺された……。

第2試合　●ヒクイドリ vs アナコンダ×［切り裂き］

圧倒的な体格差を誇るアナコンダがヒクイドリに巻き付いて捕獲。その身体を絞め上げ、丸飲みにする。勝負あったと思われたが、じつはこれはヒクイドリの罠だった。ヒクイドリはその最大の武器ともいえる、ナイフのような足のツメでアナコンダの身体を引き裂いて脱出! まさかの大逆転をはたした。

第3試合　●ライオン vs インドサイ×［脳へのツメ］

トーナメント優勝候補、“百獣の王”ライオンが登場。対するは「ケビン・ランデルマンのように大番狂わせを起こしちゃる」と息巻くインドサイ。試合開始の合図とともに突進するインドサイだが、ライオンは目にも止まらぬ速さで身をかわすと、額にツメを突き立て秒殺勝利！

第4試合　●シマウマ vs ワニ×［腹への蹴り］

食物連鎖からの脱却を目指すシマウマがワニに挑むが、水辺での闘いに苦戦。しかし、その強靱な精神力でワニの攻撃を耐えると、試合は持久戦に。焦燥感を募らせたワニはジャンプで飛びかかり、弱点である腹をさらす危険を冒してしまう。すかさず、その腹を蹴り上げたシマウマが逆転KO。草食動物をナメるな！

『真・異種格闘大戦』
相原コージ（アクション・コミックス）

地球上から厳選された動物たちが“地上最強”の称号を巡ってトーナメントを展開！　現在3巻まで絶賛発売中！　また最新の闘いは双葉社Webマガジンで連載。毎月1日&15日配信予定。http://www.futabasha.co.jp/wm/

あいはら・こーじ■1963年、北海道登別市出身。83年、「漫画アクション」に掲載された『8月の濡れたパンツ』でプロデビュー。代表作に『コージ苑』『かってにシロクマ』『ムジナ』『サルでも描けるマンガ教室』（竹熊健太郎と共著）など。従来のギャグマンガからハミ出す先鋭的な作品を数多く執筆。

生の盲点なんですね。野生動物っていうのは非常に用心深いんです。ライオンでも草食動物でも、野生の世界っていうのは、ケガしたらおしまいなんですよね。ちょっとでもダメージを負うと、どんどん弱っていって死ぬ可能性があるんで、できるだけ怪我はしたくないんです。だからクズリというのは、それを利用してるんです。「俺は死んでもいいけど、オマエも殺す!!」っていう精神で向かってくるんで、天敵がいないんです。

——イヤなヤツですねえ（笑）。ところで、キリンは今回のトーナメントに出てないですけど。

相原　キリンも候補にはあったんですが、絶対、強いですよ。昨日もK−1があって、レイ・セフォーが戦前にセーム・シュルトを「キリン」と呼んでましたけど、シュルトはホントにキリンですよね（笑）。で、〝キリン〟と〝（南海の）黒豹〟を比べたら、強いのは絶対キリンですよ。だからセフォーはやられちゃったんですよ。

——やっぱりキリンは強いですか。

相原　やっぱりキック力ですよね。あれだけ長い脚ですから。シマウマのキックでさえライオンの内蔵を破裂させるぐらいの力があるんです。それよりもはるかにデカいキリンのキックが入れば、そりゃライオンだって死にますよ（笑）。

——キリンがライオンを蹴り殺す！

相原　子キリンだとライオンに殺されることもあるんだろうけど、成獣のキリンを倒すのは不可能に近いと思いますね。蹴り殺されますって。あとあの長い首も侮れないですよ。キリン同士がオスの優劣をつけるために闘うときは、ネッキングといって、首をバシバシぶつけ合うんです。首を剣のようにして闘うんですね。

——長い首も武器になりますか！

第5試合　●マウンテンゴリラ vs スイギョウ×［三角締め］

虚勢を張って群れの主として君臨しながら、じつは気弱なスイギュウが柔術黒帯のゴリラと対峙。序盤、ゴリラのオモプラッタであっさりと前脚を破壊されたスイギュウだったが、本性をカミングアウトし吹っ切れると、その戦闘能力を開花させる。しかし最後はゴリラが三角絞めで失神葬！

第6試合　●オオカミ vs イヌ×［両者の噛み殺し］

人に鍛えられた土佐犬が“野生”のオオカミと激突！　土佐犬の猛攻を受けきったオオカミは「オマエには“殺し”がない」と言い放ち、反撃。瀕死の重傷を負わされた土佐犬だが、飼い主の声援を受けて奇跡的に復活！　お互いを認め合った両者は噛み合ったまま死亡。1回戦唯一の引き分け試合となった。

第7試合　●アフリカゾウ vs ヒグマ×［ギブアップ］

“動けるスーパーヘビー級”アフリカゾウ相手に苦戦必至のヒグマは、小鳥を人質にするなど、卑怯な手段を選んででも貪欲に勝利を目指す。しかし、ことごとくアフリカゾウに実力でネジ伏せられるハメに。最後は、仲間の説得に応じて、試合を放棄した。

第8試合　●クズリ vs トラ×［心臓を喰べる］

小柄なクズリをナメきっていたトラ。怖れ知らずのクズリは、トラの目玉にツメを突き立て先制攻撃。さらに腹部を食い破って体内に入ると、手当たり次第に内臓を喰い荒らす。慌てて、自ら腹を裂いてクズリを取り出したトラだが、時既に遅し。心臓を食べられてジ・エンド。

リザーブマッチ　●セイウチ vs カンガルー×［ペニスでの打撃］

高度なボクシング技術を持つカンガルーはセイウチのキバ攻撃をスウェーでかわし、パンチをコンパクトに叩き込む。しかし毛の厚いセイウチには効かず。ならばと、急所を狙って飛び込んだカンガルーだが、セイウチはペニスを勃起させ、棍棒のようにして迎撃！　見事、失神KO勝ちを収めた。

キリンのキックが入れば、ライオンだって死にますよ！

相原　相手の頸椎を折ることもあるらしいんです。それに、頭まで血を上げなきゃいけないんで、もの凄く心臓が強いんですよ。やっぱりスタミナもあるんじゃないかな。

——なるほど！　そのキリンと闘ったソジュもかなり強いですね。

相原　キリンに勝てるかどうか、知りませんけど（笑）。でもキリンは出場していたら勝ち上がる可能性もあったと思うんです。それに画的にも、特徴があったんで入れたかったんですが、いろいろ考えていなくなっちゃいましたね。動物を絞るときは、けっこう苦労したんですよ。ヤマアラシとか毒系とかほかにも入れたい動物はたくさんいたんで。

——そうでしょうね。ところで、マンガでは1回戦がちょうど終わったわけなんですけど、ご自身の中で最強の動物は決まってるんですか？

相原　1回戦のときは決めてなかったんですけど、ここまで絞られてくると……。

——マッチメイクは見えてきますよね。

相原　そうですね。いまはだいたいは決めてます。というか、決めざるを得なくて。最後に、誰と誰が闘うのが一番おもしろいかっていうのを考えるとね。

——さらにストーリー的なおもしろさもありますもんね。

相原　そうですね。完璧に決めたわけじゃないんですけど。気が変わったり、なんらかの反響があったりしたら、変えてもいいかなくらいの感じではやってますね。ま、そこは単行本かWebマガジンの連載を読んでいただければということで（笑）。

——なるほど。ところで最近、動物漫画ってあんまりないですよね。

相原　そうですね。どうしてもナチュラリスト的な視点が入ってきちゃうので。昔は動物が怖い動物として出てたんですけど、動物愛護的な流れがでてきちゃったんでね。それがある種、動物をおもしろくなくしてるかなって気もしているんですよね。ただ、動物愛護的な活動がないと、ゴリラとかトラも絶滅してる可能性があるんで、そういう活動は尊重していますけど。

——動物のとらえ方が変わってきているんですね。

相原　いまはどうしてもヒューマニズムみたいなもので動物を見てるような風潮があるんです。でも自分には「野生って、ヒューマニズムみたいな陳腐なもんじゃねえんだよ！」っていうところもちょっとあるんですけど（笑）。

——殺るか、殺られるかですもんね。

相原　野生はヒューマニズムを超えたもんなんだから、それを矮小化するなって（笑）。だから、ボクのマンガの中ではもっと単純に動物の凄さを出したいなっていうのもあって、ちょっと過剰にやってるところもあるんですけどね。ホントに子どもが動物を見て「デカいなあ」とか「凄いなあ」とか「強そうだなあ」って感じることも大事だと思うんですよ。

——そういう意味では、リング上の闘いでも、相原さんが言われている野生さが魅力的に目に映るし、絶対に求められてますよね。本日はどうもありがとうございました！

【07年3月5日／都内・相川コージ宅にて収録】

結論！　野生をヒューマニズムで語ってはいけない！

日本を代表する名獣医が動物界の掟を激白!!

儀式的闘争とは何か？

野生動物界にもプロレスは存在した!!

野村獣医科Vセンター
野村潤一郎

聞き手／ジャン斉藤　撮影／乾晋也

ソクジュ来日記念企画第3弾は、全国に名を轟かせる〝カリスマ獣医〟野村潤一郎の登場である！　野村先生といえば、全国に患者は6万件。その多忙な診察の合い間を縫って、メディアにも多数出演している超有名獣医なのである。今回はその野村先生に、キリンをはじめ、野生動物を通して見る人間の強さの可能性、そして同種、異種関わらず、動物が闘うことの意義について興味深いお話をうかがった。チンパンジーの秘めたる身体能力から、なぜか〝人食い人種〟にまで精通しまくっているスーパー獣医の貴重なインタビューを読め！

——今日はですね、日本一有名な獣医さんにお時間を割いてもらうのは恐縮なテーマなんですが、先日『PRIDE』という格闘技イベントにソクジュというアフリカ人ファイターが出場したんです。その選手が対戦相手に対して「キリンより弱い！」ということを言ってたんですが、本当のところキリンはどれくらい強いんだろう？　と。

野村　なるほどねえ。まあ、始めに言っちゃうと、おっしゃるとおり、キリンは強いですからね！（キッパリ）。

——うわ〜、幻想が高まる発言ですね、いきなり（笑）。

野村　ソクジュさんでしたっけ？　対戦相手のことを「キリンより弱い」って言ったんでしょ。これって、僕が思うに相手に対してもの凄い敬意のある言葉ですよ。

——敬意がありますか（笑）。

野村　だってこの人、アフリカ出身でキリンの強さを知ってるわけですから。一般的にはコケにしているように聞こえるけど、じつは相手は相当に強いっていうことを言ってるんじゃないの？

——まあ、確かにそうですね。

野村　だってキリン、本当に強いよ！　これが「カブトムシの幼虫以下だ」とか「ゴキブリの強さしかない」って言われたら、これは完璧にコケにしてますけど、「キリンより弱いよ」って言っても、キリンに勝てる人類なんていないんだから。そして、ソクジュさんはキリンと闘える相手に勝ったってことは、自分はめちゃくちゃ強いんだということを間接的に言いたいんですよ。だから、じつは頭いいんじゃないですか？　この人。

——そんなアピールが込められていたとは（笑）。それで、キリン以外の動物の強さにも迫りたいんですが、先生の著書『Dr.野村の犬に関する100問100答Part2』によれば、なんと「体重10キロのイヌは成人男子よりも強い」というお話がありましたよね。

野村　はいはい。それはナチスドイツの人体実験の一つだったんですけど、ナチスはいろんな実験をやってたんですよ。ツメを一枚一枚剥がして、耐えられるのは男か女かとか……ね。

——聞くに耐えない話ですね……。その実験の一つに〝イヌvs人間〟の対決が行なわれた、と。

野村　そうそう。イヌに限らず、動物って本気になると、もんの凄く強いんですけど。でも、動物は遊びでは闘わないんですよ。

——つまり、なかなか本気にはならない。現役時代のビッグサカ（坂口征二）みたいな話ですね。

野村　（無視して）なぜかといえば、動物の場合、遊びで闘ってケガでもしたら自分が獲物を捕れない身体になっちゃうから。たとえば、ライオン同士が闘って牙を折っちゃったりしたら、大事な大事な商売道具を失なうことになりますからね。

キリンは本当に強いのか

——そんなに間抜けなことはないですね。

野村　だからこそ、儀式的闘争というのがあるんですよ。儀式的闘争というのは同族間で順位を決めるための闘いなんですけど、お互いの商売道具を傷つけず、殺し合いをしない闘争をしようという約束事があるんです。

——それはプロレスでいうところの〝暗黙の了解〟ってやつですね。

野村　たとえば、オオトカゲやガラガラヘビはコンバットダンスって言いまして、お腹とお腹を押しつけ合ってお相撲を取るんですよ。イヌの喧嘩もそう。ちゃんと噛んでもいい場所を心得ているの。それは生まれながらに持った常識ですよね。じゃないと、その種族が滅びてしまいますから。要するに人間同士で核を打ち合って、滅亡しちゃうのと一緒ですよ。

——だからこそ、儀式的闘争が必要。

野村　そして、同族間で儀式的闘争をする以外で闘うとすれば、それは自分の命を狙ってくる天敵との闘いですよね。その場合は自分の最大の武器である爪や牙やくちばしを使って闘います。

——そこでようやく本気になるわけですか。

野村　いや、まだまだです！

——あ、まだ本気にならない（笑）。

野村　はい。動物って、闘うときは決して深追いはしないんですよ。相手がひるんだ隙に逃げる。つまり、ひるませるための闘いなんです。だから、相手がひるんだからといって、さらに攻撃を仕掛けるようなことを動物はまずしない。そういった意味では、人間vs動物ってなかなか成立しないですよね。だって、ライオンは人間が闘う気になったとしても、うっとうしいからちょっと攻撃するだけ。でも、人間がひるんだ時点でそれ以上は手を出さないですよ。そして、「あ～、くだらないエネルギー使っちゃったな～」って感じでどっかへ行っちゃう。

——要するに、人間をエサと思わせないと対決は成り立たないということですか。

野村　そうなんです。だから、裏を返せば人間にとって動物が最も恐ろしい瞬間というのは、〝敵〟とか〝生物〟とか、そういう存在に見てくれないときですよね。つまり、人間を見て「あー、おいしそう」って思っちゃう連中が一番怖い。そういう連中にとってみたら人間はただの〝シュウマイ〟なんですよ。

——いわゆる食べられるだけの存在（笑）。

野村　うん。腹が減ってる巨大な動物vsシュウマイになっちゃうんです。だからね、オオカミに取り囲まれて一番怖い瞬間っていうのは「ガルルルルー！」って唸ってるときじゃないわけです。

——そこはまだ安心していいわけですか？

野村　はい。生きる望みはありますね。ところが、オオカミが人間を取り囲んでイヌみたいにかわいい顔になってるときは、これはかなり危ない!!

——決して友好の証じゃない！　と。

野村　そうなると、オオカミも人間から反撃を受けるんじゃないかとか、そういう意識はまったくないですよ。だって、人間だって皿の上のシューマイが反撃してくるなんて思わないでしょ？

——そうですよね（笑）。ちなみに、大山倍達がウシと闘ったり、ウイリー・ウイリアムスがクマと闘ったり、そういう対決エピソードはありますけれども。

野村　ありますけど、ウイリーが闘ったクマは、口輪してるんですけど、クマの最大の武器は腕じゃなくて噛みつきですよ。で、大山倍達も農業用のウシではなくて、殺人牛と闘ったんだったら……。たとえばディアブロとかミューラとかガヤルドとか。ランボルギーニ社の名前ってみんな殺人牛の名前がついてるんですけど。つまり、子どものときから先祖代々人間と闘うことだけを目的に作られた品種。こういうヤバイ牛とやってくれたら本当に尊敬しちゃうんですけど。

——もし実現したらどうなると思いますか？

野村　まあ、人間対カブトムシかな。

——念のためにおうかがいしますが、人間がカブトムシってことですよね？（笑）。

野村　うん。だって動物、凄いもん！　動物をナメちゃダメ！

——ハハハハ！　本当にそうですね。

野村　たとえば、ミズオオトカゲの武器は噛みつきとツメなんですが、それは最後の手段なのね。だって商売道具だから。そんなものは人間ごときに使って獲物が捕れない身体になったら自分が損でしょ。

——人間ごときに（笑）。

野村　だから、尻尾ではたいてくるんですよ。それだけで人間はスネを骨折しますからね。

——うわ～、バットでおもいきり殴るレベルですね、それ！

野村　デカイヤツは4メートル級だし、平気でシカだって倒すんですよ。

——でも、シカって動きが速くないですか？

野村　トカゲだってかなり速いもん。クマだって、森のクマさんのイメージあるからのそのそしてるように見えるけど、50～60キロ出ますからね。

——いやあ、クマが全力疾走する姿は見てみたいですね、ちょっと。

野村　そういう能力を持ってる連中が自分の命を守るために普通よりちょっと本気になったときは、人間はもうひとたまりもない。で、たぶんね、（表紙のミルコ・クロコップを指して）この人ぐらいだったら、いいところまでいくと思うんだけど……。

——いきますか！

野村　でも、それは人間としていいところまでいくというレベルだからなあ……。

——あらら。ちなみに人間が対抗できる動物っているんでしょうか？

野村　う～ん。人間とタメねえ……。そもそも人間はチンパンジーより弱いですからね（キッパリ）。

——人間はチンパンジー以下！

野村　だって、チンパンジー、強いもん。いま、フジテレビ系列で『チンパンニュースチ

大山倍達も農業用のウシではなくて殺人牛と闘ったんだったらねえ……

野生動物はめったに本気を出さないが、エサを捕まえるときは凄まじい形相となる。しかし、草食動物など、捕まえられる側の身体能力もその瞬間はかなり高まり、シマウマがライオンを倒すこともあるという。

ャンネル』ってやってるけど、あの番組で使われてるのは赤ちゃんだからね。大人のチンパンジーはだいたい体重が50キロくらいあって、鉄の棒も素手でひん曲げる。もしチンパンに手とか足をつかまれたら骨折ですよ!

――そ、そんなに凶暴なんですか（笑）。

野村 あのねえ、エチオピアにゲラダヒヒっていう動物がいるんですよね。牙がこーんなに長いのが（手で30センチくらいの幅を作って）。でも、チンパンはそれを素手で捕まえてブッ殺して食っちゃうんだから。

――はあ。かなり強いじゃないですか、チンパンは（笑）。

野村 だからもの凄いんだって!!（大興奮）。もう『チンパンニュースチャンネル』なんてやってる場合じゃないんだから!!

――あの番組が終了するのはそのせいかもしれないという（笑）。

野村 昔のローマで、王様を喜ばせるためのアトラクションがあったんですけど、その中で大人気だったのはやっぱり動物の対決シリーズだったんですよ。そこでね、ライオンvsチンパンジーをやって、チンパンがライオンに勝ったりしてるんですから。

――それは大番狂わせだ!（笑）。

野村 ただね、チンパンジーって頭いいですから。命の危険を感じない限りはそんなに本気で向かってきたりはしないんですよ。その点、一番カッとなりやすいのはニホンザルですね。

――ニホンザルも強いんですか!?

野村 猿回しで出てるサルなんかはおとなしくしてるけど、あれはキン○マ取って、牙を抜いたサルを使ってるだけなんですよ。本物はそんなもんじゃない!

――じゃあ、もはや人間が勝てる動物っていないってことですか?

野村 待てよ……（しばらく考えて）。ブタ

『チンパンニュースチャンネル』なんてやってる場合じゃないよ!

『kamipro』が独断と偏見で勝手に決定!!

ヒョードルとの比較で見る動物の強さとは

チンパンジー

はっきり言って、絶対に負ける。時と場合によってはライオンに勝利することもあり、もはや人間が闘える次元ではない。しかもヤツらはかなり頭がキレるため、もし人類が滅びたとしたら、この世はチンパンの天下になるだろう。

オオカミ

「ガルルルルー!」と唸っているときはまだいいが、イヌのようにかわいい顔をしているときは、人間は死を覚悟したほうがよい。そのとき、オオカミの目にはもはや人間は"鈴カステラ"としか映っていないのである。

ニホンザル

体格的には人間と五分だが、ニホンザルはかなり頭に血が上りやすい性格のため、何をしてくるかわからない。さらに、人間よりも動きが俊敏なため、よっぽどの身体能力の持ち主でない限り、秒殺されてしまう可能性も。

も強いからなあ。

――ブタにも勝てませんか!

野村 ブタはデカイから。本物の種オスのブタなんていったら、体重２００～３００キロあるし、鼻なんてこんな（両手で直径25センチぐらいの円を作って）ですよ! スポーンって吸いつかれたらアザになっちゃいますし、牙を取ってないブタに突かれたら、人間の腹筋なんかあっという間に切れて、中からモツがダラ～っと出てきますよ。

――その中で、先生が一番強いと思う動物ってなんでしょうか?

野村 それは時と場所によりますよね。つまり、ホオジロザメとかは海の中だったら最強だけど、リングの上だったらドタバタするだけでしょ?

――まあ、そうですね（笑）。

野村 だから、自分に有利なシチュエーションで闘えば、最大限の能力を発揮できると。そういう意味でも、人間みたいな生活をしている動物っていないからなあ……。

――基本的に人間社会で生活している動物以外は野生ですからね。

野村 だから、戦闘能力に関していえば、おそらく人間は中型のイヌくらいかな。シェパードくらいの大きさになっちゃうと、完璧にイヌのほうが強いですけどね。

――そうなってくると、ソクジュが「どいつもこいつもキリンよりは弱い」と言ってるのもまったく間違いではないんですね。

野村 まあ、キリンは怒ったらめちゃめちゃ強いですからね。キリンに蹴られたらライオンだって吹っ飛んじゃうんですから!

――やりますね、キリンの野郎も（笑）。

野村 つまりね、草食動物というのは華奢で臆病で逃げてばっかりのイメージがあるでしょ? でも本気になると、ライオンだってシマウマにぶっ飛ばされることがあるんですよ。それでアゴなんか砕けちゃったらライオンはエサが捕れなくなるから、のたれ死にしてアリに食われちゃうんですよね。

――それはライオンからすれば、末代までの恥なのかもしれないですね。

野村 ホントにそう。だから、キリンにやられるライオンなんかは死んだほうが種族にとってはありがたいんです。だって、そんな遺伝子が受け継がれたら大変でしょ?

――いつの間にかキリンより弱い生き物になっていたらイヤですね（笑）。ちなみに、人間が野生動物と同じような環境に放り込まれたら、戦闘能力っていうのはある程度向上したりはするものなんでしょうか?

野村 （しばらく考えて）……しますね。というのも、僕ね、一度パプアニューギニアの人食い人種と一緒に暮らしたことがあるんですよ。

――は? ただでさえプロレス雑誌から外れているテーマからますます遠ざかります

キリンは本当に強いのか

のむら・じゅんいちろう■1961年、東京都出身。野村獣医科Vセンター・院長。中学時代から獣医を目指し、30歳で東京・中野に動物病院を開業。イヌやネコをはじめ、あらゆる動物を熟知。患者は全国に約6万件という、まさにスーパー獣医である! 『Dr.野村の犬に関する100問100答』『ミミズに笑われない生き方』など著書も30冊ほど出版。

が、非常に興味深いですね、その話は（笑）。
野村　たしかあれが8年前だったかな。本当の目的は動物の生態調査ということで、そのときは外国人侵入禁止のところまで行きましてね。もしかしたら生きて帰ってこれないかもしれないということで、素っ裸になって、写真と歯形をとられましたから。しかも、途中まで機関銃を持った軍隊が護衛してくれたんですよね。

――それはまた凄い体験ですね。

野村　それで、密林の中を入っていったら骸骨が転がってるの。「いつ食べられたの?」ってガイドさんに聞いたら、たったの2週間前のものだって。

――あの〜、なんで食べられちゃったんですかね?

野村　おそらく部族同士の争いで死んじゃったんですよね。それで「アリに食われるぐらいなら僕らが食べちゃおう」ってことだと思いますよ。だって、ああいうところって食い物がないからね。

――なるほど、なるほど。

野村　つまり、食人風習のある人種って食物がない環境にいるからヒトを食べちゃうんですよね。だって、僕がその密林で食べてたものっていったら、カミキリムシの幼虫と、ドブみたいな池にいるテッポウウオ。あとはパンジャンデカールクアクーラっていうカメの一種、それを60匹食った！　これ、日本で買うと一匹30万円するんですよ。

――すると、先生は1800万円分のカメを食べたわけですか（笑）。

野村　そう（笑）。それで、何が怖いかっていうと、真っ暗闇でも原住民は目が見えるんですよね。日が落ちて、僕らが真っ暗闇の中を必死に歩いてるときも、子どもたちは平気にそのへんで遊んでますから。一番初めに恐怖を感じたのはそこですね。

ライオン

“百獣の王”と言われるだけあって、本当に強い。本誌でも「○○はライオンよりも強い」というフレーズが多々出てくるが、これはライオンの強さが広く浸透しているがゆえに、使えるフレーズである。しかも、肉が好き。

キリン

ソクジュの言うとおり、草食動物だからといって、キリンは決して侮ってはいけない。ライオンを殺す身体能力も秘めており、キリンが首を振っただけで、人間は2メートルは軽く飛ぶ。首振りのほか、回し蹴りも強烈である。

イヌ

先生いわく、ナチスの人体実験で10キロのイヌが人間に勝ったという判例があるそうだが、イヌの種類によっては人間と五分、もしくは人間が勝利することもできる。ちなみに、写真は本誌編集長・ジャン斉藤の愛犬タンヤオである。

山口日昇

「イヌを殺したことがある」という驚愕の実績を持つ山口日昇は、人間界の誇るべき超人である。人類最強ヒョードルと同じパワーレベルというのも不思議な話であるが、イヌにとっては同様の警戒心を覚える相手なのである。

人間の戦闘能力？ 向上しますよ。人食い人種なんて凄いですからね

――日本に住んでると、だいたい照明があるから頼っちゃいますもんね。

野村　だから、文明生活をしている僕らと比べると、オオカミとチワワの戦闘能力くらい違いがありますよね。

――しかし、環境によっては人間にも可能性があるということですね。

野村　でも、やっぱり限界があるからね。人間って基本的に武器を捨てて脳みそを成長させた生物じゃない。直立することによってデカイ脳みそを支えることができるようになった。その代わり筋力や噛む力、視力、嗅覚、聴覚を捨てたんです。だから、ウマに乗ったりイヌに守ってもらったり、そうやって生きてきたわけ。つまり、戦闘能力や身体能力を捨てたのが人間なんですよ。

――じゃあ、強さを追及する格闘家という存在は、そんな先生からすればどういうふうに見えてるんでしょうか?

野村　これははっきり言うと、やっていることに無理がありますよね。

――では、それを追っかけてるボクらはいったいなんでしょう（笑）。

野村　ただ、これは一番初めに言った同族間の儀式的闘争ですから。勝者は敗者よりも優位に立てるし、同族の傍観者に賞賛を浴びる。だから意味はなくはない。しかもこれはプロとしての行為だから、同族間での本格的闘争でも勝ったことになる。だから、ある意味、人間の種を守る闘いでもあるんでしょうね。

――なるほど。意味があってホッとしました（笑）。

野村　だから儀式的なルールに則った闘争は、どんな野生動物にも人間にも絶対に必要なですよ。殺し合いをせずに優劣を決める。で、勝ったら勝ったでチャレンジャーが現われる。そうやって種は高められていく。

――それ、純度100パーセントの“プロレス”ですね。ガラガラヘビのコンバットダンスも含め、同族間での闘いって、説得力と微妙なグレーさが交じり合ってますし。

野村　人間にしてもね、「そんなことじゃ質は決められない」とか言う人もいますけど、つまるところは生活能力が儀式的闘争の武器になりますよね。金持ちと一文なし、ジャングルにおっ放り出されたらどっちも一緒ですよ。だけど、同族間のコロニーにおいては金持ちのほうが生活能力は絶対に高い。ということは、その種族の中でのエースである。ということは、メスにタネをばらまく権利があるんです。

――野生動物と根源的に同じなわけですね。

野村　同族内で本格的闘争をやりすぎると種は滅びるけど、儀式的闘争でそうやって優劣を決めていかないと滅びちゃうんですよ！　だって、最近のトレンドはバカでひ弱で怠け者になってそこにメスが群がってさ、バカな子ばっかが生まれる。そうすると、どんどんヒトの種は退化していって、いずれ地球はチンパンが制覇しますよ（笑）。

――う〜ん。暗黙の了解がある儀式的闘争だろうがなんだろうが、闘いという行為は存在を賭けたもの！　ということですね。今日は貴重なお話、ありがとうございました！

【07年3月1日／都内・野村獣医科Vセンターにて収録】

同族間の闘いとは種を守るために必要な闘争である

結論！

キリン特集総括!!

人はなぜ闘うのか?

ロマン派プロ格ファン 夢枕獏

聞き手／ジャン斉藤

キリンは本当に強いのか

ゆめまくら・ばく■1951年神奈川県小田原生まれ。小説家。77年デビュー以来、「キマイラ吼」「陰陽師」シリーズなど話題作を発表。格闘技をテーマにして「餓狼伝」を20年にわたり執筆するなど格闘技への造詣は広くて深い。

キリンは本当に強いのか？　この大特集を総括するのは、「よかったねえ……」の〝しんみり〟評論の第一人者、獏さんだ!!　何かと動物と接点が多い極真のフリークでも知られる獏さんの動物論を聞きなさい!!

――獏さん!!　期待を上回る爆発を見せた2・24『PRIDE』ラスベガス大会は、獏さん原作の映画『大帝の剣』のプレミア試写会の日程と重なってしまって、残念なことに現地観戦できなかったそうですね。

獏　そうなんだよぉ～（くやしそうに）。本当は観に行く予定だったんだけど、そのプレミア試写会が27日にあったんでねえ。

――いたしかたがなくPPV観戦されたラスベガス大会はどうでした？

獏　好試合の連続だったけど、やっぱり会場の雰囲気を味わえなかったぶん、もの足りなかったねえ（笑）。

――なんてぜいたくなボヤキでしょうか（笑）。その大会で『PRIDE』デビューしたソクジュなんですが、彼の発言によっていまマット界のごく一部は〝動物幻想〟の話題で持ちきりなんですよ。

獏　（即座に）動物は強いよぉ！

――では、語ってもらいましょう（笑）。やっぱり動物と格闘技といえば、極真の大山倍達総裁を頭に浮かべちゃうんですけど。

獏　そうだよねえ～。いまこそ大山総裁の言葉を思い出すべきだよね。たとえば、「私はニワトリとだって部屋で二人きりにはなりたくないよ!!」とか「ネコと闘うときは日本刀を持って対等だよ！」とか「私はアリ塚をおもいきり叩いてもビクともしなかった。でも、オオアリクイはそのアリ塚をバリバリ破ってアリを食うんだよ。オオアリクイが世界最強だよ、キミィ！」と言ったりさ。そうかといえば、「アリが世界最強だよぉ！」と言ってみたり、とにかく総裁は、たとえがシンプルで心に響いてくる言葉を発するんだよね（笑）。

――メスゴリラのキンタマを蹴って勝ったという伝説もありますよね。メスなのに（笑）。ちなみに獏さんの考える最強の動物って？

獏　俺は何度かアラスカに行ったことがあるんだけど、テントで寝ると怖いんだ。野生動物がいつ襲ってくるかわからないし。で、何が一番怖いって、グリズリー!!

――身長3～4メートル、体重300キロを超えるヤツはざらにいるモンスターですね。

獏　22口径どころか44口径のマグナムでも角度によると、額は撃ち抜けない。俺の友だちは二人殺されてるから！　向こうにはクロクマってのもいて、それは日本のツキノワグマより二回りぐらい大きいんだけど、それよりグリズリーはヤバイ。そのクロクマをグリズリーは食ってるんだよ！

――はあ～。

人間にあって動物にない強さというものは……

獏　アラスカのガイドが言うのは「クロクマに食われそうになったらまず左手を食わせろ。そのあいだに右手で目を潰せ!!」と。

――すると、グリズリーにも対処法があるんですか？

獏　グリズリーの場合はね、腹這いでカメの体勢になって、首の付け根を腕で隠して、身体のどこを食われても悲鳴を挙げずに絶対に動くな！……だって。

――そんなのムチャですよ！（笑）。

獏　それくらい対処のしようがないってことだよ。しかし、最強の防御態勢はカメなんだよねえ～（笑）。

――そうなんでしょうか（笑）。しかし、いろんな方にお話を聞くと、どうも人間は猛獣にはとてもかなわないみたいで。

獏　そりゃあ普通は無理でしょ。武器を持ったり、罠を仕掛けたりすれば、別だけど。でも、動物はね、意味のない闘いはしないんだよ。

――皆さん、そうおっしゃってるんですよね。

獏　動物が闘うときは、自分の命を守るとき、追いつめられたとき、縄張りを守るとき……。切迫した理由があるんだよ。「俺とお前、どっちが強いか決めようぜ！」という理由で闘うのは人間だけですよぉ。

――強さのために闘うのは人間だけ！　闘犬にしてもそう調教されてるだけですもんね。でも、そんな人間が圧倒的に弱いという事実を我々はどう消化すればいいですかね？

獏　いや、人間は強いよ！　やっぱりね、人間の本当の強さというのは、たとえ負けるとわかっていても闘うことですよぉ！

――なるほど！

獏　動物の場合は、負けるとわかった時点で逃げるし、絶対に闘わない。でも、人間は逃げられる機会があっても、それでも敵に向かっていくんだよぉ！

――そこはロマンでもあり、人間の強さや美しさ。『PRIDE』なんかもその人間らしさが物語をつむいできましたよね。

獏　うんうん。心の琴線に触れるというのかな。感情に染みる試合が多いでしょう。

――髙田本部長なんかも、『PRIDE』の初戦があのヒクソン・グレイシーで、最後は確執がある後輩、田村潔司ですからね。この覚悟はとてつもないですよ！

獏　引退試合は本当によかったよねぇ～！　やっぱり最後にあの田村とやったからこそ、いまの髙田があるんだと思うよ。

――もう一人の対戦候補だった吉田秀彦だったら、あそこまで感動的な試合にはならなかったはずですし。人間の闘いとは、単なる強さだけではないということですね。

獏　うんうん。UWFインター時代の因縁を乗り越えて闘ったことが、いまの髙田を支えていると思う。ああいう勝負を動物はできないよなあ……。

――なんだか凄い結論が出ました（笑）。

【07年3月8日／電話取材にて収録】

絶縁状態にあったかつての愛弟子、田村潔司を引退試合の相手に指名した髙田延彦。憎き相手に介錯を依頼する……キリンには到底、できない人間の業だ！

結論！　キリンは髙田延彦にはなれない

――ミドル級王者だったヴァンダレイがこのラスベガスで負けてしまって、どんなお気持ちですか。

フジマール・フェデリゴ会長（以下、会長）　当然ながら非常にショックだよ。だが、ショックは受けているけど、これからのことも考えている。それは何より、このPRIDEミドル級のベルトを取り戻すということだ。

ショーグン　そう、フジマール会長の言うとおり、ベルトをシュートボクセに取り戻すこと。それが最優先課題だね。

会長　取り戻す方法は二つある。一つはヴァンダレイがダン・ヘンダーソンと再戦すること。もう一つは、すでに実力をつけて台頭してきている、このショーグンがヘンダーソンと闘い、ミドル級ベルトを取り返すことだ。

――なるほど。

会長　いまショーグンは非常に力をつけているから、現実にできるだろうと思う。

――ダンヘンも一夜明け会見で「ショーグンとやってみたい」と言ってましたよ。

ショーグン　それは嬉しいね。フジマール会長さえ「やれ！」と言ってくれれば、俺はいつ何時、どこであってもダンヘンとやる準備はできてるよ！

――実際に闘ったら、どんなパターンで倒すことになりそうですか？

ショーグン　べつにスタイルを変える必要もないし、対策を練る必要もないさ。シュートボクセ本来のスタイル、つまりガンガンこっちから打撃で攻めていくよ。そしてスタンドでKOするか、グラウンドでサブミッションを極めてもいい。いずれにせよ、必ず完全決着で勝ってみせる。

――最近、寝技もメキメキうまくなって

「貧民街の子どもたちのためにもPRIDEミドル級王座は絶対に奪還する」

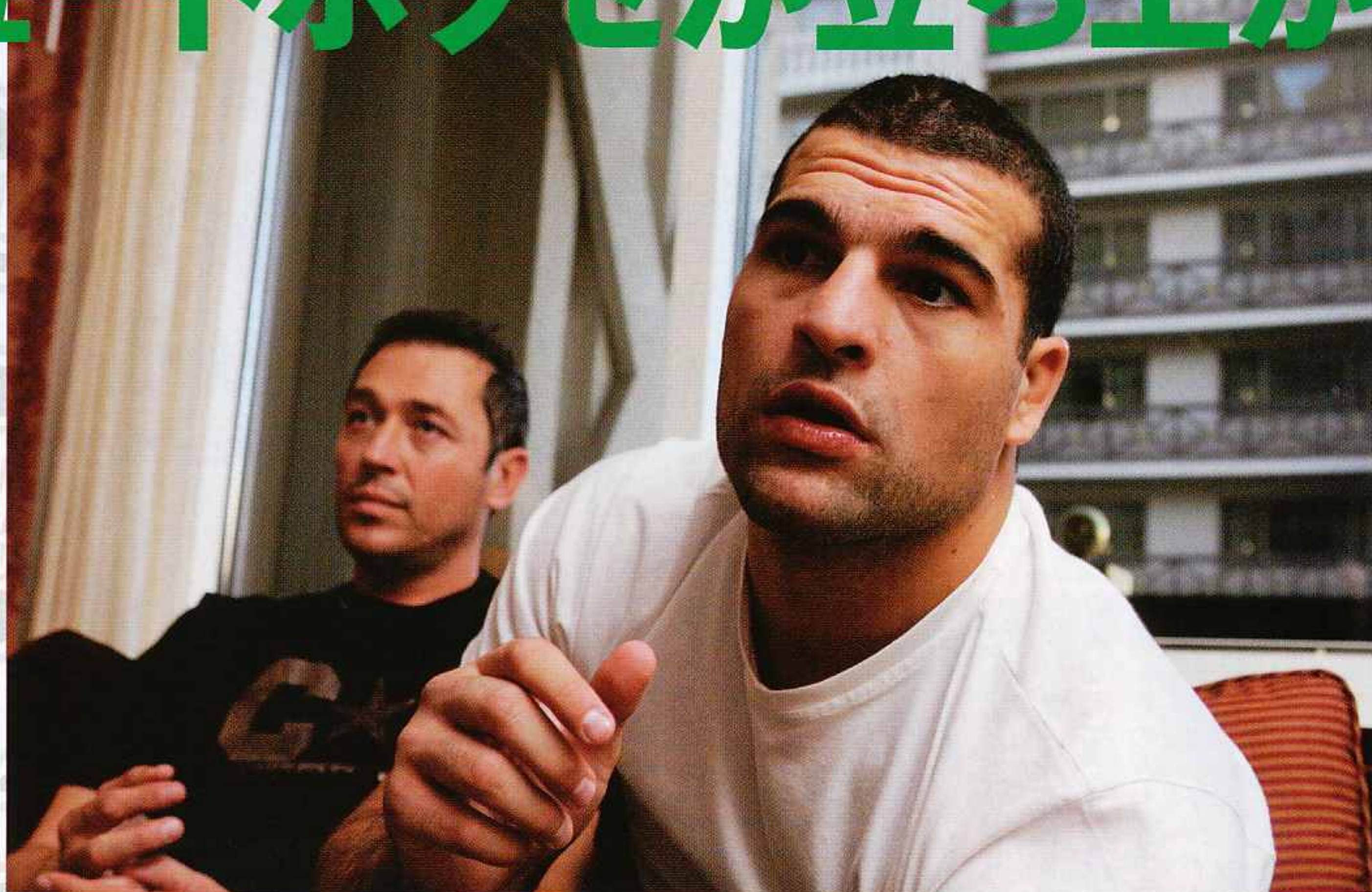
きていますしね。その秘密は？

ショーグン　べつに秘密なんてないよ。アカデミーでたくさんトレーニングを積んでいるだけさ。シュートボクセには立ち技だけでなく、優れた寝技のコーチもいるし。あとは俺たち選手が自覚を持って練習していきさえすれば、どんどん強くなれるんだ。そういう確固としたシステムができあがってるから、それが結果に結びついてるんだよ。

――寝技技術というと、シュートボクセには柔術黒帯がたくさんいますね。ホイラー・グレイシーの弟子でヒクソンの家にも何ヵ月も住み込んで練習していたクリスチャーノ・マルセロとか、あと4月にミルコとやる06年の柔術世界王者ガブリエル・〝ナパオン〟とか……彼らから寝技を習っているわけですか。

ショーグン　いや、我々の柔術のコーチはずっとクリスチャーノだけだね。彼は昔、柔術の大会で、（ビトー・）〝シャリオン〟（・ビベイロ）の腕を折ったことでも知られている。ナパオンはアメリカに住んでるんで、そんなに一緒に練習する機会がないんだよ。黒帯はマスターラファエルをはじめ、（ルイス・）アゼレードや（ジョルジュ・パチーユ・）マカコらを含めて10人以上もいるけど。

――クリスチャーノはとてもいい柔術家だから、彼がいるだけでも相当に違うでしょうね。ところで、UFCが93年に産声をあげ、MMA（総合格闘技）が始まった頃にはグレイシー一族をはじめブラジル人が非常に強く、その後ノゲイラも『PRIDE』の王者になりましたが、やがてヒョードルらロシア人が台頭し、最近ではダンヘンやソクジュのチーム・クエスト

“絶対王者”シウバ陥落にシュートボクセが立ち上がる!!

“クリチーバの暴れん坊将軍”
マウリシオ・ショーグン
with
シュートボクセ・アカデミー会長
フジマール・フェデリゴ

PRIDEミドル級の絶対王者シウバが2.24『PRIDE.33』で敗れたことで、大会直後のシュートボクセ・アカデミーの控室は悲しみに暮れていたという。しかし、一夜明けてマウリシオ・ショーグンとフジマール会長のビジョンにはすでに新しいターゲットがロックオンされていた。アメリカMMAバブルで世界情勢が激変する中、シュートボクセ・アカデミーは壮大なスケールの世界戦略で立ち向かう！　さらに貧困やドラッグから貧民街の子どもたちを救うためのプロジェクトも始動!?　はてしなく広がるシュートボクセの夢と野望を読み込め！

聞き手／稲垣收　撮影／乾晋也

など、アメリカのチームも台頭してきました。そういう各国の勢力争いについてフジマール会長はどう思われますか？

会長　ちょっと待ってくれ。いま挙げた国に日本を入れてないね？

―いや、日本人もいますが……今回は王者の五味選手も三崎選手も負けてしまいましたしね。

会長　まあ、どんな王者も負けることはあるよ。MMA自体が非常に進化しているからね。そんな中で日本の選手もとても進化してきていると思う。もはや、どこか一つの国が王座を独占とか、完全に君臨するということができる状況ではない。いまやMMAは世界に普及して世界共通の競技になったし、技術的にも、もはや隠されたものはなく、皆がことごとく技術を共有しているからね。

ショーグン　そうそう。技術レベルはどの国の選手も非常に近いものがある。あとはそのときどきの、スタミナとか、メンタル面の強さ、そういうものが勝敗を決する大きな要素になってきてるんだ。

―国ごとの差は、だんだんと少なくなってきているわけですね。逆にそれぞれの国の中でのチームのカラーが出てきているということもありますね。ブラジルならシュートボクセやブラジリアン・トップチーム、ロシアならレッドデビルやロシアン・トップチーム、アメリカならダンヘンのチーム・クエストとか、アメリカン・トップチームとか……シュートボクセは、日本にも支部があり、最近はロサンゼルスにも支部ができていますが、世界中に支部を増やしていこうという世界戦略のようなものがあるんですか？

会長　ああ、アメリカにはロスだけでなく、東海岸にも支部ができるんだ。そしてカナダのトロントにも支部を作る予定さ。我々が目指してるのは世界チームだ。ブラジル人だけでなく、シュートボクセで学んだ日本人、アメリカ人、カナダ人、ヨーロッパ人……やがて世界中の国からシュートボクセ戦士が巣立っていくのさ。多国籍の選手がいるチームにしたいんだ。

―多国籍軍団構想ですか！

会長　そう。そうしてシュートボクセ自体は国際的な組織としてやっていきたいんだ。

2.24『PRIDE.33』でショーグンはアリスター・オーフレイムと激突！　長身で打撃得意の両者が真っ向からぶつかり合い、最後はショーグンが強烈なパウンドで勝利！

―つまり世界各国のシュートボクセで育った選手たちが、各国のMMAシーンを席巻し、シュートボクセ軍団が各国の内側から世界を制覇してしまおうと？

会長　そのとおり！　さらにつけ加えるならば、クリチーバが本部だから、世界各国の支部の選手がしばしばクリチーバまで来て特訓を受け、技術水準を本部と同じレベルに保つようにしていくってことも考えているんだ。

―うーん、なんか極真空手を創始したゴッド・ハンドこと、マス大山を思わせる世界制覇構想ですね。

ショーグン　もしそれが可能になれば、シュートボクセ・アカデミーにとって、本当に歴史的なものになるよ。俺たちがクリチーバでやってきたことが世界中に広まって、俺たちの仕事・技術が評価されるというのは素晴らしいことだよ。

―そのように支部を世界中に広めていくという方向も凄いですが、もう一方で、フジマール会長はメッカ・バーリトゥードというMMA大会もクリチーバで開いていましたね。これは最近でもやっているんですか？

会長　最近は『STORM　SAMURAI』という大会をやっているんだ。今年も継続していくよ。『STORM　SAMURAI』はブラジル国内では注目度の高い大会なんだ。新しい才能を発掘していく位置づけの大会だね。そういう国内大会を通じて、第2、第3のヴァンダレイやショーグンのような選手を見つけ、育てていこうと考えています。期待していてください。

シュートボクセ勢はとても仲が良い。ラスベガスでもみんなでシルク・ド・ソレイユのショー「O（オー）」を観に行き、「ほんとに素晴らしい!!」（ニンジャ）と感動したという。

―いまからワクワクしてきました。

会長　ワクワクするのは、シュートボクセのもう一つのプロジェクトを聞いてからにしてくれ！

―もう一つのプロジェクト？

会長　ああ。シュートボクセはいま、クリチーバの貧民街にアカデミーを一つ開設して、月謝を払うことができない貧しい家庭の子どもたちにも無料でトレーニングを受けられるようにして、彼らをストリ

貧困やドラッグと闘い、ベルトも奪還する 今年はたくさんのチャレンジがあるよ（フジマール会長）

シュートボクセの世界戦略は歴史的なものになる 俺たちがやってきたことを世界に広めたい（ショーグン）

ートから救い出そうとしているんだ。

ショーグン　ブラジルの貧しい家庭の子どもたちは、犯罪に巻き込まれやすい環境にいるし、ドラッグ中毒になったり、逆に売人になってしまったりするケースも多いんだ。だけど、シュートボクセ・アカデミーでそういう子どもたちに規律を教えることで、彼らは格闘技だけでなく自分を律することを学び、一人の人間として自立する助けにもなると思うんだ。それにそういう子どもたちの中から、ダイヤモンドの原石みたいな素晴らしい選手が生まれてくる可能性もあるしね。

——それは素晴らしいプロジェクトですね。アメリカのボクシング界でも、そうしたプロジェクトのおかげで貧民街を脱出して世界王者になった選手もいますし。

会長　これは私としてはぜひともやっていきたいプロジェクトなんだ。シュートボクセでそのための基金を作って、運営していきたいと思っている。

——その姿勢は、本当に素晴らしいと思います。

会長　ありがとう（笑）。

——貧しく危険なストリートで暮らし、犯罪に走ってしまいそうな少年たちにとっても、ヴァンダレイやショーグンらチャンピオンは憧れの存在なんでしょうか？

会長　そのとおりさ。ショーグンもヴァンダレイも彼らにとってまぎれもない英雄であり、アイドルだよ。

ショーグン　逆にそれだからこそ、俺たちは社会的責任を負っているんだ。だからドラッグに反対したり、俺たちも責任を自覚した社会的活動もしていかないとね。

会長　それにシュートボクセの技術を学ぶお金がない少年たちの中にも、間違いなくダイヤの原石はいるはずだ。これは二重の意味で有意義なプロジェクトなのさ。

ショーグン　このプロジェクトを成功させ、シュートボクセ基金を活性化する意味でも、今回ダンヘンに奪われたベルトは、なんとしても取り戻さなくちゃならないんだ！

——なるほど。そのとおりですね！

会長　まさしくチャレンジなんだ。ベルトを奪還するというチャレンジ、そして貧困やドラッグと闘うというチャレンジ。今年は我々にとって、たくさんのチャレンジがある年だ。忙しい1年になりそうだよ。

——確かに忙しく、険しい道かもしれないですが、それだけやりがいもあるチャレンジですよね。ぜひ、頑張ってください！

会長　ありがとう。

——ところで、ヴァンダレイは毎回自分でベルトを持ち帰っていたんですか？

会長　ああ、そうだよ。

——愛着のあるベルトを手放して、かなり落ち込んでいたでしょうね。

会長　ああ。ヴァンダレイはまさにシュートボクセの中心選手だから、彼が負けるとアカデミー全体がダメージを感じるんだよ。一方で、このショーグンは謙虚で忍耐強い選手だ。私は今回のことで、逆にショーグンにはチャンスが来たかなと思っている部分もあるんだよ。というのは、正直な話、いまミドル級のベルトに一番近い位置にいるのはショーグンだと思うんだ。

——と会長が言っておられますが、ショーグン選手はどう思いますか？

ショーグン　尊敬する会長から「ベルトに一番近い男だ」なんて言ってもらえて、凄く嬉しいよ。本当に光栄だと思う。信頼に応えるためにも、リングの中で結果を出さなくちゃね。そのために、これからも毎日一所懸命、練習するよ。ミドル級のベルトをヴァンダレイが持っていたあいだは、自分がほしいとか思ったことはまったくなかったけど。でもいまは「なんとしてもシュートボクセに取り戻したい」という気持ちになったんだ。

——ヴァンダレイがベルトを持っているとき、「うらやましいなあ」とか「ほしいなあ」と思ったりしなかったんですか？

ショーグン　それはまったくない。ヴァンダレイは我々の憧れの選手だし。兄貴分のヴァンダレイが持っててくれればそれで満足だったんだ。

——ホントに兄弟みたいなんですね。じゃあ、ダンヘンとはすぐにでもやりたい、という気持ちですか？

ショーグン　そうだ。昨日の大会でやってもよかった。兄のニンジャの仇でもあるし（01年の『PRIDE・17』でダンヘンが2－1で判定勝ち）。

——しかしチームの結びつきが本当に強いですね。その理由はなんでしょう？

会長　もう何年もずっと一緒にいるしなぁ。彼らの成長をずっと見守っているからね。ファイターとしてだけでなく、恋人ができたとか、結婚したとか、子どもができたとか、そういった全部の過程を見て、一緒にすごしてきたからね。

ショーグン　練習を見てもらうだけでなく、本当に仲のいい友人というか、毎日一緒にごはんを食べに行ったり、お互いの家に行って家族ぐるみの付き合いをしているから団結力が生まれるんじゃないかな。

——もう家族のような存在ですね。

会長　ところで最後に言いたいんだが、日本が懐かしくてしょうがないよ。このあいだ行ってから3ヵ月以上経つからね。何年間も日本に行き続けているから、ぽっかり日本に行かない期間ができると、なんだか落ち着かないへんな気分なんだよ。

——4月に来るのをお待ちしてます（笑）。

【07年2月25日／米国ネバダ州ラスベガス、シーザースパレスにて収録】

MAURICIO SHOGUN■1981年11月25日、ブラジル・パラナ州出身。フジマール会長率いるシュートボクセ・アカデミーの次代を背負うPRIDEミドル級GP2005王者。スタンドだけでなくグラウンドでの技術も非常に高い。アメリカMMAファンのあいだでも非常に人気＆評価が高く、『PRIDE.33』でも大声援を受けた。182cm 93kg。

"長南の嫁"
直撃インタビューは
『kamipro Special
2007 SPRING』に掲載！

祝！

DEEPミドル級王座防衛&結婚おめでとうインタビュー！

DEEPミドル級チャンピオン

長南 亮

「結婚？ べつにいままでとなんにも変わりませんよ」

"恐怖のピラニア"、DEEPミドル級王座防衛達成～！ というわけで、遅ればせながらおめでとうインタビューを敢行した『kamipro』編集部。しかし、この"おめでとう"の意味はそれだけではない!! そう！ あらゆる意味で"おめでたい"この男の声を聞け!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／山口比佐夫、平工幸雄

――まずは、あらためまして、DEEPミドル級のベルト防衛（2・16 DEEP 桜井隆多戦）、おめでとうございます！

長南　ありがとうございます！

――白熱した内容で非常におもしろかったです。ただ、ボクは長南さんの試合を観ると、いつも「もし何かあったら『引退します!!』って言い出してしまうんじゃないか」とか、余計なことを考えちゃうんですよ。

長南　ハハハ。まあ、あの試合は紙一重の部分もありましたけどね。

――今回はとくに足の靭帯をケガした状態での試合だったわけですよね。試合前は「欠場するなら引退する！」とまで言ってたそうですけど、ケガの不安は大きかったんでしょうか？

長南　練習ができない不安はありましたね。正直言うと、ここ1年近くまともに練習できてなかったんで、それはずっと悩んでました。

――1年間も練習できない!! そりゃ悩みますよね。

長南　一番重傷だったのは、去年の6・2『武士道・其の拾』のウェルター級GP1回戦でジョーイ・ヴィラセニョールと闘ったときですね。あの試合のラスト30秒で顔の骨を折っちゃったんですよ。ちょっとした気のゆるみが大事故につながってしまったなって。

――でも、8・26『武士道・其の十一』2回戦でパウロ・フィリオと対戦しましたよね。ケガで欠場しようと思えばできたと思うんですけど、そこにあえて出たというのは？

長南　俺としては「勝ち逃げした」と思われるのが一番イヤだったんですよ。それに、もし出ないってことになったら、こっちが謝らないといけないじゃないですか。「出場できなくてすみません」って。はっきり言って、それもイヤだったんですよ。

――謝ってもいいじゃないですか、本当に重傷なんですから（笑）。

長南　練習でケガしたんだったらそれは謝らないといけないですけど、試合でケガしたんだったら謝る必要もねえなって。

――まあ確かに、筋は通ってる気もしますけど（笑）。

長南　そういう気持ちもあったし、関係者はイケイケでしたからね（苦笑）。練習仲間とかドクターなんかはやっぱり心配してくれましたけど。

――ちなみに、練習できない期間もかなりあったと思うんですけど、そのあいだは何をしてたんですか？

長南　完全に何もできない期間が2ヵ月くらいあったんですけど、そのときは家でずーっとゲームしてました。

――長南さん、ゲームが大好きですもんね。いま、ハマってるソフトってなんですか？

長南　PS3の『RESISTANCE』をやってますね。ゾンビみたいなのが出てきて、そいつを倒していくんですよ。

――ちょっと前にコマーシャルでよく見かけましたね。「人類の存亡を懸けた4日間……」とか言ってるやつ。

長南　そうそう。いまはネットで戦争してるんです。

――戦争!? ゾンビと戦争するんですか？

長南　いや、人間同士ですよ。オンライン上で何十人かと対戦できるんですよ。それは人間同士闘うんですけど、全員敵なんです。

――なんかゲームの趣旨から大きく外れてる気がしますけど。ゾンビvs人間なのに人間vs人間って（笑）。

長南　まあ、そうですけど（笑）。これがまたおもしろいんですよ。俺も最初は抵抗あったんですけど、ま、本当の戦争じゃないからいいかなって（アッサリ）。

――そのゲームはオンラインでやる以上、当然、キャラクターに名前もつけるわけですよね。長南さんは、なんて名前をつけてるんですか？

長南　それは公開したらかなりマズイじゃないですか！「コイツ、長南なんだ」っていって、みんなに狙われちゃいますよ。

――そりゃそうだ（笑）。

長南　でも、今年はちょっと身体がよくなったら、ゲームよりも外でサバイバルゲームをやりたいなって思ってるんですよ。

――サバイバルゲームというと、エアガンとかで撃ち合って闘ったりするゲームですよね。長南さん、やったことあるんですか？

長南　中学生のときにやってましたね。でも、いまやると意外とヘタかもしれないですよ。たぶん、ああいうのって小柄でチョロチョロ動けて隠れられるヤツのほうが有利な気がするんですよね。

――あれって都内でできるもんなんですか？

長南　都内っていっても、山とか遠方に行ったほうがいいんじゃないですかね。俺の知り合いで代々木公園でやってるヤツとかいましたけどね（笑）。

――間違いなく通報されますね（笑）。

長南　でも、単なるゲームですからね。

――長南さんだったら、いずれ「これは、ゲームなんかじゃねえんだ！」とか言い出しかねないですよ、確実に。

長南　それはさすがに大丈夫ですって（笑）。完全にゲームですよ。

――そこは、考え方としてはやっぱり実際の試合とは違うわけですか。

長南　もちろんですね。俺にとって、試合は人生ですから。

――人生そのもの！　それはもう「死んでも本望」みたいな思いもあるってことですか。

長南　死んだら問題になっちゃいますけどね（笑）。格闘技界は繁栄してほしいと思ってますから、のちのち議論されるようなことは避けたいですけど、「死すら恐れない」という思いはありますよ。

2.16 DEEPミドル級タイトルマッチは桜井隆多との白熱した展開に。この闘いで見事ベルト防衛に成功した長南だが、じつは靭帯をかなり痛めていたというから驚きである!

――長南さんは、いつも何かに打ち込むときは、そういう「人生そのもの」的な気持ちで取り組んでるんですか？　たとえば、この世界に入る前は大工の仕事をされてましたけど。

長南　ああ。大工時代はウツみたいになってたんで、「いつ死んでもいいや！」っては思ってましたよ。

――それはまたちょっと方向性が違う（笑）。しかし、ウツの大工ってあまり聞いたことないんですけど。

長南　自分は山形から上京して大工の仕事に就いたんですけど、当時、大工って凄く忙しかったんですね。自分も働きまくってたんで、現場には凄くアテにされてたんですけど、途中からもう仕事もだんだんおもしろみを感じなくなったんですよね。

――要は、達成感がなくなってしまったということですか。

長南　もう将来が見えるなって。このまま続けてたら、収入も増えて現場も任されて親方になって、そしてもしかしたら会社を興すことできるかもしれないって。でも俺は、先のことが想像できる人生って意味ねえなって。

――普通は人間って安定を求めがちですけど。

長南　それだったらなんにも喜びを感じられないと思うんですよ。ちょうどそんな精神状態のときに、自分が運転してた車がダンプとぶつかりそうになったことがあったんですけど、「なんでぶつからなかったんだろう、死ねばいいのに」って思いましたから。

――長南さん、それはウツという症状です（笑）。それを変えるきっかけになったのが格闘技だったという部分もあるんですか？

長南　ありますね。そのあと職場を変わったんですけど、そのあたりからU-FILE CAMPに通うようになって。もう、それが最終的な東京での思い出になればいいなって。

――じゃあ、「俺には格闘技しかねえ！」っていうような、純度が高い思いで望んだということじゃないんですね。しかし、格闘技が長南さんにとって〝思い出づくりだった〟というのは、いま聞くと不思議な話ですね。

長南　でも俺から見たら、プロになりたいって言ってたヤツのほうがたいしたことなかったですからね。

――厳しいなあ（笑）。

長南　「試合に出たい」とか言ってるけど、こんなんじゃ出られるわけないだろ！　って思う部分はけっこう多かったですね。

――当時は格闘技に対してここまで全力を傾けるとか、生業にしようっていう思いはなかったんですよね。

長南　でもやってみたらもっと好きになりましたよ。ただ、最初は大工業をやりながらだったし、格闘技は生活にまったく関係ないところでやってたんで、どちらかというと会社のほうがおもしろく思ってなかった部分はあるでしょうね。ケガで現場に出られないときもあったし。

――会社にとってみたら、プロの大工として賃金を払ってるわけですしね。

長南　昼は現場、夜は格闘技っていう生活で、ろくに睡眠もとらないで現場に出たりしてたんで、会社も「普通に夜休んでくれればもっと働いてもらえるのに」って思いはあったと思いますよ。試合を生で観てもらってから理解されて変わった部分はありますけど。

――まあ、二足のわらじですからね。でも、そこから格闘技一本でやっていこうというように意識が変わったのはどういうタイミングだったんですか？

長南　やっぱり食べていけるようになってからですかね。まあ、自分ではちょっと遅すぎたかなって思ってた部分もありましたけどね。だって、『武士道』に出てからも現場で働いてましたから。

――つまり、『PRIDE』でヒカルド・アルメイダと大工が闘っていた、と（笑）。たとえば試合でケガをして闘えなくなったらどうしよう？　と

結婚と試合は別。試合するのにいちいち家庭のことは考えませんよ

いう不安はありましたか？
長南 う～ん。ま、自分は何をやっても食っていける自信はあったんで。そこは心配しなかったですけどね。もっと心配しなきゃいけないようなヤツはいくらでもいますから（笑）。
――そうですか（笑）。そういう部分で、たとえば、長南さんは元DSE社員の臼杵彩子さんとご結婚されたわけですけど、家庭を守る立場として、何か考えが変わった部分というのはありますか？
長南 いや、それはないですね！（キッパリ）。
――ないんですか！（笑）。
長南 試合と結婚は別ですね。試合するのにいちいち家族のことを考えたりはしないですよ。
――あの～、パウロ戦のときって本当にヤバかったじゃないですか。ケガしてるところを殴られたら再起不能になるかもしれない。ボクはですね、臼杵さんが『あしたのジョー』の白木葉子のように控室で「いかないで、矢吹くん！」とか止めているシーンを勝手に想像してたんですけど（笑）。
長南 ないない（笑）。ただ、う～ん……（考え込んで）ちゃんとしなきゃいけないっていうのはあります。
――なんですか、そのシンプルすぎるコメントは。
長南 俺、金銭感覚とかも、めちゃくちゃなんで、そういう部分は正そうとは思いますけど、試合に関してははっきり言って、何も言わせないですね。『PRIDE』に関わってたってことで、たまに調子に乗ったことを言ったりするんですけど、それはもう一喝して「うるさい！」と。俺さえわかってればいいんだ！ って（笑）。
――なるほど（笑）。じゃあ、結婚されてもあんまり変わらない感じですか？
長南 まあ、子どもとかできたらまた変わるんでしょうけど。
――それにしても、DEEPでベルト防衛したあとにリング上で「妻に感謝しています！」って言ったにも関わらず、『ゴン格』にも『格通』にも、まったく結婚のことが触れられてませんでしたよね。インタビューでも触れられていない。
長南 べつに「書くな！」とか脅してるわけじゃないですよ。
――いや、ボクは勝手に長南さんが圧力をかけてるんだろうなって思ってるんですけど（笑）。
長南 ガハハハ！ 確かに、そういうオーラを出してたかもしれませんけど。ほかの記者はなかなか言えなかったんじゃないですか？
――もの言えぬ圧力（笑）。
長南 それに、ケガしているときはどの媒体もずっと取材拒否してたんで、溜まった話を聞くので手一杯で、結婚話まで行き着かなかったんじゃないですか？
――じゃあ、「臼杵さんとの対談、お願いします！」って毎月のように連絡していたボクはとんでもないですね。
長南 ホントにそうですね（笑）。
――で、今後の予定ってどういうふうに計画されてるんですか？
長南 "対世界、再び！"って感じですかね。新たなバージョンでリングに上がりたいなって。なんで、いまはUFCのウェルター級（70・3～77・1キロ）の選手を狙ってますね。
――UFCのことはよく口に出されてますね。
長南 UFCっていっても、自分はぜんぜん舞台としてUFCはなんの

ちょうなん・りょう■1976年10月8日、山形県出身。現DEEPミドル級王者。01年5月DEEPでプロデビューし、『PRIDE』には『武士道・其の参』から参戦。06年2月DEEPミドル級タイトルマッチを制し、チャンピオンに。07年2月桜井隆多戦で見事防衛をはたした。175cm、82kg。

ソクジュには、アローナ戦でまた驚かされることになると思いますよ

思いもないんですよ。どちらかというと、その選手たちと闘いたいって感じですね。
――ジョルジュ・サンピエール、マット・ヒューズ、それからBJペンとかですか。
長南 そうですね。体重落としてさらに強くなりたいって思ってるんで。
――また、アメリカのダンヘンのところには練習に行くんですか？
長南 何度か行くと思いますね。前回は足のケガで5～6割しか練習できなかったんで、今度はちゃんとやりたいなって。ダンはいつでも「ウェルカム」って言ってくれるんでね。
――ちなみに、ダンヘンのジムといえば、『PRIDE・33』で大爆発したソクジュがいますよね。
長南 一緒に練習してましたけど、普段からおもしろヤツですよ（笑）。試合でも凄いインパクトを残しましたよね、アイツ。
――4・8『PRIDE・34』ではヒカルド・アローナと対戦が決まってるみたいですよ。
長南 へえ～。じゃあ、またテリー（ソクジュの本名）に驚かされることになるんじゃないですか。
――長南さんの中でもそんなに評価が高いんですか、あのソクジュは！
長南 やっぱ、スタミナとか凄いですからね。お客さんはホジェリオ戦が短期決戦だったんで、長く闘ったらどうか、寝技になったらどうかとか、そういう不安はあるのかもしれないですけど、自分はテリーの実力を知ってるんでおもしろい試合になるなって思ってますよ。勝つかどうかはべつにして。
――へえ～。なんだか期待感が増しました！
長南 それにしても、あのリラックスっぷりは驚きでしたよね～。しかも、練習で見てた蹴りより全然速かったですよ（笑）。
――凄い！ 本番に強いタイプ（笑）。
長南 アイツとの練習も中途半端だったんで、そういう意味でもまたアメリカに行ってきますよ。
――じゃあ、ソクジュとトレーニングを積んで、ますます活躍の場を広げる長南さんに期待しておりますので、頑張ってください！
長南 ありがとうございます！

【07年3月10日／都内・ハッスル仮面ピンクがうろつくDSEにて収録】

DEEPミドル級タイトルマッチの前に、チーム・クエストでトレーニングを積んだ長南。写真は、なんと！ あのソクジュとスパーリングをしている絵である。

稲妻伝説

日本プロレス史上最も歌がうまい男がついに登場

悩める現代社会にイナズマッ!!

ドラゴンとのライバル抗争から長男・寛紀さんの大田区議会議員選挙まで、ケンゴが語った!!

木村健悟

かつて、“ドラゴン”藤波辰爾とともに、ニューリーダーとして、80年代の新日本プロレスを支え、歌手としても『デュオ・ランバダ』をはじめ、数々の名曲を歌い上げた稲妻戦士・木村健悟がひさびさに『kamipro』降臨! 長男・寛紀さんの大田区議会議員選挙出馬が決まり、応援に忙しい毎日を送るキムケンに、ざっくばらんに稲妻トークを展開してもらいました。イナヅマッ!

聞き手&撮影/堀江ガンツ　試合写真/平工幸雄

木村　今日はどういったことで、僕のインタビューなんですか？

――いやぁ、ご長男の寛紀さんが大田区議選に出るというニュースを見て、思い出したかのように（笑）。

木村「あ、そんなのも昔いたな」と（笑）。

――ウチの読者層も、少年時代に金曜夜8時の『ワールドプロレスリング』を観て育った人が多いんで、当時のスター選手の一人である木村さんにあらためてお話をうかがおうと思いまして。

木村　そうですか。光栄ですね。

――よろしくお願いします。木村さんは奥さまが目黒区議会議員で、ご長男もこのたび大田区議選に出馬、そしてご自身も参院選出馬経験ありと、家族揃って政治の世界に縁がありますよね？

木村　そうですね。これは誰の影響かといったら、自分の影響以外の何ものでもないんですよね。女房なんかも、本来はそういう意思はなかったんだけど。俺がダマして議員にさせちゃったところがあるから。

――あ、ダマしたんですか（笑）。

木村　ダマしたのが16年前ですからね。よくダマしたね、ダマして結婚して（笑）。

――そんなにダマしっぱなしでしたか（笑）。なぜ、奥さんを区議会議員にしようと思ったんですか？

木村　最初は僕に話が来たんですよ。いまの社民党、当時の社民連が候補者を探してるっていうんで。じゃあ、やろうかなと思ったんですけど、周りの人たちに「木村さんが出るのはもったいない。区議会議員の給料なんてたかが知れてるんだから。それよりプロレスで稼いだほうがいい」って止められたんです。それで僕も「ああ、そうだな。家も建てたし、家族を養うのも大変だしな」と思ってやめたんですけど、「じゃあ、女房が出ればいいんじゃないか？」と思って、話を振ったんですよ。

――自分の代わりだったんですか（笑）。

木村　だから本人は最初、凄くイヤがってましたね。彼女自身、それまでの人生では政治のセの字もなくて、家庭で普通に主婦をして、子どもを育てるのに必死で。俺らの世話をしてるのが楽しいような女だったんで。それを口説くのは大変でしたよ。口で言っても向こうのほうがはるかに頭いいですから。これをダマすにはどうしたらいいかと思って、まず酒を飲ませたんですね。

――ガハハハ！　まず酒ですか。

木村　酔っぱらったところで「どうだ、やらないか？」って言ったら「イヤだ！」と。それをなんとかうなずかせるためにはどうしたらいいか考えて、これはもっと飲ませよう、と。

――さらに酔わせて完全に思考能力をなくそう、と（笑）。

木村　で、ガンガン飲ませて、さらに酔っぱらったときに「いいから、立候補すりゃ勝てるから。猪木さんだって受かったんだから」っていうようなことを言ったわけ。「猪木さんだって」って言ったら怒られちゃうけどね（笑）。

――そりゃ怒られますよ！

木村　でも、これはあくまで彼女を口説くために言ったことですから。それで最後にはブランデーで酔わせて、「立候補すれば絶対に勝てるから。やるか？」って言ったら、ようやく「うん」って答えたんで、立候補させたんですよ。

――ほぼ、犯罪スレスレですね（笑）。でも、なぜそこまでして奥さんを区議会議員にしたかったんですか？

木村　やっぱり僕自身が、これまでプロレスをやってきたことを活かして、スポーツを通じて何か社会貢献したいっていう夢があったんですよ。それで猪木さんも参院選に出たし、自分が政治をやるとなったら、学校教育は中高一貫制にしたいとか、政策まで考えたりしてね。

――すでに政策までありましたか。でも、なんで中高一貫制なんですか？

木村　いまほどじゃないですけど、当時から親が子どもを殺したり、子どもが親をバットで殴ったりとか、そういう事件があったんですよ。そして、そういった事件はたいてい子どもが中学3年の受験生のときに起こってたんです。受験のときって親も子どももナーバスになりますから。そうじゃなくて、思春期の一番大事な時期こそ、心豊かに勉強してね、部活動やって、みんなと一緒に仲良くする時間を多く持たせること。これがやっぱり大事なことじゃないかと思ってね。それで実際、僕が参院選に出たとき、そういうことを街頭で訴えたんですけど、なかなかピンとこなかったみたいなんだよねぇ（しみじみ）。

――いまみたいに、親子で殺し合う事件が頻発してたら、もっと支持されてたかもしれませんけどね。

木村　そうだよねぇ。でもまぁ、どっちみち比例代表23位ですからねぇ。

――どっちみち23位じゃ通らないだろう、と（笑）。

木村　あの当時、民主党は菅代表だったんだけど、挨拶したら「頑張ってね、期待してるからね」なんて言うんですよ。そしたら、こっちも期待するじゃない。15位ぐらいかな、と思ってたら23位。そんな23位で期待してるも何もないだろうって（笑）。

――明らかに期待してない順位ですよね(笑)。

木村　でも、出馬記者会見をしてから順位は決まるわけだから、取りやめるわけにもいかないからね。開き直って頑張りましたよ。それが江本（孟紀）なんかさ、12位かなんかなのに「選挙運動しない」とか言ってね。ふざけんなって。こっちは23位で通るわけないのに、泥だらけになって選挙運動やってんだから。

――それで木村さんは、前代未聞の投票締め切り5時間前に敗北宣言を出したんですよね（笑）。

木村　そうですね、それも知り合いのラーメン屋さんでね。

――ラーメン屋さんで敗北宣言を出しましたか！（笑）。

木村　赤坂ラーメン駒沢店でね（笑）。まあ、やることなすことおかしなことばっかりで。普通じゃないですよ。でも、それが猪木さんの教えだから。人がやらんようなことをやれっていうね。

――そうですね。「人がやらないこと、人ができないことをやる。それが私のロマン」って言ってますもんね。

木村　だから僕は選挙活動もバイクで全国を回るようなことをやったんですよ。絶対やらないもん、普通の人は。ホント、馬鹿になれですよ（笑）。

――ハーレーに乗って選挙活動したんですよね？

木村　あれはハーレーじゃないの、ハーレーもどきなの。

――あ、もどきでしたか（笑）。

木村　友人から借りたやつでね。

――でも、選挙活動といったら、庶民派をアピールするために、みんなわざと自転車に乗ったりしますけど、なぜハーレーもどきだったんですか？

木村　僕は比例区ですから、全国を回らなきゃならないから。でも、新幹線だと金かかってしょうがないし。バイクで本州を16日間で回りましたよ。白い民主党のジャンパーが排気で泥だらけになっちゃってね。違反とは知りつつ、民主党の旗を立てて走ってたからね。

――ダハハハ！　ハーレーもどきに民主党のノボリ立てて走ってましたか！　新手の暴走族ですね（笑）。

木村　雨の日もビショビショになりながら走ってましたよ。

――バイクは若いときから乗られてたんですか？

木村　そうそう、25～26歳ぐらいのときに

免許取ったんですよ。当時、車持ってなくて、マンション買ったばかりで金がなかったんで、バイクにしようと思ってね。それでバイクで会場入りとかしてたんだけど、夏はいいけど寒いと悲惨なんですよ。

――そうでしょうね。

木村　昔、寒い日に雨の中、宇都宮の体育館まで行ったことがあってね。ガタガタ震えながら向かってたら、そこへ見覚えのあるカマロが来てね、スーッと俺の横に来て、カマロに乗った藤波（辰爾）がプッて笑って行きやがったの。

――ダハハハハ！

木村　こっちは震えてるのに、向こうは暖かい思いしてさ。あのときは惨めだったね。なにクソって思ったけど。

――そんなところでライバル意識がメラメラ燃え上がりましたか（笑）。

木村　そうそう。で、その続きがあるんだけど。それからしばらくして、ようやく俺もまあまあ裕福になってね。中古車だけど買えるようになってね。そろそろ買い替えようってときに、当時はプロレスラーでベンツに乗ってる人はいなかったから、「じゃあベンツ買おうか」って、中古のベンツ買ったんですよ。そしたら、しばらくして藤波がベンツの新車買いやがったの。

――ダハハハ！　当てつけのように（笑）。

木村　しかも、俺より上級の車種で新車だからね。そこでもクソって思ってね。どこまで人をおちょくるんだって！　……まあ、本人はそんな気持ちじゃなかったんだろうけど。ビックリしちゃってね。だって、当時はみんなキャデラックとか乗ってて、ベンツは俺ぐらいだったのに、わざわざベンツを買うんだからね……。

――そういうところでも競い合うというか。

稲妻伝説 木村健悟

木村　なんか、必ず俺の上には彼がいたよね。目の上のコブみたいにね。だからやっぱりライバルだね。彼を倒さないことには俺の成功はありえない。それはプロレスだけじゃなくて、すべてにおいてそうですよ。俺が参議院選挙で勝ってりゃね、「ほら、どうだ！」ってなったんだけどね、負けたからねぇ（しみじみ）。「ざまあみろ」って言われてるかなぁ（笑）。そういう意味ではお互いにやっぱり反発心があったね。

――なるほど。それって木村さんが日本プロレスから、新日本プロレスに来たときからそんな感じだったんですか？

木村　だと思うね。当時からライバルって感じでしたから。向こうは「フンッ、ランクが違うよ」って感じだったけど。

――でも、藤波さんがレコードを出したときは、木村さんも「ランクが違うよ」って思ったんじゃないですか？（笑）。

木村　そりゃそうだよ！　ちょうど俺がレコード出したとき、向こうも出して歌うってことになってね。俺の歌は本格的な歌なのに、向こうは「♪マッチョドーラーゴン」ってへんな歌でさ、それなのにあっちのほうが売れてるんだよ（笑）。

――ダハハハハ！

木村　なんか頭のてっぺんから声出してさ「♪マッチョドーラーゴン」って、なんだよ、これって。俺の歌が、あれに負けるんだからねぇ（しみじみ）。こっちは一生懸命本格的に歌ってるのにさ。まぁ、それも人気の違いなんだけどねぇ。

――しかも藤波さん、あの『マッチョドラ

僕の選挙公約である「学校教育中高一貫制」が実現していたら、子どもの親殺しなんて起こらなかった！

いう不安はあ
長南　う～ん
ても食っていい
そこは心配し
っと心配しな
ツはいくらで
――そうです
で、たとえば
社員の臼杵彩
わけですけど
て、何か考え
のはあります
長南　いや、
ッパリ）。
――ないんで
長南　試合と
するのにいち
たりはしない
――あの～、
当にヤバかっ
してるところ
になるかもし
臼杵さんが
木葉子のよう
矢吹くん！」
を勝手に想像
長南　ないな
……（考え込
ゃいけないっ
――なんです
るコメントは
長南　俺、金
くちゃなんで
とは思います
っきり言って
ね。『PRI
ことで、たま
ったりするん

ゴン』を入場テーマ曲に使ってたじゃないですか。藤波&木村組があのテーマで入場してたときって、木村さんはどんな思いでいるのかなって思ってたんですけど（笑）。

木村　そりゃ絶対にイヤですよ！

――そりゃそうですよね（笑）。

木村　だってあれ歌じゃないでしょ。雑音だよ！

――雑音ですか！（笑）。

木村　誰か言ってたもん、どっかの居酒屋でいい気持ちで飲んでたら、有線でいきなり「♪マッチョドーラーゴン」ってかかってね、「おい、頼むよ」って思ったって。

――悪酔いしそうですよね（笑）。

木村　まあ、レコードに関しては競い合ってたわけじゃないけど、ちょうど時を同じくして出ちゃったんだよね。でも、彼自身はレコードを出したいとかっていう欲はなかったと思うよ。

――あれで欲があったら困りますよ（笑）。

木村　彼は歌への欲もないし、選挙に出ようなんてバカなことは考えないし、お金もしっかり貯めている。そこが俺との違いだね。俺はもう全然、金は貯められないし、貯めようにも金がないんだから。向こうは充分稼いで、しかも締まり屋だからね。

――昔から、ちゃんと自分のキャラクターグッズの会社とか持ってましたからね。

木村　それがいつまでも続くかわかんないけどね。やっぱりリング上ではライバルだったけど、いまこうやって違う人生を歩みだしたら、お互い頑張ろうぜって気持ちですよ。

『マッチョドラゴン』なんて歌じゃなくて雑音！でも、俺のレコードより売れたんだよなぁ……

――木村さんと藤波さんの抗争っていうと、一番印象深いのは後楽園でワンマッチ興行をやった、あの時代だと思うんですけど。あの頃って団体のストーリーライン的には新日本vsＵＷＦだったわけじゃないですか。それなのに突然、味方であるはずの二人の抗争がスタートしたっていうのは、やっぱり木村さんの意向だったんですか？

木村　そうですよね。やっぱり自分は藤波に対するライバル意識っていうのがもの凄くあったんで。それに対してＵＷＦうんぬんっていうのは、それは団体vs団体の世界であってね、俺個人の中では前田（日明）とかは関係ないもんね。

――まあ、そうでしょうね。

木村　ウチに後ろ足で砂かけて出ていってね、よその団体でやって、また帰ってくるっていうか、ウチの団体に押しかけてきただけだから。そりゃあ自分も団体の一員だからカードが組まれればやりますけど、俺の心の中では、闘うべき相手は彼らじゃなかったんだよね。前田でもない、藤原でもない、やっぱり藤波だって。それはジュニ

よきライバルであり、名コンビでもあった、藤波&木村。87年には抗争が勃発し、シングルで激突。イナヅマ・レッグラリアートでフォール勝ちを奪うが、試合後、レッグサポーターの中に凶器を仕込んでいたことが発覚し、ノーコンテストに！　秋山ヌルヌル事件にも似た展開だが、このときはドラゴンの要望により、2週間後に後楽園ホールで前代未聞のワンマッチ興行として決着戦が組まれ、今度はドラゴンが勝ち、決着がついた。

〝越中
〝元祖・
越中

平成維震軍の袴や坊主頭は俺の正統派レスリングに合わなかったね

ア時代からずっとそうだったから。だから俺の意向っていうか、自分の素直な気持ちを剥き出しにしたっていうだけで。ワガママっちゃあワガママですね。

——でも、木村健悟一世一代の自己主張って感じでしたよ。

木村　みんな「木村健悟のレスラー人生の中であれが一番よかったんじゃないか」って言ってくれますね。まぁ、あれ以外でこれといって目立つことがなかっただけかもしれないけど（笑）。

——現役後期には平成維震軍に加入しましたけど、あれはどういったいきさつで入ることになったんですか？　なんか後見人みたいな微妙な立場でしたよね？

木村　あれはね、些細なことで越中（詩郎）や小林（邦昭）と本隊が揉めてたんで、俺があいだに入って抑えるってことだったんだけど、越中らの言うこともわからないわけでもないんでね、加勢するようなかたちになったんだけど。

——でも、平成維震軍、当時の反選手会同盟のほうに入るのはいいけど、袴穿いたり頭を剃ったりするのはイヤじゃなかったですか？

木村　あんまり俺のレスリングとは合わなかったね。俺はちゃんと黒いショートタイツを穿いた正統派だから。でも、俺だけ違う格好してたらおかしいでしょ？　じゃあ、やろうかなって。

——しぶしぶ、袴を穿いたわけですね。だからか、途中で脱いだりしてましたもんね（笑）。

稲妻伝説 木村健悟

木村　あんなの似合わないもんね。あれ似合うの越中ぐらいでしょ。

——みんながスキンヘッドになったときも、木村さんだけ、なかなか剃りませんでしたよね？（笑）。

木村　でも俺、最終的には五分刈りにしたからね！　頭丸めたときは、子どもに何言われるかと思って。恥ずかしかったね。でも、あれ3年間やったからね。歴史に残るものになったと思うけど。

——維震軍はいまごろになってブレイクしてきてますからね。まぁ、維震軍というか、越中さん個人なんですけど（笑）。

木村　テレビでモノマネされたんでしょ？「やってやるって！」なんてね。

——越中さんってホントにああいう人なんですか？

木村　あれ、ケンドーコバヤシがやってるそのままよ。あいつはホントに裏表がなくて、マジメであのまんま。

——マジメすぎるところが、おもしろさにつながってるというか（笑）。

木村　そう。彼のああいう行動、しゃべり方、仕草は作ってやってるわけじゃないから。マジメにやってるのが、おもしろいキャラクターとして受け入れられたんだから、いいことですよね。俺なんかまともすぎたからなぁ（しみじみ）。

——そして木村さんは、引退後はしばらく新日本プロレスのスカウト部長をやられてましたよね？

木村　そうですね。スカウトっていってもね、そのへんにいる誰でもいいってわけじゃないんで、やっぱり素材が大事ですよね。そうなると、一番手っ取り早いのはアマチュアレスリングをやってた人なんですよ。柔

これが懐しい平成維震軍フルメンバー。健悟は後輩・越中を立ててナンバー2としてサポート。嫌々ながらも赤袴を穿き、丸坊主にするなど、本隊をぶっつぶすべく、維震魂で奮闘した。

道界っていうのはちょっと難しいところがあるんだけど、レスリング協会は理解があるんでね。

——柔軟性がありますよね。

木村 だからスカウトで一番手っ取り早いのはアマチュア・レスリング。でも、そういった人をプロレスラーとして養成するには時間がかかるんですよ。本当は総合格闘家にしたほうが早いんですよね。

——アマレスのアスリートだとそうかもしれないですね。

木村 アマチュアのレスラーで総合に向いてるのなんていっぱいいる。でも、プロレスは難しいんですよ。なかなか向いてる人っていない。そういう意味ではだいぶ苦労しましたよ。プロレスと総合は教育方法が全然違いますからね。

——木村さんは、総合格闘技をご覧になられたりしますか?

木村 俺は『PRIDE』もK-1も大好きだよ！ 『HERO'S』も大好き！

——ガハハハハ！ 大好きですか。

木村 ファンです（笑）。今度、永田の弟と所英男がやるでしょ？（結局、永田克彦は欠場）。あれは楽しみだよね。寝技のテクニックではかなわないから、打撃でいってほしいね。このあいだ本人ともちょっと話したけど。

——稲妻喧嘩殺法を伝授しましたか（笑）。

木村 そこまで出すぎたマネはしないけど、絶対に殴るしかないと思う。デビューした頃はひどかったけど、いまは永田もボクシングがけっこううまくなってるからね。でもね、総合格闘家でいま一番いいのは、やっぱり秋山（成勲）だよね。

——秋山成勲が一番ですか！

木村 アイツ、ボクシングうまいよ。それで柔道の基礎がしっかりあるわけでしょ？ あれはなかなか勝てないよ。まぁ、こんなふうに、いまは総合格闘技が全盛だけど、プロレスだって絶対にニーズはあると思うんだよね。そのためには、総合とは違う、ストロングスタイルのプロレスをもう一度作り上げないとね。誰に頼まれたわけじゃないけど、それができれば一番いいよ。

——ほう、ストロングスタイル復興ですか。

木村 やっぱりそういうふうに戻したいですよね。俺だってそういう世界にお世話になって、それでいまがあるわけだから。いまの新日本プロレスみたいなものは観たくないし。

——いまの新日本プロレスは、ちょっと違いますか？

木村 全然違うでしょう。だって（金村）キンタローが踊ってたりするんだよ!?

——まぁ、インディーの選手が増えていますよね（笑）。

木村 こないだ猪木さんのパーティのとき、なんとかミラノって選手に挨拶されたから「頑張れ」とは言ったけど、何を頑張れって言えばいいのかわからない。やっぱりプロレスラーは強くなきゃいけないですよ。でも、リングを降りたら人に優しく、自分には厳しくね。それが一番だよね。それで、もっとプロレス界が盛り上がってほしいね。プロレスっていうのは、いまの社会に必要なんだから。

——どういった意味で必要ですか？

木村 いまの社会って無法地帯みたいでしょ？ でも、リング上と同じでちゃんとルールはあるんだから。反則がカウント4までOKというのは、ホントはダメなんだけど、1回や2回は間違いを犯しても、3回目からはやめなさいよっていうことは似てますよね。

87年、ドラゴンとの決着戦に敗れた健悟は、渡米し“怪鳥”ベニー・ユキーデのジムで特訓。ご覧のとおり、マーシャルアーツスタイルに変貌を遂げて帰国、異種格闘技戦も行なったが、いつの間にか、従来の黒タイツに戻っていったのが健悟らしい。

『PRIDE』や『HERO'S』は大好き！でも世の中にはプロレスが足りない!!

――社会の暗黙のルールみたいなもんですかね。

木村　小学生のケンカだってね、教室のうしろでプロレスごっこをやりながら、頃合いっていうものを、自然と学んでいくんですよ。それを知らないから、ケンカになっちゃったら相手を殺すまでやっちゃったりする。

――たしかにプロレスごっこをすると、そういう友だち同士の暗黙のルールが自然と身体に染み込みますよね（笑）。

木村　プロレスを一般社会と一緒にしちゃいけないけど、そういうものはいまの社会には一番必要なものでしょ。法に引っかからなきゃ、何をやってもいいってわけじゃないし。

――じゃあ、いまの世の中にプロレスが足りないって感じですか？

木村　そうだねぇ。現代の荒んだ少年の心を癒すのはやっぱりプロレスですよ。そういうことも踏まえて、スポーツマンが果たす役目は大きいと思うんですよ。やっぱり我々がちゃんとしてなきゃいけないよね。

――だからこそ、木村さんは政治の世界でもそういったことを訴えたい、と。

木村　まぁ、僕自身が出馬するわけじゃないですけどね。でも、いま一番大変なんですよ。女房が目黒区議会議員選挙に出て、息子が大田区議会議員選挙に出るでしょ？

――ああ、同時期なんですね。

木村　そう。女房は5期目になりますけど、当選させなきゃいけないし、息子も当選させなきゃいけない。だから僕も毎朝5時半起きですよ。月曜、火曜、金曜の朝は息子が大田区の駅頭で演説してて、そこに行くんですよ。

――木村さんも行くんですか？

木村　そう。それで水曜と木曜は女房のほう、都立大学と学芸大学に行ってね。

――日替わりで選挙運動の応援ですか。それは大変ですねぇ。

木村　選挙だからお金もやっぱりかかるんですよ。しかも二人だから倍かかる。もう、銀行強盗しようかと思って（笑）。

――ガハハハハ！　若い頃のワルの血が騒ぎますか（笑）。

木村　昔の癖でね（笑）。ホントに大変ですよ。でもね、やっぱり夢がありますよね。あとは借金しか残らないと思うけど、借金なんてできるだけでもいいしね。そうやって二人とも当選したら、こんなに嬉しいことはないでしょ。

――やっぱり木村さんにも、夢追い人な猪木イズムが流れているんですね。

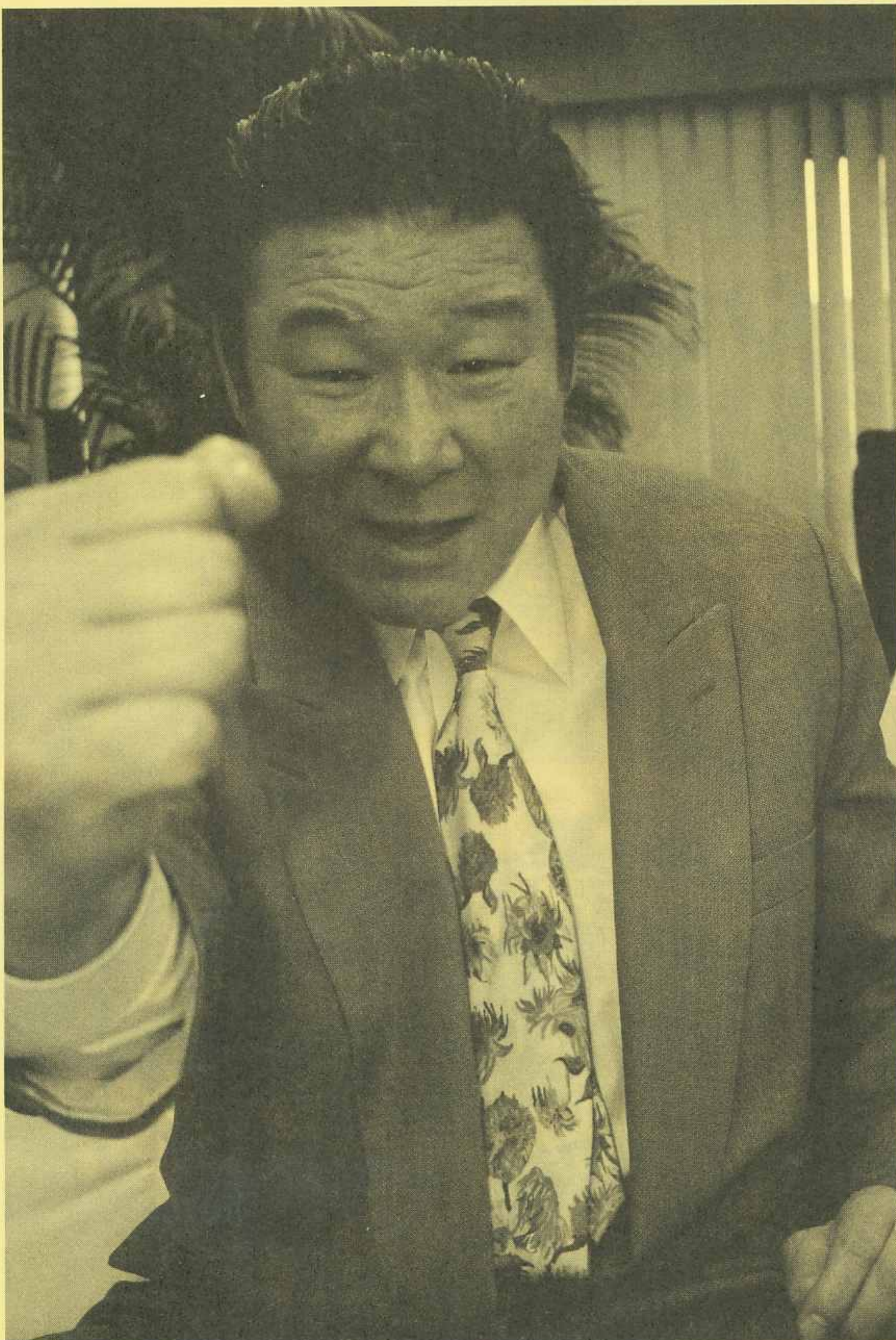
木村　そうだねぇ。ホントは平穏無事に暮らせりゃいいんだろうけどね。でも、こういうふうになっちゃったからには逃げないで、やれることは全部やろうって。息子はアントニオ猪木さんの推薦ももらったしね。「プロレスを全面的に出して、お祭り騒ぎで騒げ」って言われましたから。

――素晴らしいアドバイスです（笑）。まぁ、選挙期間中は「馬鹿になれ」ってことですよね。

木村　だから俺が出馬するわけじゃないけど、「区議会にイナズマッ！」とか言いながら、僕もプロレスで鍛えたマイクアピールで、選挙の応援頑張りますよ（笑）。

――区議会にイナズマッ！　言葉の意味はよくわかりませんが、頑張ってください！

【07年3月2日／新宿区、円天興行事務所にて収録】

稲妻伝説 木村健悟

きむら・けんご■1953年9月4日、愛媛県新居浜市出身。本名・木村聖裔。大相撲宮城野部屋を経て、72年に日本プロレスに入門。73年、新日本プロレスに移籍。ジュニアヘビー級時代から藤波辰爾（辰巳）とライバル抗争を繰り広げる。87年、渡米し、ベニー・ユキーデのもとでマーシャルアーツを学び、ケリー・ウィルソンと異種格闘技戦も経験している。プロレス界一歌がうまいことでも知られ、『孤独（ひとり）』、『らしくもないぜ』、『デュオ・ランバダ』などレコードを発売している（いずれも廃盤）。現在は株式会社円天興行の社長を務める。186cm、107kg（現役時代）。

いう不安はあ
長南　う〜ん
ても食ってい
そこは心配し
っと心配しな
ツはいくらで
——そうです
で、たとえば
社員の臼杵彩
わけですけど
て、何か考え
のはあります
長南　いや、
ッパリ）。
——ないんで
長南　試合と
するのにいち
たりはしない
——あの〜、
当にヤバかっ
してるところ
になるかもし
臼杵さんが
木葉子のよう
矢吹くん！」
を勝手に想像
長南　ないな
……（考え込
ゃいけないっ
——なんです
るコメントは
長南　俺、金
くちゃなんで
とは思います
っきり言って
ね。『PRI
ことで、たま
ったりするん

〝越中詩郎芸人〟ケンドーコバヤシから
〝元祖・越中信者〟せき詩郎コラム傑作選
越中本人も登場だって!!

空前の越中ブームの中、満を持しての総力特集ッ!

決定版！“越中詩郎”やるって大全!!

時は来た！ ケンドーコバヤシの“越中芸人”から火がついた、テレビや一般誌まで巻き込んだ空前の越中ブーム、『ザ・検証』のせき詩郎氏のコラムなどで、イチ早く越中に注目してきた本誌が、ついに総力をあげて越中特集を敢行！ ブームの原点から、本人のインタビューまで多角的にやってやるって！

構成／真下義之　撮影／平工幸雄

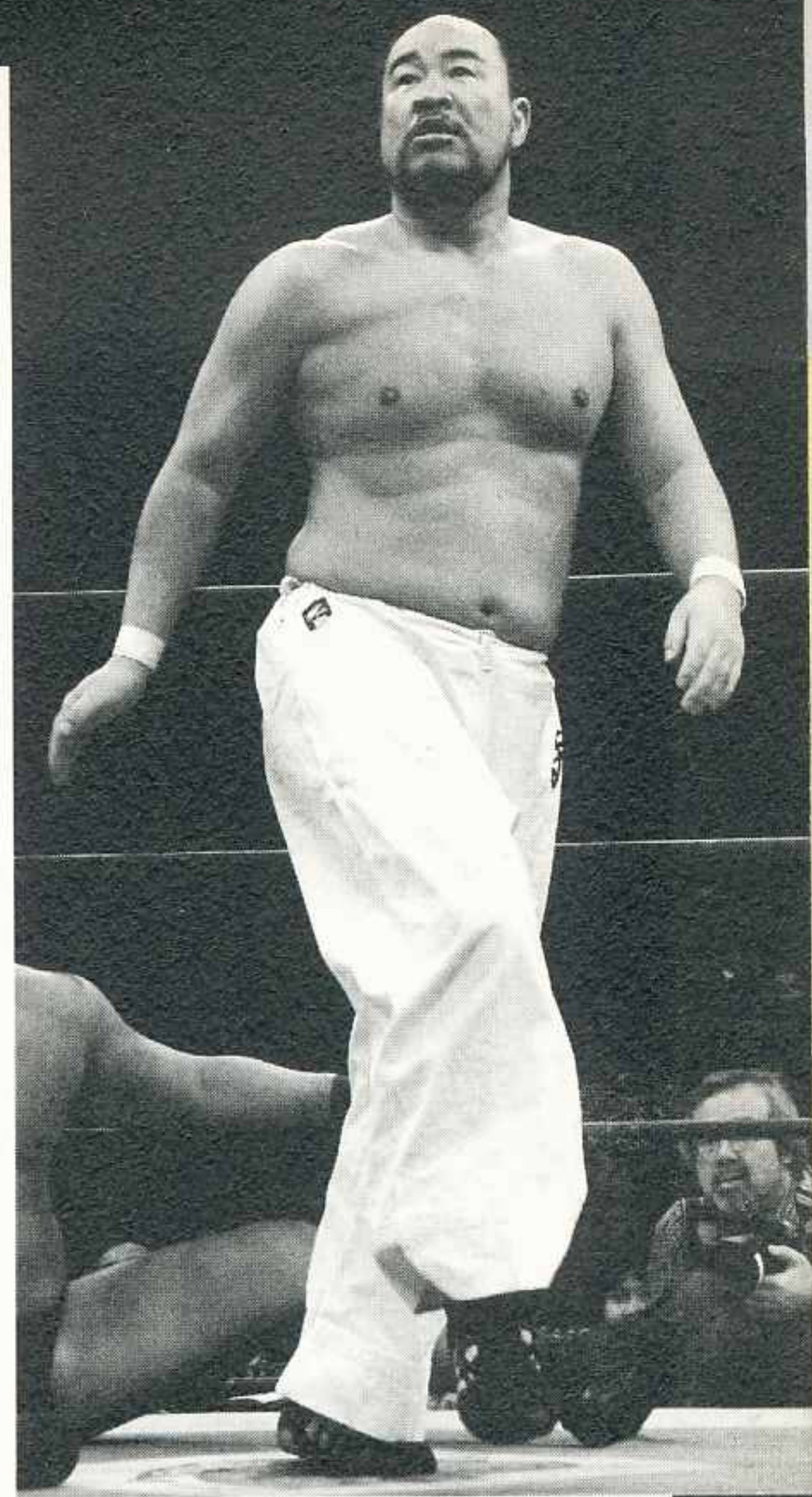
テレビ朝日『アメトーーク!』越中芸人の仕掛人を直撃!!

ケンドーコバヤシ インタビューだって!!

けんどーこばやし■1972年7月4日、大阪府大阪市出身。プロレスネタでは右に出るものがいない吉本興業のお笑い芸人。『ハッスル』でおなじみのレイザーラモンHGにハードゲイの道を開き、RGに対してもさまざまなプロデュースを行なっている。

「次の機会があればせきしろさんと『アメトーーク!』に乗り込みたい」

いま越中詩郎が大ブレイクしている。プロレスファンとして知られるお笑い芸人ケンドーコバヤシがテレビ朝日『アメトーーク!』で越中詩郎のモノマネを延々とやり続けたところ環状線の外側にまで一瞬で届いてしまうという奇跡が起きた。ネット上には「〜だって!」などのいわゆる“やるって節”があふれ、『R25』などの一般媒体までもが越中をインタビューするという事態になっている。というわけで仕掛人のケンドーコバヤシを直撃取材して、この“越中バブル”について語ってもらった。

聞き手／坂井ノブ　撮影／平工幸雄

——いま空前の越中ブームということで、ケンドーコバヤシさんはその立役者ですよね。『アメトーーク!』なくして越中ブームなし、と断言してもいいと思いますから。その『アメトーーク!』では昨年12月の「持ち込み企画プレゼン」の回、その企画を実際にやった今年1月の「ガンダム芸人vs越中芸人」の回で二度お茶の間に越中芸人が届けられたわけですけど（笑）。

ケンコバ　じつは『アメトーーク!』で越中さんを扱わせていただいたのは、僕自身、追い詰められてた状況やったんです。スケジュールの行き違いがあって、まず最初の「企画プレゼン」のときに、テレビ朝日に入ってから2〜3時間用意する時間あんねやろうなと思ったら、僕が行ったらすでに本番が始まってて。「あと15分で出番です」みたいなこと言われて。で、いろいろ考えてたことが飛んじゃったんですよね、テンパって。

——その短い時間の中で何ができるかという勝負ですね。

ケンコバ　そうなんですよ。こんな重圧初めてやなと思いましたね。ほんまに楽屋で一人でジタバタしちゃったんですよ。で、鏡に映った自分のジタバタした姿を見て、これは越中詩郎芸人でイケるんじゃないかって（笑）。ほんま、そんなひょんなことからなんですよ、マジで。

——ジタバタした結果が越中芸人！（笑）。凄いですねぇ。そのプレゼンが通って対決というところまでいったわけですけど。そもそも越中とガンダムが並んでいいのかっていう話じゃないですか（笑）。

ケンコバ　まあ、お互い白いですから。

——ハハハハ！　袴もモビルスーツも確かに白いですけどね（笑）。

ケンコバ　じつは2回目の『アメトーーク!』のとき、番組自体がテレ朝やから資料映像みたいなのをいろいろ用意できるやろなと思ってたら、あまり見つからなかったらしいんですよ。

——そうなんですか？

ケンコバ　何者かに消去されてるんちゃうかなって思いたくなりますよね。とにかく、これはホンマに普通の熱い気持ちで、誰でも越中さんを1回観たらたいがい好きになるやろうなっていう自信はありましたから。

——どんな会場でも必ず沸かせますよね。独特のムーブとケツによる攻撃には誰でも大喜びしますよね。プロレスを観たことがない人であっても。

ケンコバ　最近、ケツブームというか若槻千夏もケツを強調した写真集を出しましたし。ビヨンセもPVで必要以上にケツを動かしてますからね。AVでもケツものが増えてきてるんですよね。いま世間の注目は胸からケツに移ってますよ。

——男子は思春期だと女性の胸に目がいくけど、歳を重ねてくるとケツに目がいくってよく言いますよね。

ケンコバ　そういう意味では日本という国全体が成熟してきてるから、ケツに注目が集まるんでしょう。プロレスファンにとってのケツ第一人者といえばやっぱり越中になるわけですからね。

——テレビでやったことで反響は大きかったですか？

ケンコバ　ビックリしましたねぇ。ここだけの話、テレビってどうしても視聴率がつきまとうじゃないですか。

——ええ。

ケンコバ　「ガンダム芸人vs越中芸人」のときは、それぞれの芸人が順番にプレゼンしたんですけど、越中、ガンダム、越中、ガンダムってやってて、越中詩郎のときは極端に数字が下がってるんですよ。

——ダメじゃないですか！（笑）。

ケンコバ　ただ視聴率以外の部分では、あまりにも声かけられすぎるというか。日本全国津々浦々でどこに行っても「俺も越中好きなんです!!」って、僕に熱い思いが届けられるっていう状況が続いてますよ。

——もはや越中詩郎親善大使ですね（笑）。

ケンコバ　もうね、隠れコシナカンみたいなのがいっぱいおるんですよ！

——隠れコシナカン（笑）。いままでかなり弾圧されてましたからねぇ。あと、ネットの書き込みなんか見てると、やるって節というか「〜だって！」っていうのがメチャクチャ増えましたね。

ケンコバ　そうですね。もし次の機会があれば、せきしろさんと乗り込みたいですね、『アメトーーク!』に。

——いいですねぇ！　かつてせきしろさんが「越中カルタ」という『kamipro』史上に残る名企画をやったことがあるんですけど（今号で完全再録！）。

ケンコバ　狂ってますよねぇ。

——越中語録だけでカルタができちゃうんですからね。

ケンコバ　越中さんの言葉の選び方は、琴線に引っかかりますよね、なんか。僕が一番好きなのは、天山（広吉）がワイシャツ1枚で凱旋帰国したときに、平成維震軍がまず天山を誘ったじゃないですか。あのとき越中さんはホンマにストーリー抜きで天山がほしかったと思うんですよ。その気持ちが先走りしすぎて、「俺たちと一緒にやってくれ」っていうのを2回続けて言うたんですよ。「俺たちと一緒に俺たちと一緒にやってくれ」って（笑）。

——それに対して天山がモンゴリアンチョップで返答したという（笑）。

ケンコバ　あのときの流れを1本にまとめた『平成の乱』っていうビデオ作品があるんですけど、世界映像ソフト史上最高傑作やと思ってるんですよ。なんでDVDで再発売せえへんのかがわからない。あと、長州がボイコットするときに維震軍全員で控室に乗り込んでいくんですけど、長州に蹴散らされるんですよね。

『アメトーーク！』で越中芸人をやってから全国各地で「俺も越中好きなんです!!」って隠れコシナカンがアピールしてくるんです

——一人にやられちゃうわけですか（笑）。

ケンコバ　そう、一人にやられて。長州が控室にこもっちゃって、越中さんが横にあったロッカーをバーンッて叩いて、維震軍がゾロゾロ帰っていくっていう（笑）。あのときに魅せられましたねえ。

——越中さんのカッコよさってそういうところですよね。

ケンコバ　そうですね。なんか、かなわぬ思いというか、届かぬ思いというかね。成就できない恋というか。そのへんが越中さんの寅さん好きにつながるんじゃないかと思うんですよね。

——なるほど！（笑）。

ケンコバ　今回こそはIWGP王座に届いてほしいですけど、3月のニュージャパンカップ1回戦が中西（学）戦なんですよね？　メチャクチャ嫌な予感がするマッチメイクですけど。

——2月の両国大会ではシングルマッチで越中さんが中西さんに勝ってますからね（笑）。

ケンコバ　あれ発表されたとき「嘘やろ？」って思いましたよ。

——新日本はやりがちですね、こういう非常にもったいないことを（このインタビューは試合前に収録。試合は越中が中西に敗れて1回戦敗退）。もともとケンコバさんが越中さんに注目し始めたのはいつ頃ですか？

ケンコバ　全日本プロレスのルー・テーズ杯決勝ですね。猪木vsスピンクス戦をやった日の前座で組まれた高田vs越中も好きでしたねぇ。あの試合で越中さんがキックを食らいまくって「人間サンドバッグ」とか、親族の方が聞いたら怒り狂いそうな実況をされてましたけど（笑）。ただ髙田延彦のキックの乱射を打開するときに、たしか手の指を取って、指の股にチョップ入れたんですよね（笑）。

——小技もいいとこだなぁ（笑）。

ケンコバ　でも、この人はホンマに侍やねんなって、そのとき気づきましたね。

——まるで刀で斬るように、指の股を切り裂くわけですからね（笑）。コスチュームも袴だし、旗は「覇」だし、ハチマキは巻いてるし基本線は"和"でしたね。

ケンコバ　一時期は金のガウンでスキンヘッドにヒゲ生やしてましたけど。どこかバタ臭いんですよね（笑）。

——まず間違いなく女性受けしないですよね（笑）。

ケンコバ　でもやっぱり「なんで女性の客つかへんねや？」って考えて、赤袴とか紫袴もやってみたんでしょうけどね。あそこでオレンジとかイエローにいけないところが越中さんのよさというか（笑）。日本人のよさも併わせ持ってますよ。平成維震軍がマサ斉藤に7人連続ボディスラムされたときだって、嘘みたいに1列に並んでましたからね（笑）。

——ハハハ！　やられっぷりも潔いなぁ。それにしても長州小力のブレイクで長州力に光が当たるというケースはあったにせよ、今回の越中人気の火のつき方は相当に珍しいケースですよね。

ケンコバ　お笑い界って実際のプロレス界以上にBI砲の呪縛から逃れられてないところがありましたからね。モノマネといえばジャイアント馬場、アントニオ猪木でしたから。長州小力が風穴を開けましたけどね。

——本来であれば、BI砲の次には鶴藤長天が続くはずなんですけどね。

ケンコバ　まずは鶴藤長天がモノマネで揃わんことには、"俺たちの時代"も来ないと思うんですけどね。藤波さんはユリオカ（超特Q）さんがやってますけど……ジャンボはなかなか難しいですねぇ。ジャンボやる芸人に出てきてほしいなぁ。普段着もサマーセーターを着て（笑）。昔、僕は天龍さんをやってたんですよ。試合後の控室で汗だくで、腕のテーピングはがしながら「気持ちいいね」って言うだけというあまりにも幅の狭いモノマネなんですけど（笑）。「気持ちいいね」って言ってるときに遠くで蝶野のテーマ曲がかかってるっていう（笑）。

——『ワールドプロレスリング』をそのまま再現したわけですか（笑）。越中モノマネに至るまでにも、プロレスのネタはいろいろやってたんですね。

ケンコバ　ええ。天龍さん以外だと山本小鉄さんもやってましたし、竹内宏介さんもやってましたし。それぞれの漫談がありますけどね。ただ、平田（淳嗣）漫談だけはあまりにも声が低すぎて何言うてるか聞こえへんっていうのがあったんで、プロレス好きのお客さんにもあんまり受けへんかったんですね。

——平田漫談！（笑）。その人たちに比べると越中さんって動きもしゃべりもわかりやすいなぁ。

ケンコバ　そうなんですよ。我々の世界に一番フィードバックしやすいのは越中さんですね。女子プロレスの実況をしてた志生野温夫アナの漫談も1回やったことありますけどね。技の名前が出てこないっていう漫談で「（選手のムーブを観て）……蹴り〜！」とか「投げ〜！」とか、技の名前がわからなくて観たまんまのことを言ってしまうという（笑）。

——漫談とかモノマネの題材は80〜90年代頭ぐらいの、一番いい時期のプロレスですよね。

ケンコバ　そうですね。越中さんの場合は、決して主役じゃなくてキャリアのほとんどが本流の横におるっていうのもいいですよね。ヒールサイドやのに、反則もしないでしょう？　せいぜいイス、鉄柱ぐらいしか使いませんから。

——あとは気合いぐらいですか。

ケンコバ　そう、気合いですよね（笑）。それにあのコンディションのよさは凄いと思いますね。大怪我したのって空足を踏んだときぐらいですからね。

——いま、大人気の越中さんに、これはやってほしいなっていうことはあります？

ケンコバ　とりあえず、レイザーラモンRGとだけは関わってほしくないっていうのはありますね。

——RGが触るとみんな不幸になるという負のジンクスがありますからねぇ。

ケンコバ　あいつが市川海老蔵さんのモノマネやるようになったら、海老蔵さんにスキャンダルが出たでしょう？

——確かにそうですね！（笑）。市川AB蔵というネタをやってますけど。

ケンコバ　まあ、じつはあれも僕がプロデュースしちゃったんですけど（笑）。

——黒幕はケンコバさんでしたか。

ケンコバ　あいつにだけは越中さんを触ってほしくないですね。とんでもないことが起こるかもしれない。

——それこそ、また空足を踏んじゃうかもしれないですからね（笑）。

ケンコバ　個人的には、去年の夏もWAR最終興行でやってましたけどもう1回だけ平成維震軍の勢揃いを観たいですね。最近は入場テーマ曲も維震軍時代の曲（『SAMURAI』）をかけてるんですよね？

——そうですね、入場ガウンも維震軍時代のものを使ってます。この先、世間的に越中さんはどのように打ち出していけばいいですかね？

ケンコバ　CMもイケると思うんですよ。

——ちょうどいま新日本の選手が資生堂『uno』のCMに出たりしてますけどね。

ケンコバ　ホンマですか？　越中さんは出ないんですか？　……あっ、そうか、髪の毛のセッティングがちょっと難しいですね。

——ちょっと頭髪は厳しいですからね、そのCMにも出てなかったです（笑）。

ケンコバ　ナイキのCMで秋山（成勲）選手が人形にハイキック入れてますけど。どうせならナイキの白袴を穿いた越中詩郎がロナウジーニョの背後でヒップアタックしてたら素敵やないですか！

——ハハハハハ！　それは見たい！

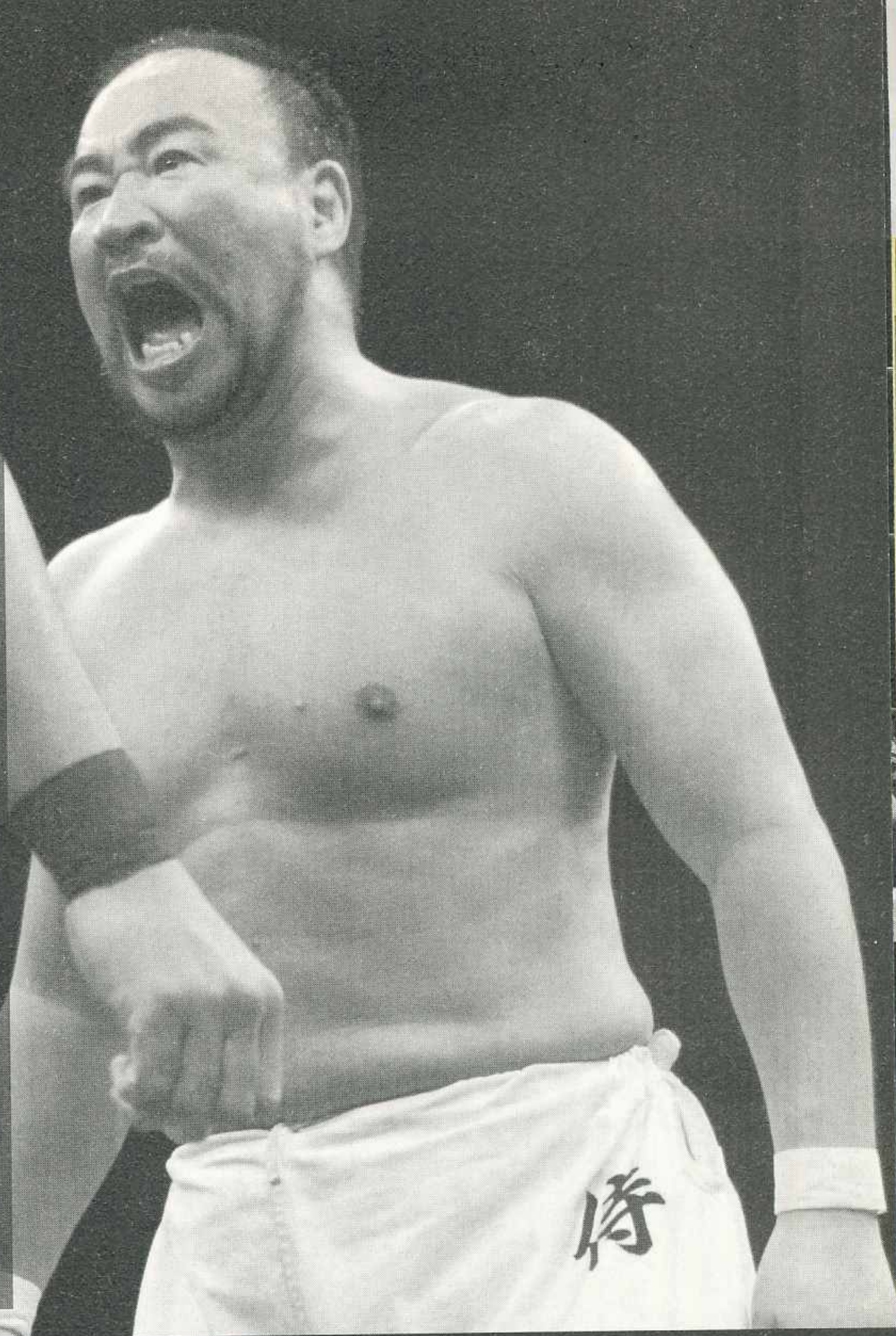
ケンコバ　ロナウジーニョと競演はぜひとも見たいですね（笑）。

［07年3月1日／都内「ルミネtheよしもと」にて収録］

男臭さがあふれ出ていた平成維震軍。ここにいる全員が日本人のよさを全身から激しく発散させている！　再結成がぜひ観たい!!

越中ブームの“原点”は
ここからだって!!

せき詩郎『ザ・検証』&越中コラム傑作選

誰よりも早く越中に注目し、誰よりも深く越中に心酔し、誰よりも多く越中のコラムを書いてきた男……それがせき詩郎氏だ！ とくに『紙のプロレスRADICAL』時代の『ザ・検証』の越中コラムの数々は、越中ブームや越中詩郎芸人の原点と呼べるものばかり。ケンドーコバヤシさんも認める元祖・越中信者のコラム傑作群をいま、ここに再録するって！

ファンのあいだに根強く残る

越中詩郎最強論に迫る！

『紙のプロレスRADICAL NO.5』（1987年8月発売）『ザ・検証』より

越中のことを語るうえで避けては通れない人物がいる。ワンナイト・タッグトーナメントでタッグを組む人がいなくて、無理矢理昔の部下である越中を呼びつけた、そう〝中学生なのに仲間がいないから近所の小学生と遊ぶ男〟ドラゴン藤波である。思えばあのときから平成維震軍がおかしくなった。

越中にとって藤波は〝扱いに困る〟上級生なのである。確かに小学生の頃は家も近所だったからよく遊んだ。しかし中学生になった越中は不良に憧れだした。一方、一足先に中学生となった藤波は不良グループとは縁遠い人（「歴史研究会」などの文科系クラブ所属）になっていた。ベクトルが180度違う二人。

越中にしてみると、もう一緒には遊びたくない。それなのに廊下ですれ違うたびに藤波が話しかけてくる。「おいおい、そんな変形学生服着てたら先輩に目つけられるぞ！」などと底の浅いツッパリ知識を交えて、一応先輩なので軽い会釈はするが、カッコ悪いったらありゃしない。友だちにも「あんな奴と知り合いなの？」とか言われる。まるっきり無視してしまえばいいのだが、なまじっかイイ人なのでそうもいかない……。

二人の関係はそんなところではないだろうか。とにかく藤波との出会いは越中にとって不運そのものである。藤波、引退しろ！

さて本題である『越中最強論』に移ろう。一般に最強と呼ばれる人には仰々しい「戦歴」（○戦無敗だとか、猛獣に勝ったなど）があったりするものだが、越中にはそれがない。また、その真偽ははっきりしない「噂」（＝「伝説」。ケンカ○段など）に包まれているものだが、そういったものも皆無。なのになぜ『越中最強論』が存在するのか？

それは彼のファイトスタイルにある。相手の技を受けて、受けて（たぶんニコ・ゴルドーの〝OLがデスクで足を組み替えるような〟蹴りまで受ける）、必要以上に受けて、しかも耐える。観客はそこに無抵抗主義でお馴染みのガンジーを見るのではないだろうか。「ガンジーは最強じゃない」なんてことを誰が言えよう。そんなこと言ったらなんだかバチがあたるような気がするし、そう言うためには凄く勉強しなければいけないような気がするはずだ。プロレスファン全員が学者にならない限り、『ガンジー（＝越中）最強論』は否定されることなく、根強く残っていくのである。

越中、早くケガを治して本隊をブッ潰してくれ！

ザ・検証

今月の検証 by せき詩郎

みんなでハチマキをデザインしよう

越中回復祈願！ パート2

『紙のプロレスRADICAL NO.49』（2002年4月発売）『ザ・検証』より

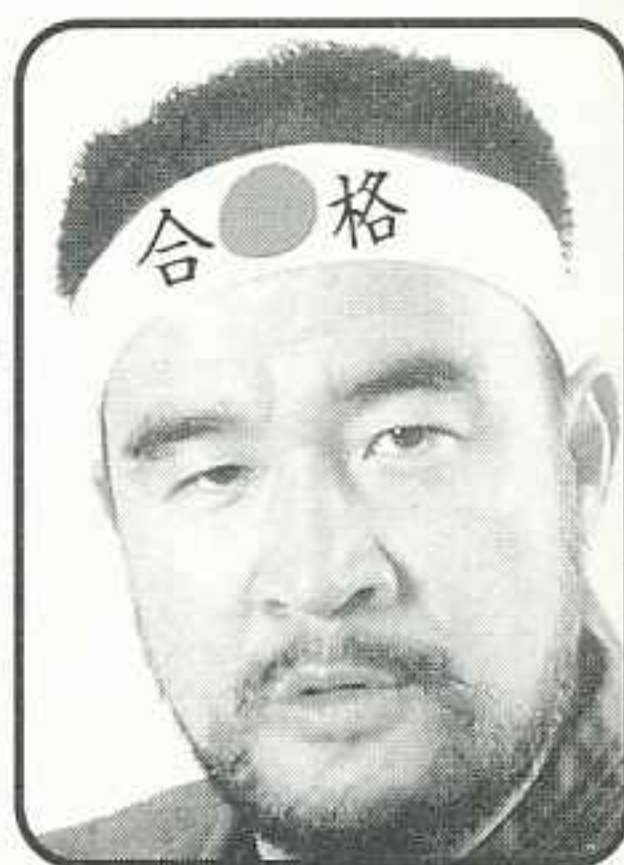
越中といえば袴という印象が強いことだろう。しかしそれに隠れて目立たなかったのだが、じつは〝ハチマキ〟というアイテムも愛用していた。ときにはとってつけたように、ときには忘れていたのを突然思い出したかのように、越中は古くからハチマキを巻いていたものであった。数少ない平成維震軍グッズの中にハチマキが存在することからも、越中がいかにハチマキを愛していたかわかるのではないだろうか。イタリアンなスーツといえばカズ、その中でも真っ赤なスーツといえばカズ、黄色のジャケットに派手なスカーフを合わせるといえばカズ、太いマフラーといえばカズ、いきなり銀髪にしてみんなを驚かせるといえばカズ、かと思えば坊主にしてみんなの期待を悪い意味で裏切ってしまうといえばカズ、パイナップルみたいなユニークな頭にして〝笑われる＝人気がある〟ととりかえしのつかない思い込みをするといえばカズ、そして締めはダンスに見えないダンスといえばカズであるが、越中といえば〝袴〟もさることながら、〝ハチマキ〟なのである。

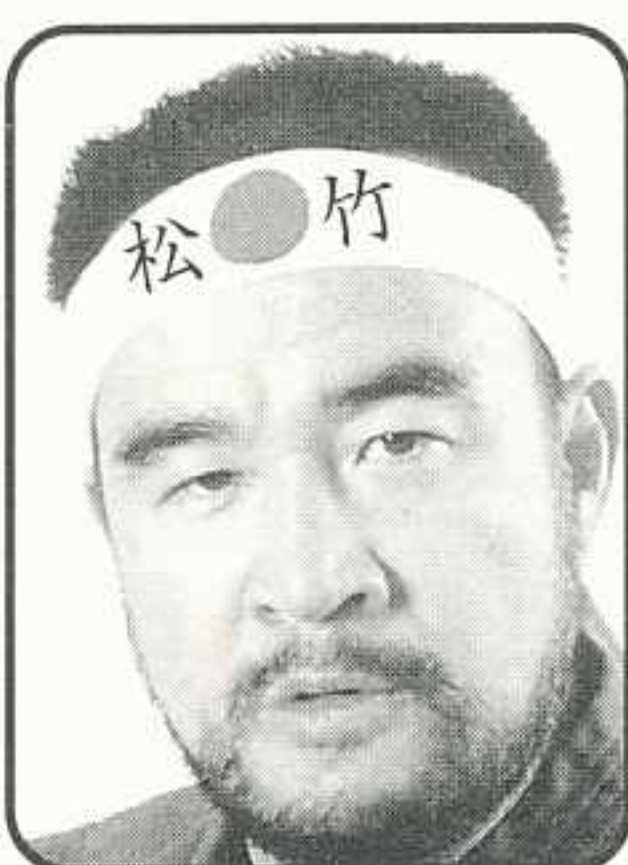
ではなぜ彼はハチマキを巻くのか？ その答えは簡単である。

もしもハチマキでなくネクタイを頭に巻いたとしたら？ それではただのサラリーマンになってしまう。ならばタオルを巻いたら？ それだとブルーワーカー色が強くなりすぎてしまう。昔、ヴェルディにいた北澤が巻いてたなんかへんなヒモみたいなヤツはどうだ？ いや、あれは北澤くらいのファッションセンスがないと似合わない。中尾彬が首に巻いてるやつは？ いっそのこと『アメリカ横断ウルトラクイズ』のボタンを押すとハテナが飛び出す帽子を被ったら？ マリックみたいなサングラスをかけてみたら？ 竹村健一の手帳を持ってみたら？ 当然のようにどれもいただけない。どれもプロレスラーらしくないし、それより半分わかってわざと書いていたのだが、どれもハチマキからかけ離れすぎているからだ。

このように少々間違った消去法でいくと、ハチマキしか残らない。つまり越中にはハチマキしか選択肢がなかったということだ。越中がハチマキを巻く理由がわかっていただけたことだろう。

そういうわけで、今回はいまだに復帰しない越中選手のためにいろいろなハチマキをデザインしてみました。でもこれではまだまだ全然足りません。そこでみんなの力を借りたいと思うんだ（突然仲間づら）。応募用の写真を用意したので、それにみんなのデザインしたハチマキを描いて送ってください（※注＝この特集を機会にもう一度募集します）。耳を澄ませば「こんなにたくさんのハチマキが！ みんな素晴らしくって、どれか一つなんて選べないって！」と復帰した越中選手の嬉しい悲鳴がいまにも聞こえてきそうですね。聞こえてきませんね。

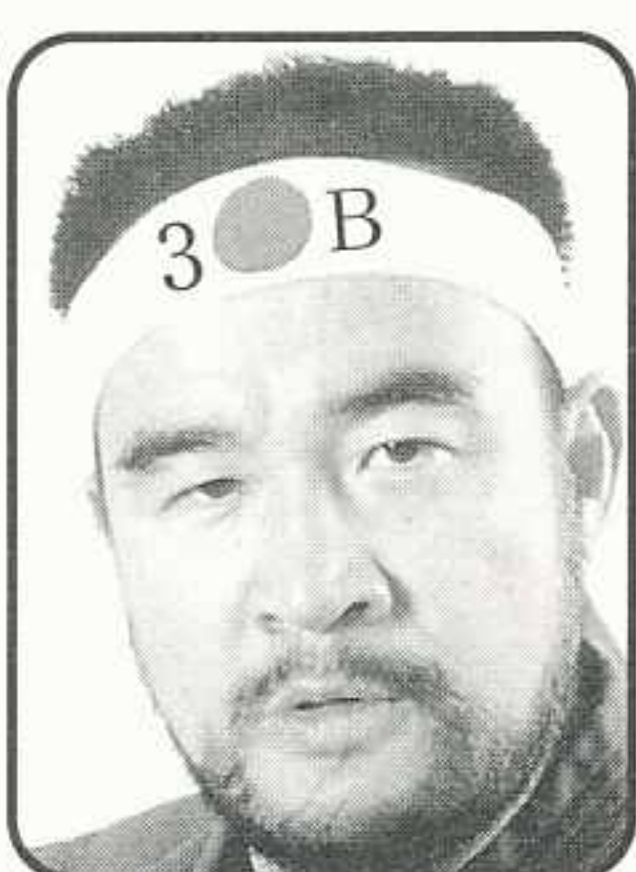
それでは、このどうでもいい内容の原稿を書いてる途中にペットボトルのお茶をこぼしてしまって、それをいいかげん拭かないといけないのでこのへんで。

1 合格ハチマキ
ハチマキの定番、合格ハチマキ。越中だってかつては受験したものの、「合格できたのも金ピカ先生のおかげだって！」。

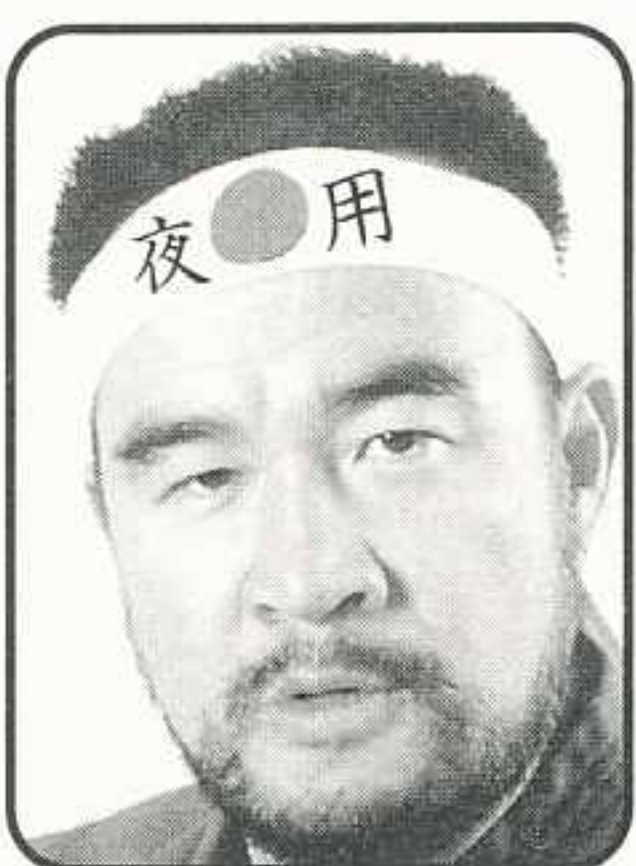
2 猛虎ハチマキ
タイガースファンの越中。このハチマキを巻かずに何を巻くというのか。「フライの裸絞めは反則だろう。完全にチョーク入ってたって。あと天覧試合の長嶋のホームラン。あれはファールだって！」とことあるごとに主張。

3 松竹ハチマキ
越中といえば寅さん、寅さんといえば松竹。

4 天竺ハチマキ
三蔵が呪文をとなえると強く締めつけられるハチマキ。

キリトリ線

この写真を切り取って、みんなのデザインしたハチマキを描いてハガキに貼って送ってください。（※注＝この特集を機会にもう一度募集します。宛先は158ページの読者プレゼント参照）。

5 沖水ハチマキ
大リーグのチーム名が漢字で書かれている帽子が流行るずっと前から、漢字を使っていた沖縄水産。ところで沖縄といえば興南の仲田幸司。越中の好きな阪神の選手でした。

10 3Bハチマキ
「おい、越中、かっこつけんじゃねーよ。言いたいこと素直に言えばよいんだよ」というヤジを「うるせー、黙って聞け！」と一喝してから「俺はみかんじゃないって！ 俺は人間ですよ。それを教えてくれたのがここにいるカブキさんや、維震のメンバーだって。だから、蝶野たちに言っておく。この俺を手本にしろ。勝手にすねるな。維震軍にはお前らがぶつかっていけば身体で受け止めてくれるカブキさんがいるんだぞ。こんな軍団、ほかにはなかなかないんだって！」とカブキ引退式でマイクアピール。その後、維震軍全員でソーラン節を踊る。

6 SEGAハチマキ
越中はセガ信者だった!? 「蝶野たちもセガサターンしろって！ 指が折れるまでですよ」と新キャラクター〝せがた三詩郎〟が吠える。

7 夜用ハチマキ
多い日も安心なハチマキ。

8 川浜ハチマキ
「内田たちに〝花〟って漢字が書けるかって！」と不良たちを挑発。ついにあの水原も「俺も維震軍に入ってりゃよかったかな……」と更正。ライジング・サン、おてんとさまはちゃんと昇る。

9 愛徳ハチマキ
「戸塚水産、城東、柴田と西もまとめて叩き潰す。みんないまのうちにホザいてろって！」トオル＆ヒロシの愛徳コンビに頼もしい助っ人が登場。

ザ・検証

今月の検証

越中語録カルタ（その1&その2）

『紙のプロレスRADICAL NO.21』（1999年10月発売）、『紙のプロレスRADICAL NO.22』（1999年11月発売）の『ザ・検証』を再構成。（※注＝掲載当時のページの都合上で、このカルタは「ら」までとなっています）。

いわゆる「やるって節」のブレイクにより、越中の発言がいま脚光（水銀灯並の光）を浴びている。そこで越中語録を検証してみよう。が、どの発言もマット界を揺るがす発言でもなければ、我々の人生に影響を与えることもないような発言ばかりなので、越中フリーク以外興味のないものになる可能性大。そこで万人が楽しめるカルタにしてみました。今世紀最大のお正月に向けて完成させる予定なので、お楽しみに。また大会（自主興行）も行なうかも!?

あ 彰俊だってね、体重落とさせてジュニアで暴れたっていいんじゃないかと思っている。

維震軍でベルト総ナメ計画。せっかく身体を大きくした彰俊の立場は!?

い 犬の頭は力ラッポだって！

蝶野よりは賢いけどと、前置き。クレバーさが売りの蝶野、かたなし。

う 家に帰って来て、いきなり電話しちゃって、ペラペラ喋っちゃったりなんかしてね。母親なんかに『何だ、お前、長電話なんかして。そういうのは、学校で会って話しなさい!』って怒られたりしましたけどね。学校じゃあ、話できなかったですね。もう、何から何まで惚れちゃってる訳ですから、ガチガチなんですよ。

中学校時代の恋話。一緒に行った映画は『レット・イット・ビー』！

え nWoも練習しろって！

天越同盟を結成後、多摩川の河川敷を天龍とジョギングしながら。

お おてんとうさまはちゃんとみてる。

「楽してるやつが勝てるわけない」と昔話の教訓のようなコメント。

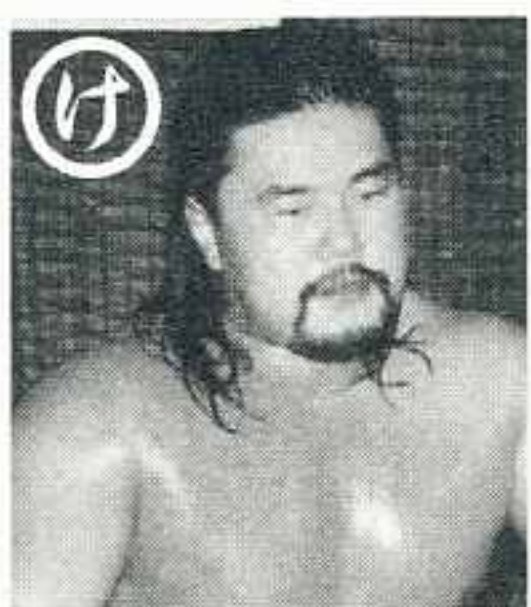
か 看板下ろすのは時間の問題。精神がね。外国人頼みだからね。やっぱり、ここは俺たちの団結力というのを見せつけるよ。

サイパン合宿にて。団結力を強調するが、彰俊はパスポートの期限切れで不参加。

き 木村さんには力を貸してほしいと要請し、藤波さんにはリーダーになって旗を振ってほしいと要請しました。

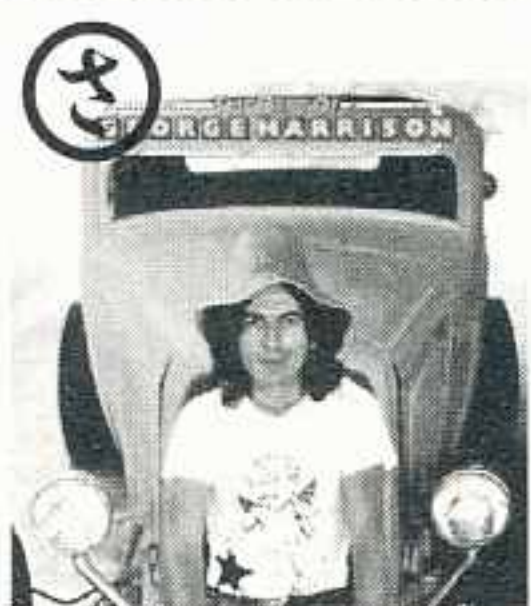
維震軍たてなおし案。が、藤波は旗を振るどころか、試合中道衣を脱ぐ始末。

く 首が痛いとかかゆいとか言ってシリーズ参戦できないヤツが主役じゃないって。

お得意の蝶野批判。痛烈に、かつユーモアを交えながら。

け 健介に申し訳ないって……。

犬軍団にベルトを奪われて。珍しくちょっとしょんぼりしてる、やるって節。

こ ことはなっても維震軍だよ。永遠に維震軍はずっと維震していくわけだよ。

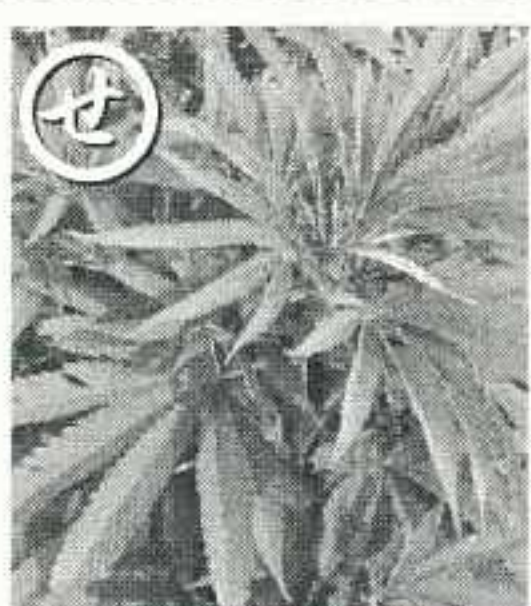
本隊はぶっ潰してしまったら維震軍ではないので、と聞かれて。

さ 最初の「アイ・ウォント・トゥ・テル・ユー」良かったですね。僕はもう本当に感激しましたよ。普段着でやってるじゃないですか。東京ドームであれだけのお客さんを前にすると、何かパフォーマンスとかアピールとかするじゃないですか。だけどジョージ、普段着でやってる。あれはもうシビレましたね。

ジョージ・ハリスンのコンサートについて。ビートルズ・フリークぶりが最高。

し 知り合いの床屋に頼んでスーッと良く切れる新品のハサミを手に入れる。

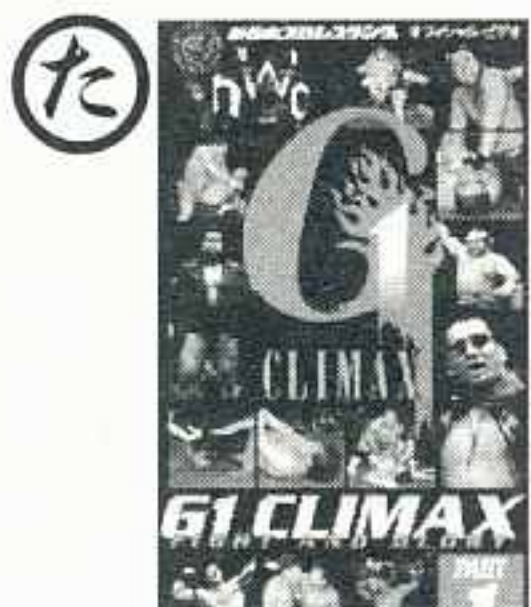
長州との髪切りマッチ前に。最高のハサミを用意すると敬意を払った挑発。

す 擦りきれるぐらい聴きましたね。

中3のとき、ビートルズのアルバム『レット・イット・ビー』を買って。

せ 1980年にポールが来日して大麻で捕まったときにも、前から15番目の武道館のチケットを持ってたんですよ。

90年の来日時はスタンド席で。が、逆に遠くに見えるポールに感激。

そ そこのけ、そこのけ天龍、越中ですよ。

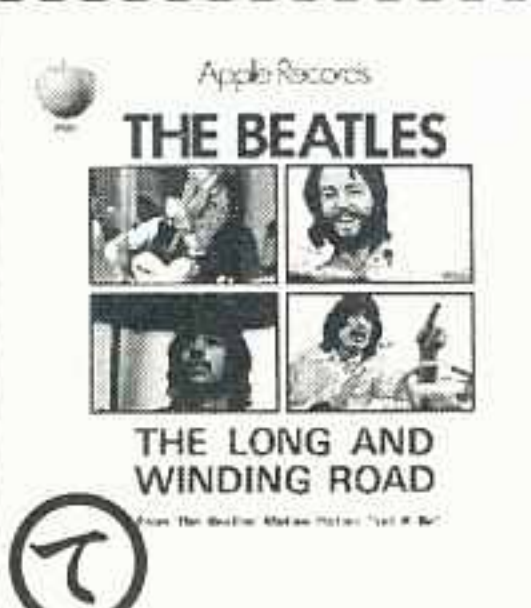
天越同盟の勢いを、小林一茶の句を引用するという珍手法で表現。

た 体調はよいし、夏は好きだし、G1は俺が獲るって。みんなに言っとけ、みんなに！ 俺がG1獲ってやるって！

「波の数だけ抱きしめてやるって!」という映画を撮ったほどの夏好き（嘘）。

ち 蝶野は口先だけなんだよ。武藤はボロボロ。山本（天山）は、もう使いものにならない。

新日の未来を背負う第3世代の天山を早くも一蹴した越中（1.5世代くらい）。

つ 次は神宮で花火のようにパーッと防衛だよ。

一瞬の輝きしか持たない花火を比喩に用いた、字面とは裏腹に悲しいコメント。

て テレビ朝日が、僕のドキュメント撮ってくれましてね。で、「最後は『ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード』流してください」ってお願いしたんですけど、駄目でしたね。

テレ朝には「リバプール魂」がない模様。でもたぶん、テレ朝の判断が正しい。

目いっぱい毎日ファイトすれば、それがメッセージだし。

女性シンガーのメッセージソングの歌詞みたいなコメント。元気を君に!(狂)。

日にち、会場、はっきりと決めた指定試合だって。

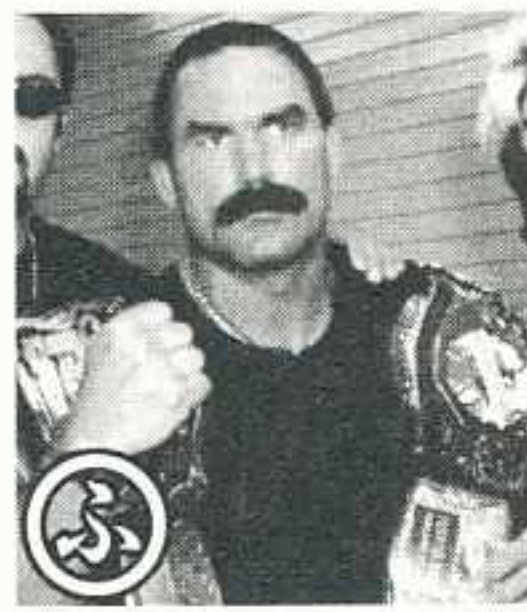
「どっちでもいいから1対1でやってやるって。武道館でいいって」と犬軍団を挑発。

取引先もないだろうし、新しい就職先でも考えておけ!

不況、就職難等の世相が越中の発言にまで影響を!(考えすぎ)。

燃やして、すっ飛ばしてやるって。

「アイツラの闘い方は俺が一番知っている。3分で充分だ」とまたまた犬軍団を挑発。

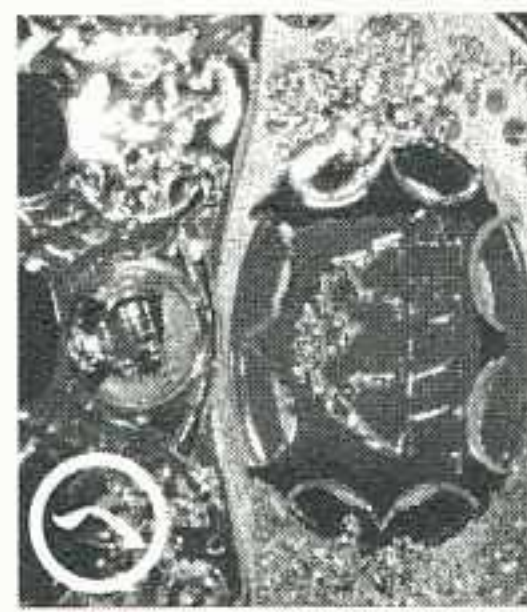
フライにでかい顔されるのに腹が立つ。やりたきゃ次は開幕からこいって。プロレスの巡業についてこさせて、ヒーヒー言わせてやる。

年間試合数の多さはレスラーの武器。「ヒーヒー言わせてやる」と少々アダルトな表現。

なんか、いねえよな。同じような身体つきで、同じような技使って。

長州引退後の本隊に関して。小島とかあのへんを一刀両断!(侍だけに)。

やるべきことはすべてやった。

解散会見にて。が、やるべきこと(ベルト総ナメとか)は何もやっていない。再結成熱望!

へビー級(選手権)をすっ飛ばしてやるって!

とにかく勢いだけは伝わってくるコメント。越中は勢いが違うって!(勢いのみだが)。

西村あたりがなんで挑戦できるんだ。ふざけるんじゃないって。笑わせるなということだよ。

西村のIWGP挑戦が決まって。「ふざける」意味を親切にも解説。

Uインターに乗り込むということに意味を感じるし、相手は関係ない。みんなぶっ潰す。必ず高田を引きずり出して、ぶっ潰すから!

越中が原因かどうかはわかりませんが、Uインターはぶっ潰れました。

ホレやすいんですけど、押すのが苦手というか……そういう気の小さいところがありますね。付き合うようになると、必ず『男はつらいよ』観に行こうと誘うんですよ。そうすると、みんな凄い顔をしますよね。「エッ!」って言われて、次から会ってくれなかったりとか……。

恋愛まで寅さんに直結! 越中の寅さんフリークぶりがよくわかる発言。

脱ぎ捨ててもらったら困るんだよ。だいたい、控室にもあんまり入ってこないようじゃ困るね。

維震軍に加入した藤波。が、試合中袴を脱ぎ捨てた! あいかわらず不可解!

ヨーロッパ遠征行ったっていうから「お前ら、リバプールは行かなかったのか?」って聞いたら、「ああ、試合やりましたよ」って。「えっ、リバプールに行ったのか、お前!」って言ったら、「なんなんですか? 港町ですよ」で終わり。我々がリバプールに行ったら、大変ですよ。もう、感激しちゃって。

これまた『リバプール魂』がないライガー。ちなみに藤波にもないらしい。

覇

まずはnWoを潰して俺たちの旗をもっとデカくさせてやることなんだよ。

まずはムタが旗に吹きかけた毒霧のシミをとることが先決だったのでは?

年齢的にも、40歳とかなんとか言うけども、体力とか精神的にはべつに変わってないから。節目でもないし。なんていうのかなぁ……でも、見てろよ! という気持ちのほうが強いよね。フザケンなよ! っていう気持ちじゃない?

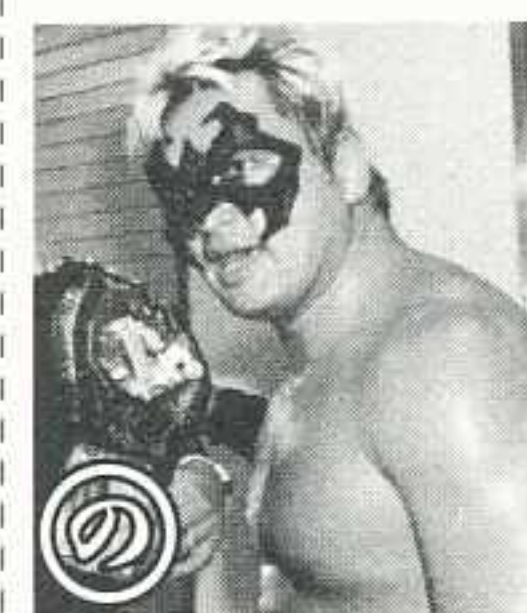
40にして惑わずでお馴染みの孔子もビックリ! 40にしてフザケンナ!

来年はニュー維震軍ということで、闘いの場に出ていきたいなと思っています。

一瞬の輝きしか持たない花火を比喩に用いた、字面とは裏腹に悲しいコメント。

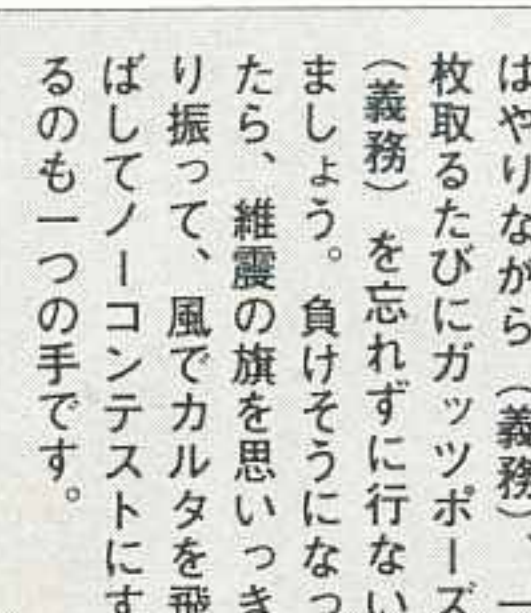
みんな泣き言なんて、一言もないですよ。

いろいろあった維震軍だけど誰も泣きませんでした(ほとんどが30代、40代)。

野上にはね、腹くくってこいって言ってあるから。腹くくってこいって。それだけ。本隊ぶっ潰すよ! 今シリーズ突っ走っていくから!

この頃、飽きるほど聞いた「本隊ぶっ潰すよ!」が今となっては懐かしい……。

あそび方

直接、もしくはコピーしたものを切り取って使いましょう。遊び方は普通のカルタとだいたい同じですが、袴着用(義務)で気合いを全面に押し出せるだけ押し出し(義務)、必要以上にはやりながら(義務)、一枚取るたびにガッツポーズ(義務)を忘れずに行ないましょう。負けそうになったら、維震の旗を思いっきり振って、風でカルタを飛ばしてノーコンテストにするのも一つの手です。

武藤だとか蝶野に『行ってこいよ』って言ったんですよ。そしたら『誰ですか?』だって。

おなじみの維震軍結成秘話。ジョージ・ハリスンのチケットを渡した越中だったが……。

橋本も藤波も覇気がねえ。

覇気なら人一倍(必要以上)持っている越中からみれば、あのラオウも覇気不足か?

驚異の“越中ブーム”を凸凹大学校が本人に直撃!!

やるって節？　俺は言ってないって!!

まつした・みわ■『PRIDE』などに豊富な知識を誇るも、プロレスは初心者……新日本道場に一日入門！　などその動向が業界に波紋を投げかけている編集者。

かなざわ・かつひこ■『週刊ゴング』の名物編集長として活躍後、フリーライターとして活動中。新日系レスラーの信頼度は絶大！な凸凹大学校特別講師。

3年G組 金沢先生

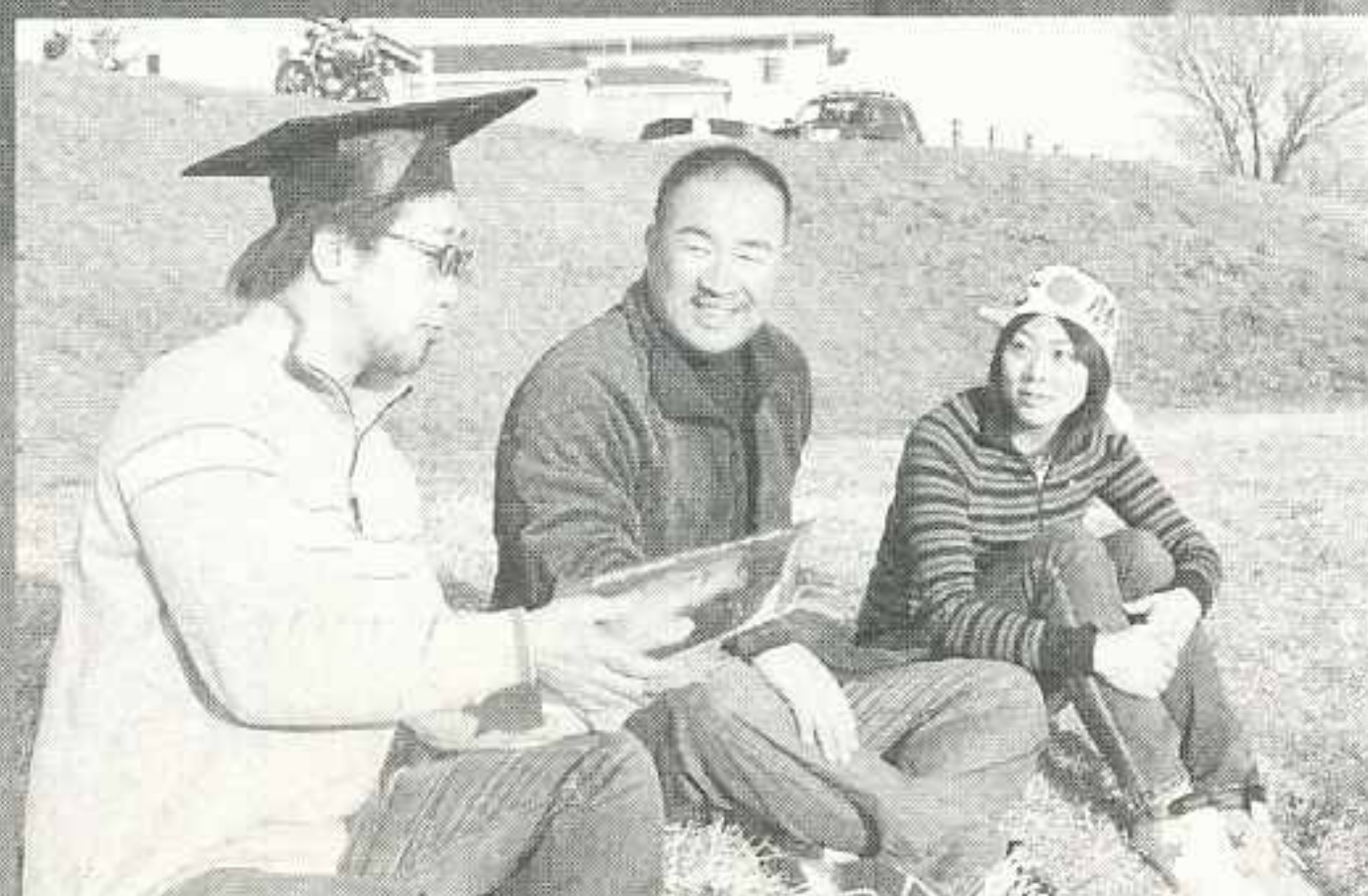
～維震の魂、百まで!!～

越中詩郎

教えて!! サムライの生き様

「本隊ぶっ潰すって！」とミワも思わずやるって節!?　今回は『週刊ゴング』時代に“越中番”だった金沢先生と、「今回はプロレスファン以外の友だちからもうらやましがられた」松下ミワが話題の人・越中詩郎を招いて、越中ブームからサムライの生き様までを語りまくる！　維震の魂は消えないって！

講師／3年G組 金沢先生　生徒／プロレス超初心者　松下ミワ

撮影／平工幸雄　構成／真下義之

GK さて、ミワ。今回の凸凹大学校は、いまや世間を巻き込んで、女子高生にまで人気沸騰中の話題の〝あの人〟の登場です。

ミワ ええ。いまやテレビはもちろん、ネットの検索ワードランキングの上位に上がったり、フリーマガジンの『R25』でも取り上げられて大注目の〝あの人〟ですね。先生？

GK あの人しかいないいって!! 越中詩郎さんです！

越中 どうぞ、よろしく！ ……それにしても金沢さん。その帽子はなんなの？

GK ん？ それは話すと長くなるんですけど……今日は『ｋａｍｉｐｒｏ』という雑誌の取材なんですが、これは僕が先生になってプロレスをよく知らない新人記者のミワにプロレスの魅力を教えていくというコーナーなんですよ。

越中 それで、そんな帽子を被ってるんだ（笑）。で、アナタが新人記者さん？

ミワ （持参した必勝ハチマキを巻き直しながら）はい、よろしくお願いしますっ！

越中 おっ！ そのハチマキいいじゃないの？ それさぁ、俺にも一本くれない？

ミワ えっ！ もちろん差し上げますけど……何に使われるんでしょう？

越中 いや、今度の中西（学）との試合（3月10日、幕張メッセ大会）の入場のときに使おうかなって。（※なんと、実際にシリーズ開幕戦の3・3平塚大会から、連日のように使用！）

ミワ え〜っ！ ホントですか!! 早起きして東急ハンズへ買いにいった甲斐がありました（笑）。

GK ただ、じつは越中さんって、ハチマキはそんなには巻かないんですよね。おそらく越中詩郎さんのモノマネをしているケンドーコバヤシさんのハチマキの印象が強いからだと思うんですが、越中さんはケンドーコバヤシさんのモノマネを観たことはあります？

越中 （答えにくそうに）それが最近まで、なかったんだけどさぁ。

GK でもモノマネの噂は聞いてましたよね？

越中 噂は聞いてたけど、この前、新日本プロレスの巡業バスで移動しているときにビデオを流してくれて、初めて観たんだよ。……でもアレってそんなにおもしれぇかなぁ？ って。

若い子から声をかけられる率は確かに上がったかもしれないね

写真の“必勝ハチマキ”を気に入った越中はなんと新日本のシリーズでもこのハチマキを巻きっぱなし！ だが途中で「このハチマキ、勝率が悪いんだよなぁ」ともボヤいていたが、3月10日の中西戦にも敗北……。だが、春はこれから。まだ巻き返せるって！

GK ちなみにどういったネタを観たんですか？

越中 え〜っと、俺みたいな格好してるやつが、たくさん出てきてるやつかな。

GK あ、それはきっと『アメトーーク』（テレビ朝日系）の「ガンダム芸人vs越中詩郎芸人」の回ですね（笑）。

ミワ しかし、先生もお詳しいですねぇ。

GK 自慢じゃないけど、僕は『Ｙｏｕ Ｔｕｂｅ』で全部観てるし、この前は「どうしても観たい」という藤田和之にも、そのURLを教えましたから！

ミワ はあ。故郷の『ゴング』があれほど大変なときに、そんなことを……。

GK （無視して）しかし、この番組の効果で、いまや世間では「プロレスラーといえば、越中詩郎！」みたいなムードもありますね。

ミワ 私もプロレスを全然観ない友だちからもメールが来ましたもん！ 「越中詩郎って凄い人気なんでしょ？」って。

GK オフィシャルホームページのアクセスも急増して、一時はパンクしたらしいですし。こういった現象はご本人はどう見てます？

越中 自分で観ると恥ずかしいし、「なんでこんなことやってんだろう」と不思議にも思ったりもするんだけどね。

GK あと、ケンドーコバヤシさん効果で、越中さんの試合後のログセである「やるって節」も非常に注目を浴びてますけど……。

越中 （さえぎって）いやいや、俺はあんなこと言ってないって！

ミワ こ、越中さん、それ確実に言ってます（笑）。

越中 （無視して）ま、本人は意識してはいないんだけど、試合後とかに興奮して言ってるみたいなんだよねぇ。

GK でも、こうして話題になるのは、悪い気はしないですか？

越中 正直、悪い気はしないよね。……ただ、モノマネで話題になるちょっと前もフリーランスの越中詩郎にとっては、かなり大変な時期だったんですよ！ IWGPのタッグ選手権に2回続けて負けちゃって、テーマを見失なってね。「これからどうしよう？」「もう新日本から声がかからないんじゃないか？」と困ってた時期だった。そんなときに、意外な風が吹いてきたんだよね。

GK モノマネ芸で人気が上昇するなんて、考えもしないですよね。

越中 まったく人生って、わかんないもんだねぇ（と腕を組んで）。

GK やっぱり最近は街で声をかけられる機会も増えました？

越中 言われてみりゃあ、確かに街を歩いてても、若い子からも声をかけられる率は上がったかもしれないねぇ。

ミワ あ、ホントですか！

GK 越中さんを一番よく知ってるのは、30代以上の人が多いでしょう？

越中 そういうファンももちろん大切にしていきたいよね。前回の中西戦（2月18日、両国国技館）も、自分には大きな舞台だったから、昔のファンのためにも平成維震軍のときに使っていたテーマ（『ＳＡＭＵＲＡＩ』）を聞きたい人がいるかなと思って使ったりね。

GK ケンドーさんも使ってますけど、やっぱり越中さんといえば、あのテーマですよ！ で、今日は30代以上の男子が喜ぶ本を持ってきました。（とベースボール・マガジン社のプロレスアルバム『男・サムライ・越中詩郎』を取り出して）。

越中 懐かしいなぁ〜。これって、何年ぐらい前かな？

GK もう20年くらい前です。いいかい、ミワ。こういうふうに昔の注目のプロレスラーは、みんなこういうプロレスアルバムになったんだよ。

ミワ へえ〜。そうなんですかぁ。

越中 （照れながら）俺なんて一番、売れなかったんじゃないの？

GK いやいや。そんなことないですって。業界人の僕でさえ買ったんだから！ ……じつは『男・サムライ・越中詩郎』というタイトルはセンスよかったから、『週刊ゴング』でかなりパクらせてもらったんだけど。

ミワ 先生なのにパクってましたか（笑）。

GK サムライだけ〝侍〟と漢字に変えてね。いまや越中さんの代名詞の〝サムライ〟というフレーズは、メキシコ遠征時代のリングネーム、サムライ・シローからですよね。

越中 そうそう。サムライ・シロー……それから、カミカゼ・ミサワね（笑）

ミワ カ、カミカゼ・ミサワ？ それ、もしかしてノアの三沢（光晴）さんという人のことですか？

GK そうそう。いいか、ミワ。越中さんはもともと新日本じゃなく、ジャイアント馬場さん時代の全日本プロレス出身なんだよ！

ミワ 最初に入門されたのは全日本プロレスだったんですね。

越中 ええ。ジャイアント馬場さんや、ジャンボ鶴田さんの付き人を兼ねてずっとやってましたから。その当時は若手も

長州さんも俺のヒップアタックを「ありえない！」と笑ったんだよ

僕一人で、雑用の量もハンパじゃなかったから、ホントに大変でねぇ。それでや～っと入ってきた後輩が三沢だったんですよね。

ミワ　でも、なぜ「サムライ・シロー」「カミカゼ・ミサワ」だったんですか？

越中　じつは、メキシコに着いたときに三沢と「リングネーム考えようぜ」って言ってたんだけど、そのとき乗っていた日産の車がたまたま「サムライ」という名前だったんだよね。その車にもう一つ種類があるっていうから、「名前は？」って聞いたら「カミカゼだ」って。

ミワ　そこは、わりとアッサリと決まったんですね（笑）。

越中　「じゃあ、俺はサムライ・シローにするけど……おまえはカミカゼ・ミツハルじゃおかしいから、カミカゼ・ミサワにしろよ」って言ってね。内心、三沢はイヤだったと思うよ（笑）。

GK　あと、越中さんのトレードマークといえば白袴ですけど、このスタイルが生まれたのもメキシコですよね。

越中　そう。せっかくメキシコ遠征に行くんだから、日本人らしさを追求しようと思ってね。いまと同じような白い道衣を探して、そこに少林寺みたいな上着を着て、浅草で買った歌麿みたいな風呂敷を背中に結んで、ハチマキしてリングに登場したんだよ。

ミワ　あ、あれは白袴というか……道衣なんですね？

越中　そうだね。ただ、齋藤彰俊と知り合ってからは、本格的な空手の道衣を買えるところを教えてもらったから、そっちをずっと使ってますけど。

GK　それから越中さんといえばヒップアタック！　ですけど、脚光を浴びたのは新日本に移籍してからですよね。

越中　そうだねぇ。ただ、全日本から新日本に移ったのはいいけど、ファイトスタイルも全然違うから、もの凄く苦労したんだよ。試合もスイングしなかったし、新日本ファンからも「いったい何しに新日本に来たんだ！」と冷たい目で見られたから。俺を新日本にひっぱってくれた坂口（征二）さんも、かなり肩身が狭かったと思うよ。

GK　そういった時代を経て、越中さんはミワもよく知っている現・ＰＲＩＤＥ統括本部長の髙田（延彦）さんと宿命のライバル関係になって、ついに大ブレイクするわけなんだよ。

ミワ　ああ、あの髙田本部長と闘ってたんですか。

GK　そう。毎回が「鳥肌立った！」と叫んじゃうような凄い試合をしてたんだから。それに、前田日明ともバチバチにやり合ってたし。

越中　髙田とは最初の試合でボロカスに蹴られて、ノックアウトされちゃってねぇ。しかもヒップアタックを「あんな技で倒れるヤツの気が知れない！」みたいに言われたから。「クソ～ッ」と思ったし、そこからはもう意地だけ。ヒップアタックを狙ったようにやり続けましたよ！　……長州さんだって、最初はヒップアタックを笑ったんだから。「あんな技、ありえない！」ってね。

ミワ　手厳しいですねぇ（笑）。

越中　だから、「ありえる」ように、長州さんには極めてロープに近いところで、逃げられないように当ててやったけど（笑）。

GK　最初にヒップアタックをやったのは、全日本プロレス時代ですよね？

越中　最初はチャボ・ゲレロとの試合ですね。その試合でチャボが俺にヒップアタックをやってきて、頭にきてやり返したのがきっかけ。ただ、最初はお客はウンともスンとも言わなかったし、俺もここまで続けることになるとは思わなかったけど……。

GK　それが、いまや、越中さんの代名詞ですからね。

越中　「越中はヒップアタックだけ」なんて揶揄するヤツもいるけど、俺はこの技に魂を込めてやってきている。なんなら、この技だけ出して試合が終わったっていいと思ってるから！

ミワ　ヒップアタックに誇りを持っているんですね。

GK　かつてのライバルの髙田さんはいま『ＰＲＩＤＥ』の統括本部長ですし、その友人には髙田総統や、ザ・エスペランサーなんてキャラもいますけど。もしも『ハッスル』からオファーがあったら、どうします？

越中　あぁ。申し訳ないけど、そっちのほうはよく知らないんだよねぇ……（と困った様子で）。まぁ、自分はフリーですから、お話があれば考えるけど。この商売、いつどんな絡みがあってもおかしくないしね。

GK　でも、越中さんと髙田総統とのやりとりはぜひ観たいねぇ！　「ん？　そこにいるのは、懐かしいエッチューくんじゃないか？」とか。

越中　いやいや（苦笑）。……でもね、俺はこの勢いに満足するんじゃなく、もう一歩、この風を利用してＩＷＧＰ王座挑戦までこぎつけたいよね。もう一花じゃないけどさ、いま、48歳なんだけど、その歳でやってやった！　という部分は見せたいね。

GK　それは、実現したら凄い盛り上がりになりますよね。

越中　それに話題になったことで、金沢さんみたいな付き合いの古い記者さんが取材に来てくれるのは嬉しいよ。（ミワに向かって）金沢さんはね、平成維震軍の名付け親なんだから。

ミワ　えっ！　先生が名付け親？

「勢いが違うって！」。越中といえば、やっぱり維震軍。06年7月27日、後楽園ホールのWARのファイナル興行のメインでは、揃いの黒袴で、平成維震軍が6年ぶりの再結成！　セコンドでは小林邦昭が維震軍の旗を振りまくるなど、維震軍の絆の強さを見せつけた。

維震軍の盟友が越中を語った!!

小林邦昭

なんだかいま、越中が凄いブームらしいねぇ。僕もテレビであのモノマネは何回か観てるけど、あの動きなんか、本人よりも似てるくらいだよ（笑）。それから、あの……「やるって節」？　「やってやるって！」ってヤツね。言ってる、言ってる。普段は使わないけど、確かに会見の最中に「って！」はつけてるよね。

俺と越中の関係といえば、やっぱり印象深いのは、反選手会同盟だね。一番最初は91年に後楽園ホールで誠心会館という空手の集団の若い門下生が控室のドアを開けっぱなしにしてたから、「開けたものは閉めろ！」って俺が注意したの。そしたら、そいつが口答えしたんです。それで僕がボーン！　と張り手をしたら、その一撃で倒れちゃってね。それがきっかけで誠心会館の抗争が始まったんだけど……そのときに唯一バックアップしてくれた選手が越中だったんだよね。

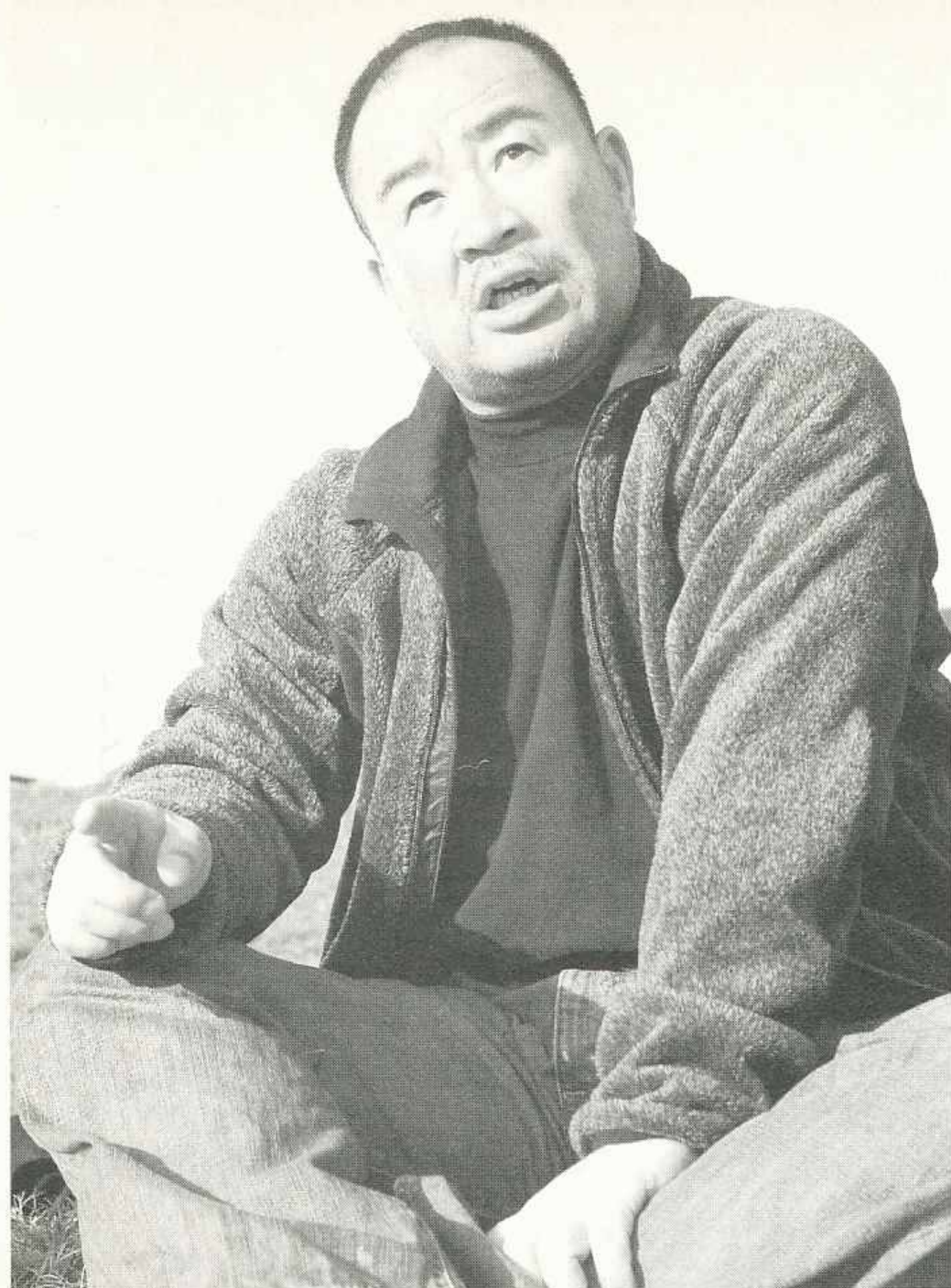
新日本プロレスには止められたけど、そのあと二人で誠心会館の名古屋大会に乗り込んだのが原因で、選手会を除名されちゃった。かなり長いあいだ謹慎してたんだけど、その謹慎中に越中と「一緒にやっていこう」と気持ちを決めたんだよね。そのときの俺と越中は、まさに〝一蓮托生〟って感じだったから。

越中はリング上ではいつもバタバタしてる感じだし、お客からも「落ち着きがないぞ～！」なんて言われてるけど（笑）。普段の本人はいたって冷静で、落ち着きがあるんですよ。それに頭もいいし、先の先を読む力がある。……まぁ、あの歳で冷静じゃなかったら、おかしいけど。やっぱり頼りになったよね。

そのあとの平成維震軍では、越中がリーダーというよりは「みんながリーダー」って感じだった。ただ、やっぱり維震軍への思い入れは強いねぇ。昭和維新軍のときは、短いあいだにブレイクしたけど、せいぜい2年くらいしかもたなかった。でも平成維震軍は7年ももったじゃない？　団結力も強かったし、メンバーが仲もよかった。サイパン合宿も楽しかったねぇ。練習したあとに、みんなで日光浴したり、食事したり……。（斎藤）彰俊だけはパスポートの関係で来れなかったんだけど（笑）。

でも、本隊を油だとすれば、維震軍は水ばっかりというか、ホントに息がピッタリだった。まぁ、メンバーにけっこう地味な人が多かったし、越中なんかにしても「俺が俺が」という欲はなかった。どこの世界でも「俺が俺が」になっちゃうと、足をひっぱられるから。でも維震軍は「どうぞどうぞ」の精神だからこそ、うまくいったんだろうね（笑）。

まぁ、俺たちの世代の最後の砦じゃないけどさ。このブームを利用して、越中にはもうひと踏ん張り頑張ってもらいたいね。俺も応援してますよ！　（談）

カミさんがいないときは自分で白袴を洗濯したりしてますから

GK　えっへん！　越中さんたちが、92年に反選手会同盟というユニットを結成したあとに「名前を変えたいんだけど」って越中さんに相談されたんだよね。で、長州さんたちがやった昭和の〝維新軍〟の名前を僕が〝維震軍〟に変えることを考案して、当時のフロントの永島（勝司）さんに提出したんだよ。えっへん！（自信満々に）。

ミワ　よっ!!　GK！

越中　でもさ、反選手会同盟なんていうけど、もともとは俺が選手会長だったんだから！

ミワ　あ、越中さんは新日本プロレスの選手会長だったんですか？

GK　それが、誠心会館という空手の自主興行に、会社の了承なしに出たことで越中さんと小林（邦昭）さんは選手会から除名されちゃうんだよ。

越中　しかも副会長は小林さんだった。つまり選手会長と副会長がヒラの会員に除名されちゃったわけ。でも選手会長と副会長が除名っておかしくない？　普通は逆だろうって！

GK　ハハハハ！　そりゃそうですね。

越中　で、そのあと「ここ一番！　何かしないと！」と気合いを入れて、俺らを除名して新選手会長に収まった蝶野との一騎打ちの前に丸坊主にしたんだよ。ただ、青々とした頭って新弟子みたいで恥ずかしかったから、「スキンヘッドのまま頭を焼こう！」と思って、真夏にずーっとランニングしてたんです。そうしたら、ランニング中に多摩川沿いでブッ倒れちゃったの。

ミワ　うわ〜（笑）。

越中　単純に日射病だよね（笑）。あのときは「髪の毛って大事なんだなぁ〜」と思ったよ。……ただ、維震軍をやって一番よかったのは、この前、小林さんが「あの7年間はホントに楽しかったね」と言ってくれたんだよねぇ。俺はもう、その言葉だけで「やってよかったな」と思ったよ（しみじみと）。

GK　本隊から離れてシリーズもやるくらいの人気でしたもんね。

越中　でも、人生なんて、浮き沈みはあるじゃない？　だから、レスラーって、底にいったときが見せ場だと思うんだよ。髙田にKOされちゃったときや、新日本に移籍してもなかなか芽が出なかったときとか。そこで歯を食いしばったから、いまの自分がある気はするよね。

ミワ　そういう状況って、凄くバネになるほうですか。

越中　なるねぇ。そこで「なにくそ！」と反発するのがプロレスラーでしょ？　でも、最近の選手は大きな鏡の前でウエイトトレーニングやって、「いい身体になったなぁ」なんて前ばっかり見て練習をやってるけど。俺から言わせたら逆でしょって！　男は背中が勝負でしょって！

一同　はぁ〜〜〜っ（と感心して）。

ミワ　かっこいいですねぇ！

越中　人はね、背中を見てるんだよ……（ポツリと）。

GK　いやぁ、今日もまた素晴らしい名言が飛び出したねぇ。ミワ、しっかりメモしなさい！

ミワ　ラジャーです！　先生!!

越中　それにいまの新日本の中って、もう温室みたいにあったかいんですよ。でも、外は冷たい雨が降ってるよって。一回、外に出てみなって？　これはフリーの俺だからわかることですよ。（ミワに向かって）キミなんかも若いうちは苦労したほうがいいよ！

ミワ　肝に銘じておきます。……ところでフリーといえば、いまは奥さんが越中さんのマネージメントをやられてるんですよね？

GK　聞くところによると奥さんはお仕事でお忙しくて、ハワイに単身赴任されたりして、越中さんもけっこう、さびしいみたいですけども。

越中　いやぁ……俺も結婚して11年になるけど、カミさんが家にいないとホントに困るんだよねぇ。家のどこに何があるかわかんなくてさぁ。

GK　そういえば、この前、蝶野選手が試合前に「白袴の丈が短くなってるじゃないか！」なんて挑発してましたけど。もしかして……。

越中　ええ。次の日に試合があるときなんかは、自分で洗濯したりしてますよ。

ミワ　越中さんが、ご自分で白袴を洗濯されてましたか！（笑）。

越中　だって仕方ないじゃない！　そこは洗濯するしかないって！　もうなんでもやりますから（笑）。

GK　まあ、そうですよね（笑）。今後も頑張ってください!!

【07年3月1日／早春の多摩川河川敷にて取材】

こしなか・しろう■1958年9月4日生まれ。東京都江東区出身。78年に全日本プロレス入門。85年に新日本プロレスへ移籍。92年には小林邦昭や木村健悟、青柳政司、斎藤彰俊らと反選手会同盟を結成し、そのあと平成維震軍と改名。現在はフリーとして新日本プロレスなど活躍。07年にお笑い芸人・ケンドーコバヤシのモノマネ芸（越中詩郎芸人）が大ブレイク！　現在、時の人として話題沸騰中！　185cm、105kg。

どーだい、この表情！「ヒップアタックは伝授できない……」と越中にキッパリと断られてしまった凸凹大学校。それならば、と金沢先生が突然、「こうかーっ？」と自主的にヒップアタック練習開始ッ！　越中も「悪くないって！」と太鼓判！

「先生に負けてられないって！」と奮起したミワも、おそるおそるながら、越中の眼前で人生初のヒップアタック敢行〜ッ！　ゆっくりとした助走ながら高い打点をマークするも、越中からは「う〜ん。手を広げすぎだって！」と辛口批評。

今回の通信簿だって！

大変よくできました

松下ミワのコメント

はっきり言って、この取材はいろんな人にうらやましがられました！　いや〜、越中さん最高です。ヒップアタックを教えてもらったときも、「あれだけは人前で見せることができない」と自身の〝アタック〟は封印。しかし、先生と私には「飛んでみろ！」と熱血指導をしてくださって、……ほらっ！　先生なんて、あんなに高打点!!　越中さんのヒップアタックを実際に受けられる人は本当に幸せだろうなあと思います。ちなみに、越中さんは野球日本代表監督の星野仙一さんに、声といい、熱血ぶりといい、めちゃくちゃ似てるなあと思いました。

金沢先生のコメント

「男は背中が勝負でしょって」。シビレたねえ。越中詩郎は男だって！　かのWJが崩壊し、行き場を失なったときも越中は私にこう言った。「俺はべつにリキさん（長州）を恨んでないよ。だって、自分で決めて動いたんだから」。越中詩郎はサムライだって！　そんな男・越中も87年4月、右足ひ骨骨折の重傷を負い入院した。お見舞いがてら遊びに行った我々は越中の病室で、『東スポ』記者のお見舞い品〝エロビデオ〟を鑑賞。その瞬間、ナースの声が鳴り響く。「越中さん、何観てるの!?」。誤ってナースコールのボタンが押しっぱなしになっていたのだ。これは大失敗だって！　とにかく男だって。ミワも真の男の魅力を知ったに違いない。今回は満点だって!!

新 卓球少女(似)松下ミワの ハガキ愛ランド

パッキャマラ～ド、パッキャマラ～ド、ぱおぱおパンパンパン♪ってアイツらは楽しそうに歌ってるけど、……だいたい「パッキャマラ～ド」ってなんだ──!!(怒)。というわけで、知ってたらあとで教えてください。それでは今号もさっそくスタートしましょう。3、2、1、親父だ、親父だ、う～、怒髪天!!(筆)。

kamipro108号へのお便り紹介

山本小鉄さんは最高! 小鉄理論は現代科学を完璧に超えています! 説得力はケタはずれですよねえ。
【広島県・広川徹さん・会社員・37歳】

⬇小鉄さんにはプロレス部門として、大沢親分と張本さんの隣に並んでほしいですね。でも、不意に人の鎖骨に指を入れるのはやめてください。

「特集わるいやつら」は強烈でした。メンツも語る内容も凄みがありすぎです! そんな中で唯一〝悪ぶってる〟ゆうたんの「いい人オーラ」には癒されました。それも含めて中央の小さいサイズのページはどれも秀逸でした!
【栃木県・稲葉修さん・会社員・34歳】

⬇「特集わるいやつら」のトビラページだけで、かなりお腹いっぱいですが、前号にはブッチャー、佐山サトルさんほか、オーラのある方ばかりで、笹原元GMが非常にさわやかに見えました。

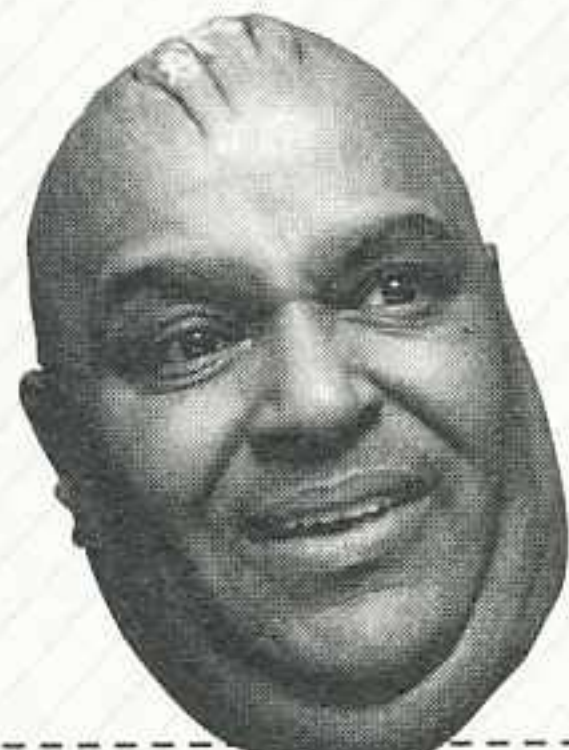
タイガーマスク×小林邦昭の対談がよかった。私も金曜夜8時直撃世代ですから、当時の熱を思い出しました。「体罰はジェスチャーだから」という佐山さんの言葉に、いまの教育に欠けているものがわかりました。
【兵庫県・春名義行さん・会社員・40歳】

⬇掣圏真陰流の練習を見るだけで背筋が凍りました。でも、そんな佐山さんが「新日本で怖かった先輩は小鉄さんだった」と言われているのを見て、やっぱり小鉄さんはよっぽど怖かったんだなあとしみじみ思いました。でも、鎖骨に指を入れるのはやめてください。

松永光弘のインタビューが最高だった。フィギュアスケートの安藤美姫と浅田真央が松永選手と同じ高校なのは本気でビックリしました。
【北海道・安倍正典さん・フリーター・34歳】

⬇「特集わるいやつら」で〝わるいヒール〟である松永光弘さんが一番悪くなさそうだったのは、やっぱりマット界は非常に奥深いものがあるなと思いました。

僕は永田さんのインタビューが一番おもしろかったです。ある意味、永田さんは宇宙最強の男だと思いました。ぜひ、今度の都知事選に立候補してほしいと思います。
【東京都・中村徹さん・フリーター・20歳】

⬇石原軍団vs新日本プロレスははたしてどちらが強いのでしょうか。ちなみに、石原良純は石原軍団ではありません。

3年G組! 金沢先生の特別講師アブドーラ・ザ・ブッチャーのページが最高だった。子ども心だったとはいえ、あの頃のヒールは本当に凄みがあった。あの頃のプロレスはおもしろかった。中途半端でナマぬるいいまのヒールや軍団抗争に喝ッ!!
【千葉県・大木憲博さん・会社員・39歳】

⬇そんなこと言ったら、極悪軍団G・B・H(グレート・バッシュ・ヒール)が黙っちゃいませんよおおおお! ちなみに、G・B・Hは「最も偉大で凶悪な悪役」の略です。

なんといってもソクジュのインタビューに尽きます! 「ホジェリオはキリンより弱い」などのセリフにロード・ウォリアーズ-ismを感じたのは自分だけではないと思います。でも、私は記事を読むまで「ソク・ジュ」という名の韓国人選手だと思っていました。
【宮城県・毒柴さん・スーダラ社員・35歳】

⬇あんなドレッド・ヘアの韓国人もなかなかいないと思いますが。それにしても、今回16ページを割いてソクジュ特集をしておりますが、自分の人生において、こんなにキリンについて深く考えさせられたのは初めてでした。

『kami-pro』にひさびさにアントンが登場しているのを見て、めちゃめちゃうれしくなった。やっぱり、あのわけのわからなさ、不気味なオーラをほかのレスラーが醸し出すのは無理なんじゃないかと思う。
【大阪府・下田千喜さん・学生・35歳】

⬇あんなにネットを騒がせた〝オイルショック〟だったのに、「俺から言わせれば、あんなの悪でもなんでもない」というアントンはさすが! そして、2月20日64歳の誕生日、おめでとうございました。

ミルコ・クロコップが出場したUFC67関係の記事がおもしろかった。ミルコのUFC参戦はいろいろな意味で楽しみにしていたので。でも、まさか『PRIDE』のテーマ曲で出てくるとは! なんだか昔のプロレスラーを見ているような感覚でした。
【埼玉県・下条聡さん・公務員・30歳】

⬇ミルコと同じく、今度はファブリシオもUFC参戦が決定! 二人は今後いったいどんな曲で入場してくるのでしょうか。UFC70に要注目!

新しく始まった所英男のコラムがおもしろかった。自分のことを「下り坂ファイター」という人は、この人以外にはいないんじゃないかと思う。やっぱり、天然なんですか!? 狙ってたら凄いけど……。
【福島県・田中さん・レッスルラン道・22歳】

⬇天然か狙い撃ちかはご想像にお任せします!

108号・おもしろかった記事ランキング

順位	記事
1位	特集 わるいやつら
2位	山本小鉄
3位	ソクジュ
4位	ミルコ・クロコップ
5位	宮戸優光

前号は「わるいやつら」がトップに君臨! 中でも、ひさびさの『kamipro』登場となったアントニオ猪木さんが大人気でした～。そして『PRIDE.33』で大爆発したソクジュのインタビューが、なんと初登場にして3位にランクイン。今号でもこれだけのキリン特集を組ませるほどの馬力! これが野生のパワーなのか!!

kamipro読者が告白! いま、あなたが逃げ出したいこと

〝ひょん〟なことからこのアンケートを募集しましたが、逃げ出したいことってたくさんありますね! その、あらゆる苦しみを『ハガキ愛ランド』でぶちまけてしまいましょう～!! ドッカ～ン!!

- ●キックボクシングをやってるのですが、スパーリングパートナーがめちゃくちゃ強いので逃げ出したいです (神奈川県・会社員・42歳)
- ●3月21日の親戚一同の懇親会 (千葉県・会社員・38歳)
- ●借金 (埼玉県・会社員・29歳)
- ●パソコンで仕事すること (東京都・公務員・41歳)
- ●人生 (岩手県・アルバイト・34歳)
- ●子どもと一緒に鬼嫁から逃げたいです (大阪府・自遊業・38歳)
- ●中国株が下がって、手持ちの中国元を換金したいのに、仕事場から抜け出せない! (鹿児島県・中学教師・39歳)
- ●仕事がらみの関係 (大阪府・会社員・37歳)
- ●新宿↔四谷の朝の中央線 (東京都・会社員・32歳)
- ●毎日のイヌの散歩 (茨城県・学生・21歳)
- ●寒いところ (福井県・無職)
- ●30歳になってしまったこと (大阪府・会社員・29歳)
- ●女 (千葉県・学校職員・33歳)
- ●変化のないいまの生活から脱却したい (東京都・会社員・45歳)
- ●ストーカー (宮崎県・ショップ店員・19歳)
- ●国民年金 (香川県・アルバイト・38歳)
- ●妻の意見と部屋の片づけ (神奈川県・会社員・41歳)
- ●逃げ出したいことなんて、ありません (東京都・編集者・35歳)
- ●自分との結婚を反対している彼女の親と会うこと (福島県・会社員・27歳)
- ●明日 (福岡県・OL・28歳)
- ●DEEP28で僕が応援していた渡辺久江さんが負けたという事実 (神奈川県・会社員・32歳)

メカマミー キャッチャー vs ブリッツフォン エリック

ミルコ.クロコップ

長野県・市川学さん・27歳・作家志望
➡UFC2戦目の相手ガブリエル・“ナパオン”・ゴンザガの次は、いよいよUFC68ヘビー級チャンピオンのランディ・クートゥアー戦になるのでしょうか!?

東京都・サカモトカズヤさん
➡「おっ！　メカマミーのイラストって珍しいねよね」とメカ担当・松澤チョロが感激しておりました。ありがとうございます！

神奈川県・葉ちゃんさん
➡「少し前までまったく取材できなかったはずの新日の選手が、いまではレギュラーでボンボン出ていて不思議です」というコメントつきでお送りいただきました。本当ですね。新日バンザイ！

中西君はズルズルすべりました。

ナガタです

スクープ！ ザ・目撃!!

●先日、新大久保で夕飯を食べていたところ、DEEPチャンピオンの今成正和さんと村田卓実さんがバイク二人乗りで去っていくのを見かけました。僕は「あ！　今成さんと村田さんだ!!」と叫び、思わずお二人に向かって会釈をしてしまったのですが、当然、二人は僕の顔を知るはずもなく、不思議そうな顔をして普通に去っていきました。とても仲の良さそうな二人で、まるで兄弟みたいだなと思いました。
【東京都・デーブ新大久保さん（kamipro Hand投稿）】

●先月、ラスベガスでのUFC67の大会取材のあと、僕ははっとする光景を目にしました！　なんと、ミルコ・クロコップにTKO負けを喫してしまったエディ・サンチェズがホテルでカジノをやっていたのです。やっぱりアメリカ人はいろんな意味でタフだなあと思いました。　【東京都・上杉さん】

●2月16日後楽園ホールで行なわれたDEEP観戦に行ったときのこと。僕はリングサイドの席だったのですが、なんと！　そこにはアンディ・オロゴンがいるではありませんか!!　さすがモデルをやっているだけあって、ビックリするくらい頭がちっちゃかったです！　あれじゃ、パンチもあたらないと思います。ちなみに、兄とは違い、アンディは日本語がかなり達者なようでした。
【千葉県・オロゴン王国さん・28歳】

●この前、新宿駅東口付近を歩いていたら、居酒屋の店員らしき人がお店のビラを配っていました。しかし、よく見ると、その店員らしき人は、なんとあの『ますだまつり』のますだいすけさんだったのです！　僕は面識がなかったので挨拶はしませんでしたが、ビラは一応もらって帰りました。
【東京都・昨日の敵は今日の友さん・35歳】

●ルミネでHG、RGの単独ライブに行ったときのこと。ライブが終わって会場を出ようと思ったところ、何やら人だかりができていました。「なんだろう?」と思って駆け寄ってみると、そこにはあの棚橋弘至選手と、タグダンスでおなじみの田口隆祐選手がいました！　しかも、その人だかりの中にはバンザイ・チエが!!　世間って、狭いなあと思いました。　【東京都・真上さん】

衝撃ショット!!

“もう一人のギャンブル大将”

S波氏は“アメリカ”に負けたのか!?

このコーナーの常連投稿者であるS波氏、今回は本誌編集次長・松林貴に負けじと『PRIDE.33』で世紀の大ギャンブルに出た！（『kamipro Special 2007 SPRING』参照）。S波氏が賭けたのは、ショーグン、五味、ヴァンダレイの三選手。「五味、ヴァンダレイは間違いないでしょう」と自信満々に高をくくっていたS波だったが、ところがドッコイ、まさかまさかの二大チャンピオン敗戦でS波氏の夢も藻くずに――。いま勢いに乗る米MMA界だが、S波氏もこのまま“アメリカ”に飲み込まれてしまうのだろうか。（つづく?）。

和食処『わたる』の前で残念そうな顔をするS波氏。しかし、この目はリベンジに燃える目！　S波氏はきっと一発やってくれるはずだ。

kamipro初！ メカが相談役に!!
メカマミーの人生相談

メカマミーが戻ってきたぞ！　ということで、前回はヌルヌルな中澤マイケルに滑り込まれた人生相談コーナーでしたが、今回はばっちりメカ相談です。はりきってお願いします！

花粉症の解消法を教えてください

お悩みごと

■まばたき鼻緒さん（国分寺市・30歳・♂）

メカマミーさん、いつも楽しく拝見させていただきます。3月になり、だいぶ暖かくなってきましたが、僕はこの季節になると非常に憂鬱になります。なぜなら、僕は重度の花粉症だからです。テレビなどでいろいろ花粉症対策などが報じられていますが、メカマミーさん的には、どうすれば花粉症は解消できると思いますか？　また、メカにも花粉症はあるのでしょうか？　教えてください!!　PS：飯島愛引退騒動について一言お願いします！

メカマミー

何？　おまえも花粉に悩まされているのか!?　それはたいへんだな。……じつはオレも花粉症だ。メカ界にも花粉症というものがある。今年はまだマシだが、一昨年がヒドかった。……オレはスギ花粉だ。花粉がメカに入り込むとどうなるか教えてやろう。これはもうメカの歯車が次々と狂わされてしまうのだ。こうなると、メカはかなり頭がぼんやりしてしまう。メカ的な対処法としては、これはもう洗浄するよりほかはない。洗浄というのはメカにとっては一日仕事だ。そんなときにラム会長が襲ってきたらおしまいだ。そうならないために、メカ界でもマスクというものを着けて万全の体勢をとる。なぜなら、基本的にメカも人間と同じように鼻から花粉が入り込むからな。しかし、人間が着けるようなただのマスクじゃ効果がない。もちろん、オレが装着するのはメカマスクだ。このメカマスクは超合金でできているから、人間用のマスクよりは数千倍も花粉をシャットアウトできる。ところが、残念なことにこれで100パーセントの花粉が防げると思ったら大間違いだ。そういう意味では、やはりメカ界も花粉には毎年苦しめられているな。つまり、花粉は永遠の強敵なんです。

最後に、飯島愛については引退するのしないのでいろいろ騒がれているようだが、メカ的には全身をメカに改造して、メカTバックで復活してほしいと願っている。

※人生相談ドシドシ送ってください。メールでもハガキでも可。宛先は左記参照。
メカマミーの近況!!メカマミーLiteとともに“ストロングスタイル”で3・22『若武者～プロレスサミットへの道～』に参戦!!

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう！　お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

- ●ザ・目撃!!
- ●おもしろ写真投稿
- ●選手に対するご意見、試合の感想
- ●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「カラスに襲われる」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。

マット界の日程、そして情報をツープラトンで一網打尽!!

kamipro よろず情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

Fight & Event March 3

29 THU.

チャンピオンカーニバル大詰め!
今年はいったい誰が栄光を手にするのか!?

『全日本プロレス2007チャンピオンカーニバル』
3月26日～30日／東京・後楽園ホール（18:30）

出場予定選手
[Aブロック]
武藤敬司、佐々木健介、太陽ケア、諏訪魔、大鷲透
[Bブロック]
鈴木みのる、小島聡、川田利明、RO'Z、TAJIRI
◎問＝全日本プロレス 03-3288-0610

30 FRI.

◆全日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆アイスリボン／東京・市谷アイスボックス（19:30）
◆修斗／東京・東京キネマ倶楽部（19:00）

31 SAT.

◆ZERO1・MAX／神奈川・横浜市金沢産業復興センター（18:00）
◆DRAGON GATE ／兵庫・DRAGON GATEアリーナ（19:00）
◆みちのく／山形・最上町中央公民館大ホール特設リング（19:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆バトラーツ／埼玉・バトルスフィア東京（18:30）
◆アパッチプロレス軍／東京・新木場1st RING（19:00）
◆北都／北海道・知床グランドホテル北こぶし2階レストラン「北海」内特設（20:00）
◆キングダム・エルガイツ／東京・総合格闘技スペースファーストスピリット（19:30）
◆アイスリボン／東京・BumB東京スポーツ文化館マルチスタジオ（19:30）
◆ニュー全日本女子／栃木・芳賀町体育館（18:30）
◆J-GIRLS 女祭り／東京・新宿FACE（12:30&17:30）

Fight & Event APRIL 4

1 SUN.

◆NOAH／東京・後楽園ホール（18:30）
◆ZERO1・MAX／三重・玉城中学（14:00）
◆DDT／東京・後楽園ホール（12:00）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00）
◆FTO／大分・挾間町体育センター（18:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆北都／北海道・知床グランドホテル北こぶし2階レストラン「北海」内特設（20:00）
◆NEO／秋田・秋田市立茨島体育館（18:30）
◆OZアカデミー／東京・新宿FACE（18:30）
◆伊藤道場／東京・新木場1st RING（12:00）
◆アイスリボン／東京・BumB東京スポーツ文化館マルチスタジオ（19:30）
◆レッスルマニア23／米国・ミシガン州デトロイト
◆JPW／東京・足立区道場（13:00）
◆ZST／東京・大森ゴールドジム（16:30）

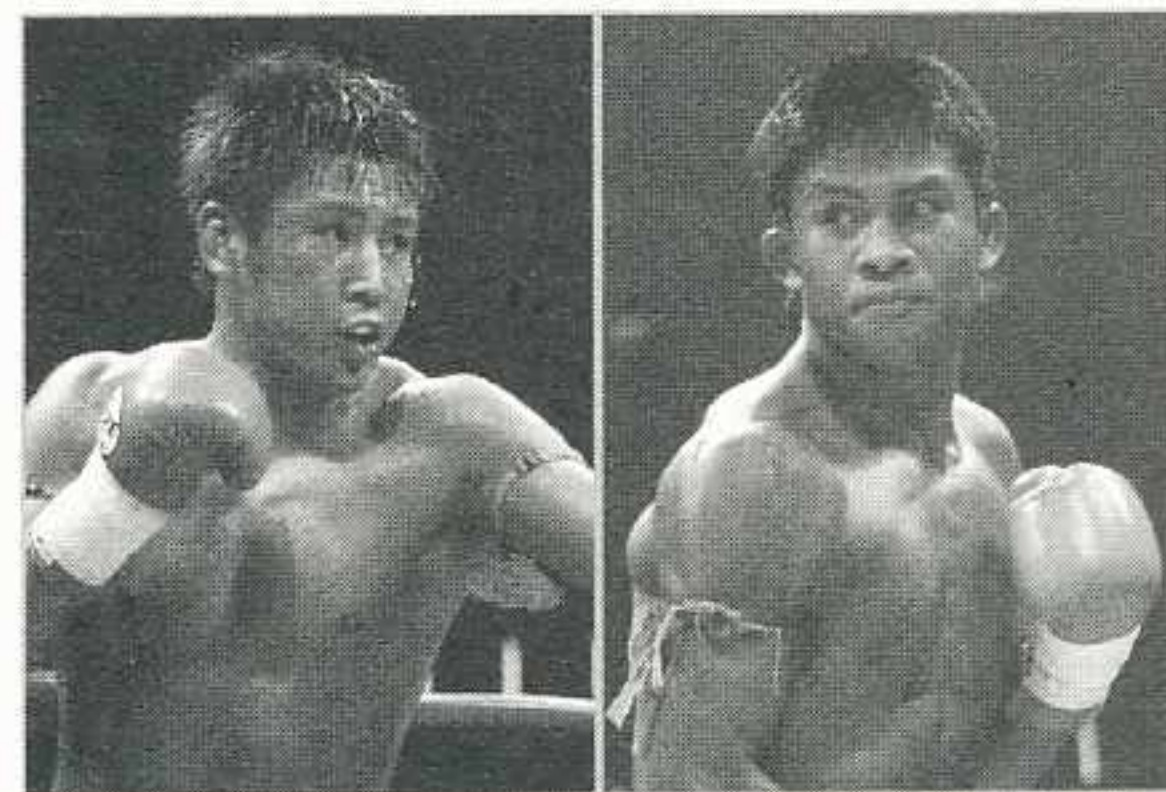
2 MON.

◆NEO／秋田・秋田市立茨島体育館（18:30）

3 TUE.

◆NOAH／神奈川・横浜レンガ倉庫（18:30）
◆北都／北海道・アートスペース外輪船（18:30）
◆無我ワールド・プロレスリング／秋田・大館市民体育館（19:00）

4. WED.

2007年魔裟斗が始動! 前年の王者
ブアカーオはアンディ・オロゴンと対戦!

『K-1 WORLD MAX 2007～世界最終選抜～』
神奈川・横浜アリーナ（18:00）

決定対戦カード
魔裟斗 vs オーレ・ローセン
ブアカーオ・ポー.プラムック vs アンディ・オロゴン
アンディ・サワー vs 佐藤嘉洋
マイク・ザンビディス vs 武田幸三　ほか

チケット情報
SRS＝23,000円、S＝13,000円、
魔裟斗応援シート＝13,000円、A＝6,000円
◎問＝FEG 03-3796-5060

◆NOAH ／東京・ディファ有明（19:00）
◆無我ワールド・プロレスリング／青森・青森産業会館（19:00）

5 THU.

◆UFCファイトナイト／米国・ネバダ州ラスベガス
◆DRAGON GATE／静岡・キラメッセぬまづ（18:30）
◆SUN／東京・新木場1st RING（19:30）

6 FRI.

◆NOAH／香川・高松市総合体育館（18:30）
◆DRAGON GATE／栃木・栃木県総合文化センターサブアリーナ（18:30）
◆格闘美／東京・新木場1st RING（19:00）
◆アイスリボン／東京・市谷アイスボックス（19:30）

7 SAT.

◆UFC69／米国・テキサス州ヒューストン、トヨタセンター
◆新日本／埼玉・久喜市総合体育館（18:00）
◆NOAH／兵庫・神戸サンボーホール（18:00）
◆ZERO1・MAX／東京・靖国神社相撲場（17:00）
◆DRAGON GATE／新潟・新潟フェイズ（18:30）
◆無我ワールド・プロレスリング／静岡・静岡マリンビル（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆華☆激／福岡・さざんぴあ博多多目的ホール（18:30）
◆ガッツワールド／東京・新木場1st RING（18:00）
◆NEO／大阪・アゼリア大正（18:00）
◆仙台女子／宮城・Zepp Sendai（19:00）

8 SUN.

◆PRIDE／埼玉・さいたまスーパーアリーナ（16:00）
◆新日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆NOAH／岡山・岡山卸センター展示場・オレンジホール（17:00）
◆DRAGON GATE／富山・イベントプラザ富山（16:00）
◆大日本／石川・金沢流通会館（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆K-DOJO／東京・後楽園ホール（12:00）
◆JWP／東京・板橋グリーンホール（13:00 &17:00）
◆仙台女子／宮城・Zepp Sendai（15:00）
◆パンクラス／沖縄・沖縄テルヤホール（17:00）
◆M-1／東京・大森ゴールドジム（15:00）

9 MON.

◆新日本／千葉・流山市総合体育館（19:00）
◆DRAGON GATE／兵庫・SITE KOBE（19:00）
◆大日本／富山・高岡テクノドーム（18:30）

10 TUE.

◆NOAH／鳥取・米子コンベンションセンタービッグシップ（18:30）
◆DRAGON GATE／兵庫・DRAGON GATEアリーナ（19:30）

◆DRAGON GATE／愛知・刈谷あいおいホール（18:00）
◆みちのく／東京・新宿FACE（19:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆NEO／福島・ビッグパレットふくしま（18:00）
◆修斗／大阪・アゼリア大正（14:00）
◆バトラーツ／埼玉・越谷スフィア（18:30）

22 SUN.

◆新日本／北海道・札幌テイセンホール（17:00）
◆全日本／東京・後楽園ホール（12:00）
◆ZERO1・MAX／岡山・倉敷山陽ハイツ体育館（18:00）
◆DRAGON GATE／岡山・岡山卸センターオレンジホール（17:00）
◆大阪プロ／大阪・IMPホール（18:00）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00&16:00）
◆格闘美／東京・新木場1st RING（13:00）
◆TITANS NEOS／東京・後楽園ホール

23 MON.

◆NOAH／富山・富山産業展示館テクノホール（18:00）

24 TUE.

◆新日本／岩手・釜石市市民体育館（18:30）
◆全日本／愛知・豊橋市体育館（18:30）
◆NOAH／新潟・新潟市体育館（18:30）

25 WED.

◆NEO／千葉・香取市民体育館（18:30）

26 THU.

◆全日本／広島・福山産業交流館ビッグローズ（18:30）

27 FRI.

◆全日本／京都・福知山市三段池総合体育館（18:30）
◆ユニオン／神奈川・横浜赤レンガ倉庫（19:00）
◆JWP／山口・海峡メッセ下関（18:30）
◆アイスリボン／東京・市谷アイスボックス（19:30）
◆パンクラス／東京・後楽園ホール（19:00）

28 SAT.

◆全日本／京都・京都武道センター（18:00）
◆NOAH／東京・日本武道館（18:00）
◆EL Dorado／神奈川・横浜赤レンガ倉庫（18:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆アイスリボン／神奈川・横浜赤レンガ倉庫（13:00）
◆K-1／米国・ハワイ、ブレイズデイルセンター

29 SUN.

◆DRAGON GATE ／兵庫・明石産業交流会館（17:00）
◆大日本／神奈川・横浜赤レンガ倉庫（18:00）
◆DDT／大阪・アゼリア大正（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（未定）
◆NEO／神奈川・横浜赤レンガ倉庫（13:00）

30 MON.

◆全日本／愛知・愛知県体育館（16:00）
◆ZERO1・MAX／宮城・仙台市若林体育館（18:00）
◆DRAGON GATE／広島・広島グリーンアリーナ（18:00）
◆大日本／東京・後楽園ホール（19:00）
◆DDT／愛知・刈谷あいおいホール（14:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ （14:00）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（未定）
◆イーグル／栃木・小山市文化センター小ホール（13:00）
◆NEO／神奈川・NEO道場（14:00）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

◆DRAGON GATE／岐阜・岐阜商工会議所大ホール（18:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆IWA／埼玉・川口オート（18:30）
◆WFM／東京・新木場1st RING（19:00）
◆NEO／東京・板橋グリーンホール（18:00）

15 SUN.

◆NOAH／福岡・博多スターレーン（17:00）
◆DRAGON GATE／三重・四日市オーストラリア記念館（16:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00&16:00）
◆アパッチプロレス軍／東京・新木場1st RING（18:00）
◆JPW／東京・後楽園ホール（12:00）
◆LLPW／埼玉・LLPW道場（14:00）
◆ADCC・日本最終予選／東京・北沢タウンホール
◆全日本キック／東京・後楽園ホール（18:30）

16 MON.

◆NOAH／熊本・熊本興南会館（18:30）
◆DRAGON GATE／神奈川・横浜赤レンガ倉庫（18:30）

17 TUE.

◆新日本／青森・青森産業会館（18:30）
◆NOAH／鹿児島・鹿児島アリーナ（18:30）
◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール（18:30）

18 WED.

◆DOG／東京・新宿FACE（19:00）

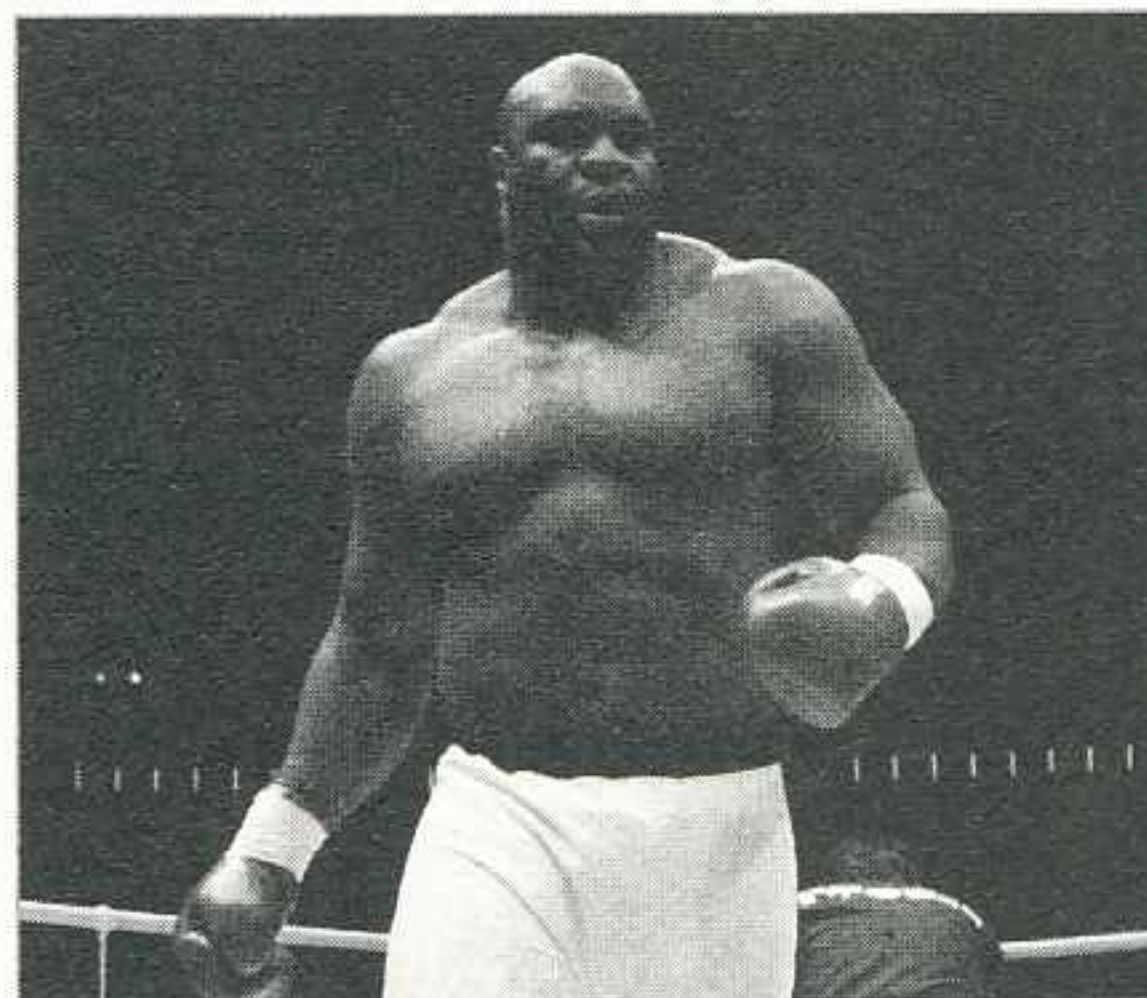
19 THU.

◆ハッスル／東京・後楽園ホール（19:00）
◆新日本／北海道・旭川地場産業振興センター（18:30）
◆ソウルコネクション／東京・新宿FACE（19:00）

20 FRI.

◆新日本／北海道・浜頓別多目的アリーナ（18:30）
◆NOAH／愛知・Zepp Nagoya（18:30）
◆DDT／東京・新木場1st RING（19:30）
◆アイスリボン／東京・市谷アイスボックス（19:30）
◆IWA／福島・いわき平青年会議所（18:30）

21 SAT.

噂のボブ・サップがひさびさのリング登場
今回はちゃんと試合をするのか!?　要注目!

『Cage Rage CHAMPIONSHIPS ～JUDGEMENT DAY～』
英国・ロンドン・ウェンブリーアリーナ

出場予定選手
ボブ・サップ　ほか

決定対戦カード
松井大二郎 vs マーク・ウィアー
ムリーロ・ニンジャ vs アレックス・レイド　ほか

◆UFC70／英国・マンチェスター、MENアリーナ
◆ハッスル／大阪・大阪府立体育館（17:00）
◆NOAH／石川・石川県産業展示館2号館（18:00）

11 WED.

◆DDT／東京・新木場1st RING（19:30）
◆無我ワールド・プロレスリング／東京・後楽園ホール（18:30）

12 THU.

◆新日本／三重・四日市市体育館（18:30）
◆NOAH／鳥取・県立倉吉体育文化会館（18:30）
◆R.I.S.E.／東京・後楽園ホール（18:30）

13 FRI.

桜井隆多、渡辺久江、滑川康仁らDEEPファイター勢揃い!　今回も大爆発必至!?

『DEEP 29 IMPACT』
東京・後楽園ホール（18:30）

決定対戦カード
滑川康仁 vs 桜木裕司
Barbaro44 vs 雷暗暴
クリスチアーノ上西 vs 戦闘竜
小見川道大 vs 松下直揮
村田龍一 vs キム・デウォン　ほか

出場予定選手
桜井隆多、渡辺久江　ほか

チケット情報
VIP＝15,000円、SRS＝10,000円、A＝8,000円、B＝6,000円、C＝5,000円　※当日500円up
◎問＝DEEP 052-339-0303

◆新日本／大阪・大阪府立第1体育館 （18:30）
◆大日本／神奈川・横浜にぎわい座（19:00）
◆El Dorado／東京・新宿FACE（19:00）
◆アイスリボン／東京・市谷アイスボックス（19:30）

14 SAT.

ついに、皇帝ヒョードルがボードッグ参戦!
マット・リンドランド戦で何かが起こる!?

『BodogFight "Clash of the Nations"』
ロシア・サンクトペテルブルグ・ICEパレス

決定対戦カード
エメリヤーエンコ・ヒョードル vs マット・リンドランド
エメリヤーエンコ・アレキサンダー vs エリック・ペレ　ほか

◆新日本／三重・阿児アリーナ（18:00）
◆NOAH／広島・広島グリーンアリーナ（18:00）
◆ZERO1・MAX／千葉・君津アクアマリンスタジオ（15:00）

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5610-2609
〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-6-11第2赤木ビル303
http://www.apache-pro.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■我闘姑娘
045-313-3922
〒222-0073 神奈川県横浜市中区岡野1-13-5 横浜西口サンエースビル7階ネオプラス内
http://www.gtkn.com/

■キングダム・エルガイツ
042-376-1639
〒206-8585 東京都多摩市関戸4-8-18 TOHO聖蹟桜ヶ丘ビル
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■健介オフィス
048-982-0960
〒342-0041 埼玉県吉川市保1-4-12

■新日本プロレス
03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏真陰流 興義館
050-3599-7872
〒113-0033 東京都文京区本郷3-6-13 太平ビル2F
http://homepage2.nifty.com/seikendo/

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■高田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■ドリームステージエンターテインメント
03-5464-1531（PRIDE）
03-5464-1731（ハッスル）
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.prideofficial.com
http://www.hustlehustle.com

■日本修斗協会
03-5984-3209
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101
http://www.alles.or.jp/~shooto/

■バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリングSUN
ZERO1-MAXと同じ

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■無我ワールド・プロレスリング
03-3402-2474
〒107-0062 東京都港区南青山4-2-4 シャトー青山第3-204号室
http://www.muga-world.jp/

■ユニオンプロレス
042-724-9242
〒194-0022 東京都町田市森野6-319マルイシコーポ202
http://union.ne07.jp

■DDT
03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com/battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/ feg/

■GIRLS DOOR
0462-63-2323
〒242-0029 神奈川県大和市上草柳94-3コンフォート緑野104
株式会社EWF

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JDスター 03-5524-2339
〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-7-5メゾン文京関口204

■MARS
03-3368-3355
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-18-10 太陽堂ビル5F
http://www.mars-k.com

■NEO
044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■UFO
0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

Event

好評につき、早くも第2弾！

講義&実践でよくわかる！『TK式格闘学会』開催！

MMAの技術がまるわかり！“世界のTK”こと高阪剛が国内外の格闘大会を徹底解説する『TK式格闘学会』の第2回が開催！ TKが試合映像をもとに講義する1部と、技術を実際に体験する2部の構成。今回の議題は、『UFC69』のジョルジュ・サンピエールvsマット・セラなど。申し込みはTKのジムの、『A-SQUARE』への電話かFAX、メールにて！

★日時／4月15日（日） ★会場／『A-SQUARE』本部
★1部／15:00〜16:30 2部／16:45〜18:00
★問／『A-SQUARE』 03-3401-6212

Event

大会前日から燃え上がれ！

『PRIDE.34』前夜祭が都内シネコンで開催！

前夜祭から「鳥肌立った！」。『PRIDE』10周年イヤーの国内初興行として行なわれる4.8『PRIDE.34』開催を記念して、大会前日の7日に『PRIDE.34前夜祭』を開催！ 会場は『PRIDE』のパブリックビューイング会場として知られる新名所、シネコンの新宿バルト9。当日はPRIDE選手と関係者のトークショー、そして前回の『PRIDE.33』ラスベガス大会の上映会もあるから、前大会を見逃した人も必見だ！

★日時／4月7日（土）／19:30（開始） ★会場／新宿バルト9
★問／DSE 03-5464-1531

Fight

プロレス界の“レジェンド”も登場か!?

ユークスが銀座にてプロレス興行を主催！

新日本プロレスの親会社でもある株式会社ユークスが初の主催興行を開催！ 谷口行規ユークス社長は5月8日に『レッスルキングダム IN GINZA』という主催興行を銀座にて開催することを発表。大会には新日本プロレスが全面協力する。5月10日には同社よりPS2用ソフト『レッスルキングダム2 プロレスリング世界大戦』も販売されるが、こちらはプロレス界伝説のスーパースターが総登場！ ゲーム同様にレジェンド降臨なるか？

★日時／5月8日（火）時間未定 ★会場／銀座ADK松竹スクエアビル
★問／ユークス 045-451-5217

Fight

GPWAが帰ってきた！

『第3回ディファカップ』GWはプロレス三昧！

昨年発足した、GPWA（グローバル・レスリング連盟）が再始動！ 5月5日、6日にディファ有明にて団体の垣根を越えたジュニアタッグ選手権『第3回ディファカップ』を開催。出場選手は現在、GPWA加盟団体や選手を中心に選考中とのこと。またGPWAはこの両日を『ディファ・フェスタ2007』として、夜の『ディファカップ』を含めて同所で一日になんと3興行を開催！ 黄金週間はプロレス三昧だ！

★日時／5月5日（土）、6日（日）／19:00開始（両日とも） ★会場／東京・ディファ有明
★問／GPWA事務局（株式会社F.O.S.内） 03-5730-3966

Fight

禁断の追加公演がまたもや実現！

話題沸騰の『マッスル』初の地方大会を開催！

一般誌への露出などで注目を集める『マッスル』。5月4日の後楽園大会はすでにチケットが完売状態だが、その翌日には、昨年に続いて、またもや“追加公演”の開催が決定！ しかも会場は愛知・Zepp Nagoya。つまりこれが『マッスル』初の地方進出となる。なお、今回は前回の追加公演のように完全な同内容ではなく、「やや違うかたちになる」とのこと。マッスル・マニアは名古屋に集結だ！

★日時／5月5日（土・祝）／13:30開始 ★愛知・Zepp Nagoya
★問／Sportiva 052-238-7787

Dvd

これぞ最終版にして決定版！

試合映像なんと780分！国際プロレスDVD発売

オールドファン垂涎！ テレビ東京で放映されていた、伝説の国際プロレスの中後期がなんと、5枚組の豪華DVD BOXで完全復活！ 1974年5月から、団体が崩壊する1981年までを中心に、ラッシャー木村の金網デスマッチから、ジプシージョーの勇姿まで。780分におよぶ貴重な試合映像と120分の歴史の証言者のコメントも収録。まさに最終版にして決定版な大ボリュームを堪能しよう！

★『不滅の国際プロレス DVD BOX』（ポニーキャニオン）
19,950円（税込）全5枚組

Book

猪木の伝説の4試合……

あの“真相”がいま明らかに！『1976年のアントニオ猪木』

格闘技とプロレスのターニングポイント的な意味を持つ年……それが1976年。この年にアントニオ猪木が行なった4つの歴史的な試合（2月のウィリエム・ルスカ戦、6月のモハメド・アリ戦、10月のパク・ソンナン戦、12月のアクラム・ペールワン戦）に焦点を絞り、筆者が当時の関係者を世界中に訪ね歩いて徹底取材！ 猪木が展開した世界観をいまだからこそ探求する、至極の一冊だ。

※『1976年のアントニオ猪木』柳澤 健（文藝春秋）1,890円（税込）

Book

本誌・ジャン斉藤の師匠!!

“雀鬼”こと桜井章一が究極の生き方本を出版！

あのヒクソン・グレイシーとの交流でも知られる、裏麻雀界20年間無敗のリビング・レジェンド。“雀鬼”こと桜井章一が究極の生き方本を出版！ 会社や学校や家庭で悩み・苦しむ現代人へのメッセージを送るため、心と行動と生き方のバランスをわかりやすい言葉で説いた一冊が登場！ 読んだ瞬間に幸せになれる、69のヒントが満載だ。

※『シーソーの「真ん中」に立つ方法』桜井章一（竹書房）1,260円（税込）

KAMIPRO COLUMN

春一番!! 紙マスク代理がついに登場! 時代は“紙”から“仮”だって!?

イラスト◎師岡とおる

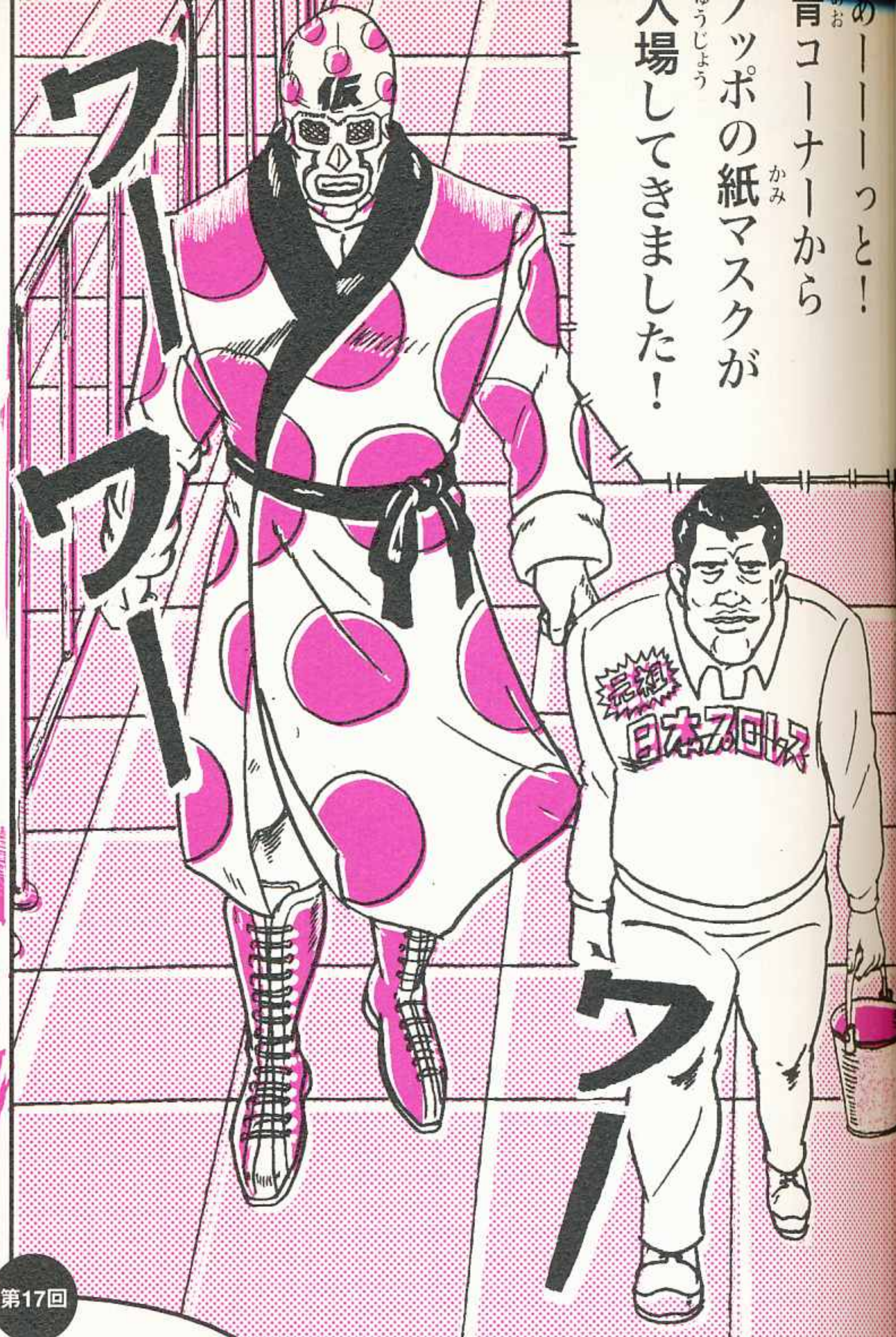
第17回

VOTE FOR ROCKY&菊田

花くまゆうさく
リングの汁

菊田選手が「（映画）『ナポレオン・ダイナマイト』好き」っていうエピソードは嬉しいよね。好印象だ。

ヌルヌルのときに、素早く声明文出したのもよかったし、菊田株急上昇でしょう。（すでに持っているかもしれませんが、アメリカで売ってる『ナポレオン・ダイナマイト』2枚組DVDはメイキングやテレビ出演シーンなど、日本版じゃ観れないお宝映像たくさん収録してますよ、菊田さん！）。

こないだ村田（卓実）くんと、ゆうばり応援映画祭行ってきたんだけど、読売新聞一面の写真に二人とも偶然、写っていてビックリした。村田くんなんかセンタード真ん中（俗にいうイズマイウ・ポジション）に写ってたもんね。そんな夕張で観た『ロッキー・ザ・ファイナル』に、涙うるませた。中学校時代、『ロッキー』と『ロッキー2』にのめり込み、サントラを聴きまくったあの頃がよみがえる。

『ロッキー3』の情報が雑誌『スクリーン』や『ロードショー』に載ると興奮！だって、ホーガンと闘ってるんだもん。当時はまだいたいけなプロレスファンで異種格闘技戦をマジだとみんな信じていた。「次のロッキーは、ホーガンと異種格闘技戦だってよ！」と、中学男子は目を輝かせしていた。

しかし実際観に行くと、ロッキーvsホーガンはメインでなく前半にすぐ実現し、それもエキシビションで取り決めがあったりと、いたいけな僕らを複雑な気持ちにさせてくれました。

そんな中学時代を思い出しキュンとしながら、『ロッキー・ザ・ファイナル』前半を観てると、隣の村田くんはイビキをかいて爆睡してる。やっぱ世代が違うと思い入れが違うようだ。後半、村田くんが起きたころロッキーの試合です。あいかわらず、普通ならとっくにKOだよね的なリアリティのまったくない試合シーンなのだが見入ってしまうし、試合終了後には涙腺爆発しそうになってしまった。やっぱいいね、ロッキーは。ひさしぶりに1と2を観たくなったし、いまだに『ロッキー5』観ていないことをスタローンに謝ろうと思いました。

ちなみに『ロッキー・ザ・ファイナル』で、ロッキーはケトルベルやタイヤにハンマー叩きと、ロシア式トレーニング導入していましたよ。ヒットマン足立さんの「ロシアンパワー要請法」がきっかけで、ケトルベルブームがじわじわキテるのかしら？

Hanakuma Yusaku
◎【2月のMVP】はニック・ディアス&青木。【今月の注目試合】ウィッキーvs門脇戦

リング上からプライベートまで!
"なんでもあり"の質問コーナー

所英男の トコロ天国

本コーナーは、読者が抱くさまざまなお悩み、質問に、所選手がすべて答えてくれるという天国のようなコーナーです（こじつけ）。

――さあ、所さん！　今回も『トコロ天国』の時間がやってまいりました。試合前（3・12『HERO'S』安廣一哉戦）の大変な時期に恐縮ですが、どうぞよろしくお願いします！

所　よろしくお願いします！

――（質問が書かれた紙を広げながら）では、さっそく始めさせていただきたいと思います！　まずは……。

所　（紙をのぞき込みながら）……でも、これって本当に読者から届いてる質問なんですかね？

――な、なんてこと言うんですか！　いきなり!!　もちろん、ちゃんと届いてますよ。

所　へえ～。まっ、僕が言うのもおかしいですけど、僕に人生相談する人っていうのはちょっと考えがおかしいんじゃないかと思うんですよね（真顔で）。

上原ZST広報　ヒャッヒャッヒャ！（と、遠くのほうで大笑い）。

所　ほら。上原さんも爆笑してますし。

――う～ん（苦笑）。ま、その問題はあとにして、試合前の貴重なお時間なので、さっそく第1問いきます！

コマーシャルの質問

埼玉県・山田茜さん・OL・21歳
先日、所さんが資生堂unoのコマーシャルに出演されているのを見ました！　ちょっと恥ずかしそうにしている所さんに思わず笑ってしまったのですが、撮影の感想を一言お願いします！
（CMの映像はコチラ→http://www.shiseido.co.jp/uno/）

長州力、チェ・ホンマンらと"2段ギメ"をバシッとキメた所英男。その撮影現場はいったいいかなる状況だったのか。

――私もコマーシャルを拝見させていただきましたけど、確かに所さんだけ非常にモジモジしてましたよね（笑）。

所　いやあ、僕、向いてないですよね。ああいうテレビ的なのは（苦笑）。

――当初、撮影スタッフの方からはどんなふうな画が撮りたいと言われてたんですか？

所　それがですね、な～んにもないから逆に困ったんですよ。

――なんにもない!?　つまり、自由に動き回ってくれ、と。

所　はい。だから僕、ずーっとリングの上で前転、後転、前転、後転……って感じでゴロゴロゴロゴロ動き回ってたんですけど……。実際のコマーシャルで使われてなかったということは、まったくダメだったということですよね。

――ワハハハハ！　残念ながら、それじゃ肝心の"2段ギメ"したヘアスタイルが映りにくいですからねえ。

所　けっこうゴロゴロやったんですけどねえ。だから、チェ・ホンマンなんかが踊ってるのを見たら「凄いなあ」って尊敬しちゃいます。

――チェ・ホンマンは凄いですか（笑）。ちなみに、撮影はどなたかと一緒だったりしたんですか？

所　いや、基本的に時間をずらしてスケジューリングされてたんで、選手とは誰とも一緒にならなかったですけど……、あっ！　でも、品川庄司さんと現場でお会いしましたね。すっごいいい身体してました。

――確かに。とくに庄司さんはいい身体だって話ですよね。

所　だから、コマーシャルとかってああいう方たちがいる世界なんだなって。ま、いい思い出にはなると思います。

――いい思い出って（笑）。まだ現在進行形の話じゃないですか、まったく。

人生に関する質問

長崎県・井田鉄也さん・中学生・15歳
初めまして！　僕はこの春、中学校を卒業します。なので、もうすぐ卒業式を迎えることになっているのですが、一つ心配なことが……。それは、僕の第2ボタンをもらってくれる女子がいるのかどうかということです！　僕の友だちにはボタンの予約まで入ってるヤツもいるんです！　そういう情報を聞くと、僕はますます心配になります。所さんはこんな気持ちを経験したことありますか？

――ということで、"世界の所さん"には、ある種、無関係とも思えるお悩みが届いていますが。いかがでしょうか。

所　僕は中学時代、ちゃんと付き合っていた人がいましたんで、第2ボタンは彼女に渡しましたけどね（得意げに）。

――ほう（笑）。つまり、この方のお悩みはよくわからないというわけですか。

上原　その中学校、男が4人とかだったんじゃないの？

所　ちゃんと、（男女）半々ですよ！　ま、でも高校のときはそういう幸せな思い出はなんにもなかったですけどね。卒業してすぐに自動車学校に行きましたんで、一人寂しく運転してました。

――そうでしたか。……あっ、全然話は変わりますが、自動車学校といえば、所さん、車を購入されたんでしたよね。

所　あ、そうです、そうです。今日も乗ってきてますよ。すぐそこに停めてありますし。

――へえ～。ずいぶん奮発されたんですか？

所　でも、いろんなツテを使ってけっこう安く手に入ったんで。頑張ってれば人生いいこともあるんだなって思いましたけど。

――ワハハハ！　でも、いまは練習が忙しくて乗るヒマもないんじゃないですか？

所　だから、ジムと家を行ったり来たりしてますよ。最近は練習仲間を送ってあげるのが楽しいんですよね。

――えっ？　所さん自ら!?

所　"足"ですよね、はっきり言って！（満面の笑みで）。

――そこは喜ぶところじゃありません（笑）。

交友関係の質問

東京都・篠崎仁さん・高校・17歳
所さん、はじめまして！　僕は格闘技だけを生きがいとする高校生です。僕は、とある雑誌に掲載された秋山成勲選手のインタビューで、秋山選手が「所さんの電話番号を知っている」と言っていたのを発見しました。もしかして、所選手と秋山選手は交友があったりするのでしょうか？　教えてください!!

秋山成勲と交友があると噂の所英男。その真相を突きとめるべく、ズバリ直球を投げてみたのだが、話はあらぬ方向に……!!

所　僕も電話番号知ってますよ。練習とか誘ってもらったこともありますし。

――へえ～。一番初めに電話番号を交換したときはどんな感じだったんですか？

所　たぶん、ゴールドジムでお会いしたときだと思うんですけど。

――なるほど。秋山さんといえば、今日発売の『FRIDAY』に出てましたよね（※3月2日発売の当誌には、秋山とトップモデルSHIHOとの熱愛が報じられていた）。

所　ちゃんと僕、見てないんですけど、有名な方ですか？

――SHIHOさんといえば、女性誌の『MORE』とか『BOAO』とかはほとんど表紙を飾ってますし、いまCMにもかなり登場されてるトップモデルじゃないですか！

上原　いやあ、先、越されちゃったねえ、所選手は（笑）。

所　僕はもうダメですよ。……それに、僕としてはモデルより夏目ナナさんのほうが興味ありますね！　あっ!!　でも、最近は東城えみさんのほうがもっと興味がありますよ!!（声を張り上げて）。

――ワハハハ！　なんでそこだけ張りきるんですか（笑）。で、所さんは東城えみさんの作品は何本かお持ちなんでしょうか？

所　ご想像におまかせします（笑）。

――そうですか……。もはや、まったく秋山選手の話ではなくなってきましたけども。

所　いやいや！　僕にとっては、ある意味、夏目ナナさんや東城えみさんはモデルですから!!

――そう言われても、困ります！

Hideo Tokoro◎ところひでお【所英男オフィシャルブログ】http://blog.livedoor.jp/zst_tokoro/

※所選手に解決してほしいお悩みや質問は〒151-0051　東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F「kamipro編集部　トコロ天国」係まで

金ちゃんのどこまでやるの？

●第13回● グッド&バッドニュースの巻

イラスト◎中川画伯

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

いや〜、前田（日明）さんがついに結婚したねぇ！

格闘王が48歳にして結婚だからね。ファンも関係者もみんな驚いたんじゃないかな。でも、じつは俺は前田さんと共通の知人から聞いてて、早い段階から知ってたんだよ。だから、ここんところ、いろんな人にしゃべりたくてしょうがなかったよ(笑)。

でさ、俺はその話を聞いたあと、いち早く前田さんに電話をかけて「結婚おめでとうございます！」って言ったから、「誰から聞いたんや！」って前田さんも驚いてたよ。それで「○○さんに聞いたんですよ」って言ったら「おお、そうか。ホンマやホンマ。じつは5月に子どもも生まれるんや」って言ってね。格闘王が48歳にしてダブルオメデタだから凄いよね（笑）。

そのとき、いろいろ話したんだけど、前田さんは自分が48歳まで結婚しなかったことは棚にあげて「お前も早よ子ども作れ！」とか急に言いだしてね。しまいには「お前、やることやっとんのか。まさかゴム着けとるんやないやろうな？」とか、余計なことまで言いだすから、さすが前田さんだよね（笑）。俺は「まだ子どもを作る余裕はありません」とか答えたんだけど。まぁ、前田さんの結婚式がどんな結婚式になるか、いまから楽しみだよね。

なんか、いま俺の周りは出産ラッシュなんだよね。前田さん以外にも高山（善廣）君も子ども生まれたし、TKも去年パパになったし。滑川（康仁）のところもそうだしね。なんか急に俺の周囲でベビーブームが起こってるんだよね。

人間、子どもができると変わるっていうから、みんながパパになってどう変わるか楽しみだよね。あの前田さんが「俺は子どもができて、優しくなった」とか言ってるらしいからさ（笑）。

こうやってめでたい話があるかと思えば、文字どおりバッドニュースもあったよね。先月に引き続き高山君から電話がかかってきてさ、なんだろうと思ったら「バッドニュース・アレンが亡くなりました」っていう報告だったんだよ。

なんかそれ聞いて寂しかったな〜。

アレンって一時期、Uインターに来てたでしょ。俺、忘れもしない武道館の第一試合で闘ったことがあるからね。高山君は2回闘ったことがあって、俺も高山君もアレンに負けてるんだよ。Uインターの若手の高い壁だったよね。

アレンってあの当時、年齢はかなりいってたけど、凄く威圧感あったよ。俺にとったら、子どもの頃にテレビで観た〝黒い猛牛〟バッドニュース・アレンが目の前に立ってるわけだからさ。身体も大きくて、蹴っても全然効かないような感じだったよね。

でも、アレンで一番驚いたのは、Uインターの道場で練習したあと、シャワーを浴びたアレンが素っ裸でウロウロしてるの見ちゃったときだったんだよ。も〜う、あれは凄かったね。下半身がまさに〝黒い猛牛〟なんだよ！（笑）。

俺もさ、現役生活が長いからアメリカ人とかロシア人とか、いろんな選手の下半身見てるけど、あんなデカいの初めて見たよ！　金原弘光36年の人生を振り返ってみても、アレンがナンバーワン。チャンピオンだね（笑）。

アレンって、あんなに怖そうなのに普段は紳士でさ、いろんな意味で、おっきい男でしたよ。

バッドニュース・アレン選手のご冥福をお祈りします！

なんか同世代の選手がみんなパパになったり、昔一緒に闘った選手が亡くなったり、時は確実に流れてるよね。でも、俺の心だけなんか止まってるな〜。ま、俺も過去を振り返らずに、未来に向かって頑張らないとね。

ささきぃの STAND BY ME second season

私の立ち技への旅はまだ終わらない

第11回 生まれ変わったら何になりたい？　ありがとう小林聡の巻

野良犬・小林聡が3月9日、全日本キック後楽園大会でついにファイナルマッチを行なった。

当初は引退セレモニーさえ考えていなかったという小林だったが、周囲の人間の「最後にもう一度、リング上で小林聡を見たい」という言葉に押されるかたちで、再びリングに上がった。藤原ジムの後輩、前田尚紀を相手に見せた、3分1ラウンドの真剣勝負。野良犬を見続けた者たちのために、最高のかたちで〝さようならの儀式〟を行なって、小林聡はリングを降りた。

「『生まれ変わっても、もう1回キックボクサーになりたい』って思っていたんだけど、いまではほかのことがやりたいって思うんですよ」

小林のそんな言葉を発見したのは、小林と親交の深いプロレスラーの一人、ZERO1・MAX日高郁人のブログだった。日高は「つまり、小林さんはキックボクサーを『やりきった』ってことですよね。それは、凄いことだと思うんですよ」と語る。

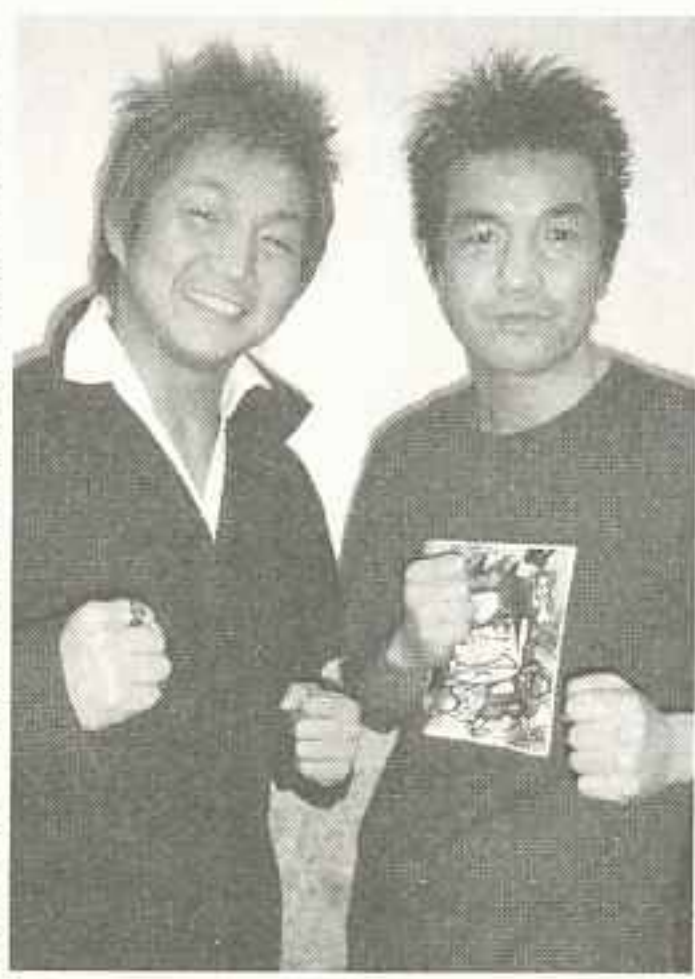
その言葉を見た数日後、たまたま「サムライTV」を観ていた私は「全女クラシックス」の長与千種引退試合で、非常によく似た言葉を聞いた。89年に引退を宣言した長与が、ファイナルマッチを終えてマイクを持ち、ファンに最後の挨拶を行なう。長与は「生まれ変わっても、もう1回プロレスラーになります！」と叫んだ。仰天した。私だけの偶然。

その発言をした長与は、ご存知のとおり93年に引退を撤回して復帰している。二人の言葉を聞いて、長与が戻ってきた理由がなんとなくわかった気がした。と同時に、小林聡はリングに戻ってこないのだ、ということを、勝手に思い知ってしまった。小林聡は自分の中の、キックボクサーとしてリングに立つための〝火種〟を、完全に使いきってしまったのだ、と。そして長与千種の場合は、どうしても、くすぶり続けるその火種を消すことができなかったのだろう。

日高との交流から、ZERO・1長野大会のリングに登場し、村浜武洋とエキシビションマッチを行なったりという活動もしてきた小林聡。

「キックボクサー小林聡と出会えたこと、関わりを持てたことを誇りに思う」と、リスペクトを強調しつつ日高は「小林さんの引退で心残りなのは、小林さんと小笠原和彦のエキシビションマッチをZERO・1のマットで組めなかったことです」と語る。

現役ムエタイ王者にKOで勝利したりと、一応、キックボクシング界の〝レジェンド〟でもあるはずの小林聡。だが日高曰く「そのカードをやりたいって言ってきたのは小林さんでしたからね。『小笠原和彦選手か、王拳聖とやりたい』って」。たいしたセルフプロデュース能力である。

キックボクサーであることに誰よりも誇りを持ちながら、プロレス少年の心を持ち合わせていた小林。私たちに試合で語らせ、生き様で語らせた数少ないキックボクサーの引退を惜しみながらも「ありがとう」と「お疲れさま」を言いたい。

3月9日、大会終了後の控室にて。日高の必殺技〝野良犬ハイキック〟は、野良犬・小林聡から受け継いだもの。決して高野拳磁ではない

※文中に登場する日高郁人ブログ「日高郁人の飛んで打って書くブログ」アドレスはhttp://blog.livedoor.jp/hidacatch/

COLUMN

せき詩郎のサムライ三昧

シロー

第12回

かませ犬発言の真実!?

言葉が足りなかったがため、または言いたいことを全部言えなかったために、物事が上手くいかなかった経験は誰にでもあるだろう。

この経験がやがて後悔に繋がる。「どうしてあの時、ああ言えなかったんだろう」と突然思い出し、一人で思わず大声をあげてしまうことも多々ある。後悔は年齢とともに蓄積されていき、大声を出す頻度も多くなっていく。

たとえば、とんかつを食べている時。その店はライスとキャベツのお代わりが自由だったとする。この場合、誰もが頭の中でシミュレーションすることだろう。まず、ライス1杯でとんかつを半分、キャベツは状況によって全て、もしくは半分食べる。ここでお代わりを申し出る。新たに盛られたライスでとんかつの残り半分を食べつつ、キャベツも平らげる。まるでひとつの数式のように「ごちそうさま」という答えが見事導かれる。恋の数式は苦手でも、とんかつならお手の物だ。

予定通りとんかつを半分残し、ライスを食べ終わる。ここで店員を呼び、思い描いていた台詞を言う。

「すいません、えっと、キャベツと……」

忙しそうな店員は「キャベツお代わりね」と話を最後まで聞かずに、ここで立ち去ってしまう。予定ではライスも貰うはずが、皿の上にはとんかつ半分と大量のキャベツという結果になる。キャベツでおかずを食べるという予期せぬ事態となる。

「ライスもください」

そう言えば済むことなのだが、忙しさでイラついている店員の雰囲気に言い出せなくなる。ここで気にせず言えるメンタルを持ち合わせていたなら何も問題はないのだが、あいにく私にはそれがない。結局言えずに「後悔」がまたひとつ増えることになる。

このように、言いたいことが言えなかったために大抵は不幸になることが多い。

だが、ごくわずかではあるがそうではないパターンもある。

テレビで整髪料のCMを見ていると長州力が出てきた。私たちの世代が知っている怖い長州はそこにはいなくて、随分丸くなったように感じる長州が髪をアレンジし、はにかんでいるような笑顔を見せていた。

長州といえば「俺はお前のかませ犬じゃない！」発言で一気にブレイクした。藤波に噛みつき、猪木に噛みつき、会社に噛みつき、いつしか体制に噛みついていた。その姿が〝革命児〟として絶大な人気を博すことになった。

ここで私は考える。「俺はお前のかませ犬じゃない！」のあとに本当はもっと言いたいことがあったとしたらどうなっていただろうかと。「キャベツ」に続く「ライス」の部分があったとしたならば……。

「俺はお前のかませ犬じゃない！　お前がかませ犬だ」

もしもこう続くはずだったとしたならばどうだろう。長州の噛みつき具合は増大するが、少々上から目線の印象を与え、なんだか嫌なヤツというイメージを与えかねない。これではその後の爆発的人気に繋がったかは疑問だ。

「俺はお前のかませ犬じゃない！　俺はお前の……友達だ」

この場合、嫌なヤツという印象は与えない。ただ藤波がただのわからず屋の乱暴者、あるいは自分をコントロールできないロボットのようになってしまう。「トモダチ……？　オレ、オマエノ、トモダチ……」と呟く藤波の姿が目に浮かぶ。

当時の藤波人気はこれまた凄いものがあった。この台詞だと「藤波をバカにするな！」とファンの反感を買うだけで、長州のレスラー人生は終わってしまったかもしれない。

「俺はお前のかませ犬じゃない！　でも、お前がどうしてもって言うんだったらかませ犬をやってあげても良くてよ」

一気に長州がツンデレとなる。ただツンデレが一般的に認知されたのはここ最近の話。当時のファンに理解されたかどうかはわからない。

「俺はお前のかませ犬じゃない！　たぶん違うと思う。違うんじゃないかな。まあ、ちょっと覚悟はしておけ」

さだまさしの『関白宣言』を彷彿させるこの台詞。悪くはないのだが、さだの時同様、誤解した女性団体からの抗議を受けかねない。

「俺はお前のかませ犬じゃない！　では、なんでしょうか？」

これだとただのクイズになってしまう。「では、なんでしょ～か？」と一部分を伸ばすだけで、よりクイズ色は強まる。

「俺はお前のかませ犬じゃない！　えっ？違う違う、かませ犬だよ、かませ犬。かませ犬だって！　か・ま・せ・い・ぬ！　もういいよ」

カツゼツが悪くて藤波が聞き取れなかった場合はこうなる。何度も何度も聞き返されれば最後にはイラついてしまうのは仕方ない。

「俺はお前のかませ犬じゃない！　違うな。俺はお前のかませ犬じゃねー！　う～ん、もっと力強くかな。俺はお前のかませ犬じゃないぞ！　こうかな？　俺はお前のかませ犬じゃないっちゅーの！　俺はお前の……、なんだ藤波、いたのか」

マイクアピールを練習している時にいつの間にかその場にいた藤波に聞かれてしまった場合。これは恥ずかしい。恥ずかしくて即刻廃業だったかもしれない。

「俺はお前のかませ犬じゃない！　クラスのみんなもそう言ってるぞ」

『長州君はかませ犬か、そうじゃないか』と、今度の学級会の議題は決定だ。

「俺はお前のかませ犬じゃない！　かませ犬なの？　はいはい、わかりましたよ。私はかませ犬で結構ですよ。それで良いでござんすか？」

も凄く腹の立つ長州になってしまう。

やはり「俺はお前のかませ犬じゃない！」で終わって正解だった。この続きを言っていたら、いまの長州はなかったことだろう。

言いたいことを言えなくても良い場合もある。その事実を胸に、私は今日もキャベツだけを頬張るのだ。

椎名基樹のサムライ二味

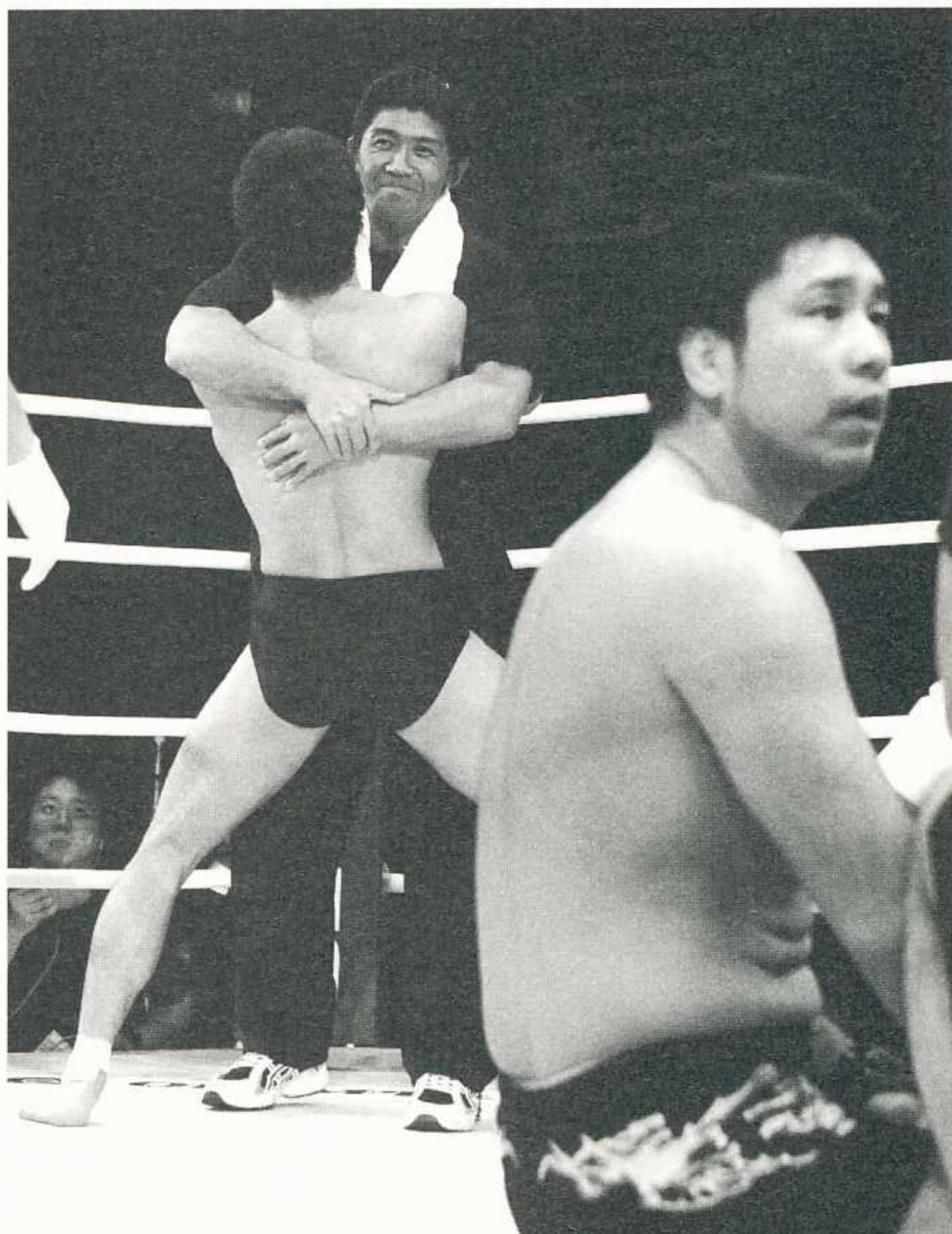
第12回

サックスとリコーダーと船木師匠

　私事でありますが、先日、渋谷道玄坂のYAMAHAの楽器店に、ふらりと立ち寄り、最近欲しくて仕方がない、ウクレレもしくはフォークギターを物色していました。しかし、楽器というのは高価なもの。しがない安ギャラライターの身、ろくに弾けもしない楽器に大金を払う勇気もなく、店内をうろついていると、リコーダーを見つけました。そうです。小学生の時、音楽の授業で吹いた縦笛ってやつです。価格が2500円。懐かしい、久々に吹いてみたい、しかも安い、さらに、ちゃんと音叉が重なる『YAMAHA』のマークも入っています。これはと思いさっそく購入。早く帰って近所の碑文谷公園で吹きまくるぞ～、と意気込み、店を後にしようとすると、なんとあの山本KID徳郁さんが、サックス（多分）を物色しているではありませんか。

　何よ、この差は！　かたやサックスを買う、国民的ヒーロー！　かたやリコーダーを買う、貧民的ライター！　神の不平等が頭にきたので、神の子だっつーこのアンちゃんに、後ろからオレの小学生以来の得意技である逆さ押さえ込みを、もしくは中学生時代に編み出したオリジナルホールド、エルトレオ・クローバー・ホールドをお見舞いしてやろうと思ったが、もちろんそんなことは怖くてできるはずもなく、忸怩たる思いで帰宅。悲しみを吹き飛ばすために、碑文谷公園の池に大挙飛来中の鴨に向かって、リコーダーで『ドナドナ』を吹いて聴かす、オレなのでした。

　すると、餌をもらえると思って、一斉にオレに向かって集合をかける鴨たち。愛い奴じゃ。たくさんの鴨に取り囲まれて、少し偉くなった錯覚に陥った、オレ様は、水面ぎりぎりまでせり出した、レオ様。YAMAHA楽器店で負った屈辱の心の傷が少しだけ軽くなるのを感じた時、とても大切なことに気付いたのです。こうして、水面をスイーと進んでいる鴨たちも、水面下では激しく一生懸命に足を漕いでいるのです。

　なろう、なろう、明日なろう、明日は檜の木になろう。檜になろうと夢見るあすなろの木のように、リコーダーもサックスになることを夢見ているかもしれません。いや、そう思って努力することが大切なのです。気を取り直したオレは、そう言えば小学生だか中学生の時、リコーダーで長州の『パワーホール』を吹いては、何がおかしいのか、ゲラゲラ笑っていたのを思い出し、ぴーひゃら、ぴーひゃら、音を探り探り、パワーホールを吹いたのです。するとやっぱ、なんだか知らないけど、おかしくって、一人でゲラゲラ笑い出すのを止めることができないのでした。ところで、いまの小学生や中学生のプロレスファンも長州の『パワーホール』を縦笛で吹いたりしてるのでしょうか？　情報あったらお寄せください。

　と、いうことで、今月の格闘技イベントといえば、件のKID選手が現在欠場中の『HERO'S』。なかなかの好試合の連続でありましたが、個人的に最も注目したのが、柴田勝頼選手vs山本宣久選手。経験からいってヤマヨシ勝利を予想していましたが、結果は柴田選手の秒殺KO勝利。余裕たっぷりのヤマヨシの、オラ、かかってこんかい的な左ミドルの返りっぱなに、パンチを入れられて一発KOとはヤマヨシらしいといえばヤマヨシらしい。しかし、試合でヤンキーが弱い子をシメるがごときの余裕たっぷりの蹴りはないよなあ。

　しかし、試合以上に気になったのが、柴田選手の師匠として、セコンドについた我らがマッドネス、船木誠勝。柴田選手が勝利後「ウオ～！」と吠えている時、「落ち着け、もう終わったから、もう終わったから」という声が、テレビ音声に入っていたけど、あれって船木師匠の声だよね？　柴田選手は確かに興奮していたけど、試合に勝利した後ならしごく妥当な反応であったし、「もう終わった」ことは全然わかっていると思うのだけれど、そんな妙な反応も、船木師匠らしいと楽しめました。

　この他、今月は『PRIDE』アメリカ大会もあり、あまりにおもしろい興行だったので、たっぷり語ろうと思っていましたが、なんだか本誌の増刊号も出ていたみたいなので、やめときます。ただ、ダン・ヘンダーソンが「『PRIDE』を見たら、ボクシングもUFCも見なくなると思うよ」と語っていたというが、まさにそんなクオリティーを見せつけた大会だと感じた。スポンサーの力が強すぎるのか、どれこれも面白くないソフトばかりの、我が国・日本。その中で『PRIDE』だけは純粋なエネルギーに満ちたエンターテインメントだと思います。アメリカで生き残って、地上波がなくなったことが逆に良かったとなったら、とってもいいなあと思います。

【P.S.】現在、ネット上の『GyaO（ギャオ）』で、僕が脚本を担当したアニメ『スーパーミルクチャン』を配信しています（ちょっと前の作品ですが）。アクセス数が多いと、新作を作れるらしいので、一度見てみてください。無料だし。よろしくです。

ヤマヨシを9秒で殴り倒すという衝撃の『HERO'S』デビューを飾った柴田。試合後は師匠の船木に飛びつき大喜び。谷川さんも「柴田選手を一番有名なプロレスラーにしてみせます」と豪語。ヤマヨシもガンバルンバ！
（撮影／乾晋也）

イナズマKの

ハードコアドージョー

第17回

新日本プロレス発、ハードコア行き!!
真壁刀義のデスマッチ道とは？

Inazuma K
◎世間はすっかり春……なのに日々、花粉と仕事に苦闘しています。

新日本プロレス所属なのになぜかデスマッチファイター！　なのが真壁刀義。『LOCK UP』やアパッチプロレス軍で猛威を奮う、そのホントのわけを本人に直撃した！

——真壁さん、我々は『kami-pro』という雑誌なんですけど、ご存知ですか？

真壁　ああ、知ってるよ。俺の友だちで〝そっち系〟が好きなヤツもけっこういるから。

——で、この連載はインディー系の選手を紹介し続けてるんですけど……それにしてもブ厚い身体ですねぇ！　やっぱりメジャーの選手は凄いなぁ。

真壁　ん？　そうでもないよ（と謙遜しつつ）。ただ、ベンチプレスでも200キロは挙げるし。それも俺らのスキルだから。

——現在、ハードコア路線をひた走ってますが、もともとデスマッチは好きでした？

真壁　いや興味なかった！（キッパリ）。

——興味ナシ！　最近はしょっちゅう有刺鉄線ボードに突っ込んだりしてますけど。

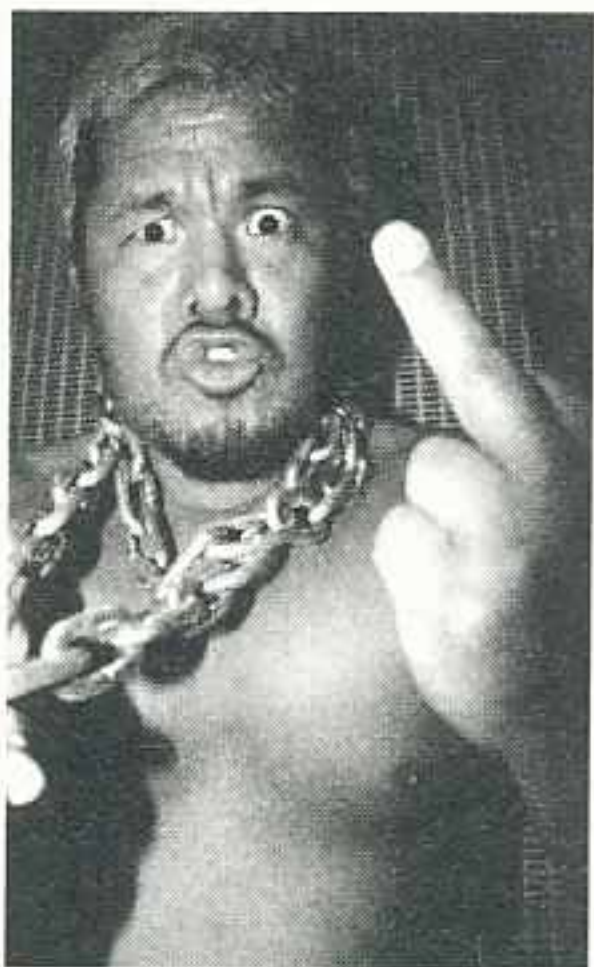
真壁　まぁ、有刺鉄線を怖がってブレーキをかけるレスラーと身体ごと突っ込むレスラーとどっちが観たいのか？　ってこと。

——ファンは突っ込む姿が観たいですよね。

真壁　ただデスマッチで大流血したりすると、深夜の3時、4時まで目が覚めて興奮して眠れねぇんだよ。だから気持ちを落ち着けるために……そこで女とヤルわけだ！

——デスマッチの火照りには、女性がベストですか（笑）。

真壁　ヤッて寝るのが一番だねぇ……デスマッチってそういう本能に直結した興奮があるよ。いまアパッチで大流血したりするのは、俺にとって〝非日常〟なんだろうな。

——アパッチに上がるようになるのは『LOCK UP』で金村キンタローに挑発された（金村の対戦相手を狙って乱入してきた真壁に「お前は呼んでねぇんだよ！」）のがきっかけですよね。

真壁　あれはムカついたねぇ！　ただ当時の俺は「このままじゃ、二流レスラーで終わるんじゃないか」って焦りもあったから、挑発に乗ったの。俺がアパッチに行ったのは、会社同士の話し合いとか、ストーリーとかじゃない。俺のシュートな動機だけだから。会社に話したら「えっ、マジでやるの？」って驚いてたよ（笑）。

——いずれは蛍光灯デスマッチも？

真壁　いや……蛍光灯までいくと、俺の考えるプロレスからはハミだしちゃう。アレは破片の一突きで人を殺せるじゃん？　俺がやったら殺人ショーになるよ！　実際にやってる人を批判するつもりはないけどさ。

——ごもっともです。あと、有刺鉄線の中で裸一貫で闘う真壁さんの姿は、デスマッチの原点を見てるようで新鮮ですよ！

真壁　フフフ。まぁ、俺みたいな身体したヤツがジーパンとかで身を守っても、仕方ねぇだろ？　でもこの前も有刺鉄線がケツにブッ刺さって「ウワ～！　こんなに簡単に刺さるんだ！」ってビビったよ（笑）。

——でも、ホントにハジけてますよね。

真壁　アパッチでは観客全員が敵だからさ、最前列の客にもツバを吐いたりするし、日本にいながら海外遠征みたいな状況だから。

——最後に将来やりたいデスマッチは？

真壁　自分の身体を痛めつけるのがオッケーなのは有刺鉄線だから、その上は……電流爆破？　それが最高峰なら、いずれはやらなきゃいけねぇよな。

——実際にやったら、二晩くらい眠れなそうで大変そうですけど（笑）。これからも頑張ってください！

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの

ぶっかけ！

格闘裏情報

第13回

私だけが知っている
ボブチャンチンの
アブダビ出場の理由

すでに耳にされた読者もいらっしゃると思いますが、あのイゴール・ボブチャンチンが〝寝技の祭典〟アブダビ・コンバットに出場することが決定しました。今年のアブダビは5月4日から3日間、アメリカ・ニュージャージー州で開催されます。2年に一度、団体、ジムの垣根を越えて各地区の予選を勝ち上がった者、前回の優秀選手や実力を認められた推薦選手たちが、寝技世界最強を決めるために集結します。

それにしても、打撃のスペシャリストであるボブチャンチンがどうしてアブダビに？　という驚き、疑問は尽きないと思います。なので、今回は、じつはボブチャンチンは寝技が大好きです！　とオバチャンチン調でコラムを進めさせていただきます。

そもそも、ボブチャンチンが住むウクライナは、格闘技が盛んな旧ソビエト連邦圏。だから、サンボ、レスリング、柔道など、寝技系格闘技の猛者がゴロゴロしており、寝技に触れる機会がないわけではありません。ボブチャンチンのチームにも、サンボ&柔道の先生が在籍していますし、サンボの世界チャンピオンも輩出しているのです。

これまで、ボブチャンチンと闘う相手は、その危険で凶暴な打撃を回避してグラウンドに持ち込もうとするため、どうしても寝技の対処法を身につけねばなりませんでした。実際、ボブチャンチンのグラウンド技術は、指導の甲斐もあってみるみるうちに向上。寝技で一本負けをした記憶はありません。かつてマリオ・スペーヒーの肩固めにタップアウトしたことがありますが、じつはあの試合の直前、……経由先のモスクワでの晩、ディスコで大人数の男たちとのお大立ち回り！　ビール瓶で頭をかち割られたのでした。結果はもちろんボブチャンチンのKO勝ちですが（笑）、テープを貼っただけで来日、試合直前に会場でドクターに13針も頭部を縫ってもらいました。そんな裏話もあって、出場したことすら奇跡的なのでした。

とにかく、ボブチャンチンは寝技の分野に引き寄せられていきました。周囲のアドバイスを聞かずに寝技で勝とうと、果敢にグラウンド勝負を挑んだものでした。

一昨年の『PRIDE』ミドル級GPの中村カズ戦もそう。打撃主体の作戦ではなく、なぜか寝技重視のスタイル。私は「頼むから、打撃で攻めてくれ！」と懇願するも、〝北の最終兵器〟は頑固です（笑）。

そういうわけで、寝技を磨いているうちに、試したくなったのでしょう。世界最高峰のグラップリングマッチに出場することになったのでした。

ボブチャンチンの出る階級は、98キロ以下級。あのホジャー・グレイシーがエントリーしているクラスです。組み合わせ次第では、まさかの対決が実現する可能性も高いでしょう。寝技の夢舞台にまた一つ、ありえない夢が放り込まれたということです！

掟ポルシェの萌え萌え女々苑

イラスト◎ゴローちゃん

誰に頼まれたわけでもないのにネクストレベルの萌えを開拓し続ける異様な連載『掟ポルシェの萌え萌え女々苑』。今回もメイド服＋ネコ耳がトレードマークという見た目がカオティックな格闘家・パンクラスの佐藤光留選手と偏った萌え談義！　すでに女々苑でもなんでもないが気にすんな！

掟　面と向かって言うのもなんですが、ゴツイ身体にメイド服が異様ですね！

光留　いまは〝佐藤光留〟っていう名前よりも〝メイド服のパンクラスの選手〟のほうが板についちゃってますからね。でも、メイド服着て公開練習したあとって試合でいい結果が出ないんですよ。

掟　メイドギミックなしのほうが好調？

光留　ないときのほうが調子いいんで……これからもドンドン着ていきます！

掟　エ〜ッ、逆じゃないんですか（笑）。

光留　なんか嫌いなんですよ、そういうゲンかつぎ。

掟　まあ、ゲンかつぎっていうのは本人のテンションが上がるとか、そういう問題だと思うんですよ。メイド服を着ることによって一応テンションは……。

光留　上がります。できれば、メイド服のまま試合したいんですよねぇ。

掟　パンクラス的にはNGですよね？

光留　パンクラスはスパッツに上半身裸じゃないとダメなんですよ。

掟　じゃあ、エバンゲリスタ・サイボーグのように上半身にメイド服の柄を描いたりとかすればいいんじゃないですかね？

光留　あ〜、刺青ならいいかもしれないですね（笑）。

掟　皮膚呼吸もできなくなって明らかに戦闘力下がりますけどね（笑）。

光留　ゴールドジムにも行けなくなりますし……。

掟　そういう問題ですか（笑）。

光留　マジックで身体に描いてイエローカードスタートで。そして廣戸先生に「消してこい！」ってキレられるでしょうね(笑)。

掟　ガハハハ！　そこでアドバンテージ取られてもいいぐらいの試合を見せられるのが理想ですよね。でも、そんなに好きなんですか、メイド服？

光留　女装が好きなんですよね。

掟　エッ、女装好き!?

光留　「探偵ファイル」っていうインターネットサイトのえりすさんっていう女の人に水着をもらったんですよ。使用済みの。

掟　はぁ……。

光留　それを着てオ●ニーする以外に、写真を撮って自分のブログにアップしないとダメだと思ったんですよ。

掟　変わった強迫観念ですね……。

光留　ただ、その写真が内外を問わず大批判を受けまして。二度と載せるなってことで、会社から誓約書的なものも書かされましたからね。見たいですか？

掟　いや、見たくないです。

光留　あった、これです（※携帯に保存してあるビキニ姿の写真を公開）

掟　うわ〜っ、最悪ですね！（苦笑）。しかし歪んでますねえ……。

光留　ボクは昔、女の子にまったくモテなかったんで……まあ、いまも変わってないですけど。世界中の女の人はボクのことを気持ち悪いって思ってるに違いないって思い込んでて。まだ、軽く病気にかかってるんですけど、満員電車に乗ると「コイツの横になるなんて人生の終わりだ」とか思われてるんじゃないかって。時間かかっても、空いてる各駅停車で帰ったりしますから。

掟　え〜!?　まあ、そんなに気にすることはないと思いますけどね。

光留　でも、かわいい女の子とか、いい匂いがする女の子とか大好きなんで。暇があれば渋谷のスクランブル交差点の人混みの中で、かわいい女の子のうしろで深呼吸してますから。混んでるから近くになっちゃうみたいな感じで（笑）。

掟　ガハハハ！　逮捕も間近ですね！

光留　ボクは渋谷の美容室に行ってるんですけど、そこの美容師さんにシャンプーされながら「佐藤さん、さっき女の人の匂い嗅いでませんでした？」って言われて。「あ〜、見られちゃいましたか」って（笑）。

掟　……ちょっと話題変えましょうか？　女子プロレスラーでは春日萌花さんがタイプなんですよね？

光留　はい。基本的には結婚したいです。

掟　あ、そうなんですか（笑）。

光留　だって、ボクの試合、呼んでもないのに来てくれたんですよ!?　12月の大会で普通に会場にいたんで「エッ、どうしたんですか？」って聞いたら「試合、観に来ました」って。

掟　その前に対談して接点はあったわけですよね？

光留　そうなんですけど、ボクは連絡先も電話番号も知らないですからね。だから、会場に行くしか会えないんで、我闘姑娘の1月の新木場、観に行きましたよ！

掟　ただのファンですね（笑）。

光留　でも、春日さんは、いま団体的にいろいろあるみたいで、しばらくブログの更新もしないと決めたとか書いてて、その悩めるところが最高です！　もう、ぜひ、春日さんとのあいだに子孫を残したい！

掟　ガハハハ！　悩める者同士（笑）。

光留　もう、試験管ベイビーでいいんで！

掟　佐藤さんのことが、正直怖くなってきました（笑）。

光留　去年の大晦日に女子プロのジュニアオールスターがあって、同時刻にさいたまスーパーアリーナで近藤（有己）さんが試合しようかというときに、ボクは後楽園ホールにいましたからね。

掟　仕事そっちのけで春日さんの応援に……。

光留　はい。ギリッギリ、近藤さんの入場のときに滑り込んで間に合ったんですけど。ボクが後楽園の記者席で顔がプリントされた春日萌花Tシャツを着てず〜っと見てたら、春日さんと一瞬目が合って。そのあと3度見ぐらいして「な、なんでそこにいるの!?」みたいな（笑）。

掟　Tシャツまで着て……必死ですね。

光留　その後、真琴選手と対談したときに「春日さんのストーカーってホントなんですか？」って言われて。「すいません、本当です」って（笑）。

掟　認めるんだ（笑）。春日さんの見てないところで、うしろから近づいて匂い嗅いだりしてないですよね？

光留　できたらやりたいですけどね（笑）。

掟　ガハハハ！　やっぱり逮捕です！

光留　でも、面が割れてるんで。

掟　そういう問題じゃないです！

第17回
佐藤光留
（パンクラスism）
の巻

さとう・ひかる■1980年7月8日、岡山県出身。本名・弘明（ひろあき）。美濃輪育久に憧れパンクラスに入団。最近はメイド服での公開練習がすっかりおなじみに。女子プロ好きが高じて、『モバイルゴング』では女子レスラーと対談する「光留の女子プロ☆パラダイス」なる連載を持ちビジュアル系レスラーを次々とドン引きさせていた。174cm、82kg。萌え話もてんこ盛り!? 佐藤光留ブログ「公!!光留塾」アドレスは http://city.dokyun.jp/DK.php?ci=65401

2・28後楽園大会を前に、なんと光留と掟のタイトルマッチが実現。掟勝利の場合は光留はもちろん、みのるも近藤も入場曲をロマンポルシェ。の曲に変更するというルールだったが…（詳細は各自調査）。

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）■Jポップ限定DJパーティ『申し訳ないと』で掟ポルシェDJツアー予定！　3・24（土）@三重・伊勢 club RHYTHM（0596-39-010）、3・30（金）@神戸Troop Cafe（078-321-3130）、4・7（土）@東京・三宿WEB（03-3422-1405）。いずれも深夜、DJのみでの出演です！　その他の出演情報＆詳細は掟ブログを参照！
[http://blog.excite.co.jp/porsche]

ファイター関係者がこだわりの選出！

"俺だけの"なんでもランキング

第3回

サムライ戦士・越中詩郎

『俺の愛したビートルズ、ベスト5』

俺だけの、俺だけによる、俺だけのためのランキング……このコーナーはジャンルにとらわれない、"俺流のこだわり"をファイターや関係者にうかがって、独自のベスト5を選出！ 第3回目のゲストは"越中詩郎芸人"で話題沸騰中！ の越中詩郎が登場！ そのビートルズ・フリークぶりの全貌がいよいよあきらかになる！

えっ？ この取材はビートルズの話中心なの？ いや〜嬉しいねぇ！ もう、なんでも聞いてくださいって！（笑）。まず、俺とビートルズの出会いは、中学のときだね。……忘れようもないけど、同級生に靴屋の吉田ってヤツがいてさ。二人でヒマを持て余していたとき、吉田から突然「レコード屋に行こう！」って誘われたんですよ。でも、それまで俺はビートルズはもちろん、レコードだって聞いたこともなかったの。

そのレコード屋で吉田が「いいみたいだよ？」って教えてくれたのが、ビートルズ。当時はレコードが1800円かな。中学生にとっちゃあ大金ですよ。それを聴きたいがために近所の家電屋さんにプレーヤーを買いに行ったし、プレーヤーとレコードを買いたいために新聞配達もやったから。

それで手に入れたのが、『レット・イット・ビー』。もう感激して、擦り切れるくらい聴きましたよ。普通の音楽とは違って、ビートルズのサウンドってどうしてか、じ〜んときたんだよ。それからはもう夢中になったねぇ。

ベスト5を選ぶなら？ 一番好きなのは、最初に買った『レット・イット・ビー』かな。俺のお気に入り、『ロング・アンド・ワインディング・ロード』も入ってるしね。……じつは、俺の最初のデートの映画も『レット・イット・ビー』だったんだよ（照れながら）。中学生の頃で、マセた連中はデートし始めてたから、「負けられない！」と思ってさ。相手には「チケットが入ったから」みたいに軽く言ったんだけど、本当は早起きして、新宿の武蔵野館という映画館に行って前売券を買っておいたの。

ところがデートの当日に、相手が1時間半くらい遅れてきたから、ホントは乗り気でもなかったのかな？ しかも映画が始まって、「このときポール（・マッカートニー）がどうした。ジョン（・レノン）がどうだった」と説明しちゃったの。そんなウンチクを言われたら、うまくいくものもいかないよね（苦笑）。

ほかには『サージェント・ペパーズ（・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド）』もよく聴いたなぁ。これが、音楽的にもビートルズの絶頂期だろうし、個人的には第2位かな。3番目はその次に出た『ホワイト・アルバム』（※『ザ・ビートルズ』の愛称）。どれも名曲揃いだし、やっぱり最初の頃に聴いた後期には思い入れがあるね。

もちろん初期だって素晴らしいよ！『ウィズ・ザ・ビートルズ』だけは自分で買わないで叔父のコレクションから譲ってもらった思い出があるんだけど、これを4位にしたいね。5番目は『アビイ・ロード』。あの頃さ、横断歩道なんかあると「おい、4人集まれ！」なんて仲間を集めて、必ずジャケットのマネをしたもんだよ。

一番好きな曲？ やっぱりポールの『ロング・アンド・ワインディング・ロード』かな。できれば自分がテレビに出るときなんかには、この曲を一緒に流してほしいんだよ。そういうことはいつもお願いしたいし、今回は雑誌ですけど、インタビューの最後に歌詞を載せてほしいぐらい……そのくらい好きなんだって！

それから、ジョンの好きな曲だとソロアルバムなんかも聴いてるけど、やっぱりビートルズ後期の『アクロス・ザ・ユニバース』、アレは好きだねぇ。（ジョージ・ハリスンのチケットを武藤か蝶野に「行ってこいよ」と言って、「誰だ、それ？」って言われたことがある？）いやいや、そんなことないって！ だいたい、なんであいつらにそんなチケットをあげるのよ？ 俺がそんな大事なチケットを譲るわけがないよ！（と憤慨して）。俺だって人を見るからさ。

自分にとってのビートルズ？ う〜ん。難しいけど、いまも昔も俺にとっては癒しみたいなもんかな。それに、一曲ごとに中学時代の風景や思い出があるからさ。

それから、ジョンが撃たれて死んだときは、リアルタイムだからショックだったねぇ。じつは妻と1週間ニューヨーク旅行に行ったことがあるんですよ。それで一日観光で、バンでニューヨークの街を回ったんだけど、ジョン・レノンが死んだダコタ・ハウスにも連れてってもらったの。「ああ、ここで撃たれたのか」と。……やっぱり感慨深かったねぇ。

ビートルズ・ファンとしての夢？ やっぱりリバプールには行ってみたい。山田（恵一）なんかはイギリス遠征でリバプールに行ったっていうから、メチャクチャうらやましかったなぁ！ 彼らが育った町だし。いったいどんな町なのか？ 死ぬ前に1回でいいから、行ってみたいよね。

じつは、中学生の頃に聴いてるだけじゃいられなくなって、自分たちで"マリーズ"というビートルズのカバーバンドまで組んですよ（笑）。そのときの俺のパート？ リンゴ（・スター）を気どってドラムスだったね。……でも、あまりにも自分たちの演奏がヒドイから、「もうコミックバンドに変えようか！」と提案したら、みんな辞めていっちゃったんですよ（笑）。ただ、俺と違ってビートルズを教えてくれた、靴屋の吉田は、いま音楽の専門学校の講師をやってるんだから驚くよ！ しかもミュージシャン兼、プロレスラーの矢口（壹琅）？ アイツとも親しいらしいんだよ。

いまもドラムをやってるかって？ いやいや、もう才能がないのはわかってますから。もしも音楽の才能があったら……俺もそっち方面に行ってるって！（談）

1 『レット・イット・ビー』
ザ・ビートルズ（東芝EMI）

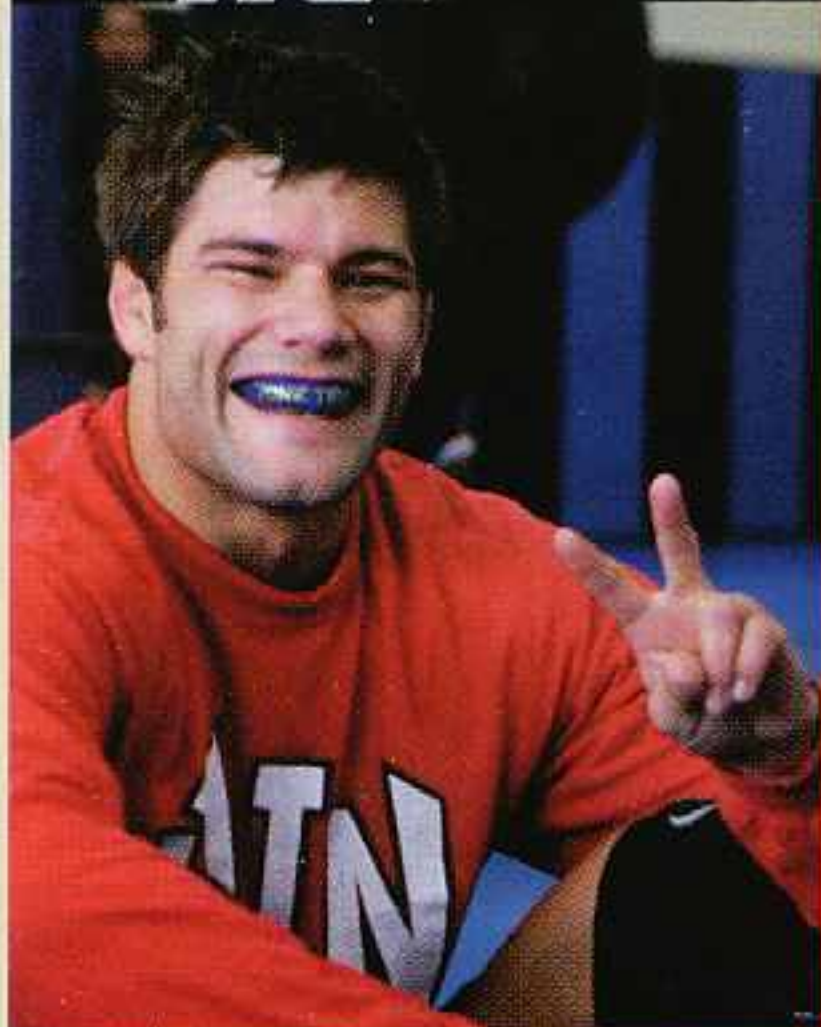
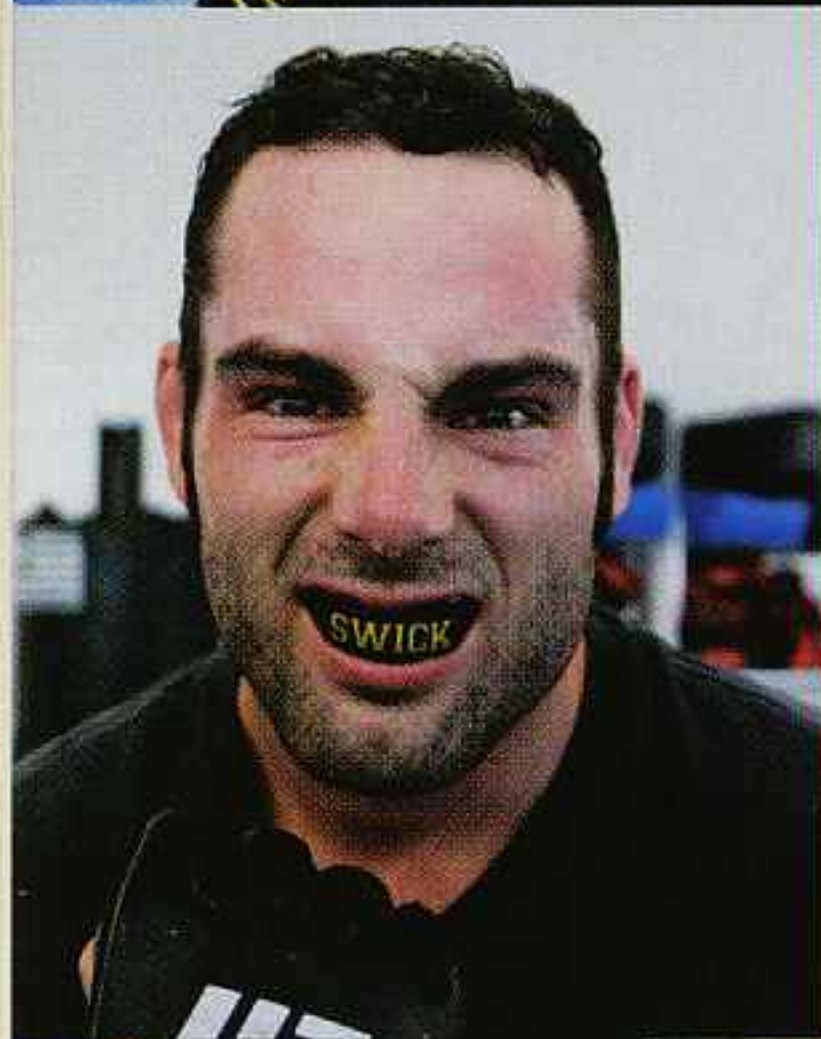
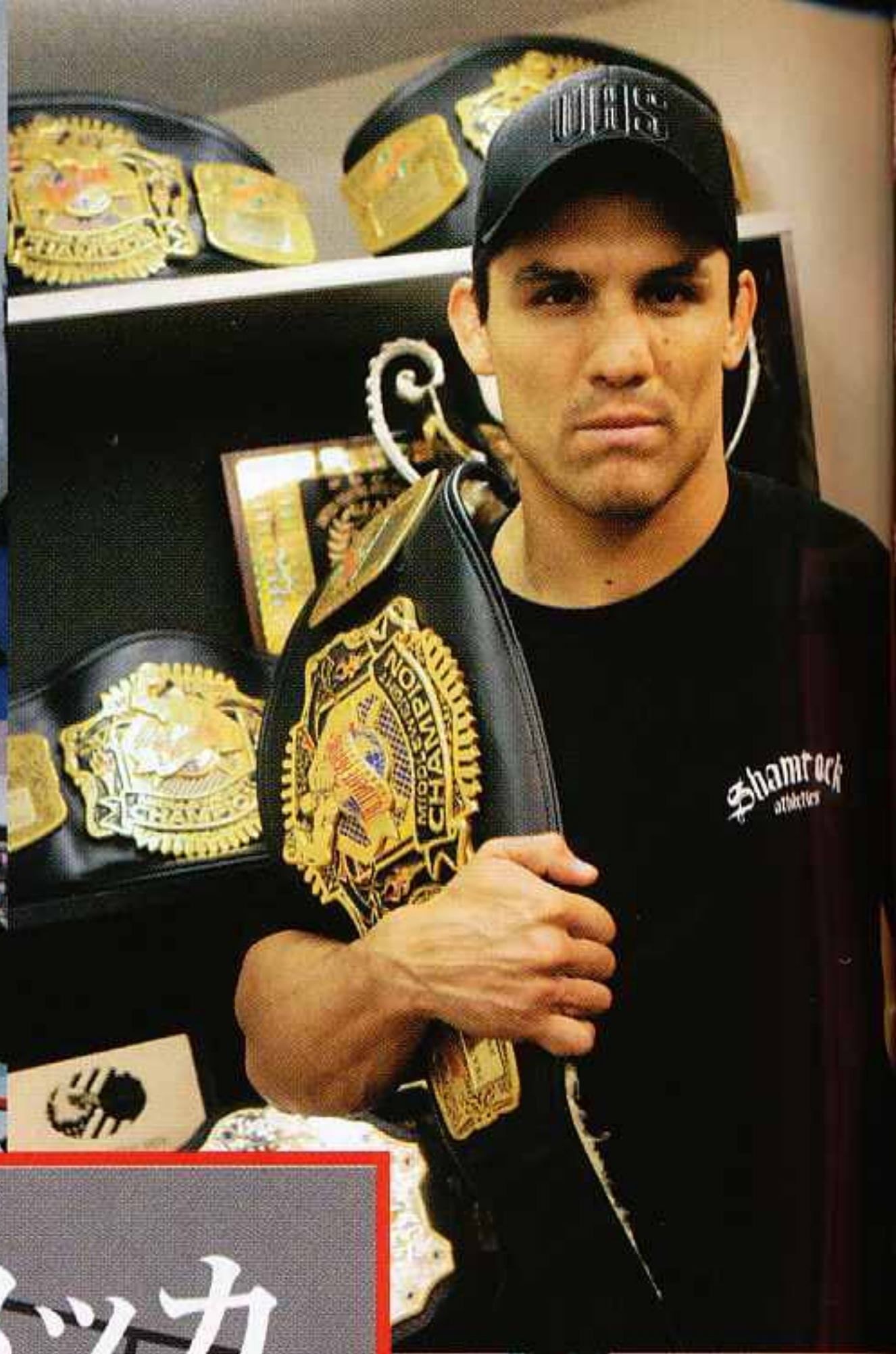
2 『サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド』
ザ・ビートルズ（東芝EMI）

3 『ザ・ビートルズ』
ザ・ビートルズ（東芝EMI）

4 『ウィズ・ザ・ビートルズ』
ザ・ビートルズ（東芝EMI）

5 『アビイ・ロード』
ザ・ビートルズ（東芝EMI）

こしなか・しろう■1958年9月4日生まれ。東京都江東区出身。78年に全日本プロレス入門。85年に新日本プロレスへ移籍。92年には反選手会同盟を結成し、そのあと平成維震軍と改名して一世を風靡。現在はフリーとして新日本プロレスなどで活躍中だって!!

新たなるMMAのメッカ

北カリフォルニア

ベイエリア

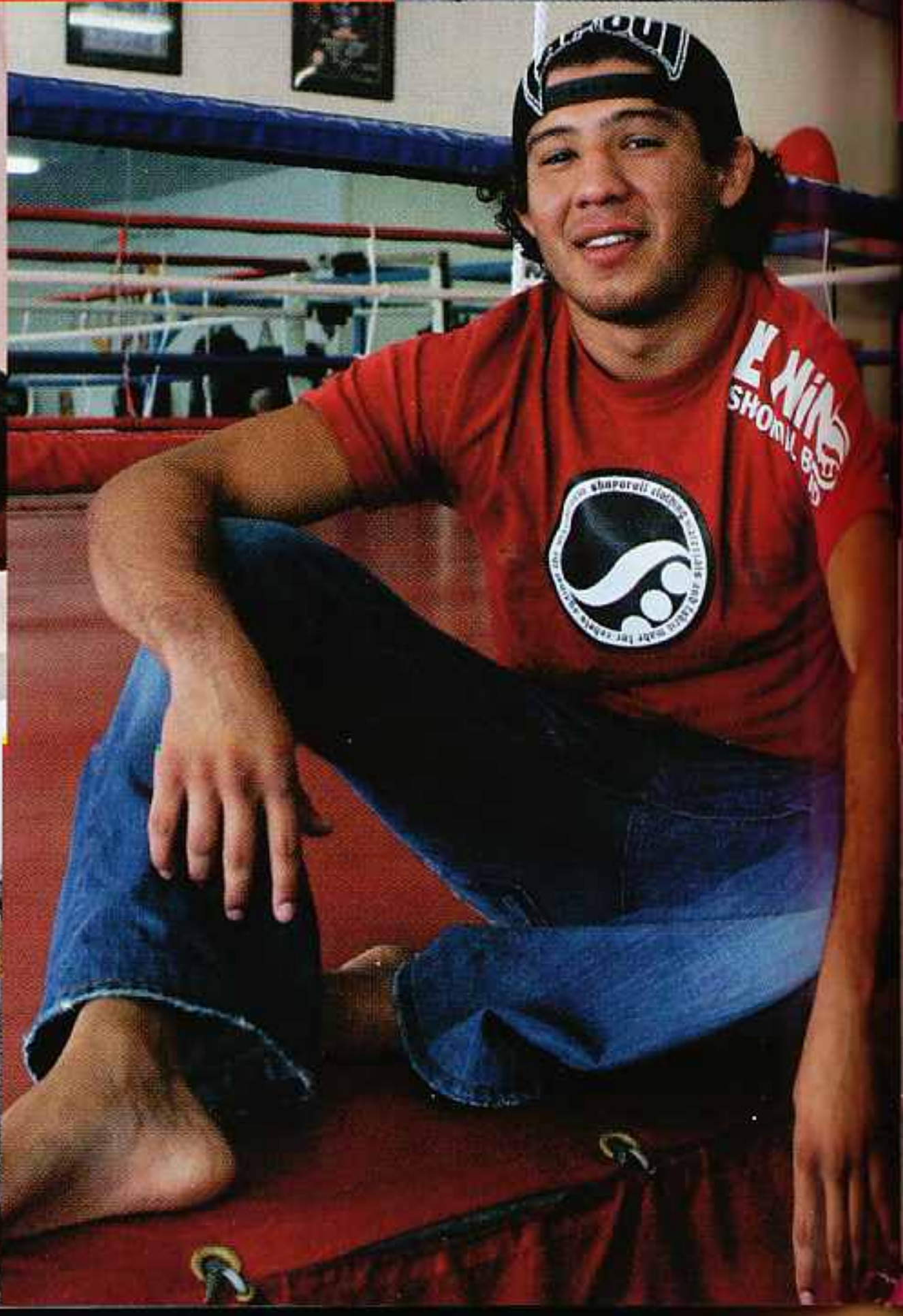
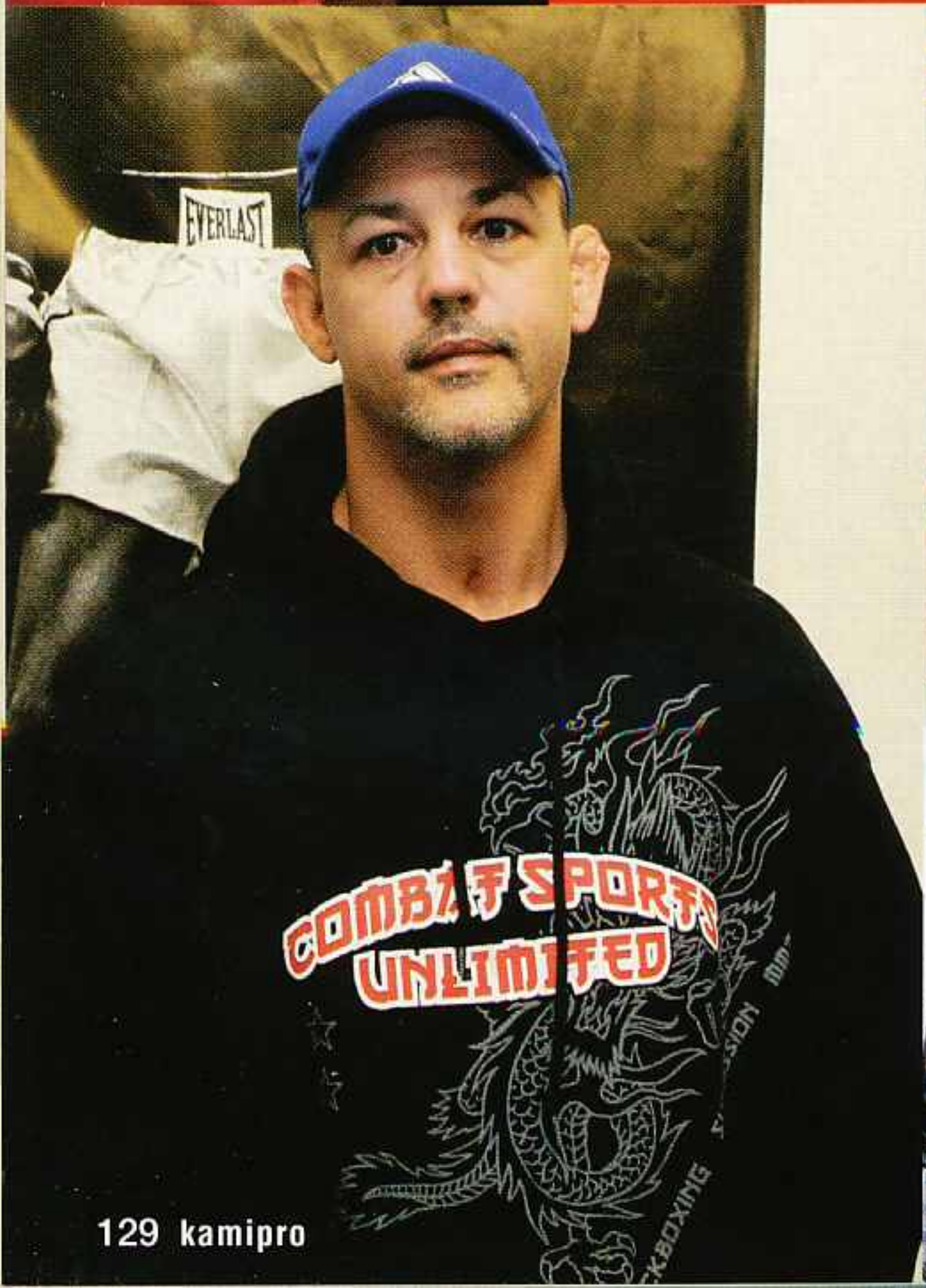
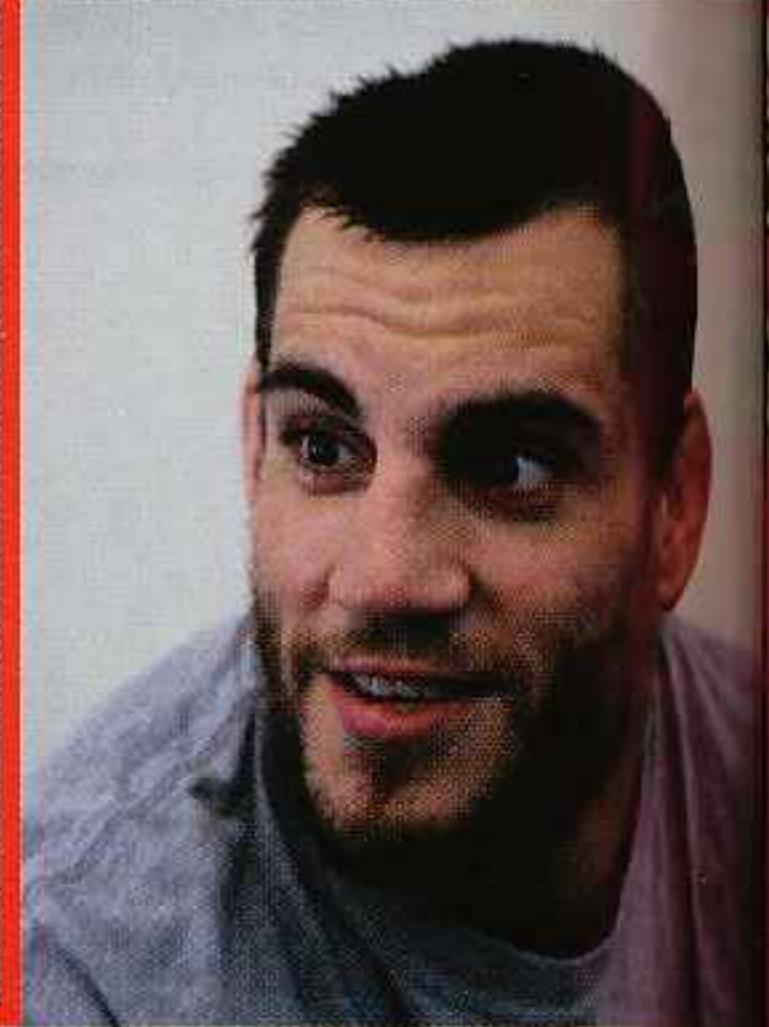
現地初潜入 徹底大特集

アメリカMMAの激戦区

西海岸格闘MAP

NEVADA

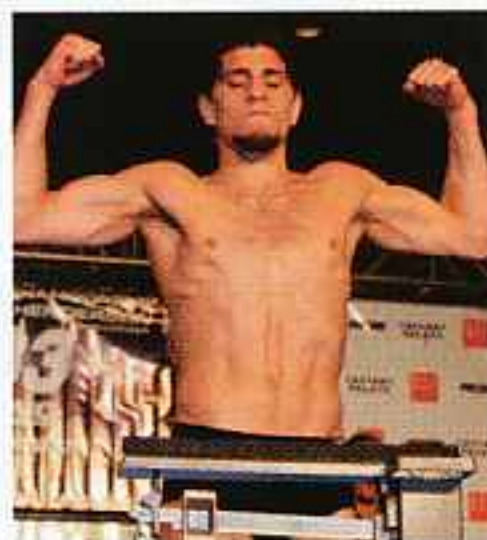
CALIFORNIA

MEXICO

BAY AREA

サンフランシスコ
SAN FRANCISCO

北カリフォルニア、ベイエリアの中心ともいえる大都市サンフランシスコ。ここには現在、ジェイク・シールズのジムがあり、ギルバート・メレンデスが所属している。ここからサンノゼのAKAに通う選手も多い。

ストックトン
STOCKTON

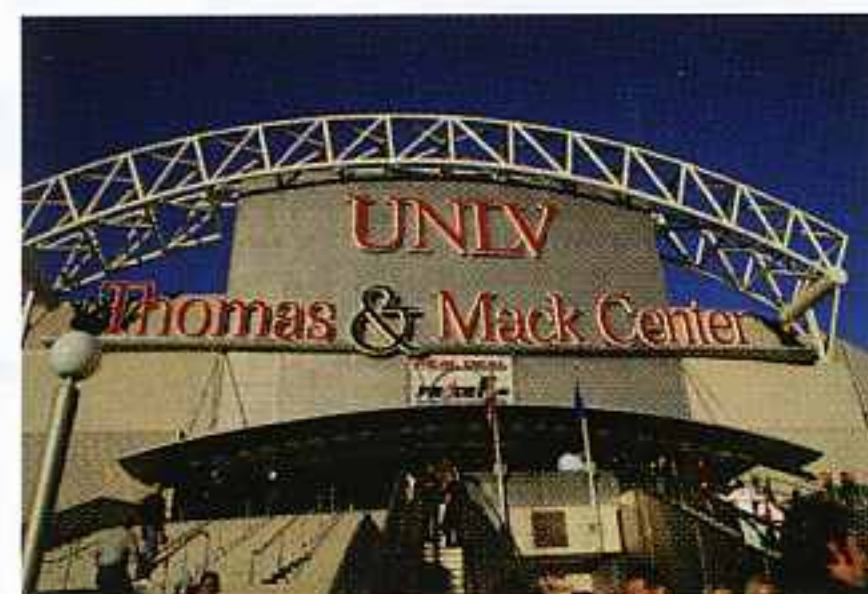
サンフランシスコから東に約130キロのところに位置する街ストックトン。ここは五味隆典を破ったニック・ディアスのホームタウン。シーザー・グレイシーの道場にもほど近く、かつてギルバート・メレンデスもそこに所属していた。

サンノゼ
SAN JOSE

ストライクフォースの本拠地、HPパビリオン（写真）や、AKA、フランク・シャムロックのジムなどがあり、ベイエリア格闘技の中心地でもあるサンノゼ。この地から多くのニュースターが生まれている。

ラスベガス
LAS VEGAS

ご存知、アメリカMMA興行のメッカ、ラスベガス。『PRIDE』が2回開催したトーナス&マックセンターや、UFCがよく使用するマンダレイベイ・イベントセンター、MGMグランドなどがあり、MMAビッグイベントの多くがここで開催される。UFCの本拠地、ズッファ本社もここだ。

ロサンゼルス
LOS ANGELES

ホイスやヒクソンのグレイシー柔術道場をはじめ、無数のMMAジムがあるロサンゼルス。MMAファンも最も多く、MMAのメッカのひとつと言っていい。写真はロスの大会場ステープルズセンター。

いま、ベイエリアが熱い！

突然こんなことを言われても、なんのことだかわからないだろうが、ベイエリアとは米国カリフォルニア州北部のサンフランシスコ湾を囲む一帯のこと。都市でいえば、サンフランシスコ、サンノゼがこれにあたる。じつは、このベイエリアこそが、いま〝MMAバブル〟に沸き、日本マット界をも飲み込まんとするアメリカ市場で、いま最も熱い地域。新たなるMMAのメッカなのである。

アメリカのMMAのメッカといえば、これまでは同じカリフォルニア州でもロサンゼルスやサンディエゴなど、南部のイメージが強かった。それはこのスポーツをアメリカに持ち込んだ張本人であるグレイシー一族が、この地に道場を構えていたこともあり、柔術家やMMAファイターがロサンゼルスに集中していたためだ。

しかし近年、MMAが全米各地に広まるにつれ、ロサンゼルス以外の地区にもMMAのジムが増えてきた。そういった流れの中、このベイエリアに強いファイターが集まり、ニュースターが生まれ始めているのだ。

この地が生んだ代表選手といえば、ギルバート・メレンデスや2・24の『PRIDE・33』で五味隆典を破ったニック・ディアス。そして、彼らをはじめとする、若くて活きのいいファイターを生み出す〝震源地〟とも言えるのがAKA（アメリカン・キックボクシング・アカデミー）だ。

AKAはその名のとおり、もともとはキックボクシングのジムだったが、90年代後半、地元在住のブライアン・ジ

アメリカIT産業のメッカがいまMMAのメッカになる!

いま日本マット全体をも飲み込まんとするMMAバブルを象徴する地域

それがベイエリアだ!

文／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

ヨンストンやフランク・シャムロックがトレーニングをするようになってから、キックボクシングとMMAのジムへと変貌した。そして、いまでは15人のMMAプロファイターを抱え、さらに評判を聞きつけた有望なファイターが出稽古で集うハイレベルなジムになっている。

このジムの特徴はなんといってもジョシュ・コスチェック、マイク・スウィックら、リアリティショー『ジ・アルティメット・ファイター（TUF）』に出演したファイターが複数在籍していること。『TUF』といえば、いまのUFC人気、MMAバブルの原動力となった番組。

TUFファイターを生み出しているということは、すなわちいまのアメリカMMAでもっとも旬な選手、新しいスターを生み出しているということだ。そういったこともあり、ここAKA、そしてベイエリアに有望な若手ファイターが集まってきているのである。

そんな地元選手たちの檜舞台となるMMAイベントも、ここベイエリアには存在する。それがストライクフォースだ。

ストライクフォースは、昨年3月、フランク・シャムロックvsシーザー・グレイシーをメインイベントに、カリフォルニア州MMA解禁後初のMMA大会として開催。当時のアメリカMMA観客動員記録を作ったイベントだ。1万8265人を動員し、当時のアメリカMMA観客動員記録を作ったイベントだ。

このストライクフォースの強みは、なんといっても地元密着であり、地元企業と強いパイプを持っていること。たとえば、フランクvsシーザーはサンノゼの大会場HPパビリオンで行なわれたのだが、ストライクフォースはこの会場とMMA独占使用契約を結んでいる。HPパビリオンは、地元のアイスホッケーチーム、サンノゼ・シャークスの本拠地であり、大物アーティストのライブが行なわれることでも知られる、ベイエリア唯一の多目的大会場。つまり、この会場を使用しなければ、ベイエリアでビッグイベントは開催できないのだ。だから、このMMAのメッカであり、地域的にも大勢の観客動員が見込めるベイエリアにUFCは進出することができないのである。

地元ジムからUFCファイターを多数輩出しながら、興行的には地元イベントがガッチリとUFCの侵入を防ぐ。そうしてMMAの王国を築き上げつつあるのが、ベイエリアなのである。

このHPパビリオンや、先ほどのAKAがあるサンノゼといえば、IT産業が多く集まるシリコンバレーの中心都市でもある。そのため他の大都市に比べて所得水準が高いことで知られ、米国主要都市の安全度調査で第1位を誇っているほどだ。そんなハイクラスな都市であるサンノゼでMMAが広まっていることこそ、MMAマーケット拡大をもっとも象徴する現象と言えるだろう。

こうしてアメリカMMA業界は莫大なお金を生むこととなり、いま日本をはじめ、世界の格闘技界を飲み込まんとしているのだ。

本誌はそんなMMAバブルを象徴するベイエリアを、細部にわたって現地で徹底取材。アメリカMMAバブルの実態をあますところなくお届けしよう。

新たなるMMAのメッカ
北カリフォルニア
ベイエリア
現地初潜入
徹底大特集

“レジェンド”が語るアメリカMMAマーケットの真実

かつてのUFCスーパースターは
なぜ現UFCに反旗を翻したのか?

Frank Shamrock
フランク・シャムロック

「ダナ・ホワイトやUFCの連中は金儲けのことしか考えてない奴らさ!」

94年にパンクラスでデビュー後、日本での活躍を経て、UFCミドル級（現ライトヘビー級）の“絶対王者”として一時代を築いた90年代のスーパースター、フランク・シャムロック。99年にティト・オーティズを下したあと、ダナ・ホワイトとの確執からUFCと決別した彼は、現在のMMAバブル、そしてUFCの隆盛ぶりをどう見ているのか？MMAの過去と現在を知る反UFCの急先鋒が、アメリカMMAの真実を語る!

聞き手／堀江ガンツ　通訳／稲垣收　撮影／乾晋也

――今日は創成期からこの業界を知っているフランクさんから見た、現在のアメリカMMAというテーマでお話をうかがいたいと思います！

フランク OK！ 確かに数年前まで格闘技は趣味の世界というか、格闘家にとって精神的なものだったけど、いまは本当に大きなお金を生み出すビジネスになったよね。

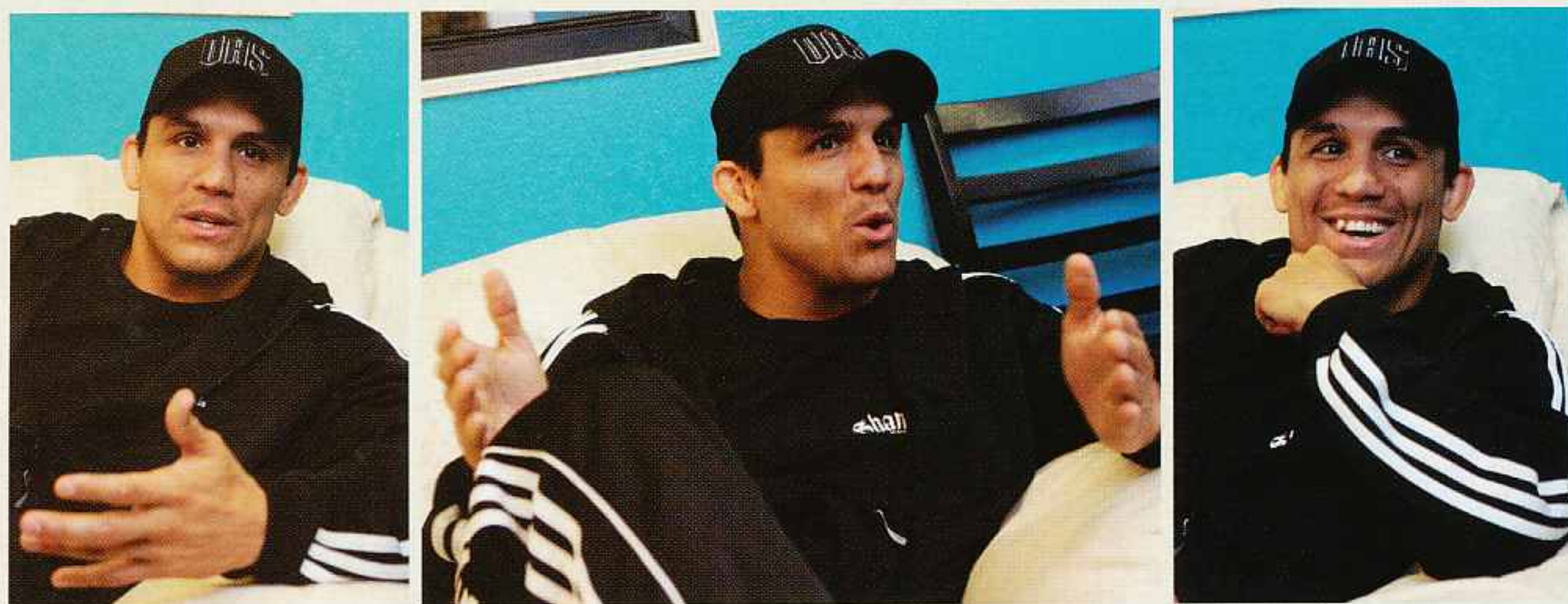
――フランクさん自身、昨年3月に長いブランクから復帰した理由の一つに、この業界のビジネスとしての急成長がありますか？

フランク もちろん、それは大きな理由の一つだね。昔はもの凄い努力をして、試合で結果を出してもお金にならなかったけど、いまはたいした努力なしで大金が稼げるから、そりゃ復帰するよね（笑）。

――ダハハハ！ じつに正直なお答え、ありがとうございます（笑）。

フランク まぁ、でも自分は昔からずっとこの競技をやっているわけだから、お金のために突然始めたわけじゃないけどね。それでも、数年前にいったん引退のようなかたちになったのは、当時はこの業界になんのマーケティングもなく、先が見えなかったからなんだ。どんなに努力してチャンピオンになったとしても、ビジネス的な成功が望めないのであれば、選手を続けていてもただ身体を壊すだけだからね。それで一時、選手としては現役から離れて、ビジネスやマーケティング、そして自分のコンディションを整えることに時間を費やしていたんだ。

――では、ぶっちゃけた話、UFCのチャンピオンだった頃と、いまではファイトマネーが何倍も違うわけですか？

フランク そうだね。このあいだのエリートXCでもらったギャラは、UFC王者時代の約10倍だよ（笑）。

いまのオレのファイトマネーはUFC王者時代の10倍！ パンクラス時代とは……違いすぎてわからないよ（笑）

――UFC王者時代の10倍！ じゃあ、パンクラス時代と比べたら何倍になっちゃうんですか⁉（笑）。

フランク ハハハハハハハ！ それは違いすぎてわからないな（笑）。

――ケタが違いすぎますか（笑）。

フランク でも、あの頃は俺自身がまだ駆け出しで、修行の身だったから、その金額でも納得して闘っていたけど、UFCのチャンピオンになっても、まともなお金がもらえないんじゃ、それは問題さ。いまは昔と違ってMMAがバイオレンスではなく、スポーツとして認知されてきたし、大きなお金を生み、世間の尊敬も得られるようになったんだからね。

――では、ここ2年ぐらいで業界の状況が価値観から何からガラリと変わったわけですか？

フランク そうだね。アメリカ全体が格闘技に対して概念をあらためつつあるんだ。これまでは、わけのわからない、謎の武術みたいな感じに思われていたのが、いまはカッコいいニュースポーツとしてとらえられることが多くなったね。

――この隆盛の原動力となったのは、UFCの大ブレイクにあると思いますが、UFCやダナ・ホワイトに対しては、どんな思いがありますか？

フランク 確かに彼らが『TUF（ジ・アルティメット・ファイター）というリアリティショー）』などで人気を得て、世間にMMAを広めることには成功したけど、それは単なる偶然にすぎないだろうね。

――単なる偶然ですか⁉

フランク ああ。リアリティショーのテレビ番組を作って、それがたまたま当たったからいま人気があるけど、彼らは金儲けのためにやっているだけで、格闘技界全体のことはまったく考えていない。だから、俺は彼らと一緒に仕事をするつもりはないね（キッパリ）。

――いまや〝巨大帝国〟となったUFCに反旗を翻しますか！

フランク 自分としては、なるべくいろんな団体や、いろんな人たちとビジネスをして、みんなでこのビジネス全体を良くしていこうという考えなんだ。それに対してUFCは自分たちだけが儲かればいいという考えだ。ほかは叩き潰すか買収して自分たちのものにするか、それだけしか考えていない。だから俺は奴らのことが嫌いなんだ。

――そうでしたか……。昨年、UFCはホイス・グレイシーvsマット・ヒュースやケン・シャムロックvsティト・オーティズといった、〝レジェンド〟絡みの対戦をビッグビジネスにしていたんで、同じくレジェンドであるフランクさんにも声がかかってるのかと思ってたんですけど。

フランク いや、確かにオファーはもらったよ（アッサリ）。

――あ、オファーは来てたんですか。

フランク それも凄くいい条件のオファーさ。でも、俺は彼らが嫌いだからあっさり断ってやった（笑）。

――断っちゃったんですか！ もったいない……。

フランク UFCに関しては俺自身、貢献した自負はあるし、団体を大きくする手助けはしてきたと思う。でも、一つの団体だけ大きくする手助けをしても仕方がないし、もうUFCは充分に大きくなっているので、その必要もない。だから俺はエリートXCやストライクフォースといったこれから大きくなるイベントに協力して、一緒にこのMMAを育てて、ともに格闘技界の未来を築く、そういったことをやっていきたいと思ってるんだ。それに、UFCは俺を含めてファイターのことなんて何も考えていないし、格闘技界全体の未来についても何も考えていない。自分たちが金儲けできればそれでいいと考えている連中なんで、そんなところに協力してもしょうがないと思っているのも確かだな。俺はなるべく格闘技界を育てていくちゃんとしたビジョンのある人たちとやっていきたいんだ。

――でも、ダナ・ホワイトは「ボードッグやIFL、エリートXCこそ、金持ちが金のためだけにやっていて、格

これがサンノゼにあるフランクのジム、シャムロック・マーシャルアーツ。看板にクローバーのマークがついているのは、「シャムロック」という言葉は三つ葉のクローバーという意味があるからだ。

©MMA WEEKLY

昨年3月10日、ストライクフォースで3年ぶりに現役復帰をはたしたフランクは、シーザー・グレイシーにわずか21秒で秒殺KO勝利！ ブランクを感じさせない動きで健在ぶりをアピールした。ビッグネームだけに、今後の活動にも注目したい。

闘技界のことを考えてない」と言っているんですけど、どうでしょうか？

フランク　ハハハハ、あいかわらずダナは嘘つきだな。ＵＦＣは去年、ＰＰＶで1億7700万ドル（約21億円）儲けたんだぜ。それなのに選手のファイトマネーはべつに上げていない。チャック・リデルなど、ほんの一部のトップスターだけはインセンティブをもらっているが、大半の選手はあいかわらず安いファイトマネーで闘っているんだ。ＭＭＡが生み出すお金が多くなったのなら、それに比例して選手のファイトマネーもアップしなきゃおかしいじゃないか。それなのにファイトマネーは微増。残りの金はどこへ行ったんだ？誰の懐に入っているか明らかじゃないか！　ヤツらこそが金の亡者なんだよ!!

――〝金の亡者〟に加担するつもりはない、と。では、エリートＸＣやストライクフォースは、どんなところに魅力を感じて出場を決めたんですか？

フランク　まず、エリートＸＣは非常にいいビジョンを持っていることだね。インターネットを利用して、格闘技をコミュニティのスポーツとして、多くの人に受け入れられやすくしている。その新しいビジョンが気に入ったんだ。

――他の格闘技イベントもインターネットで情報や映像を配信していますけど、エリートＸＣはどこが違うんですか？

フランク　彼らはインターネット上に、地球規模のＭＭＡコミュニティを作ろうとしているんだ。たとえばマイスペース（アメリカ版ｍｉｘｉのようなソーシャル・ネットワーキング・サービス）というソサエティに、いろんな格闘技ジムやインストラクターや選手を参加させて、意見交換や情報交換の場を作っている。自分の団体の宣伝をするだけのホームページとはまったく違うんだ。これは格闘技界では初めてのことで、そこがエリートＸＣの新しいところだよ。

――団体というより〝場〟を提供しているというわけですか。

フランク　そしてエリートＸＣはショータイムというテレビ局もついていて、リアリティショーや格闘家のドキュメンタリーも作ろうとしている。ネットやテレビというメディアを使って、格闘技を広めようとしているんだ。

――ショータイムというのは、どんなテレビ局なんですか？

フランク　ショータイムはプレミアムチャンネルといって、通常のケーブルテレビのパッケージに追加料金を支払って見るチャンネルなんだけど、とても人気があるチャンネルなんだ。通常のケーブルで見られるスパイクＴＶ（ＵＦＣを放送している局）と比べると、もちろん視聴者数は少ないけど、ハイソサエティなチャンネルとして認識されているから、このバックアップは大きいんだ。

――では、昨年復帰の舞台に選んだストライクフォースの魅力はなんですか？

フランク　まず自分にとって地元のイベントであること、そしてストライクフォースの代表スコット・コーカーは俺の長年のビジネスパートナーでもあるからね。彼は非常にいいイベントを作り上げる人間だとわかっていたから、それでやることにしたんだ。

――フランクさんの復帰戦となった昨年3月のシーザー・グレイシー戦は、この時点でのアメリカでのＭＭＡ観客動員記録を作ったんですよね？

フランク　イエス！　1万8265人の動員だ。この記録が作れたのにはいくつかの理由があると思う。一つはこの大会がカリフォルニア州で初めて行なわれるＭＭＡイベントだったことで、大会前にメディアでＭＭＡ開催の是非論が起こったんだ。ストライクフォースはそのメディアでの論争を利用して、大会自体の注目度と認知度を上げたんだ。

――スキャンダルを経営に結びつけたわけですね（笑）。

フランク　それから自分もシーザーも地元の人間だということも大きかった。ほかにもサンフランシスコ、サンノゼ地域の人間が数多く出場していたから、地元のサポートもかなりあったんだ。

――そのエリートＸＣとストライクフォースはいま、ある種の協力関係にあるんですよね？

フランク　イエス！　一時、ちょっとしたことで険悪になっていたんだけど、いまは協力し合うようになっているよ。

――その険悪になった原因を作ったのが、フランクさんだったと聞いているんですけど（笑）。

フランク　まあね（笑）。俺が2月のエリートＸＣと4月に予定されていたストライクフォースの両方に出ようとしたら、俺の取り合いみたいな

PRIDEはアメリカ国内でのマーケティングがあまりにも足りない！ もっと強いテレビ局と組まなきゃダメだ!!

感じでケンカになってしまったんだ。結局、俺が両方の大会に出場して、ストライクフォースもショータイムで放送することで和解したんだけどね。プロエリートはエンターテインメントやメディアに強いパイプを持っているけど、格闘技については素人だった。でも、それが格闘技イベントのプロであるスコット・コーカーと組むことで解消されたんだ。そしてストライクフォースもショータイムの放送を獲得したわけだから、この提携は双方にとって、ない部分を補うということで、非常に意義のあるものだと思うよ。

——では、4月のフィル・バローニ戦は予定どおり行なうんですか？

フランク　4月ではなく、6月になったんだ。2月に俺とヘンゾ・グレイシーの試合をやったばかりだから、テレビで放送するには期間が短すぎるってことでね。これもショータイムの番組だから、いい数字が出るんじゃないかと思うよ。

——フランクさんは今後も、ストライクフォース、エリートXCを中心にいろんな団体に出場していく予定なんですか？

フランク　イエス！　IFLでは俺がチームを持っていて弟子が出場しているし、この業界をともに発展させていけるところとは協力していくつもりだよ。

——ボードッグなんかはどうですか？

フランク　う～ん、あそこはまだわからないね。ボードッグに関わっている連中にも知り合いは多いんで、これから電話がかかってくることもあると思うけど、まだ何も考えてないよ。

——では、これまで何度も噂された『PRIDE』出場がいまだに実現していないのはなぜなんですか？

フランク　それは俺のほうが聞きたいよ。俺は『PRIDE』に対し、何年も前からずっと「サクラバと試合がしたい」と言ってきたんだから。それでも実現しないということは、たぶん俺のファイトマネーが高すぎるからじゃないかな（笑）。

——フランクさんのギャラはそんなに高いんですか（笑）。

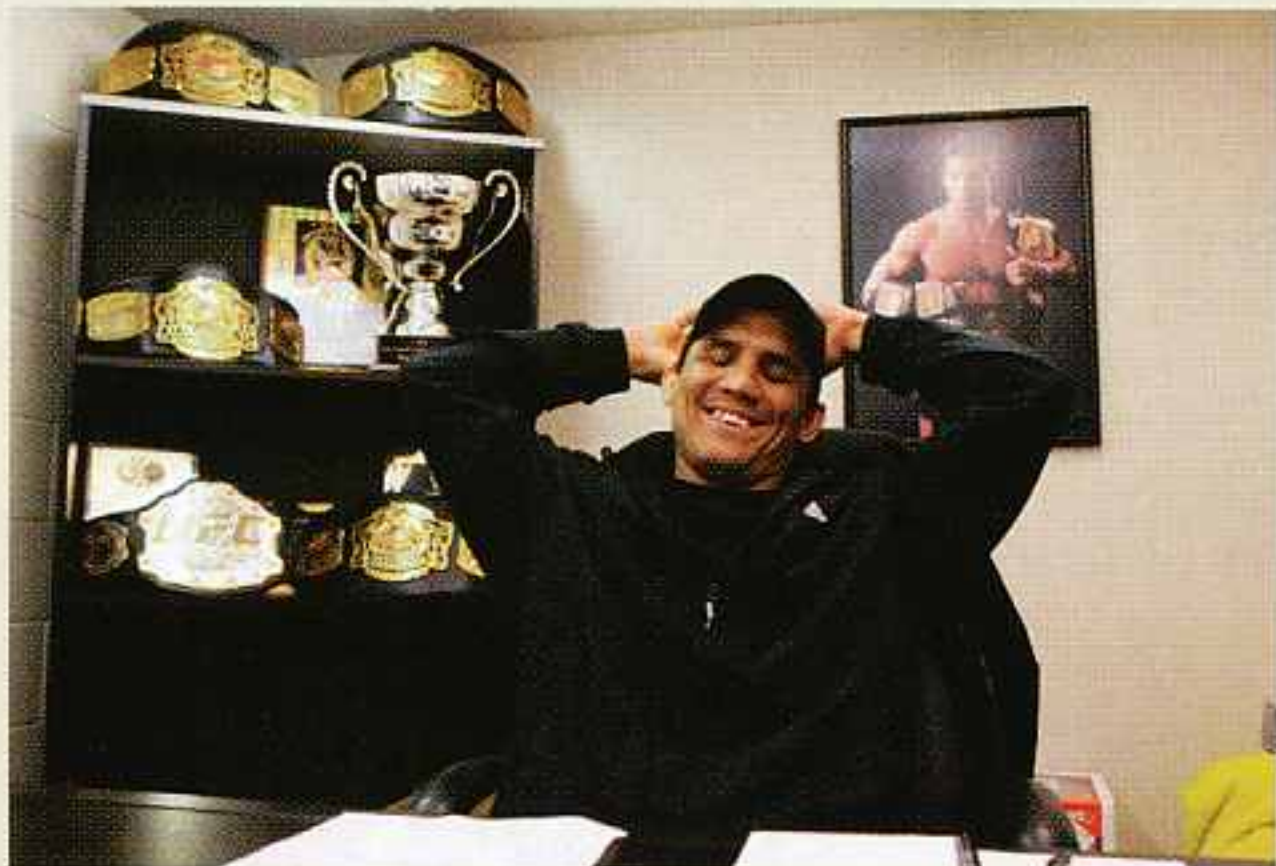
フランク　うん、俺は高いよ（笑）。『PRIDE』のような大きなイベントでビッグネームと闘うとなったら、やっぱりちょっとやそっとの値段というわけにはいかないからね。

——じつは、去年開催された『PRIDEウェルター級GP』は、当初、桜庭和志、田村潔司、フランク・シャムロックの3人を目玉にするプランがあったみたいなんですけど、結局、誰も出なかったんですよ（笑）。

フランク　ハハハハハ！　それは無理ってもんだよ。俺たち3人の共通点は、歳をとっていて、マッチメイクにうるさくて、それでいてファイトマネーは高いんだから。トーナメントでマッチアップするには、一番向かない3人だよ（笑）。

——ダハハ！　それを自分で言うところが凄いですね（笑）。

フランク　だってホントのことだろ？（笑）。でも、『PRIDE』には前から出たいと思っているから、いいオファーを待ってるよ。

——昨年から『PRIDE』はアメリカに本格進出してきましたけど、これは成功すると思いますか？

フランク　『PRIDE』はイベントの完成度や選手のレベルはUFCよりはるかに上だから、成功する可能性はあると思うけど、問題はいかにマーケットを築いていけるかだと思うね。いまはコアなファンには支持されているけど、一般的なアメリカ人は『PRIDE』についてまったく知らないわけだから。しっかりマーケティングをして、どういう選手がいて、どんな試合をするのか、普通のアメリカ人に知らせていかないと、難しいだろうね。『PRIDE』がアメリカで一番お金を使うべきところはそこだよ。

——やっぱり『PRIDE』の宣伝力というのは、こちらではまだまだ弱いですか？

フランク　正直に言えば、UFCはもちろん、IFLやエリートXCなんかと比べてもマーケティング力は全然足りない。彼らは『PRIDE』というブランド力があるから大丈夫だと思っているのかもしれないけど、そのブランドが通用するのはコアなファンに対してだけなんだ。ビジネス的な成功というのは、もっと多くの人たちにPPVを買ってもらわなければありえない。だから、もっとテレビなどをうまく使ってやる必要があるね。

——アメリカではマーケティング力の勝負になるわけですか……。では、UFCの次に成功する可能性があるイベントはどこだと思いますか？

フランク　おそらくIFLだと思う。IFLはマイネットワークというテレビ局で放送されているんだけど、これは無料放送なんだ。だから、それは視聴者の規模でいうと、UFCを放送しているスパイクTVの50倍ぐらいあるんだよ。だから07年中にIFLの知名度というのは一気に上がると思う。

——なるほど。そういえば、ランディ・クートゥアーも同じようなことを言ってましたね。

フランク　昔は格闘技は誰が強いかが一番重要だったんだけど、いまはそうじゃない。もちろん、いまでも最強を決めることは大事なんだけど、それ以上にテレビをいかに使ってブランドの価値を高めるかが重要なんだ。それができなければ、どんなに優秀な選手がいて、どんなに素晴らしい試合を提供しても、ビジネス的に成功することはないわけだからね。日本だってそうだろ？

——たしかに日本でもテレビは重要ですね。では、『PRIDE』にとってアメリカでの一番の課題はテレビを含めたマーケティングということになりますか？

フランク　まさにそうだね。もっと強いテレビ局と組む必要がある。いま『PRIDE』を放送しているFOXスポーツというのは、地方局みたいなもんなんだ。西海岸では普通のケーブルで見られるけど、アメリカの他の地域の人が視聴しようとしたら、衛星アンテナを立てて、別料金を支払わなくてはならない。そうじゃなくて、全米どこでも見られるネットワークと組む必要があるだろうね。

——なるほど。今日はアメリカMMAの現状がよ～くわかりました。ところで、今週末のPRIDEラスベガス大会（2・24『PRIDE・33』）は観に行かれますか？

フランク　え!?　今週末にベガスで『PRIDE』をやるの？

——知りませんでしたか（笑）。

フランク　全然知らなかったよ。俺が知らないんじゃ、一般的なアメリカ人はもっと知らないんじゃないか？　やっぱりちゃんとマーケティングをやらないとね（笑）。

【07年2月21日／米国カリフォルニア州サンノゼ、シャムロック・マーシャルアーツにて収録】

Frank Shamrock

1972年12月8日、米国カリフォルニア州サンタモニカ出身。94年、パンクラスでデビュー。95年には暫定キング・オブ・パンクラスにも輝く。97年にUFCミドル級王者に輝き、圧倒的強さで防衛を重ねるが、99年にティト・オーティズを下すとUFC撤退を表明。第一線から退くが、昨年3月、ストライクフォースで復活した。178cm、85kg。

アメリカMMAが日本を追い越した理由

UFC、PRIDE、ストライク・フォースなどに多くのファイターを送り込む名門ジム会長が激変するアメリカMMA事情を徹底レクチャー！

ここが世界最先端!!

新たなるMMAのメッカ
北カリフォルニア
ベイエリア
現地初潜入
徹底大特集

AKA（アメリカン・キックボクシング・アカデミー）会長

Javier Mendez

ハビア・メンデス

今回のベイエリア取材で感じたのは各選手やジム同士で横のつながりが非常にしっかりしているということ。そして、サンノゼやサンフランシスコ周辺の選手の多くがトレーニングを積む中心地、それがAKAだ。ISKAクルーザー級&ライトヘビー級王座を獲得したこともある元キック・ボクサーのハビア・メンデス会長はサンノゼで数多くの選手のトレーニングを見てきた。現在はUFCの次世代を担う若手選手を次々とオクタゴンに送り込んでいる。激変するアメリカMMAの最前線で日米格闘技事情を比較してもらった。

聞き手／稲垣收&坂井ノブ　撮影／乾晋也

―『ストライク・フォース』の盛り上がりが日本にも伝わってきたことで、ベイエリア地区の注目度はかなり高まってます。

ハビア　私も日本の格闘技のことはずっと見てきたよ。ブライアン・ジョンストンがここに来てトレーニングをしていたし、フランク・シャムロックもここで教えてたんだ。00年頃にはBJペンがここでトレーニングしていたこともある。ハイアン・グレイシー戦の前のイシザワ（石澤常光）やケン・シャムロックやマーク・ケアーと闘う前にフジタ（藤田和之）もここでトレーニングしてたよ。

―日本とゆかりが深いですね。

ハビア　名前を挙げていったらキリがないよ。リッキー・フクダ（福田力）も来ていたな。トコロ（所英男）も3週間前に来たばかりだ。

―本当にキリがないですね（笑）。ただ、本来キックボクサーのあなたが、なぜ総合をコーチするようになったんですか？

ハビア　ブライアン・ジョンストンのおかげだね。彼はかつて「プロボクシングでチャンピオンを目指したい」と言っていたけど、93年にUFCがスタートして、ブライアンはそっちを目指すようになった。私の友人の柔道世界王者マイク・スウェインが来て寝技のトレーニングもするようになり、彼がブライアンをUFCに推薦してくれたんだ。ブライアンはいい選手だったけど、マーク・コールマンやドン・フライには勝てなかった。あの当時は経験が足りなかったという部分はあるね。

―ブライアンは脳梗塞で倒れて、生死の境をさまよいましたよね？

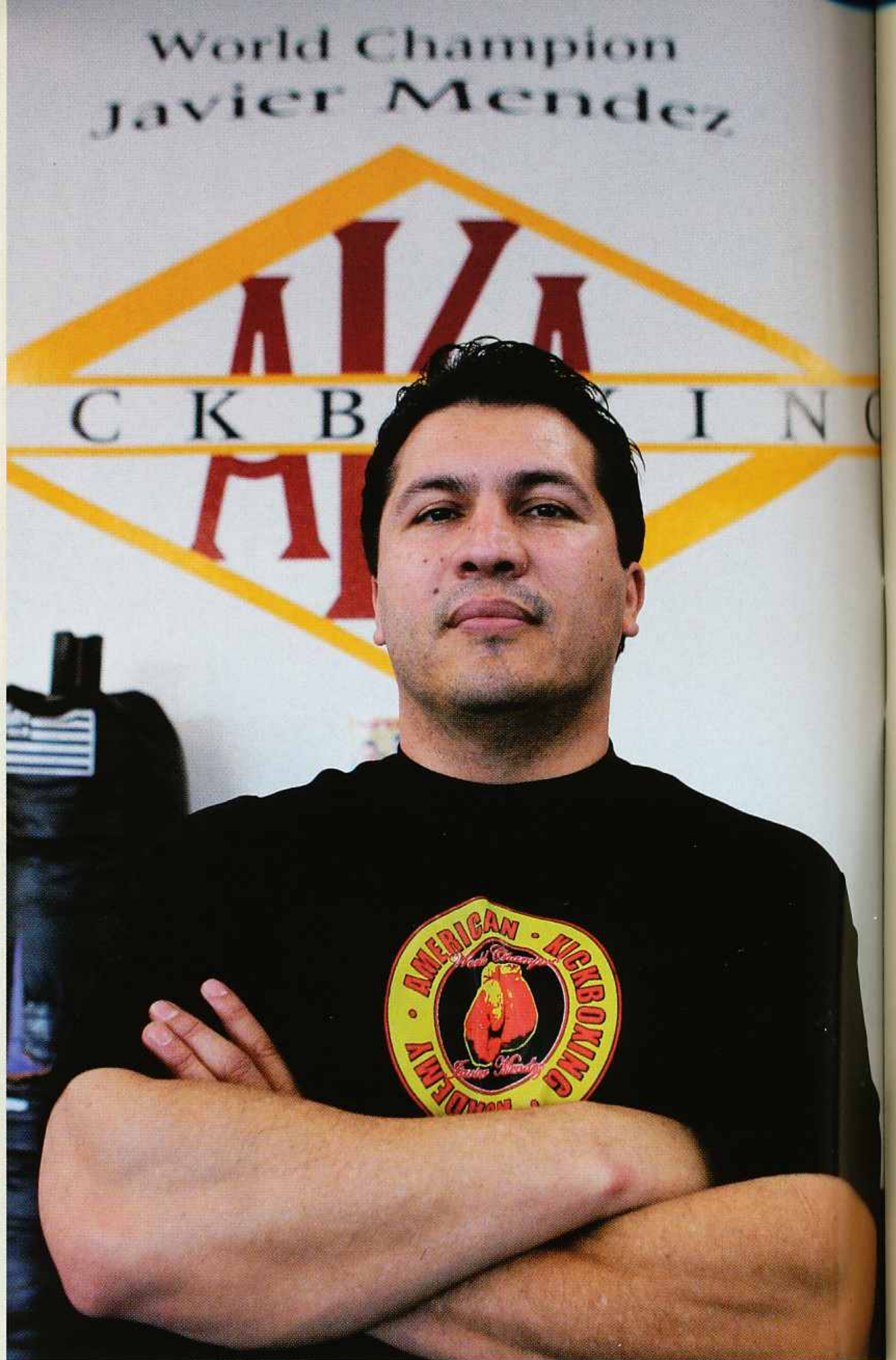
ハビア　いまはしゃべることもできるし、歩くこともできる。彼とはずっと友だちだけど、あのチャレンジ・スピリットは素晴らしい。スーパーマンのような回復だったよ。もし時間があれば会いに行ってくれば？

―ぜひ会いたいです！

ハビア　彼がいなければ、このジムはここまでMMAをやることもなかったんだからね。そのことを日本のファンに伝えてほしいよ。

―最初にUFCに送り込んだのが

恐るべしベイエリア地区の実力！ 会長はディアズ勝利を予言していた

ボクシングが盛んなアメリカはMMA選手の打撃技術も高い。『kamipro Special』の旅日記でも少し触れたが、『PRIDE.33』前の取材で会長は「私ならプロボクサーや五輪金メダリストとボクシングの練習をしているディアズに賭けるね」と断言。そのボクシング技術&柔術仕込みの寝技が、五味を上回ると予想していたのだ。結果はまさにそのとおり。ベイエリア地区のMMAレベルの高さを見事証明したと言えるだろう。（※注＝ディアズの薬物検査で陽性反応が出たことが明らかになり、結果が覆る可能性も出てきた）

ブライアン・ジョンストンということですが、いまではUFCに多くの選手を送り込むトップジムになっていますよね。

ハビア　アメリカでもトップ4に入るんじゃないかと自負しているよ。世界では……トップ10に入るかな（笑）。

――いずれにしてもトップジムだ、と。

ハビア　UFCや『ストライク・フォース』、そして『PRIDE』で活躍する多くの選手が在籍してるよ。

――AKA所属のボビー・ソースワース選手は『PRIDE・13』に来てましたよね。

ハビア　ああ、ビクトー・ベウフォートに負けた試合だね。あのときはまだソースワースはそんなにレベルが高くなかったから、しょうがない結果。

――あなたが選手のマネージメントもしてるんですか？

ハビア　いや、私ができるのは選手をトレーニングして、アドバイスを送ることだけ。ボビー・ソースワースやポール・ブエンテロやジョシュ・トムソンやここの多くの選手のマネージメントはカリフォルニア州フレズノにあるジンケン・エンターテインメントという会社が請け負っている。そこはチャック・リデルやフォレスト・グリフィンなんかもマネージメントしてるんだ。ほかにもWWEのボビー・ラシュリーもいるよ。

ハビア・メンデス会長自らミットを持ってプロ選手の打撃を受ける！　もともとキックボクシングのジムだけあってプロ選手の打撃は非常にレベルが高い。

――いまMMAでファイターのギャランティがどんどん高騰している背景には、そういう会社の存在も影響してるんでしょうか？

ハビア　そうだね。そういうマネージメント会社がファイトマネーの交渉もしているし、いろんなスポンサーを見つけたりすることでギャラがどんどん高騰しているのが現状だよ。

――なるほど。選手の景気がよくなることでジムも潤ったりとか？

ハビア　どうだろうね？（笑）。ジム生からの会費以外だと、プロ選手のギャランティからパーセンテージで報酬をもらう契約になっているんだ。選手のファイトマネーの10パーセントだ。ここにはプロ選手が15名いるけどその多くはファイターだけで生計を立てて、6ケタの稼ぎをあげてる選手もザラだよ。

――6ケタ！　つまり10万ドル（約1200万円）以上ってことですか！　すげえなぁ……。アメリカでのMMA人気はそんなに盛り上がってるんですか？

ハビア　昨日も全国ネットのニュースにダナ・ホワイトが出ていて「MMAはベースボール、バスケットボール、フットボールなどの人気スポーツの一角になったんだ」って言っていたから、そうじゃないのか？（笑）。

――ダナのことだから、MMAというより、UFC人気ってことでしょうけど。

ハビア　確かにいまUFCは世界一のMMAプロモーションだろう。以前は『PRIDE』が世界一だったと思うけど、アメリカに進出するのが遅すぎた。ここで成功するには何百万ドルものお金がかかるけど、『PRIDE』にそれだけの資金は用意できるのかな？

――どうでしょう？

ハビア　2～3年前は誰もUFCのことを知らなかったけど、いまじゃタクシーのドライバーでさえも「MMA？　ランディ（・クートゥア）のサインもらってきてよ！」なんて言うぐらい、誰でも知ってるんだ（笑）。

――『PRIDE』はそんなに知名度がないんですか？

ハビア　K-1も同じだよ。私はK-1がラスベガスでイベントをやってたときに手伝ってたことがあるんだけどね。数年前はESPNで中継していたから、K-1のことを知ってる人も多かったけど、いまは放送していない。プロモーションなんてほとんどしていないから知られていないね。K-1はロサンゼルスのステープルズセンターでMMAイベント（『HERO'S』）をやろうとしてる話は聞くけど、たぶん難しいだろうね。

――では、『PRIDE』のラスベガス進出はどのように受けとめていますか？　イベント自体は「成功だった」という声も多いですけど。

ハビア　オーディエンスの声では「成功だった」という反応が多かったけど、それはやはり会場レベルでの話だよ。いいかい？　『PRIDE』のほうがいい選手がいるのに、アメリ

多くの選手がファイターだけで生計を立てて、収入が6ケタ（1200万円以上）なんてのもザラ！

カではそれほど成功しているとは言えないのが現実なんだ。極端なことを言えば、アメリカ全土で誰もが知っているくらいにならないと、成功と呼べる状態ではないんだよ。

―ああ、それくらいアメリカ全体でのMMA業界はどんどん巨大化してるんですね。

ハビア ああ、とんでもないことになってるよ。若い世代だけじゃない。50～60代の年配の人間までUFCの話をしてるよ（笑）。

―へえ～（笑）。

ハビア もちろん女性にも人気があるんだけど、いまは私のジムにも会員が３００人以上いる。そのうち50歳以上の人も15人はいるんだ。

―はあ（笑）。UFC人気で会員は増えましたか？

ハビア それよりもMMAにシリアスに取り組む会員の割合が増えたね。それはUFCの効果だろう。プロ選手と同じような練習がしたいとか、プロを目指したいとか動機はさまざまだけど。

―多くの有名選手をジムが抱えることで、いい効果はありますか？

ハビア そうだね。ソースワース以外は、みんなこのジムの評判を聞きつけて、ほかの州からやってきた選手ばかりなんだよ。いいコーチがいていい選手が練習に来ると、ほかのチームの選手も出稽古に来るようになる。ギルバート・メレンデスやジェイク・シールズがそうだね。そうすると、どんどん練習のレベルが高くなっていくんだ。ただ、ここに来て練習している選手で、一人で全員を倒すなんて選手は誰もいないよ。スパーリングで誰かに勝てたとしても、他の選手はそれを見て弱点を突いてくるんだ。みんな誰かにやられるんだよ。トップレベルのコーチがいるというだけではいい選手は育たない。トップレベルのスパーリングパートナーがいて、初めて選手は成長することができるんだ。自分を倒してくれるスパーリングパートナーがいるってことが重要だね。

―こういう環境は自然と生まれたんですか？

ハビア そうだね。ベイエリアにはいろんなMMAジムがあるけど、AKAはこういう形態で運営しはじめた最初のジムだと思う。

―ところでベイエリアでやっている『ストライク・フォース』は、どんな盛り上がりなんですか？

ハビア 凄いよ。『ストライク・フォース』は有力ケーブル局ショータイムの仲介でエリートXCと手を組んでビジネスをやるようになった。いまアメリカでは一番がUFC、二番手は『PRIDE』だけど、あと大会を2～3回やれば『ストライク・フォース』とエリートXCが二番手に取って代わるんじゃないかな。

―『PRIDE』を追い抜きますか⁉

ハビア アメリカでの『PRIDE』は、PPVの数字を獲るには充分なプロモーションをしてないんだ。

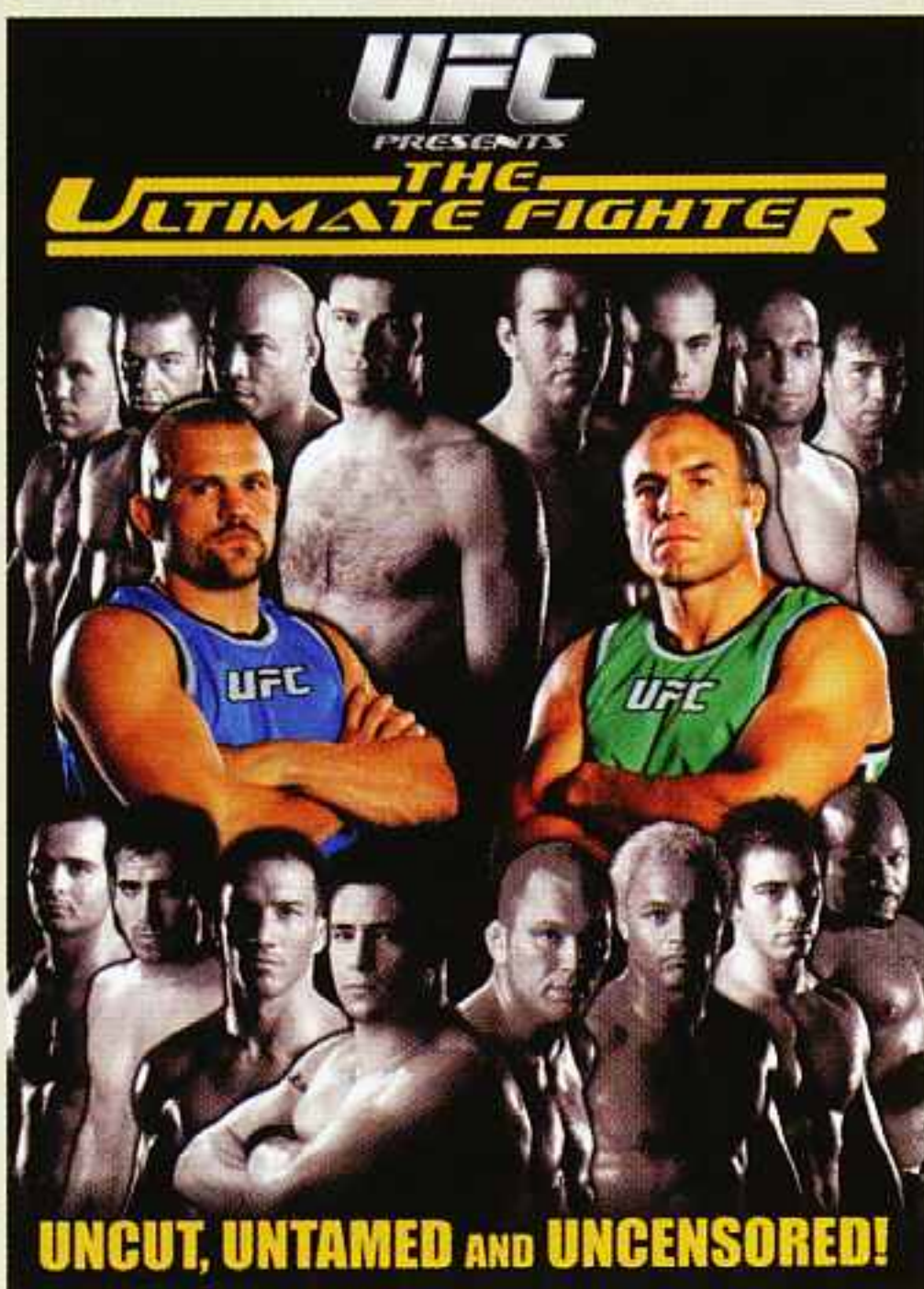
―アメリカでは、PPV件数が命綱ですよね。

ハビア アメリカで生き残るためには、もっと選手やイベントのことを知ってもらう必要があるだろうね。

―アメリカにおける最良のプロモーションってどんな方法なんですか？

ハビア たとえばK―1にレイ・セフォーという選手がいる。彼はとてもいい選手だけど、以前K―1ラスベガスで試合をしたときは誰からもサインを求められなかった。一方、ショーニー・カーターは落ち目であるにもかかわらず『TUF』に出たおかげで街に出たら「サインをくれ！」「写真を撮って！」って大勢の人が寄ってくる。だから、『PRIDE』やK―1も『TUF』のようなリアリティショーをやればブレイクするんじゃないかな。

―単純にテレビで試合映像を流すだけではダメなんですか？

ハビア それも大事だけど、知らない選手同士が闘ってる映像だと興味を引かないだろう。選手のパーソナリティが出るようにしないと。誰もが知ってる選手が試合をするってことが大事なんだ。

UFCのアメリカでの大ブレイクのきっかけとなった『TUF』シーズン1には、AKAから多くのファイターが出演。ジョシュ・コスチェック（下段右から3人目）、マイク・スウィック（上段右から3人目）、ボビー・ソースワース（上段左から3人目）が出演。人気を博している。

『PRIDE』がアメリカで生き残るためには選手や大会をもっと知ってもらわないと！

―日本でボビー・オロゴンというコメディアンがK―1で試合をしているのと同じようなもんですね。

ハビア ああ、そうだよ。だから日本でK―1は凄い人気だろ？ ボブ・サップにしても凄い人気者で、みんながサップのことを追いかけてた。

―よくご存知ですね（笑）。

ハビア 私はずっと日本の格闘技のことも観てるって言っただろう（笑）。そのあとでサップがK―1と問題を抱えたことも知ってるよ。

―さすがです（笑）。リアリティショーといえば、あのボードッグもやってますよね？

ハビア ああ、彼らのリアリティショーはまだ観たことがないんだ。ただ、彼らのショーを観てウチの選手が「なかなか良かった」と言ってたよ。選手がそう言うなら、将来性はあるんじゃないかな？

―とにかくリアリティショーで選手の顔と個性を認知してもらうのが先決だ、と。

ハビア そうだね。ただ『TUF』をマネして同じような番組を作ったところで、それじゃただの二番煎じになる。『PRIDE』がやるなら独自のリアリティショーを作ることが大事なんだ。自分たちの正しいブランドイメージを作り上げることができれば成功するよ。自動車にしてもそうだろう？ ホンダはホンダなりのアメリカにはなかった個性的な車を作って成功した。同じことが『PRIDE』にも求められると思うよ。

―『PRIDE』らしさを失ってはいけない、と。

ハビア うん。これは個人的な意見だけど、アメリカでの『PRIDE』に足りないと感じたのは、選手が自分の言葉でしゃべるってことなんだ。

―自分の言葉でしゃべる？

ハビア そう。試合前の映像で選手がコメントを言うのはいい。だけど、選手が試合後にリング上でインタビューを受けることもアメリカでは必要なんじゃないかな？ UFCでは試合後のリングで、選手がアナウンサーの質問を受けるよね。オーディエンスは選手の言葉を自分で聞いて、その選手がグッドガイなのかバッドガイなのかを自分で判断して声援を送りたがる。日本式がいいとか悪いとかじゃなくて、それがアメリカ人の好みだということだね。

―日本でも試合後にマイクアピールをすることもありますけど。

ハビア やはり一対一の会話でライブ感があるインタビューのほうがより受け入れられやすいと思うよ。

―なるほど。会長のお話でだいぶアメリカMMAの現状が見えてきました。ありがとうございます！

【07年2月19日／カリフォルニア州サンノゼ、AKAにて収録】

新たなるMMAのメッカ
北カリフォルニア
ベイエリア
現地初潜入
徹底大特集

日本を飲み込むまでに拡大するMMAバブルがAKAファイターにもたらしたリッチな現実!

アメリカMMAのトップジムで見た "THE SECRET OF OUR SUCCESS"

～ベイエリアはバラ色に～

日本の総合格闘技を飲み込む勢いで急成長を遂げるアメリカMMA界。そこで活躍するファイターたちは、どんな生活を送って、何を感じているのだろうか? カリフォルニア州サンノゼのAKA(American Kickboxing Academy)でプロ選手が多数参加する練習を取材して彼らに話を聞いてみたら、やっぱ凄いわ!!

文/稲垣收　構成/坂井ノブ　撮影/乾晋也

ハビア・メンデス会長率いるアメリカン・キックボクシング・アカデミー(AKA)のプロ選手たちは、はっきり言ってリッチである。

いまや『PRIDE』を抜いて世界最大の総合格闘技団体となったUFCの登竜門番組である『ジ・アルティメット・ファイター』(以下『TUF』)のシーズン1出身で、4月7日のUFC69で岡見勇信と対戦するマイク・スウィックは、ベンツのRV車でジムに乗りつける。

昨年10月のUFC64で修斗ミドル級ランカー弘中邦佳を倒したジョン・フィッチは、床面積100平米を超える高級マンションを50万ドル(約6000万円)で購入したばかりで、なんと取材中に不動産屋が新居の鍵をジムまで届けに来ていた。「キャッシュで買ったんじゃないけどね」と本人は笑っていたが、28歳の格闘家でまだUFC王者になってもいない男が6000万円ものローンを組めるということ自体、日本ではありえない話だろう。27歳のスウィックにしても『TUF』では準決勝で敗退した選手であり、その後チャンスを与えられてUFC本戦で3連勝しているとはいえ、まだタイトルマッチを闘ってもいない。

こんなことが可能なのも、やはりMMAバブル真っ盛りのアメリカならではだ。そのMMAバブルの引き金になったUFCの大成功、そしてその原動力となった『TUF』について、簡単に振り返ってみよう。

一時は経営難に陥っていた世界初のMMA大会UFC

UFC本体は93年にスタートし、噛みつきと目潰し以外すべてが許される「なんでもあり」ルールで注目された。しかし、全米でボクシング興行を取り仕切るアスレチック・コミッションに敵視され、〝野蛮なスポーツ〟というレッテルを貼られて、大都市での開催ができなくなり、全米の田舎をドサ回りするという不遇の日々が続いた。最初はテレビでPPV放映されていたが、バッシングも受けて放送もなくなった。

そして01年、経営に行き詰まったUFCを、ラスベガスでステーション・カジノを経営するロレンゾ・フェティータと、ティト・オーティズやチャック・リデルのマネージャーをしていたダナ・ホワイトが200万ドルで買い取ってズッファ社を設立。

ネバダ州のアスレチック・コミッションの元メンバーだったフェティータはコミッションに働きかけ、カジノとビッグイベントの街ベガスでのUFC開催を実現し、徐々に大きな大会へと成長させていく。それでもまだまだ黒字には程遠く、ズッファがUFCを買い取ってから04年までの累積赤字は3400万ドル(40億円以上)にも及んだという。

そんなズッファUFCが膨大な赤字を払拭し、現在のような巨大プロモーションに成長したのは、『TUF』がきっかけだった。

ペイパービュー100万件の原動力となった『TUF』

『アメリカン・カジノ』というカジノに関するリアリティショーで自分たちの経営するカジノが紹介され、その宣伝効果に目を見張ったズッフ

ァ会長フェティータは、「UFCのリアリティショーをぜひ作ろう」と思い立つが、どの局からもまったく相手にされなかった。「自分たちが制作費1000万ドルを持つ」という条件でようやくスパイクTVと合意。なんとか05年1月からの放映開始にこぎつけた。WWEの『RAW』に続く時間帯でいったん放映が始まると、各回1時間、全13話のシリーズはたちまち爆発的な人気を呼んだ。

このリアリティショー『TUF』では、それまで一般人からは〝ただの野蛮なケンカ屋〟と見られていたMMAファイターたちが、じつはまじめなアスリートとして厳しいトレーニングをストイックに続けている姿を見せ2ヵ月におよぶ合宿生活の様子もつぶさに撮影、選手たちのコメントも随所に挿入することで各人の個性を浮き彫りにするという視聴者が感情移入しやすい工夫がなされ、シーズンが終了する頃には誰もが『TUF』ファイターの誰かのファンになっているという仕組みだった。

さて、現在アメリカではほかにも数多くのプロモーションがしのぎを削っている状況だ。アメリカですでに2回の大会を開催した『PRIDE』もそうだし、昨年3月にカリフォルニアで初のMMA興行を開催した『ストライク・フォース』もそうだ。

また、本誌でもたびたび紹介しているオンライン・カジノグループの巨大資本をバックにして参入してきた『ボードッグ・ファイト』や、フランクvsヘンゾ・グレイシーの興行を行なったエリートXC、それに都市別団体戦という新しいコンセプトを打ち出してチーム対抗戦を行なうIFLも株式を上場するなど、健闘している。こうした状況は、プロモーターの立場から見るとファイトマネーの高騰や選手の引き抜き合戦など厳しい競争だが、選手たちにとっては活躍の場が増えることであり大歓迎なのだ。AKAの選手たちも、そういう業界活況の恩恵を享受している。

元バーテンダーやベッドすら買えなかった男たちがスターに

前述のマイク・スウィックはテキサスからカリフォルニアのAKAまで「強くなるため」にやってきた。だが、格闘技だけでは食べられず、バーテンや家庭の駐車スペースの掃除屋などをしながら練習していた。

「10年前、17歳の頃から試合をしているけど、格闘技だけで食べられるようになったのは2年前に『TUF』に出てからだ。それまでは誰も俺のことなんか知らなかったのが、『TUF』に出たらいきなり有名人になったんだ」とスウィックは笑う。

同じく前述のジョン・フィッチも格闘技バブルで貧乏を抜け出したクチだ。カレッジでレスリング部だったフィッチは、レスリング部のアシスタント・コーチだったトム・エリクソンに誘われてMMAを始めた。

「大学を卒業したとき、5年間だけ全力でMMAに取り組んでみよう、それでダメなら、学校の先生になろうと思ってたんだ」と体育と歴史の教員免許を持つフィッチは当時を振り返る。彼はAKAの評判を聞きつけて、4年前にサンノゼにやってきた。

「飛行機代がなくて、インディアナポリスから3000キロも自分で車を運転してやってきたんだ。引っ越して最初の一ヵ月は、ベッドを買う金すらなくて、床で寝ていたんだよ」

その後もクラブのバウンサーや、バーテンをして生活費を稼いでいた。

「でも、ここ数年でMMAの人気がもの凄く出てきてファイトマネーも上がり、格闘家として食べていけるようになったんだ。俺の生活はホントに変わったよ」

スパイクTVで生放送されるUFC系の大会、『アルティメット・ファイト・ナイト』(以下『UFN』)で

一昨年から4連勝し、昨年10月には本戦初出場して弘中を下し、この3月3日のUFC68では元UFC王者のデイヴ・メネーを倒したイラク帰りの海兵隊員ルイジ・フィオラヴァンティからチョークで一本勝ち。これでUFC系の大会で5連勝したことになる。最近、AKAの柔術コーチ、デイヴ・カマレロから柔術茶帯も授かり、〝UFCウエルター級のネクスト・コンテンダー〟との呼び声も高いフィッチだが、「タイトル挑戦はまだ先だろう」と言う。

「王者のジョルジュ・サンピエールは4月に『TUF』シーズン4優勝者のマット・セラとやるし、そのあとに元王者のマット・ヒューズと再戦の話もある。俺の番が来るまで1年近くかかるかもしれない。だが、それも悪くないさ。試合のオファーは次々に来てるし、勝ち続けるとどんどんファイトマネーが上がるからね」

公表されているUFC68でのフィッチのギャラは2万8000ドル(約330万円)だが、大会ベスト・サブミッション賞やベストKO賞を獲ると、2万ドルが追加される。これ以外にもスポンサーからのお金などが入るので、年に3試合のペースで

Jon Fitch
(ジョン・フィッチ)

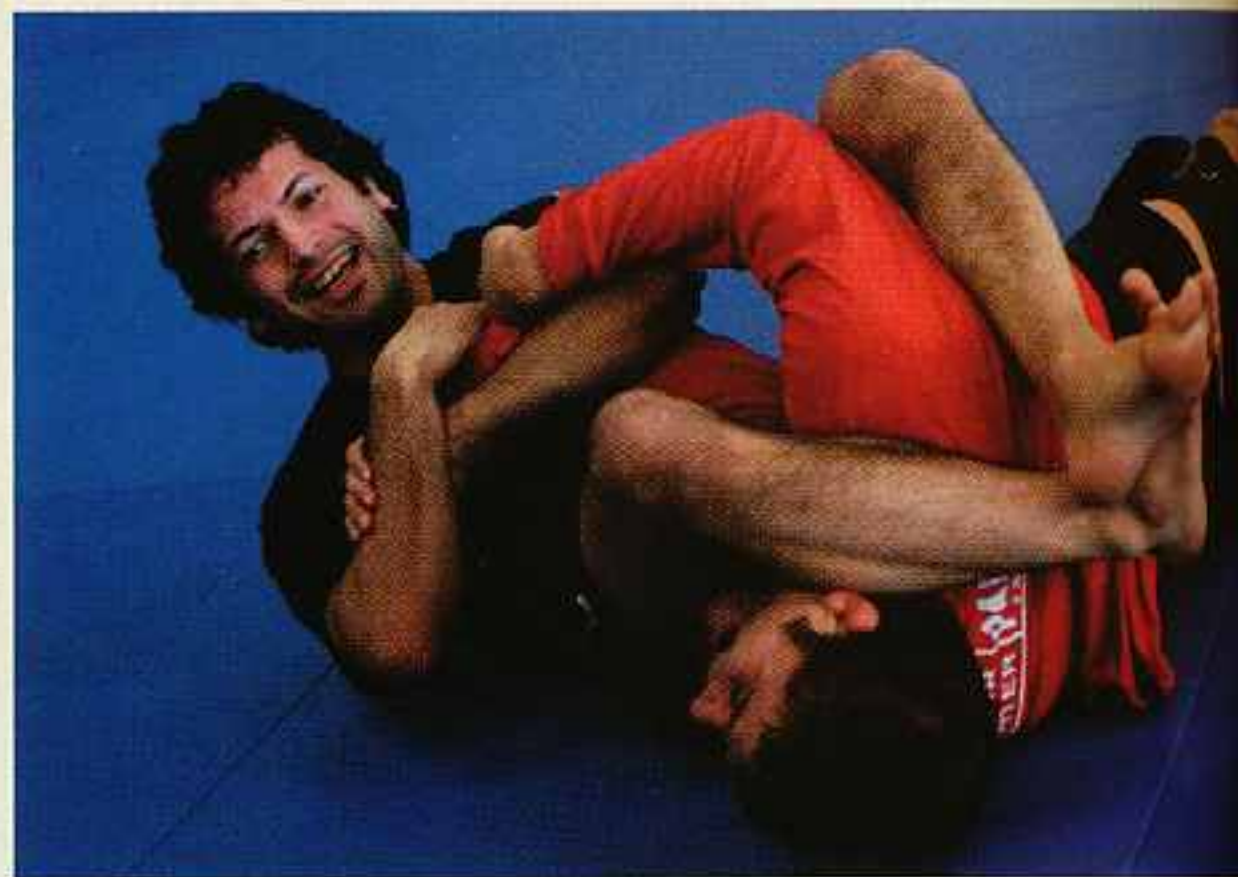
なんとブライアン・ジョンストン軍団の一員として『X－1』にも参戦していたジョン・フィッチは我々の取材中に50万ドルのマンションの鍵が到着する嬉しいハプニング。この晴れやかな笑顔はどうだ! 183cm、77kg、29歳。

新たなるMMAのメッカ
北カリフォルニア
ベイエリア
現地初潜入
徹底大特集

Mike Swick
(マイク・スウィック)

誇らしげに愛車を見せてくれた現在アンデウソン・シウバがベルトを持つUFCミドル級で大活躍中のマイク・スウィック。"Quick"のニックネームを持つ。リアリティショー『TUF』シーズン1に出演した人気者だ。185cm、84kg、テキサス出身の27歳。

Josh Koscheck
(ジョシュ・コスチェック)

こちらも『TUF』シーズン1出身のジョシュ・コスチェック。AKAで取材していたときは最も精力的にトレーニングに取り組んでいた一人だ。178cm、77kg、ペンシルバニア州出身の29歳。

試合をしていき、さらにファイトマネーが上がるなら、年収1500万円以上になるだろう。

昼間の仕事を辞めて フルタイム・ファイターに

　AKAにはスウィックと同様『TUF』シーズン1出身のファイターがいる。ジョシュ・コスチェックとボビー・ソースワースだ。レスリングの全米学生王者だったコスチェックはほとんどレスリング技術しか知らぬまま『TUF』に出場し、クリス・リーベンを倒すが、準決勝で柔術家のディエゴ・サンチェスに敗れた（サンチェスは決勝でケニー・フロリアンを倒してミドル級優勝）。その後、『TUF』決勝大会の前座や『UFN』にも出場して6勝1敗の戦績をあげ、4月7日のUFC69で本戦出場のチャンスをつかんだ。しかも相手は『TUF』で敗れた憎きサンチェスである。

UFC人気の影響で業界全体が活況に！ ファイターに専念して選手はさらに強くなる

「『TUF』で2年前にやったときはレスリング以外の練習をほとんどしてなかったから負けたが、いまは柔術も紫帯になったし、打撃もうまくなった。この2年であらゆる面で俺の技術は向上し、別のファイターに生まれ変わったんだ。タフな試合になるだろうが、それでも間違いなく勝てるはずだ」

　実際にコスチェックのスパーやミット打ちを見たが、確かに『TUF』の頃とは見違えるほどパンチがうまくなっていた。

　このコスチェックも『TUF』に出てから人生が変わった、と言う。

「仕事をしないで試合に集中できるようになった。前は大学でレスリングのコーチをしてたけど、いまはフルタイムで自分の練習に専念できる。UFCの人気がどんどん上がって、俺も世間の注目を浴びるようになったから、普段の言動にも気をつけなきゃいけなくなったけど、悪いことじゃない。格闘技が人気スポーツになったってことだし、これほどの人気になるなんて、俺自身凄く驚いてるんだ。おかげでこの業界にお金が入ってくるようになったわけだし、新しいファンも増えた。UFCだけじゃなく『PRIDE』や『ストライク・フォース』などすべての大会に大成功してほしいよ。それによってMMAそのものの人気が高まってメジャー・スポーツになれば、俺もいま以上に稼げるわけだからね」

　2月の『PRIDE』アメリカ大会で五味の対戦相手の候補にも挙げられていたジョシュ・トムソンもこのAKAで練習をしている選手で、次のストライク・フォースでメイン登場が予定されているが、やはりMMA界の活況で生活が変わったと語る。

「僕は以前は不動産屋で住宅ローンとか経理担当の仕事なんかをしてたんだけど、ファイトマネーがよくなって試合に専念できるようになった。業界全体がよくなってる。UFCもライト級が復活し、軽量級の選手にもチャンスが増えた。『ストライク・フォース』は僕を他の大会でも闘わせてくれるから、エリートXCや『PRIDE』や『ボードッグ』など、いろいろな大会で活躍したいね。大事なことはUFCのように一つの大会だけが巨大で独占状態にあるんじゃなくて、いろんな大会があることさ」

UFCファイター以外でも 活況の恩恵は受けられる

　UFCに出続けている選手でなくても、業界活況の恩恵にはあずかっている選手は多い。テキサス出身のポール・ブエンテロは、アンドレィ・アルロフスキーとUFCヘビー級王座を争ったこともある選手で、5年前からAKAで練習している。試合の2ヵ月前になると、家族を故郷に残してこのジムにやってきて特訓に励む生活だ。

「AKAは大好きだよ。KOTC（キング・オブ・ザ・ケージ＝老舗ローカルMMA）のチャンピオンになれたのも、UFCでタイトル戦をできたのも、このジムのおかげさ」と語るブエンテロは、05年アルロフスキーに秒殺KOされ、昨年2月のUFC57でギルバート・アルダナをKOして以降、『ストライク・フォース』を主戦場にして、あのタンク・アボットやルーベン・ヴィラリアルをKOしている。

「以前はMMAって言ってもなんのことか誰も知らなかったけど、いまは多くの人が理解してくれてる」

　建築現場の仕事などをしながら試合をしていたブエンテロも、試合だけで食べていけるようになった。

「『TUF』のおかげで、MMAにもの凄く注目が集まった。そしてそれはいまも止まらず、どんどん大きくなっている。これから、いくつかのプロモーションが共同して統一タイトルなんかを作るようになれば、さらに大きくなると思うね」

　巨大プロモーションの協力による、統一タイトルマッチ開催で夢のカードが実現され、さらに一般社会からの注目度が増せば、MMAがベースボール、アメフト、バスケ、アイスホッケーの米4大スポーツと並んでメジャースポーツとなる日も近いのかもしれない。そうなったとき、メジャーリーグのスター選手に負けない、スーパーリッチな格闘家たちが何人も出現することになるだろう。

【07年2月20日／カリフォルニア州サンノゼ、AKAにて収録】

強豪選手同士が週3回行なわれる激しいスパーリングでしのぎを削る！ 階級もおかまいなしで5分間寝技＆立ち技で全力でぶつかり合う。非常にハイレベルな内容だった。

AKAの寝技のレベルが非常に高いのは柔術黒帯デイブ・カマレロの存在が大きい。カマレロが3年前にコーチとして来てから、AKAの選手はMMAでのタップアウト負けを一度も喫していないのだ。

Paul Buentello（ポール・ブエンテロ）

『ストライク・フォース』で活躍中のブエンテロはヘンなサンダルを履いて練習していた。聞いてみたら「つま先立ちを意識するための器具だ。バスケ選手も使ってるぜ」とのこと。188cm、107kg、テキサス州出身の33歳。

Josh Thomson（ジョシュ・トムソン）

イケメンファイター、ジョシュ・トムソンは「PRIDE武士道 其の八」に出場、杉江"アマゾン"大輔から一本勝ちを奪っている。UFCではエルメス・フランカにも勝っている強豪。178cm、73kg、カリフォルニア州出身の28歳。

新たなるMMAのメッカ
北カリフォルニア
ベイエリア
現地初潜入
徹底大特集

サイゴン陥落、壮絶なイジメ体験、
MMAバブルを経て将来はハリウッドスター？

21世紀のジェット・リー

Cung Le
カン・リー

実録ドキュメント

ベトナム難民MMAファイターがアメリカンドリームをつかむまで

アメリカ西海岸アジア系コミュニティで大人気
“闘い”にあふれるこの男の壮絶な半生に震えろ！

『ストライク・フォース』を主戦場にしつつ、『PRIDE』ラスベガス大会にも出場が噂されていたカン・リー。日本のファンにはなじみが薄いかもしれないが、この“まだ見ぬ強豪”の存在はぜひ記憶の片隅にとどめておいてもらいたい。MMAバブルで沸くアメリカにおいて、カン・リーは地位や名声やお金よりも、さらに大きな夢をつかもうとしている。

文／橋本宗洋　通訳／稲垣收　撮影／乾晋也

〝世界最高峰のファイターは日本のリング、とくに『PRIDE』に集結してくるもの〟という常識は、もはや崩れかけていると言っていいだろう。五味隆典がニック・ディアズに敗れたのが、その顕著な例だ。日本のファンにはなじみが薄くても、実力では『PRIDE』トップファイターに匹敵する存在がアメリカにはまだまだいる。現在のアメリカMMAバブルは、だから（我々にとって）ほとんど死語と化していた〝まだ見ぬ強豪〟というロマンの復活でもあるのではないか。そして、そんな〝まだ見ぬ強豪〟の筆頭ともいえる存在がカン・リーである。

リーがMMAデビューをはたしたのは昨年3月10日の『ストライク・フォース』。フランク・シャムロックがシーザー・グレイシーと闘ったことで話題になった大会だ。ここで彼はマイク・アルトマンという選手と対戦、1ラウンドKO勝ちを収めている。その試合内容がまた強烈だった。サウスポーの構えから繰り出す蹴りのスピードはまさに一級品。左ハイキックから右ハイキックという大胆すぎるコンビネーションは、立ち技格闘技でもめったに見られないものだ。圧巻はフィニッシュシーン。バックスピンキックで相手を後退させ、ケージにぶつかりはね返ってきたところへカウンターの右フック。完全に虚を突かれたアルトマンは、失神して前のめりに崩れ落ちた……。

その後、リーは2戦していずれもTKO勝ち。計3連勝でMMAでも一躍、脚光を浴びることとなった。MMAでも？　そう、彼はただのグ

アメリカMMA界の〝まだ見ぬ強豪〟ブレイク寸前のカン・リーに注目せよ！

リーンボーイではない。空手、キックボクシング、中国武術・散打などを経験し、立ち技のプロキャリアは30戦以上。世界タイトルを獲得すること3回、K-1 USA大会のリングにも上がったことがある大物なのである。熱心なキックファンなら、彼の名を一度は聞いたことがあるだろう。ハイキックにバックスピンキック、カカト落としなど派手な（かつ隙が生まれる危険性も高い）技を好んで使うリーは、「**ボクはリスキー・ファイターなんだ**」と言う。また、アメリカの格闘技メディアは彼を〈格闘技史上、最もエキサイティングなファイター〉とたたえた。

リーは1972年5月25日、ベトナムはサイゴンで生まれた。72年のサイゴン……つまりベトナム戦争が泥沼化していた時期に、戦局の焦点となった場所で生を受けたのだ。「**ボク自身の記憶は、まったくないんだけどね**」と前置きしながら、彼は幼少期の凄まじい体験を話し始めた。

「**3歳になる直前、75年の春のことだ。サイゴンが陥落する数日前に、ボクは母方の家族に連れられてサイゴンを脱出したんだよ。銃弾が飛び交う中を、ヘリコプターでね。その後はフィリピンの難民キャンプ暮らし。数ヵ月後に、運よく支援者が見つかって、アメリカに移り住むことができたんだ**」

もちろん、それですべてがうまくいったわけではない。英語が話せず、やせっぽちだったリー少年はイジメの格好の対象だった。

「**ひどい言葉を吐きかけられたり、ツバを飛ばされたり、あげくはボコボコにされてね……。格闘技を始めたのは、そこからなんとか脱出させたいと親が思ったからなんだ。ボクにとっても、イジメは強くなるための大きなモチベーションだった。中学でレスリングを始めてからは、イジメっ子をぶん投げられるようになったよ（笑）**」

高校、大学でもレスリングを続け、全米強化選手にも選ばれたリーは、22歳から散打を修行。さまざまな大会で好成績を収め、プロ格闘家として成功をはたす。ベトナム難民のいじめられっ子から格闘技のチャンピオンへ。そのサクセス・ストーリーは〝アジア系移民のロール・モデル〟と呼ばれ、『JOURNEY OF A CHAMPION』というタイトルでテレビドラマ化。ドキュメンタリーはビデオ発売もされている。04年には〝最も有名なベトナム人格闘家〟として『アジア・エンターテインメント・アワード』を受賞。彼はいちファイターというだけでなく、アジア系移民にとっての希望の星でもあるのだ。第1回『ストライク・フォース』はアメリカでの最高観客動員記録を作ったが、そこにはリーの人気も大きく影響しているという。

「**ボクはベトナム系だけじゃなく、アメリカのアジア系コミュニティ全体から応援されてる。凄く誇りに思うよ。ボクの活躍が、アメリカに住むアジア人を勇気づけられるんだとしたら、こんなに嬉しいことはないね**」

今年35歳のリーだが、MMAファイターとしての前途も有望だ。散打をベースとした華麗でハイレベルな打撃はもちろん、レスリングでの実績もあるだけにテイクダウンへの対応にも不安はない。そもそも散打は投げも認めた競技。そのポテンシャルを最大限に活かすには、むしろ総合のほうが向いているのかもしれない。「**ルールだけじゃなく、タイミング的にもMMA転向はベストな選択だったと思うよ**」とリーは言う。「**UFCのブームで、MMAのファイトマネーは上がる一方だからね**」。

Cung Le

1972年5月25日、ベトナム・サイゴン出身。ベトナムを脱出後、アメリカへ。レスリング、散打をベースにMMAでは『ストライク・フォース』で3戦3勝（3KO）と勝ち星を重ねている。サンノゼ近郊の「CUNG LE MARTIAL ARTS TRAINING」でジム生も指導している。178cm、83kg。

ファイターとしての当面の目標は、打倒フランク・シャムロック。かつては練習をともにした二人だが、いまや完全なライバル関係だ。

「**次の『ストライク・フォース』でフランクとフィル・バローニが試合をする予定なんだけど、フランクはラジオで〝フィルを倒すなんて、カン・リーに勝つくらい簡単だ。公園を散歩するのと変わらない〟なんて言ってたんだよ。なら実際に試してもらおうかってね。〝カン・リーがオレと闘うには、もっと経験が必要だ〟なんてフランクは言ってるけど、それはボクのことをもっと研究したいからだと思うよ。なにしろボクのMMAファイトは、全部1ラウンドで終わってるから**」

フランクに勝つという目標を達成した後には『PRIDE』出場という道のほかに、もう一つの道も見据えている。

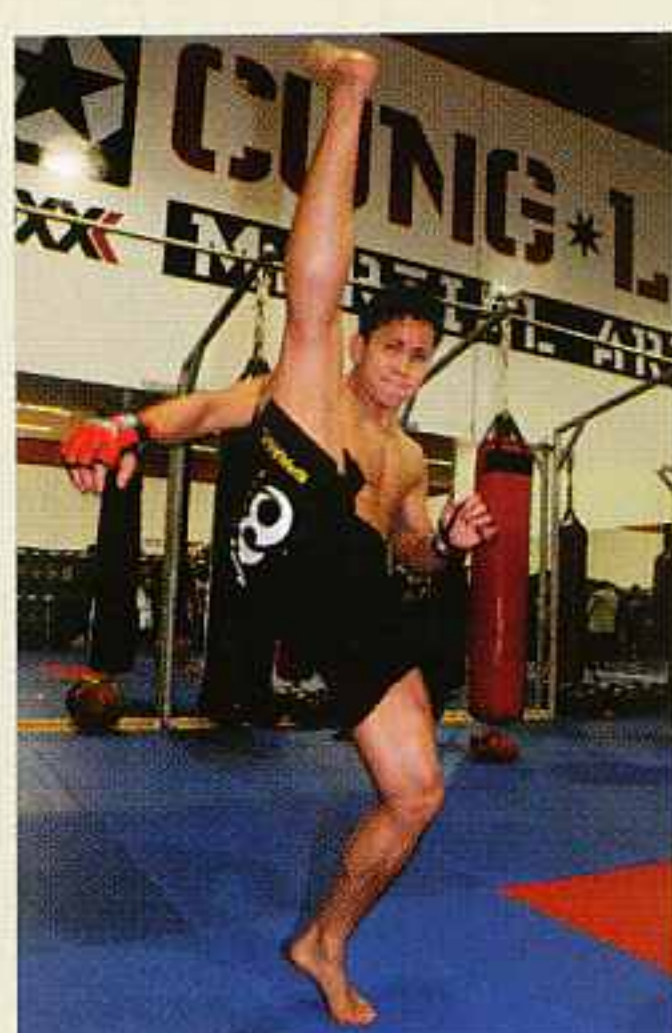
「**迷いもあるんだけどね……**」

もう一つの道とは俳優業。10年ほど前から映画のスタントマンを務めてきた彼は、その業師ぶりを見込まれ「スタントじゃなく、俳優として出演してほしい」というオファーを受けていたのだという。

「**ただ、当時は演技がからっきしでね（笑）。でもアクター・スクールに通って、なんとかなるようになってきた。実際、今年はボクの出る映画が2本、公開されるんだ**」

世界最大の映画情報サイト『IMDb（インターネット・ムービー・データベース）』でも、Cung Leの名を見つけることが可能だ。「**アメリカで最初のMMAをテーマにした映画だよ**」とリーが言う『Never Submit』では敵側のトップ役。共演にはケン・シャムロック、ヴァンダレイ・シウバ、マウリシオ・ルア（ショーグン）、アンドレィ・アルロフスキーの名も掲載されている。『Blizhny Boy』では出演クレジットの堂々トップ。デビッド・キャラダイン、エリック・ロバーツ、ゲーリー・ビュシーにケリー・ヒロユキ・タガワ、ボロ・ヤン（ヤン・スエ）という共演者からしてスケールはB級だが、キャリアのスタートとしては上々だろう。

まして現在のハリウッドは、ジャッキー・チェンやジェット・リーことリー・リンチェイ、渡辺謙などアジア系俳優の活躍が目覚しいのだ。「**ジャッキーはもう50代だし、ジェット・リーだって大ベテラン。その後釜はボクかな……なんてね**」とリー。次世代のアジアン・アクションスターとして彼にスポットが当たる可能性は決して低くない。

「**マネージャーは〝映画でも格闘技でも、稼げるほうに行けばいいさ〟って言うんだけどね**」と語るリーだが、我々からすれば彼のアグレッシブでド派手な試合を一回でも多く見たいもの。UFCどころかハリウッドともタレントを奪い合うことになるわけだから『PRIDE』が費やす労力も並大抵ではないが、リーにはそうするだけの価値が間違いなくある。

中国武術・散打がベースにあるので打撃の切れは超一流。ソバットやかかと落しなど変幻自在の蹴りを使いこなす。カン・リーもまた前ページで紹介したAKAでトレーニングを積んでいるのだ。

新たなるMMAのメッカ
北カリフォルニア
ベイエリア
現地初潜入徹底大特集

生死の境をさまよった闘病生活から生還！

偉大なる先駆者から見たアメリカMMAバブル！

UFC、新日本プロレス、UFOで活躍した闘魂遺伝子は道場経営中

Brian Johnston

ブライアン・ジョンストン

日本プロレス界とベイエリアを結ぶミッシングリンクにサンノゼで遭遇

AKA会長ハビア・メンデスさんから連絡先を教えてもらい、サンノゼの中心地から車で約30分のところにあるブライアン・ジョンストンがやっているジムCOMBAT SPORTS UNLIMITEDを訪ねた。現在は後進の指導に専念しているジョンストンにアメリカMMAバブルをどう見ているか聞いてみた。

聞き手／坂井ノブ　通訳／稲垣收　撮影／乾晋也

ＵＦＣから新日本プロレス、果てはアントニオ猪木が提唱した世界格闘技連盟ＵＦＯまで横断するフットワークと順応性の高いファイトで活躍したブライアン・ジョンストンに、カリフォルニア州サンノゼ近郊で遭遇することができた。

いま急激に成長するベイエリア、とくにサンノゼのＭＭＡシーンを築いたのは、間違いなくこの偉大なる男の功績だ。そして誰も注目していないうちから日本とベイエリアをつないでいたという事実に、本誌はあらためて注目したい。03年、プロレスマスコミには酷評され、格闘技マスコミには黙殺され、一部ＷＪファンのみがいろんな意味で熱狂した金網バーリ・トゥード大会『Ｘ－１』。そこにブライアン・ジョンストンは無名な選手たちを数多くブッキングした。あれから約４年という歳月が流れ、その目に狂いがなかったことは証明された。

ジョンストンがいなければ現在の藤田和之はいなかったかもしれない。『ＰＲＩＤＥ』参戦時にＡＫＡでトレーニングする道を開いたのはジョンストンだった。01年８月、最初の藤田vsミルコ戦の直前。全幅の信頼を寄せていたジョンストンが急性脳幹発作で倒れるという緊急事態の中、藤田はリングに上がった。そして、ミルコとの再戦で藤田はブライアンのガウンを身にまとってリングに上がった。それほど両者の結びつきは強いのだ。そこには男同士の熱い信頼関係がある。

あの一戦がなければ『ＰＲＩＤＥ』やＭＭＡが日米でこれほど盛り上がることもなかったといっても過言ではない。そんな時代が大きくうねりを起こす、そのど真ん中にいたキーパーソンがブライアン・ジョンストンなのだ。

——今日はお会いできて光栄です！　こちらで取材を重ねていくにつれ、あなたが日本のプロレス界とベイエリアＭＭＡ界をつないだ重要な存在であることが、よくわかりました。

ジョンストン　そうかい（笑）。まあ、私はずっとこのサンノゼで生まれ育ってきて、ずっとここで暮らしてるけど、最近はとくにＭＭＡの規模が大きくなってるのを実感しているよ。

——あなたとドン・フライが新日本プロレスに参戦して、ＭＭＡのスタイルをプロレスファンに知らしめたし、プロレスラーがＭＭＡに挑戦する道を切り開きましたよね。

ジョンストン　イエス。フジタ（藤田和之）やイシザワ（石澤常光）はホントに素晴らしいアスリートで、プロレスだけじゃなくＭＭＡファイターとしても素晴らしい素質があったからね。

——03年の『Ｘ－１』というイベントにブライアン・ジョンストン軍団を率いて来日したのが、いちばん最近の来日だと思うんですが。

ジョンストン　そうだね。あのとき出場した選手たちがいまやＵＦＣや『ストライク・フォース』などの大きなイベントで活躍しているんだ。

——じつはそうなんですね。

ジョンストン　ボビー・ソースワースは『ストライク・フォース』のチャ

ンピオンだし、ジョン・フィッチはUFCに出て活躍してる。彼はいいヤツだよ。「日本に行ってみたい」ってずっと言ってたんだ。

――今日、彼に話を聞いたら『X－1』は自分にとって大きな経験だった」って、あなたに感謝してましたよ。彼みたいに凄くいい選手が来てたんですね。大会自体は非常に酷評されましたけど。

ジョンストン　ああ、本当にひどい大会だった（笑）。大会途中にケージが壊れちゃうんだからね。

――あれは歴史的瞬間でした（笑）。

ジョンストン　フフフフ。私がプロモートしてたら、もっといい大会になっただろう。

――僕も会場に行きましたけど、会場内は凄まじい空気でしたよね（笑）。それでも、あのときいい試合をしていた選手が何人かいて、彼らがいまアメリカのMMAの最前線で活躍して大金を稼いでるのを目の当たりにすると、彼らをブッキングしたあなたの目は間違っていなかったとあらためて思いました。

ジョンストン　彼らは凄くいいよ。とくにフィッチはずっと「チャンピオンになりたい」という気持ちを持って闘っているから成功してほしいよ。

――日本の選手をこちらに連れてきていた時期もありますよね？

ジョンストン　イエス。フジタやイシザワをAKAに連れて行って、一緒にトレーニングしていたんだ。フジタは『PRIDE』で再び闘っていくのかい？　もし私の力が必要なら、こっちに来てもう一度、一緒にトレーニングすればいい。

――G－EGGSで一緒だった永田（裕志）さんがエメリヤーエンコ・ヒョードルやミルコ・クロコップと対戦したことはご存知ですか？

ジョンストン　いや、知らないよ。

――そうなんですか。どちらも秒殺でKO負けでした。

ジョンストン　おお、ユージ……そうなのか。ここに来てしっかりトレーニングすればよかったのに。

――そうですよね（笑）。伝えておきます。あなたはいまここでジムをオープンしてるんですね。

ジョンストン　ああ、ここで何人かのMMAやキックボクシングのファイターをトレーニングしているよ。プロレスラーになりたいという選手はあまりいないけどね。オープンしてから9ヵ月になるよ。

――モハメド・アリのポスターがありますね。

ジョンストン　ああ、イノキサンの引退試合でアリに会ったんだ。大ファンだから感激したよ。私にとってアリはヒーローだ。そしてイノキサンも。イノキサンは私にいろんなキャッチ・レスリングの技術を教えてくれたんだ。

――そうだったんですね。当時はドン・フライと日本に来ていました。

ジョンストン　ああ、いまでもグッド・フレンドだよ。彼はいまアリゾナ州ツーソンに住んでいるんだ。IFLのコーチをやってるよ（※注＝都市別対抗MMA団体IFLは各チームにビッグネームがコーチに就任している。フライはツーソン・スコーピオンズのコーチ）。いつかは自分もIFLでコーチをやりたいね。

――いいですねぇ！

ジョンストン　いまは選手の育成に専念していて、いずれはまた日本にも選手を連れて行きたいよ。ちょっと時間がかかるかもしれないけどね。こことかAKAでコーチをしてるゲーリー・オーウェンスという選手は『ストライク・フォース』にも出場している。UFOに出ていたエリック・オルリッチを覚えてるかい？　彼がここでコーチもやってるんだよ。

――ビッグバン・ベイダーUFOやイゴール・メインダートと闘った選手ですね。そんなところでつながってるんですか！　ベイエリアは日本のマット界と縁が深いなぁ。いま『PRIDE』の試合は観てますか？

ジョンストン　ああ、PPVで観ているよ。そのほうが安上がりだから（笑）。

――ラスベガスまで行くとけっこうお金かかりますからね（笑）。

ジョンストン　アメリカではUFCのほうが規模は大きいけど、ヘビー級は『PRIDE』のほうがいい選手が多いと思う。

――93年にUFCがスタートする前から格闘技に取り組んでいたあなたにとって、いまのこの業界の成功はどのように映ってるんですか？

ジョンストン　アメリカのMMAの業界は大きなターニングポイントにさしかかっているよ。規模がどんどん大きくなってお金のことばかりがクローズアップされているけど、大事なのはハートの部分なんだ。武士道精神を重んじてやっていくことが大事だよ。私はこのジムで技術だけじゃなくて、そういう精神も教えていきたいと思ってるんだ。

――なるほど。

ジョンストン　（真顔で）みんな私にお金を払うべきじゃないのか。

――へ？

ジョンストン　冗談だよ（笑）。

――ああ、びっくりしたぁ〜（笑）。

ジョンストン　いまのMMAの隆盛はハッピーだよ。これからもいろんなかたちで関わっていきたいね。

――現在はかなり体調もよくなってるんですか？

ジョンストン　ああ、どんどんよくなってるよ。

――AKAのハビア・メンデス会長は「ブライアンはリハビリ中に何度転んでも、笑って立ち上がる真のファイターだ」とおっしゃってました。

ジョンストン　いまもしょっちゅう転んでるよ（笑）。そんなことでいちいち落ち込んでいられない。笑っていられるというのが大事なんだよ。そういう気持ちでいれば道は開けるよ。

――「道はどんなに険しくても笑いながら歩こうぜ」という猪木さんのポエムを思い出しますね。

ジョンストン　うん。イノキサンは私の師匠だからね（ニッコリ）。

［07年2月21日／カリフォルニア州サニーヴェイル「COMBAT SPORTS UNLIMITED」にて収録］

MMAの規模は大きくなってるけど大事なのはお金じゃなくてハートなんだ

Brian Johnston

1969年7月28日、カリフォルニア州サンノゼ出身。ボクシングやアマチュアレスリングで好成績を収め、AKAでトレーニングを開始。過去UFCに二度（第9回と第11回）出場している。97年には新日本プロレスに参戦し、ドン・フライと大暴れ。UFOにも参戦し、新日本では格闘集団G-EGGSの一員にもなった。01年8月、ミルコ戦前の藤田の控室で急性脳幹発作で倒れる。しかし不屈の精神でリハビリに取り組み、自分で歩き話すところまで驚異的に回復している。

サンノゼで訪れた他のジムと同様に、ブライアンのジムにはMMAの練習に取り組む男女が多数在籍している。スタッフやインストラクターのサポートを受けながら、地元で格闘技を根付かせようとしている。子どものためのコースもあり、幅広い年齢層を受け入れていくつもりだ。

『X-1』とは何だったのか？

さあ、次のページではベイエリアと日本マット界を結ぶ脅威のイベント『X-1』を振り返ってみたい。現在では単なる笑い話か、悪い冗談としか思われていない『X-1』だが、そこではいったい何が行なわれていたのか？　この謎だらけのイベントの実態に迫る！

早すぎた大津波
ベイエリア&金網MMAを いち早く日本に紹介した『X－1』を再評価せよ！

日本のマット界を大きく飲み込むまでに成長を遂げているアメリカMMA。
そこでいま急速に台頭しているのが
すでに紹介済みのAKAを中心としたベイエリアの選手たちだ。
彼らの源流をたどっていくと、
03年9月6日に開催された『X－1』というイベントにブチ当たる。
「日本を飲み込む大津波の震源地は『X－1』だった!?」
という大胆すぎる仮説を検証してみたい。

文／坂井ノブ　試合写真／丸山剛史

金網が壊れ、中嶋勝彦がデビューした
伝説のトンデモMMAイベント！

新たなるMMAのメッカ
北カリフォルニア
ベイエリア
現地初潜入
徹底大特集

長州力と越中詩郎も観戦！　テレビ解説で北斗晶も登場しているが、この大会以降、健介ファミリーと長州の関係は断絶している。

ジョンストン、マサ斉藤、永島氏が中心となった『X-1』の「X」は無限の可能性や未知のもの、という意味が込められていた。

サンフランシスコ～サンノゼにまたがるベイエリア地区は日本マット界との結びつきが強い。

ハビア・メンデス会長とブライアン・ジョンストンのインタビューでは日本マット界との交流が語られているが、その中でも大きなターニングポイントとなった03年9月6日の『X－1』を本誌は再評価してみたい。

この『X－1』は新日本プロレスを退団した長州力、佐々木健介、鈴木健想、フロントの永島勝司氏が旗揚げしたプロレス団体WJがプロモートしたイベントだ。当初は〝プロレス界のど真ん中を目指す〟〝目ン玉の飛び出るようなストロングスタイル〟といった威勢のいい看板を掲げたものの、同年3月の旗揚げ戦から半年間で迷走に迷走を重ねた同団体は、ギャラの未払いなどもあり死に体の状態だった。

WJはストロングスタイルを標榜したにもかかわらず、大仁田厚のデスマッチを組んだり、長州vs天龍の開幕シリーズ全戦シングルマッチが尻切れトンボで終わったり、長州力のK－1参戦（相手はピーター・アーツ）などが水面下で企画され、一部の物好きなマニアだけがネット上を中心に異様な盛り上がりを見せたものの、興行的には壊滅的な状態だった。

そして最後にたどり着いたのが、「プロレスラーが出場する金網バーリ・トゥード」という起死回生の企画だった。VTに否定的な立場だった長州力をプロデューサーに据えるという時点でかなり無理があったこのイベント。佐々木健介のVT戦や中嶋勝彦のデビュー戦という目玉はあったのだが、ここで起用されたのがブライアン・ジョンストンだった。

一時は生死の境をさまよったジョンストンだったがこの頃には一人で歩けるまでに回復しており、〝逆方向のど真ん中〟のリングに多くの選手をブッキングして送り込んだのだった。WJサイドのマサ斉藤とジョンストンが中心となって、このイベントは進められていく。

いまでこそ日本でもケージの大会

『X―1』という名の打ち上げ花火が散り 長州力はコメントすら出さずに立ち去った

が開催され、アメリカの格闘技用品の通販カタログでもケージが販売されていたりするのだが、03年当時はケージといえば一大事だった。WJも「金網VTということなので専用のケージビルダーを用意します！」とアナウンスしていたが、いざ試合が始まると選手が激突するたびに金網が揺れて、そのたびにセコンドが手で支えるというお粗末なもの。しかも、そのケージビルダーは第1試合に出場している選手だった。そのほかに出場した選手も無名な若手ばかり。一般的には中嶋勝彦はあっけない秒殺KOで勝利を飾り、健介が拳を骨折しながら勝利を挙げたこと以外は、取り立てて見るべきところのない大会という評価だった。

当然のことながら興行的には大苦戦に終わり、横浜文化体育館はガラガラに。リングサイドで試合を見守っていた長州力はマスコミにコメントすら残さず会場をあとにする始末（後日インタビューで「問題が多かった」と認めている）。現〝プロレス村の若頭〟金沢GK克彦編集長（当時）が『週刊ゴング』で「VTをなめるな」と表紙に打つほどの大惨事となったのだった。WJサイドはジョンストンと事前の打ち合わせもろくにせず、どんな選手かビデオも取り寄せずに参戦選手を決めるという、いまとなっては到底考えられないようなずさんさで大会を運営していたのだから、成功するわけがないと、いまになって冷静に考えればわかる。あの当時は、誰もが一刻も早く忘れ去りたい悪夢のイベントだったのだ。

しかし、『X―1』という名の交差点で日本のプロレス界とベイエリアがすれ違ってから4年の歳月が流れ、いま振り返ってみると当時の無名選手の中にはダイヤモンドの原石がゴロゴロしていたことがわかる。

この大会のメインを飾ったのは、のちに『PRIDE』にも出場するダン・ボビッシュ（右）。さらにあとには『ハッスル』にも出場した。

UFCで活躍中のジョン・フィッチは「金網が壊れてビックリしたよ」と笑いながらも、「あの大会は当時の僕には大きな意味があった」と振り返ってくれた。名もない若手選手にとっては海外で試合ができることは一大事だろう。しかも、無名選手同士の試合だったがフィッチはアグレッシブなファイトを繰り広げ、ジャーマンスープレックスを繰り出して、観客を沸かせてみせた。あそこで得た経験をもとにいまや50万ドルのマンションを買うまでの選手に成長したと思うとじつに感慨深い。このほかにも、現在『ストライク・フォース』で活躍中のダニエル・ピューダー（WJ参戦後にはWWEのリアリティショー『タフ・イナフ』にも参加していた）やボビー・ソースワースといったAKAの選手は『X―1』のリングで試合をしていずれも勝利を挙げている。

ちなみに、WJに一時在籍していた（『X―1』のときにはすでに退団していた）レスリング出身の福田力（現KILLER BEE）は、WJ入団時に福田政二WJ社長と長州力の名前を併わせ持つことから「WJの申し子」と永島氏から紹介されていた。その福田が現在「日本にはあまり大きな選手がいないから」とAKAに出稽古しているというのもじつに興味深い因縁だ。

ちなみに健介は『X―1』で手を骨折するというアクシデントに見舞われたが、その後、フリーとして大暴れ。中嶋勝彦とともに「健介オフィス」として旗揚げするまでになり、長州以上にプロレス界のど真ん中に位置している。WJは崩壊したが、リングサイドで見守っていた長州力は新日本プロレスの現場監督になり、越中詩郎はご存知のとおりブレイクの真っ最中だ。結局、あそこにいた誰もがハッピーな結果になっているというのは運命のイタズラか。

このあとダニエル・ピューダーはWWE『タフ・イナフ』でカート・アングルと激突している。

確かにあの当時はさほど選手たちのレベルは高くなかったかもしれない。だが、AKAのファイターたちは急成長している。もともとボクシングやキックボクシングのジムだったAKAは立ち技のコーチングには長けており、そこにハウフ・グレイシーから柔術黒帯を授かったデイブ・カマレロが3年前からコーチに来たことで寝技のレベルが上がり、05年には『TUF』が始まったことでアメリカ全土でMMAの人気が急上昇。その勢いに乗ってジョン・フィッチやソースワースがアメリカMMAの最前線で活躍しているのだから、現在の状況を見れば『X―1』でブッキングを一任されたジョンストンは、真摯な目で選手を選びベイエリアのダイヤモンドの原石を日本に紹介していたということがよくわかる。

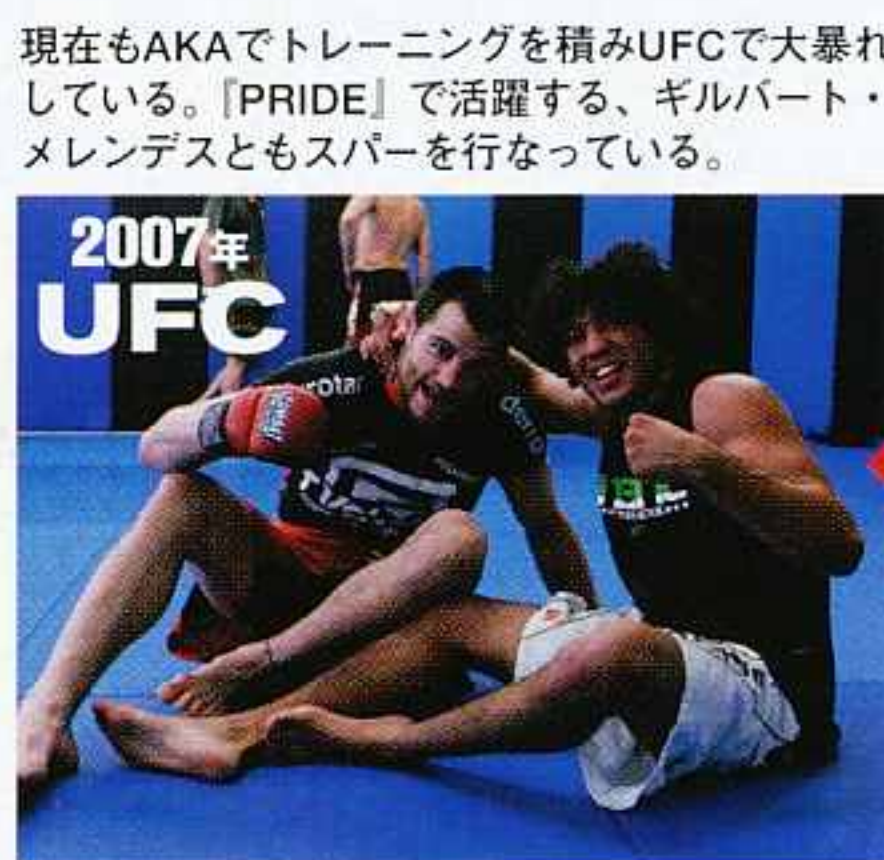
『X―1』という打ち上げ花火が壮絶に散った後、WJもほどなくして崩壊する。もう二度とあんないい加減な金網VTが開催されることはないだろう。しかし、ずさんであったがゆえに『X―1』は未来への可能性を示すことができた。いま日本マット界を飲み込む大津波の震源地、いやその地下に潜むマグマのような大会だったのかもしれない。

ジョンストンはベイエリアの有望なダイヤモンドの原石を来日させていた

『X―1』ファイターはいまやアメリカMMA界で大活躍中！

2003年 X-1

ジョン・フィッチの試合前にケージが壊れ、修理するというハプニングが発生するも、試合ではジャーマンスープレックスを炸裂させてTKO勝利を挙げた。

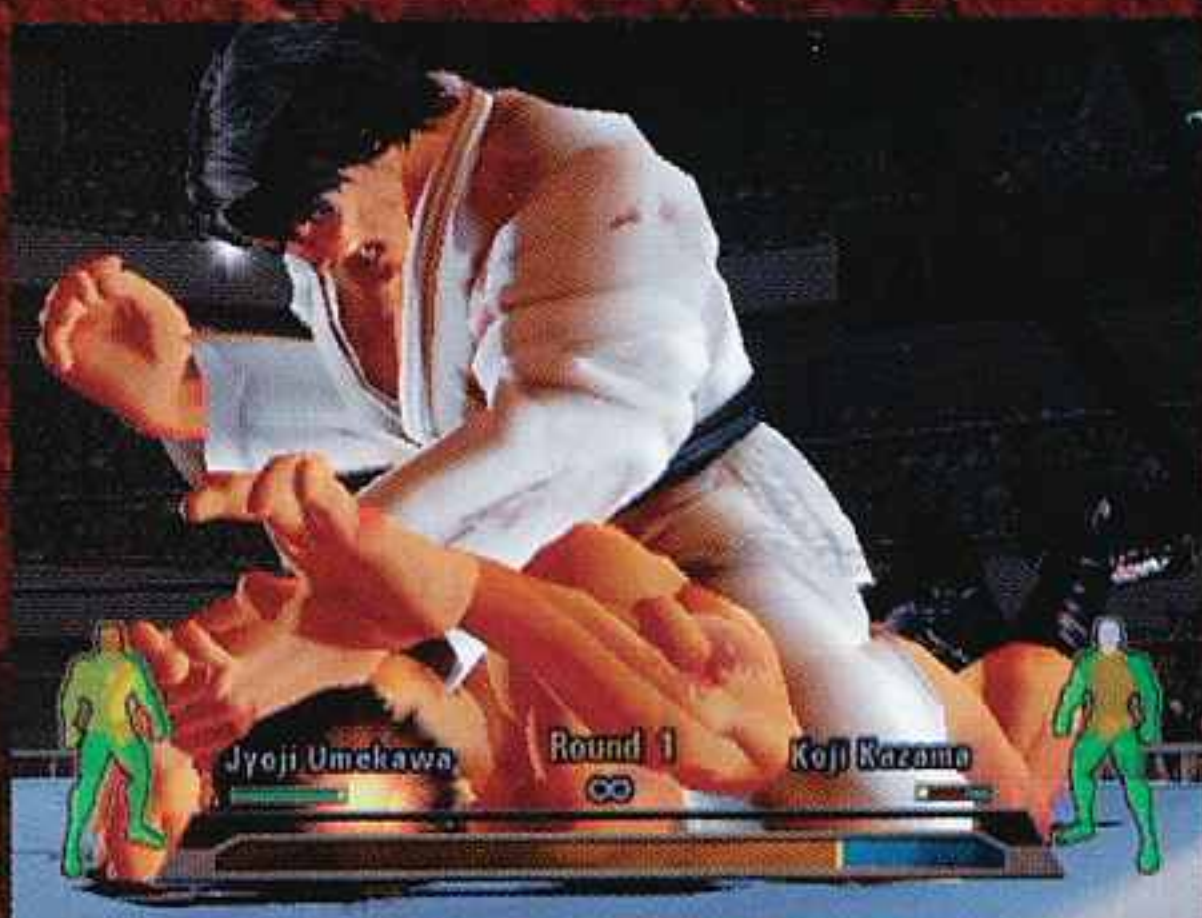
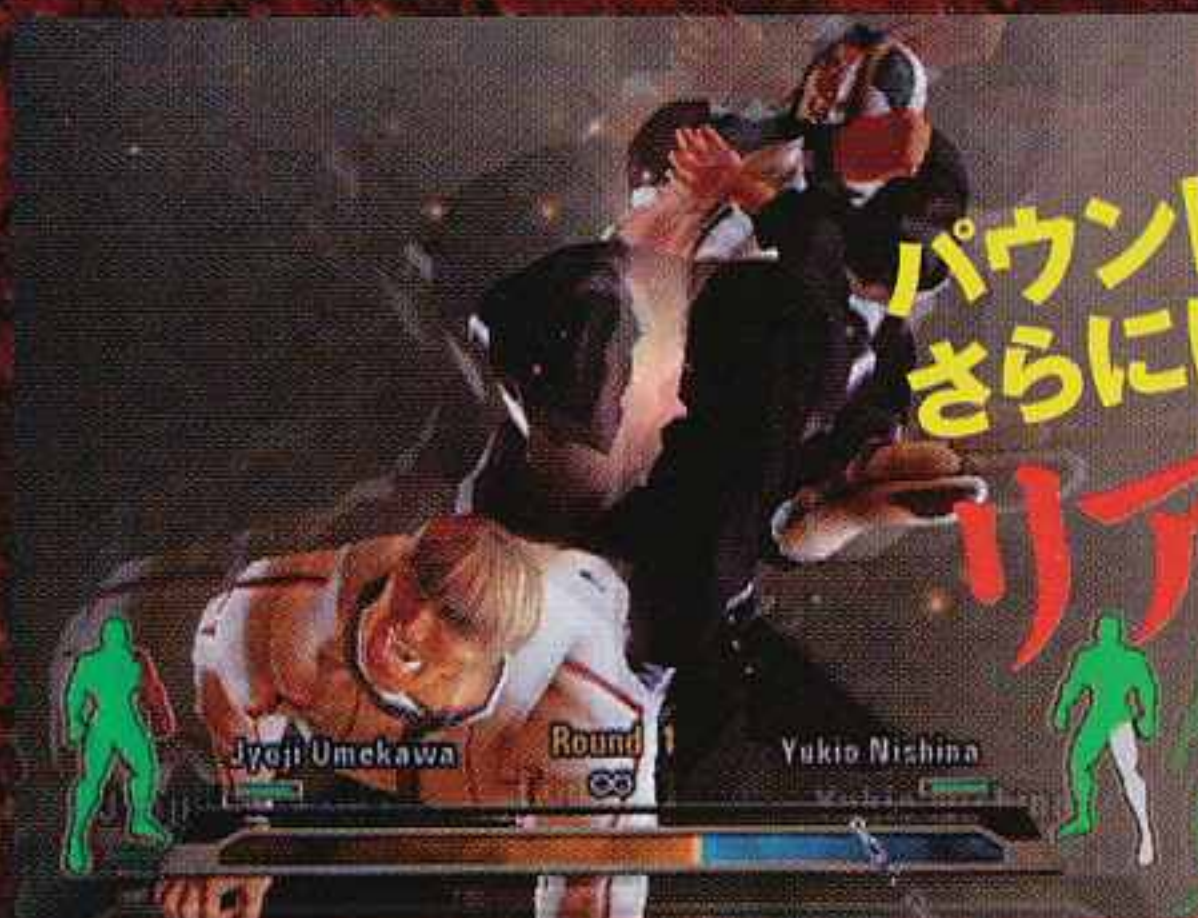
2007年 UFC

現在もAKAでトレーニングを積みUFCで大暴れしている。『PRIDE』で活躍する、ギルバート・メレンデスともスパーを行なっている。

2003年 X-1

『X-1』のセミファイナルに出場したソースワースは『X-1』インターコンチネンタル王座決定戦で、2ラウンドでTKO勝利。

2007年『ストライク・フォース』

ボビーと談笑しているのは『X-1』参戦予定もあったポール・ブエンテロ。二人ともAKAで練習を積み『ストライク・フォース』で活躍中だ。

パウンドからヒザ十字、さらには超サッカーボールキックまで! リアルすぎてヤバッ!!

海外武者修行を終えた梅川丈次の強烈なマウントパンチが炸裂! “最強のシステム”で相手の肉体はおろか、精神まで砕くッ!

ブラジリアン柔術を習得した梅川のヒザ十字に悶絶! “柔術マジシャン”ノゲイラのスピニングチョークだってお手のものだ!

こんなサッカーボールキック、食らいたくねぇ! リアルすぎて怖いぐらいのグラフィックで見てるだけでも大興奮間違いなし!

もちろん全部シュート!

見てみぃ、不敵な笑みを浮かべた力王山のシュートポーズ! あたりまえですが、『餓狼伝』の闘いは全試合ガチンコですよぉぉ!!

激闘後には結果が雑誌記事に!!

なんと、トーナメントor団体戦で優勝すると、その試合結果がすぐに雑誌記事になりドカンと報じられるのだ。もちろん、試合内容からフィニッシュホールドまで対決ごとに記事に反映されるから驚き。ドンドン勝ちまくって誌面を飾りまくるんだ〜!

狼伝』で決めろ!!

打倒・丹波文七! 新キャラクターも続々登場!

力王山

タフな肉体と圧倒的な存在感を誇る伝説のプロレスラー。普段はプロレスのリングで闘っているが真剣勝負での強さは誰もが認めるところ。プロレス技はもちろんのこと、かつて鍛えた相撲技も得意としている。

梅川丈次

プロレスラー梶原に敗れ、放浪中の丹波文七が出会った格闘家。組み技を得意としていたが、文七に敗れたのをきっかけに海外に渡り、さまざまな流派に触れる。その中で習得したのがノゲイラでおなじみのブラジリアン柔術だ。

椎名一重

国産総合格闘技である日本拳法の使い手。打撃にコンビネーションという発想はないが必殺の直突きは相手を一撃でKOする力を持つ。組み打ちも心得ており、なんでもありのルールなら負けるはずがないと豪語する。

工藤建介

北辰館最重量にして北辰オープントーナメント優勝候補の一角。193cm、120kgという巨体を活かした重い打撃技を得意とし、相手を場外へ吹き飛ばす下突きや、一撃で脳震盪を狙える掌底を必殺武器としている。

GAROUDEN 餓狼伝 Fist or Twist

餓狼伝とは?

1985年、自身も熱心な格闘技ファンである夢枕獏氏による長編ハードアクション巨編として『小説推理』で連載スタート。本格派の格闘小説として話題を集め、谷口ジロー氏による漫画化、実写映画化も実現。1996年からは“格闘漫画のカリスマ”板垣恵介氏による漫画化が実現。原作の魅力を増幅させた板垣版『餓狼伝』が加わり、さらにその世界観は厚みを増し、熱狂的ファンを次々に生み出し続けている現在進行形の人気格闘シリーズ。

原作者・夢枕獏氏も太鼓判!

ホント、マニアックにできてるよぉ!

最強の格闘技とは何か? いつの時代も『kamipro』読者の酒のつまみになっているであろう、永遠に答えの出ないこのテーマ。そんなテーマを追究し続ける傑作格闘コミック『餓狼伝』の新作ゲームが完成した。

説明するまでもないだろうが、『餓狼伝』とは『kamipro』でもおなじみの夢枕獏氏のハードアクション小説を、“格闘漫画界の巨匠”板垣恵介氏が渾身のタッチで漫画化し、現在も『イブニング』(講談社)にて好評連載中の人気作品だ。小説から漫画へ、さらには2005年には『餓狼伝Breakblow』としてゲーム化され好評を博していたが、この度、待望のゲーム化第二弾、PS2ソフト『餓狼伝Breakblow Fist or Twist』としてグレードアップ化に成功し、発売!

前作同様、主人公であり闘いの輪の中心人物でもある丹波文七をはじめ、個性的なキャラクターたちがリアルすぎる打撃、投げ技、関節技を駆使しての闘いがさまざまな場所で繰り広げられる今作品。

このゲームの特徴として、従来の格闘ゲームとは異なり、肉体のダメージだけではなく精神のダメージも重要視されるのがポイント。前作からバージョンアップし、今作では技を食らうと、頭、胸、腕、脚とパーツごとにダメージが蓄積される部位ダメージシステムを採用。実戦

地下鉄から神社まで『餓狼伝』は常在戦場!!

前作同様、さまざまなシチュエーションでバトルが行なわれるのが、このゲームの魅力の一つ。大会場から控室、神社、地下鉄のホームなどなど、喧嘩は場所を選ばないという『餓狼伝』ワールドがここでも再現されている。

夜の神社で松尾象山とマジ対決をする力王山。ガチンコの強さにも定評がある力王山だけに野外でもノー問題!

たまたま通りかかった女の子も口あんぐり! 地下鉄のホームでだって闘います。警察への通報は勘弁してね。

新モード「トーナメント」、「団体戦」を体感しろッ!!

新モードとして「トーナメント」と「団体戦」が追加された今回の『餓狼伝』。部位ダメージとの運動から前の試合で受けたダメージは回復しないため、戦略を練りに練らなければ勝ち上がることはできないぞ! まさにリアル!!

『餓狼伝』のキャラクターがズラリ勢揃いのトーナメントモード。お気に入りのキャラで決勝まで勝ち進め!

5vs5の団体戦も楽しめる。5人抜きを目指すもよし! ダメージを蓄積させチームの勝利に貢献するもよし!

世界最強は『餓狼

痛みを乗り越え、渾身の一撃を決めろ! これが"ファイナルブロウ"だッ!!

「部位ダメージ」の導入により、技を食らうと頭、胸、腕、脚に部位ごとにダメージが蓄積される。ダメージを負った部分を集中攻撃したり、逆にダメージを活かし"ファイナルブロウ"を繰り出したりと戦略性も重要となってくるのがこのゲームの特徴。各部位に限界が来ると「頭蓋骨骨折」という悲惨な結果も待ち受けているのだ……。

ダメージがかさみ破壊寸前の部位を使って叩き込む最後の一撃が"ファイナルブロウ"。その代償は大きい……。

捨て身の一撃"ファイナルブロウ"は通常時よりもはるかに攻撃力が高いが、その結果、頭蓋骨骨折なんて場合も。

さながらに一点集中攻撃で相手の身体とともに、いかに心を折るかなど、戦略性も格段にアップ。さらにはダメージを受け続けた部位での捨て身の一撃"ファイナルブロウ"も新たに加わり、これまで以上にエキサイティングかつスリリングな攻防が繰り広げられることになる。

それだけではない。今作には新モードとして「トーナメント」と「団体戦」が追加され、あなたのお気に入りのキャラクターでトーナメントや団体戦まで楽しめることになったからたまらない。

闘いの場は、超満員の大会場から、路上、地下鉄のホーム、野原などなど、まさに『餓狼伝』ワールドといえる"喧嘩には場所を選ばない"という設定だ。

ブラジルで武者修行を経て、丹波との決着をつけるために帰国した梅川丈次や、どこかで見覚えのあるプロレスラー力王山など、漫画のみならず小説でも活躍したキャラクターも新たに登場。

己の拳と関節を駆使し、世界最強の男を決める! それが『餓狼伝Breakblow Fist or Twist』だ! もう、買うしかないって!!

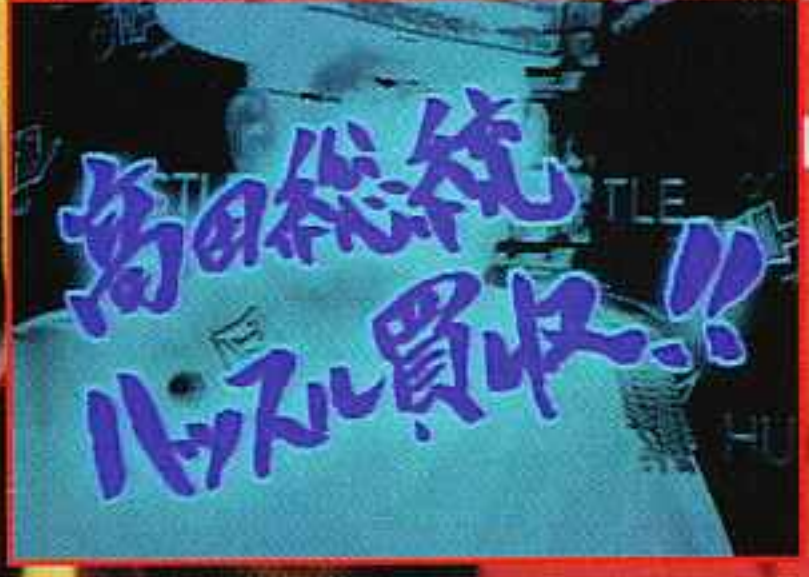
PlayStation 2

餓狼伝 Breakblow Fist or Twist

メーカー◎株式会社エンターテインメント・ソフトウェア・パブリッシング
ジャンル◎格闘アクション
発売日◎3月15日
価格◎6.800円(税込7.140円)
プレイ人数◎1人～2人

【お問い合わせ】株式会社エンターテインメント・ソフトウェア・パブリッシング [HP] http://www.esp-web.co.jp/ 【カスタマーサポート】[東京] TEL.03-5428-3458 [名古屋] TEL.052-774-0638

撮影／平工幸雄

…？どうなる？
…こ史上最大の大津波!!
…構造改革の"時は来た"!!

この春、3月14日にプロレスの老舗週刊誌である、『週刊ゴング』が休刊を迎えた。最終号によると「廃刊でなく〝前向きな休刊〟」とのことだが、『週刊ファイト』に続く、メディアの崩壊劇……。

ジャンルとしてのプロレスは、この先に何があろうと生き残り続けるだろう。しかし、いまの構造に劇的な変化が訪れないかぎり、確実にその存在感を失なっていくに違いない。「プロレス界を根こそぎ壊滅させる」という髙田総統の言葉もシャレにならない状況なのだ。

一方、隆盛が続いている格闘技界では、『PRIDE』を運営していたDSEの体制が終焉を迎え、外資本の参入によって体制が生まれ変わる！ という衝撃ニュースが飛び込んできた。この事件はプロレス界にも少なからず波紋を起こす。DSEのもう一つのソフト、『ハッスル』はどうなるのか？ ということだ。

今年1月、一部新聞紙上で『『ハッスル』がDSEから独立』と報道された。「フジテレビの地上波放送打ち切りのマイナスイメージ払拭のためにDSEは、『PRIDE』と『ハッスル』を分離し、『ハッスル』の地上波獲得に動く」というのがその要旨だった。実際に水面下ではそういう動きがあるようだが、今回、DSEから『PRIDE』が離れることで、今後の『ハッスル』というコンテンツ自体の動向に俄然、注目せざるを得なくなってきている。はたしてDSEがこのまま主催していくのか、それとも新組織への移行はあるのか……？

タイミングがいいのか、悪いのか。この現実に先駆け、『ハッスル』は、〝髙田総統が『ハッスル』を100億モンスタードルで買収した〟というストーリーラインで、新しい『ハッスル』をリスタートさせたばかり。

今回は後楽園ホール、名古屋という『ハ

外資本参入でPRIDEのDSE体制に終焉……

どうする？ ど
ファイティング・オペラに 史
いまこそ、ハッスル構造

ッスル』の聖地にコアなファンを集めて開催され、リング上ではこういったリング外の喧噪を感じさせない、非常に『ハッスル』らしい世界観を展開している。

しかし、ソフト面では『ハッスル』のストーリーや破天荒な仕掛けの数々には定評があるが、一方のハード面では会場やPPV放送で追いかけ続けている層以外には、その世界観は届きづらいという視聴環境もある。

プロレス・格闘技とは、表現するということだ。

一部のファンや表現者本人の自己満足に終わってしまうほど、〝プロレスしてない〟ものはない。だったら、やる意味なんてねえんですよ、ズバリ!!

このまま『ハッスル』が大きな流れに乗らなければ、ソフトの質を保つだけで精一杯で、体力だけが疲弊してしまう可能性だってある。なんとももったいない話だ。

やはり『ハッスル』の魅力を大きく表現することができる一番の命題は地上波放送の獲得！　に尽きるだろう。本誌No.106では、髙田延彦本部長も、最近のRGの奮闘ぶりを評して「あのトボけたやられっぷりを、地上波に乗せたらバケるぞ！」と断言しているが、芸能人やお笑いタレントにまで門戸を開いている『ハッスル』はもともと〝テレビ向き〟のソフトである。

髙田本部長は「テレビで丹念に浸透させながら、あのクオリティの作品を見せ続ければ、いまの数百万倍は伝わるよ」とも語っている。地上波放送という〝マス〟に向けた装置を獲得したときこそ、『ハッスル』の本当のセカンドシーズンは始まる！　のではないか。

「プロレスを根こそぎ壊滅させる」のが髙田総統の目的なら、最後の最後まで生き残るのは、髙田総統が支配する『ハッスル』でなくてはならないはずだ。

ハタリハタタマタッ!!

俺はブッチャーのように日本で小銭稼ぎしている
ヒマはない!

映画製作、不動産業、高級ホテル経営……
インドの“狂える”スーパーセレブ!!

タイガー・ジェット・シン
Tiger Jeet Singh

その狂虎、凶暴につき……。『ハッスル』に来日した、タイガー・ジェット・シンはいまだ衰えぬ狂気を発揮!! このシン、じつは映画製作から、ホテル経営まで手がける“実業家”でもある。今回はそのリッチな素顔に肉薄!

聞き手／小松伸太郎（THE PEHLWANS）
構成／真下義之　撮影／平工幸雄

——ミスター・シン、以前に何度か出ていただいたことがあるんですが、我々の『kamipro』という雑誌を覚えていらっしゃいますか？

シン （『紙のプロレスRADICAL』No.1をサーベルで叩きながら）この顔に見覚えがあるぞ！　なんという名前だ！

——ターザン山本！さんです。

シン おお〜、ターザン！　マガジン・ライターだったな。よく、俺様のところに話を聞きに来ていたぞ。

——最近は、あまりマガジンに書いてないですが（笑）。じつはシンさんもよく出ていた『週刊ゴング』と『週刊ファイト』という雑誌が休刊してしまったんですよ。

シン 『ウィークリー・ゴング』！　ハラ！

——ハラ？　原（正英）記者のことですか？

シン イエス！　ハラだ、ハラ！　そうか、ハラの雑誌は休刊したか。それは残念だ。ユーのところは大丈夫なのか？

——明日は我が身というところです（笑）。

シン ああ、そう。そんなことより、早く話を進めろ！　このタイガーは長旅で疲れている！　なんせ、インドからカナダまで20時間、そしてカナダから日本までは14時間という長時間のフライトだったからな。

——そんなに飛行機の中に閉じこめられていると、暴れたくなっちゃいませんか？

シン ハッ！　俺様の乗った飛行機にはベッドがある。だからぐっすりと眠ってきたぞ。俺様が乗ったのは極上のファーストクラスだからな、フフン。

——ベッドつきのファーストクラス！　一流のスターが乗る飛行機は違いますねえ。

シン しかし、それはインドからカナダまでの話だ。『ハッスル』が用意したカナダから日本への飛行機はふつ〜〜うのビジネスクラスだった。『ハッスル』はよっぽど金を持っているらしいな（嫌味っぽく）。

——私に言われても困ります。さて、先ほどお話ししたように、専門誌が休刊するほど、日本ではプロレスの人気が低迷しているんですよ。やっぱり、いまはシンさんのようなスターがいないからですかね。

シン そのことはよく言われる（キッパリ）。

——やっぱり！（笑）。逆にプロレスに代わっていまはMMAが人気があるんです。

シン MMA？　聞いたことはあるが、観たことはないな。

——以前はインドで20万人を集客するMMA興行をやるとか吠えてましたが……？

シン （無視して）おい、俺様はホントに忙しいんだぞ！　映画を作ったり、コマーシャルを作ったり、ホテル業、不動産業もやっている。ビジネスにもシリアスな俺様にMMAなど観ているヒマはない！　ハッ!!

——映画といえば、自伝的な映画を作られたとお聞きしたんですが？

シン イエス。俺様が作ればムービーだっていつだってストロングスタイルだ!!　そう、俺様はいつだってストロング……フッ!!　その映画は『ロッキー』スタイルで、俺様はランボーのような戦士の役をやっている。

——シルベスター・スタローンの映画がごちゃ混ぜですね。ちなみにタイトルは？

シン いいか、ボーイ！　しっかり耳に焼きつけろ。心にイメージしろ！　明日に向かって吠えるんだ!!

——あの、早くお願いいたします。

シン 映画のタイトルは『タイガー』だ！　それもな、『タイガー1』、『タイガー2』、『タイガー3』とシリーズが連作で続いている。

——『ロッキー』そのまんま！

シン （無視して）コマーシャルだって、俺様はインドのペプシ・コーラのコマーシャルに出演しているんだ。

——あのペプシに！　それはホントに凄い！

シン しかも、そのコマーシャルには俺様とタイガーJr.（アリ・シン）が揃って出演している。さらにな、ここ3年間で2000件の家も建てているぞ。

——一日平均2件！　姉歯（秀次）さんだってそんなに必要書類は通せませんよ!!

シン （無視して）だいたい、1件5000万円〜1億円ぐらいの家を2000件建設して売った。それから、総工費22億円、200ルームもあるホテルも作った。『キャンブリア・スイーツ』という名前のホテルだ。これをカナダでフランチャイズ経営している。しかも全室スイートルームだ！

——超高級ホテルじゃないですか！

シン 当然だ！　なんせ、1室750平米あるからな。間違ってもユーたちが一生泊まれない超高級ホテルだよ。ノー・チープ！

——チープですいませんね（笑）。

シン まぁ、これでユーたちもわかったろう。俺はプロレスラーとして〝生ける伝説〟となっているが、ビジネスマンとしても世界的に名を馳せている。だから、忙しくて日本になかなか来られなくなった。だがな、アブドーラ・ザ・ブッチャーを見ろ！　あいつは毎日のように日本に来ているだろ？

——つい先日もいらっしゃっていましたね。

シン そうやって小銭を稼ぎに来ているんだ（ニヤニヤ）。あいにくと、ビッグなビジネスを抱えている俺様には、そんな時間はない！　勘違いしないでほしいのは、俺様は決して天狗になっているわけではない。あくまでもおごらず自然体で生きている。

——じつに自然体だと思います。ところで、インドではどのようなプロレス活動を？

シン 選手の育成に取り組んでる。俺様のトレーニングはベリー・ベリー・ハードだ！　サーベルを持ちながら、若い奴らのトレーニングを監視し、一つ間違えたら、このサーベルが奴らの身体に風穴を開ける！

——死んじゃいますって（笑）。そういえば、ヘビの血を飲んでいるという話を聞きましたが、お弟子さんにも飲ませてますか？

シン いや、弟子たちは飲まない。インド人はヘビに対してちょっと腰が引けるところがあるからな。ところが！

——ところが！

シン シンはヘビを恐れない！　蛇をカットして、血をワインに混ぜて飲む。身はステーキにして食べる！　こいつを飲むと、身体中に殺意が生じて無性に人を殺したくなる。相手しか見えなくなり、そいつを殺す

Tiger Jeet Singh

1944年、インド・パンジャーブ州出身。73年5月に新日本プロレス川崎大会に突如出現。同年11月には新宿・伊勢丹前でアントニオ猪木を路上で襲撃して、猪木との抗争が加熱、一躍トップヒールの座をつかむ。以降、数々の団体を渡り歩く。現在はインドで不動産業やホテル経営を手がける実業家としても知られる。リングに上がり続けており、往年の暴走ぶりはまだまだ健在。190cm、120kg。

ハードゲイとはなんだ？　ホモ・セクシャル？
それは彼の人生で、俺様のスタイルではない!!

ことしか頭の中になくなるんだ、クウ～ッ！

――殺すといえば、昔、新宿・伊勢丹前で猪木さんを襲撃した事件は団体が宣伝のためにやったという話も出てるんですが。

シン　なにぃぃ!?　誰がそんなことを言った！　無知蒙昧なユーたちに一つ教えておいてやろう。なぜ、そんなことを言うヤツがいるのか？　金のためだ！　そんなことを言う奴らはこう思っているだろう、「なぜ、タイガーだけが金を持っているんだ?」とな。全部ジェラシーだ！　しか～し！

――しか～し！

シン　いくらねたんでも、この俺様にはアンタッチャブル！　巨大なゾウが歩いているときにイヌがいくら吠えても、ペースを乱されることはない！　まさしく、俺様はそのゾウなのだ！　タイガーはゾウなんだ！

――タイガーは虎じゃなかったのか（笑）。

シン　（無視して）恐れおののけ！　この俺様こそがジャングルの王者だあぁぁ！

――わ、わかりました。そのジャングルの王者のシンさんはこのたび、『ハッスル』でHGというお笑い芸人と対戦されますけど、彼はハードゲイなんですよ。

シン　おい、ハードゲイとはなんだ？

――ゲイの中のゲイと言いますか（笑）。

「キル、ユー!」。撮影中に、ハッスルポーズを頼んだのがカンに触ったのか？　シンはたまたま目が合った本誌編集部・真下を羽交い締めにしてサーベルで急襲！　やはりいつ何時でも、シンに油断してはならない！

シン　そもそも、ゲイとはなんだ？

――ああ、そこから（笑）。いわゆる、ホモ・セクシャルです。

シン　なに、ホモ！　そうか……まあ、それは彼の人生だからな。

――一応、聞いておきますけど、シンさんはそっちの気は……？

シン　ハッ！　ホモは俺様のスタイルではない！　だがホモを否定するつもりもない。

――シンさんは男から見ても魅力的ですから、男性から言い寄られたことは？

シン　ノ～。それはない！　だが、女性に言い寄られた経験は数限りない。世界中どこでも、タイガーは女性にモテる！（キッパリ）。これこそが真実だ。

――じつにうらやましいですね（笑）。今度のシンさんの来日をきっかけに、日本のプロレス界が盛り返すのを期待しています。

シン　それにはユーたちがいいストーリーを書くこと。そして、このタイガーを表紙にすること！　わかるな？（と睨んで）。

――無理だと思いますが、一応相談してみます。では最後に撮影をさせてください。

シン　おお、そうか。どんなポーズを取ればいいんだ？（としばし撮影して）。

――……え～っと。では、ハッスルポーズをやってくれませんか？　こういうポーズなんですけど（と腰を突き出して説明する）。

シン　なにぃぃ！　ヘイ、ボーイ!!　このタイガーにそんな下品なポーズをしろというのかッ!!

――や、やっぱりけっこうです！

シン　最後の最後で俺の中の虎を目覚めさせたな!!　だけ～ど!!

――だけ～ど!!

シン　この恐怖は必ずリング上で炸裂する！　ハッ!!

【07年3月15日／DSE事務所にて収録】

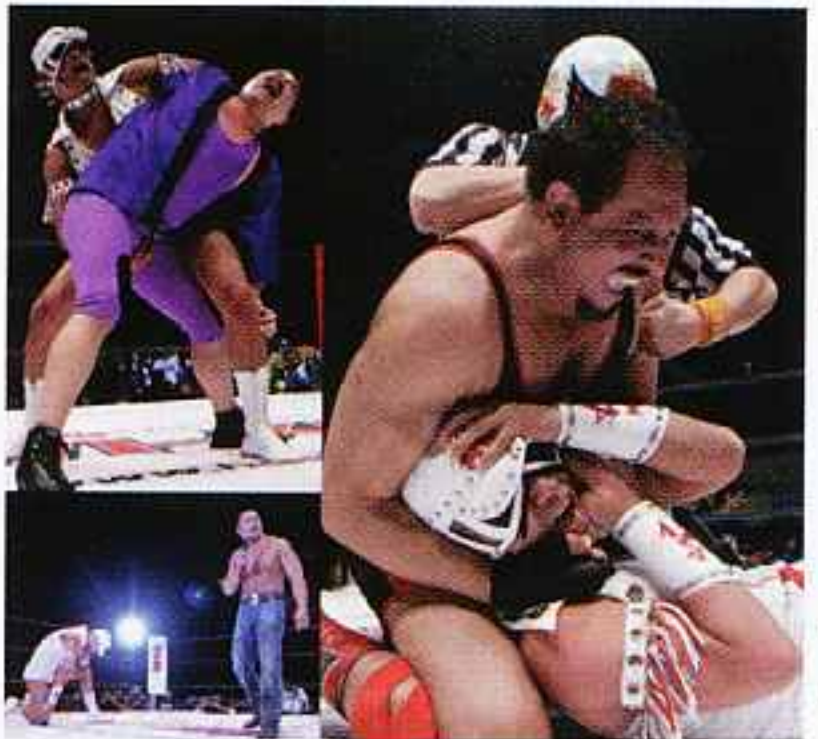
ダイ・ウィズ・ガッツ!!　禁断のシンvsHG、RG2連戦!!

RGを血まつり&絞首刑だ！　ハッ!!

「お気をつけください！」と場内アナウンスが鳴り響く中、司令長官ならぬ、アン・ジョー之助を従え、狂虎がついにやってきた！　捨て身のRGはシンへのおんぶスリーパーという命知らずな攻撃！　これにキレたシンは、ビンでRGを殴って流血させ、ターバンで絞首刑！　噛みつき&コブラクローのフルコースの前にRGは撃沈！　やりすぎだヨウ！

シンvsRGの注目の一戦は3.15『ハッスル・ハウスvol.22』後楽園大会のメインで実現！

坂田乱入！　HG戦は急遽タッグ戦に

相方をいたぶられ、路上襲撃までされたHGは、「コマラクローでシンのタマを取る！」覚悟でシンに対峙！　だが場外でペースをかく乱され、不本意な反則勝利。ここに地元・名古屋の坂田が「だらしねぇ！」と乱入！　HGと急増タッグでシン&アン・ジョー之助組とのタッグ戦が実現。HGはコマラツイスト、69ドライバーでアン・ジョー之助を葬った。

3.18『ハッスル21』名古屋大会のHG戦はシンが暴走！　さらにタッグ戦も行なわれた。

ファイティング・オペラ ハッスル・ハウス vol.22

2007年3月15日／後楽園ホール

ニューM字は、フレディ・マーキュリーチックに「マザーッ!」と叫ぼう

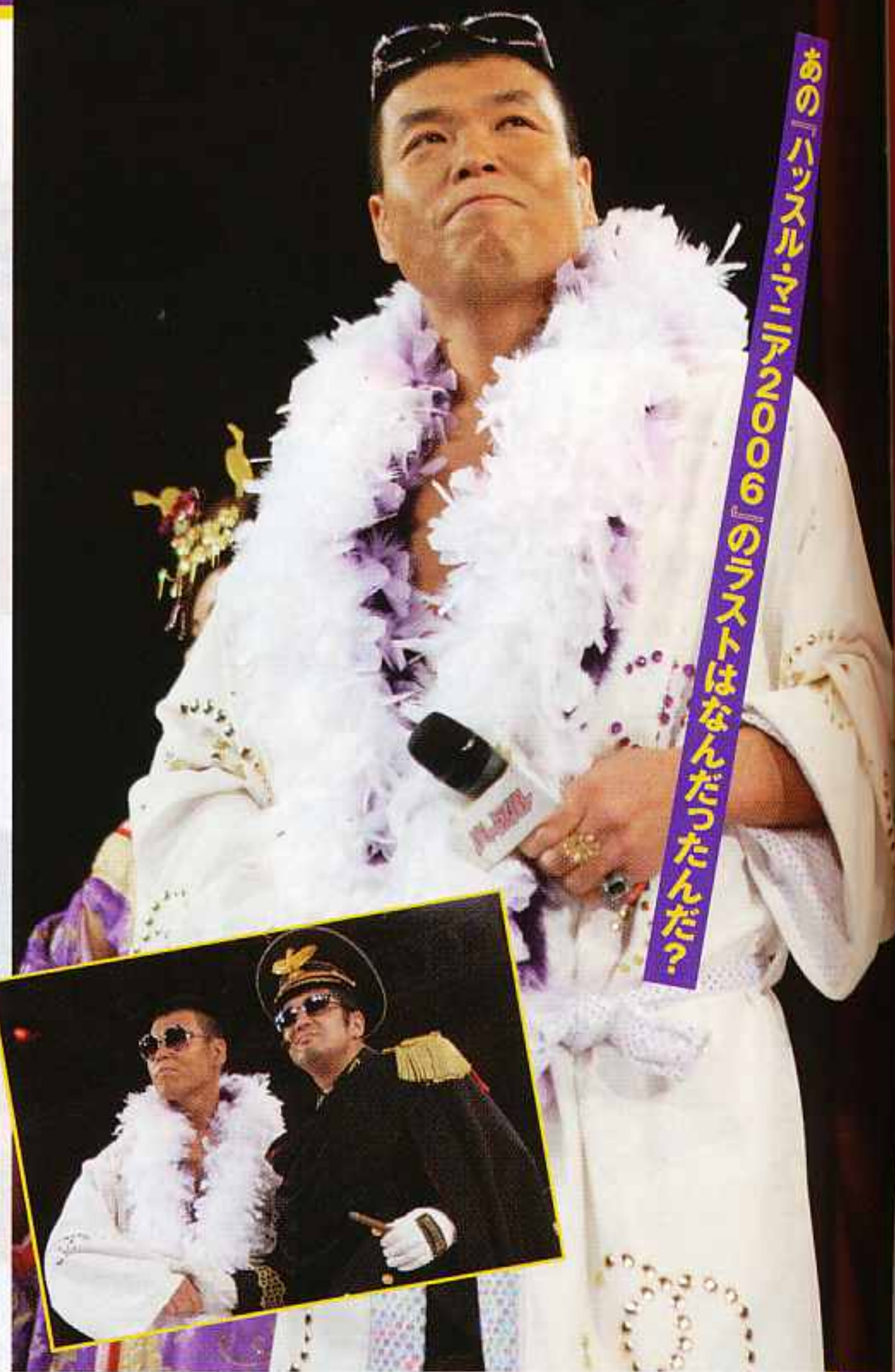
あの『ハッスル・マニア2006』のラストはなんだったんだ？

シンvsRGのリングアナを務めたのは“リアル”ケロちゃん! 「2007年3月15日……時は来た!」と生涯最高の前口上と自負する「時は来た」で大喝采! 前口上にこだわるケロちゃん、今回も基本的にはケロちゃんまかせだったとのこと。なお名古屋では新日本でも使用した『ベルサイユのバラ』チックな衣装で登場!

6代目GMに就任した川田は、「ファイティング・オペラには歌が足りない!」と“コブクロ”が05年の紅白歌合戦でも歌ったヒットバラード、『桜』をボケなしで熱唱! これに対抗した髙田総統は06年の紅白歌合戦で歌われて、大問題になっている『おふくろさん』を「川内先生、この歌私にくれないかなぁ～」とボヤきながら熱唱!

クイーンの『ボヘミアン・ラプソディ』ばりに、あるいはジョン・レノンの『MOTHER』ばりに、「スリー、ツー、ワン、マザーッ!! モンスター!」と会場を大合唱させるのは、「M字のMはマザーのM!」とこのたび現場復帰したニューリン様のママ、インリン様。なお姿が見えないニューリン様は、インリン様が「監禁状態」とのこと。

某写真週刊誌編集次長S波氏も絶賛の、高級和食ダイニング『わたる』の経営も順調な坂田だけに、髙田総統にGM職を解かれたあとは「控室がトイレ」など、劣悪な雇用を強要される『ハッスル』に疑問を感じるのも当然! 「こんな会社辞めてやる!」と捨てゼリフを吐き、姿を消した。

「♪心配ないさ～!」とシン戦を控えたRGの前に登場したのが劇団四季の『ライオンキング』のマネで知られる吉本芸人の大西タマリン……じゃなくて大西ライオン! シンが猪木を襲撃した新宿・伊勢丹……ではなく、新宿・三越のライオン像前でRGと合唱し、気分はスカイハイ!

「これからはアイアム・セレブです!」と小川がパリス・ヒルトンや叶姉妹もたじろぐ“モンスター・セレブ”への転身を宣言! 昨年の『ハッスル・マニア』のラストの「絶対に髙田を倒す!」という決意もちゃぶ台返しして、髙田総統とガッチリ握手! 総統による高額ギャラの引き抜きにも悪びれず、“銭ゲバ”な本性も全開。茅ヶ崎の柔道道場から、六ヒルへの引っ越しも近いのか?

予想不可能!“ブレーキの壊れた”ファイティング・オペラ!! ハッスル新エピソードは、母乳も飛び出すカオスへ突入!!

行けばわかるさ! とばかりに髙田総統体制となった『ハッスル』の新エピソードは、母乳あり、裏切りあり、歌ありとこれまでのストーリーとの符合性を超越した暴走列車劇場! 3月の事件の数々をお届け!

構成／真下義之
撮影／平工幸雄

KYORAKU PRESENTS ハッスル21 ファイティング・オペラ

2007年3月18日／愛知県体育館

3月シリーズのMVPは、お前だヨウ!

リング上で赤ちゃんプレイ? 小川にKOされたTAJIRIにリング上で、インリン様が自らの母乳、略して“イン乳”を授乳。……母乳といえば、赤ちゃんが育つために必要な成分がすべて含まれており、もともとはお母さんの血液! から作られている“完全食品”。ある意味、インリン様と血の契りを交わしたTAJIRIがハッスル軍を裏切り、インリン様の足まで舐める忠実ぶりも理解できるというものだ。

顔に似合わない天山ばりの「ぶっ潰す」発言など、『ハッスル』参戦中のアイドル・海川ひとみ。『ハッスル』効果か、一般誌の露出も増加中! だが海川の試合前VTRでは、TBSのねつ造疑惑が問題となった“ネットの掲示板画像”が登場! こちらは某画像掲示板の“引用”なので、まずは安心!?

RGのヤラレ芸のポテンシャルの“進化”はもう止まらない! シンに半殺しにされた3日後に天龍が渾身のチョップ、机の上に放り投げ! と非情な“かわいがり”を連発! RGも川田の足が「すべるよ! すべる!」とアピールするなど生死の境目で笑いをゲット。地上派じゃ見られない究極のリアクション芸。ズバリ、3月のMVPに決定!

プロレス史上初! リングに“母乳”が登場!

風雲急! ハッスル4月シリーズスケジュール

ファイティング・オペラ ハッスル・ハウス vol.23
◎東京・後楽園ホール
4月19日(木) 開演19:00 (開場18:00)
[チケット料金]
ハッスルVIP 10,000円／スタンドS 7,000円／スタンドA 5,000円／スタンドB 3,000円

KYORAKU ハッスル22 ファイティング・オペラ
◎大阪府立体育会館
4月21日(土) 開演17:00 (開場16:00)
[チケット料金]
ハッスルVIP【特典＝ハッスルグッズ付】12,000円／RRS 8,000円／スタンドS 6,000円／スタンドA 4,000円
[問い合わせ]
DSEハッスル事業局 TEL.03-5464-1731

あのミスターヒトも「『ハッスル』で一番うまい!」と絶賛したマーガレットが、「フツーのオンナノコにモドリマス!」とキャンディーズの名ゼリフを引用しつつ、『ハッスル』を引退。リング上には花かごが残された。

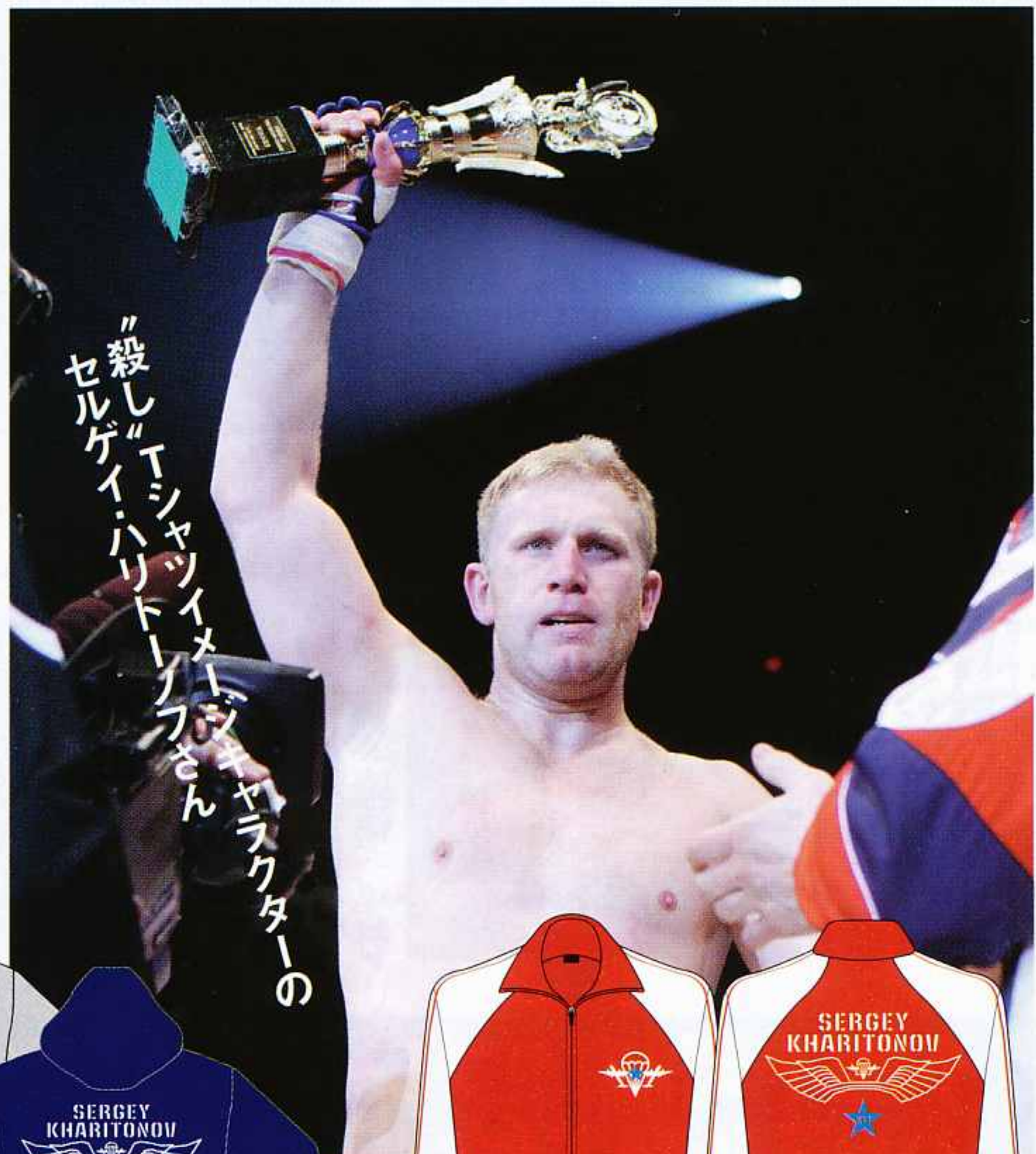
“セレブ”小川と対戦したTAJIRIはかつて全日本女子プロレスで猛威を奮った阿部四郎ばりの、島田二等兵の“悪徳レフェリング”に苦戦!(ちなみに『ハッスル』のメインレフェリーの阿部信輔氏は阿部四郎の息子さん)。最後はカナディアン・バックブリーカーの状態から、マットに叩きつける小川の新技“スーパーセレブ”でTAJIRIを撃沈!

kamipro SHOPPING

残虐超人、"殺魂"伝承——!
ラスベガスでミッション完了!!

言うちゃ悪いけど、『kamipro』でしか売ってませんよ!(ドン)

"殺し"Tシャツイメージキャラクターのセルゲイ・ハリトーノフさん

I編集長"殺し"Tシャツ
ブルー ¥3,990(税込) S･M･L･XL

ハリトーノフ"死神"Tシャツ
ホワイト ¥4,200(税込)
S･M･L･XL

ハリトーノフ パラシュートパーカー
アッシュグレー/ネイビー ¥6,300(税込)
M･L･XL

ハリトーノフ ジャージ
ホワイト&レッド¥7,350(税込)
M･L･XL

ハリトーノフ スポーツタオル
¥3,150(税込)

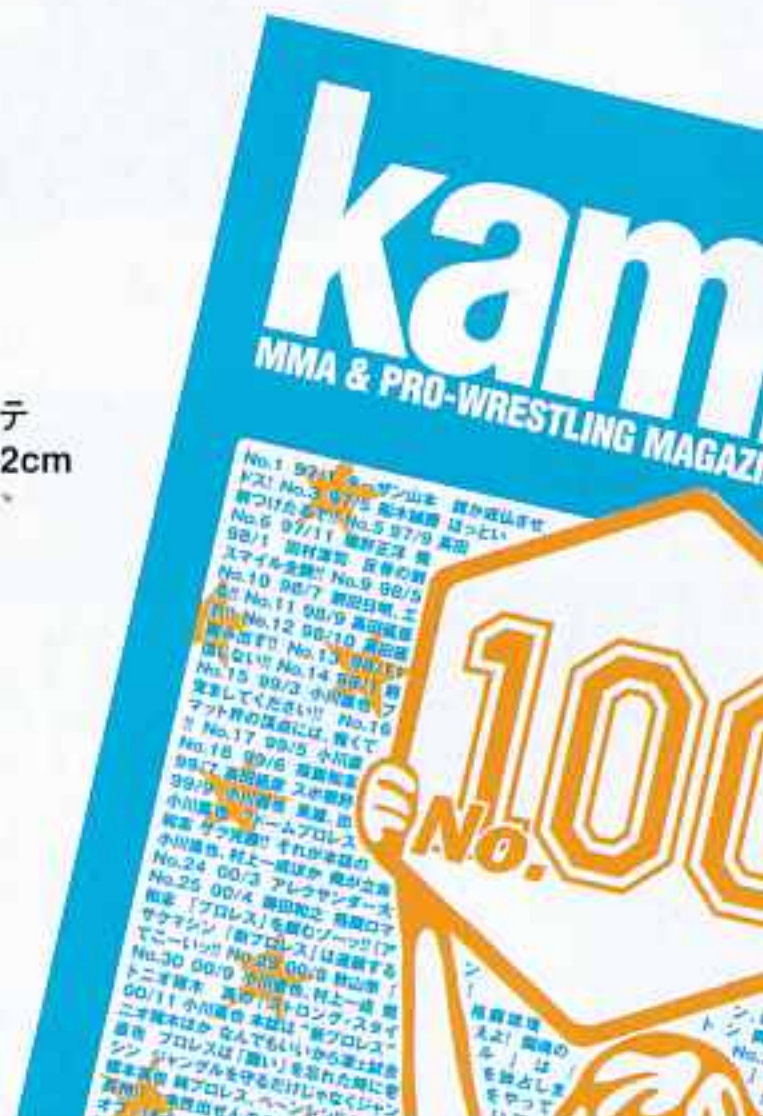
ハリトーノフFACE Tシャツ
カーキ/ホワイト/レッド ¥3,990(税込)
S･M･L･XL

ハリトーノフSTAR Tシャツ
レッド ¥3,990(税込)
S･M･L･XL

ハリトーノフ パラシュートTシャツ
ホワイト/レッド ¥3,990(税込)
S･M･L･XL

kamiproマスクTシャツ
ホワイト×レッド ¥3,990(税込)
S･M･L･XL

タテ132cm
ヨコ68cm

100号記念特製 巨大バスタオル[★]
ブルー×オレンジ
特別定価 ¥3,150(税込)

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]

(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

※左ページの商品も同様のサイズです。

※kamipro Handでは、このほかにもおトクな商品をたくさん取り揃えております。ぜひアクセスしてください。

非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索!!
au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
SoftBank メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[通販の問い合わせ先]
株式会社ダブルクロス
TEL.03-5368-1797
(受付時間/平日13:00〜19:00)
販売元/株式会社ダブルクロス

オイ、オメーら！ 監禁中だけど アタシのグッズも買っときな！

ハッスル kamipro Collaboration Goods

ニューリン様 "SIGN" パーカー
[Lady's M アッシュグレー]
¥6,300(税込)

ニューリン様 "SIGN" パーカー
[M・L・XL ブラック]
¥6,300(税込)

ニューリン様 "SIGN" Tシャツ
[Lady's M ブラック]
¥3,990(税込)

ニューリン様 "SIGN" Tシャツ
[M・L・XL ブラック]
¥3,990(税込)

ニューリン様 "BERO" Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990(税込)
(身丈57cm、身巾38cm,袖丈13cm)

ニューリン様 "BERO" Tシャツ
[M・L・XL ブラック] ¥3,990(税込)

ニューリン様 "SIGN"
スウェット トートバッグ
[ブラック(プリント:ピンク)、ブラック(プリント:シルバー)]
¥2,100(税込)
※バックサイズ:24×11×35cm(持ち手のぞく)

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★全国どこでも送料一律500円です。(何枚でも可、離島・山岳部の方はお問い合せください)
★代引き手数料は315円です。(代引き金額によって異なります)

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00〜19:00
(株)ダブルクロス
TEL.03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承ください)。
販売元／(株)ダブルクロス

ハッスル Goods

HG PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL シルバーグレー]
¥3,990(税込)

MONSTER K PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ライトイエロー]
¥3,990(税込)

高田総統 PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ラベンダー]
¥3,990(税込)

GMW PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ライトブルー]
¥3,990(税込)

司令長官&二等兵 PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ライム]
¥3,990(税込)

ニューリン様 PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ライトピンク]
¥3,990(税込)

※価格はすべて税込みです [★]の商品は在庫終了次第、販売終了となります

あんたたちに全部やるって！

花粉症じゃない人も油断するな！

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は4月21日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦あなたが考える理想のマット界⑧越中詩郎のハチマキに書いてほしい言葉

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「アダモちゃ～ん！」係まで

※締切は2006年4月20日（金）当日消印有効

kamipro 109 応募券 おまえはキリンっぽい

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

越中詩郎サイン入り必勝ハチマキ

今回の目玉は越中詩郎のサイン入りハチマキだって！　もし、越中さんがこのハチマキと同じものを試合中使っていたら、それは3年G組で実際に頭に巻いていたものです！　3年G組もたいそうなもんだよ、まったく。

2名様

必勝

サイン入り

KOSHINAKA

新日本2.12平成の乱 ～後楽園炎上！ 維震軍・新日本　二大合戦～

平成7年2月、凱旋帰国した天山広吉を正規軍vs平成維震軍で奪い合う『平成維震軍興行』が収録された一本。天山に維震軍入りを拒否された越中詩郎。人生悪いことばっかじゃないって！

平成維震軍vs昭和維新軍
完全決着！ 5対5綱引きマッチ!!

長州率いる維新軍vs平成維震軍の新日本プロレス史上最高の軍団抗争！　"イシン"の名を賭けた歴史に残る5対5の完全決着マッチほか、蝶野、サブゥー、藤原組長、テリー・ファンクなども大暴れしているぞ！

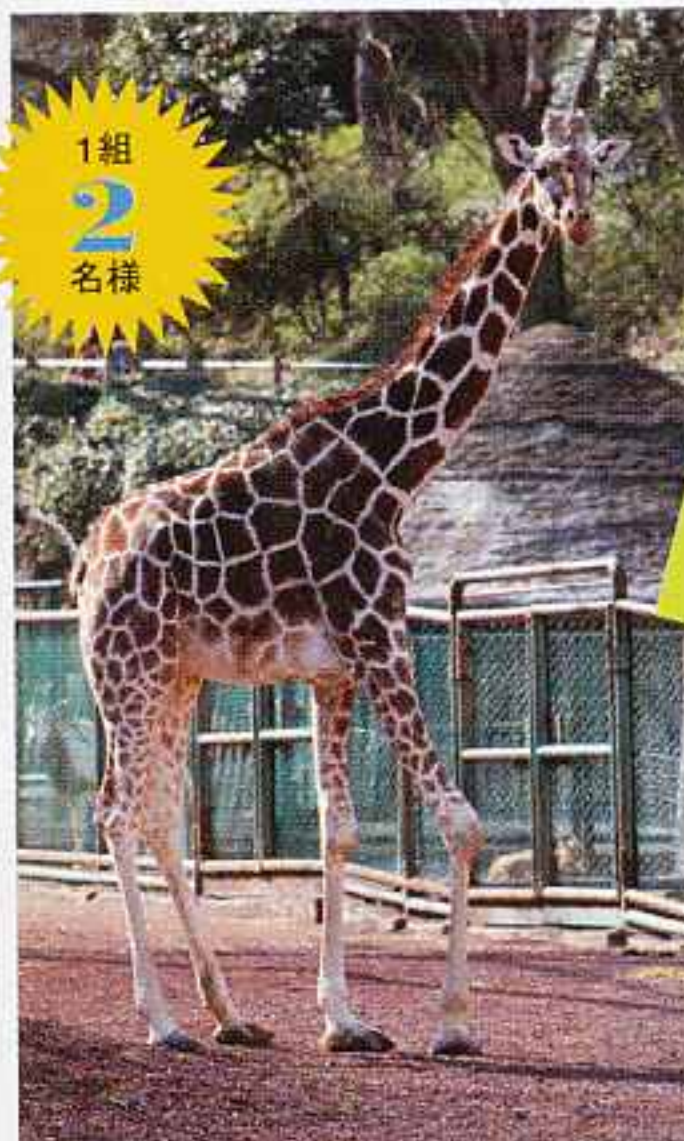
スーパーファイター・メモリアル 高田延彦

越中詩郎と名勝負を繰り広げた高田延彦のIWGPジュニアヘビー級時代を振り返る一本。『PRIDE』のリングで「男だ！」と叫ぶ姿しか知らないヤングなファンは、これで本部長の本当の素晴らしさを見よ!!

越中vs高田 最強ジュニア3大死闘

IWGPジュニア初代&第3代王者の越中詩郎と、第2代王者の高田伸彦（現・延彦）の死闘の3本勝負！　これを見れば、ケンコバが惚れ込むほどの越中詩郎の素晴らしさが一発でわかる!!

各1名様

GIRAFFE

1組2名様

東京都立多摩動物公園・入園権（一般）

今回、わけのわからないままキリンの取材に快く応じてくださった多摩動物公園さん。感謝の意を評して、『kamipro』編集部から入園券をペア1組でプレゼントします！　キリンの迫力をしかと見よ!!

ミスターデンジャー松永光弘の ワニでもわかるデスマッチ講座

野性動物の強さを知ったいまだからこそ見たい一本。ミスター・デンジャー松永光弘の超ハードなデスマッチ13連発！　ジャケットにワニが写ってるけど、はたしてデンジャーはワニと闘ったのか!?　プレゼントを当てて確かめろ!!

1名様

相原コージ サイン色紙

動物の強さをいち早く追求し、マンガ『真・異種格闘大戦』を通して広くファンに発信していた相原コージさん。その貴重なイラスト入りサイン色紙を2名様に差し上げます！

2名様

U.S.A.

1名様

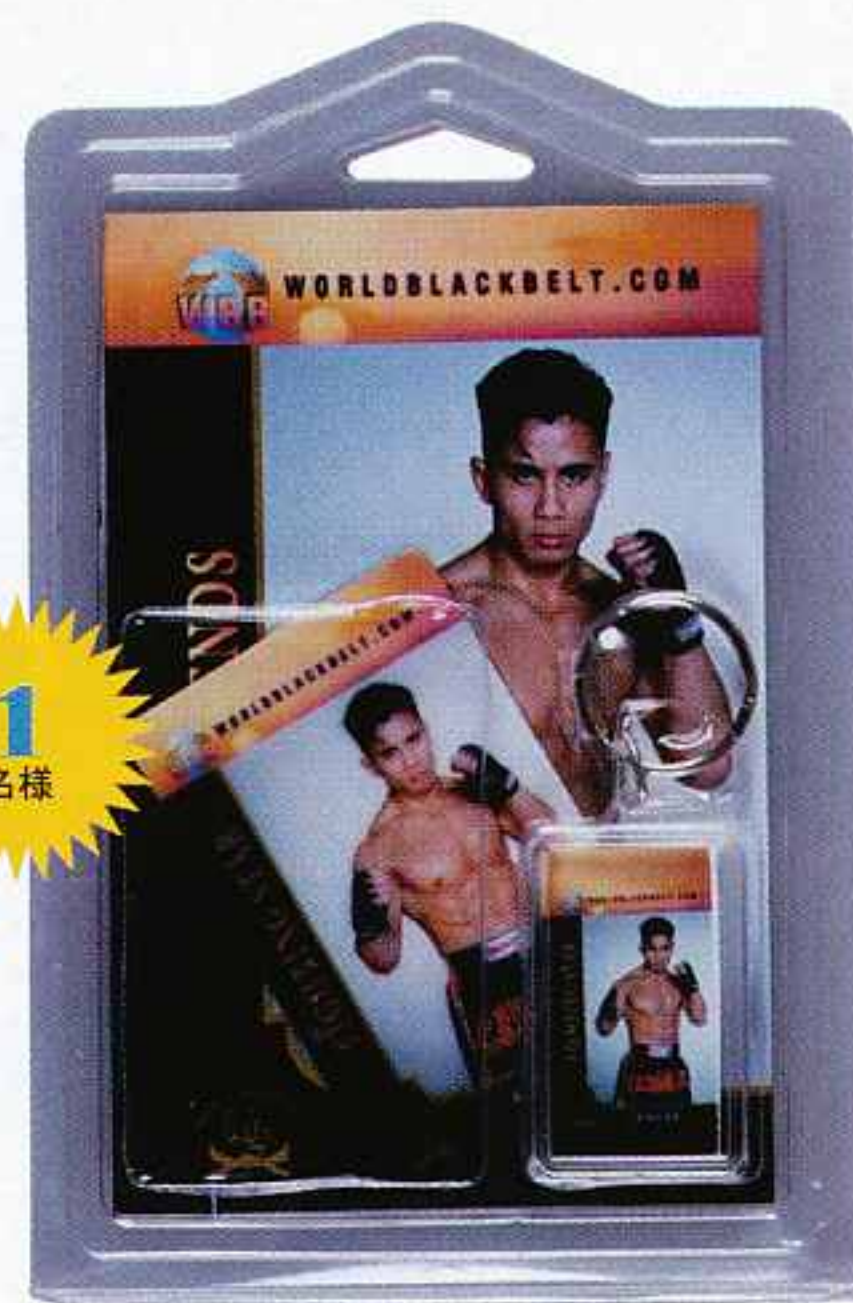
『TUFシーズン1』DVD 全3巻

本誌でもしつこいぐらいに何度も紹介しているリアリティショー『TUF』。チャック・リデルとランディ・クートゥアーがコーチを務めた『シーズン1』のDVDを1名様にプレゼント。全部、英語ですが、それでもおもしろい!

1名様

カン・リーキーホルダー

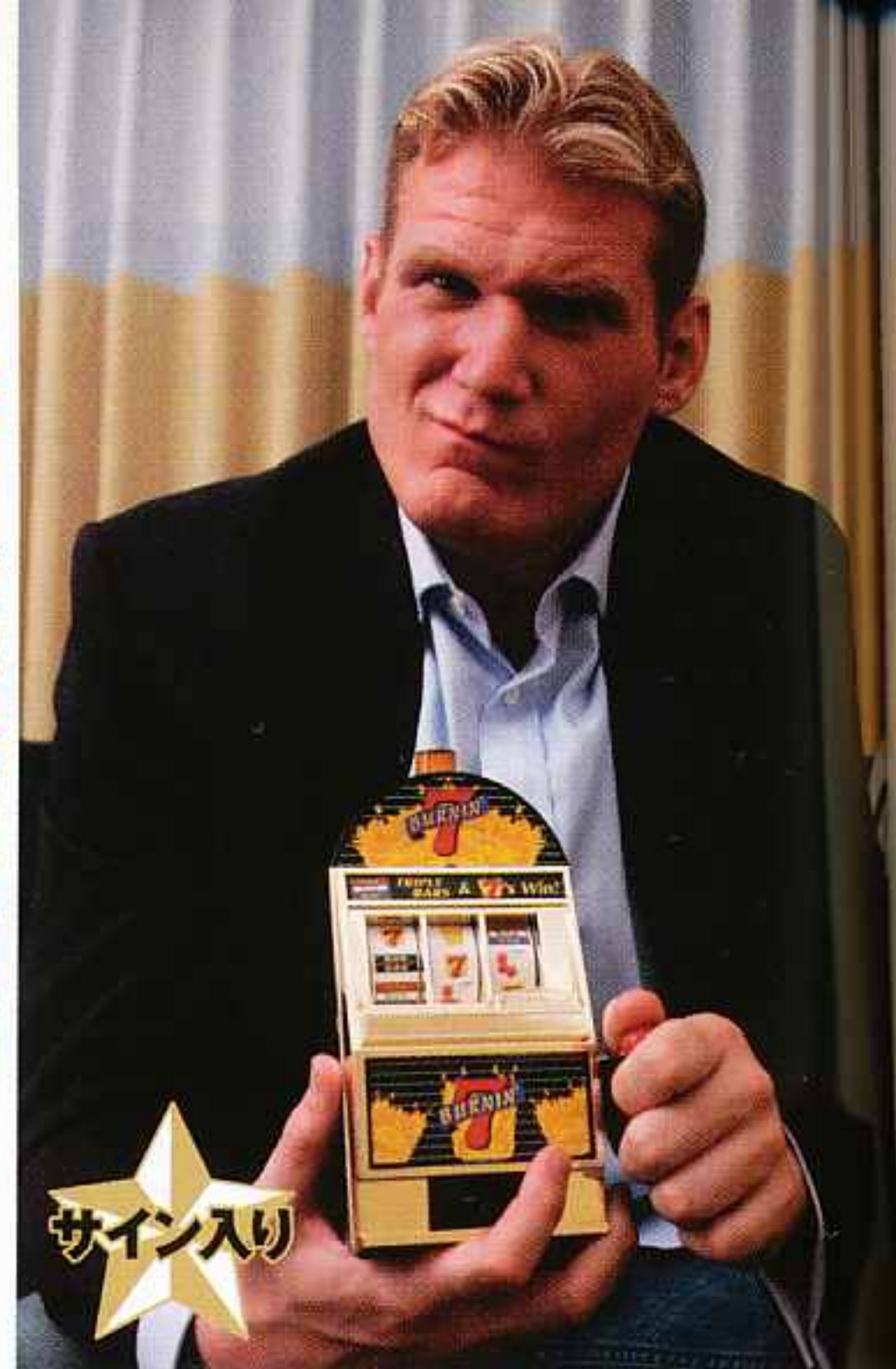
本誌アメリカ取材班が入手したカン・リー キーホルダーを1名様に。ただの選手キーホルダーといって侮るなかれ、これは世界中で1000個しか販売されていない超レア商品なのです。

1名様

ジョシュのサイン入りラスベガスのミニスロットマシーン

『kamipro Special 2007 SPRING』でインタビューしたジョシュ・バーネットのサイン入りミニスロットマシーンを1名様にプレゼント。ベガスに行けない人は、これでギャンブル気分を味わってくださ〜い。

サイン入り

SHOOT

5名様

修斗 Supported by Crymson ~BACK TO OUR ROOTS~ 選手サイン入り大会ポスター

サイン入り

青木真也が世界ミドル級ベルト防衛に成功した修斗・パシフィコ横浜大会のポスターを、参戦選手(一部)のサイン入りでプレゼント。青木選手のサインも入ってます!

修斗オフィシャルHP■http://www.x-shooto.jp/

WEAR

2名様

Back

美濃輪ホトトギスTシャツ

¥4,200円(税込)

ミノワマンがまだ美濃輪育久だった頃に発売されたTシャツです。ミノワマンといえば、『PRIDE.34』でソクジュとの対戦ならず……。でも、いつかきっと闘うはずだ!(妄想)。

1名様

ART JUNKIE しなしさとこ「BRZ」Tシャツ

今年1月にブラジル修業の旅に出たしなし選手。スマックガールではフライ級で見事はベルト防衛! このTシャツは、そのブラジル修業を記念(?)して作られたものです。

Back

1名様

DEVILOOSEポロシャツ

大きいサイズの専門ショップ・DEVILOOSEさんから、今号ではポロシャツをプレゼントしていただきました。ビックボディの方はどんどん応募してくださ〜い。

PRIDE■http://www.prideofficial.com/ ART JUNKIE■http://shop.artjunkie.jp DEVILOOSE■http://www.deviloose.com/

MASUDA FESTA

ますだまつり大会パンフレット

伝説の興行『ますだまつり』の大会パンフレット(でいいのか?)を当選者全員にプレゼント! かなり手作り感あふれるパンフで、読めない文字がありすぎ。ほしいというお友だちがいたら、コピーしてあげよう。

10名様

MUSCLE

サイン入り

マッスル坂井サイン入りみのもけんじイラスト

あの『週刊ゴング』でおなじみ、毎週描き下ろし挿絵を描かれていたみのもけんじ先生のイラストに、マッスル坂井さんがサインを書いてくださいました! ある意味、これは貴重!?

2名様

BOOK

各5名様

梶原一騎原作『虹をよぶ拳』

¥1890(税込)/全4巻

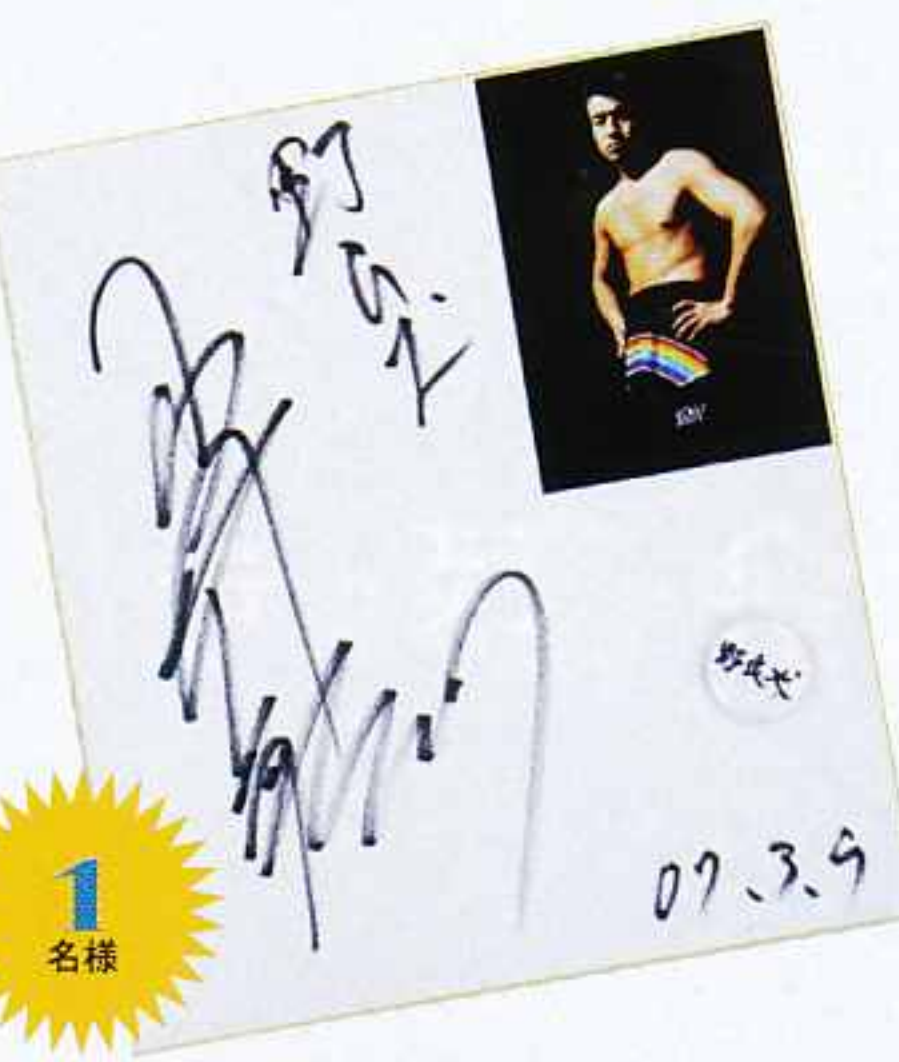
梶原一騎先生のマンガがまたまた復刻! 運動オンチで貧弱な少年が空手を通して社会に挑戦状を叩きつけるマンガ『のら犬の丘』は、いじめが蔓延するいまだからこそ読むべし!

真樹日佐夫原作『のら犬の丘』

¥1890(税込)/全4巻

真樹先生自ら加筆修正&再構成された超完全版! "もう一つの『あしたのジョー』"と呼ばれた『のら犬の丘』の復刻版が完成。男たちの魂と生き様を描いた珠玉の番長マンガを読め!

マガジンショップ■http://www.mangashop.co.jp/

1名様

小林聡サイン色紙&バッヂ

こちらは小林聡さんのサイン色紙(引退興行の日づけ入り)。小林選手のブロマイド(?)と野良犬バッヂつきで1名様にプレゼント! 大切に飾ってくださ〜い。

DVD

各1名様

佐藤満 レスリング入門 vol.2
94分/¥5880(税込)

神伝不動流打拳体術 大光明祭2006
214分/¥5880(税込)

DEEP THE BEST 2005
226分/¥5880(税込)

ブラジリアン柔術完全教則 中級篇
140分/¥5880(税込)

野良犬LAST STAND 小林聡伝説FINAL
116分/¥5040(税込)

3.9全日本キック・後楽園ホール大会で引退を迎えた"野良犬"小林聡。臨時発売となったこのDVDには涙のラストインタビューも収録されています。ファン垂涎の一枚、これはもう観るしかない!

QUEST■http://www.queststation.com/

GAME

『デストロイ・オール・ヒューマンズ!』パンフ

5名様

なんとも能天気な宇宙人が、古きよきアメリカで大暴れ。そんなアクションアドベンチャーゲームがセガから誕生。今回はその特典DVDつきパンフをプレゼントします。現物は買おう!

セガHP■http://www.sega.co.jp/

kamipro 紙のプロレス

No.109
2007年4月12日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
堀江ガンツ
松下ミワ
真下義之
上杉キリン
八木賢太郎（演劇チケット確保のため非番）

電気部
ささきぃ
松澤チョロ

企画制作部
坂井ノブ

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子

編集次長（闇の御意見番）
松林 貴

デザインカントク
出田さん（TwoThree）

デザインキャプテン
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊地茂夫
丸山剛史
平工幸雄
山口比佐夫
松本 崇
黒田史夫
吉場正和
平 専英

お勘定&衣料部
ニュー林様

最強？
入江アリクイ（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“同伴ハッスル”芳司

“てんやわんやですよ！”な編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00～17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

3.18 パンクラス川村亮戦後
「あと一試合で引退」を表明！

さらば、我らがボヤキング!!

次号

kamiproしかできない

金原弘光特集掲載！

NEXT ISSUE

“最後の夜”を見逃すな！
4.8『PRIDE.34』徹底詳報&
ヒョードル参戦か!?
4.14 ボードッグ・ロシア大会速報号!!

次号No.110は
4月23日（月）発売予定！

※地域によっては多少発売日が遅れます。